テ英長官カ右ノ慫慂ヲナスニツキテハ同長官ヨリ豫メ英本国政府ニ対シ英艦ノ同島入港ニ関シ許可ヲ得タル上更ニ帝国軍艦モ同シク差支ナキカヲ電報ニテ請訓シタル結果差支ナキ旨返電ニ接シタル次第ナル由ナリ

右御参考迄ニ御報告申進候　敬具

一三一　十月二十一日　在羅府大山領事代理ヨリ石井外務大臣宛（電報）

日本ノ欧洲出兵ハ米国ノ存立ヲ危ウストノ羅府「エキザミナー」紙ノ社説報告ノ件

第五号

本日当地「エキザミナー」ハ日本ノ欧洲出兵ハ米国ニ対スル致命傷ナリト題シ全紙ニ亘リ概要左ノ社説ヲ掲載セリ

日本ハ米国ノ避クヘカラサル敵国ニシテ日本ノ欧洲出兵ハ米国ノ存立ヲ危ウス雷ニ米国ノミナラス英国殖民地其他白人種全体ノ存立ヲ危ウス何トナレハ該出兵ハ亜細亜人ヲシテ白人ヲ殺戮セシメ白人ノ戦闘力ヲ殺キ結局白人ハ亜細亜人ノ為ニ撃滅セラルルニ至レハナリ今ニシテ白人種等協力之ヲ阻止セスンハ現代白人種ハ羅馬帝国没落ノ轍ヲ履ムヤ必セリ日本ノ野心ハ朝鮮支那ノ併呑ノミナラス世界ノ白人種ヲ尽滅シ世界ヲ統一セントシテ今ヤ堅忍自重シツツアリ云々

事項四　対中国諸問題解決ノ為ノ交渉一件

一　中国トノ交渉
二　列国トノ交渉

一　中国トノ交渉

一三二　一月八日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

中国ト交渉開始方訓令ノ件

附記一　一月四日小幡書記官持参ノ日置公使意見書
二　一月十五日小池政務局長ヨリ小幡書記官ニ手交ノ回答書

第四号

往電第六一八号（註1）ニ関シ貴官ハ最早何時ニテモ袁総統ニ会見シ交渉ヲ開始セラレ差支ナシ会見ノ日取リ定リ次第電報アレ満蒙竝山東地方ニ於ケル開放地及満蒙ニ於ケル諸鉱山ノ採掘権ニ関シテハ差当リ主義上ノ取極丈ニ止メ置キ追テ其地点ヲ確定スルコトト致度ニ付右様取計ハレ度シ尚今般小幡書記官ニ托サレタル貴官御意見ノ各項ニ付テハ当方ニ於テモ更ニ篤ト考慮ヲ加ヘタルモ此際御注意ニヨリ特ニ修正ヲ加フヘキ程ノ必要モ認メサルニ付多少文字ノ修正ヲ除キ矢張大体原訓令（註2）通リト御承知相成度委細ハ小幡ニ申聞ケ置クヘキニ付同官帰任ノ上御聞取アリ度シ

（附記一）

対中国提案ニ関スル日置公使意見書

（大正四年一月四日小幡書記官持参）

（第一号）

第一條　済南道口鎮鉄道及高密徐州鉄道ハ共ニ山東省以外ニ亘ル処右ハ何レモ山東省ヲ起点トスルモノナルヲ以テ「山東省ニ関シ」ニ包括セシムル趣旨ト解スル処今一層明確ニ規定スルコトヲ要セサルヤ

註1　日本外交文書大正三年第三冊五七二文書
2　同右五六八文書

第二條　「山東省内若クハ其沿海一帯ノ地又ハ島嶼」ヲ「山東省及其沿岸ノ島嶼」ト改ムルコト然ルヘキカ

第三條　借款鉄道ノ主義ニ改ムルコト然ルヘキカ

第四條　黄河流域ヲ中心トシ北支那内地ニ勢力ヲ扶植スルコト独逸ノ大方針タリシモノト解セラルル処帝国ニ於テモ右ノ方針ヲ踏襲スルコト得策ナルヘキニ付此機会ヲ以テ新ニ同流域ノ要地ヲ開放セシムルコト必要ナルヘシト思料ス

第二條乃至第四條ハ第一條同様総テ豫約的意味合トナスコトヲ要セサルカ

（第二号）「甲」

第一條　此機会ヲ以テ多年ノ懸案タル安奉鉄道ノ性質問題ヲ解決スルノ必要ナキカ

第二條　建物ノ建設権ヲ取得スルノ外所有権賃借権ヲモ取得スルノ必要アルヘク又土地ハ耕作ノ目的ヲ限定セサル方得策ト思料ス

第二條及第三條ハ寧ロ之ヲ合併シテ左ノ通改ムル方然ルヘキカ

「日本臣民ハ南満洲及東部内蒙古ニ於テ自由ニ旅行シ居住シ又ハ農工商業其他一切ノ業務ニ従事シテ国防経済上重要ナル意義ヲ有スル次第ト思料スルニ付此際該鉄道系全部ヲ悉ク我専管鉄道トナス方針ヲ執ルカ然ラスムハ差向キ吉長鉄道ニ関スル協約及契約ヲ修正シ我方ニ十分有利ナル條件ヲ収メ之ヲ基礎トシ追テ満蒙五鉄道及吉会鉄道ニ関スル協定ヲナスノ方針ニ出ツルコト得策ト思料ス今回ハ寧ロ後者ヲ以テ適当トセサルカ

（第四号）

「支那国沿岸ノ港湾及島嶼」ヲ「支那国ノ河川及沿岸ニ於ケル港湾及島嶼」ト改ムル方然ルヘキカ

（英独協商第一條参照）

（第五号）

（二）左ノ通改メ然ルヘキカ

「支那内地ニ於テ日本人ノ病院寺院及学校設置ヲ認メ且之カ為必要ナル土地及建物ノ所有又ハ賃借ヲ認ムルコト

（三）削除（理由ハ前述ノ通）

（五）南昌潮州間鉄道ノ経路如何右ハ已ニ支那側ニ交渉セル南昌福州厦門ヨリ潮州ニ延長スルモノト解ス本項ノ諸鉄道モ亦借款鉄道主義ニ改ムルコト

且之カ為必要ナル土地及建物ヲ所有又ハ賃借スルコトヲ得

第五條　概括的ナラシムル為左ノ通改ムルコト然ルヘキカ

「支那政府ハ南満洲及東部内蒙古ニ於テ鉄道鉱山其他一切ノ事業ニ対シ又ハ南満洲及東部内蒙古ニ於ケル租税其他一切ノ財源ヲ担保トシ外国ヨリ資本ノ供給ヲ受クル場合ニハ必ス先ツ日本ニ協議スルコト」（第五号（六）参照）

第六條　（第五号）ノ（三）ハ専ラ南満洲及東部内蒙古ヲ目的トスルモノト了解セラルルヲ以テ第六條第二項ニ若クハ第七條トシ左ノ意味ノ規定ヲ設クルコト然ルヘキカ

「南満洲及東部内蒙古ニ於テ日支両国間ニ警察事故頻発ノ虞アル地方ノ支那警察官庁ニ多数ノ日本人ヲ傭聘シ両国警察機関ノ聯絡ニ便ナラシムルコト」

第七條　九十九ヶ年間ノ管理経営委任ハ事実上権利ノ譲渡ヲ意味スルヲ以テ支那側ニ於テ到底承知セサルヘシ而ミナラス

吉長鉄道ハ満蒙五鉄道吉会鉄道ト相聯絡シテ始メテ処理シ得ル見込ナリ

（附記二）

対中国提案ニ関スル日置公使意見ニ対スル小池政務局長回答書

（大正四年一月十五日小池局長ヨリ小幡書記官ニ手交）

（第一号）

第一條　質疑ノ通リ「山東省ニ関シ」ニ包括セシムル趣旨ナリ本條原案通リ

第二條　「山東省及其沿岸ノ島嶼」ナル文句ト為ス案モアリタルモ結局原案ノ如ク決定セルナリ本條原案通リ

第三條　先ツ敷設権ヲ主張シ已ムヲ得サルニ及テ借款鉄道ノ主義ニ改ムルコトト致度シ

第四條　帝国政府ニ於テハ差当リ山東省以外ニ於ケル黄河流域ノ地点ヲ開放セシムル意向ヲ有セス右ハ必要ナリトスルモ全然今回ノ交渉ト離レ別途ノ問題トシテ処理シ得ル見込ナリ

第二條乃至第四條ノ件ニ付テモ独支間ニ密約アリシニ非スヤトノ疑アルヲ以テ之亦第一條同様豫約的意味合トナス要ナキヤトノ趣ナルモヨシ右ノ如キ密約取極等独支間ニ成立シ居リタリトスルモ其存在愈々明トナリシ節右様豫約的ニ改ムレハ可ナルヘク従テ差向キ原案通リト致置度シ

（第二号）

第一條　安奉線ニ関シテハ近来問題起ラサルニ付強イテ我方ヨリ問題ヲ提起スルハ却テ不得策ト認ム従テ本條原案通リ

第二條　本條及第三條ハ何レモ大体露暦千九百十二年十二月二十一日庫倫ニ於テ調印ノ露蒙協約附属通商議定書第一條及第六條ニ倣ヒタルモノニ付原案通リト致置度シ

第五條　修正案ハ原案ニ比シ貫徹困難ト認ムルノミナラス機会均等主義牴触問題ヲ惹起スル虞モナキニ非ザルニ付本條原案通リ

第六條　本項警察権問題ハ支那政府ニ於テ最其承諾ヲ困難トスル所ナルヘク従テ結局ハ他ノ案件ト交換的ニ撤回スルコトト相成ルヤモ図ラレズト思考スルニ付原案通リト致置度シ

第七條　原案通リ

（第四号）

原案通リ

（第五号）

二、原案通リ但シ冒頭「支那内地ニ存在スル」ヲ「支那内地ニ於ケル」ト改ムルコト

三、存置（理由ハ前述ノ通）

五、南昌潮州間鉄道ノ経路ハ客年十二月二十八日付政機密送第四一五号ニ依リ明カナルモ尚便宜ノ為メ別紙（註）ノ通リ本線ニ関スル諸調査摘要ヲ調成添付セリ右ニテ知リ得ル如ク我方ニテ要望スル南昌潮州線ハ、南昌、福州、厦門線トハ全然別個ノ問題ナリ且又本第五項ノ諸鉄道ニ付テモ先ツ敷設権ヲ主張スルコトトシ已ムヲ得サルニ及テ借款鉄道ノ主義ニ改ムルコトト致度シ

註　外務省記録ニ存セズ

一三三　一月九日　秋山海軍省軍務局長ヨリ小池政務局長宛

対中国交渉事項中第一革命ノ際ノ三井ヨリ南京政府ヘノ貸与金ニ対スル代償ニ付申越ノ件

大正四年一月九日附

拝啓

豫而内聞致居候処ノ対支要求中ニ左記ノ要件有之候哉伺度

第一革命ノ当時三井物産ヨリ南京政府ニ三百萬両ヲ貸与シ此貸与ニ対シ民国政府ハ支那全国ノ

一、鉄　道
一、鉱　山
一、水力電気

ノ施設ニ対スル優先権ヲ三井物産又ハ其指示スル者ニ与フルノ確実ナル契約有之此契約ノ今尚ホ有効ナルハ勿論ニテ現政府モ之ヲ認メ已ニ三百萬両ノ内壱百萬丈ハ返済致居候

然ルニ其後袁政府ハ兎角之ヲ無視シ国有等ノ名ヲ以而之ヲ無効ナラシメントスルノ形跡有之候

右ハ此際厳重ニ談判シテ今後モ依然此優先権ヲ認メシメ若シ之レニ悖レル措置アル時ハ夫レニ代ルヘキ賠償又ハ他ノ利権ヲ要求スヘキ事ヲ申込マレ置クノ必要ヲ認候

本件無論既ニ考慮中ニ在ル事ト存候得共若シ過去ノ事情等ニ就キ御調査ノ必要モアレハ小生大抵心得居リ又其当時ノ證左材料モ有之候間何時ニテモ提供可致候

一三四　一月十一日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

中国トノ交渉ニ関シ各条討議ヲ避ケ各号一括交渉トスベキコト等ニ付補足訓令ノ件

第八号

往電第四号ニ関シ

㈠條約又ハ取極ノ各号ハ各條ニ付支那側ト討議セラルヽコトヲ避ケ各号 en bloc ニ交渉相成コト得策ト認ムルニ付成ルヘク其方針ニテ取計ハレ度㈡第二号ニ付テハ甲案ヲ十分執拗ニ主張相成度若シ已ムヲ得ス乙案ニヨルヲ必要トセラルル場合ニハ必ス豫メ請訓相成様致度㈢膠州湾最後ノ処分ニ関シ支那当局ニ帝国政府ノ意嚮ヲ洩サルル場合ニモ必ス請訓ノ上ノコトト致度以上客年十二月三日附機密号外訓令補遺旁申進ス尚交渉ノ経過ハ成ルヘク詳細ニ其都度電報相成度之亦為念申添ユ

一三五　一月十一日　在北京坂西陸軍大佐ヨリ
長谷川参謀総長宛（電報）

欧洲大戦ノ見通シ竝我対中国政策ニ関シ袁大総統トノ会談内容報告ノ件

電報坂西極秘第一号

北京　大正四年一月十一日発
同　年同月同　日受

昨日曜日北京商務総会ノ発起ニ依リ中央公園即チ元ノ皇城内社稜壇ニテ大総統撰挙法決定ノ祝賀会ヲ施行シ提灯行列等ノ催シアリ大総統ハ稍々暇ヲ得タルカ為カ小官ヲ招キ緩々談話ヲ交換セリ其要旨左ノ如シ

一、欧洲戦況ニ就テ大総統曰ク東西各方面共一勝一敗アレトモ要スルニ各々其都ニ入ルコトハ不可能ナルヘク到ル処持久ノ性質ヲ帯ヒ互ニ辛抱較ヘヲ為シツツ疲労シ結局五分五分ニ終リ世界地図ノ色ヲ変ユルニ至ラサルヘシト思ハル如何トノ問ヲ発セリ小官ハ答ヘテ英露仏ノ協商確実ナル今日其持久力大ナルヲ以テ結局独逸ヲシテ不利ナル位置ニ立タシムルニ至ルヘシト述ヘタルニ彼ハ其三国カ一致ノ軍事行動ヲ採ルコト容易ナラサルヘシトテ寧ロ自説ヲ主張セリ

二、戦後ノ豫想ニ就キ大総統曰ク戦後必ス露国独逸相親シミ共ニ提携シテ東亜ニ向ヒ満洲蒙古一帯ニ警戒ヲ要スルノ時来ルヘシト称シ之レカ為ニ日本支那提携ノ必要アルヲ説キ先ツ支那トシテハ何ニ依リテ之レヲ禦クヘキヤトノ問ヲ発シタルニ依リ小官ハ進ンテ之レヲ撃ツヘキハ困難ナル可キモ退テ之レヲ禦ク自ラ法アリ吾人ハ徐ロニ之ヲ研究シ置カサル可カラス之カ為メ日支両国ノ提携ヨリ必要ナリ須ラク之カ実施ノ手段ヲ講セサル可カラスト述ヘ置ケリ

三、我国会解散ニ就テ曰ク僅ニ二師団増設ノ為ニ国会解散セラレ貴国政界ニ動揺ヲ来シタルハ遺憾ナリ且ツ曰ク近時貴国ニハ種々ノ議論アリテ其多ク我国ヲ喰ハントスルモノ多キカ如シ抑々貴官ハ貴国ノ対支政策ナルモノハ如何ニ決定セラルルヲ至当ナリト考フルヤトノ問ヲ発セリ依リテ小官ハ彼カ平素称フル主張ヲ藉リ左ノ如ク答ヘタリ

予ノ私見トシテノ対支政策ナルモノハ他ナシ即チ東洋永遠ノ平和ヲ維持スルカ為メ固ク貴国ト提携シ我兵力ノ優勝ヲ以テ両国共同的平和ノ保證タラシムルト同時ニ貴国ニ於ケル経済的富源モ亦協同的利益ノ為メニ開放シ我経済力ノ発展ニ至大ノ便宜ヲ得ル如クスルニ在リト思考ス既ニ大総統ノ知ラルル如ク日本人ノ議論ニモ種々不公平ニ見ユルモノアルヘキモ要スルニ東洋永遠ノ平和維持ト云フ一点ニ付テハ概シテ一致スル意嚮ニシテ之亦支那ノ立論者トシテモ全ク一致スヘキ要点タラサルヘカラス云云

大総統曰ク誠ニ然リ貴国ニモ亦近視眼的立論者アルヲ免レサル可シ要ハ相互意思ノ疎通ヲ図リ物事ニ疑心ヲ挿ムコトヲ止メ今ニ於テ提携ノ実ヲ挙ケ以テ将来欧洲戦終局後如何ナル外敵ノ来ルコトアルモ東洋ノ調治ハ為ニ動揺セラルルコトナキヲ望マサル可カラス云々

要スルニ袁ハ対露国防禦策ノ為ニ我ヲ利用セントスルハ従来ト異ナルコトナキカ如シ我トシテハ今日ノ場合対露国云々ヲ言明スルコト能ハストスルモ苟クモ満洲蒙古問題解決ノ為ニスル袁大総統トノ折衝ニ際シテハ矢張リ穏密ニ此意味ヲ以テスルノ寧ロ其目的達成ヲ容易ナラシムヘシトノ感ヲ懐キツツアリ参考迄

一三六　一月十二日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

交渉上ノ秘密絶対保持ニ付中国側ニ厳重申入方訓令ノ件

第九号

今回ノ対支交渉開始ニ際シ貴官ハ支那側ニ対シ本件ハ絶対ニ之ヲ秘密ニ附スルコト相互ノ為極メテ必要ナルニ付支那側ニ於テモ直接間接共断シテ之ヲ外間ニ洩スカ如キコトナキ様致度旨厳重申入レ置カルヘシ尚小幡ハ足痛治療ノ都合ニヨリ一月十六七日頃当地出発ノコトニ変更セリ

一三七　一月十九日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

一月十八日袁大総統ニ我提案ヲ手交済ノ件

第二六号

一月十八日午後四時袁大総統ヘ謁見シ（曹汝霖列席）一応挨拶ヲ交換シタル後本使ハ日支両国ハ善隣ノ友邦ニシテ地理歴史人種文物何レノ点ヨリスルモ到底阻隔スヘカラサル密接ノ関係ヲ有スルモノナルカ故ニ益々国交ヲ親善ニシ彼我共通ノ利益ヲ図リ以テ東洋永遠ノ平和ヲ確保スルニ努ム

ル要アルコトハ閣下ニ於テモ夙ニ熟知セラルル所ナルニ拘ラス輓近両国間ニアリテハ兎角意思疏通ヲ缺キ貴国ハ常ニ帝国ノ挙措ヲ猜疑シテ無用ノ誤解ヲ挟ミ我民間ノ一部ニ於テモ亦貴国ノ真意ヲ疑ヒテ時ニ反感ヲ懐ク場合ナキニアラス併カモ其ノ間第三者ノ離間中傷ハ時ヲ得テ益々歩ヲ進メ意外ノ悪影響ヲ醸シツツアル有様ナルカ故ニ此儘ニ推移セハ国交ノ親善ハ到底望ミ難キ次第ナリ依テ帝国政府ハ今日ノ機会ニ於テ叙上ノ障害ヲ一掃シ彼我相倚ルノ実ヲ明ニシテ大局ヲ保全センコトヲ希望シ本使ヨリ閣下ニ此旨ヲ通スルト同時ニ国交ヲ鞏固ニシ共通ノ利益ヲ増進セムカ為メ玆ニ提出スヘキ各案ニ対シ貴国政府ノ同意ヲ求ムヘキ旨本使ニ訓令セリト述ヘ

大正三年十二月三日附機密号外貴信附属第一号乃至第五号

ヲ手交シタル上帝国政府ニ於テハ右提議ノ各項ハ貴国政府ニ於テ絶対ニ同意セラルヘキコトヲ期待シ居ル旨ヲ適切ニ言明シタル後御訓令ノ次第ニ基キ各案提議ノ趣旨ヲ詳細ニ説明シ殊ニ満蒙ニ於ケル帝国ノ地位ハ二回ノ大戦争ニ依リ獲得シタルモノニシテ牢乎抜クヘカラサル根底ヲ有スル次第ヲ切言シ次テ目下本邦一部輿論界ニ於テハ内外ノ情勢ニ顧ミ随分過激ナル対支意見ヲ保持スルモノアリ甚シキニ至リテハ革命党ヲ煽動シ袁政府ヲ顚覆スヘシト迄唱フルモノアリト雖政府ノ方針ハ終始一貫既往ノ政策ヲ踏襲シ飽迄貴国領土保全ヲ主眼トシ閣下ノ政府ヲ援助シテ邦交ヲ鞏固ナラシメント希望シツツアル外毫モ他意ナキノミナラス今次提議ノ條項タルヤ極メテ穏当ニシテ多クハ既成ノ事態ヲ確認セントスルニ過キサルモノナリ故ニ貴国政府ニ於テ速ニ帝国政府ノ提議ニ同意シ国交ノ親善ヲ図ルニ努メラルルコト極メテ緊要ニシテ萬一同意ヲ遅疑シ解決ヲ遷延セラルルカ如キコトアルニ於テハ為ニ一層紛糾セル事態ヲ惹起スル虞ナキニアラス閣下ニモ新聞紙上等ニテ承知セラルル通リ曩ニ帝国朝野ノ有力者間ニハ対支関係確定ノ為特派大使ヲ貴国ヘ派遣スヘキコトヲ主張シタルモノアリ

右ハ一時頗ル勢力ヲ得ルニ至リタル程ナレハ今後トテモ貴国ノ態度如何ニ依リテハ或ハ右ノ主張ノ実現ヲ見ルヤモ計リ難ク萬一斯ル事トモナレハ今回ノ如キ穏当ナル程度ニ止マラス必然多大ノ要求ヲ為スニ至ルヘク其結果如何ナル事態ニ立至ルヘキヤ豫想シ得サル所ナリ次ニ貴国一部論者間ニハ帝国現内閣更迭ノ場合ヲ豫想シ其方針ヲ云為スルモノナキニ非ラスト雖帝国ノ対支政策ハ一定不変ニシテ毫モ渝ハル所ナキノミナラス萬一現内閣ニシテ異動ヲ見ルカ如キ場合アリトモ後継内閣ニ於テ現提議ノ遂行ヲ努ムヘキハ勿論更ニ一層進ンテ提議ヲ為スニ至ルヘキハ逆睹スルニ難カラサルヘキニ付貴国政府ニ於テ此辺ノ関係ヲモ顧慮セラレ一日モ速ニ同意ヲ与ヘラルルコト極メテ有利ナルヘシト述ヘ最後ニ本件提議ノ次第ハ絶対ニ之ヲ秘密ニ附スルコト必要ナル次第ヲ痛切説示シタル処袁世凱ハ一応提案ヲ閲読シタル後本件ハ篤ト外交総長トモ協議ノ上同総長ヲシテ本使ト商議セシムヘシト答ヘ内容ニ関シ言及スルコトハ之ヲ避ケタリ右会談ノ際袁世凱ハ極メテ謹厳ナル態度ヲ以テ終始熱心ニ本使ノ陳述ヲ傾聴シタルモ何分咄嗟ノ提議ニ接シタルコトトテ直ニ何等ノ所見ヲ述ヘス本使モ亦質問ヲ避ケ篤ト考究ノ上速ニ同意ノ旨回答アランコトヲ繰返シ退出セリ

一三八　一月二十日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

我提案ニ関シ袁大総統憤慨ノ口吻ヲ坂西大佐ニ洩ラシ曹汝霖亦慷慨ノ件

第二七号

一月十九日坂西大佐袁大総統ニ内謁シタル際袁ハ頗ル憤慨シタル語気ヲ以テ日本国ハ平等ノ友邦トシテ支那ヲ遇スヘキ筈ナルニ何故ニ常ニ豚狗ノ如ク奴隷ノ如ク取扱ハントスルカ昨日日置公使ヨリ提出シタル要求條件ニ対シテハ出来得ル限リ譲歩スヘキモ出来ヌ事ハ出来ヌ故致シ方ナシト語リ堅ク決意スル所アルモノノ如ク見受ケラレタル趣同大佐ヨリ内話アリタリ又同日曹汝霖本使ヲ来訪ノ際閣下先般帰朝ノ砌定メシ支那問題ニ関シ政府当局者ト打合セラレ其ノ結果何等能キ土産ヲ持チ帰ラレタルコトナラント期待シ居タルニ昨日大総統ニ差出サレタル御土産ヲ下サル実ニ難有キ至リナリ平素温厚ナル人柄ニモ拘ハラス顔色ヲ変ヘテ慷慨ノ心情ヲ吐露シタリ仍テ本使ヨリ大総統ニ提出シタル要求ハ帝国政府ニ於テ深思熟慮ノ上鞏固ナル決心ヲ以テ定メラレ且必然成効ヲ期シ居ル事柄ナルヲ以テ其ノ辺十分了解アリタキ旨説示シ置キタリ我提議ニ対スル反響ノ一端トシテ御参考迄電報ス将又支那新聞ハ最近本邦新聞紙ニ対シ論調激烈ナルニ拘ハラス慨シテ沈黙ヲ守リ居ルニ付本邦側ニ於テモ冷静ナル態度ヲ持シ両国人心ニ無益ノ刺戟ヲ与ヘサランコトヲ切望ス

一三九　一月二十日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

坂西大佐ノ大総統内謁及曹汝霖来訪ニ関シ其事情及印象電報方ノ件

第一九号

貴電第二七号ニ関シ

坂西ハ袁総統ノ招キニヨリ内謁シタル次第ナルヤ又曹汝霖ハ如何ナル用向ニテ貴官ヲ来訪シタルモノナルヤ承知致度察スルニ袁総統ハ駈引ノ為ニ坂西及曹ヲ利用シタルモノノ如ク思考セラルル処此点ニ付テノ貴官並ニ坂西ノ感想ヲモ併テ電報アリタシ

一四〇　一月二十一日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

坂西大佐ノ大統領内謁及曹汝霖来訪ニ付事情回電ノ件

附　記　一月二十日付坂西大佐ヨリ長谷川参謀総長宛電報

第二九号

貴電第一九号ニ関シ坂西大島福田贈勲ノ礼ヲ述フル為内謁シ其際夫レトナク本使謁見ニ関スル袁世凱ノ感想ヲ探リタル趣ニテ委細ハ同大佐ヨリ参謀総長ニ電報シタル由ナリ又曹汝霖ハ外交部ヲ経由セスシテ直接大総統ニ要求ヲ提出シタルコトニ付外交総長ノ命ヲ奉シ嫌味ヲ述ヘンカ為来リタルモノニシテ駈引上坂西及曹汝霖ヲ利用シタルニハアラス将又本使ハ一月二十日外交総長ヲ訪問シ略ホ袁ニ述ヘタルト同様ノ趣旨ヲ以テ申入レ条件写ヲ手交シ置キタリ

（附　記）

一月二十日坂西大佐発長谷川参謀総長宛電報

坂極秘第二号

昨十八日日本公使ノ提出条件ニ対スル大総統ノ意嚮ヲ知ラン為本日大総統ト会見セリ彼ノ態度及談話ノ要領左ノ如シ

彼ハ毫モ平常ト異ナルコト無ク種々談話ヲ交ヘ就中我公使ノ言論カ条理ニ合シ且ツ極メテ明晰ナルヲ褒メタリ後チ曰ク元来予ノ貴国ニ対スル方針ナルモノハ終始変リタルコトナク所謂相親ミ相携ヘテ東洋ノ平和ヲ維持セントスルニアルハ常ニ貴官ニ談ルカ如シ予ハ貴官ト交ルコト玆ニ十有余年即チ日露戦役以来今日ニ至ル迄予ハ貴国ノ利益ヲコソ計リタレ何一ツデモ害ヲ加ヘタルコトナキ積リナリ故ニ予ハ貴国人若クハ政府ヨリ未タ怨ヲ買フヘキ事実ナキヲ信ス然ルニ貴国言論界ハ事々ニ我ヲ罵詈シテ已マス殆ント豚カ狗ノ如ク軽蔑スルモノノ如シ今ヤ予ハ多キヲ望マス切メテハ貴国人カ対等ノ友邦ト言フ意義ニ於テ交際セラレンコトヲ望ム殊ニ貴国ハ君主国ナルモ我ハ共和国ニシテ而カモ成立日尚ホ浅ク加フルニ内外各所日本等ニ亡命セル乱徒ノ如キハ常ニ我政府ノ失敗ニ乗セントシテ窺ヒツツアリテ所謂国ノ基礎未タ定マラヌ時ナルヲ以テ必シモ今直ニ予ノ意見通リ萬事ヲ決行スル能ハサルハ既ニ貴官ノ知ルカ如シ依リテ予ノ更ニ望ム所ハ恕ト云フ一字アルノミ云々トテ稍々憐ミヲ請フカ如クナリシモ彼又語ヲ継キテ曰ク要スルニ予カ本来ノ趣旨ハ貴国ト相親ミ相携ヘ東洋ノ平和ヲ維持セントスル主義ニ基キ貴国ト相計リテ辨シ得ヘキハ是ヲ辨シ否ラサルモノハ奈何トモスル能ハサルヘシ云々トテ小官将ニ辞セントスルヤ彼更ニ曰ク予ハ貴国皇帝カ夙ニ予ヲ認メテ元首トシ且ツ此中華民国カ貴国等ノ友邦タルコトヲ證認セラレタルヲ感謝シツツアリ貴国人モ亦恕ノ一字ヲ以テ之ニ対セラレンコトヲ望ム云々ノ語ヲ繰リ返セリ

要スルニ本日ノ態度言語ヲ以テ察スルニ事苟モ対等国家ノ主権ニ関スルモノハ容易ニ承諾セサル可キモ其他ハ承諾ヲ勉ムヘキ意志ヲ有スルモノノ如ク惟ハル

一四一　一月二十二日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

交渉事項ニ関シ不謹慎ナル通信ヲ為サザル様通信員ニ注意方訓令ノ件

別　電　同日加藤外務大臣発日置公使宛電報第二四号
在北京時事新報通信員ノ我提案ニ関スル通信

第二三号

貴電第三〇号ニ関シ当方ニテハ当地重立タル新聞主幹ニ交渉事項ノ大要ヲ極内密ノ含迄トシテ内話シ紙上ニ本交渉ニ関スル記事論評ヲ掲クル事ヲ出来得ルタケ見合ハスヘキヤウ注意シ置キ各主幹ニ於テモ之ヲ諒トシ其結果昨今新聞紙ハ大体殆ント緘黙シ居レリ然ルニ本日貴地時事新報通信員ハ別電第二四号ノ如キ通信ヲ打電シ来リタルニ付同新報ニ注意シ紙上ニ登載セシメサルコトニ取計ヒ置キタルカ右ノ如キ不謹慎ナル通信ハ新聞紙上ニ登載セシメサル考ナルニ付通信員ニ於テモ問題ノ重大ナルニ鑑ミ軽卒不謹慎ナル通

信ヲ発セサルヤウ注意方然ル可御取計アリタシ亀井ニハ右ノ次第特ニ注意アリタキ旨時事新報側ヨリ申出アリ尚右類似ノ電報国民新聞及電報通信ヘ貴地ヨリ到達セリ或ハ支那側ヨリ洩レタルモノナルカトモ察セラルルニ付テハ支那ニモ適宜ノ方法ニテ注意ヲ喚起シ置カレタシ

（別　電）

一月二十二日加藤外務大臣発在中国日置公使宛電報

在北京時事新報通信員ノ我提案ニ関スル通信

別電第二四号

日置公使ハ昨日外交総長ニ会見ノ際満蒙問題以下二十四個條ノ懸案ヲ提出セリ其中ニ山東問題モ豫備條件トシテ含マレ居レリト但シ是ハ袁総統ニ会見セル要求條件トハ別問題ナラン

一四二　一月二十二日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

坂西大佐ノ袁大総統内謁ノ際ニ於ケル感想ニ関スル件

第二五号

貴電第二七号ニ関シ坂西ヨリ参謀本部ヘノ電報ニ拠レバ当紙ハ何レモ除外地域取消問題ニ付激烈ナル論説記事ヲ掲ケ殊ニ満洲日日及大阪毎日新聞ノ如キハ殆ント常軌ヲ逸シ居リ本月十七日ノ時事新聞社説ノ如キ正々堂々タル対支政策論ハ時局ニ裨益スル所尠カラザルベキモ漫リニ袁世凱ニ対シ人身攻撃的言論ヲ弄シ激烈ナル言辞ヲ濫用スルカ如キハ交渉ヲ成立セシムル上ニモ面白カラサル影響ヲ及ホスヘシト思料スルニ付相当取締方可然当該官憲ニ御内訓ヲ請フ

一四四　一月二十三日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

対中国提案ニ関シ英国政府ニ内告方井上大使ニ訓令シタル旨通報ノ件

第三〇号

別電第三一、三二、（註）三三号電訓通リ適当ノ機会ニ於テ英国外務大臣ニ内告方一月二十日在英大使ニ電訓シ置タル処別電第三四号（註）ノ通リ同大使ヨリ来電アリタルニ付右ニ御承知アリ度シ尤モ客年十二月三日付機密号外附属第五号ハ問題ノ性質異ナレルニ付此際之ヲ英国政府ニ内告スルコトハ態

日袁総統ハ日本言論界ノ調子ニ対シ不平ヲ鳴ラシタルモ其他ハ平素ト態度異ラザリシ趣ニテ支那ノ主権ヲ侵スガ如キコトニ非ザル限リ日本ノ要求ニ聴従スヘキヤニ察セラレタル旨ノ申添モアリ坂西ノ印象ハ貴電第二七号トハ大分趣ヲ異ニシ居ル様思考セラル今後ノ交渉振ニモ重大ノ関係アルニ付御参考迄申進ス尚前記坂西ヨリ参謀本部宛ノ電報ハ貴官ニ於テモ内覧セラレタル事ト信ス

一四三　一月二十二日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

外交総長ヨリ日本ノ新聞記事ニ付取締方要請アリタル件

第三二号

一月廿一日外交総長ハ特ニ秘書ヲ当館ニ遣ハシ一月十四日ノ満洲日日カ「袁ノ暴慢ノ態度」ナル見出ヲ掲ケ中立除外地域取消ニ関シ大総統ニ激烈ナル攻撃ヲ加ヘタル事及一月十二日ノ大阪毎日新聞カ此機会ヲ以テ日支懸案ヲ解決シ平和ノ基礎ヲ確立スヘシトノ記事ヲ掲ケタル事等ヲ指摘シ本邦新聞紙ノ無責任ナル論議取締方ヲ求メタリ最近本邦新聞ト差控ヘ置タル次第ニ付御含迄申添ユ

註　加藤外務大臣発日置公使宛別電第三一、三二、三三号及同第三四号ハ夫々後掲在英国井上大使宛電報第八、九、一〇号及井上大使発加藤外務大臣宛電報第九号（四八二、四八三、四八四及四八五ノ各文書）ト同文ナリ省略ス

一四五　一月二十四日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

在中国仏露各公使ヨリ我対中国提案ノ真相ニ関シ問合アリタルニ付請訓ノ件

第三四号

一月二十四日午前仏国公使来訪種々質問ヲ発シ夫レトナク交渉案件ノ内容ヲ探ラント勉メタルモ本使ヨリ不得要領ノ返事ヲナシ引取ラシメタルカ同日午後露国公使来訪昨今日支間ノ関係著シク緊張ヲ告ケ或ハ開戦ニ至ルヘキヤモ計リ難シトノ風説ヲ耳ニシタル処事実ノ真相如何ト切リ出シタルニ付本使ヨリ何等然ル事ナシト答ヘタルニ次ニ同公使ハ最近本国政府ヨリ日本国ハ支那ニ対シ一大要求ヲ提出シタル趣在東京露国大使ヨリ電報アリタルニ付其内容ヲ突止ム

ヘキ旨電訓ニ接シタルニヨリ差支ナクハ要領ヲ承リタシト述ヘタリ仍テ不取敢本使ヨリ帝国政府カ或重要案件ニ付支那政府ニ交渉ヲ開始セルハ事実ニ相違ナキモ本国政府ニ請訓ノ上ナラデハ其内容ヲ洩ス事ヲ得サル旨挨拶シ置キタリ其内同公使ヨリ重ネテ問合アルヘシト存スルニ付如何応答致シ可然ヤ何分ノ義御電訓アリタシ

一四六　一月二十四日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

在中国英国公使ヨリ交渉案件ニ関シ質問アリタル場合ノ応答振ニ付請訓ノ件

第三五号

貴電第三〇号ニ関シ自然英国公使ヨリモ交渉案件ニ関シ質問アルヘシト思料セラルル所其ノ場合ニハ本使ノ裁量ヲ以テ貴電第三一号乃至第三十四号ノ要領ヲ内話シ差支ナキヤ又第五号ハ英国政府ニ内告セラレサル趣ノ処萬一英国公使ニ於テ之レヲ探知スルカ如キコトアランカ同号ニハ鉄道ノ件モアリ必然何等カ質問ヲナシ来ルヘシト思料スルニ付其ノ場合ノ応答振ト共ニ併セテ至急御電訓アリタシ

秘密ヲ守ラシメ居ルコトナルニ付同公使ニ於テモ決シテ他ニ洩ラスコトナキヤウ呉々モ注意シ置カルヘシ本大臣ハ今二十五日在本邦英国大使ニ右要領ヲ極秘トシテ内話スル筈ナリ又第五号ノ点ニ付テハ貴官ヨリハ何等言及セラレサル様致度モ萬一英国公使ヨリ質問アリタル節ニハ以上ノ外別個ノ問題トシテ従来懸案ト成リ居レル二三ノ事項ニ付テモ此際併セテ解決方支那側ニ働告シ置キタル旨ノミ軽ク応答シ置カルルコトニ止メ度シ

一四九　一月二十五日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

我提案中ノ警察問題ニ関シ回訓ノ件

第三七号

貴電第三六号ニ関シ

第五号ノ三警察ノ件ハ主トシテ南満洲竝東部内蒙古地方ヲ指スモノニシテ同地方ニハ本邦人ノ居住スルモノモ多ク従テ従来日支間ニ絶エズ警察事故ノ発生ヲ見且支那警察モ甚タ行届カサルカ故ニ一面同地方ニ於ケル日本ノ地位実勢ノ特殊ナルニ顧ミ差当リ同地方ニ於テ合同ヲ実行センコトヲ

一四七　一月二十四日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

我提案中ノ警察問題ニ関シ説明方禀請ノ件

第三六号

（註）第五号ノ三警察合同ノ件ハ支那側ニ於テハ特ニ注意スヘク従ヒテ其ノ諾否ハ別問題トシテ或ハ何等説明ヲ求メ来ルヤモ難計ニ付「必要ノ地方」トハ差向キ如何ナル地方ヲ指ス趣旨ナルヤ又合同トハ具体的ニ云ヘハ如何ナル組織及運用方法ヲ指ス次第ナルヤ本使心得迄ニ可成詳細ノ事情御電報アリタシ

註　日本外交文書大正三年第三冊五六八文書附属書五参看

一四八　一月二十五日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

英国公使ヨリ質問アリタル場合ノ応答振回訓ノ件

第三六号

貴電第三五号ニ関シ

英国公使ヨリ質問ニ接シタル場合ニハ往電第三一号乃至第三四号ノ要領ヲ適宜内話相成差支ナシ但シ支那側ニモ厳ニ希望スルモノニ係リ追テハ山東地方等ニモ之ヲ及ホスコトモアルヘシ又合同ノ方法トシテハ主トシテ多数ノ日本人ヲ警察機関ノ主要部ニ傭聘セシムルコトト致シタキ考ナリ

一五〇　一月二十五日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

我対中国提案ニ関スル在中国仏露公使ノ問合ニ対スル応答振回示ノ件

第三八号

貴電第三四号ニ関シ

露国公使及仏国公使ニ対シテハ今回ノ交渉ハ満蒙及山東ニ関スルモノナル旨ヲ言明相成ルニ止メラレ内容ニハ毫モ立入ラレサルコトト致度尤モ追テ帝国政府ヨリ夫々本国政府ニ対シ本件内容ヲ内告スルコトモ或ハ可有之旨附言相成差支ナシ

一五一　一月二十五日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）
袁大総統ニ手交ノ我提案受領ノ旨曹汝霖来訪挨拶ノ件

第三九号

一月二十五日曹汝霖総長代理トシテ本使ヲ来訪シ今回日本国ノ提議ニ対シテハ政府ニ於テ特ニ研究討議ノ末日本国政府ノ趣旨ハ右ニ依リ両国国交ヲ親善ニシ東洋ノ平和ヲ維持スルニ在リトノ了解ノ下ニ協議ニ応スルコトニ決定シ提案ハ之レヲ受領スヘシト述ヘ談判ハ外交部ノ都合上毎土曜日ニ行フコトトシタシト云ヘルニ付本使ハ原則トシテ土曜日ト定ムルハ差支ナキモ必要ノ場合ニハ何時ニテモ開キ得ルコトニ承知置アリタシト答ヘ置ケリ

一五二　一月二十六日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）
提案交渉ハ連日商議ノコトト致度旨中国側ニ申入方訓令ノ件

第四一号

貴電第三九号ニ関シ帝国政府ハ今回ノ対支交渉ヲ迅速ニ解決スルコトヲ以テ極メテ肝要ナリトスルモノニシテ若シ支那側希望ノ通リ僅ニ一週一回商議スルカ如キ緩漫ナル方法ニヨルトキハ解決ノ時期如何ニ延引スルヤ豫知シ得ヘカラサルノミナラス其間ニハ交渉ノ内容自然外間ニ洩レ交渉ノ進捗ヲ妨得スルカ如キ論議モ必ス発生スルノ虞アルニヨリ支那政府ニ於テモ此際問題ノ性質極メテ重大ナルニ鑑ミ余事ハ差措キ連日商議ヲ凝ラシ以テ先ツ速ニ当方要求全部ニ対スル主義上ノ諾否ヲ決スルコトト致シタキニ付貴官ハ本大臣ノ訓令トシテ至急右ノ次第ヲ支那政府ニ申入レ其同意ヲ求メラレ結果返電アレ

一五三　一月二十七日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）
我提案連日商議方ニ関シ曹汝霖ニ申入ノ件

第四三号

貴電第四一号ニ関シ一月二十七日総長病気ニ付曹汝霖ニ面会シ御電訓ノ趣旨篤ト申述ヘ是非共連日会議ヲ開クコトニ同意アリタシト求メタルニ曹ハ本件ヲ急速ニ解決セシムルノ要アルコトハ全然同感ナレトモ何分外交部ニ於テハ常務ヲ処理スル外随時各国公使ニモ接見シ夫々交渉事件ヲ始末スルノ必要モアルコトナレハ総長次長共ニ本件専務ニ従事スルコトハ到底事情ノ許ササル次第ニ付此ノ辺ノ事情ハ篤ト御諒察アランコトヲ切望スト述ヘ尚総長トモ熟議ノ上出来得ル限リ会見ノ度数ヲ増シ迅速ニ結了ノ方法ヲ講スヘシト云ヘリ

右不取敢電報ス

一五四　一月二十八日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）
対中国交渉ノ迅速解決ノ為中国側鞭撻方ニ関シ訓令ノ件

第四四号

貴電第四三号ニ関シ

帝国政府ニ於テ今回ノ対支交渉ヲ出来得ル限リ迅速ニ解決スルコトヲ極メテ緊要トナスハ往電第四一号ノ通リニシテ又貴電第四三号ニ拠レハ支那側ニ於テモ本件急速結了ノ必要ヲ認メ居レリトノコトナルニ付テハ豫テ先方ヨリ毎週土曜日会商ノ議ヲ申出シタル行懸モアルニ付遅クモ本週土曜日（一月三十日）ニハ商議ヲ開始スルノ運ヒトナルヘシト思考セラル就テハ出来得ルタケ支那側ヲ鞭撻シ其後ハ連日商議スルヤウ先方ニ迫ラレタク而シテ場合ニヨリ連日会商不可能ナルトキハ適宜日取ヲ取極メラレ苟クモ支那側ニ遷延ノ余地ヲ与ヘス聊カニテモ其気振リアルニ於テハ厳重督促ノ上迅速ニ商議ヲ進行セシムル様措置アリ度シ

一五五　一月二十九日　在上海有吉総領事ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）
我対中国要求條件ニ関スル風説新聞紙上ニ出現
竝袁世凱ノ馮ニ対スル電報ニ関シ報告ノ件

附記　一月二十七日　在北京町田少将発　明石参謀次長宛電報
亜細亜日報記事報告

第一七号

北京政府ニ対スル我方ノ要求條件ニ関シテハ英漢両新聞紙等ニ各種ノ風説ヲ掲ケ数日来漸次論難ノ気勢ヲ高メ来レル処某方面ヨリ伝ヘ来リタル所ニ依レハ袁世凱ハ馮ニ右條件ヲ電報シテ其苦心ヲ告ケ馮ヨリ斯ク過重ノ要求ハ其部下軍隊ノ一斉ニ激昂反対スル所ナル旨電報ニテ上申スル様希

望シ来リ馮ハ斯ルコトハ児戯ニ類シ日本側ニ悪感ヲ起サシムル外何等効果ナカルヘキ旨部下ニ内話セル由ナルモ義理合上婉曲ナル文句ヲ用ヒテ反対ヲ表セリトノコトニテ各将軍ニモ同一ノ希望ヲ伝ヘタルコトト察セラルルニ付御参考迄

在支公使及在南京領事ヘ転電セリ

（附　記）

一月二十七日在北京町田陸軍少将発明石参謀次長宛電報

亜細亜日報記事報告

支北電九

二十七日亜細亜日報ニ左ノ要旨ノ記事ヲ掲載セリ是レ支那紙ノ我カ新要求ニ対シ論評ヲ加ヘタル嚆矢トス今回日本カ我国ニ無謀ノ要求ヲ提出シタルニ対シ我国ハ萬之ヲ承認スルノ理由ナキノミナラス此事件ニ関シ特ニ接衝談判スルノ必要ナシ蓋シ此等ノ要求タルヤ実ニ平等ヲ以テ我ヲ待ツモノニアラスシテ我カ主権ヲ侵害スルコト甚シク絶対ニ談判ノ余地ナキモノト謂フヘケレハナリ本件ヲ正当ニ処理セントセハ政府ハ其ノ要求ヲ提議セサルニアリ若シ邦交ヲ顧ミルノ要アラハ萬承認シ難キ点ヲ指摘シ文書ヲ以テ婉曲ニ持病ノ関節痿癖窒斯ニ罹リ従来ノ経験ニ依レハ全治迄ニハ尠クモ一ヶ月ヲ要スル始末ナルニ付日支交渉モ将ニ開始サレントスル今日到底自由ニ療養叶ハサルノミナラス既ニ先般来隠退ノ意志ヲモ有シ居リタル事トテ直チニ辞表ヲ提出シタルニ大総統ニ於テハ平素ナラハ特ニ休暇ノ恩典ヲ与フルニ躊躇セサルモ何分今日ノ場合事情已ミ難キ次第ニ付即座ニ其請ヲ容レ陸徴祥ノ新任ヲ見ルニ至リタル始末ニシテ毫モ他意ヲ存セス又孫ヲ審計院長ニ任シタルハ閑職ニ就テ静養スヘシトノ趣意ニテ健康恢復ノ上ハ重ネテ外交方面ニ活動セシムル事トナルヘシト云ヘリ右ハ諸般ノ事実ト綜合シテ真実ニ近キモノト察セラレ交迭ヲ以テ我ニ対スル談判駈引上ノ意義トナセルカ如キハ受取リ難シ御参考迄

一五七　二月一日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

北京ノ漢英字新聞ノ日中交渉ニ関スル論難ニ付報告竝中国側取締ニ関シ警告ノ件

第四八号

両三日来当地漢英字新聞ハ孰レモ日支間ノ新交渉ニ関シ論

之ニ答復スレハ可ナリ聞ク所ニ依レハ政府ハ邦交ヲ重ンスルノ見地ヨリ日本ノ意思ニ反戻スルヲ欲セズ来次日置公使ト会見シタル上承認シ能ハサルノ理由ヲ説明スル筈ナリト此説ニシテ若シ真ナリトセハ我政府カ日本ヲ待ツ到レリ尽セリト謂フヘシ然レトモ吾人ハ此説ノ真ナラサルコトヲ希フモノナリ

萬一此事アリトスルモ政府ハ決シテ軽挙事ヲ弁シ以テ国人ノ喧騒ヲ招キ遂ニ国ヲ滅スノ禍源ヲ生セシムルカ如キコトアルヘカラス云々

一五六　一月二十九日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

孫宝琦外交総長辞職ノ理由ニ関スル観測報告ノ件

第四六号

往電第四四号ニ関シ突然外交総長ノ交迭ヲ見ルニ至リタルハ必スヤ裏面ニ何等カノ魂胆潜ミ居ルモノトノ説ヲナスモノナキニアラサルモ一月廿八日曹汝霖往電第三三号ノ要務ヲ帯ヒ本使ヲ来訪ノ折語レル所ニ拠レハ孫宝琦ハ一昨夜来

難攻撃漸ク激烈トナリ去ル廿九日民視報ノ如キハ殆ント一頁半ニ亘リテ日本攻撃ノ論評及ヒ雑報ヲ掲ケタルモ孰レモ揣摩臆測ニ基クモノノ如ク其攻撃ノ要点ハ単ニ日本国カ無理ナル要求ヲ提出シタリト云フニ過キサリシカ一月三十一日亜細亜日報ハ可驚可駭之要求内容ト題シ一月二十三日東京朝日新聞号外ヲ訳載シ其後段ニ左ノ如ク附記セリ「此外支那全国ニ関スル他ノ要求アリ未タ発表セラレサルモ現在発表セラレタルモノノミニテモ既ニ我国ノ利権ト主権トヲ剝奪シテ自立ノ余地ナカラシムル之ヲ国家ト称スルヲ得ルヤ国民亡国ノ奴トナルヲ甘ンスルヤ隠忍スルモ遂ニ亡ヒ抵抗シテ起ツモ亦亡フ亡一ナリ隠シテ亡ヒンヨリハ寧ロ抵抗シテ亡ヒン彼等ヲシテ相等仕払ハシムルニ如カサルナリ我国民夫レ速カニ起テヨ」尚「**ペキン、デーリー、ニュース**」「**ペキン、ガゼツト**」ノ如キハ今回日本ノ要求ハ支那ノ現状ヲ破壊スルノ虞アルモノト認ムルニヨリ其解決ニ関シテハ宜シク利害関係ヲ有スル列強ニ訴フル所アルヘシト主張シ居レリ趨勢右ノ如クナレハ今後ニ於ケル支那新聞ノ論調ハ一層険悪ヲ加フルナラント察セラル本使一月二十七日曹汝霖ト会見ノ際新聞取締ニ関シ厳重ニ警告ヲ与ヘ置キ更ニ一月三十一日小幡ヲシテ重テ同様ノ注意ヲ与ヘ置キタ

ル所曹ハ之ニ同意シ内務部ト協議スヘシト答ヘタリ将又支那新聞ノ論調如何ニ拘ラス本邦新聞紙カ今回ノ交渉ニ関シ冷静沈黙ヲ守リ居ル一事ハ支那人ヲシテ日本今回ノ要求ハ国民全体ノ意志ニ出デ十分其後援アルコトヲ幾分覚ラシメタルノ効アリト信スルニ付本邦新聞ヲシテ今後トモ引続キ現今ノ態度ヲ持続セシメラレンコトヲ希望ス

一五八　二月一日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

日本ノ態度ニ関スル中国政府部内一部ノ認識不足及誤解ノ一掃ニ付意見上申ノ件

第五〇号

今回重要案件提出以来ニ於ケル支那政府部内ノ動静ヲ窺フニ大体ニ於テハ我ニ満足ナル趨勢ヲ呈スルモノト認メラルルモ中ニハ之ヲ以テ総選挙ニ対スル駐引キ内閣ノ地盤擁護等ニ起因シ居ル如ク信スルモノモアル様察セラルル処此際彼等ヲシテ斯ノ如ク誤リタル考ヲ懐カシムルハ談判ノ進行上甚タ面白カラスト思料スルヲ以テ当方ニ於テハ目下極力各種ノ方法ニ依リ我要求カ断シテ斯ル浅薄ナル理由ニ基クモノニ非サルハ勿論若シ萬一斯ノ如キ謬想ノ下ニ支那政府ニ赴キ談判ヲ開始セリ先方ヨリハ陸総長曹次長外ニ秘書一人会議ニ列席ス会議ノ初メニ先ツ本使ヨリ過般大総統及ヒ孫総長ニ対シ陳述セルト略ホ同様ノ意味ノ説明ヲナシ近来外間ニ於テハ帝国政府今回ノ提案ヲ以テ山東戦区撤廃問題ニ起因セリトカ総選挙ノ駐引ニ出ヅルトカ種々ノ見解ヲ下スモノアル趣ナルモ是等ハ絶対ニ事実ニアラサル一ノ臆測ニ過キス我カ今回ノ提案ハ久シク一定セル帝国ノ国是トモ謂フベキモノニシテ孰レノ政府孰レノ内閣タルヲ問ハス必ス之レカ解決ヲ計ルヘキモノタルハ勿論ノ義ニ付此際支那政府ニ於テモ速カニ我提案ヲ容レ従来両国ノ間ニ蟠レル各種誤解ヲ一掃シ又将来起ルヘキ紛争ヲ未然ニ防キ以テ日支親善ノ実ヲ挙ケ東亜永遠ノ平和ニ資セラレンコトヲ切ニ希望スルト同時ニ帝国政府ノ立場トシテ日支両国ノ親善ヲ計ル為メ此提案ノ遂行ヲ絶対ニ必要トスルヲ以テ将来幾多ノ困難アルモ是非共之ヲ解決スルニ最モ鞏固ナル決心ヲ有スル次第ナル旨ヲ述ヘ次テ本使ハ談判ニ移ル順序トシテ提案第一号提出理由ヲ簡単ニ説明シ支那政府ニ於テハ勿論本案ニ対シ異議ナカルヘキ筈ト考フル旨述ヘタル処陸ハ之ニ対シ外交談判ノ成例モアルコトナレハ各号其各條順次ニ審議スルコトトセハ談判ノ進行上都合宜シカルヘシト述ヘ

カ交渉案件ヲ処理スルニ於テハ意外ノ危機ヲ現出スルナキヲ保セス就テハ此際支那側ニ於テハ慎重ニ事態ノ重大ナルヲ自覚シ其打算ヲ誤ラサル様当路其他袁大総統ニ接近スルモノニ吹込ミ居レリ然ルニ前述ノ如キ支那側ノ誤解ハ在東京陸公使ノ報告ニ基ク所モ尠カラスト信スルニ付此際一層痛切ニ東京ニ於テモ支那人側ノ此種誤解ヲ一掃シ且ツ帝国政府ノ決意ノ鞏固ナルコトヲ十分彼等ノ脳裡ニ貫徹セシムル様ノ措置ヲ執ラルルコト得策ナラスヤト思料ス将又南京ノ馮国璋武昌ノ段芝貴済南ノ靳雲鵬等ハ袁総統ノ股肱ニシテ国家ノ大事ニ当リテハ常ニ大総統ヨリ内相談ヲ受クル側ノ人物ナルヲ以テ彼等ニ対シテモ今回ノ要求ヲ貫徹スル為帝国政府ニ断乎タル決心ノ存スルコトヲ此際或ル方法ヲ以テ内々吹込ミ置クコト得策ナラント信ス

一五九　二月三日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

二月二日第一回会議ノ経過及中国側遷延ノ底意アルヤノ模様報告ノ件

第五一号

二月二日午後三時本使ハ小幡高尾ヲ帯同シ約ノ如ク外交部切リニ逐條審議説ヲ主張シテ止マス玆ニ於テ雙方ノ間ニ尠カラス論議ニ時間ヲ移シタルモ結局本使提議ニ同意シ次回会合ノ節ニハ各号ニ対シ包括的ニ大体ノ意見ヲ陳述スルコトトスヘキモ何分外交総長ニ就任匆々ノコトトテ外国公使トノ訪問交換其他ノ用務ニ取紛レ十分研究ノ暇ナカリシノミナラス尚近日ヨリ外交団接見ヲ始ムル抔種々用事有之ニ付次回会議ヲ来週火曜日トナシタキ旨懇請セルモ本使ハ断シテ之ヲ斥ケ外交総長更迭等ノ事情ハ十分之ヲ了シ居ルモ何分帝国政府ニ於テハ本案解決ヲ急キ居ル次第ナルハ勿論本提案ヲ大総統ニ提出以来既ニ二週間ヲ経過シ居リ外交部主脳者ノ更迭如何ハ兎モ角モトシ支那政府ニ於テハ既ニ十分意見定マリ居ルヘキ筈ナル所以ヲ指摘シ其徒ラニ談判ヲ遷延スルノ理由ナキヲ詰リタルモ陸ハ種々已ムヲ得サル事情ヲ訴ヘ来週火曜日ニ次回会議ヲ開クコトニ同意ヲ懇請シテ已マサルヲ以テ結局就任早々事情已ムヲ得サルモノアルヲ諒トシ本週金曜日第二回会合ノコトヲ承諾シ置ケリ本日ノ会議ニ於テ本使ノ得タル感想ニ依レハ総長更迭ノ事情ハ十分ニ之レヲ諒トスヘキモノアルヘキモ先方ノ口気ニヨリ察スルニ談判ノ遷延ヲ計ル底意アルヤニモ察セラルルヲ以テ次回ヨリハ十分支那側委員ヲ鞭撻督励シテ案件ノ速

決ニ猛進スル覚悟ナリ将又普通外交事務処理ヲ口実トシテ此ノ末談判ノ進行ヲ遷延スル様ノコトアルヲ慮リ専任談判委員ノ任命ヲ強要スルノ必要之レアルヘシト思料ス之ヲ要スルニ本日ノ会議ニ於テハ談判ノ方法ニ関スル論議ニ意外ノ時間ヲ費シタルト且ハ先方ニ於テ当初ヨリ談判ノ方法トシテ逐條審議ニ依ルノ考ヲ有シタルモノト見エ提案第一号全部ニ関シ十分ナル対案ヲ準備シ居ラサリシ為要領アル端緒ヲ得サリシハ甚タ遺憾トスル所ナルモ第一号第一條ニ対シテハ修正案トシテ膠州湾ヲ除キ山東省内ニ於テ條約上既ニ独逸ノ獲得権利ヲ我ニ与フルコトヲ支那政府ニ於テ承諾スルト同時ニ日本国政府ニ於テハ膠州湾ヲ支那ニ還附シ将来支那政府ノ講和会議ニ参加スルコトヲ承諾スルコトトシ第二條ニ対シテハ将来支那ハ何レノ国ヘモ其領土ヲ租借割譲スル様ノコト断シテ之レナキヲ理由トシ之カ削除ヲ主張セントスル意嚮ヲ有シ第三條以下ニ関シテハ未タ何等意見決定シ居ラサルコトヲ確知セリ就テハ次回ノ会議ニ於テ我提案ニ対スル先方ノ大体意嚮ヲ聞取リ時間ノ都合ニ依リテハ本日先方ノ洩ラシタル第一号第一條以下ノ修正説ニ対シテ余力ヲ残サス駁撃ヲ加ヘ我提案ノ貫徹ニ努ムル積ナリ

国ニ於テモ毫モ異議アルヘキ筈ナシト信ス先年日本カ露国ト戦ヒタル時其善後処分ニ関シテハ先ツ露国ト議シ其結果ニ付清国政府ノ承諾ヲ得ルノ順序ヲ執レリ今回日独問ノ関係ハ未タ講和ノ域ニ達セスト雖以上ノ順序ヲ転倒シ豫メ貴国ノ同意ヲ求メ置カントスル次第ナリ第二ハ南満洲及東蒙古ニ関スル事項ニシテ此要求ノ日本ニ取リテ当然ノ申出ニシテ貴国カ現ニ同地方ニ関シ発言ノ自由ヲ有スルハ抑モ何ニ因リテ然ルカニ想到セハ直ニ明ナル筈ナリ実ハ自分ハ一昨年外務大臣ト成リタル際現ニ此問題ヲ提起スル考ナリシモ在職意外ニ短カカリシ為之ヲ果スコトヲ得サリシカ今回山東ニ関スル問題ヲ決定スルニ当リ之ヲ以テ最適当ノ機会ト認メ此問題ヲモ提起シタル次第ナリ第三ハ漢冶萍公司ニ関スル件ニシテ同公司ニ関シテハ従来諸種ノ紛擾相次キ莫大ナル日本資本ノ同公司ニ入リ居ル関係ヨリ同公司ヲ一層鞏固ナルモノトナサント欲スルニ因レリ第四ハ支那沿岸ノ島嶼不割譲ノ件ナリ之ハ貴国領土ヲ出来得ル限リ保全スルノ主義ニ則リタルモノニシテ従来兎角貴国カ租借其他ノ名ニ於テ他国ニ領土上ノ権利ヲ与ヘラレ之カ為諸種ノ面倒ナル問題ヲ誘起シ延テ東洋ノ平和ヲ乱シタルコト一再ニ止マラス是此提議アル所以ナリ以上述フルカ如ク今回ノ要

右本日談判ノ模様不取敢電報ス

一六〇　二月三日　加藤外務大臣　在本邦中国公使会談

我提案ノ趣旨及我決意説明ノ上提案全部ノ受諾方慫慂ノ件

二月三日支那公使来省会談ノ要領

大正四年二月三日支那公使大臣ノ求ニ応シ参事官劉崇傑ヲ伴ヒ来省会談ノ要領左ノ如シ

大臣　今般日置公使ヲシテ貴国政府ニ対シ或要求條項ヲ提出セシメタルカ右ニ関シテハ電報ニ接シ居ラルルコトト信ス

公使　大体ノコトハ電報ニテ承知シ其後書面ニテ詳細ノコトヲ通知シ来レリ

大臣　大体御承知ナラハ夫レニテ可ナリ右條項ハ要スルニ四大項目ヨリ成リ第一ハ山東省ニ関スルコトニテ之ハ戦争ノ結果当然ノコトナリ戦争ノ目的ハ独逸ノ勢力ヲ同省ヨリ駆逐スルニ在リ其目的ヲ達スル為ニハ同国ヲシテ同省ニ於ケル凡テノ権利利益ヲ一モ保有セシメサルニ在リ此点ハ貴

求ハ何レモ全ク当然ノ事項ノミニシテ要スルニ貴国ノ地歩ヲ安固ニシ且貴我ノ関係ヲ良好ナラシメントスルノ目的ニ出デタルモノナリサレハ袁大総統ノ賢明ナル必ス右ノ事態ヲ看取セラレ速ニ全部ニ対シ承諾ヲ表セラルルコト帝国政府ノ信シテ疑ハサル所ナリ吾人ハ之ヲ信スルカ故ニ其貴国政府ニヨリ容ルル所トナラサリシ場合ノコトノ如キハ毫モ考ヘ居ラサル次第ナリ今後交渉中ニハ種々ノ論議モ出ヅルコトナルベキモ袁大総統初メ貴国当局者ニ於テ内心ハ我要求ノ意外ニ寛大ナルニ驚キ居ラルル位ニハ非ズヤト思ヒ居レリ又或ハ御承知ナランガ自分ハ性格上懸引メキタルコトハ至テ出来ザル方ナレハ今回ノ提案ノ如キハ正ニ我要求ノ最小限ニシテ一歩モ譲ルベキ余地ヲ存スルモノニ非ズ又去月十八日要求提出以来貴国当局者ノ為ス所ヲ見ルニ徒ニ時日ノ荏苒ヲ是事トスルカ如ク思ハル陸外交総長ノ新任ニ伴ヒ諸方面ニ対スル訪問接見等ニ多忙ナルコトハ自分ニ於テモ決シテ諒トセザルニハ非ザレドモ若シモ之ヲ名トシテ交渉ヲ永引カセントスルガ如キコトアリトセバ是大ナル誤ナリ交渉永引クトキハ其内容モ追々外間ニ洩レ来ルノ恐アリ閣下モ御承知ナラント存スル通世間ニハ随分突飛ナル議論アリ然ラザル者ト雖今回ノ提案ハ或ハ見テ以テ寛ニ失

スト為ス向モ多カルベシサレバ交渉ノ内容ニシテ漏洩センカ日本ノ国論ハ漸ク沸騰シ国民ハ斯クノ如キ当然有理ナル提案ニ満足セズ一層強硬ニ一層難渋ナル問題ヲ提起スルヲ余儀ナクセントスルニ至ルナキヲ保スベカラズ又貴国政府ニ於テハ或ハ日本昨今ノ政治上ノ状況ニ鑑ミ総選挙ノ結果内閣ノ変更ヲ来スヤモ知ルベカラズトテ交渉ノ延引ヲ期シ居ラルル次第ニハ非ズヤト云フ者アリ自分ハ総選挙ニ於ケル政府党ノ勝利ヲ期シテ疑ハザルモノナレドモ萬一ニモ不幸現内閣ノ顚覆ヲ見ルガ如キコトアルトモ一ト度斯クノ如キ提案ヲ出シタル以上後継内閣ハ要求ヲ増加スルトモ減少スルコトハ萬々之ナカルベシ若シ斯ルコトヲ頼ミトシテ交渉ヲ永引カシムルガ如キコトアリトセバ真ニ思ハザルモ亦甚シト云ハザルベカラス中ニハ閣下ガ右様ノ意見ヲ具申セラレタルナラントノ推測モアリ右様ノコトハ当国ノ事情ヲ熟知シ得ラルル筈ノ閣下ニ於テハ之ナキコトナルヘク、ナクバ結構ナレトモ日清開戦前在日本貴国公使汪鳳藻氏ノ報告カ甚タ其当ヲ得ザリシ結果貴国政府ニ於テ去就ヲ誤リタル実例モアリ萬々一ニモ左様ノコトニテモアラハ斯ル観察ハ直ニ之ヲ改メラレザルベカラズ繰返シテ云フガ今回ノ要求ハ其目的東洋ノ平和日支ノ親善ニ在リ而シテ其内容タル何レモ当然且頗ル寛大ナルモノナレバ貴国当局者ハ必ズ之ニ同意ヲ与ヘラルルコトト信ジ居レリ又情報ニ依レバ袁大総統ハ日本ノ新聞紙カ同大総統ノコトヲ悪シ様ニ云フトテ不平ヲ洩ラサレタル趣ノ処新聞ノ悪口ハ困リタルコトニハ相違ナキモカカルコトヲ気ニシ居リテハ何事モ出来ズ新聞ノ悪口ト云ヘバ自分抔ハ始終色々ノ悪評ヲ蒙リ居レリ然シカカル一身上ノコトヲ懸念シテ国家ノ大事国際ノ要件ヲ左右スルコトハ出来ヌ

公使　御説示ノ次第逐一了承セリ袁大総統ニ於テモ厳ニ日支両国ノ親善ヲ庶幾シ居レバ出来得ル限リ此目的ニ副フ様貴方ノ交渉ニ応ジ尽力セラルルコトナルベシト思考ス陸外交総長ノ就任ニ伴フ交渉ノ遅延ハ誠ニ不得已コトニテ何等他意アルニ非ザルコト自分ノ信ジテ疑ハザル所ナリ只何分ニモ重大ナル案件ノコトナレバ政府内部ノ協議ニ相当ノ時ヲ藉サレンコトハ真ニ希望ニ堪ヘザル次第ナリ次ニ秘密漏洩ノコトハ本国政府ニ於テモ極力之ヲ防ギ居ルモノノ如シ然シ兎角故意ニ交渉ヲ遷延シテ総選挙ノ結果ヲ待ツガ如キコトハ決シテアルベキ筈ナク御言葉ノ如キ御疑モアラバ左様ノコトナキ様稟申ヲ怠ラザルベク況ヤ本使ヨリ総選挙ノ結果ヲ待ツ様具申シタリトノ説ノ如キハ若シ斯ル説アリトセバ実ニ意想外ト云フベク只一笑ニ附シ去ルノ外ナシ之ヲ要スルニ何分ニモ重大ナル案件ナレバ十分熟考ノ余地ヲ与ヘラルル様希望ニ堪ヘザルガ袁大総統モ事主権ニ関係ナキ限リハ可成貴国ノ御希望ニ応ズルノ決心ナルベシ只今本件交渉ニハ只今ヲ以テ好機トナスト云ハレタレドモ袁大総統ニ於テモ自分一己ノ意見トシテモ聊見ル所ヲ異ニシ居リ日支両国ニ交渉ヲ要スル案件ハ先以テ両国間ノ親交ヲ十分ニ回復シ然ル後之ヲ解決スルコト適当ナリト思考セルヲ以テ此事ハ屢松井次官迄陳述シ右親交増進ノコトニハ及バズ乍ラ尽力シ来リタルモ未ダ全ク其目的ヲ達スルニ至ラザルハ遺憾ナリ

大臣　松井次官ヘ累次御話ノ次第ハ同官ヨリ大要報告ヲ受ケ居レドモ閣下ノ意味カ只今述ベラレタル通ナルコトハ只今始メテ承知セリ親交増進ノコトハ素ヨリ賛成ナレドモ其目的ヲ達シ得テ後交渉ヲ開始スルト云フガ如キハ到底云フベクシテ行ハレザル所ナリ口ニ親交ノ増進ヲ唱ヘ徒ニ辞令ヲ巧ニシ宴ヲ設ケ物ヲ贈リ以テ表面ノ接近ヲ装フトモ心裡ニ一点ノ蟠リアランニハ永遠ノ平和ノ如キ到底之ヲ望ムコトヲ得ザルベシ両国間誤解ノ原因タルヘキ案件ヲ一掃シ両国間ニ虚心衷心ヲ披瀝シ得ルニ至リテコソ始メテ親交ノ実

ヲ挙クルコトヲ得ベケレ閣下ノ御意見ハ之ヲ賛成スルコトヲ得ズ又今回ノ要求ハ何分ニモ重大ナリトノコトナリシガ実ハ極メテ当然且温和ナルモノニシテソハ貴国当局者ニ於テモ内心感シ居ラルルコトナラント存ス元来貴国ノ外交ニハ兎角一種ノ定策アリ世ニ之ヲ遠交近攻ト云フ斯クノ如キハ到底貴国延テハ東洋ノ平和ヲ維持スヘキ所以ニ非ズ今我ト結ビ我ニ応シテ速ニ貴国永遠ノ計ヲ立テラレザルニ於テハ貴国内部ノ秩序漸ク乱レ遂ニ収攬スルコトヲ得ザルニ至ルベシ貴国当局者タルモノ深ク思ヲ玆ニ致サザルベカラズ又実ハ自身ノ考トシテハ貴国ニ於テ既ニ一ト度共和政体成リ袁大総統其職ニ在ル以上何等之ヲ変改スルガ如キコトハ甚タ面白カラスト思考ス従テ新政体ニ対シ又ハ袁大総統ニ対シ何等カ革命的企画ヲナス者アランニハ自分ハ之カ防止ノ為出来得ル限リノ努力ヲ惜マザルノ覚悟ニシテ両国ノ間ニ交渉問題ノ永ク横ハル如キコトアリテハ是等ノコトモ自カラ行ヒ難キ次第ナリ大総統ニ於テハ此辺ノ事情ヲモ諒トセラレ度ク又青島税関問題ト云ヒ交戦地域撤廃問題ト云ヒ斯ル小問題ハ今回提出ノ要求サヘ聴カルレバ是亦容易ニ解決ヲ見ルコトヲ得ヘク旁々以テ一日モ速ニ日本ノ要求全部ヲ容レラルルコト最緊要ナリトス又地方ノ将軍ヨリ

日本ノ要求ニ対スル意見ヲ大総統ニ呈出シタリトノ報道モアリ或ハ右ハ大総統ヨリ意見ヲ徴シ若クハ反対ヲ慫慂シ我要求拒絶ノ口実トナサントセラレタルニ非ズヤトモ思ハレ従来ノ貴国ノ遣リ口ヨリ見レバ有リ勝ノコトト存ゼラルル処果シテ然ラバ斯ル小策ハ思ヒ止ラレザルベカラズ各省将軍ノ反対ノ如キ日本ニ於テ些ノ痛痒ヲ感ズルモノニ非ズ公使　遠交云々ノ御話アリタレトモ決シテ第三国ニ援助ヲ求ムルガ如キコトナシ又中央政府ヨリハ自分ニサヘ詳細ヲ報シ越サザル位ナレハ各省将軍ニ提案ノ内容ヲ漏スガ如キコトアル筈ナク況ヤ彼等ヲシテ故ラニ反対意見ヲ出サシメタリト云フガ如キコトハ決シテ之ナシト信ス

大臣　ナクバ可ナレトモ随分アリ得ルコトト信ズ

公使　兎ニ角大総統ハ誠心誠意交渉ノ事ニ当ル存意ナリト思考スルニ付先刻来御述相成タル御疑念ハ何卒之ヲ一掃セラレンコトヲ望ム

大臣　果シテ然ルコトヲ希望ス呉々モ速ニ解決スル様閣下ニ於テモ御尽力アリタシ

公使　敬承セリ

支那政府常套ノ術策ハ寸毫モ帝国政府ヲ動カスベキニ非ザルコト及ヒ今回ノ要求ハ総選挙其他内地政界ニ起ルベキ出来事ノ為メニ何等影響ヲ受クベキモノニアラザルコトヲ十分強ク印象セシメ置キタリ御含迄申添ユ

一六二　二月五日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

在中国仏露両公使ニ我対中国提案ノ要領内話方指示ノ件

第五四号

往電第五二号ニ関シ

二月五日在本邦露仏両国大使ニ対シ豫定ノ通リ内告ヲ行ヒタルニ付在支露仏両国公使ニ対シテモ貴官ヨリ極メテ内密ノ含迄トシテ我要求條項第一号乃至第四号ノ要領適宜内話相成差支ナシ

米国ニ関シテハ国務卿目下旅行中ニテ二月八日頃帰府ノ筈ニ付其上ニテ珍田大使ヨリ国務卿ニ内告ノ都合ナルニヨリ本大臣モ同日頃在本邦米国大使ニ内告ノ筈

一六一　二月三日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

中国側ノ商議遷延策ヲ排シ早急交渉促進方ニ関シ訓令ノ件

第五一号

貴電第五一号ニ関シ

貴官ノ支那当局ト応酬セラレタル所ハ宜キニ適ヒタルモノナル処貴官、御感想ノ通リ支那側ハ談判遷延ヲ図ル底意ナルニ相違ナキニ付貴官ハ陸外交総長ニ対シ本件ハ尋常一様ノ外交問題ト異ル次第ニ付夜ヲ日ニ継ギテモ取急ギ話ヲ進ムルコトニ取計方次回会見ノ節厳重申入レラレ而モ尚談判ノ進捗思ハシカラサルニ於テハ陸総長ヲ差措キ直接袁総統ト会商ヲ遂グベキ意気込ヲモ示サレ極力談判促進ニ努メラレ度シ将又貴電第五一号中専任談判委員任命ノ御意見モ有之処斯クテハ益々交渉ノ遷延ヲ来タスベキ虞アルノミナラズ自然談判ノ実権ガ下僚ニ移ル結果ヲ来タシ甚面白カラサルニ付右ハ見合スコトト致度シ尚貴電第五〇号御来示ノ次第モアリ旁々二月三日陸公使ノ来省ヲ求メ我要求條項ノ大体ヲ説示シテ帝国政府決意ノ鞏固ナル所以ヲ篤ト感得セシメ従テ本大臣宛有吉来電第一七号所載各将軍電稟案ノ如キ

一六三　二月五日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

新中国報ハ馮国璋等ノ対日強硬論ニ対シ中国政府ノ採リタル鎮撫的措置ニ関スル記事ヲ掲載シタル件

第五四号

対支交渉事件ニ関スル当地漢英字新聞ノ論調ハ引続キ強硬ニシテ内ニハ頗ル過激ニ亘ルモノモ尠カラサル所最近新中国報ノ雑報欄内ニ㈠馮国璋張勲等ハ日本今回ノ要求ハ断然拒絶セラレタキ旨中央政府ニ電請シタルニ中央政府ハ之ニ対シ日本ノ要求ハ外間伝フルカ如キ過酷ナルモノニアラス政府ハ之ニ対シ夫レ夫レ方針ヲ決定シ居ルヲ以テ懸念スルニ及ハス云々ト回電シタル由㈡政府ハ在外各国使臣ニ対シ日支間交渉発生シ今ヤ談判中ナリ其関係スル所小ナラサルモ外間ニ伝フルカ如キ甚シキモノニアラス中日国交ハ元親睦ナルコト手足唇歯ノ如シ今回ノ交渉モ平和解決ニ難カラス在外同胞中事実ノ真相ヲ知ラス謡言蜚語ノ為メ惑ハサルヤモ計リ難キニ付此際誤解ナキ様適当ノ措置ヲ採ラレタシ云々ト電報セル由掲載アリタルニ付二月三日高尾ヲシテ

曹汝霖ニ付実否ヲ確メシメタルニ右ハ何レモ事実ナル旨答ヘタル趣ナリ御参考迄

一六四　二月六日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

二月五日第二回会議ニ於テ我提案全体ニ亘リ陳述セラレタル中国側大体ノ意見報告ノ件

第五五号

二月五日午後三時本使ハ外交部ニ赴キ第二回ノ談判ヲ開キタルニ彼我列席員前回ノ通陸総長ハ前回ニ引続キ提案第一号第三條以下各号ニ亘リ大要左ノ意見ヲ開陳セリ

第一号第三條ハ大体ニ於テ提案ヲ考慮スヘキ意嚮ナルモ芝罘瀘県間ノ鉄道ニ付テハ独逸国政府ト取極アリ支那政府ニ於テ該線路ヲ敷設スルニ当リテ外国ノ資本ヲ要スル場合ニハ必ス先ツ独逸ノ資本家ト協議スヘキコトト相成リ居ルニ付此ノ約束ニ牴触セサル範囲ニ於テ商議ヲ試ミタシ第四條ハ提議ニ応シ得ヘキ見込ナルモ支那側ニ修正ノ意見アリ尚提案第一号第二條ハ支那側ニ於テハ絶対ニ協定ノ必要ヲ見ス別ニ支那側ヨリ提議シタキ一條アリ次ニ提案第二号ニ関シテハ南満洲ニ於ケル日本国ノ特別ナル地位ヲ認メサルニアラサルモ現在以上ニ格別締約ノ必要ヲ感セス併シ日本国政府ノ意志ヲ尊重シ何トカ御相談ニ応シタキ考ナリ

同号第一條ハ租借地及鉄道期限延長問題ナルカ元来支那政府トシテハ租借地ノ如キハ無之ヲ希望スルヲ以テ其期限アルモノハ期限満了ノ日ヲ待テ漸次ニ撤廃シタキ考ナルモ只ナラサル日本国ノ希望ナルニ付何トカ（不明）考ナリ租借地期限ニ付テハ旅大両地ハ二十五年南満鉄道ハ三十六年安奉鉄道ハ十五年トナリ居リ各其期限ヲ異ニシ居ルニ付此等逐條審議ノ節支那政府ノ修正的意見ヲ開陳スル積ナリ第二條及第三條ハ南満洲及東部内蒙古トナリ居ルモ東部内蒙古ハ之ヲ除外シ別ニ相談スルコトト致タク是レ南満洲ト東部内蒙古ト其地位ヲ異ニスル関係ヨリ当然ノ事ニ属シ尚南満洲ニ付テ論スルモ全然原案ヲ承諾スルニ於テハ内地ヲ開放シ外国人ノ雑居ヲ認ムル結果トナリ治外法権ヲ撤去シタル暁之カ実行ヲ見ルヘキ主義ノ問題ト将又他外国トノ條約問題ニモ関係アル次第ナレハ篤ト此等ノ点ヲ研究シ相牴触セサル範囲ニ於テ修正ノ上御相談ニ応シタキ意見ナリ第四條ニ付テモ前同断東部内蒙古ヲ除キ商議ヲ試ミタキ考ナリ但シ鉱山採掘権許与ハ機会均等主義ニ牴触セサル様致シタシ

第五條モ亦東部内蒙古ヲ除キ考量シタク同條第二項諸税ヲ担保トシ云々トアルモ諸税トアリテハ余リ広キニ失シ現ニ塩税関税ハ外国借款担保トナリ居ル関係モアルコトナレハ此点ニ付テハ修正意見アリ

第六條モ同様東部内蒙古ヲ除キ原案ノ趣意ニ副フ様考慮スヘク

第七條ハ甚タ乍遺憾原案ヲ考慮スルノ余地ナシ

次ニ第三号漢冶萍公司合辦ノ件ハ元来本事業ハ民間商人ノ事業ニシテ政府ヨリ干渉シテ合辦ヲ強制スルコト困難ナリ縦シ両国政府ニ於テ斯ル事ヲ豫約スルモ民間ノ反対ヲ生スルトキハ事実其実行ヲ期スルコトヲ得ス故ニ本件ハ乍遺憾提案ヲ考慮スルノ余地ナキモノト信ス

次ニ提案第四号ハ支那カ他国ニ其領土沿岸ヲ漫ニ割譲スルカ如キコトハ到底為シ難キ所ナルハ勿論独立国トシテ断シテ斯ル締約ヲ為スヲ得ス

最後ニ提案第五号ハ勧告條件ナルカ其ノ條項多クハ支那ノ主権ニ関係スルモノニシテ殆ト相談ニ応シ兼ヌルモノナリ各項ニ付細論スレハ第一顧問傭聘ノコトハ必要アル場合ニハ支那政府自ラ進ンテ之ヲ実行スヘク従来其実例乏シカラス外国ヨリ強制ヲ受ケテ之ヲ為スコトハ承諾シ難ク第二ハ土地所有権ヲ許スコトトナリ支那ノ領土主権ニ関係スルヲ以テ又第三ハ支那ノ行政権ニ牴触スヘキヲ以テ承諾シ難ク第四軍器購買ノコトハ日本国ハ距離近キコトナレハ価格サヘ廉ナレハ自然ニ其軍器ヲ購買スルコトトナルヘキモ豫メ之ヲ約束スルコトハ困難ナリ将又第五南武南潮南杭鉄道若ハ東三省鉄道布設権ハ主義トシテ外国ニ許ササル方針ナルノミナラス是等鉄道ノ経過スル地点ハ既ニ他ノ外国トノ契約ニ関係モアリ承諾シ難ク第六福建省内ニ於ケル鉄道鉱山港湾等ノ投資ヲ許スコトハ其範囲頗ル広ク関係スル所モ甚タ重大ニシテ且他外国ニ於テモ此ノ例ニ倣ヒ他ノ部分ニ関シ同様ノ要求ヲ為スノ虞モ有之ニ付本項モ如何ナル理由ニ依ルモ同意シ難ク第七ノ布教権ノコトモ支那ハ従来幾多教案問題ニ付困難シタリ膠州湾租借モ教案問題ノ一例ナリ故ニ布教権ハ旧條約ニ依リ各国ニ対シ許シタルモノハ致方ナキモ新規ニハ許ササル方針ナレハ本項モ原案ニハ同意シ難シ

以上ハ本日ノ談判ニ於テ陸総長陳述ノ大要ナルカ本使ハ本日会見ノ方針トシテ論議ニ渉ルコトハ全然之ヲ避ケ勗メテ我提案ニ対スル支那側ノ意向ヲ突止ムルヲ本使ノ目的トシタルヲ以テ詳細ニ亘リ先方ノ意見ヲ確ムルニ由ナク旁々前

述支那側ノ意見ナルモノモ極メテ大体ニ止マリ其ノ主意頗ル明瞭ヲ缺クノミナラス十分駈引進退ノ余地ヲ存シ意見ヲ開陳シタルモノノ如ク従テ膠州湾還附ニ対スル帝国政府ノ意向如何ト将来ニ於ケル我態度如何ニ依リ先方ニ於テハ尚若干譲歩ヲ為ス底意アルモノノ如ク察セラレ是レ第一回談判ノ劈頭ニ於テ膠州湾還附ニ関スル修正的対案ヲ提起シテ我態度ヲ試ミ以テ提案全部ニ対スル意見ノ向背ヲ決セントシ本使カ先方ノ豫期ニ反シ膠州湾還附問題ニ関シ固ク口ヲ緘シ一言モ語ル所ナク提案全部ニ対スル先方ノ意見開陳ヲ迫リタルヲ以テ已ムヲ得ス膠州湾還附ニ関シ我政府ノ意思明カナラサル今日ニアリテハ可成多ク駈引ノ余地ヲ存スル対案的意見ヲ表白シタルハ支那側トシテハ当然トハ云ヒナカラ頗ル巧妙ナル態度ヲ執リシモノト言ハサルヲ得ス而カモ近来外間（内ニハ信頼スヘキ筋モアリ）ヨリ頻リニ我提案ニ対シテハ支那政府ニ於テ出来得ル丈ケノ譲歩ヲ為シ以テ我ト衝突ヲ避クル決心ナルヤノ内報アルニ拘ラス今日迄前後二回ノ正式談判ノ席上ニ於テハ意外ニモ提案第一号第二号ニ対シ幾多ノ修正的條件ヲ附シテ商議ヲ為スノ態度ヲ示スト同時ニ第三号以下ハ殆ト全部不承諾ノ意志ヲ表シタルハ仮令幾多ノ駈引アリトスルモ甚タ意ヲ得サル態度ト認メサルヲ得ス就テハ此ノ模様ニテハ我目的ヲ貫徹スルニハ此末多大ノ努力ヲ用ヒサル限リ余程困難ナルヘキヤニ信セラルルニ付今後ニ執ルヘキ方針ニ関シテハ篤ト熟考ノ上別電ヲ以テ更ニ請訓スルコトトスヘシ尚第一号第二号ニ対スル対案ハ来週火曜日迄ニ先方ヨリ送付シ越ス筈（畢）

一六五　二月五日　神尾青島守備軍司令官ヨリ長谷川参謀総長宛（電報）

北京ヨリ済南将軍巡按使宛密電報告ノ件

二月一日北京ヨリ済南将軍巡按使宛密電ノ要旨次ノ如シ

目下日本ノ提出セル強硬ナル要求ニ対シ北京米国公使ハ多大ノ同情ヲ民国ニ寄セ談判若シ成ラスンハ米国ハ資金ヲ供給スヘキヲ以テ最後ノ処置ニ出ヅベシト勧告シ来レルモ政府ハ此際日本ト事端ヲ啓クヲ好マス目下慎重ニ日本ノ要求ヲ審議シツツアリ然レトモ中華民国又日本ノ過度ナル要求ヲ満足セシムル能ハス勢ヒ最後ノ処置ニ出ヅル場合ナキニ非ズ故ニ将軍巡按使ハ宜ク此意ヲ体シ特ニ山東ニ於ケル日本人ノ動静意嚮ニ著意シ速ニ詳細其意見ヲ上申スヘシ

張勲並ニ江蘇、江北、及浙江ノ各将軍ハ密電ヲ政府ニ発シ刺激セル為メ二月二日大総統ヨリ在済南将軍ニモ政府ノ処置ニ従ヒ決シテ軽挙盲動スヘカラス交渉破裂ノトキハ政府機ヲ失セス云々ノ訓電ヲ発セリト

一六六　二月六日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

我提案ニ対スル参政院ノ態度ニ関スル件

第五六号

二月四日船津カ二三参政ヨリ聞込ミタル処ニ依レハ二月四日参政院ハ定員七十名中出席者三十九名今回土地整理ノ為新設セラレタル経界局ノ件ニ関シ討議シタル後趙惟熙ハ目下進行中ナル日支交渉ノ内容ニ関スル質問ノ動議ヲ起シタルニ参政院ハ目下立法機関タルノ資格ヲ取消サレ居ルニ付政府ニ対シ右ノ如キ質問ヲナスノ権限ナシトノ議論出デ種々討論ノ結果曾テ前任孫外交総長ハ今後外交上ニ関シ疑問アル場合ハ其都度代表者ヲシテ外交部ニ御尋アラバ差支ナキ限リ説明ノ労ヲ執ルヘシトノ口約アリシニ付今回ハ右ノ方法ニ従ヒ一応事情ヲ問合ハスル方宜シカラントノ説ニ一致シ汪大燮（副院長）聯芳二名ヲ代表者ニ推薦シ前述ノ手続ヲ実行シタル上更ニ今後ノ方針ヲ攻究スルコトニ決定シタル由尚日本今回要求ノ内容不明ナルヲ以テ参政院ノ之ニ対スル態度モ未ダ従テ不明ナレトモ若シ支那側ノ主権侵害サルル如キ條項アラハ参政院ハ極力反対ノ態度ニ出ヅル筈ナリトノコトナリ

右御参考迄

一六七　二月六日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

中国側態度ニ鑑ミ更メテ我決意ヲ明示スル為厳重警告ノ措置ヲ執ラントスルニ付請訓ノ件

第五七号

帝国政府今次ノ提案各号ニ対スル支那政府ノ意嚮ハ大体往電第五一号及第五五号ニテ御承知ノ通ナル所要スルニ支那側ニ於テハ第一号及第二号ニ付テハ商議ニ応スル意ナキニアラサルカ如キモ其ノ修正意見ナルモノハ実質ニ於テ我提案ト著シク懸隔アリ殊ニ第一号ニ付第一條ヨリ膠州湾ヲ除外シ第二條ヲ全然削除セントシ第二号ニ付第一條ノ延長期

限ヲ短縮シ第二條以下ニ於テ東部内蒙古分離説ヲ持出シ居住権土地所有権鉱山採掘権ニ関シ條約(?)ノ機会均等主義等ヲ云為シ且第七條ヲ削除セント欲スルカ如キ甚タ其意ヲ得サル所ナルノミナラス第三号乃至第五号ニ対シ不同意ヲ唱ヘタルニ至リテハ誠ニ言語道断ト謂フノ外ナシ支那側ノ態度右ノ如クナルニ於テハ此ノ際我方ニ於テ十分鞏固ナル決意ヲ示ササル限リ談判ノ進行ヲ見ル事困難ト認メラルルニ付本使ハ来ル月曜日ヲ以テ特ニ外交総長ヲ往訪シ二月五日会見ノ結果ハ委曲帝国政府ニ電報シ置キタル処閣下ヨリ帝国政府ニ於テハ支那政府カ日支国交ノ大局ニ顧ミ我提案ニ対シ必ス誠意ヲ以テ商議ニ応スヘシト確信シ居リタルニ拘ハラス今回表示セラレタル意向ハ全然帝国政府ノ期待ニ反シ如何ニモ意外千萬ニ堪ヘス支那側ヨリ火曜日迄ニ提出スヘキ対案ナルモノノ内容モ想像ニ難カラサル処之ヲ考量ニ入レテ談判ノ進行ヲ図ルカ如キハ到底帝国政府ノ承諾シ得サル所ナルヲ以テ右ハ断シテ接受セサルヘキコトヲ明言シテ更ニ支那側ノ猛省ヲ促シ速ニ十分誠意アル態度ヲ示スヘキコトヲ求メ同時ニ支那政府ニ於テ若シ愈々誠意ナキ対案ヲ提出スルカ如キコトアラハ容易ナラサル事態ヲ惹起スルニ至ルヘキ旨厳重警告方訓令ニ接シタル趣ヲ申入ルル積

ナリ御異見アラハ至急御電示ヲ請フ

一六八　二月七日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

中国政府ニ厳重申入方請訓ニ対シ回訓ノ件

第五六号

貴電第五七号御申出ノ通リ支那当局ニ申入ラレ差支ナシ

一六九　二月七日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

東部内蒙古ニ関スル中国側ノ見解ニ対スル反駁事由ヲ説示ノ件

別電　同日加藤外務大臣発日置公使宛電報第五八号　東部内蒙古ト南満洲トノ関係ハ密接不離ナル件

第五七号

貴電第五五号ニ依レハ支那側ニ於テハ東部内蒙古ハ南満洲トハ其地位ヲ異ニストノ理由ノ下ニ之ヲ除外セムコトヲ主張シ居レル趣ノ処(一)右両地方カ密接ノ関係ヲ有シ分離スヘカラサルモノナルコトハ別電第五八号ノ通ニ有之又(二)南満洲ノ外東部内蒙古ニ対シテモ我ニ於テ特殊ノ関係ヲ有シ居ル次第ハ曩ニ六国銀行団体規約締結問題ニ際シ我方ヨリ関係国政府ニ申入レ結局同団体会議録ニ於テ右特殊関係ニ関スル留保ノ記載ヲ見ルニ至リタルモノニシテ(三)次テ客年初メ英支間ニ北京赤峰間鉄道借款談進行シ居ルヤノ風説アリタル際同年往電第一一八号ノ通英国政府ニ申入レ置タル次第モ有之ニ付支那側ノ態度如何ニ依リテハ以上ノ趣適宜引用セラレ差支ナシ尤右第一一八号中日露協約ニ関スル部分ハ引用ノ限リニアラサルハ申迄モナキ義ナリ為念申添ユ(四)大正二年十月五日成立ノ満蒙鉄道借款ノ由来竝ニ其成立ノ成行ニ顧ミルトキハ支那政府ニ於テ東部内蒙古ニ於ケル日本ノ地位ノ特殊ニシテ其南満洲ト分離スヘカラサルコトヲ認メ居ルヲ察知シ得ヘク又錦州朝陽竝北京赤峰鉄道問題ニ関シ大正三年六月十三日本省ヨリ公表シタル state-ment 中ニ帝国カ南満洲及東部内蒙古地方ニ於テ夙ニ特殊ノ利益ヲ有シ居ル旨ヲ言明シタル際支那政府ニ於テ右ニ付何等疑問ヲ挟マサリシハ同政府ニ於テ右地方ニ対スル帝国ノ特殊地位ヲ黙認シタル一證トモ見ルコトヲ得ヘシ尤モ東部内蒙古除外ニ関スル支那側ノ主張ハ或ハ一時ノ懸引ニ出テタルモノナルヤモ計リ難キモ右ノ事実貴官御参考迄電報

ス尚我提案第二号（甲案）第二條及第三條ハ露暦千九百十二年十二月二十一日ノ露蒙協約附属通商議定書第一條及第六條ノ趣旨ニ倣ヒタルモノナルハ御承知ノ通リニシテ即チ支那ハ露国ニ対シテハ外蒙古ニ関シ既ニ承認セル所ニ係リ又支那政府ニ於テハ独リ南満洲ニ限リ右第二條及第三條ノ趣旨ヲ承認セントスル口吻ノ如クナルモ別電第五八号ノ通リ南満洲及東部内蒙古両地方ノ密接ナル関係ニ顧ミ斯ノ如ク分離スルコトハ事実到底不可能ナリト認ム之亦為念申進ス

（別　電）

二月七日加藤外務大臣発日置公使宛電報

東部内蒙古ト南満洲トノ関係ハ密接不可分離ナル件

第五八号

東部内蒙古ハ地理上南満洲ト分離スヘカラサル一地域ヲ形成シ且歴史上、行政上、経済上竝ニ交通上互ニ密接ナル関係ヲ有ス元来奉天省ノ西部ハ其開墾進歩シテ移住民ノ数増加スルト共ニ漸次内蒙古ヨリ同省ノ行政区域ニ編入セラレタルモノ尠カラス現ニ洮南府設置ノ如キ近年ノ事実ニ属ス

ルヲ以テ今後ニ於テモ開墾ノ進歩ト共ニ東部内蒙古ニ屬スル地域カ随時奉天省ノ行政区域内ニ置カルルニ至ルヘキハ之ヲ豫想スルニ難カラス斯ノ如キ事情アルヲ以テ両地域間ノ境界ノ如キモ甚タ明確ナラサル状態ニアリ

一七〇　二月八日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

交渉ハ彼我ノ主張ヲ充分討議シ双方ノ意思ヲ明白ニスルノ要アルニ付万全ノ方法ヲ尽サレタキ旨訓示ノ件

第五九号

貴電第五五号ニヨレハ二月五日会見ノ節支那側ノ表明シタル意嚮ハ必スシモ貴電第五七号御申述ノ如キ甚タ其意ヲ得サル言語道断ノ義トモ認メ難キコトカト存セラレタルモ貴官ニ於テハ現場ニテ獲ラレタル印象ニ基キ右様ノ次第ト思惟セラレシモノト信シ貴電第五七号ニ対シテハ取敢ヘス往電第五六号ヲ以テ貴見ノ通リ取計ハレ差支ナキ旨回訓ニ及ヒ置キタル次第ナル処元ト本交渉ハ僅ニ二回ヲ重ネタルノミニシテ未タ雙方共充分ニ其主張ヲ闘ハシ慎重ナル研究ヲ加ヘタル義ニアラサルヲ以テ俄ニ談判ヲ不調ニ帰セシムヘキ理由モ無ク従テ我方ヨリ交渉破裂ノ機ヲ促進スヘキ場合ニハ未タ立至リ居ラサルモノナリ故ニ交渉ヲ捗取ラシメントスル目的ノ為メニ貴電第五七号ノ如キ警告ヲ与フルコトハ固ヨリ一ノ辦法タルニ相違ナク又此警告ヲ与ヘタルニ拘ハラス支那側ニ於テ極メテ不誠実ナル態度ニ出デ実際ニ於テ殆ト我要求全部ヲ拒絶スルニ等シキ対案ヲ提出スルカ如キコトアラバ該対案書類ヲ貴官ニ於テ受理セラレザルコトモ亦差支ナシト雖モ先方ヨリ対案ヲ提出シタル場合ニハ貴官ハ篤ト之ヲ査閲セラレ先方主張ノ理由ヲ充分ニ聞取リ駁撃スヘキ点ハ遺憾ナク駁論セラレ先方対案ノ要領及理由ハ例ニヨリ当方ニ電報アリタシ是レ迄ノ御報告中支那側ノ修正ニシテ理由ノ不明ナルモノアリ例ヘハ貴電第五一号ニヨレハ支那側ハ第一号第一條ニ対シ修正案トシテ膠州湾ヲ除カントストノコトナルモ右ハ如何ナル理由ニヨル次第ナリヤ若シ先方ニ於テ日本ハ当然膠州湾ヲ支那ニ還附スルモノト思惟シ居ルナラハ之レ大ナル誤ニシテ日本ハ独逸ニ対スル最後通牒ノ外未タ嘗テ何レノ方面ニ向テモ膠州湾ヲ手離スヘキコトヲ言明シタルコトナキ義ハ貴官ヨリ篤ト先方ヲシテ諒解セシメ置カレタク其他雙方ノ意志ヲ明ニスルコトニ於テ萬遺憾ナキヲ期セラレタク談判ノ模様ニヨリ若シ外交総長ニシテ要領ヲ得ザルカ又ハ誠意ヲ缺クカ如キ嫌アリトセバ更ニ袁総統ト直接交渉ヲ要求セラルルガ如キ手段ニ出デラルルコトモ然ルヘシ何レニセヨ臨機貴官ノ裁量ニヨリ寛厳宜シキニ適スルノ方法ヲ尽クサレタシ其辺ノ事萬事御如才ナキコトトハ信スルモ為念申進ス

一七一　二月八日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

我提案ノ内容漸次風説ニ上レル情勢ニ付報告ノ件

第五九号

二月八日「モリソン」ガ亀井ニ語リタル所ニ依レハ在当地タイムス及デーリー、テレグラフ通信員ハ何レモ両新聞ヘ我重要提案ノ内容ヲ報道スルト同時ニ強硬ナル反対意見ヲ発表シ日本国政府カ今回ノ対支要求中ニハ何等各国既得ノ権利ヲ侵害スルモノ無之ト声明シタルニ拘ハラス実際一月十八日本使カ袁世凱ニ提出ノ要求二十一箇條中ニハ揚子江流域ニ於ケル鉄道布設ニ関スル要求モアリ明ニ英国ノ利益ヲ侵害シ居ル旨打電セル趣ナリ「タイムス」其他ニ現ハレタル右電報ノ内容ハ既ニ在英大使ヨリ電報アリタルコトト察セラルルモ実際其内容ハ「モリソン」ノ言フ所ノ如クナルヤ否ヤハ本使ニ於テ判定ノ限ニアラザルモ各方面ヨリノ情報ヲ綜合スルニ我提案第五号ノ内容ハ当地英国公使ニ於テモ薄々嗅付ケ居ルモノノ如ク現ニ二月八日同公使ヘ機密第一九号貴信ヲ以テ御送付ノ要領書写ヲ手交シタル際ニモ同公使ニ於テハ風説ニ信ヲ措ク次第ニハアラザルモ福建省及揚子江畔ニ関係セル要求モアルヤニ伝フトテ頗ル遅疑ノ態度ヲ示シタルガ本使ハ世間ニテハ土地割譲迄モ要求シタル趣風評シ居ル位ナリト胡麻化シ置キタリ将又二月七日貴電第五四号ノ御趣旨ニ依リ提案第一号乃至第四号ノ要領ヲ露国公使ニ内話シタル際風説ニハ要求二十一條ヨリ成リ内ニハ福建省及揚子江流域ニ関係スルモノアリト伝フルガ右ハ無根ナリヤト問ヒタルニ付懸案ノ或モノヲ此際解決セントノ希望アリ夫レ等ヲ誤伝セルモノナラント軽ク答ヘ置キタルガ諸般ノ事情ヨリ察スルニ我提案ノ内容ハ全部或方面ニ分リ居ラザルヤト信ゼラルル点ナキニアラズ従テ自然提案第五号ノ英国政府ニ秘セラレ居ル事情モ英国側ニ推知セラルルニ至ルヘシト懸念セラル右報告旁御参考迄

尚序乍ラ「モリソン」ハ「デーリー、テレグラフ」ノ北京電報ハ censor ノ為没書セラレ掲載セラレザルヤニ伝承セリト附言シタル趣ナリ

一七二　二月八日　在済南林領事ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

我対中国提案ニ関シ東亜和平維持会開会ニ付報告ノ件

第一五号

二月七日東亜和平維持会開会集マル者約五十名

㈠　堅ク日本ノ要求ヲ拒絶シ並ニ国民ノ研究ニ資センカ為メ要求條件ノ公表方ヲ政府ニ電報スル事

㈡　各省ニ檄ヲ飛シ協力電奏ヲ求ムルコト

㈢　在山東外人ト聯合シ公論ヲ守持スル事等ヲ議決シ基督教青年会長徐某及前大東日報主筆葉春墀ヲ其代表者トシテ運動ノ為メ不日上京セシムル筈ナリ時局ニ対スル当地輿論ハ割合ニ激烈ナラズ新聞紙ノ論調亦官憲ノ取締宜シキヲ得テ過激ナラサルモ上下一般我国ニ対スル感情ハ決シテ良好ナラス先月当地無線電信ノ移転及我憲兵ノ停車トシテ北京ニ赴キタル前山東省議会議長張公制、前参議院議員安鵬東、山東日報社長馬官敬ノ三名ハ親シク徐国務卿及孫外交総長ニ面謁シ種々懇陳スル所アリタルト同時ニ言論界ニ向テ熱心ニ運動スル所アリ隅々近日日支交渉事件ニ関スル世論騒然タルヤ安鵬東独リ北京ニ留リ張公制（介礼）馬官敬二人ハ本月三日当地ニ帰リ直チニ各方面ニ運動ヲ試ミ昨七日当地教育会々場ニ於テ和平維持会有志会ヲ催シ来会スルモノ教育、商務及進歩党三界ノ人物ニシテ其数約五十ニ達セリ而シテ席上

㈠　政府ニ電致シ日本ノ要求ヲ堅拒シ並ニ交渉條件内容ノ発表ヲ求ムル事

㈡　本件実行ニ関シ各省各界ニ照会シ協力電争スル事

㈢　山東ニ於ケル日本人以外ノ諸外国人ト聯合シテ公論ヲ主持スル事

ノ三項ヲ議決シ同時ニ馬官敬ヲ挙ケテ右電文起草者トナシ商会、公民、教育ノ各界中ヨリ一人ヲ選ンテ正式公文ノ起草ヲ依嘱スルコトトシ尚ホ徐基督教青年会長及山東商業専門学校々長ニシテ進歩党員タル葉春墀ヲ本件外交代表者ニ挙ケタリ

又商務総会側ニアリテハ去ル一月中我兵支那人銃殺ニ関

場構内支那人家屋徴発ノ際ノ如キ商人中ニハ日貨抵制ヲ主張シタルモノスラ有之タル情況ナリ

北京へ電報セリ

一七三　二月八日　在済南林領事ヨリ　加藤外務大臣宛

時局ニ対スル中国側ノ対日行動ニ関シ報告ノ件

公信第一三号　（二月十五日接受）

今回ノ時局ニ関シ当地紳商カ場所柄兎角排日傾向ヲ有シ種々運動セルコト有之次第ハ昨年十二月九日機密第十二号「山東郷紳ノ排日運動ニ関スル件」並ニ本年一月附公第十八号「我兵支那人銃殺ニ関シ済南商務総会ノ決議ニ関スル件」ヲ以テ委細及報告置候通ニ有之候処最近所謂日支交渉ニ関シテハ場所柄トシテハ新聞ノ論調等寧ロ意外ニ穏カナリシカ支那上下官民ノ輿論沸騰ノ結果当地民論モ漸次其影響ヲ蒙リ二月八日附往電第一〇号報告ノ通リ再ヒ東亜和平維持会ノ開会ヲ見排日的色彩濃厚ヲ加ヘ来リ候今左ニ其模様ノ大要ヲ記述致候間御査閲相成度此段及報告候　敬具

昨年十二月中当地東亜和平維持会ノ決議ニ基キ交渉代表シ決議ヲ以テ農商部ニ対シ強硬交渉方電報ヲ発シタル以来総理張肇詮（進歩党員）ハ和平維持会並ニ進歩党ノ諸員ト聯合シ内密ニ排日的画策ニ力メツツアリタル折柄過日我軍カ商埠地内ニ無線電信機ヲ建設シ且ツ商埠大馬路ニ沿ヘル支那民屋ヲ無償没収シ憲兵派出所ニ充ツルノ事アリタルヲ以テ張ハ憤慨措ク処ヲ知ラス同志両三人ト共ニ蔡巡按使ヲ往訪シ日貨抵制ヲ以テ日本軍ノ不法行為ニ報ヒント諮リ巡按使ヨリ厳斥セラレタル事実アル趣ナルカ之ト前後シ青島商務総会総理ニシテ独商禅臣洋行買辦及悦来公司経理ヲ兼ネタル丁敬臣モ亦独逸人ノ指嗾ニヨリ目下北京ニ赴キ全国商界聯合ノ上飽迄日本ノ要求ヲ拒絶セシムル為メ政府ニ肉迫セントスル計画ヲ抱キ百方運動中ナリト聞ケリ官辺ニ於テハ靳将軍カ各省将軍ト聯合シ日支交渉ニ関スル月並的ノ電報ヲ袁大総統ニ致セル外特記スヘキモノナク蔡巡按使ハ尤モ穏和公正ノ意見ヲ持シ居ルカ如シ惟タ前警察庁長安仁ハ安鵬東ノ甥ニシテ由来本邦ニ対シ好感ヲ有セサリシ折角過般突然革職セラレテ以来益々本邦ニ悪感ヲ抱キ目下北京ニ於テ同郷進歩党員ト連絡シ極力排日運動ニ従事シ居レリト云フ

一七四　二月九日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

中国側ノ誠意ナキ態度ニ基ク対案ハ受理シ得ザル旨陸外交総長ニ厳重申入ノ件

第六〇号

貴電第五六号ニ関シ二月八日外交総長ヲ訪問シ往電第五七号後段ノ趣旨ヲ申入タルニ陸ハ頗ル狼狽セル態度ヲ以テ支那政府ニ於テハ帝国政府ノ提案ニ対シ慎重ナル考量ヲ加ヘ現ニ本日総統府ニ於テ各総長会議ノ上対案ヲ議了シ愈々約ノ如ク明日本使ニ送付スル手筈トナシ居ル次第ニ付是非共接受アリタシト申述ベタリ依テ本使ヨリ帝国政府ニ於テ前述ノ如キ訓令ヲナスニ至リタルハ本使ヨリ二月五日ノ会見ニ関スル詳細ナル報告ニ接シ打合ノ為送付セラルヘキ対案ノ内容ヲモ推定シ篤ト考慮シタル結果ト確信スルヲ以テ右訓令ニ反シ該対案ヲ受理スルガ如キハ到底為シ得ザル所ナル旨ヲ極メテ厳格ニ言明シタル処陸ハ今回帝国政府ヨリ提出セラレタル要求ハ支那ニ取リ甚タ苦痛トスル所ナルモ可成之ニ応シ度キ趣旨ヲ以テ先ツ帝国政府ノ最モ重キヲ置カルルモノト認メタル第一号及第二号ニ関シ十分考量ヲ加フル事トシ即チ第一号ニ対シテハ現ニ支那カ独逸国ト友好関係ニアルニ拘ラス大体同意スル事ニ決シ且第三條第四條ノ如キ全然新規ナル事項ニ付テモ商議ニ応スルコトトシ又第二号ニ対シテモ第七條ヲ除キ出来得ル限リ譲歩スル覚悟ニテ已ニ大体ノ意嚮ヲ表明シタル次第ナルニ付是非共右両号ノ対案ヲ受理セラレタキ旨繰返シ申述ヘタリ之ニ対シ本使ヨリ支那側ノ表明セラレタル意嚮ナルモノハ第一号及第二号ノ各章ニ亘リ種々ナル注文又ハ削除ヲ希望シ第三号以外ハ全部不同意ト云フニアリ如何ニモ彼我ノ間ニ著シキ懸隔アリ到底斯ル程度ニテハ商議ヲ進行セシムル見込ナク従テ此場合対案ヲ受理スルモ事ニ益ナシト認ムル次第ニ付充分誠意ヲ以テ再考ノ上速ニ商議ノ基礎トナシ得ルカ如キ対案ヲ提出セラルルコト可然旨重テ説示シタルニ第三号以下ニ対シテハ一号二号商議ノ傍再考スヘキニ依リ前約対案丈ハ受理セラレタキ旨頻ニ懇願セリ本使ハ之ヲ斥ケ支那政府ニ於テ此際再考ノ事実ヲ具体的ニ表明セラレタル上ナラテハ商議ヲ進メ難キ旨反覆警告ヲ与ヘタル上帰館セリ前記本使ノ言明ハ陸ニ深大ナル印象ヲ与ヘタル様感セラレタリ

一七五　二月九日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

談判開始以来ノ彼我ノ態度ニ関シ報告竝我方譲歩ノ限度及膠州湾還附問題ニ付請訓ノ件

第六一号

貴電第五九号御訓示ノ次第委曲了承ス本件交渉ニ関シテハ当初ヨリ慎重事ニ当リ万遺算ナキヲ期シ居ルヲ以テ此点ニ付テハ特ニ貴意ヲ安ゼラレンコトヲ祈ル元来本使ハ貴電第四一号第四四号第五一号等ノ趣旨ニ依リ今回ノ談判ハ我政府ニ於テモ神速且強硬ニ之ヲ進捗シ以テ我主張ノ貫徹ヲ期セラルル次第ト了解セルヲ以テ談判開始以来此見地ヨリ著々折衝ヲ重ネ来リタル次第ハ疾ク已ニ御承知ノコトト信ス従テ談判ノ進行中ニハ場合ニ依リテハ恫喝モ必要ナルヘク又駈引モナサザルベカラザルコトアルハ申迄モナキ義ニシテ現ニ先方ガ初ヨリ尠カラザル駈引ヲ用ヒ居ルコトハ本使夙ニ之ヲ看破シタル所ナルヲ以テ談判早々ヨリ甚シキ駈引アル先方ノ対案ニ執リ合ヒ居リテハ徒ニ時日ヲ遷延スルノミニテ甚タ面白カラサルヲ以テ多少ハ強硬ナル態度ヲ装ヒテモ先方ヲシテ可成速ニ我提案ニ近キカ若クハ相当考量ヲ加ヘ得ル程度ノ対案ヲ提出セシムルコト最モ肝要ト考ヘタルニ付実ハ往電第五七号ノ通稟請ニ及ヒタル次第ナリ其結果ハ不取敢往電第六〇号ノ通リ我政府ノ強硬ナル態度ヲ十分深ク先方ニ印象シ得タリト信セラルルノミナラス今後ノ交渉上有益ナル効果ヲ収メ得ルコトナラントト豫想ス

尚第一第二回談判ノ模様ハ既電ノ通先方ニ於テハ各号 en bloc ニ同意スルコトハ執拗ニ反対シ飽迄逐條審議ヲ主張シ居ル処第一回談判ノ節本使ニ於テ強硬ニ我主張ヲ主張支持シタル結果第二回会見ニ於テハ提案全部ニ対シ先方ノ意向ヲ表示スルコトニ漸ク納得シタル次第ナリ而カモ今日迄得タル本使ノ印象ニ依レハ en bloc ニテハ到底同意ス間敷ク結局逐條審議ニ移ルノ已ムヲ得サルニ至ルヘシト懸念セラル従テ先方対案ヲ受理シ逐條審議ニ入ルコトヲ承諾スル前ニ於テセメテ我提案ノ七八分通ニ対シ主義ニ於テ同意ヲ表セシメ置クコトハ豫テ御電訓ノ en bloc 主義ニ近キ一ノ方法ナランカト思考ス兎モ角目下此ノ方針ニテ提案ニ対シ七八分通リ譲歩シ来ル迄ハ逐條審議ニ入ルコトハ絶対的ニ避クル考ニテ折衝シ居ル次第ナリ現ニ昨八日陸総長ト会見ノ際ニモ本使ハ我提議ハ支那側ノ意向トノ懸隔余リニ甚シク殆ント提案ノ大部分ヲ拒絶シタル程ノ有様ニ

テハ到底商議ニ取懸ルコトヲ得サルニ付提案全部ニ於テ今一層誠意ヲ以テ譲歩的態度ヲ具体的ニ表示スルニアラザレバ部分的商議ヲ進ムルモ無効ナルコトヲ切言シ十分ナル再考ヲ促シ置キタル次第ニ付右御含置ヲ請フ

尚追々談判ノ進行スルニ連レ左ノ事項ニ関シ豫メ何分ノ御訓示ヲ得置キタシ

㈠　萬一ノ場合ニ処スルタメ我ニ於テ譲歩シ得ヘキ終局ノ限度ヲ各号各條ニ付キ成ルヘク明確ニ承知シ置キタク

㈡　将又膠州湾還附ニ関スル閣下御所存ノ程ハ豫テヨリ十分ニ承知シ居ル次第ナルモ同地還附ノ事ハ目下我方ノ唯一ノ代償條件トモ見ルベキモノナレハ之レニ関スル我カ意嚮ヲ明確ニ先方ニ示スコトハ談判進行上最モ必要ノコトナルベシト信ス若シ此ノ点ニシテ明カナラザルニ於テハ先方ニ於テモ何時迄モ我カ誠意ヲ疑ヒ十分胸襟ヲ披瀝シテ我提議ヲ考慮スルノ態度ニ出デザルベク旁適当ノ時期ニ至リ第六号ノ意嚮ヲ明言シ同時ニ帝国政府真意ノ在ル所ヲ問接ノ方法ヲ以テ先方ヘ通スルコトヲ本使ノ裁量ニ一任セラレタシ尤モ自由裁量ヲ本使ニ与ヘラルルモ本使ニ於テハ不用意ニ本件ヲ「コンミット」シ我方ニ不利ヲ来スガ如キコト萬々之レナキコトハ十分御承知置ヲ請フ

一七六　二月十日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

曹汝霖来訪シテ中国側対案ノ受理方懇請ニ付報告竝尚一回警告申入ニ関シ請訓ノ件

第六三号

往電第六〇号ニ関シ二月九日曹汝霖総長代理トシテ本使ヲ来訪シ昨日申出デラレタル日本国政府ノ意嚮ハ飽迄之レヲ尊重シ篤ト考量ヲ加ヘタル結果既ニ協議ニ同意セル第一号及第二号ノ外第三号第四号ヲモ協議ニ応スルコトニ決定シタルニ付支那側ノ誠意ヲ諒トシ会議ヲ継続セラレムコトヲ望ム旨ヲ申出タルニヨリ本使ハ試ミニ第三号第四号ノ内容ハ如何ト反問シタルニ曹ハ第三号ニ付テハ主義上合辦経営ヲ是認スヘシトノ意見ニテ第四号ハ之レヲ日本国ニ対スル約束トセス支那政府自カラ中外ニ宣言スルノ形式トシタキ積リナリト答ヘ第五号ハ如何トノ本使ノ問ニ対シ曹ハ同号ニ列挙セル各項ハ何レモ支那政府ノ立場ニ於テ同意ヲ難シトスル事項ノミナレハ遺憾ナカラ商議ニ応シ難シ此ノ点ハ切ニ諒恕アランコトヲ望ム旨ヲ繰返シ斯ル次第ナレハ差当リ準備整ヒ居レル第一号及第二号修正案ヲ送附スヘキニ付受理セラレタク第三号ハ出来次第送附スルコトトシ第四号ハ対案ノ必要無之キ性質ノモノナレハ本日口頭ヲ以テ申述ヘタル次第ヲ聴取リ置カルルニ止メタシト云ヘルニ付本使ハ貴国政府カ帝国政府ノ警告ニ重キヲ措キ一応考量ヲ遂ケラレタル次第ハ之ヲ諒トスルモ第三号第四号共ニ満足ノ案トハ云ヒ難ク殊ニ第五号全部ヲ依然排斥セラルルニ至リテハ警告以前ノ態度ト格別差違アルヲ認メス貴国政府ニシテ真ニ和衷協商ノ実ヲ挙ケントノ誠意ヲ有セラルルナラハ更ニ進ンテ第五号全部ノ協議ニモ応スヘシトノ意志ヲ表明セラルヘク然ラスンハ帝国政府ノ思惑果シテ如何アランカト懸念セラルト述ヘ同号ノ内容ニ亘リ支那側ニ於テ容易ニ応諾シ得ヘシト認メラルル二三條項ヲ指摘シテ問答ヲ試ミタル後更ニ進ンテ第一号第二号修正案ナルモノハ果シテ第二回会議ニ於テ発表セラレタル趣旨以上ニ進捗セルモノナリヤト切込ミタルニ曹ハ幾分進歩セルモノナリト曖昧ニ答ヘ第五号ニ至リテハ是非共撤回セラレタシト懇請シテ止マサルニ付本使ハ既ニ帝国政府ヨリ我提案全部ニ対シ貴国政府ノ誠意アル考量ヲ促スヘシトノ厳重ナル訓令ニ接シ居ル以上此目的ニ副ハサル限リハ本使一己ノ裁量ニヨリ何トモ即答シ難シ将又修正案ノ受理如何ニ付テモ矢張同様ノ始末ナレハ兎ニ角貴官来談ノ次第ヲ政府ニ電報シ何分ノ訓令ヲ仰クコトトスヘシ夫レ迄ハ対案ノ送附ヲ差控ヘラレタシト求メ曹ハ之ヲ諾シテ引取レリ右様ノ次第ニ付支那側ノ態度ハ前回ニ比シ幾分譲歩シ来リタルモノト見テ差支ナカルヘキ乎是レ支那側ニ於テ帝国政府ノ態度意外ニ強硬ナルト又日本国ニ出兵ノ準備整ヒ居レル旨ノ電報ヲ陸公使ヨリ入手シタルヤノ風説モアリ是等ノ為メカ漸ク事態ノ重大ナルヲ自覚シタルモノト見エ昨今両日ニ亘リ総統府内ニ於テ遽ニ評議ヲ凝シ急ニ譲歩的意嚮ヲ示シ来リタルモノト信セラル従テ本日曹ヨリ申出ノ次第ヲ取リ上ケ商議ヲ開始スルニ於テハ却テ支那側ニ安心ヲ与フルノ機会ヲ与ヘ再ヒ支那一流ノ遷延策ヲ講スルニ至ラシムルモ保シ難ク旁目下支那政府ニ於テ不安ノ念ヲ抱ケルノ時期ヲ利用シ我方ヨリ今一回強硬ナル態度ヲ示スニ於テハ独リ談判ノ駈引上有利ナルノミナラス第一号第二号ニ対シテハ更ニ進ンテ相当譲歩ヲ示シ又第五号ニ対シテモ大体商議ニ応スヘキヤニ思考セラルルヲ以テ本使ハ更ニ帝国政府ノ訓令トシテ今一回

「第一号第二号ニ対スル対案カ原提議ト甚シキ懸隔アルニ於テハ到底之ヲ受理スルコト難ク次ニ第五号ニ対シテハ主義上商議ニ応スルノ態度ヲ示スノ要アル旨」ヲ警告シ重テ考量ヲ廻ラス事支那側ノ為得策ナルヘキヲ説明スルコトト致シタシ何分ノ義御電訓ヲ請フ

一七七　二月十日　加藤外務大臣ヨリ在奉天落合在上海有吉各総領事宛（電報）

対中国交渉ノ内容ニ関シ必要ノ場合適宜言明差支ナキ旨訓令ノ件

第七号（奉天宛）
第二五号（上海宛）

帝国政府ハ今回支那政府ニ対シ山東問題満蒙問題其他一両件ニ関シ交渉ヲ開始シタル処右交渉ノ内容ハ何レモ門戸開放機会均等ノ主義ニ何等抵触スル所ナキハ勿論毫モ他国ノ既得権利ヲ侵スコトナク且飽迄支那ノ領土保全ヲ目的トスルモノナルニ付必要ノ場合ニハ貴官ヨリ適宜右ノ趣言明相成差支ナシ

○奉天宛ニハ「哈爾賓へ転電アリタシ」

一七八　二月十日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

中国側ニ対シ今一回警告シ可然旨及我方譲歩ニ付テハ未ダ明示シ難キ旨回訓ノ件

第六一号

貴電第六三号ニ関シ御尽力ノ結果段々支那側ノ譲歩ヲ見ルニ至リタルハ本大臣ニ於テモ深ク満足トスル処ナリ同電御申述ノ通リ今一回強硬ナル態度ヲ示ス事然ルヘシトノ御見込ハ本大臣ニ於テモ同感ナルニ付同電末段ノ通リ支那側ニ警告方御取斗相成リ差支ナシ第五号全部ニ対シテハ支那側ヲシテ少クモ好意ヲ以テ交渉ニ応スヘキ意嚮ヲ表示セシムル事必要ナル事モ貴見ノ通リナリ貴電第六一号御請訓ノ諸点ニ付テハ過般御在京中詳細親シク御話致置タル通リニテ要求条件ニ付キ多少譲歩ノ余地ナキニハアラサルモ支那側対案ヲ篤ト研究シタル上ニアラサレハ当方ノ意嚮モ明白ニ申進シ兼ヌル事ト御承知アリタシ

一七九　二月十二日　加藤外務大臣在本邦中国公使会談

我対中国提案ニ関スル中国側主張ニ対シ其非理ヲ徹底痛論ノ件

二月十二日支那公使来省会談ノ要領

大正四年二月十二日支那公使劉参事官同伴来省大臣ト会談ノ要領左ノ如シ

公使　過日来日置公使ト陸外交総長トノ間ノ交渉ノ模様ハ累次電報ニ接シ居ラルルコトト思料スル処我政府ニ於テハ貴国政府ノ誠意ヲ諒トシ諸般ノ困難ヲ排シテ貴案第一号及第二号ニ付テハ枉ケテ同交渉ニ応スルコトト決シ尋テ第三号第四号ニ付テモ亦主義上同意スルコトトナリタル次第ナルガ第五号ノ諸條項ニ至リテハ何分支那国ノ生命ヲ危ウスヘキモノナルガ故ニ是丈ハ如何ニシテモ御勘弁ヲ乞ハサルヘカラサル次第ニシテ陸外交総長ヨリ此事ヲ閣下ニ御伝達ニ及フヘキ旨電訓ニ接セリ何分宜シク御配慮ヲ仰キタシ

大臣　第五号ノ要求カ支那国ノ生命ヲ危ウスト云ウカ如キハ甚以テ解シ難シ㈠各種顧問ノ傭聘、是貴国カ既ニ諸国トノ間ニ実行シ来リタル所日本ヨリモ亦既ニ二三ノ顧問ヲ採用セラレタリ而モ尚貴国ノ生命ヲ危ウストハ何ゾヤ㈡病院寺院学校ニ対スル土地所有権ノ承認、是亦貴国ニ其例アリ日本ニ対スル場合ニノミ貴国ノ生命ヲ危ウスト云ハルル次第ナリヤ㈢警察ノ合同警察官ノ傭聘、亦然リ北京ニ於ケル警察制度ハ如何、団匪事件後北京安寧秩序ノ維持ハ抑何ノ賜ナリヤ其他現ニ満洲ニハ我警察官ノ在ルアリ何ヲ以テ貴国ノ生命ヲ危ウスト云ウヤ㈣兵器供給ノ如キハ現ニ貴国カ屢外国ヨリ受ケラレタル所ナラスヤ西洋諸国ヨリノ兵器供給ハ貴国ノ生命ヲ危ウセス日本ヨリセハ之ヲ危ウストセラルルヤ㈤鉄道敷設権ノ許与然リ㈥布教権ノ承認然リ何レモ西洋人ニ対シテハ差支ナキモ日本人ニ対シテ之ヲ許セハ貴国ノ生命ヲ危フスト云フハ解シ難シ

公使　否先刻ノ申シ様悪カリシヤモ知レサルガ支那国ノ生命ヲ危ウスト云ヘルハ一般的ニ申シタルコトトテ特ニ第五号ニ付テ申シタル積リニハ無之全体ニ付テ我国ノ生命ヲ危ウスベキ性質ノモノナレトモ然ルニモ不拘我政府ノ誠意ヲ表スル為第一号乃至第四号ニ付テハ枉ゲテ御交渉ニ応スルコトトナシタル次第ニシテ第五号丈ハ何分御宥恕アリタシト申ス次第ナリ

大臣　然ラハ愈以テ解ス可ラス山東ノコトニ付提案第一号ニ果シテ貴国生命ヲ危ウスベキ條項アリヤ第二号亦然リ満洲ノコトノ如キ抑貴国ニ於テ兎ヤ角云ハルルコト既ニ誤レリ過日モ申シタル如ク日露戦役ナク爾後日本ノ経営ナクバ満洲ハ今方ニ如何ナル運命ニ瀕シタルナランカ想テ之ニ到レハ貴国ハ到底注文ガマシキコトハ云ハルベキ筋合ニハ非ザルナリ満洲ノ生命ハ全然既定ノ事実ナリ我若シ之ヲ領有セントセバ是只一挙手ノ業ノミ租借期限延長ノ如キ貴国之ヲ聴クハ当然ナリ之ヲ譲歩ト認ムルコトヲ得ザルナリ漠冶萍ノコトハ素ト是単ニ事務ノ事ノミ豈貴国生命ノ安危ニ関スルモノアランヤ若シ夫レ領土不割譲ノ提案ノ如キニ至テハ一ニ貴国領土保全ノ目的ニ出デ以テ貴国ノ生命ヲ危ウセザルノミナラス進テ之ヲ擁護スルモノニ非ズヤ要スルニ貴説一トシテ解シ難シ又日置公使ノ電報ニ依レバ貴国政府ハ我提案第一号第一條ヨリ膠州湾ノコトヲ除外セントスト果シテ然ラハ甚タ不可思議至極実ニ其ノ何ノ意タルヲ知ルニ苦シム貴国ハ果シテ日本ノ力ヲ藉ラズシテ独逸ヨリ其還附ヲ受ケ得ベシト信ゼラルルカ（公使此時「左様ナルコトハ出来ス」ト云ヘリ）貴国ノ意又或ハ膠州湾ガ日本ニ依リ貴国ニ還附セラルルコトヲ豫期セラルルニ在ルカトモ思考セラルル処日本ハ自ラ独逸ト戦テ得タル膠州湾ヲ当然其儘貴国ニ還附スヘキ筈ハ之無シ

公使　然シ最後通牒ノ文字モアルコトナリ

大臣　否、最後通牒ノコトヲ此場合ニ云々セラルルハ其意ヲ得ズ最後通牒ニヨリ独逸カ平和的ニ膠州湾ヲ日本ニ引渡シタル場合ト今日日本カ多額ノ費用ト多クノ人命トヲ犠牲トシテ之ヲ独逸ヨリ奪取シタル場合トハ全然事情ヲ異ニシ居レリ貴国ノ考ハ日本ノ労費ヲ以テ膠州湾ヲ独逸ヨリ貴国ニ回復セントスルニ在ルガ余リニ虫ノヨキ話ナラズヤ日本ハ将来或ハ膠州湾ヲ貴国ニ還附スルコトアルヤモ知レザレドモソハ貴我両国利益ノ権衡上還附スルヲ最適当ナリト思惟シタル時ニ於テスベキノミ又貴国ハ講和会議参加ノ考ヲ述ベラレタル由ナルモ斯クノ如キハ実ニ言語道断ト云フノ外ナシ貴国ハ何レノ国ニ向テ戦争シタルヤ戦ハスシテ講和会議ニ加ハルトハ抑如何ナル意味ナリヤ滑稽モ亦極マレリ又貴方ニテハ東部内蒙古ヲ南満洲ヨリ引離シテ我交渉ニ応ズベシトノコトナルガ東部内蒙古カ南満洲ト密接ノ関係アルハ勿論貴国ハ既ニ外蒙古ニ於テ大ナル利権ヲ露国ニ許シタルニ非ズヤ

公使　外蒙古ニ於テ露国ニ特別ノ利権ヲ与ヘタルハ事実ナルモ露国ハ素ト西洋遠隔ノ国ナリ日本ハ隣好ノ誼ニ依リ特別ノ考ヲ以テ支那ニ対セラレタシ

大臣　貴意毫モ明ナラス日本ハ支那ニ対シ十分ノ好意ヲ有スルモ其好意ノ表彰ハ他方法ヲ以テ之ヲナスベク決シテ西洋諸国カ支那ヨリ受クル利害ニ比シヨリ少ナキ利益ニ甘ンズルコトヲ得ズ

公使　兎ニ角我政府ハ慎重考慮ノ末不得已モノトシテ此譲歩ヲ敢テシタル訳ニシテ是以上一歩ヲモ譲ラザル決意ヲ為シタル次第ナリ

大臣　何ト云ハルルヤ貴方ニ左様ノ決意アリトモ我方ニハ我方ニ確乎タル決意アリ互ニ反セル決定ヲ以テ相対スル以上不祥極マルコトナガラ貴我ノ衝突ハ免ルベカラス閣下ハ果シテ夫レ迄ノ覚悟アリテ決意ノ二字ヲ用フルヲ敢テセラルルカ

公使　外国人ノ日本語ナレハ決意ト申シタルハ其当ヲ得ザリシヤモ知レザレトモ種々ノ苦情アリト云フコトヲ申シタル積ナリ

大臣　過日モ申シタル通自分ハ至テ懸引ヲ好マズ今回ノ條項ハ実ニ我要求ノ最小限ナリ今斯クノ如ク貴方ニテ種々ノ辞柄ヲ設ケ逡巡セラルルヲ見テハ今少シ輪ヲ掛ケテ要求スベカリシモノヲト思ハザルニモ非ザル位ナリ

公使　支那当局者モ実ハ頗ル困難ノ地位ニ在リ御諒察ヲ乞ヒタシ

大臣　困難ノ地位ト云ヘバ我方モ同シ事ナリ世間一部ニハ支那併合論サヘ在ル位ニテ今度ノ要求希望共ニ全部聴カルルトモ自分乃至政府ノ評判ハ決シテ宜シカラザルベクカカル攻撃ハ初ヨリ覚悟シ一身一政府ノ名声ノ如キハ眼中ニ置カズ一ニ誠意ヲ以テ貴国ニ対シ居ル次第ナリ貴国当局者亦之ニ倣フノ勇ナキヤ

公使　数歩ヲ譲リ仮ニ第五号中ノ何レカヲ聴クコトトスルモ到底之ヲ日本国ト約スルコトヲ得ザルベシ

大臣　必ズシモ條約ノ形式ニ依ルヲ要セズ貴国ニ於テ貴国ノ発意トシテ直ニ之ヲ実行セラルレバ可ナリ前来本大臣ノ述ヘタル所ハ閣下ヨリ外交総長ヘ逐一御報告アリタシ

公使　委細報告致スヘシ貴方ニ於テモ何分宜敷御考慮ヲ乞ヒタシ

一八〇　二月十二日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

我提案第五号ニ関スル中国ノ態度ニ対処スル為ノ方策ニ付請訓ノ件

第六五号

貴電第六一号ニ関シ二月十一日小幡ヲ本使代理トシテ曹汝霖ニ会見セシメ帝国政府ノ訓令トシテ貴電末段ノ趣旨ヲ陳述シ篤ト支那政府ノ熟考ヲ促サシメタル処曹ハ第一号ヨリ第四号迄ハ支那政府ニ於テ十分熟考ノ上日本国政府ノ意志ヲ尊重シ之カ商議ニ応スルコトニ決定シタル次第ナルモ第五号ニ至リテハ種々ノ関係上断シテ商議ニ応スル余地ナキモノナル旨ヲ反覆説明シ支那政府トシテハ到底考量ノ余地ナキコトト確信スルモ兎モ角総長トモ協議ノ上何分ノ返答ヲ為スヘシト答ヘタル趣ナリ

是ノ会見ニ於テ小幡ノ得タル印象ニ依レハ支那政府ノ第五号ニ対スル意見ハ既ニ開陳シタル通断乎トシテ我カ提案ヲ拒絶スル決心ナルカ如シトノコトナリ右小幡ノ観察ニシテ誤ラズトセバ追テ来ルヘキ先方ノ回答振モ略ボ之レヲ豫想スルニ難カラス多分ハ在来同様支那政府困難ノ情況ヲ訴ヘ婉曲ニ不同意ヲ表シ我カ政府ノ同情アル考慮ヲ求メ来ルヘシト想像セラル或ハ萬一ニモ第五号中二三重要ナラザル條項ニ付キ幾分譲歩ノ色ハ示シ来ルコトアルヤ保シ難キモ要スルニ譲歩ニ関シテハ容易ニ商議ニ応ズ間敷キコトト考ヘラル就テハ右ノ場合ニ於テ我方ヨリ聊カニテモ折合フ形勢ヲ示シ第一号以下ノ対案ヲ徴シ愈々商議ヲ進ムル態度ヲ執ルニ於テハ支那側ヲシテ必然我等ニ最後ノ決心アラザルモノト断定スルト同時ニ自然第五号ニモ余リ重キヲ置カザルモノト考ヘシメ結局第五号ノ貫徹ハ殆ンド之レヲ豫期シ難カルベク今日迄当方ノ関スル限リニ於テハ日本国ノ態度甚タ強硬ナルコトヲ再三口頭ヲ以テ警告シ先方ヲシテ譲歩スル所アラシメ多少有効ナル結果ヲ収メタリト考フルモ此ノ末第五号要求ノ貫徹ヲ期スルニハ最早ヤ口頭ノ恫喝威嚇ノミニテハ其ノ効ヲ奏スルコト難カルヘシト信ズルヲ以テ此際我政府ニ於テ是非共第五号ノ要求貫徹ヲ期セラルルニハ実際的威嚇手段例ヘハ内地新聞論調若クハ動員令発布ノ如キ何等カ適切ニ支那ノ人心ヲ刺戟スルニ足ル強圧ノ方法ヲ取ルニアラザレバ殆ド実効ヲ期シ難カルヘシト思料ス只談判開始以来間モナキ今日且ツハ第一号以下ノ提案ニ対スル支那側対案ノ内容モ十分詳カナラザルニ政府ニ於テ直チニ高圧手段ニ訴フルコトハ四囲ノ状況ニ顧ミ得策ナラズトセラルルニ於テハ已ムヲ得ス一両日中支那側ヨリ我警告ニ対シ何分ノ義回答シ来ルヲ俟チ其回答ノ果シテ前述豫想ノ如クナルニ於テハ此際第五号ハ懸案ノ儘暫ク据置キ先ツ第一号以下第四号迄ノ対案ヲ徴シテ商議ヲ進ムルコトトシ是等各号ノ議了ヲ待チ其上ニテ更ニ第五号ヲ提起シ先方ノ同意ヲ迫リ萬已ムヲ得サル場合ニ至リテ適当ノ高圧手段ヲ講スルコトモ或ハ一策カトモ思料ス但シ此場合ニハ勢談判モダレ気味トナリ自然意気込モ薄ラキ四囲ノ状況ハ却テ高圧手段ニ訴フルヲ許ササルニ至ルヤモ難計結局第五号ハ不成功ニ終ルナキヤヲ懸念スル次第ナリ兎ニ角右ニ対スル御意見至急御回示ヲ請フ

一八一　二月十二日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

在本邦中国公使トノ会談内容通報竝中国側ノ対案要旨電報方訓令ノ件

第七二号

往電第七一号ニ関シ本月十二日在本邦支那公使来省本国政府ノ訓令ニ基キタル趣ニテ支那政府ハ今回帝国政府ノ要求中第一号乃至第四号ニ関シテハ枉ケテ交渉ニ応スル事ニ決シタルモ第五号各項ハ何レモ支那ノ生命ヲ奪ハントスルモノナルヲ以テ何分ニモ交渉ニ応シ難キニ付悪シカラス諒承アリタキ旨ヲ申述ヘタリ依テ本大臣ハ之ニ対シ第五号各項ハ何レモ已テニ先例アルモノニシテ爰キニハ支那ノ生命ニ関セサリシモ今回日本ノ言フ所ニ従ヘハ生命ヲ失フ事トナルト云フハ全然理由ナキ義ナル旨一々説破シタル処公使ハ日本ノ勧告ニヨリ支那ニ於テ実行スル事トナルハ支那ノ甚タ困難トスル処ナル旨述ヘタルニ付本大臣ハ若シ左ル次第ナレハ別ニ條約ナトヲ締結セストモ支那自ラ進ンテ直チニ其実行ニ取カカル事トセハ然ルヘキ旨ヲ答ヘタル処公使ハ其陳述シタル処支那政府ノ決心ナル旨ヲ述ヘタルニ付本大臣ハ若シ右ニシテ果シテ支那政府最後ノ決心ナリトセハ帝国政府ニ於テモ決心アルニ付両政府決心ノ衝突ハ甚タ不祥ナル結果ヲ見ルニ至ル事ナキヲ保シ難シト注意シタルニ公使ハ決心ト云ヒタルハ語弊アリ苦情ノ意ナリト改メタリ尚本大臣ハ此機ニ於テ同公使ニ対シ支那政府ハ第一号第一條ヨリ膠州湾ヲ除カントスル意アリトノ事ナルカ同條ニハ膠州湾カ最モ重要ナルモノナリ若シ之ヲ除クトスレハ支那ハ独力ニテ独逸ヨリ同地ヲ回収セサルヘカラス支那果シ

テ其覚悟アリヤ否ヤ第二号ニ付テハ支那政府ハ東部内蒙古ヲ除カントスルノ意嚮アリトノ事ナルカ已ニ露国ニ対シ外蒙古ニ於テ同様ノ利権ヲ与ヘナカラ日本ニ之ヲ拒ムハ日本ノ到底甘ンスル能ハサル所ナル旨等ヲ極メテ強ク説述シ置キタリ就テハ支那政府ニ於テハ在日本支那公使ノ右会見ニ関スル電報ニ接シタル上ニテ対案ヲ決定スヘキ事ト察セラルル所貴電第六五号御電稟ノ趣ニ関シテハ当方ニ於テハ篤ト支那政府ノ対案ヲ考究シタル上ナラデハ今後執ルヘキ態度方法ヲ決定シ兼ヌル義ナルニ付先ツ先方ノ対案ヲ知ル事必要ナリ依テ貴官ハ先方ヨリ対案ヲ提出シ来ルニ於テハ篤ト査閲ノ上其要旨ヲ電報アリタク又一両日中ニ対案ヲ提出セザレハ前記陸公使電報到着支那政府ノ意嚮決定ノ頃ヲ見計ヒ貴官限リノ計ヒトシテ貴官再度ノ警告及本大臣ト陸公使ト会見ノ結果已ニ政府ノ議モ決定シタル事ト信スルニ付第一ニ支那政府ノ回答ヲ承知シタキ旨申入レラルヘシ貴電第六五号末段第五号引離シノ義ハ面白カラサルニ付兎ニ角我提案全部ニ対スル先方ノ回答ヲ取付クルヤウ尽力アリタシ

一八二　二月十二日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

我提案ニ対スル対案ヲ曹汝霖持参ノ上中国ノ困難ナル事情諒察方懇請ノ件

第六六号

二月十二日曹汝霖本使ヲ来訪シ前日小幡ヲ以テ申入ノ件ニ対スル回答トシテ支那政府ハ今回ノ日本国提案ニ関シテハ十分誠意ヲ以テ審議ヲ尽シタル結果日本国政府ノ意志ヲモ尊重シ出来得ル限ノ譲歩ヲ為シタル次第ニテ第一号ノ如キモ今日ハ斯ク豫約ヲ為スニ於テハ戦後直ニ独逸国ノ深怨ヲ買フノ虞アルニ拘ハラス特ニ日本国ノ要求ヲ容レ商議ニ応シ第二号満洲問題ニ関シテモ別段日独戦争ニ関係ナク全然別個ノ問題ナルニ拘ハラス租借期限延長其他ニ付十分誠意ヲ以テ提議ニ応スルコトセルノミナラス漢冶萍公司合弁問題モ主義上日本国ノ希望ニ同意ヲ表シ尚支那カ自国沿岸不割譲ノ事モ独立国トシテ体面上実ニ忍ヒ難キ所ナルモ枉ケテ自ラ進ンテ何国ニ対シテモ領土ノ割譲ヲ為サザルヘキコトヲ声明スルコトニ同意（曹ハ此ノ声明ハ支那政府自ラ進ンテ之ヲ実行スヘキニ付一切日本国ニ対シテハ文書ノ取換シヲ為サザル方針ニ付此ノ点ハ特ニ注意アリタシト

云ヘリ）スル等支那政府トシテハ已ニ難ヲ忍ヒ出来得ル限ノ譲歩ヲ為シタル次第ナルヲ以テ此点ハ日本国政府ノ諒トセラレンコトヲ希フ只第五号ニ至リテハ各種ノ関係ニ顧ミ到底承諾シ難キヲ以テ幾重ニモ総長ノ苦衷ノ存スル所立場ノ困難ナル事情ヲ諒トセラレンコトヲ切望スト述ヘ反覆鄭寧ニ其困難ノ事情ヲ訴ヘ終ニ臨ミ支那側ノ対案ハ本日之ヲ持参セルニ付差支ナクハ受領シ置カレタシト云ヘルニ付本使ハ縷々御開陳ノ趣旨ハ篤ト政府ニ電報請訓ノ上何分ノ挨拶ニ及フヘク御持参ノ対案ニ対シテモ之レ亦政府ノ訓令ヲ経ルニアラザレハ何トモ申述ベ兼ヌル次第ナルモ兎モ角一応預リ置キ政府ノ訓令ヲ俟テ何分ノ義回答ニ及フヘキ旨申聞ケ置ケリ

一八三　二月十三日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛

日本政府ノ提案ニ対スル中国政府対案写送付ノ件

附屬書　中国政府対案

公信第四〇号　（二月十八日接受）

大正四年二月十三日

本件対案ノ概訳ハ二月十二日往電第六七号ヲ以テ報告済ニ候処原文ハ別紙写ノ通リニ有之候御査閲相成度此段報告申進候也

（附屬書）

第一号

日本國政府及中國政府互願維持東亞全局之和平竝期將現在兩國友好善隣之關係益加鞏固玆議定條款如左

第一款　中國政府聲明日後日德兩國政府彼此協定關於德國在山東省內依據條約及成案辦法除德租膠澳專條第一端外對於中國政府享有一切利益等項處分屆時概行承認

日本國政府聲明中國政府承認前項利益時日本應將膠澳交還中國竝承認日後日德政府上項協商之時中國政府有權加入會議

第二款　此次日本用兵膠澳所生各項損失之賠償日本政府概允擔任膠澳內之稅關電報郵政等各事在膠澳交還以前應暫照向來辦法辦理其因用兵添設之軍用鐵路電線等卽行撤廢膠澳舊有租界以外留餘日本軍隊先行撤回膠澳交還中國時所有租界內留兵一律撤回

第三款　中國政府允准自行建造由煙臺或龍口接聯膠濟路線之鐵路如須借用外款德國願拋棄煙濰鐵路借款權之時可先儘日本資本家商議

第四款　中國政府允諾爲外國人通商起見將山東省內自擇合宜地方開作商埠所有開埠章程應由中國自定

第二號

日本國政府聲明始終尊重中國在東三省之完全領土主權玆因中國日本兩政府爲發達彼此在東三省南部之商務起見議定條款如左

第一款　中國政府允將旅順大連租借期限展至九十九年至民國八十六年卽西歷一千九百九十七年爲滿期南滿鐵路全路退還中國期限展至九十九年至民國九十年卽西曆二千零一年爲滿期餘均照各該原約辦理

第二款　中國政府允許日本經管安奉鐵路期滿時可商議展限辦法其餘各節仍照中日會議東三省事宜附約之第六款繼續實行

第三款　中國政府允於現在東三省已開商埠外再行酌定地點自行開埠通商劃定界線准日本及各國商民任便居住貿易竝經營商工業等各項生意竝准日本及各國商民爲蓋造商工業應用之房廠向業主公平商租地基惟須一律完納各項稅捐

第一條　今後日独両国政府間ニ於テ独逸国ヵ山東省内ニ在リテ條約及ヒ成案ノ辦法（独逸国膠州湾租借條約第一章ヲ除ク）ニ依リ支那政府ニ対シ其有スル一切ノ利益等ニ関シ処分ヲ協定スル時ハ支那政府ハ総テ之ヲ承認スヘキコトヲ声明ス日本政府ハ支那政府カ前項ノ利益ヲ承認シタル時ハ日本国ハ膠州湾ヲ支那ニ還付スヘキコトヲ声明シ竝ニ今後日独両国政府間ニ前項ノ協商ヲナス時ハ支那政府カ会議ニ加入スルノ権アルコトヲ承認ス

第二條　今回日本国カ膠州湾ニ兵ヲ用ヒタル為メ生シタル所ノ各種損害ノ賠償ハ日本政府ハ総テ之ヲ担任スルコトヲ承諾シ膠州湾内ノ税関電報郵便等ノ各事ニ付テハ膠州湾還付以前ニ於テハ当分従来ノ辦法ニ依リ辦理スヘキモ其用兵ノ為メニ添設セル軍用鉄道電線等ハ直ニ之ヲ撤廃シ膠州湾租借地外ニ残留スル日本軍隊ハ先ツ撤退シ租借地内ニ於ケル駐兵ハ膠州湾ヲ支那ニ還付スルトキ全部撤退スヘシ

第三條　支那政府ハ自ラ芝罘又ハ龍口ヨリ膠済鉄道ニ接続スヘキ鉄道ヲ敷設セントスルニ当リ外国資本ヲ借入ルル必要アルトキ独逸国カ烟濰鉄道借款権ノ拋棄ヲ承諾スルトキハ最先ニ日本資本家ニ商議スヘキコトヲ承諾ス

第四款　於本協約簽字之日起一年以內如日本資本團願在東三省南部辦礦除業已採勘或開採各礦外中國政府允許給予該資本團以該處勘礦之特權以一年爲限所勘之礦准其選擇半數按照中國鑛務條例實行開採其餘各礦仍由中國自行處置

第五款　中國政府聲明嗣後在東三省南部需造鐵路由中國自行籌款建造如需外款中國政府允許先向日本國資本家商借

第六款　中國政府聲明嗣後如在東三省南部聘用政治財政軍事外國各顧問儘先聘用日本人

第七款　關于東三省中日現行各條約除本協約另有規定外一概仍舊實行

第三號　擬換文

查漢冶萍公司係中國商辦公司按照中國法律原有保全財產營業管理之權政府未與該公司商定不便逕自代爲處置惟該公司將來如遇有機會就現有事業願與日本國商人商訂合意之辦法與本國法律不相違背中國政府屆時自可允准

（右和訳文）（註　右第一号第二号及第三号ノ和訳文ナリ）

第一号

前文原案ノ通リ

第四條　支那政府ハ外国人通商ノ目的ヲ以テ山東省ニ於テ自ラ適宜ノ地方ヲ選ヒ開キテ商埠トナスコトヲ承諾ス其開埠章程ハ支那自ラ之ヲ定ムヘシ

第二号

（前文）

日本国政府ハ支那ノ東三省ニ於ケル完全ナル領土主権ヲ始終尊重スルコトヲ声明シ玆ニ支那日本両国政府ハ彼我ノ東三省南部ニ於ケル商務ヲ発展セシムル目的ノ為ニ條款ヲ議定スルコト左ノ如シ

第一條　支那政府ハ旅順大連租借期限ヲ九十九ヶ年ニ延長シ民国八十六年即チ西暦一千九百九十七年ヲ以テ満期トシ又南満洲鉄道ノ全部ヲ支那ニ還附スヘキ期限ヲ九十九ヶ年ニ延長シ民国九十年即チ西暦二千〇一年ヲ以テ満期トナシ其他ハ総テ各当該原條約ニ照シテ辦理スヘキコトヲ承諾ス

第二條　支那政府ハ日本国カ安奉鉄道経営期限満了スルトキ期限延長ノ辦法ヲ商議スヘク其他ノ各節ハ日支満洲協約附属第六條ニ照ラシ引続キ実行スヘキコトヲ承諾ス

第三條　支那政府ハ現在東三省ニ於テ開放シタル商埠ノ外更ニ地点ヲ酌定シ自ラ開埠通商ヲ行ヒ境界線ヲ劃定シ

日本及各国商民ノ任意ニ居住貿易シ竝商工業等ノ各種ノ業務ヲ経営スルコトヲ許シ且日本及各国商民カ商工業ニ必要ナル建物ヲ建設スル為各持主ニ対シ公平ニ借地料ヲ商議シテ土地ノ借入ヲ為スコトヲ許ス但シ一律ニ各種ノ税捐ヲ完納スヘシ

第四條　本協約調印ノ日ヨリ一ヶ年以内ニ日本資本団カ東三省南部ニ在リテ鉱業ヲ経営センコトヲ希望スルトキハ既ニ試掘又ハ採掘ニ著手セル鉱山ヲ除クノ外支那政府ハ該地方ニ於ケル鉱山試掘ノ特権ヲ一箇年限リ該資本団ニ附与スルコトヲ承諾ス調査シタル鉱山ニ対シテハ其ノ半数ヲ撰択セシメ支那鉱業條例ニ照シテ採掘ヲ実行スルコトヲ許シ其他ノ各鉱山ハ支那自ラ処置ヲ行フヘシ

第五條　支那政府ハ今後東三省南部ニ於テ鉄道ノ敷設ヲ要スル時ハ支那自ラ資金ヲ用意シ敷設スヘク若シ外国ノ資金ヲ要スルトキハ支那政府ハ先ツ日本国資本家ニ向テ借入ヲ商議スヘキコトヲ承諾ス

第六條　支那政府ハ今後東三省南部ニ於テ政治財政軍事等ノ外国各顧問ヲ聘用セントスルトキハ最先ニ日本人ヲ聘用スヘキコトヲ声明ス

第七條　東三省ニ関スル日支現行各條約ハ本協約ニ別ニ

規定アルモノヲ除ク外一切従前ノ通リ実行スヘシ

第三号　交換文書案

査スルニ漠冶萍公司ハ支那ノ商辦公司ニシテ支那ノ法律ヲ按照スルニ固ヨリ財産ヲ保全シ営業管理ノ権アルカ故ニ政府ハ未タ該公司ト商定セスシテ直チニ自ラ代リテ処置ヲ為スニ便ナラス但シ該公司ニシテ将来若シ機会アリテ現在ノ事業ニ付日本国商人ト合意ノ辦法ヲ商訂センコトヲ希望スルトキハ本国ノ法律ニ違背セサル限リ支那政府ハ之ヲ允許スヘシ

一八四　二月十三日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

中国側対案ニ関スル疑義問合ニ付中国側ヘノ申入振訓令ノ件

第七五号

貴電第六六号及第六七号ニ関シ回訓ヲ為スニ先タチ承知シ置キタキ点アルニ付貴官ハ取敢ズ支那当局ニ対シ左ノ趣旨ヲ申入レラレ先方回答ノ要領至急電報アリタシ

「支那側対案第一号第三條ニ烟灘鉄道借款権云々ノコト見

ユルトコロ山東省ニ関シテ独乙ノ有スル一切ノ権利等ハ同号第一條ニヨリ日独両国間ニ於テ其処分ヲ協定スル考ナルガ故ニ右借款権ノ如キモノアリトセハ独乙ノ有スル一切ノ権利中ニ含マルル筈ナリ帝国政府ニ於テハ右烟灘鉄道借款権ナルモノノ真相詳細承知シタク又此際独乙カ山東省ニ関シテ支那ニ対シテ有スル一切ノ権利々益譲与ヲモ悉皆精細ニ承知シタキニ付キ併ハセテ速ニ開示アリタシ

第二号第一條ニ付南満鉄道回収ノ期限ニ付テハ支那政府ハ之ヲ延長セサル考ナリヤ又同第二條ニハ第一條ト別ニ安奉鉄道ノ期限ニ関スル事項ヲ南満鉄道ノ期限等ト分離シタルハ何故ナリヤ

第七條東三省ニ関スル現行條約ハ従来ノ通リ実行スヘシ云々トノ規定ハ如何ナル意味ト必要トアル次第ナリヤ

第五号ニ関シテハ支那当局者ハ各種ノ関係ニ顧ミ到底承諾シ難シトノ趣ナルガ各種ノ関係トハ如何ナル事ヲ指スヤ明細ニ承知シタシ陸公使ハ本大臣ニ対シ右ハ支那ノ生命ニ関スルカ故ニ承諾シ難シト言ヒタルモ其生命ニ関スルモノニアラサル所以ハ篤ト同公使ニ説明シ置キタルコト往電第七二号記載ノ通ナリ元来第五号各項ハ帝国政府ノ頗ル重要視スル処ニシテ支那政府ガ右各項ヲ実行スルコトハ日支両国

ノ国交ヲ一層親密ナラシムルコトニ於テ極メテ有効ナルモノト確信スル次第ナルガ故ニ今回ノ交渉ヲ進捗スルニ当リ第五号ニ対シ支那側ニ於テ好意ヲ以テ我交渉ニ応スルコト絶対ニ必要ナリ依テ第五号各項ニ対シ支那側ヨリ改メテ対案ヲ提出スルカ又ハ何等対案ナキニ於テハ我方ヨリノ交渉ニ対シ好意ヲ以テ之ニ応スルコトヲ約束スルカ二者其ノ何レカニ出ヅルヲ要ス

支那側対案ヲ通閲スルニ甚シク我希望ト懸隔シ又往々ニシテ小細工ヲ弄シ誠意ヲ欠ケルノ痕歴然タルモノアリ若シ支那当局ニシテ頼ムベカラサルヲ頓ミトシ徒ラニ筆舌ヲ弄スルノミニシテ何等誠意ヲ示スナキニ於テハ甚タ危険ナル局面ヲ展開スルニ至ランコトヲ慮ル」

大体叙上ノ通リ支那側ニ申入レラレ第五号ニ対スル先方ノ対案ヲ取付クルコトニ尽力アリタク又昨十二日支那側ヨリ対案ヲ提出シタリシ際ニハ豫テ第五九号往電訓令ノ如ク貴官ニ於テハ充分論弁駁撃ヲ試ミラレタルコトカト思考スルモ貴電第六六号ニテハ其辺明ナラサルニ付今後ハ其辺ノ情況ヲモ併ハセテ報告セラルルヤウ致シタシ

一八五　二月十四日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

我対中国最後通牒ノ噂竝中国ノ態度ト日本ガ提案第五号ヲ諸外国ニ秘匿セル事実トノ関連ニ関スル所見報告ノ件

第七〇号

一外国通信員ノ説ニ依レハ昨夜（二月十三日）来外国人間ニハ日本国ハ支那政府ニ対シ既ニ「アルチマタム」ヲ発セリトノ噂モ立チ居ル由ナルカ右ハ恐クハ去ル二月十二日閣下陸公使ニ与ヘラレタル警告ノ反響ナラント信セラル従テ将来ノ交渉上或ハ支那側ノ対案内容ニ更ニ幾分ノ譲歩ヲ示シ又第五号ニ対シテモ多少緩和ノ態度ニ出テ来ルナキヲ保シ難キモ又一面ヨリノ消息ニ係レハ支那当局ハ今尚我強硬ナル態度ヲ一ノ「ブラフ」ト認メ居ルニアラズヤト考ヘラルル節ナキニアラザルノミナラス抑モ支那側ニ於テ今日迄第五号ニ対シ最モ頑強ナル抵抗ヲ試ミ居ル真因ハ或ハ帝国政府ニ於テ第五号ニ限リ英国ヲ初メ各国政府ニ隠シ居ル事実ヲ承知シ居ルガ為ナラズヤト考ヘラル斯カル結果ト信スルニ付我方ニシテ具体的威圧手段ヲ講スルノ已ムナキ形勢ニ立チ至リタル暁萬一支那側ヨリ其ノ立場ヲ世界ニ対シ

説明スル必要上我方ノ要求全部ヲ公表スルニ至ルナキヲ保シ難ク此ノ場合ニ至リテ我政府カ英国初メ他国政府ニ第五号ヲ秘シ置キタル事実暴露セラルルニ於テハ我ハ独リ同盟国タル英国ヲ欺キタルノミナラス世界ヲ欺瞞シタル姿トナリ甚タ面白カラサル事態ヲ惹起スルコトナキヤ之レ本使ノ窃カニ懸念スル所現ニ提案第五号ノ件ニ関シ往電第五九号ヲ以テ報告シタル通既ニ各国政府ニモ知レ居ルコトト信セラルルノミナラス其ノ後ニ至リテ益々此ノ信念ヲ確カムルノ資料現出スルコト一再ナラス旁右ハ或ハ一片ノ杞憂ニ過キサルヤトモ存セラルルモ兎モ角本使愚衷ノ存スル所一応貴聞ニ達シ置キタシ

一八六　二月十四日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

中国側ヨリ対案提出ノ際ニ於ケル我態度ニ関シ意見具申ノ件

第七一号

貴電第七五号末段ニ関シ二月十二日支那側ヨリ対案提出ノ際ニハ殊更ニ論議ニ入ルヲ避ケ往電第六六号末段ノ通リ対案受理ノ如何ハ政府ノ訓令ニヨリ決セラルル次第ナルヲ以テ一時預リ置ク旨答ヘ置キタル次第ナリ若シ今回先方ヨリ提出シ来レル対案ニ対シ詳細駁撃ヲ試ムルニ於テハ勢該対案ハ我ニ於テ受理ノ姿トナルカ若クハ尠クトモ支那側ニ斯ル印象ヲ与フルコトトナリ其結果ハ追テ支那側ニ於テ果シテ第五号ノ商議ニ応スル決心ナルヤ否ヤモ明カナラザル今日ノコトナレバ我方ノ斯ル態度ハ自然第五号ノ運命ニモ関スベキコトト懸念セラレ旁本使ニ於テ二月十二日会見ノ際ニハ態ト何等論議ニ立入ラサリシ次第ト承知アリ度右ハ往電第六一号ヲ以テ縷々稟議ノ通談判ニ関スル我方ノ立場トシテハ詳細ナル議論ニ立入ル前可成支那側ヲシテ我提案ニ近キカ若クハ相当考量ヲ加ヘ得ル程度ノ対案ヲ速ニ提出セシムルニ努メ先方ヨリ斯ノ如キ対案ヲ提出スルニ至リテ初メテ論議ヲ用ヒ先方ヲシテ最後ノ譲歩ヲナサシムルコト談判上捷径ナラスヤト思考スルカ故ナリ強テ御異存ナクハ今暫ク此方針ヲ取ルコトト致タシ

一八七　二月十五日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛

我要求内容ニ関スル新聞記事ハ中国側故意ノ漏洩ナルヤノ疑アルニ付中国政府ニ厳重警告方訓令ノ件

第八四号

二月四日 North China Daily News ノ北京通信及往電第七三号 Washington Post 竝往電第七七号 Times ノ各北京電報其他往電第八五号第八六号等ニ依リ御承知ノ通近頃支那側ヨリ出デタル我対支要求條件ノ内容トシテ精細ナル記事頻々内外各方面ノ新聞紙ニ発表セラレ何レモ事実ノ真相ヲ穿チ居ルノミナラス支那側ニ於テ故意ニ誇張漏洩シ居ルヤノ疑モアルニ付貴官ハ支那当局ニ対シ当初相互ニ秘密厳守ノ固キ話合アルヲ無視シ支那側ニ於テ密ニ我要求ヲ漏洩シ剰ヘ之ヲ故意ニ誇張シテ新聞操縦ニ利用スルカ如キ不信ノ行為アルヘシトハ信シ難キモ前掲ノ事実モアルニ付為念注意ヲ喚起スル旨ヲ告ケ若シ萬一右様不信ノ措置アルニ於テハ事態重大ニシテ我ニ於テモ軽々観過セザルベキハ勿論今後之カ為ニ交渉上支障ヲ生ズルトキハ其責全然支那

当局ニ在ルモノト承知シ置カレ度旨厳重警告ヲ与ヘ置カル様致タシ

一八八　二月十六日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

中国側対案ニ関スル我申入振ノ訓令執行ノ為陸外交総長ト会見シタルニ付其模様報告ノ件

第七三号

二月十五日本使ハ陸徴祥ニ会見ヲ求メ貴電第七五号御電訓ニ基キ第五号各項ハ他号ト同様帝国政府ニ於テ頗ル重要視スル所ニシテ支那政府カ右各項ヲ実行スルコトハ日支両国国交ヲ一層親善ナラシムルニ極メテ有効ナルモノト確信スル次第ナルカ故ニ支那政府ニ於テ好意ヲ以テ我希望ニ応スルコト絶対ニ必要ナル所以ヲ篤ト説示シ更ニ支那側ヨリ速ニ対案ヲ提出スルカ左ナクハ好意ヲ以テ交渉ニ応スヘキヲ言明スルカ何レモ絶対ニ必要ナル旨竝第一号以下ノ対案モ之ヲ受理スヘキヤ否ヤハ未タ訓令ニ接セサルヲ以テ明言ノ限ニアラサルモ対案其物ヲ一読シタル所ニテハ何レモ我提案ト甚シク懸隔シ又往々ニシテ誠意ヲ缺キタル痕歴然タルモノアルハ帝国政府ノ不満トスル所ナル旨警告シ支那政府ノ一層誠実ナル考慮ヲ促シタルニ陸ハ第一号以下第四号迄ハ実ニ支那政府トシテ出来得ル限ノ譲歩ヲ為シ以テ誠意ヲ示シタル次第ナルヲ以テ其上第五号ヲモ譲歩スルニ於テハ今日スラ既ニ国民反対ノ声囂々タルコトナレハ更ニ一層猛烈ナル反対ヲ惹起シ民心ノ動揺ヲ来スヘキハ明ニシテ支那政府トシテ内政上甚タ困難ナル境遇ニ陥ル次第ナルノミナラス陸自身モ上ハ大総統ニ対シ下国民ニ対シ面目ナキ次第ナルヲ以テ此点ハ日本国政府ニ於テモ切ニ吾等ノ窮状ニ同情セラレ第五号丈ハ是非共撤回セラレタシト懇請セリ依テ本使ハ之ニ対シ一々反駁ヲ加ヘ支那政府カ第五号ノ商議ニ応セサルハ何等承服スヘキ理由アルニアラス過日陸公使ハ我外務大臣ニ対シ第五号ノ生命ニ関スルモノナルカ故ニ承諾シ難シト述ヘラレ又曹外交次長ハ本使ニ対シ種々ノ関係ニ顧ミ同意シ兼ヌルト云ハレタルモ第五号各項ハ何等支那ノ生命ニ関スルモノニアラサルハ勿論曹外交次長ノ所謂各種ノ関係ト云フコトモ甚タ朦昧ノ言分ニシテ少シモ耳ヲ傾クル論拠ト見ルヲ得ス要スルニ斯ノ如キ理由ノ下ニ第五号ノ商議ニ応スルコトヲ拒マルルハ本使ノ甚タ了解ニ苦ム所ナリト指摘シタルニ陸ハ只前言ヲ反覆シテ切ニ支那政府竝自己ノ立場ノ困難ナルヲ訴フルノミニシテ何等明確ナル説明ヲ与ヘス玆ニ於テ本使ハ更ニ念ヲ押シ然ラハ支那政府ニ於テハ第五号ヲ以テ商議ニ応スルノ余地ナシトシテ絶対ニ拒絶セラルル決心ナリヤト反問セルニ陸ハ拒絶スル次第ニハアラサルモ何分ニモ支那政府トシテハ困難ナル事情アルニ依リ幾重ニモ日本国政府ノ諒察ヲ望ム次第ナリト答フルノミ右ノ如ク会見二時間以上ニ亘リ論辨ヲ重ネタルモ帰スル所支那側ハ前述ノ次第ヲ只反覆繰返スノミニテ頗ル要領ヲ得サルニ依リ本使ハ最後ニ本件ハ帝国政府ニ於テ極メテ鞏固ナル決心ヲ有スル次第ノ処支那側ニ於テ断然第五号ヲ拒絶セラルル決心ナルニ於テハ本使トシテハ更ニ帝国政府ノ訓令ヲ待テ今後ノ方針ヲ決スル外ナキ旨ヲ告ケ引取リタリ本使外交部ヲ辞スルニ当リ陸及曹等ハ幾分不安ノ色ヲ面上ニ浮ヘ居リタルヤニ見受ケタルモ本日ノ会見ニ於テハ支那側ハ断然拒絶ヲ明言スルコトハ之ヲ避ケ婉言ヲ以テ切ニ困難ナル事情ヲ訴ヘ切ニ我譲歩ヲ愁訴哀願セルモ其態度ハ意外ニ鞏固ナリト認メタリ従テ御電訓ニ基キタル本使ノ剴切ナル警告モ割合ニ先方ヲ動スニ足ラサリシハ頗ル之ヲ遺憾トセサルヲ得サル次第ナリ

一八九　二月十六日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

日本ノ対中国提案ト各国政府ニ内示セルモノトノ間ニ相違アリトスル北京ガゼットノ社説ニ付報告ノ件

第七四号

二月十六日発行ノ当地英字新聞北京「ガゼット」ハ Misleading the World ナル標題ノ下ニ去ル十二日倫敦タイムス社説ヲ引用批評シ該社説ハ明カニ日本国ノ為メニ操縦セラレ居ルモノナリトシ日本国カ之ニヨリ英国ニ於ケル輿論ヲ誤ラシ本問題ノ真相ニ関シ英国人竝ニ世界ノ人心ニ絶対的ニ誤リタル感想ヲ与ヘントスル策略ニ外ナラスト断定シ更ニ「タイムス」ガ北京方面ノ電報ハ信頼スルニ足ラストセルコトヲ捉ヘ之ヲ駁シ独逸国ノ新聞買収ノコトモ亦実際事実ニアラストシテ其反證ヲ挙ゲテ之ヲ否定シ次テ同新聞ハ論旨ヲ転シテ日本国カ実際支那ニ提出セル要求ト関係各国政府ニ内示セルモノノ間ニ其内容著敷キ相違アル次第ヲ指摘シ最後ニ大要左ノ如ク論駁シテ社説ヲ終了シタリ本件ハ支那国民ノ休戚ニ深大ノ関係アルヲ以テ吾人ハ日本国ノ要求全部ヲ世界ニ向ヒ拠クトモ日本国ガ其ノ提案ヲ内

示セル各国ニ向ヒテ公表スルコトヲ我政府ニ勧告セント欲ス今ヤ本問題ハ国民ノ名誉ノ分カルル主義上ノ問題トシテ政府ハ国民ノ意志ヲ尊重セサルヘカラス国民ハ国家ノ為最大ノ利益ヲ擁護スルノ全責任ヲ政府ノ負担ニ帰スルモノナリ之ヲ以テ吾人ハ我政府カ談判ヲ再開スルニ先タチ我当局者ノ日本国公使ニ対シ日本国ヨリ各国政府ニ致シタル通牒写ヲ要求スルノ絶対ニ必要ナルヲ警告ス是レ日本国ハ其ノ各国ニ通牒セル要求以上ノ要求ヲ支那ニ強要スルノ理由ナキコト明白ナレハナリ故ニ若シ日本ニシテ強圧若クハ其他ノ手段ヲ以テ我ニ臨ミ以テ日本国カ各国ヘ通牒シタル以外ノ要求ヲ貫徹セントスルニ於テハ結局日本国ハ各国ニ向ヒ自ラハ単ニ支那ニ十一ヶ條ノ要求ヲ提出シタルニ過キサルニ支那ハ却テ自己ノ自由意志ニ由リ若干ノ譲与ヲ日本国ニ附与シタルモノナルコトヲ宣明スヘキ地位ニ立タザルヘカラザル次第ナリ之ヲ要スルニ吾人ハ最後ニ我政府ニ対シ其ノ前路ニ陥穽ノ横ハルコトヲ指摘シ世界ノ政事家ノ或者カ唱ヘタルカ如ク外交ノ策略真ニ端倪スヘカラサルモノアルカ如ク同時ニ譎詐ニ近キモノアルヲ警告セント欲ス

一九〇　二月十六日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

中国側対案ニ対スル我最終譲歩ノ修正案ニ付訓令ノ件

第八八号

貴電第六六号及六七号ニ関シ支那政府対案ニ対シテハ帝国政府ニ於テ支那政府ノ立場ヲモ諒トシ篤ト審議ヲ尽シタルモ右対案ハ左記ノ通リ修正方是非共必要ト認ムルニ付貴官ハ本大臣ト陸公使トノ会談ニ関スル往電第七二号ノ趣旨ヲモ参酌ノ上其趣支那当局ニ至急申入レラルヘシ

第一号ニ付テハ

(一)　第一條我原案通リ

(二)　第二條全部削除

(三)　第三條支那政府ハ日本政府ト協議ノ上日支合弁若クハ日本ノ資金ヲ以テ本件鉄道ヲ敷設スルコトニ改ムル尤モ支那側ニ於テ烟灘鉄道ニ関スル独逸借款権ナルモノノ関係ヲ顧慮スルニ於テハ本條ハ第一号第一條ノ通リ日独両国間ニ一般的協定成立スルヲ前提條件トシ密約ヲ以テ取極置クコトトスルモ差支ナシ

(四)　第四條支那側ニ於テタツテ主張スルニ於テハ支那政府対案通リニテ差支ナキモ商埠トナスヘキ地点及開埠章程ハ日本国ト内協議ノ上決定スルコトノ了解ト為シ其旨書面ヲ交換シ置クコト

(五)　以上ノ外山東省不割譲ノ約束ハ何等カノ形式ニテ取付クルコトヲ要スル尤モ右約束ハ必スシモ條約ト為スヲ要セス公文ノ交換等ニヨルモ差支ナク已ムヲ得サレハ貴電第五一号末段本件ニ関スル陸総長言明ノ意味ヲ書面ニテ取付クルコトトスルモ可ナリ

第二号ニ付テハ

(一)　前文ハ「日本政府ハ支那国ノ南満洲及東部内蒙古ニ於ケル完全ナル領土主権ヲ尊重シ支那国政府ハ南満洲及東部内蒙古ニ於ケル日本国ノ優越ナル地位ヲ承認スルニ依リ茲ニ左ノ條款ヲ議定セリ」ト改ムルモ差支ナシ

(二)　第一條旅順大連租借期限及南満洲鉄道無償還付期限ノコトハ支那政府対案通リニテ差支ナキモ南満洲鉄道ニ付テハ買戻期限ヲ現在ノ買戻期限尽クル日ヨリ更ニ三十六箇年延長スルコトニ明確ニ取極メ置クコト

(三)　第二條安奉鉄道期限モ前條南満洲鉄道無償還付期限迄一律延期スルコト

(四)　第三條全部之ヲ削除シ我原案第二條及第三條通リトスルコト

(五)　前條其他ニ関聯シ支那政府対案ニハ第二号我原案中ヨリ東部内蒙古ヲ除外シアル処右ハ勿論全部原案通リト為スコトニ改ムヘキ旨往電第五七号及往電第五八号ノ趣旨ヲ参酌シ可然支那当局ニ申入レラルヘシ

(六)　第四條ハ「スタンダード」陝西石油借款契約等ニ倣ヘルモノナルヘキモ斯クテハ却テ機会均等主義ニ関スル問題等ヲ惹起スル虞モアリ其他面白カラサル廉尠カラサルニ付矢張我原案通リトスルコト

(七)　第五條ハ支那政府対案ノ如キ形式ト為スモ差支ナキモ南満洲及東部内蒙古ニ於テ他国人ニ鉄道敷設権ヲ与ヘ又ハ同地方ニ於ケル諸説（但シ従来一般的借款ノ担保ニ供セラレ居ル関税塩税ノ類ヲ除ク）ヲ担保トシテ他国ヨリ借款ヲ起サントスルトキハ必ス豫メ日本国政府ノ同意ヲ経ヘキコトノ意味ヲ加フルヲ要ス

(八)　第六條「最先ニ」ヲ削除シ「政治財政軍事」ノ外「警察」ヲ加ヘ且「顧問」ノ外「教官」ヲモ加ヘ置クコト

(九)　第七條挿入方異議ナシ

(廿)　右ノ外吉長鉄道ニ付テハ我原案ヲ主張シタキモ止ムヲ得サレハ同鉄道ノ現状極メテ不満足ニシテ同鉄道築造当初ノ趣旨ニ副ハサルコト甚シキニ付追テ現吉長鉄道借款契約ヲ根本的ニ改訂スルコトヲ約束セシメ置クコトトスルモ差支ナシ

第三号　支那政府対案ハ事態ヲ甚不明確ナル地位ニ置クモノニシテ我方ニ於テ同意スルコトヲ得ス仍テ本号ハ前文竝ニ第一條及第二條共総テ我原案通リ約束シ置キ実際問題トシテハ両国政府ニ於テ同公司及其関係者ヲ懲憑シ合弁実現ニ尽力スルコトニ致度シ但シ本号ハ支那側希望ノ如ク文書ノ交換ニヨルモ差支ナシ

第四号　我原案通リノ趣旨ヲ前記第一号山東省不割譲ニ関スル件ト同様ノ形式ニテ約束セシムルコトト致度シ

第五号ニ付テハ

(一)　第五項鉄道ノ件ハ当方ニ於テ特ニ最重キヲ措ク所ニシテ右ノ内ニハ御承知ノ通已ニ支那政府トノ間ニ懸案ト相成居ルモノモアル処貴電第五五号ニ拠レハ陸総長ハ本件ニ関シ他ノ外国トノ契約関係云々セル模様ニシテ右ハ主トシテ英国側ヲ指シテ云ヘルナルヘキニ付貴官ハ支那当局ニ対シ萬一英国側トノ間ニ問題起ラハ我

方ニ於テ引受クヘキニヨリ支那側ニ於テハ英国筋ノコトヲ懸念スルコトナク安ジテ本件ニ同意ヲ与フル様極力交渉相成度シ尚又我原案ニハ敷設権ヲ要求スルコトナリ居ルモ右ハ借款ヲ供給スルノ権利ニ改メ日本ヨリノ借入金ニヨリ支那自ラ敷設スルコトトスルモ苦シカラス

(二)　第四項兵器ノ件ハ支那内地ニ日支合弁ノ兵器製造所ヲ設クル事ト改ムルモ差支ナキニ付之ニ対シ支那側ノ同意ヲ得ルヤウ御尽力アリタク若シ如何ニシテモ同意ノ見込ナキニ於テハ止ムヲ得サルニ付兵器ノ件ハ追テ我官憲トノ間ニ商議協定スヘキ旨ノ主義上ノ取極ヲ為シ置ク事トスルモ差支ナシ

(三)　第二項学校病院等ノ土地所有権第七項布教権ノ両件ハ他日支那側ニ於テ好意的考量ヲ加フヘキ旨ノ約束ヲ取付ケ置クコト

(四)　第六項福建省ノコトハ支那政府ノ都合ニヨリテハ全然密約ト為シ置クモ差支ナシ福建省ニ関シテハ支那政府ニ於テ日本ニ不割譲ヲ約束シ居レルノミナラス支那ニ於ケル投資優先権ノ実例多々アルハ客年十二月三日附機密号外対支政策ニ関スル件訓令添附参考書類第六

所載ノ通ナリ

(五)　第三項警察権ノコトハ支那政府ニ於テ甚タ困難ヲ感スルモノカトモ察セラルルニ付差向撤回スヘシ尤モ当方ニ於テハ第二号第二條土地所有権及第三條居住営業権ノ要求ニ関シ自然生シ来ルコトアルヘキ治外法権問題ト関聯シテ若シ支那ニ於テ日支合同警察ヲ実行スルカ又ハ本邦警察官ヲ顧問又ハ教官ノ名義ニテモ苦シカラサルニ付傭入ルルニ於テハ司法権問題ニ関シ或ハ何等カ妥協ノ方法ヲ詮議シ得ヘキカトモ考ヘ居ル次第ニ付為念第二号第二條第三條討議ノ際ニ於ケル貴官限リノ御参考迄ニ申添ユ第二号第六條中ニ前記ノ如ク警察顧問又ハ教官ヲ加フル事トシタルハ本項削除ノ結果ト御承知アリタシ

(六)　第一項政治財政軍事各顧問ノ件ハ支那政府ニ於テ顧問傭聘ヲ実行センコトヲ日本政府ニ於テ切ニ勧告スル旨ヲ貴官ヨリ支那政府ニ声明スルニ止ムルモ差支ナシ

以上ノ我修正ハ前記ノ如ク篤ト支那側ノ立場ヲモ考量シ政府ニ於テ慎重審議ノ上譲歩スル事ニ決シタルモノニシテ我方ニ於ケル最終譲歩ノ限度ナリト御承知アリタク従テ貴官

カ支那当局ト交渉セラルルニ際シ直チニ此最終限度マテ先方ニ開示セラルルカ又ハ徐々ニ我妥協ノ態度ヲ示シ成ル可最終限度ニ達スル事ナクシテ交渉ヲ完結セラルルカ其辺ノ駈引ハ一ニ貴官ノ裁量ニ任カス事ト致スヘキニ付右御含ノ上遺憾ナク折衝セラルル様致度シ尚以下ハ絶対ニ貴官限リノ御含迄ニ申進スル次第ナルカ帝国政府ニ於テハ客年十二月三日附機密号外対支政策ニ関スル件訓令別紙第六号條件ノ下ニ膠州湾ハ支那ニ還付スルコトト為スモ差支ナキ内意ナルニ付若シ果シテ支那側ニ於テ膠州湾還付ニ多大ノ重キヲ措キ居リ従テ右還付ノ意嚮ヲ支那側ニ通スルニ於テハ我要求貫徹上多大ノ効果アルヘキ御見込ナルニ於テ単ニ貴官限リノ発意トシテ支那政府ニ於テ前記我修正案ヲ早速其儘同意スルコトニ内決セハ貴官ニ於テモ帝国政府ノ採否ハ別問題トシ兎ニ角膠州湾還付ノコトヲ帝国政府ニ稟議スヘキ旨適当ノ機会ニ申入レラレ差支ナシ尤モ膠州湾還付ノコトハ貴電第六一号御意見ノ通リ実際上殆ト唯一ノ代償條件ナルノミナラス膠州湾最後ノ処分ハ内外朝野ノ極メテ重要視スル所ナルニ付前記貴官ヨリ稟議ノ件モ愈々絶対必要ノ場合迄ハ断シテ支那側ニ漏ラサルルコトナキ様致度申ス迄モナキ義ナカラ為念申添ユ右膠州湾還付問題ハ或ハ貴電第

六一号末段御来示ノ通間接ノ方法ヲ以テ先方ヘ通セラルルコトニ取計ハルルモ可ナリ将又前記帝国政府修正案ニヨレハ第五号ハ大部分我方ニ於テ譲歩シ其他ニ於テモ支那政府対案ノ重要部分ハ殆ト全部支那側主張通リト成リ重要ナル修正ハ僅カニ第二号ノ第二條及第三條竝ニ第二号ニ東部内蒙古ヲ加フルコトノ二点ニ止マル次第ニ付時日ヲ遷サス本件交渉ノ決定ヲ見ルニ至ル様極力御尽瘁相成度シ

（欄外註記）
「右ハ大正四年二月十六日閣議ノ席上ニテ決定」

一九一　二月十六日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

中国側対案第一号第二條削除ノ我修正案ニ関シ追加説明ノ件

第八九号

支那側対案第一号第二條ヲ全部削除スル事トシタルハ往電第八八号ノ通ナルカ該條ニ関シ左ノ通リ貴官御参考迄ニ申進ス

㈠　日本出兵ノ為メ生ジタル各種損害賠償ハ日本政府ニ於テ負担スル限ニアラズ交戦状態ヨリ生シタル損害ニ対シ政府ニ於テ賠償セサル事ハ日露戦役ノ時ニ於テモ亦然リ

㈡　膠州湾内ノ税関電報郵政等ハ軍政ニ支障ナキ限リ成ルヘク従来ノ辨法ニヨリ辨理スル考ニテソレカ為メ過般来税関問題ニ関シ支那側ノ交渉ニ応シタル次第ナリ

㈢　日本側ニテ目下内密ニ青島ト我内地間ニ海底電線ノ敷設工事ニ着手中ニテ来ル六月頃ニハ竣成ノ豫定ナリ故ニ其以後ハ龍口膠州間ノ軍用電線及旅順龍口間ノ海底電線ハ何レモ撤廃シ差支ナシ又用兵ノ為メニ添設シタル軍用鉄道ハ現ニ取リ外ヅシツツアリ電線保護ノ守備兵ハ電線ノ撤廃ト共ニ撤退セラルヘシ山東鉄道守備兵ハ現在ノ儘ニナシ置クヘキカ又ハ或地点ニ集合セシメ其他ノ地域ハ支那兵ノ守備ニ任カセ置クヘキカ其辺帝国政府ニ於テ考量中ノ事モアレトモ如何ナル形カニ於テ該守備兵ハ存在スルモノト御承知アリタシ又金嶺鎮ヨリ鉱山ニ至ル軽便鉄道（林来電第一七号）ハ鉄山ニ於ケル兵士ニ糧食ヲ供給スルカ為必要ナルモノニシテ差当リ撤シ難シ

㈣　膠州湾ヲ支那ニ還付スル事トナリタル場合ニハ同租借地内外ノ我軍隊ヲ直チニ全部撤退スヘキ事ハ申ス迄モナシ

一九二　二月十六日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

我対中国提案訓令第六号ニ関シ補足指示ノ件

第九〇号

客年十二月三日附機密号外往信対支政策ニ関スル件別紙第六号ニ関シ膠州湾還付ノ場合ニハ同地ヲ開放シ日本専管居留地ヲ設置スル事ハ固ヨリ絶対ニ必要ナルモ還付ノ條件トシテ尚此外ニ要塞ヲ撤スル事再ヒ築城工事ヲ施サザル事等ヲ定メ置ク事モ必要ナルヘク其他官有財産埠頭ノ処分等日支官憲間ニ協定ヲ要スヘキ細大ノ事項数多アルヘキニ付前記別紙第六号ニ第二項トシテ還付ノ條件手続等ハ追テ日支両国官憲ニ於テ協定スヘキ事ノ意味ヲ規定シ置ク事ニ取計ハレタシ

一九三　二月十七日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

我最終案提出前ニ於テ対中国談判ノ前途ニ新局面ヲ展開スルノ措置ノ必要ニ付意見上申及請訓ノ件

第七六号

貴電第八八号ノ趣敬承右ハ速ニ支那側ニ提出スヘキ筈ノ処本使カ今日迄本件談判方針トシテ大体第一号ヨリ第五号迄細目ノ論議ニ入ル前先方ヲシテ商議ニ応セシムルコトニ努力セルコトハ既ニ累次ノ電報ニテ御詳悉ノコトト信ス二月十五日本使ト陸トノ会見ノ模様モ往電第七三号ニテ御承知ノ通ノ次第ニテ支那側ニ於テハ第五号ハ絶対的ニ之ヲ拒絶スル考ナルカ如ク従テ本号全部ニ関スル運命ノ定ラザル今日貴電第八八号御訓示ノ通直ニ細目ニ入リ商議ヲ進ムルニ於テハ勢本使ノ執拗執リ来リタル談判方針ヲ打切ルコトトナリ其結果ハ先方ヲシテ我政府ニ於テ必ズシモ第五号ニ重ヲ措キ居ラザルモノト断定セシメ益々第五号ノ貫徹ヲ期スルコト困難ナルヲ豫期セザルヲ得ザルノミナラズ今回貴電第八八号ヲ以テ御訓示ノ我修正案ト支那側対案トヲ対照スルモ彼我主張ノ懸隔尚甚シク昨今談判ノ局面稍緊張シ来レル時機ニ方リ俄ニ交譲的態度ヲ示シ更ニ尋常一様ノ折衝ヲ重ヌルニ於テハ第一号以下ノ各号殊ニ第二号ノ我主張全部ヲ貫徹スルコトスラ頗ル困難ヲ感ズルハ勿論将来帝国ノ支那ニ対スル威信ニモ関係ヲ及ボスコトト考ヘラルルニ付寧ロ此際我政府ニ於テ断然タル最後ノ決心ヲ固メラレ曩ニ提出セル支那側対案ハ原案ト懸隔甚シク到底斯クノ如キモノヲ基礎トシテ談判ヲ継続スルモ無益ナルヲ説破シテ先方

ノ対案ハ之レヲ返却シ更ラニ誠意アル譲歩的対案ノ提出ヲ請求スルト同時ニ第五号モ亦支那側ニ於テ大体商議ニ応スル決心ヲナスノ必要ナルヲ警告シ以テ談判ノ前途ニ新局面ヲ開クコト絶対必要ナラズヤト思料ス尚ナクモ直接談判ノ衝ニ当レル本使ノ立場トシテ最モ痛切ニ叙上ノ措置ヲ必要ト考ヘ居ル次第ナリ此段ハ豫テ本使上京ノ節閣下ヨリ親シク御垂訓ノ次第モアルノミナラズ貴電第八号(註) en bloc 折衝ノ方針ニモ合致シ将又本使今日迄談判ノ行懸リニ顧ミ今一応十分ナル御審議ヲ仰キ更ニ何分ノ御電訓ヲ請フ次第ナリ若シ萬一本使ノ意見ニシテ採納ヲ被ラザルニ於テハ既ニ我方ノ足許ヲ洞察シ居レル支那当局ハ第一号第二号等ノ内容ニ付其ノ主張ヲ固執シテ容易ニ譲歩ヲ肯ゼザルベキハ勿論結局第五号ハ到底貫徹ノ見込ナキコト信ス此点ハ切ニ御諒察ヲ禱ル次第ナリ就テハ本電報ニ対スル何分ノ御電訓アル迄ハ貴電第八八号支那側ヘ通告ノコトハ今暫ク見合スコトトセルニ付右ニ御承知ヲ請フ

註　前掲一三四文書

一九五　二月十七日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

我対中国提案訓令ノ第三号第二條中「漢冶萍公司ニ屬スル諸鉱山附近ニ於ケル鉱山」ニ付説明ノ件

第九三号

客年十二月三日付機密号外対支政策ニ関スル件別紙第三号第二條中「漢冶萍公司ニ屬スル諸鉱山附近ニ於ケル鉱山」トアルハ象鼻山龍角山等ノ如ク同公司所有ノ大冶萍郷鉱山ニ近接シ従テ其採掘ハ大冶萍郷等ノ競争ノ地位ニ立ツニ至ルヘキ鉱山ヲ指スモノニシテ同公司ニ屬スル鉱山ニシテ各所ニ散在スルモノアリトスルモ其各鉱山附近ニ於ケルモノ厳談セリト雖支那政府ノ承認ヲ得ス勝手ニ提議ノ内容ヲ各国ニ通告セル以上支那ハ最早秘密厳守ノ責任ナキ次第ナリト論シ我提出要求ノ公表ヲ威嚇シ以テ支那ノ為有利ナル局面ヲ展開セント企図セルモノナリ本社説ハ昨日電報ノ分ト同シク政府側ヨリ出シタル意見ト信セラル御参考ノ為電報ス

一九四　二月十七日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

我対中国提案ニ関スル北京ガゼツトノ社説要領報告ノ件

第七七号

二月十七日発行ノ北京「ガゼット」ハ changing values of political situation ナル社説ヲ掲ケ大体昨日ト同様我提案ヲ採用スヘカラサルヲ主張シ我国カ各国ヘ内示シタル提案條項ト支那政府ニ提出シタル條項トハ甚シキ差異アルモノナルカ故ニ日本国カ支那ニ提出シタル要求條項記載ノ原文書ハ将来之ヲ世界ニ公表スルニ当リ百萬ノ援兵ニモ優ル最モ重要ナル文書トシテ政府ハ愼重ニ之ヲ保全スルノ責任アリ万一日本国カ威力ヲ以テ之カ返還ヲ迫ルコトアルモ決シテ返還スヘカラス支那ハ将来適当ノ時機ニ此文書ヲ利用スルノ必要アリト述ヘ今ヤ日本国ハ再ヒ談判ヲ継続スルノ意志アルモノト認メラルル所若シ此上日本国ニシテ其各国ニ通牒シタル以外ノ要求條項ヲ支那政府ニ迫ルニ於テハ支那政府ハ進テ日本国カ支那政府ニ提出シタル原要求條項ヲ関係各国ニ提示シ以テ日本国ノ陰謀ヲ暴露スルノ挙ニ出デザルベカラズ日本国ハ其提案ヲ秘密ニ附スベキヲノ凡テヲ含ム趣旨ニハ無之ニ付右様御含置相成度二月十日付機密第三八号貴信御報告ノ二月四日「ノース、チャイナ、デーリー、ニュース」所載北京通信中右ニ関スル記事モ有之ニ付為念電報ス

一九六　二月十八日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

新局面展開ノ措置ハ外交手段ヲ尽シタルコトヲ要スルニ付我最終案ニ基キ交渉ヲ進メラレタキ件

第九五号

貴電第七六号縷々御禀申ノ趣閣悉貴官ハ此際我政府ニ於テ断然タル最後ノ決心ヲ固メ支那政府ノ対案ヲ返付スルヲ以テ機ニ適シタル措置ト思考セラルルガ如キモ元来今回ノ交渉ハ未ダ僅ニ当方提案ニ対シ先方ノ答案ヲ見タルノミニテ案ノ内容ニ関シテハ雙方充分ニ討議ヲ尽クス迄ノ運ビニ至リ居ラズ従テ先方ニ於テ結局何レノ点マテ譲歩シ得ベキヤ全然不明ナルハ申迄モナク当方ニ於テハ我各要求ニ対スル支那側ノ詳密ナル議論モ承知シ居ラザル次第ナリ我政府

ニ於テ断然タル最後ノ決心ヲ固ムルニハ場合ニヨリテハ結局交戦ヲモ避ケザルノ覚悟アル事ヲ要シ此覚悟ヲ為スニハ充分ノ理由材料ナカルベカラズ然ルニ今日迄ノ経過ニテハ交渉ハ未ダ殆ンド交渉本体ノ内容ニ触レ居ラザル次第ニシテ外交上ノ手段ハ全ク尽クサレ居ラザルナリ交渉ノ経過此ノ如キ次第ニテハ最後ノ決心ヲ固ムヘキ充分ノ材料モ理由モナク而シテソレニモ拘ハラズ高圧手段ヲ用フルニ於テハ外間ヨリハ日本ノ措置ハ無謀至極ノモノト見ラルルヲ免レズ今日我方ヨリ往電第八八号ノ基礎ニ於テ支那側ト開談スル事ヲ以テ貴官ハ将来帝国威信ニモ関係ヲ及ホス事ト思考セラルルモ之ハ外交上当然ノ手続ニシテ此手続ヲ尽クシ遺憾ナク雙方討議ノ後萬一交渉不調ニ至ル事アラバ其時コソ帝国政府ハ新局面ヲ開クヘキ方法ヲ講ゼザルベカラザルベシト雖モソレ迄ニハ先ツ交渉ヲ進捗セシムベキアラユル外交手段ヲ尽クスヘキ事当然ノ義ニシテ之レ決シテ帝国ノ威信ヲ損スルモノニアラズト思考ス要スルニ当方ニ於テハ未タ貴官御申立ノ如キ方法ヲ執ルヘキ場合ニ立至レリトハ認メザルニ付貴官ハ至急支那当局ニ会見セラレ往電第八八号ノ訓令通リ交渉ヲ進メラルヘシ

大正四年二月十八日支那公使劉参事官同伴来省大臣ト会談ノ要領左ノ如シ

公使　貴方提案ノ第五号ニ対シ何分ニモ支那政府ニ於テ御交渉ニ応シ兼ヌル次第ハ日置公使ヨリノ電報ニ依リ御承意ノコトト存スル処尚本使ヨリモ閣下ヘ支那当局ノ苦衷ヲ訴ヘ御宥恕ヲ乞フヘキ旨訓令ニ接シタリ

大臣　陸外交総長ヨリ日置公使ヘ屢次申出ノ次第ハ一々報告ニ接シ居ルガ提案第五号各條項ニ対シ毫モ交渉ニ応ゼラレ難キ理由ヲ示スコトナクシテ単ニ交渉ニ応ジ難シトノミ述ベラレ而モ貴方ノ誠意ヲ云々セラルルハ甚以テ解シ難シ交渉ニ応ジ難シトナラハ何故ニ応ジ難キカヲ明ニ示サレテコソ真ニ誠意アリト云フベケレ閣下ニ於テハ右理由ニ付何等承知セラルル所ナキヤ

公使　何等承知スル所ナキモ自分ノ考フル所ニテハ例ヘバ顧問ノコトノ如キ何分斯ルコトヲ貴国ニ対シ約スルコトハ出来ズトノ趣旨ニハ非ザルカ

大臣　夫レハ先日モ申シタル通ニテ強テ約定ノ形式ト為スノ必要ナク単ニ貴国ヨリ顧問傭聘ノコトヲ形式上自発的ニ申出デラルル丈ニテモ差支ナカルヘシ又福建ニ於ケル鉄道其他ノ條項モ福建ハ台湾ノ対岸タル関係ヨリ日本ノ

一九七　二月十八日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

談判再会ノ際ノ交渉方法及特ニ提案第五号ニ関シ訓令ノ件

第九七号

往電第九五号ニ関シ交渉ヲ再開セラルルニ当リ如何ナル方法ニヨルカハ専ラ貴官ノ裁量ニ任カス次第ナルモ先ツ第一号乃至第四号我修正案ヲ示シ第五号ニ付テハ何故ニ我交渉ニ応スル能ハサル次第ナルカヲ詰問シ飽マテ其理由ノ開示ヲ求メ之ヲ捕ヘテ駁論ヲ加ヘ以テ我原案ニ近カシムルノ手段ニ出ヅルモ一策ナルヘキカト思考ス要スルニ第五号ニ付キテハ是非共先方ヲシテ交渉ニ応ゼシムルヤウ御尽力アリタシ往電第九八号本大臣ト在本邦支那公使トノ談話参照アリタシ

一九八　二月十八日　加藤外務大臣在本邦中国公使会談

我提案第五号及中国政府ノ新操縦策ニ関シ注意喚起ノ件

二月十八日支那公使来省会談要領

重要視スル所ナレハ右等ノ事項ノ為外国ノ資本ヲ要スル場合ニハ必ズ日本ニ協議セラルルコトトシタシト云フニ止リ貴国ニ於テ是等ノ施設ヲ為サズ又ハ之ヲ為スモ外国資本ヲ要セザル限リ問題ハ起ラザル次第ナリ実ハ貴国政府カ第五号ニ付理由ヲ示サズシテ漫ニ交渉ニ応ジ難シト云ハルルコトノ全ク誠意ヲ缺ケル処置ナルコトヲ日置公使ヨリモ篤ト貴国政府ニ言明セシメント欲シ既ニ電訓ノ用意成リ居レトモ閣下御来訪ノ御申込アリタルニ付何カ新奇ノ御申出ニテモアル次第カト思ヒ発電ヲ見合サシメ居ル所ナリ然シ貴方ニ於テ依然斯ルコトヲ申出デラルルニ止マル上ハ早速右訓令発電方ヲ命スルコトト致スヘシ又貴国政府ハ要求條項ヲ内外新聞記者ニ漏シ之ニヨリ世界ノ同情ヲ得ントセラレツツアルガ如ク支那人ノ経営ニ係リ貴国政府ト密接ノ関係アリト称セラルル北京「ガゼット」ノ論説記事ノ如キ全ク貴国政府ノ指揮ニ依ルモノナルコトハ疑ノ余地ナキガ如クナルガ貴国政府ニ於テ斯ルコトヲ頼ミトシテ我要求ニ対シ誠意ナキ応答ヲ継続セラルルトモ貴国ニ取リ何等益ナキ次第ニシテ日本ハ是等外間ノ論評等ニ頓着スルコトナク其自ラ正当ナリト信スル所ヲ支持主張スルノ外ナク況ヤ貴国政府ノ苦心操縦

セラルルニ不拘外国側ノ有力ナル言論ハ皆日本ノ要求ヲ以テ正当ナリトシ却テ貴国ノ態度ニ対シ嫌焉タラザルノ実状ナルヲ如何センサレバ貴国政府ニ於テモ速ニ右ノ事態ヲ看取セラレ前述ノ如キ小策ハ直ニ之ヲ棄テラルルコトノ貴国ノ為却テ必要ニシテ右ノ次第ハ閣下ヨリ特ニ貴国政府ニ電稟セラルル様致度シ

（公使ハ之ニ対シ尚何事ヲカ言ハレントシタル如クナリシモ劉参事官ニ於テ私カニ之ヲ止メタルガ如ク公使ハ右ニテ会談ヲ了リ退出セリ）

一九九　二月十八日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

我提案第五号問題及中国ノ新聞操縦ニ付中国政府ノ注意喚起方陸公使ニ要請シタル旨通報ノ件

第九八号

二月十八日在本邦支那公使本大臣ヲ来訪シ本国政府ノ訓令ニヨル趣ニテ我要求第一号乃至第四号ハ日支ノ関係ニ鑑ミ特ニ交渉ニ応ズル次第ナルモ第五号ニ関シテハ到底交渉ニ応ズル能ハサル旨ヲ繰返ヘシ申述ベタルニ付本大臣ハ之ニ本ノ要求ヲ以テ正当ノモノナリト認メ居ルガ仮リニ欧米ノ輿論ニシテ日本ノ要求ヲ不正当ナリトナスモ日本政府ノ決心ハ其為ニ何等影響ヲ受クルモノニアラサルカ故ニ究竟支那官憲ノ新聞政策ハ何ノ益ナク徒労ニ帰スルヲ免レサルニツキ早速中止スル方得策ナルヘキ旨北京政府ニ注意スル事然ルヘキ旨申添ヘ置キタリ御参考迄

二〇〇　二月十八日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

曹汝霖来訪シテ談判ノ再開ヲ希望シタルニ付第五号ノ商議応諾ヲ必要トスル旨説示ノ件

第七八号

二月十八日曹汝霖陸総長ノ命ニ依リ本使ヲ来訪シ速カニ談判ヲ継続再開シタキ希望ナル趣ヲ以テ催促シタルニ付本使ハ支那政府ニ於テ第五号ニ付テモ商議ニ応スル決意ヲ示サザル以上談判再開ノ運ニ至リ兼ヌルコトト考フルモ未ダ政府ヨリ訓令ニ接セザルヲ以テ何トモ確答シ難キ旨答ヘ置ケリ更ニ曹ハ余談ニ入リ例ニ依リ縷々支那政府困難ノ事情ヲ訴ヘタルニ付本使ハ之レヲ駁シ我カ原案全部ヲ其ノ儘承

対シ第五号ノ交渉ヲ拒絶スルハ何故ナリヤ其理由ヲ承知シタシ之ヲ示ス事ナクシテ単ニ拒絶スルハ如何ニモ誠意ヲ缺ケル仕打ト云フベク支那政府ニ於テ此ノ如キ態度ヲ継続セントスルニ於テハ我方ニ於テモ亦覚悟スル処ナカルベカラス第一項顧問ノ事ハ必スシモ條約ヲ結ブニモ及ブマジク支那政府ニ於テ日本顧問ヲ傭フ事トスヘシト言明セバソレニテ足ルヤモ知ルベカラス第二項外国教会ニ土地所有ヲ許シナガラ日本ノモノニ之ヲ許ス事ヲ得ズト云フハ解シ難シ第五項鉄道問題ハ或ハ借款鉄道ト為シテ折合フ方法講ゼラレザルニモアラザル可ク其他各項ニツキ支那側ヨリ承諾スル能ハザル理由ヲ詳細ニ開示セハ或ハ日本ニ於テ再考スル事モアル可ク又日本ノ主張ニ対シテハ支那側ニ於テ篤ト考量ヲ加フベク此クシテコソ誠意アル交渉ヲ進ムル事ヲ得ベキ義ナルニ何等ノ理由ヲ述フル事ナクシテ単ニ拒絶スト云フハ甚タ其意ヲ得サル事ナリト述ヘ多少譲歩ノ余地アル事ヲ暗示シ交渉ニ応スヘキ事ヲ勧メ置キタリ尚序ニ頃日来交渉ノ内容頻リニ欧米新聞紙ニ登載セラルル処右ハ支那官憲ニ於テ故意ニ漏洩スルモノト察セラル又支那官憲カ操縦シツツアリト伝ヘラルル新聞紙ニ於テハ連日日本攻撃ノ暴論ヲ掲ケツツアリ之等ノ事アルニ拘ハラス欧米ノ輿論ハ日諾スルモ支那政府ニ於テ何等甚シキ困難ヲ感ズルコトアラサルヘキ旨ヲ反覆説示シ置ケリ

二〇一　二月十九日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

談判再開竝交渉ノ方法ニ関シ稟申ノ件

第八〇号

貴電第九十五号御訓示ノ趣敬承ス就テハ月曜日談判再開ノコトトスヘシ貴電第九十七号ニ関シテハ我修正案ヲ一括先方ヘ提出スルヨリモ矢張原提案ヲ基礎トシテ執拗ニ我主張ヲ維持シ随時今回御訓示ノ修正案ヲ参酌シ進退スルコトニ致度尚第五号ノ商議ニ応セサル理由トシテハ種々ノ事情トカ陸公使ノ所謂支那ノ生命ニ関スルトカ是迄唯漠然タルコトヲノミ唱ヘ居ル如クナルモ右ハ同号中ニ包含セラルル事項ガ各種ノ性質ヲ有スルガ為結局各條ニ付討議セザレバ適切ノ説明ヲ為スヲ得ザルニ因ルナラント察セラルル次第ナルガ是迄支那側トノ談論中ヨリ真ノ理由ナリト認メラルル所ノモノヲ指摘スレバ支那ニ於テハ今回ノ要求ニ対スル譲歩トシテハ一号乃至四号ニ対スルモノヲ以テ十分ナリトシ此上譲歩スル必要ナシト認メ第五号ハ当方ヨリ支那側ニ

対スル譲歩トシテ撤回セラレタシト懇願シ居ル次第ナリ
但シ支那側ニ於テ斯ク見切ヲ付ケタルハ第五号提出ノ形式竝之カ各国ニ提示セラレ居ラザル等ノ事情ニ顧ミ帝国政府ニ於テハ之ヲ他号ノ如ク重要視シ居ラザルモノト判断セルニ依ルナランカト推察セラル孰レニシテモ今回ノ談判ヲ再開スルニ方リテハ先ヅ重ネテ当方ヨリ第五号ニ対シテモ商議ニ応ズベキ意志ノ発表ヲ要請スヘキモ従来ノ印象ニ依レハ先方ニ於テハ例ニ依リテ之カ撤回ヲ懇請シ到底応議セザルベケレバ当方ニ於テハ支那側ニ対シ第五号ハ飽迄我ニ於テ固執スル所アル旨ヲ十分先方ニ徹底セシメ置キタル上不取敢本議ニ移ル所存ナルニ付可然御含置ヲ請フ将又本使ノ見ル所ニテハ今回ノ談判ハ問題ノ性質内容ニ顧ミ最モ重大ナルモノタルハ申迄モナキ次第ニシテ之カ遂行ヲ期スルニハ本使ニ於テ素ヨリ最大ノ努力ト最善ノ方法トヲ竭クスヘキハ勿論ナルガ東京ニ於ケルト当地ニ於ケルト十分歩調ヲ一ニスルコトモ亦最モ肝要カト存ズルニ就テハ自然貴地ニ於テ陸公使等ト折衝セラルルニ当リテモ当方ニ於ケル駐引ノ呼吸ト声息能ク相通ズル様特ニ御注意ヲ希望スル次第ナリ

適切ニ措置アリ度旨更ニ詳細厳重ニ申入レラレ其結果電報アリ度シ

二〇三　二月十九日　在北京坂西陸軍大佐ヨリ
明石参謀次長宛（電報）

日中交渉ニ関連シ袁等ノ思想態度ニ付報告竝対策ニ付進言ノ件

坂極秘電第六号

昨今大総統府内ニテハ小官ニ対シ殆ンド対支交渉ニ関シ談話ヲ交ヘントスルモノナク而シテ其交渉ノ状況ヲ察スルニ日本対列国特ニ英国トノ関係ニ手違ヒアリシ為メカ支那ハ我カ足許ヲ見スカシ我ヲ軽蔑シ日本トノ支那提携論ノ如キハオクビニモ出サズ結局袁初メ彼等ノ思想ハ日本強シト雖モ到底支那ヲ併呑スル能ハザルベク支那弱シト雖モ朝鮮ト同ジカラス故ニ日本ニシテ兵ヲ用ユレハ支那ハ敢テ之ニ抵抗スルコトナク曠日弥久ノ策ヲ採レバ其ノ間欧洲列強来リテ干渉シ遂ニ日本ヲシテ利益ヲ壟断セシムルコトナカルベシト云フコトニ一致シ而モ支那ハ同シク亡ブモノナルヲ悟ラズシテ単ニ列国ノ勢力ヲ借リテ我勢力ノ伸張ヲ妨害セントスルニ外ナラズコレ我要求ノ一部ヲ拒絶シ或ハ其ノ他

二〇二　二月十九日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

日中交渉内容ノ漏洩ニ関スル我方ノ警告ニ付問合竝漏洩防止ニ付更ニ厳重申入方訓令ノ件

第一〇一号

日支交渉ノ内容内外新聞紙上ニ漏洩ノ件ニ付支那当局ヘ厳重警告方往電第八四号ヲ以テ電訓ニ及ヒ置タル処右警告其後ノ成行承知シ度ニ付至急模様回電アリ度シ尚其後当方ヨリ屢次ノ転電ニテ御承知ノ通リ我要求ハ遂ニ殆ト全部欧米ノ新聞紙ニ表ハレタル次第ナルニヨリ貴官ハ至急右ノ趣ヲ支那当局ニ指摘シ其不誠実ナル態度ヲ責メ右ハ支那官憲ニ於テ故意ニ漏洩スルモノタルコト疑ヲ容ルルノ余地ナク斯ク我要求ノ項目及交渉ノ内容世上ニ流布サルルル以上ハ円満ニ交渉ノ話合ヲ付ケ得ルコト自然不可能ナル破目ニ陥リ支那側ニ於テモ譲歩シ難ク我方トテモ支那側ノ立場ヲ考量スルカ如キ事モ到底為シ得サルニ立至ルヘク其結果或ハ交渉不調ニ陥ルカ如キ事迄ヲ保シ難キニ至ラン其場合ニハ交渉不調ノ責ハ全然支那政府ニ在ルモノト覚悟セサルヘカラス此ノ如キ不詳ナル成行ハ申ス迄モナク帝国政府ノ甚好マサル所ナルニ付厳ニ注意ヲ加ヘ此上ノ漏洩ナカラシムル様ノ対策ト雖モ其距離頗ル遠キ所以ナリ真ニ愚ノ極ナリ袁嘗テ曰ク貴国ニシテ武力ヲ以テ問題ヲ解決セントセハ我亦多クヲ云ハズト

苟クモ此際我要求ノ一部併カモ我経済的発展ノ意味ヲモ含有セルモノヲ拒絶セントスルガ如キ時ハ固ヨリ外交上ノ駈引キニ従ヒ之レニハ已ムヲ得サレハ承諾セントノ意思ヲ有スルヤモ知ルヘカラスト雖モ兎ニ角誠意ヲ以テ我要求ヲ相談セントスルモノニ非スシテ所謂第三、第四国ノ風向ノミヲ観測シツツアル遣リ方ナリ袁カ平生ニ所謂日支提携論ト矛盾ス今ヤ小官個人トシテ彼レヲ責ムルモ益ナシ須ラク我武力ヲ現実ニシ先ヅ彼ヲシテ多クヲ云ハシメズ否応ナク我要求大体ヲ承認セシメタル後逐條討議ニ移ルヲ必要ナリト信ズ否ラザレバ我国我軍ノ威信ヲ毀損シ永ク軽侮ノ念ヲ以テ迎ヘラルルニ至ルベキヲ疑ハズ直接且ツ痛切ニ之レヲ感ジツツアルハ実ニ小官等ナリ遺憾至極ナリ御決行ヲ望ム但シ小官ハ依然従来ノ如ク大総統府ニ出入シツツアリ特ニ此頃ハ済南ノ袁克定河南ヨリ帰来セルヲ以テ同人トモ親シク交際シ居レリ大総統府内ニ異状ナシ

二〇四　二月二十日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

第五号内容在中国英米仏露公使ニ内告方ノ件

第一〇五号

（註）別電第一〇六号及第一〇七号ノ通リ在米大使ニ電報シタリ必要ノ場合ニハ第五号内容在支英米仏露公使ニ内告セラレ差支ナシ

註　別電第一〇六号及第一〇七号ハ夫々二月二十日加藤外務大臣発在米国珍田大使宛電報第三一号（五二七文書）及同第三二号（五二六文書附属書）ト同文ナリ

二〇五　二月二十一日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

機密漏洩新聞取締方ニ関スル厳重警告ノ成行ニ付回報ノ件

第八四号

貴電第一〇一号ニ関シ機密漏洩新聞取締ノ件ニ関シテハ談判開始以来屢々支那側ニ対シ注意警告ヲ怠ラス現ニ第二回会見ノ際ノ如キ其ノ冒頭ニ於テ二月四日ノ上海「ノース、チャイナ、デーリー、ニュース」ニ本使ト袁総統トノ会見模様カ詳細記載セラレタル事実アルヲ指摘シ此ノ責任ハ袁総統ト曹次長ノ外ニ之レヲ求ムヘカラストテ厳重ニ難詰スル所アリ又当地漢字新聞ニ第一回会見模様記載セラレタルヲ捉ヘテ一々談判委員ノ責任ニ帰シ事実ヲ調査シテ相当ノ措置ヲ施シ将来ニ対シ十分注意ヲ加フヘキコトヲ反覆厳談シ置キタル次第ナルガ其ノ後ニ於ケル支那側ノ態度ニ於テ前條ノ趣意ニヨリ行動シ居ル形跡ヲ認メサルニアラス現ニ大総統ニ於テ往電第五四号ノ如キ措置ニ出テ又当地漢字新聞社間ノ申合セ規條ノ如キ全ク政府ノ干渉ニ出デタルニ外ナラザルベキガ実際当地ノ事情ヲ探査スルニ機密漏洩責任者ハ談判員ノ如キ直接責任者ヨリハ他ノ方面即チ総統府ノ会議ニ列セル連中ヨリ漏ルルコト恰モ本邦ニ於テモ意外ノ辺ヨリ兎角機密漏洩シ易キガ如キ有様ト察セラルル次第ニシテ従来幾回ノ注意ニ拘ハラス今日ノ状態トナリタル次第ナリ

貴電第八四号ノ次第ハ二月十八日曹来訪ノ折ニモ篤ト談シタルニ曹ハ支那政府ニ於テハ全ク誠意ヲ以テ取締ヲナスコト支那ノ為メニモ利益ナルコトヲ十分認メ居ルモ何分人心激昂ノ折柄トテ十分意ノ如クナラザルハ遺憾トスル所ナルモ日本側ニ於テモ十分其ノ義務ヲ守ラレタク伝聞スル所ニ依レハ日本国政府ハ交渉條件ノ内容ヲ某々国政府ニ通知セラレタル由露国外務大臣カ議会ニ於テ日本国ノ要求ハ露国ノ利害ヲ害セズト公言シ又英国外務大臣ガ議会ニ於テ日本国ノ通告ハ秘密ノ形式ニテナサレタルモノナルヲ以テ公表スルヲ得ズト明言セル所ニヨルモ其ノ事実明瞭ナルガ如シ加之ナラス日本国政府ハ倫敦タイムス初メ各種外国新聞ヲ盛ニ操縦使用シ居ル形跡アルニアラズヤ之レ最初日本側ニ於テ事件ノ内容ヲ外国政府ニ漏スガ如キコトアリテハ由々敷大事ヲ惹起スヘシト警告セラレタル趣意ト矛盾セズヤト詰問セルニ付本使ハ英国外務大臣ノ言ハ何ノ意ナルヤ明瞭ナラザルモ今日迄支那側ニ於テ機密ヲ漏シタル結果交渉内容ハ世界中ノ官民ニ知レ亘リ居ルニアラズヤ露国外務大臣ノ得タル報告ナルモノモ恐クハ北京ニ於テ支那側ヨリ得タルモノナラント反駁ヲナシ置キタル次第ナルモ談判ノ初メニ当リ某国公使ハ外交部ニ至リ委細ノコトハ日本国公使ヨリ聞取リタルガ尚為念貴方ヨリモ承知シ置キタシトテ内容開示ヲ迫リタルコトアリト聞キタル程ナレハ今回我方ヨリ要領書ノ写ヲ得タル公使中ニ於テ或ハ之レヲ支那当局ニ突付ケ支那ニ迫リ内容開示ヲ要求シタルモノアルヤモ難計萬一斯カルコトアリトセバ不信ノ行為ヲ以テ彼等ヲ責ムベキ理由アルモ同時ニ彼等ニ於テモ亦我方ヨリ第五号ヲ内示セザリシ廉ヲ以テ我ヲ責メ得ル義ナレハ之レ又如何トモシ難キ義ト思考ス貴電第一〇一号ノ次第ハ其ノ趣旨十分徹底スル様支那当局ニ通ズベキモ不取敢前陳ノ次第御参考迄申進ス

二〇六　二月二十一日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

談判再開ニ関シ若干時日ノ余裕ヲ置キタル事情説明ノ件

第八五号

貴電第一〇二号ニ関シ談判再開ヲ月曜日ト定メタルハ一ハ外交部主催ニ係ル慈善舞踏会ガ土曜日外交部迎賓館ニシテ現ニ談判所ニ充テラレ居ル建物中ニ於テ挙行セラルル為先方ニ於テ非常ニ取込居ル事情ニ依ルモ、其主タル理由ハ此期間ニ於テ第五号ニ関スル局面展開ヲ講ゼンガ為更ニ最後ノ努力ヲ試ミンコトヲ期シタルニアリ御承知ノ如ク第五号ニ対シテハ尠クトモ支那側ヲシテ好意ヲ以テ商議ニ応ズベキ意向ヲ表示セシムルヲ刻下ニ於ケル必要ト認メラレ是

非（電文不明）我方ニ於テ此点ヲ強硬ニ主張シ若シ支那側ニ於テ右ノ意向ヲ表示セザルニ於テハ細目討議ニ入ルコト断ジテ無用ナリト主張シ来リタル行懸上此際此問題ヲ有耶無耶ニシテ談判ヲ進ムルコトハ実際談判ノ衝ニ当ル本使ニ取リテ如何ニモ苦痛ニ堪ヘザル所ナルト同時ニ其ノ今後ノ駈引上ニ及ボス悪影響亦計ルベカラザルモノアルコトヲ恐ルル次第ナルガ貴電第九五号御電訓ノ趣旨ニテハ本問題ハ兎ニ角談判ヲ急速進行セザルベカラザルモノト了解シタルニ付不取敢已ムコトヲ得ズ往電第八〇号ノ如ク談判ヲ再開スヘキ旨及稟申置タル次第ナリ

二〇七　二月二十一日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

我提案第五号ニ関シ中国側ノ商議応諾方ニ付更ニ努力ヲ試ミタル件

第八六号

（前略）

此際第五号ニ対スル局面ニ何トカ判然目鼻ヲ附ケズシテ談判ヲ進行スルコトハ何分本使従来ノ行懸上苦痛ニ堪ヘザルニ立場ナルヲ以テ今一応努力ヲ試ムル為高尾ヲ曹汝霖ノ許ニ遣ハシ説諭威嚇相交ヘ説ク所アラシメタル結果今二月二十一日朝曹本使ヲ訪問シ第五号ニ関シテハ自分一己ノ意見トシテハ昨日高尾迄内話シ置キタル通第一号乃至第四号ヲ議了シタル上ニテ同号ヲ商議スベキヤ否ヤニ付相談スルコトトスルモ差支ナカルベシト存ジタルニ付直ニ陸総長ト協議シタルニ総長ニ於テハ斯クシテハ矢張其際ニ又復同様ノ論議ヲ繰返スコトトナリ事態好マシカラザルニ付是非共此際日本国政府ノ譲歩ヲ求メ置クベク但シ同号ニ関シテハ支那政府ニ於テ絶対ニ商議ヲ拒絶スル意志ニアラズ日本国政府希望ノ存スル所ハ篤ト了解シ居ル次第ナレバ他日適当ノ機会ニ於テ商議ニ応ズル余地ナキニアラザルベキニヨリ此際同号迄ノ商議ヲ迫ラルルコトハ是非共見合サレタシト求メ次ニ本使ヨリ貴国政府ニ於テ同号ニ関シ斯ク迄頑強ニ反対セラルル総括的ノ理由如何トノ問ニ対シ曹ハ実ハ支那側ニ於テハ曩ニ日本国政府ノ提議ニ接シタル当時各省将軍等ヨリ頻ニ提議内示方ヲ中央ニ迫リ且反対意見ヲ述ベ来リタルモノ少カラザリシニ付中央ヨリハ一面之ヲ慰撫スルト共ニ日本国政府ヨリノ提議ハ全部五号ナルガ政府ノ意向ハ三号迄ハ商議ニ応シ四号ハ支那政府自ラ之ヲ措置スルコトトシ五号ハ絶対提議ニ応ゼザル決心ニテ全部其要求ヲ容ルル訳ニアラザレハ強テ反対スル勿レトノ意味ヲ懇達シタル行懸上今ニ於テ五号迄モ商議ニ応ジタリトノ事実将軍等ノ知ル所トナラバ或ハ之ガ為不測ノ変ヲ醸ス虞ナキニアラズ中央ノ恐ルル所ハ即チ此点ニアリト云ヘルニ付本使ハ一々其誤謬ヲ弁駁シ極力主張貫徹ニ努メタレドモ支那側ノ決心意外ニ堅ク容易ニ応諾ノ模様ナキニ付本使ハ第五号ハ政府ノ方針トシテ飽迄其希望ヲ達セザレハ已マザル決心ニ付第二回会議ニ於テ陸総長ノ述ベラレタル貴国政府ノ意見発表ニ対スル答トシテ帝国政府ノ主張ヲ今後ニ於テ正式ニ説明論議スベシト声明シ談判進行ノコトニ同意ヲ与ヘ直ニ今日午後ニテモ会議セント申込ミタルニ曹ハ準備ノ都合上明日ニ延期ヲ求メタルニ付之ヲ承諾シ置ケリ

本日曹ト会見ニ依リ今日迄絶対的ニ第五号ヲ拒絶セル態度ニ比スレハ幾分カ進歩ノ跡ナキニアラザルモ閣下ヨリ既ニ陸公使ニ対シ第五号ニ対シ十分譲歩ノ意志アルコトヲ表示セラレ且兎モ角談判続行スヘキ旨ノ意向ハ帝国政府ニ於テ有シ居ラルルコト等先方ニ於テ承知シ居ルコトトテ十分成効ヲ得難キハ深ク遺憾トスル所ナリ

二〇八　二月二十三日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

二月二十二日第三回会議ニ於ケル交渉ノ経過ニ関シ報告ノ件

第八八号

二月二十二日既電ノ通本使ハ小幡高尾両人ヲ従ヘ外交部ニ於テ第三回談判ヲ開ク支那側ヨリハ陸総長曹次長施秘書列席会議ハ午後三時ニ始マリ午後八時迄五時間ニ亘リ論議ヲ闘ハセリ本使ハ談判ニ入ルニ先チ貴電第一〇一号御訓示ノ趣旨ニ遵ヒ暗ニ機密漏洩ノ件ニ関シ厳重ナル警告ヲ与ヘ（要領別ニ電報スヘシ）更ラニ過般来問題トナリ来レル我提案第五号ハ帝国政府ニ於テ強硬ニ其主張ヲ維持スルコトヲ特ニ玆ニ声明シ本日ヨリ第一号以下各條ニ付審議ニ入ルヘキ旨ヲ告ゲタルニ陸ハ第五号ニ関シテハ支那政府ニ於テ敢テ拒絶ヲ言明シタル次第ニハアラズ只第一号以下第四号迄格外ニ譲歩シタルニヨリ日本国ニ於テモ第五号丈ハ譲歩セラレムコトヲ切望スル次第ナリト述ベタリ依テ本使ハ兎モ角前記本使声明ノ下ニ第一号以下ノ審議ニ移ランコトヲ提議シ次デ雙方意見一致シ居ル次第ナルヲ以テ支那政府ニ於テ同意ト認メ第一條ニ関シテハ極力原案ヲ主張スル次

第ナリト述ベ詳細其理由ヲ説明シテ更ニ支那側対案第一項中ニ於テ山東省云々トアルハ日本国ノ意志ト一致セサル点アリ之レハ将来山東省ニ延長スヘキ独逸国借款鉄道例ヘバ済南ヨリ河南ニ入ルモノ若ハ高密ヨリ徐州ニ到ル鉄道ノ如キモノヲモ独逸国ヨリ継承シ日本国ハ其権利利益ヲ獲得セント欲スル決心ニ付原案ノ通山東省ニ関シ云々ト規定スル必要アリ又対案ニハ條約及成案ノ辦法ニ依リトアルモ原案ノ條約其他トアルハ條約成案及其他ノ辦法ノ意味ナリト説明シ次ニ独逸膠州湾租借條約第一端ヲ除ク云々トアルモ膠州湾ノコトヲ第一條ヨリ除ケバ結局同地ハ独逸国ノ手ニ残ルコトトナリ対案第一條第二項ハ殆ンド無意味トナル訳ナリ又対案第二項ハ目下之ヲ論議スルヲ便トセス提案全部議了ノ後ニテ商議スルコトシタク第三項ニ至テハ直接戦闘ニ参加セル支那カ講和会議ニ加入センストスル希望ナルモ之ハ殆ド絶対ニ不可能ノコトナリ尤対案ニハ日独両国政府間ニ前項ノ協商ヲ行フトキ支那政府カ会議ニ加入スル権ヲ有ス云々トアルモ日独協商ハ列国講和会議ニ於テスベキコトトナルベケレバ日本国ハ支那ト豫メ斯ノ如キ條款ヲ約束スルヲ得ズ旁第一條ハ原案ノ通同意セラレタシト述ベタリ右本使ノ陳述ニ対シテハ陸ヨリ種々不徹底ナル駁論ヲ試

ミタルモ要スルニ陸ノ主張ハ第二項ニ於テ日本国カ膠州湾還附ノコトヲ声明スル旨ノ條項アルガ故ニ第一項ニ膠州湾租借條約第一端ヲ除ク外云々ノ文句存スルモ毫モ差支ナシト信ズ併シ日本国政府ニ於テ第二項ノ如ク膠州湾還附ノコトヲ声明セラルルニ於テハ租借條約第一端云々ノ文字ヲ除クモ差支ナシト云フニ帰シタリ

尚支那側ハ膠州湾還附問題ノ討議ニ入ランコトヲ執拗ニ主張シ本使ハ之ヲ今回ノ提案全部ヲ議了シタル後ニ譲ランコトヲ執拗ニ主張シタル結果支那側ニ於テハ大体原案第一條ノ趣旨ヲ認メ提案全部ノ議了ヲ俟テ対案第一條第二項ノコトヲ再議スルコトトセリ対案第一條第三項ニ付テモ陸ハ伯林会議ニ中立国カ加入シタル等ノ先例ヲ引キ支那ノ講和会議ニ参加スルノ不当ニアラザルヲ陳弁シタルモ他日若シ支那カ参加シ得ル様ノ時期アル場合ニハ日本国ノ斡旋ニ依リ会議加入ノ希望ヲ留保シ本項ハ之ヲ撤回セルモノト認メタリ次ニ対案第二條ニ移リ本使ハ御訓令ノ趣旨ニ依リ本條ニ対スル不同意ノ旨ヲ述ベ削除ヲ主張スル次第ナルモ膠州湾内ノ税関電報郵政等ハ軍政ニ交渉ナキ限リ成ルヘク従来ノ辦法ニ依リ辨理スル考ナル旨声明シ用兵ノ為添設シタル軍用鉄道ハ既ニ取外シツツアリ電線保護兵ハ電線撤廃ト共

ニ之レヲ撤退スヘク山東鉄道守備兵ハ何等カノ形ニ於テ存在スルモノト承知セラレタシト説明シ出兵ノタメ生ジタル各種ノ損害賠償ハ日本国政府ニ於テ負担スルコトハ断シテ承諾シ難シト述ベタル所陸ハ強硬ニ損害賠償説ヲ主張シ今ヨリ約二ケ月前独逸国ヨリ日本軍隊ノ鉄道占領ヨリ生シタル損害賠償トシテ支那政府ニ要求シ来リタルヲ以テ支那ノ日本国ニ向ヒテ要求スル賠償中ニハ独逸国ニ対スル此ノ賠償金ヲモ含ム次第ナリ尚右独逸国ヨリノ公文中ニハ米国大使ノ手ヲ経テ日本国ニ対シテモ同様ノ要求ヲナセル旨記載シアリト云ヒ更ニ陸ハ税関郵政電信守備兵等ノコトハ條約中ニ定ムルコトカ不同意ナレバ右本使ノ述ベタル意味ノコトヲ公文書ニテ取極メ差支ナカルベキヤト質問シタルニ付本使ハ夫レニテモ差支ナカルベシト考フル旨答ヘ結局此等ノ事ハ第一條ニ直接関係アルコトニ付提案全部議了後再議ノ事ニ更ラニ商議スヘキコトニ決定セリ

次テ原案第二條山東省不割譲問題ニ入ルヤ陸ハ第四号辨法ヲ重覆シテ特ニ山東省不割譲ヲ約スルノ必要ヲ見ズト主張シ本使ハ第四号ハ一般的ニ支那保全主義ヨリ帰納シテ之ヲ必要トシ本條ハ山東ニ於ケル新ナル日本国ノ地位ヨリシテ特ニ之ヲ必要トセル次第ヲ説明シ結局貴電第八八号修正

通リ支那政府ハ山東省及沿岸島嶼ヲ如何ナル名義ヲ以テスルニ論ナク何レノ外国ニモ租借割譲セザルコトヲ声明スル旨ノ公文ヲ日本国ニ差出スコトヲ支那側委員ニ於テ同意シ唯原案ニハ他国トアルモ外国トシタシト希望セルニ付本使ハ文句ノコトハ別ニ協議スルコトトシ原則トシテ右ノ辨法ニ異議ナキ旨答ヘ置ケリ最後ニ第三條ノ商議ニ移ルヤ支那側委員ハ日本国ニ於テ鉄道敷設権ヲ主張セラルルモ烟瀰鉄道ニ関シテハ独逸国ト借款優先権ヲ約セルニ過ギザル次第ナレバ独逸国ガ現有スル以上ノ有利ナル権利ヲ日本国ニ与フルコトハ支那政府ニ於テ承認シ難キ所ナリト述ベ独逸国ト同様投資優先権ニ止メラレタシト頻ニ懇請シタルヲ以テ本使ハ元来第一号ニ関スル支那側対案ヲ通覧スルニ支那側ニ於テハ第一條ニ於テ膠州湾ノ還附日独媾和会議加入ノ件ヲ要求シ更ニ我山東不割譲案ヲ拒絶シ剰サヘ賠償其他ノ要求ヲナシナガラ鉄道等ニ関シテハ独逸以上ノ権利ヲ認ムルヲ得ズト主張セリ結局日本国ノ獲得スヘキ権利ハ殆ド空ニ近ク旁支那側ノ対案ナルモノハ余リニ虫ノヨキ次第ナラズヤト一番ノ冷嘲ヲ加ヘ兎モ角本條ノ両鉄道ハ日本国ニ於テ山東ニ於ケル経済上ノ見地ヨリ特ニ必要ト認メ重キヲ措ク所ナルノミナラス山東幹線トノ聯絡上是非敷設権ヲ主

張スル次第ナルモ支那政府ノ情意ヲ諒トシ特別ニ譲歩シ改メテ日支合辦経営ノ事ヲ提議スルニ付十分誠意ヲ以テ之ニ応ズル事トセラレタシト云ヘリ本使ノ此言葉ニ対シテ支那側委員ハ支那ニハ未ダ合辦鉄道ナルモノナシ抔ノ理由ノ下ニ切リニ之カ同意ヲ肯ゼザル模様ナルニ付本使ハ今日ハ時モ移リタレバ之ニテ閉会スル事トシ鉄道合辦経営ノ件ハ十分熟考ノ上同意セラレタシト告ゲ本日ノ会議ヲ終了セリ右会議ノ要領不取敢電報ス次回ハ先方ノ都合ニテ来ル金曜日以前ニハ開会シ難シトノ事ナリシモ枉ケテ都合セシメ木曜日ニ開会ノ事ニ協定セリ

二〇九　二月二十三日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

機密漏洩ニ関シ第三回会議ノ劈頭中国側ニ厳重警告シタル旨報告ノ件

第八九号

貴電第一〇一号機密漏洩警告ノ件ハ往電第八八号ニモ一言セル通二月二十二日第三回談判ノ劈頭ニ於テ本使ハ帝国政府ノ電訓トシテ高尾ニ貴電ノ要領ヲ摘訳朗読セシメ更ニ本ザル所ニシテ仮リニ有之トスルモ外国政府筋ヨリ秘密ノ洩ルルガ如キ断ジテ信ジ得ベキ事柄ニアラス如何様ニ考フルモ秘密漏洩ハ必ス支那側ヨリスルモノト断定セザルヲ得ザルヲ遺憾トス若シ萬一此等ノコトヨリ時局ノ紛糾不愉快ナル事態ヲ現出スルニ至レバ其ノ責任ハ断シテ支那政府ノ負フ所タラザルベカラズト告ゲ陸ハ重ネテ支那政府ノ事実関係ナキコトヲ繰返シ兎モ角支那新聞ハ将来益々厳重ニ之レヲ取締ル積リナルニ付日本側ニ於テモ一層十分注意セラレタク殊ニ袁総統ニ対スル悪罵ハ支那人ノ最モ不愉快ヲ感スル所ナルヲ以テ日支親善ヲ計ルタメ殊更ラニ注意ヲ促シタキ次第ナリト述ヘタルニ付本使ハ最後ニ日本国ニ於ケル新聞ノ取締ハ種々進捗スヘキ法律アルヲ以テ支那トハ全然其ノ事情ヲ異ニスル次第ニ付此点ハ特ニ之レヲ諒セラレタク而シテ近来支那ニ対スル日本新聞ノ論調概シテ穏健トナリ大総統ニ対スル批評ノ如キモ殆ンド其ノ跡ヲ断テルヤノ観アリ之レ一面政府ヨリ注意アリシニモ依ルヘキモ今回ノ要求案件ニ関シ新聞カ慎重ノ態度ヲ取リ激烈ナル論評ヲ試ミザルハ今回ノ要求カ一政府一内閣問題ニアラズシテ国家国民ニ係カル問題タルヲ以テナリ之レハ一面挙国一致シテ国民ガ平静ニ談判ノ進行ヲ期待シツツアル證拠トシテ

使ヨリ此際支那政府トシテ厳重ニ新聞ヲ取締リ機密漏洩ヲ防キ其外国新聞通信員ヲ操縦シ誇張的電報ヲ打タシメ以テ欧米ノ言論界ヲ動カサントスルカ如キ小策ヲ弄スルコトハ独リ支那ノ為結局何等利益ナキノミナラス大局ヲ糜爛シテ危険至極ノ事態ヲ惹起スルモ計ラレザルコトヲ警告シタル所陸総長ハ支那新聞ノ取締ニ付テハ政府ニ於テモ極力之カ実行ヲ怠ラサル次第ニシテ既ニ二回迄モ内務部ヨリ各新聞社ヘ厳重ナル訓達ヲ与ヘタリ又外国新聞通信員操縦云々ノコトハ支那政府ニ於テ断シテ其事ナキヲ確信シ得ル所ナリ只外国新聞カ如何ナル出所ヨリスルヤ殆ト真実ニ近キ機密ヲ探知シ来ルガ実ハ其出所ニ付テハ自分モ驚キ居ル次第ナリトテ過般英国外務大臣ガ議会ニ於テ日本国ヨリ入手ノ要求條項ハ秘密ニ附スヘキ約束アルニ依リ言明ヲ避ケタル旨ノ報道ヲ指摘シテ本使ニ其報道ノ実否ヲ質シ一面暗ニ日本国政府カ勝手ニ外国政府ニ秘密ヲ洩シ支那政府トノ秘密確守ニ関スル当初ノ約束ヲ無視セルヲ詰リ一面外国新聞ニ秘密ヲ洩スハ外国政府筋ヨリ出デ居ルニアラズヤトノ意味ヲ諷示セルニ依リ本使ハ事実ヲ挙ゲテ外国新聞通信員ヲ操縦シ居ルト疑フヘキ次第ヲ説破シ英国外務大臣ガ議会ニ於テ果シテ斯カル説明ヲナセルヤ否ヤハ本使ノ全然承知セ特ニ支那当局ノ注意ヲ望ム次第ナリト説明シ陸ハ之レヲ諒トシ新聞取締ニ付テハ尚益々注意スヘキヲ約セリ

二一〇　二月二十三日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

我提案第一号第三條山東鉄道ノ合辦敷設ト借款敷設ノ得失ニ付意見禀申ノ件

第九〇号

我提案第一号第三條鉄道ノ件ハ二月二十二日談判ノ節本使カ合辦敷設説ヲ主張シ結局支那側ノ熟考ヲ求メ次回ニ論議スルコトトセル次第ハ往電第八八号ノ通ナルカ或ハ合辦敷設ハ新例トシテ先方ニ於テモ極力拒絶ノ態度ニ出ツヘク考ヘラレ結局借款敷設ヲ確約セシムル位ノ所ニテ落着スル外ナカルヘクト信スル次第ナルモ若シ萬一我ニ於テ飽迄合辦説ヲ主張シ先方ニ於テ譲歩シ之ニ同意シタル場合ハ談判ノ成行トシテハ或ハ成功ト見ラレサルニハアラザルモ本使ノ所見ニテハ近来支那ノ鉄道政策ハ外資ニ依ル場合ハ何レモ借款敷設ヲ主義トシ数年来殆ンド例外ナク此主義ヲ一貫シ来レル次第ハ御承知ノ通ナリ然ルニ今回我ヨリ合辦鉄道敷設ノ新例ヲ開クニ於テハ将来他ノ外国筋カ此新例ニ依リ

豊富ナル資本ヲ以テ広大ナル支那ノ他ノ部分ニ於テ合辦鉄道ヲ要求スル端緒ヲ啓クニ至ルモ保シ難ク其結果ハ一貫セル支那ノ鉄道政策ヲ破壊シテ其形式ヲ益紛糾セシムルニ至ルベシト懸念セラル就テハ既ニ我ニ於テ龍口芝罘枝線敷設権獲得ヲ抛棄セル以上ハ寧ロ合辦ノ如キ形式ヲ避ケ支那ヲシテ右両鉄道ノ借款敷設ヲ確約セシムルコトシテハ如何カト思料ス次回会議迄ニ何分ノ御訓電ヲ請フ

二一一　二月二十四日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

山東鉄道ハ借款敷設ノコトトセラレタキ旨回訓ノ件

第一一六号

貴電第九〇号ニ関シ

御意見ノ次第ハ至極御尤モニシテ我方ニテモ強テ合辦敷設ヲ主張スル訳ニテハアラザルニ付将来ニ新例ヲ開カザル為次回ノ会議ニ於テ結局本件鉄道ハ我方ヨリスル借款ニヨリ敷設スルコトニ取極ムルコトニ相成様可然仕向ケラレ度シ

附属鉱山返還及賠償ノ要求ヲ提出シ来リ次テ本年一月五日付ヲ以テ更ニ右ニ関スル詳細ナル要求陳述書ヲ帝国政府ニ提出シ来リタルヲ指スモノニシテ右両回共米国大使館ニ対シテハ何等当方ノ意見ヲ開示スルコトナク単ニ領収ノ旨ノミ回答シ置キタリ委細ハ為御参考郵報スヘシ

尚二月十二日支那政府ヨリ提出ノ対案第二号ニハ我原案ノ「南満洲」ノ代リニ「東三省南部」ナル称呼ヲ用ヒ居レル処往電第五八号ノ通行政区劃トシテモ奉天省ノ管下ニ属スル区域カ漸次東部内蒙古ニ喰ヒ込ミ行ク関係モアリ又嘗テ遼河以西ハ我勢域タル所謂南満洲以外ナリトスル論モアリタル位故支那対案ノ通リ東三省ノ南部ト為シ置ク方或ハ却テ我方ニ取リ有利カトモ思考セラレザルニアラザルモ何故支那側ニ於テ右様「東三省南部」ナル文字ヲ用ユルコトヲ欲スル次第ナルヤ其ノ真意内々承知致置度ニ付適当ノ機会ニ於テ夫レトナク探ラレタク又「南満洲」ナルモノハ支那側ニ於テ如何ニ解釈シ居ル次第ナリヤ其辺篤ト御取調ノ上電報アリタシ

二一二　二月二十四日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

中国側対案第二條税関郵政電信守備兵及損害賠償問題竝南満洲ノ呼称ニ関スル件

第一一七号

貴電第八八号閣悉二月二十二日ノ談判ニ関シ左記諸項貴官御参考迄電報ス

㈠　支那対案第二條税関郵政電信守備兵等ノコトハ公文書ニテ取極メ差支ナキ旨一応貴官ヨリ答ヘ置カレタル趣ノ処貴電ノ如ク提案全部議了後愈々本件再議ノコトニ相成ル場合ニハ右ハ成ルヘク書面ニ認メザルコトニ致度萬已ムヲ得ザル場合ニ於テモ公文書ニヨル取極ト云フガ如キ形式ヲ執ラズ単ニ貴官言明ノ意味ヲ為念覚書的ノモノトシテ先方ニ交付シ置ク丈ニ止メ度且右ハ往電第八九号通リノ意味合トセラレ度シ尤モ其文言ハ豫メ請訓ノ上決定スルコト承知アリタシ

㈡　支那対案第二條損害賠償問題ニ関シ陸総長ハ独逸国ヨリ山東鉄道押収ニヨリテ生ジタル損害賠償要求ヲ日本政府ニ提出シタル旨述ベタル趣ノ処右ハ客年十一月十九日付ヲ以テ在本邦米国大使館経由山東鉄道会社側ヨリ同鉄道及

二一三　二月二十五日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

膠州湾還附問題ノ取扱ニハ独乙ノ官有地処分問題モ附随スベキニ付一層ノ注意方要請ノ件

第一一九号

貴電第八八号ニヨレハ膠州湾還附問題ハ結局提案全部ノ議了ヲ俟テ再議ニ附スルコトトナリタル趣ノ処本件ハ往電第八八号ヲ以テ申進置タル通リ我方唯一ノ代償條件ナルノミナラス最近青島軍司令部ニ於テハ其押収地図類ニ依リ独逸政府カ四方停車場附近ヲ起点トシ海泊河ヲ横リ台東鎮ノ東北方ヲ経テ「イルチス」山麓ヲ巡リ湛山ヨリ海岸ニ至ル一線以西ノ地ヲ買上ケ居ルハ勿論日独開戦前後ニ於テ右区域以外小湛山砲塁附近ノ土地約三十萬坪ヲモ買上ケ（別ニ四方停車場附近ニ山林地区トシテ約七萬坪ノ地所買収済ナリ）タル事実アルヲ発見シタルニ付実地調査ヲ為シタル処右境界線ニ相当スル地点ニハ何レモ標界石アルコトヲ確メタリ是等ノ土地ニシテ愈々独逸ノ官有地タル事確定セハ当然我ニ於テ継承スヘキモノナル可ク従テ租借地還附ノ際ニハ右土地処分等ニ関シテモ或ハ支那側ニ対シ別ニ條件ヲ提出スル必要モ有之ベキニ付右御含ノ上膠州湾還附問題ニ付

テハ此際軽々シク commit スルカ如キコトナキ様更ニ一層御注意アリタシ本件買収地ノコトニ付テハ為御参考委細郵報スヘシ

二一四　二月二十五日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

第四回会議ニ於テ談判ハ第一号三條以下第二号及ビ「東部内蒙古」ニ関シ論争シタル件

第九三号

二月二十五日午後二時三十分ヨリ第四回談判ヲ開ク列席員前回通本日ハ前回ニ引続キ第一号第三條鉄道問題ヲ討議ス支那側ヨリ豫期ノ通合辦鉄道ノ形式ハ交通部ノ章程ニ其ノ規程ナキヲ理由トシ且若シ合辦敷設ヲ日本国ニ許ストキハ独逸国ニ与ヘタル以上ノ権利ヲ認ムルコトトナル訳合ナリトテ最モ強硬ニ反対説ヲ固執セルヲ以テ本使ハ原案第四條開埠地問題ニ至リテ必然支那側カ地点選択及商埠章程自由制定ヲ主張スヘキコト尚日露戦役満洲善後條約議定ノトキノ如クナルヘシト豫想シタルニヨリ第三條合辦鉄道敷設ヲ譲歩スル代リ第四條ノ商埠問題ハ我修正説ヲ承諾セシムルニ関シ原則トシテ商埠地開放ヲ條約ニ於テ承認シ別ニ其地点ト章程ヲ日本国ト協議スル旨ノ公文取換ヲナスコトニ折合テハ如何ト提議シタルニ支那側ハ之ニ同意シ結局條約第四條「中國政府允諾為外國人居住貿易起見従速自開山東省内合意宜地方為商埠」ト規定シ別ニ公文又ハ覚書ヲ以テ「所有應開地點及章程由中國自定預先與日本公使接洽」ト取極ムルコトニ決シ雙方何レモ政府ノ決定ヲ俟テ次回ニ於テ確定スルコトトセリ

次テ商議ハ進テ第二号提案ニ入リタルヲ以テ本使ハ先ツ第二回会議ノ席上ニ於テ陸総長カ東部内蒙古ニ就テハ別ニ商議ヲナスト云ヒナガラ支那側対案ニハ全然之ヲ除去シタルハ如何ナル理由ニ依ルヤヲ詰問シ陸ハ之ニ答ヘテ前回ニ別ニ商議スト云ヒシハ支那ノ立場トシテ困難ナルヲ以テ商議ニ応ズベカラズトノ意ヲ寓シタル次第ナリト頗ル窮シタル詭弁ヲ弄シタルヲ以テ本使ハ商議ニ応ズルト云ヒシハ是レ当サニ応ゼザルノ趣旨ナリトハ奇怪千萬ノ論法ナリ天下豈ニ斯ノ如キ論法アランヤト励声其ノ不誠実ナル態度ヲ詰責シタル後地理上政治上等ノ見地ヨリ満蒙両地カ最モ密接ニシテ相離ルベカラサル関係アル所以ヨリ説キ起シ更ニ転ジテ日清日露ノ両大戦役ニ由リ数十萬ノ生命ト数十億ノ国帑

趣旨ニテ駈引上第三條商議ヲ後廻トナシ第四條ノ商議ヲ提言シタル所豫想通支那政府ニ於テハ頑強ニ其対案ヲ主張シ今回ノ場合ニ於ケル開埠ハ所謂商埠ナルヲ以テ其ノ地点選択ト章程制定ハ支那政府ノ自由タラサルヘカラスト論シ更ニ一商埠ヲ開ク毎ニ約百萬元ノ経費ヲ要シ既ニ開埠ヲ宣言シタルモノスラ今尚全部開放ノ運ニ至ラザル次第ナレバ仮令支那カ開埠ヲ約スルモ一時ニ多数ノ商埠ヲ開クコトハ殆ンド不可能ニシテ順次ニ自ラ適当ト認ムル地点ヲ選ビ徐々ニ外国貿易ノ為ニ開放ヲ行ヒタシト主張シ本使モ亦之ニ対シ一々凱切ナル駁撃ヲ加ヘ條約ニ依リ外国ノ勧告ニ依リ開キタル商埠ハ仮令條約文面ニ自ラ進ンデ開ク旨ノ意味アルモ之ハ 済南周村濰県若ハ龍口等ノ如キ支那政府自身ノ発意ニ依リ開放シタルモノト同一ニ論ズベキ性質ノモノニアラズ 満洲善後條約附屬協定ニモ 清国ハ自ラ進ンデ十六ヶ所ノ地ヲ開キタルモ其章程ハ豫メ在北京日本国公使ニ協議スルコトニ取極メタルニアラズヤ果シテ然ラバ今回ノ場合モ正シク満洲ノ場合ト同様ニ論ズベキモノナリト説明シ彼我論争一時間以上ニ上リ尚決定セザリシヲ以テ本使ハ第三條鉄道ノ件ハ合辦説ヲ譲歩シ借款主義ニテ商議スベキコトヲ日本国政府ヘ上申スベキニ付其代リ支那側ハ第四條ヲ費シテ確立シ得タル歴史上特別ノ日本国ノ地位ニ論及シ満蒙ニ於テハ今日既ニ日本国ガ動カスベカラザル優越ノ地位ヲ確立シタルコトハ世界各国何レモ之ヲ認メテ敢テ異トセザル所ナリ若シ萬一之ヲ認メズト云フモノアラバ夫レハ支那自身ナラント嘲ケリ往年五国銀行団大借款説ノ起ルヤ日本国ハ満蒙ノ租税ヲ以テ之レガ担保ニ供スルノ不当ナルヲ主張シ五国ト往復シ之ヲ容レシメタルガ如キ例ハ二三ニシテ足ラザルヲ以テ今ヤ日本国ハ此ノ事態ヲ支那ニ確認セシメ一ハ以テ将来ニ於ケル誤解紛争ノ発生ヲ防ギ一ハ以テ之ニ依リ益々両国々交ヲ親善ナラシメントスルニ外ナラズト説明シタルニ陸ハ南満洲ニ於ケル日本国ノ地位ハ満洲條約ニ基キ発生シタルモノナレバ今回ノ條約モ亦満洲條約ニ基キ其ノ範囲ヲ定メザルベカラズ是等ノ理由ト根拠ナク徒ラニ地域ヲ拡大シテ東部内蒙古ニ及ボサントシタルハ正当ニアラズ殊ニ南満洲ニ於テ支那ガ日本国ノ優越ナル地位ヲ認ムルハ門戸開放機会均等主義ニ反スルモノトシテ各外国ヨリ非難セラルル虞アルノミナラス各国モ亦同様ニ其勢力区域ニ付同様ノ要求ヲナスナキヲ保セズ斯クテハ誠ニ危険ナル状態ヲ誘致スルモノトシテ寒心ニ耐ヘザル次第ナリ成程南満洲ハ日清戦争ニヨリ一時日本国ニ割譲サレタル

ハ事実ナルモ是レハ還附ニヨリ日本国トノ関係ハ全ク消滅シタリ日露戦役ノ結果現行満洲條約成立シ之ニ依リ南満洲鉄道安奉鉄道吉長鉄道撫順炭礦旅大租借等ノ事柄確定セラレタリ日本国ハ日露戦役ノ犠牲ニ対シ十分相当スル利益ヲ満洲ニ於テ獲得セリ之レ以上ニ優越ノ利益ヲ与ヘ且條約上其優越ナル地位ヲ認ムルコトハ各国トノ関係上到底同意スル能ハズト述ベ極メテ強硬ニ且執拗ニ其主張ヲ支持シタリ

茲ニ於テ本官ハ更ニ先方ノ論点ニ詳細ナル駁撃ヲ加ヘ満蒙ニ於ケル日本国ノ優越ナル地位ニ均霑シ何レノ外国ガ何レノ地域ニ同様ノ要求ヲナス虞アリヤ両大戦役ヲ経テ満蒙ニ確立セル日本国ノ地位ニ比較スヘキ外国ハ何レニアリヤ之実ニ杞憂ニ過ギザルベシ兎モ角議論モ略ボ尽キタル様ナレバ之ニテ打切ル事トシ要スルニ第二号ハ日本国ニ於テモ最モ重要ナルモノトシテ重キヲ措クモノナルヲ以テ東部内蒙古ヲ條約ニ加フル事ト日本国ノ優越ナル地位ヲ認ムル事ハ最モ重大ナル意味アルモノニシテ此二点カ定マラザル限リ第二号ハ商議出来難キ次第ニ付支那政府ニ於テモ篤ト熟考ノ上同意セラルル事ト致度シト述ベ陸ハ此事ハ政府ニ於テモ熟議ノ上決定シタル所ナルヲ以テ再考ノ余地ナシト考フルモ兎モ角更ニ審議ヲ尽ス事トスベシト約シ午後六時会議ヲ終了セリ次回ハ来ル日曜日午後三時開会ノ筈

二一五　二月二十五日　在福州天野領事ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

日中交渉ニ関スル福建省ノ反響ニ付報告ノ件

第一号

日支交渉條件中ニハ福建省ニ関スル事項モ包含スル旨当初ヨリ喧伝セラレツツアルニ拘ハラス当地ニテハ本月十日前後ヨリ一部学生間ニ憤慨ノ言動ヲナシ次テ米国宣教師中煽動的演説ヲ試ムルモノアリタル外一般人民ハ表面丈ハ運動ケ間敷協議ヲナスモノナク経済的ニモ今日迄ノ処何等影響ヲ認メサル処官憲側ニ於テハ革命一派カ此ノ機会ヲ利用シテ蠢動スルノ虞アリト認メ居ルモノノ如ク本月初メ頃ヨリ巡警ノ夜間警邏ヲ厳密ニシ又交渉ノ成行ニ関シ官憲ハ近頃ニ至リ悲観的ニ傾キタル疑アリ閩江江口ノ防備ヲ厳ニシ三都澳ニモ視察員ヲ増派シタルカ如ク尚過日来馬尾ニ碇泊シタル軍艦四隻ハ海客ノ外最近出港シタル上本月二十四日抜錨セル鏧和ハ時局ニ関シ電報ヲ受ケ上海ニ向ヒタリトノ情報アリ御参考迄北京ニ転電シタリ

二一六　二月二十六日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

第四回談判ニ関シ開埠地関係ノ妥結文案及東部内蒙古問題ニ付回訓ノ件

第一二五号　極秘

貴電第九三号閣悉第四回会議ニ於ケル貴官ノ折衝宜シキヲ得テ幾分ノ進捗ヲ見タルハ本大臣ノ満足スル所ナリ開埠地ニ関スル條文案（第一号第四條）ハ異議ナキモ公文又ハ覚書案ハ「所有應開地點及章程中國政府與日本公使預先妥商決定」ト改メタク何レモ確定スルコトハ全部議了ノ上他ノ條項ト同時トスルコトニ致シタシ尤モ支那側ニ於テ右修正案ヲ認メタル上確定ヲ欲スルニ拘ハラス我方ニ於テ之ヲ拒ムコトハ面白カラスト思考セラルルニ於テハ修正案ノ如クナレバ確定セラレ差支ナシ第二号東部内蒙古ヲ南満洲ト同様ノモノト認メシムルコトハ御承知ノ通リ帝国政府ニ於テ極メテ重要ノ義ト思惟スル次第ニ付尚此上共右目的貫徹方御尽力アリタシ貴官ノ御努力ニモ拘ハラス尚先方ニ於テ其主張ヲ固執シ談判進捗セサルニ於テハ東部内蒙古ニ関スル争点ハ我優越ナル地位ヲ認メシムルコトト共ニ交渉ノ最後ニ回ハスコト然ルヘクト存スルニ付右御含ノ上其点ノ折合

付カサルガ為メ談判行詰リトナルコトヲ避ケラレ右争点ヲ後回ハシトナシ其次ノ條項ニ移ラルルヤウ致サルルコト得策ナルヘキカト思考ス其辺貴方ニ於ケル実際ノ状況ニ応シ取捨セラルベキコトトナルモ御参考迄申進ズ貴電第八八号（七）及第九〇号ニハ両鉄道云々ノ文字見ユルトコロ芝罘若クハ龍口ト膠済鉄道トヲ聯結スル鉄道ハ一線ナルコト申迄モナキ義ニ付為念申添ユ

二一七　二月二十六日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

我対中国提案第五号内告ノ為ノ英国公使トノ会談ニ付報告竝同公使ニ対スル本邦新聞紙ノ批難ニ関シ意見開陳ノ件

第九四号

貴電第一一二号及第一一三号ノ件ニ関シ別ニ御訓令ナキモ参考ノ為英国公使ニ内話シ置クコト利益ナラント思考シ貴電第一〇五号御訓令ニ依リ我提案第五号内容通告ノ序之ニ談及セント欲シ二月二十五日同公使ヲ訪問セリ本使ハ先ヅ帝国政府ガ曩ニ内示シタル條件ト同時ニ第五号ヲ通告セザ

リシ理由ヲ説明シ其内容ニ及バントシタルニ「ジョルダン」ハ右ハ已ニ新聞紙ニ依リ明瞭ナレバ其要ナシト云ヘルニ付本使ハ稍意外ニ感ジタルモ態ト追窮スルコトヲ避ケ各項ニ亘リ追次ノ説明ヲ見合セ只第一第三第四項等ニ関シ世間ニ伝ハリ居ル誤解ノ点ヲ説明シ更ニ貴電第一一二号及第一一三号ノ内容概略ヲ内話シタルニ同公使ハ右ノ内ニ同公使ノ接受シ居ル報告ト相違ノ点アリト云ヒタルニ付之ヲ指摘センコトヲ求メタルモ本問題ヲ論議スル権能ヲ有セズ且誤解ヲ招ク虞アルニ付一切沈黙ヲ守ルベシ但シ此ノ通告ニシテ若シ公式ノモノトセハ職務上自分ノ了解ヲ述ベザルベカラズト云ヘルニ依リ本使ハ我外相ト在日本英国大使トノ会見ニ関スル件ハ全ク自分一己ノ発意ニテ内話シタル迄ニテ何等公然ノ性質ヲ帯ビタルモノニアラズト告ケ置ケリ右会見中英国公使ハ始終稍亢奮セル態度ヲ持シ第五号鉄道問題ニ談及スルニ至ルヤ右線路ノ或部分ハ現ニ英国ガ獲得シ居ルモノナリト述ベ其語調聊カ強ヨマルヲ認メタリ又第四項兵器問題ニ関シテハ機会均等主義ニ牴触スルコトナキヤト軽ク詰リ第三項警察問題ノ説明ヲ聴キ頗ル不審ノ感ヲ抱ケルガ如キ態度ヲ示シタリ

之ヲ要スルニ英国人ハ我提案ノ第五号第五項ニ対シ特ニ不快ノ感ヲ抱クモノト認メラルルノミナラス各国共ニ同号第一第三第四ニハ多少注意ヲ払フモノノ如ク露国書記官Grave　ノ如キモ小幡ニ対シ第一項ノ如キハ露国ニ於テモ重要ノ関係ヲ有スルヲ以テ其成行ニ最モ注意シ居ル次第ナリト述ヘタル由ナリ将又近来本邦新聞紙中ニハ駐支英国公使ノ挙動ヲ批難セル社説等往々記載セラルルヤニ見受ケラルル処右等批難ハ事実誤解若ハ邪推ニ基クモノ尠カラザルト同時ニ同盟国代表者ノ行動ヲ公ケニ批評スルガ如キハ種々ノ点ニ於テ頗ル面白カラサルコトナルノミナラス其実際ノ結果ハ同公使ヲ怒ラセ自然一般英国人ニ不快ノ念ヲ与ヘ延イテ我ニ対スル反抗心ヲ強ムルニ外ナラスト信スルニ付出来得ベクムハ之ヲ防止スルコト得策ナラント思料ス

二一八　二月二十八日　在北京町田陸軍少将ヨリ長谷川参謀総長宛（電報）

兵器問題ニ関シ段陸軍大臣及唐参謀次長トノ談話ニ付報告ノ件

電報　支北電第四十一号

北京　大正四年二月二十八日発

同　年同月同　日受

昨年小官カ北京着任ノ際陸軍大臣段祺瑞ヲ訪ヒ支那兵器統一竝其製造機関改良拡張ノ必要ヲ説キ之ニ関シ日本ハ出来得ル丈ケノ助力ヲ惜マサルヘキ旨ヲ述ヘタルニ陸軍大臣ハ兵器ノ統一ト改良ハ切実ニ其必要ヲ認メ居ルモ目下支那財政ノ困難ト加フルニ欧洲大乱後外貨ヲ得ルノ途杜絶シタル為現ニ徳州兵器製造所ノ如キモ目下運転中止ノ有様ナルカ将来何トカシテ良方法ヲ案出シ其目的ヲ達シ度旨ヲ答ヘタルコトハ其当時既ニ報告セシ所ナリ今回対支要求條件第五号ニ於テ支那軍隊ニ要スル兵器ノ半部以上ヲ日本ヨリ入レ又ハ日支合同調辦ヲ以テ兵器製造所ヲ起スコトヲ要求シアルハ御承知ノ通リナリ然ルニ本件ハ支那側ノ全ク拒絶スル所トナリ居レリ聞ク処ニ依レハ其原因ハ陸軍側殊ニ段祺瑞一派ガ凡ソ一国ノ兵器ハ其国自ラ製造シ得ルニアラザレハ国家ノ工業経済上ノ不利ナルノミナラス若シ不幸ニシテ一朝其兵器ノ供給ヲ受ケ居ル某外国ト戦ヲ開クガ如キコトアル場合ニハ忽チ大困難ヲ被ルニ至ル等ノ説ヲ主張スルニ依ルモノノ如シ依テ其要求ヲ貫徹センニハ先ツ右ノ如キ兵器独立説ヲ根底ヨリ説破スルノ必要ヲ感ス

昨日小官ハ統率辨事所総務長兼参謀次長唐在礼中将ヲ訪ヒ（同中将トハ豫ネテ懇意ニ交際シアルヲ以テ）先ツ兵器統一事業カ支那軍隊ノ為目下ノ急務ナルヲ説キ彼ノ同意ヲ得ルヤ尚進ンテ一国兵器ノ独立ハ固ヨリ必要ナルモ兵器製造機関ノ改良拡張ニハ第一多額ノ資本ヲ要シ第二ニ熟練ナル監督者技師職工等ヲ得サル可カラス此等ノコトハ多年ノ経験ヲ積ムニアラサレハ一朝一夕ノ能クスル所ニアラサルヲ以テ支那ハ今日ヨリシテ既ニ一大決心ヲ以テ之ニ著手セサル可ラス勿論此等製造機関カ充分ニ其供給能力ヲ発揮スル迄玆数年間ハ是非共某外国ニ注文シテ既設軍隊ノ廃損兵器ノ補充ヤ新設軍隊ノ兵器供給ノ途ヲ有セサル可カラス之レカ為ニハ先ツ国軍兵器ノ制式ヲ統一セサル可カラス軍隊カ兵器統一ヲ缺キ乃チ各種制式ノ銃砲ヲ用ヒアル時ハ平時ニ於ケル供給保管竝訓練教育ノ不便煩雑ナルハ勿論戦闘向弾薬ノ融通補充ノ便ヲ缺キ遂ニ戦敗ノ因ヲ来シタルコト古来其例ニ乏シカラス惟フニ将来日支両国ハ相提携シテ東洋ノ安寧ヲ保持セサル可カラサルヲ以テ相互ニ同一兵器ヲ用ヒテ弾薬ノ補充融通ノ便ヲ謀リ置クコトハ極メテ必要ニシテ又単ニ之レヲ支那ノ為メニ計ルニ兵器ノ制式ハ此際日本式ニヨリ一定スルコト得策ナルヘシ何トナレハ従来支那軍隊ノ大部ハ既ニ日本式銃ヲ有シ又支那将校中ニハ日本ニ於テ教育ヲ受ケタル人々多ク支那ノ軍隊ノ編制教育法ニ於

テ概ネ日本式ニ範リツツアリ又日本ハ職工ノ賃金ヤ物価ニ於テモ欧米ノ比ニアラサルヲ以テ従テ兵器ノ価格モ低廉ニシテ其品質ハ最新式ニシテ良好ナルノミナラス距離ノ関係上運賃モ低廉ニシテ供給モ容易ナル等ノ諸利アリ之レニ加フルニ目下日本砲兵工廠ニ於テハ若干ノ製造余力アルヲ以テ工廠経済的利用ノ関係ヨリシテ殆ント原価ヲ以テ支那ノ注文ニ応シ得ヘク尚要スレハ右兵器現金払ニ換フルニ或ル担保品ノ下ニ借款ノ形式トスルコトモ出来得可ク又支那ノ兵器製造機関改良拡張若クハ新設ニ要スル資本ノ如キハ此際何トカ日本ニ於テ都合シ得ヘク而シテ支那ハ既設工場ヲ担保トシテ之ヲ提供シ得ヘク又日本ニ於テハ多年養成シタル熟練ナル技師職工等ノ数ニ乏シカラス且ツ応用シ得可キ兵器製造機械等モ勘カラサルヲ以テ之レ亦支那ノ兵器製造事業ニ利用シ得ヘク斯ノ如クシテ日支合辦的兵器製造事業カ漸次発展シ得ルニ至レハ一定ノ年限ノ下ニ支那ハ日本ノ投資ニ係ル資本ヲ償却シ得ヘク且ツ此間ニ於テ多数ノ熟練ナル自国技師職工等ヲ養成シ得可キヲ以テ其兵器ノ独立玆ニ至リテ始メテ達成シ得可キハ信シテ疑ハサル所ニシテ従来新進諸国カ其兵器独立ノ域ニ達シタル経過ハ多クハ以上ノ如キ方法ニ依レル次第ナルヲ以テ本件ノ如キハ為シ

得レハ日本ノ要求ニ依リ余儀ナクサレタルコトヲ避クル為メ寧ロ支那側ヨリ進ンテ相談ヲ持チ懸ケラルルノ形式ヲ採ラルルコト得策ナル旨ヲ懇々説明シ尚ホ此事ハ都合シ以テ大総統竝段陸軍大臣ニモ参考ノ為申シ置カレ度旨述ベ置キタルニ唐中将ハ能ク其意ヲ諒シタリ

註　右電報ハ三月一日参謀総長ヨリ外務大臣ニ送達セラレタリ

二一九　三月一日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

第五回会議ニ於テ我提案第一号山東鉄道、開埠地及第二号東部内蒙古ノ諸問題ヲ商議シタルニ付其経過報告ノ件

第一〇二号

二月二十八日午後三時本使ハ外交部ニ赴キ第五回談判ヲ開ク雙方出席員前回同断本日ハ前回ニ引続キ第一号第四條商議ヲ継続シ本使ハ先ツ前回談判ノ結果ヲ政府ニ報告シタル所政府ヨリ第四條ニ於テ規定スヘキ條約文案ハ前会議ニ於テ商定セル通ニテ異存ナキモ別ニ交換スヘキ文書案ニハ

「支那政府與日本公使預先妥商決定」トスルコトニ商議スヘキ旨回電アリタリトテ右案文ヲ陸ニ手交シ同意ヲ求メタルニ陸ハ更ニ満洲條約附屬協定ノ例ニ準拠シ「所有應開商埠及章程由支那政府自定與日本公使妥商」ト取極メテハ如何ト提議セリ右陸ノ主張ニ対シ本使ハ満洲條約ノ文例ハ必スシモ準拠スヘキ最善ノ例トモ考ヘラレズ之レヲ理論上ヨリ観察スルモ商埠地点及章程支那政府自ラ之ヲ定メ日本国公使ト妥商ストアル以上ハ是等ノ事項終局決定スルハ日本国公使ノ妥商ヲ待タサルヘカラス結局支那政府ノ自カラ定ムト存置スルモ終局ノ決定ヲ意味セス甚タ論理ニ合ハザル所アルヲ以テ之ハ矢張リ日本国政府修正案ノ如クニ取極ムル方穏当ト考フル旨ヲ指摘シテ我主張ヲ支持セルモ陸ハ種々説明ヲ試ミタル末支那側ノ文案ニ自定トアルハ自ラ地点及章程ヲ擬定シ日本国ニ妥商スルノ意味合ナレハ其意味ヲ今少シク明カニ「所有應開地點及章程中中國政府自行擬定與日本公使預先妥商」トスルモ一案ナラントテ案文ヲ本使ニ手交シタルヲ以テ本使ハ前議ヲ支持シ更ニ論スル所アリ結局支那側ノ謂フ所ハ第四條ニ附随スル覚書又ハ公文ノ文句ハ第三條ノ鉄道問題ニ関聯シテ話合ヲ進メタル行懸アルニ付第三條ニ於テ日本側カ支那側ノ主意ヲ十分考慮セバ

支那側ニ於テモ第四條附屬文書ノ文句ヲ今少シ日本国ノ意志ニ叶フ様修正スルモ苦シカラザルベシト述ベタリ之ニ対シ本使ハ第三條鉄道問題ニ付テハ合辦敷設案ヲ（脱字）政府ヨリノ回訓ニ接セルニ由リ第四條ハ我方修正案ニ同意セラレタシト述ベタルモ支那側ハ第三條ニ関シ日本カ支那側対案ヲ其儘同意スルニ於テハ第四條ニ就テハ何トカ工夫ヲ試ムヘシトテ頻ニ第三條ニ対スル我修正案ノ内容ヲ知ラント欲スル模様ナルニ付本使ハ之ヲ容レ第四條我方修正案ハ十分ニ再考セラレタシト述ヘ更ニ日本国政府ニ於テハ第三條ニ就テハ特ニ支那政府ノ意志ヲ諒トシ合辦敷設案ヲ譲歩シ本條ハ借款主義ニヨリ商議スルコトニ決定シ修正案トシテ支那政府ハ日本国政府ト協議ノ上龍口又ハ芝罘ヨリ膠済鉄道ノ或地点ニ聯絡スル鉄道ヲ日本国ノ資本ニ依リ敷設スルコトヲ承認スト取極メタキ希望ナリ日本国ニ於テハ既ニ敷設権案ヲ譲歩シテ合辦敷設案トナシ更ニ之ヲ譲歩シテ借款主義ニテ商議スルコトトナシタル次第ナルニ付支那側ニ於テモ日本国ノ誠意ヲ諒トシ速ニ之ヲ同意セラレンコトヲ望ム旨附言説明スル所アリタリ然ルニ支那政府ニ於テハ大体我修正案ノ趣旨ヲ容レタルモ依然烟灘鉄道ニ関シ独逸国ニ与ヘタル借款優先権ヲ顧慮シ必ス本條中ニ其意味ノ

規定ヲ存シタシト主張シ結局第二次修正案トシテ「中國政府允准自行建造由烟臺或龍口接連膠濟路線之鐵路如德國願拋棄烟濰鐵路借款權之時可向日本資本家商議借款」トセシヲ提議シタルニ付本使ハ独逸国ノ借款優先権抛棄ノ場合ハ第一條ノ規定ニ含マルルヲ以テ條約中ニ之ヲ規定スルノ必要無之ト認ムルモ支那側ニ於テ必ス其必要ヲ主張セラルルナラバ此事ハ條約以外ニ別段ノ方法ヲ以テ取極ムルモ差支ナキモ支那側第二次修正案ノ如クスレハ龍口ヲ択ブカ芝罘ヲ択ブカ支那政府ノ勝手トナリ結局日本国ノ意志ニ反スル結果ヲ生ズルモ難計故ニ此点ハ是非共修正案ノ如ク日本国政府ト協議ノ上云々トセザルベカラズト主張シ彼我ノ間ニ数刻ノ論難弁駁ヲ交ヘタルモ要スルニ幾回モ同様ノ論拠ト主張トヲ繰返スニ過ギザル次第ナルヲ以テ本使ハ我方ノ修正案ニ付次回ノ会議迄ニ支那側ノ十分考慮ヲ促シ更ニ論議ヲ第二号ニ進メテ同号ノ「プレアンブル」中ニ於テ満蒙ニ於ケル我優越ノ地位ヲ認ムル旨ヲ記載スルコトハ前回ニ於テ未決ノ儘支那側ノ熟考ヲ請ヒ置ケル所右ハ如何ニ詮議成リタルヤ承知シタシト尋ネタルモ陸ハ満蒙ニ於ケル日本国ノ優越ナル地位ヲ認ムルコトハ東部内蒙古ノ問題ト共ニ支那政府ニ於テ再応熟議ヲ経タルモ何分事重大ニシテ日本国ノ希望ニ応ズルコトヲ得ザルハ深ク遺憾トスル所ナリ先ツ第一ニ優越的地位問題ハ各国トノ條約上機会均等ニ反シ且支那ノ領土内ニ或ル外国ノ優越ナル地位ヲ承認スルコトハ領土主権ヲ傷クル虞アリ支那トシテハ到底同意ノ余地ナク将又東部内蒙古ノ事ニ関シテハ元来日本今回ノ要求ハ何等條約上ノ根拠ナク支那トシテハ南満洲ノ事ハ南満洲ニ関スル條約ニ基キ日本国ノ要求ヲ斟酌スルコトニ応ジタル次第ナルモ東部内蒙古ノ事ハ何等斯クノ如キ條約上ノ関係モナキコトナレバ是亦何分ニモ要求ニ応シ難ク之レヲ要スルニ優越ナル地位云々ノ問題ハ機会均等ニ反スルコトナリ支那トシテハ條約上各国平等均一ニ待遇シ居ルニ拘ハラス若シ新タニ日本国ニ斯クノ如キ地位ヲ認ムルニ於テハ各国待遇ニ不均等ヲ来シ競ヒテ各国同様ノ要求ヲナス虞アリ旁々支那政府ノ困難ナル立場ハ幾重ニモ之レヲ諒セラルヘキコトヲ望ム旨ヲ述フル所アリ其ノ態度中ニ強硬ナルヲ認メタリ依テ満蒙ニ於テ我カ優越ナル地位ヲ認ムルコトハ機会均等ニ反スト云ハルルモ之レカ何レノ條約ニ反スル訳ナルカ甚タ了解ニ苦シム所ナリ元来旅大租借ト云ヒ南満洲鉄道ト云ヒ孰レモ日本国ノ優越ナル地位ノ表彰ナリ此ノ事実ヲ條約上確認スルニ何等故障ノアルベキ筈ナキナリ各国カ日本国ニ倣ヒ要求ヲナス虞アリト説明セラルルモ前回ニモ述ベタル通リ各国中何レノ国カ何レノ部分ニ於テ日本国ト同様ノ優越ナル地位ヲ有シ居ル次第ナルヤ是等ノ事ハ実ニ杞憂ニ過ギザルナリ将又今回ノ提案ハ満洲條約ニ基ク云々ノ言アルモ日本今回ノ要求ハ必ズシモ満洲條約アル為メニアラズ日本国ハ日本国ノ満蒙ニ於ケル実際上ノ地位及現状ニ顧ミ此ノ要求ヲ必要トシ提出シタル次第ニシテ條約ノ有無ハ必ズシモ深ク問フ所ニアラザルナリ

兎モ角優越ナル地位ノコトト東部内蒙古ノ件トノ二点ハ帝国政府ニ於テ最モ重要視シ居ル所ナルヲ以テ支那政府ニ於テモ最モ serious ナル考慮ヲ加フルヲ得策ト考フル旨重ネテ警告シ置ケリ右本使ノ謹厳ナル態度ヲ以テセル警告ニ対シテハ陸ハ支那政府トシテハ本件ニ関シ出来得ル丈ケノ研究出来得ル丈ケノ考慮ヲ加ヘ慎重ナル詮議ノ結果不同意ト決定セル次第ニシテ此上考慮ヲ加フル余地ハ萬無之モ折角ノ警告ナルニ付兎モ角今一応十分ナル考慮ヲ加フルコトトスベキモ日本国ハ南満洲ニ於テ旅大租借鉄道敷設権等ニヨリ其優越ナル地位ヲ現実ニシ居ルヲ以テ必ズシモ支那ノ苦痛トスル所ヲ顧ミズ之ヲ條約ノ明文ニ存スルノ必要モナカルベク将又東部内蒙古ノコトハ満洲原約ニ基ク義ニモ無之新ニ地域ヲ拡大スル訳ナレハ此点モ支那政府ニ於テ最モ苦痛トスル所ナルヲ以テ此困難アル窮状ハ兎モ角日本国政府ヘ委曲転達アリタシト再三懇願ニ及ベリ本日ノ会議ハ大要右ノ如ク午後十一時散会次回ハ来ル水曜日午後三時開会ノ筈

二二〇　三月三日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

第六回会議ニ於テ提案第一号山東鉄道及開埠地、第二号東部内蒙古及安奉鉄道期限ノ諸問題討議ノ模様竝印象ニ付報告ノ件

第一〇六号

三月三日午後三時ヨリ外交部ニ於テ第六回談判ヲ開キ前回ニ引続キ第一号第三條第四條ヲ討議ス本日ハ先ツ陸総長ヨリ第四條ノ附属文書ノ案文ハ熟議ノ結果更ニ左ノ通修正案ヲ提出ストテ「所有應開地點及章程由支那政府自擬與日本公使預先妥商決定」ト記載シタル紙片ヲ本使ニ手交シ意見ヲ求メタルニ付豫テ本條ヲ未確定ノ儘据置可然旨御電訓ノ次第モ有之且ハ支那側ノ新修正案モ略ボ我主張ノ趣旨ヲ容

レタルモノト認メ差支ナク従テ本使ニ於テ強テ反対スル必要無之ニヨリ支那側ノ修正案ニ対スル可否ハ之カ言明ヲ避ケ軽ク受ケ流シ置キタル所先方ヨリハ好都合ニモ第三條ニ関シ日本国政府ノ御意見ハ如何決定シタルヤト更ニ畳掛ケ質問シタルニ付本使ハ第三條ノ件ハ支那政府カ日本国政府ト協議ノ上芝罘又ハ龍口ヨリ膠済鉄道ニ関聯スルコトヲ承諾スルニ於テハ別ニ文書ヲ以テ烟濰鉄道ニ対シ独逸国ノ有スル借款優先権放棄ノ場合ニ関スルコトヲ取極ムルコトニ異議ナキ旨ヲ答ヘ置ケリ右ニ対シ陸ハ例ニヨリ支那政府ノ立場ヲ訴ヘ独逸国ノ借款優先権ニ関スル取極ハ貴意ノ通取計フヘキニ付芝罘ヨリスルカ龍口ヨリスルカ線路ノ選択ノ権ハ支那政府ノ自由ニ任セラレタシ是レハ支那政府鉄道自営権能ヨリ生スル当然ノ結果ナルノミナラス線路ノ経過スヘキ地点等ハ支那政府ニ於テ地方商務ノ実情ヲ篤ト考察シ之レヲ定ムヘキ必要アルニヨリ此点ハ篤ト日本国政府ノ諒察ヲ祈ル次第ナリトテ又々執拗ニ其ノ所説ヲ支持セムトスルニヨリ本使ハ第四條ニ対スルト同様貴電ノ趣旨ヲ体シ態ト論議ヲ闘ハスコトヲ避ケ日本国ニ協議ノ上線路ヲ定ムルコトハ絶対的ニ必要ト認ムルヲ以テ考量ノ余地ナシト信スルモ是非希望セラルルニ於テハ政府ノ意見ヲ確メ見ルタルニ付本使ハ透カサズ然ラバ支那政府ニ於テハ外蒙古ニ於ケル露国ノ地位ト南満洲ニ於ケル日本ノ地位トヲ同様ニ見ラルル次第ナルヤト突込タリ陸ハ本使ノ此質問ニ対シ前言ヲ誤魔化シ日露ノ地位同様ト云フニアラス其事態カ似寄レルト言フ迄ナリト逃ケ兎モ角日本国ノ優越ナル地位ヲ認ムルコトハ如何様ニモ困難ノ事情アリ又東蒙ノコトハ南満ト事態ヲ異ニスルヲ以テ日本国ニ於テ切ニ其主張ヲ撤回セラレンコトヲ望ムト述ベタリ之ヲ要スルニ本件ニ関シ陸ノ所説ハ殆ド前回ニ於テ述ベタル所ヲ反覆繰返スニ過キサルヲ以テ本使ハ何時迄モ論議ヲ継続スルモ詮ナキモノト認メ支那側委員ニ対シ陸ノ所説ノ一モ日本国ノ主張ヲ動カスニ足ルモノナキニ依リ日本国ハ飽迄其主張ヲ変ゼズ強硬ニ之ガ貫徹ヲ期スル決心ヲ有スル旨ヲ告ゲ議事進行ヲ促シ其同意ヲ得進テ第一條ノ討議ニ移レリ

第一條ニ付テノ本使ヨリ先ツ支那側ノ対案ハ大体同意ナルモ安奉鉄道期限延長ヲ承諾セザル理由ト南満洲鉄道全部ヲ支那ニ還附スヘキ期限ヲ九十九ヶ年トシタルハ無償取得ノ場合ト買戻ノ場合ト其ノ期限ヲ区別セザル趣旨トナルヤ否ヤ是ノ二点ニ対スル支那側ノ意見ヲ承知シタシト述ヘタルニ陸ハ還附期限ヲ九十九ヶ年トシタルハ無償取得ノ場合ヲ

ベシト軽ク答ヘ問題ヲ第二号満蒙ノ件ニ移シ更ニ本使ハ従来ノ主張ヲ支持シテ前会議ノ節陸総長ハ革命動乱当時露国ハ外蒙古ヲ使嗾シ独立ヲ宣言セシメタル行懸上支那ハ露国ニ対シ外蒙古ニ於テ或ル地位ヲ認ムルノ已ムヲ得ザルニ至リシ事情ヲ説明セラレタル所元来革命乱勃発当時支那ノ大半ハ紛々トシテ恰モ鼎ノ沸ク勢アリシニ拘ラス南満ト東蒙トカ乱離ノ禍ヲ免レ得タルハ全ク日本カ何等野心ヲモ包蔵スルコトナク終始公明正大ノ態度ヲ持シ努メテ此両地方ノ秩序維持ニ留意シタルト日本カ此方面ニ特殊ノ地位ヲ有セシ結果ニ外ナラス若シ萬一日本ニシテ此機会ニ乗シ或種ノ行動ヲ取リタランニハ南満洲モ東蒙モ或ハ今日ノ外蒙古ト同様ノ運命ニ遭遇シタルヤモ計ルヘカラス就テハ日本国ノ此公明正大ナル心事ト其優越ナル特殊ノ地位ニ顧ミ支那政府ハ速ニ痛切ナル考慮ヲ加ヘ満蒙ニ於ケル我優越ナル地位ヲ確認シ第二号ヨリ東蒙ヲ除外セラレタル意志ヲ翻サンコトヲ重ネテ警告スル次第ナリト論シ支那政府熟考ノ結果ハ如何ナリヤト質問シタルニ陸ハ革命乱当時ニ於ケル事情竝日本国ノ態度ハ誠ニ貴説ノ如シ兎モ角支那ニテハ外蒙古独立ノ結果露支協約ノ成立ヲ見将又此等事情ノ為支那ハ今回南満洲ニ関シ條約締結ノ商議ニ応スル次第ナリト答ヘ意味シ買戻期限ハ原約通三十六ヶ年トスル趣意ナリ是レハ日本国ノ原案ニ区別シアラザリシト今一ツノ理由ハ既ニ他ノ点ニ付多大ノ譲歩ヲナシタル以上此ノ位ハ日本国ノ譲歩至当ト考ヘタルニ依ル将又安奉鉄道期限ノコトハ元来本線ハ日露戦争当時軍用上一時敷設シタルモノヲ認メ改築ヲ承諾シタルモノニシテ露清條約ニヨリ発生シ日本国カ露国ヨリ継承シタル南満洲鉄道ト其ノ性質来歴ヲ異ニスルヨリ南満洲鉄道ト一律ニ論ズルヲ得ズ之トテ支那政府当初ノ考ハ絶対的ニ拒絶スル筈ナリシモ貴公使切実ナル勧告モアリタルニヨリ更ニ熟議ノ上対案第二條ノ如ク同鉄道期限満了シタル時更ニ期限延長ノ辨法ヲ商議スヘキ事ヲ承諾スルニ修正シタル次第ナリト答弁セリ仍テ本使ハ更ニ之ヲ駁シ南満洲鉄道ニ付テハ還附期限ヲ延長シナガラ買戻期限ヲ延長セザルハ主義一貫セザルノミナラズ対案條文書方ノ如キ甚シキ誠意ヲ缺キタル跡歴々タルモノアルハ甚ダ不満ニ感ズル所ナリ若シ夫レ安奉鉄道ガ満洲善後條約ニ基キ露清協約ニ胚胎シタル南満洲鉄道ト其性質来歴ヲ異ニスルト云フニ至リテハ詭弁モ亦甚シト云ハザル可カラザル次第ニシテ其ノ来歴ノ如何其ノ性質ノ如何ノ如キ目下ノ現状ニ於テ必ズシモ深ク問フヲ要セス今日ノ実際問題トシテハ安奉鉄道

ハ其ノ交通関係ニ於テハ日本ヨリ朝鮮ヲ経由シテ満洲ニ至ル大幹線ノ一部分ヲナシ将又其ノ鉄道系統ニ於テハ当然南満洲線ノ支線トシテ統一経営セラルベキモノニシテ到底之レヲ分離シテ見ルベキ何等ノ理由ナキモノナルヲ切言シタルニ支那側ニ於テモ或ハ種々徹底セザル詭弁ヲ弄シ或ハ支那政府ノ民間ニ対スル思惑ニ訴ヘ彼レ弁シ我レ駁シ論難頗ブル多岐ニ亘リタルモ本使ガ頑トシテ先方ノ主張ニ耳ヲ傾ケザリシ結果遂ニ支那側ニ於テ最後ニ安奉鉄道期限延長問題ハ今一応詮議スヘキモ到底九十九ヶ年ト云フガ如キ長期延長ニハ同意スルコトヲ得ズト述ベ尚南満洲鉄道ノ買戻期限ハ支那側対案ニ同意ヲ希望スト云ヘルニ付本使ハ安奉鉄道ニ付我提議ニ同意セハ南満洲鉄道買戻期限ヲ一倍シテ七十二箇年トスルコトハ何トカ考慮ノ余地ナキニアラズト考フル旨答ヘ置ケリ本日ノ会議ハ右ニテ結了ス時ニ午後六時次回ハ来ル土曜日開会ノ筈本日ノ会議ニ依リ本使ノ得タル印象ニ依レハ第二号第一條討議ノ際ニ於ケル支那側ノ与ヘタル説明ハ頗ル誠意ヲ缺クモノアリト思ハシメタルノミナラズ対案起草ニ方リテ最モ巧ミニ我ヲ瞞着セントシタル苦心ノ痕歴々タルモノアルヲ見ルニ至リテハ我ニ於テ最

重要トスヘキ第二号ノ進行上憂慮ニ堪ヘザルモノアリ将来談判ノ進行中適当ナル問題ヲ切掛（キッカケ）ニ強力ナル威嚇手段ヲ講ズルニアラズバ本号殊ニ第二條第三條ノ如キハ到底我主張ノ貫徹ヲ期スベカラザルヤニ感ゼラル

二二一　三月四日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛

中国新聞ノ論調ニ関シ報告ノ件

公信第六四号（機密）　（三月十五日接受）

大正四年三月四日

支那新聞論調続報（自二月廿三日至三月四日）

轟々烈々最後ノ一戦ヲ試ム可シトカ彼ノ要挟ヲ容ルルモ亡ヒ容レスシテ戦フモ亦タ亡フトセハ寧ロ玉トナツテ砕ケ戦ウテ亡フノ勝レルニ如カズトカ或ハ夫レ寧ロ欧米ノ奴隷トナルモ日本ノ犬馬ト為ルニ忍ヒス抔発作的激越悲憤ノ常套語モ今ヤ漸ク種切レト為リシモノニヤ各漢字新聞ノ社説中ニ此ノ種ノ激語ヲ見ル漸ク稀レナルニ至レリ而カモ二月二十二日我カ逐條討議宣言以後ノ漢字新聞ハ一斉ニ互譲円満解決ノ望ミアル旨ヲ記述シテ比較的鎮静ニ傾キツツアルモ

ノニ似タリ之レ支那政府側ハ我方カ最初大体承認ヲ卒直ニ主張シナカラ支那側カ第五号案ニ対シテハ飽迄拒絶ノ意ヲ表シタルニ不拘我方ハ其ノ儘具体的討論ノ宣言ヲ為シ強硬従容談判ヲ実行セシメタル態度ハ少ク共我方ノ主張ニハ十分退譲ノ余地アルモノト先方ヲ感セシメタルト而カモ我方退譲ノ裏面ニハ或ハ第三者ノ忠告或ハ警告アルニアラスヤ抔牽制的ノ誤測ヨリ且ツハ輿論ノ煽動ト局部的ノ盲動トハ事態ヲ却ツテ紛糾セシメ支那自身大局ノ利害危険ヲ益々重大ナラシムルコトヲ覚知セルハ勿論ニテ本使屢次ノ警告モアリ漸ク鎮撫ノ手段ヲ講スルニ至レルモノナルハ二月二十二日内務部カ外交部ノ照会ニ基キ特ニ二十一日ノ黄鐘日報（機密第五〇号既報）記事ヲ指摘シテ之レ観聴ヲ淆惑スルモノナレハ警察総監ヨリ各新聞社ニ通達シ爾来此種ノ記事ハ一切登載ヲ禁止ス可キモノナリトテ警察総監呉炳湘ヨリ通達ヲ発セシメタルカ如キ又二月二十四日漢口通信電報所報ノ如ク同地方長官ハ日本ノ要求ハ世間ノ伝フルカ如ク激烈ノモノニアラス政府ハ正ニ極力折衝中ナレハ国民ハ安心シテ可然トノ告示ヲ発シ輿論ヲ鎮圧セル又近クハ留日学生輩カ狂呼運動ヲ開始セルニ関連シ教育部ヨリ諄々懇切ノ通告文ヲ発シテ戒訓慰撫ヲ加ヘタル等正ニ其徴證ト見ル

可キナキ歟而カモ当地新聞社界ニ見レハ一二ノモノハ依然トシテ揣摩激越ノ文章ヲ掲ケテ日本ヲ攻撃罵詈スルアルノミナラス一般ノ記事振リニ至レハ勉メテ排日的筆鋒ヲ弄シテ観聴ヲ聳動シ以テ政府外交ノ後援タラント期スルモノノ如シ而シテ其ノ要旨ヲ摘記スレハ依然日本要求スル処ノ條件ハ我国ヲ亡国ニシ列国ノ利権ヲ侵害シ我国ヲ第二ノ朝鮮ニスルモノ日本ハ頻リニ乱党ヲ使嗾シテ我国ヲ恫喝シ其要望ヲ遂成セント期待スルモノノ如キモ日本ノ要挟ニシテ我国権主権ニ妨ケナキ限リ今日ノ場合或ハ商議ノ途別ニ自ラ存スルアル可キモ甘心売国無能無力ナル乱党一輩ノ盲動ノ如キハ何等怕ルルニ足ルナシト力ミ政府カ商議ニ応シタル十一ヶ條ト雖ドモ尚ホ主権ニ妨ケアリト指摘シ日本ハ約ニ背キ自ラ各国ヘ内告シタル今日支那政府独リ其秘密ヲ遵守スルノ義務ナケレハ宜シク応サニ其内容全部ヲ発表ス可シト云フニ帰着スルモノノ如シ例ニヨリ重要新聞ヲ摘訳スルニ左ノ如シ

二月二十三日ノ黄鐘日報ハ「日人ニ警告ス」ト題シ近日日本人ハ恫嚇ノ要挟ヲ我ニ試ム之レ大禍ノ其中ニ存シ亡国滅種我国ニ及バザルニ先ヅ島夷ニ及ブヲ知ラサルモノ也日本今ヤ列強ノ均勢ヲ破リ独リ専ラニセントス露

英ハ直接ノ利害上罪ヲ日本ニ問フノ理アリ仏墺ハ固ト日本ヲ喜ハサルモノ独逸ニ至リテハ青島ノ恨アリ倭夷ニ群向シテ其ノ毒毒ヲ洩ラスノ時アラン禍端一発セハ支那ノ不幸ハ固ヨリ也而カモ列強ノ諒トスル所アランモ蓋爾タル小島ニシテ乱ヲ好ミ事ヲ喜ヒ既ニ怨ヲ諸国ニ招ク其夷滅ヲ受クルヤ必セリ云々

愚曲、事大ノ謬論極マレリト雖モ新進賢明ト称スル黄鐘日報之ヲ掲載シテ得々タリ

二月廿三日ノ各漢字新聞ハ米国前大統領「ルーズベルト」ノ来遊南満東蒙説ヲ掲載シ之レ米支ノ親誼上日支交渉ト関係スル所ナカラスト仄メカシ同日ノ各紙ハ又袁大総統カ対日交渉ノ最後意見トシテ

日支ノ邦交ハ固ヨリ顧ミサル可カラザルモ総ズルニ国体ヲ傷ケズ主権ヲ害セザルヲ期ス

トノ宣言ヲ掲ケタルノ傍同日ノ新中国報（本事件発生以来最モ熱心ニ探訪論究記述ヲ為スモノナリ）ハ其ノ「中日交渉ノ警訊」ト題スル緊要記事欄中ニ

某方面ノ報告ニヨレハ政府ハ南満東蒙方面ニテ已ニ退譲ノ意ヲ示シタルモ日本ノ要望ハ過奢ニテ右丈ケニテハ結末シカタカル可ク大総統ノ意見ニテハ南満東蒙、福建ニ

テ酌量承認スルノ外山東省ノ権利移転問題ハ欧洲戦局ヲ俟ツノ外ナカル可シ云々

ト云フニ在リテ已ニ陸総長ニ申含ムル所アリト伝ヘ同日ノ大自由報ハ又「日支交渉ハ秘密ノ必要ナキヲ再論ス」ト題シテ云フ

第一日本ハ已ニ内容ヲ各国ニ通知シタレハ日本ニ対シテ秘密ヲ守ルノ必要ナシ

第二日本ノ要求ハ各国ノ利害ニ関スルモノアレハ各国ニ対シテ秘密ヲ守ルノ必要ナシ

第三民国ハ已ニ前清ノ如ク外交ヲ秘詭ニシテ国民ヲ愚ニスルノ必要ナケレハ最モ秘密ヲ守ルノ必要ナシ

ト論シ二十四日北京日報ハ又「支那新聞ハ日本人ノ排斥スルヲ惧レス」ト題シ

日本ハ著名ノ某電報ヲ買収シ（国際通信社ヲ云フカ）上海ノ某有名新聞ヲ買収シ（上海「マーキュリー」ヲ云フ）天津ノ某新聞ヲ買収シ（北京天津「タイムス」）得タルハ世人ノ皆知ル処又数年前「タイムス」ノ主筆（「チロル」氏ヲ云フカ）日本ニ遊フヤ日本官民ノ歓迎優遇至ラサルナシ斯ノ如ク日本人ハ自ラ世界各方面新聞ニ運動シ居リナカラ支那新聞カ独逸人ノ操縦スル所トナリ居ル

旨ヲ言ヒ触ラスハ恰カモ自ラ毎日盗ヲ行ヒ却テ人ヲ誣イテ盗人ナリト云フカ如シ日本人ノ心理ハ支那新聞ハ日本ヲ助ケテ支那ニ反対セハ好新聞ナリト云フニ在ルカ如キモ吾人ノ断シテ同意シ能ハサル処支那新聞ハ祖国ノ幇助ヲ前提トシ不偏不党ヲ主義トスレハ区々日本人ノ詆毀排斥ハ意トスルニ足ラス若シ我官庁カ新聞條例ヲ楯トシ吾人ヲ束縛セントセハ吾人ハ最後ノ計策トシテ寧ロ他ノ一国人ニ言論権ヲ委託シ政府ヲ抵制センノミ云々

二十四日ノ黄鐘日報ハ前報告ノ営長田錦章ノ署名セル「日本外交ノ失策」ト題スル論文ヲ掲ク曰ク

大隈伯ノ遠略宏図ニ日本勃々ノ強兵ヲ擁シ欧戦各国ニ休戦ヲ勧告シテ和ヲ議セシメ若シ不当ノ主張ヲ為スモノアラバ宜シク一撃ヲ加ヘテ之ヲ征討ス可シ仁ニシテ義名正クシテ利自ラ得可シ何事ゾ眼光豆ノ如ク小ニ鶏鳴狗盗ノ雄ニ傚ヒ人ノ危難ニ乗ジ目前ノ小利ヲ図ルヤ我レ大隈伯ノ為ニ惜ム云々

二十四日ノ国民公報ハ「最近外交上ノ謎」ト題シ

日本要求ノ二十一ヶ條ハ勿論正式国際文書ニヨリテセラレタル可ク内容不明白ノ今日吾人ハ最後ノ評定ヲ加ヘサル可キモ聞クカ如クハ日本ノ各国ニ内告シタルモノト異ナル点アリト奇離変幻種々ノ現象ヲ発生ス吾人之ヲ外交上ノ謎ト云フ吾人ノ宜シク注意ス可キ点ナリ

一、二月十二日ノ「ルーター」ハ云フ露外相「サゾノフ」ノ外交演説中日本ノ要求ハ千九百七年及十年ノ日露協約ニ影響ナシト又数日前英国国会中ニモ其ノ演説アリシト我人ハ潜カニ英露ノ為メニ疑フ

二、千九百七年ノ日露協約日仏協約及ヒ宣言書、屢次ノ日英同盟ハ皆支那独立領土保全機会均等ヲ云フモ日本ノ要求トハ相抵触スルナキヤ否ヤ吾人潜カニ疑ヒ且ツ注意ス

三、「ポーツマス」條約ハ支那ノ承諾ヲ條件トシテ日本ニ利権ヲ継承シ更ニ光緒三十一年ノ満洲善後協約ニヨリテ新タニ安奉線材木公司及ヒ各地開放ノ権利ヲ獲得セルニ過キス今青島ノ如キ些少ノ犠牲ニヨリ過大異例ノ要求ヲナスハ吾人ノ尤モ注意ス可キモノ

四、伝フル所ニヨレハ大隈伯ハ総選挙ノ関係ヨリ此要求ヲ提出スト伯ハ世界著名ノ政治家加藤氏ハ有数ノ外交家政争ノ得失ヲ以テ邦交ノ危害ヲ顧ミサルカ如キ短見者流ニアラス内田子爵ノ発表セル意見ハ抑モ何ヲ意味

スルカ（邦紙所伝ノ内田子ノ日本ハ大局ニ着眼シ考慮ス可シ云々ノ説ヲ云フ）之レ吾人ノ疑ナキ能ハサル処

要スルニ日本ノ要求ハ到底外交ノ謎ナリトテ両国永久ノ平和ヲ希望セリ

二十五日ノ黄鐘日報ハ又「外交当局ニ告ク」ト題シ

日本ノ要挟ニ対シ当局ノ主張ハ酌量承認スト云フニ在ルカ如キモ酌量ニハ限度ナシ且ツ欧戦結了後ノ均霑要求ヲモ顧慮セサル可カラストセハ酌量承認ハ先ツ尤モ慎マサル可カラス

日本ノ列国ニ通告シタルモノハ十一ヶ條ニテ我ニ要挟スルモノハ二十一ヶ條而カモ懸案ニ藉口ス我ハ但タ列国通告ノ十一ヶ條ヲ談判ノ範囲トス可キノミ弱国ノ強国ニ対スル何等公理ノ云フ可キナシ只タ当局者ハ全国民ノ後援ニ恃ミ宜シク鎮静シテ慮ル勿ク慎ル勿ク其主張ヲ堅持セヨ

ト激励シ同日ノ大自由報モ

日本カ二十一ヶ條ノ要挟ヲ提出シ列国ニ内示スルニ其十一ヶ條ヲ以テシ言ヲ懸案ニ藉リ中外ヲ瞞過セント欲ス文明国ノ交渉手段ハ如斯モノ歟

リ協力シテ会稽ノ一戦ニ出ツルナキカ

トテ日本ヲ恫喝セント擬スルモノノ如シ蓋シ愚論也二十八日ノ黄鐘日報ハ由来外交孱困ノ由ツテ来ルハ国内政治ノ不良ニ基因スト論シ更ラニ三月二日ノ同紙ハ「日本人ノ心理果シテ如何」ト題シ

日本ハ東洋ノ英国ヲ以テ自任スルモ吾人ノ見ニヨレハ英国ハ工商ヲ以テ国ヲ立ツル西方ノ大族ナルモ日本ハ再三歳ヲ瀆セル亜東ノ一小邦耳且ツ遺憾ナカラ隣近ニ印度ナシ

ト嘲ル

此数日来ノ各紙ハ多大ノ注意ヲ以テ邦字新聞外字新聞ノ我出兵説ヲ記載シ居ルカ如キモ現ニ三月四日ノ亜細亜日報ノ如キハ「日本出兵ノ真相」ト題シ

日本ハ頻リニ出兵説ヲ以テ我ヲ恫喝セントスルモ総統府員ノ確査ニヨレハ二月末ハ満洲駐屯軍ノ交替期ナルヨリ此ノ新陳代謝ノ期ヲ利用シ恫喝ノ材料ト為サントスルモノ寧ロ一笑ニ値セサルナリ云々

ト記載シ居レリ又近数日ノ各紙ハ筆ヲ極メテ在日本革命党ノ行動ヲ誇大ニ吹聴シ熱罵誣報到ラサル処ナシ現ニ三月二

ト嘲リ二十六日ノ北京日報ハ「十一ヶ條中ノ軽シク許ス可カラサル者」ト題シ

一、煙灘龍口鉄道ハ日本資金ニヨツテ築造スルハ不可ナカランモ管理権ハ附与ス可キ限リニアラス吉長鉄道ノ管理権尤モ然リ

二、東三省内地自由居住及土地所有権ノ如キ亦許可ス可カラサルモノ若シ一タヒ之ヲ許可センカ治外法権ヲ有スル多数ノ日本人雑居ハ全土地ヲ送与スルニ等シキ結果トナルノミナラス将来交渉案件続出ノ煩ニ堪ヘサルモノアラン

ト論シ二十七日ノ黄鐘日報ハ「速亡ト緩亡トノ説」ト題シ或ハ謂フ交渉談判破裂セハ其損失ハ和平解決ノ比ニアラスト抑モ知ラス談判ノ破裂ハ速亡ヲ意味スルモ條件ノ容認ハ緩亡ノ端トナル区々タル三島国強シト雖トモ大国ヲ速亡スルノ実力ナシ是レ吾人ノ寧ロ速亡ヲ期待シ極力拒絶ヲ主張スル所以也ト

論シ二十七日ノ新中国報モ亦「告日人」ト題シ

今ヤ露独講和ノ機熟セハ独逸カ山東ニ投資経営シタルモノヲ以テ能ク平然之ヲ日本ニ肯与ス可キカ露国ハ日本ニ満洲戦敗ノ恨ヲ抱クモノ正ニ独逸ト感ヲ同ウスルモノア

日ノ亜細亜日報ノ如キハ尤モ確実ナル消息トシテ記シテ曰ク

某国ハ厳酷ナル要求條件ノ到底満足ナル結果ヲ得能ハサルヲ豫想シ其ノ浪人ヲ使嗾シ我カ乱党ト結托シ各地ヲ擾乱シ危害ヲ外人生命財産ニ加ヘ名ヲ保護ニ藉リテ出兵セントス云フニ在ルモノノ如ク現ニ某国要人ハ外交部ニテ其意ヲ宣示シテ恫喝ノ計ヲ為シタリ云々

以テ如何ニ其神経ヲ過敏ナラシメアルヤノ一端ヲ窺フニ足ラン

各地各種ノ団体ヨリスル反対電報陳情等ハ依然トシテ連日ノ紙上ヲ塡飾シ就中女史章芳如ナルモノノ外交当局ニ敬告スル一書ト一広東人蘇蓋華ナル者カ各新聞ニ寄セタル「日本カ若シ強硬手段ニ出ヅルニ至ラバ家産二百余萬元ヲ寄附シテ軍費ニ充テン」トノ公開書ハ異数也

乍例喧囂分ニ安ンセサルモノハ在東ノ学生輩ナリ彼等代表三名ハ已ニ北京ニ向ヒタリト聞クモ何等確実ノ消息ヲ聞カス又上海方面ニ向ヒタル代表十三名ハ二月廿六日同地ニ会議ノ結果排日本的ノ国民大会ヲ開クニ決シ北京方面及各省ヘ運動委員ヲ派シタルヤニ新聞紙ハ掲載シ居ルモ何等実際的行動ヲ聞知セス

在広東赤塚総領事カ巡按使ニ宛テ粤漢、広九、広三、江門、新会、各鉄道警察組織及ヒ規則ノ調査ヲ委頼シタル書函ハ意味アリ気ニ三月一、二日ノ各新聞ニ掲出セラレ我警察権要求云々ト関聯シテ多大ノ注意ヲ惹キタルモノノ如シ右及報告候也

二二二　三月五日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

中国ヲシテ我提案ヲ承諾セシムル為ノ威圧手段ニ付考慮中ナル旨内示ノ件

第一三四号

対支交渉現下ノ状況ニ就テ看ルニ此儘ニテハ貴官段々ノ御尽力ニモ拘ハラス支那政府ヲシテ我最モ重要ナリトスル条項ニ対シ容易ニ承諾ノ意ヲ表セシムルノ見込殆ンド之ナキモノト思考セラルルニ付帝国政府ニ於テハ其当初ノ目的ヲ達セン為メニハ支那ニ対シ別ニ威圧ノ方法ヲ執ルノ必要ヲ認メ目下其方法ヲ講究中ナリ差当リノ手段トシテハ満洲駐屯ノ師団交代ノ期ニ近キタルヲ幸ヒ後任師団ノ出発期ヲ速ヤメ現駐屯師団帰還ノ期ヲ当分不定ニ延長セシメ山東守備軍亦四月帰還ノ筈トナリ居レルモ是亦新守備軍ヲ派遣スルト同時ニ旧守備軍ノ出発ヲ延期シ事実山東省ニハ平時兵力ノ一師団以上ヲ駐屯セシムルコトトシ已テニ何レモ準備ニ取カヽルコトトナレリ又右ノ外北清駐屯軍ハ客年中減兵シタル次第ナル処之亦各国申合兵数以内迄ニ増員シ北京天津間ニ駐屯セシムルコトトシ又更ニ進ンテ鄭家屯ニ於ケル我駐屯兵ヲ増員シ場合ニヨリテハ新民屯ニモ出兵シ同時ニ吉長鉄道ヲ押収スルコトモ有効ナルベキカト思考シ目下何レモ詮議中ナリ而シテ帝国政府ニ於テ此等執ルベキ手段ヲ決定シ其準備モ整ヘルニ至ルモ尚交渉ノ状況今日ノ如クナルニ於テハ本大臣ハ貴官ニ訓令シ貴官ヲシテ改メテ陸総長ニ対シ懇談的ニ帝国政府ハ飽マテ本件交渉ノ平和円満ナル解決ヲ熱望スル次第ナルモ支那政府ニシテ日本ノ立場ヲ諒シ大局ニ鑑ミ我要求ヲ容ルルニアラザレハ日本ハ其目的ヲ達スルガ為メニ他ニ手段ヲ求メザルヲ得ザルニ至ルベク萬一右ノ如キ場合ニ至ラバ両国々交上ノ不幸之ヨリ大ナルモノナカルベキニ付支那政府ニ於テモ篤ト考量ノ上我要求ヲ承諾スルコトニ致スヘク支那ニ於テ大体我要求ヲ応諾スル上ハ我亦膠州湾ヲ適当ノ時機ニ還付スルコトヲ詮議スベキ旨ヲ開陳セシメソレニテモ尚先方ニ於テ其態度ヲ改メザレハ帝国政府ハ止ムヲ得ザルニ付其必要ト信ズル手段ヲ執ルベキ旨ヲ支那政府ニ通告シ其上ニテ前述ノ諸手段ニ出ヅルコトト致サンカト本大臣ニ於テ目下考量中ナリ右ハ固ヨリ政府ノ確定議ニハアラザルモ豫メ貴官限リノ極内密ノ御含迄ニ申進ズ貴官ニ於テ何等御意見アラバ至急電稟アル様致シタシ

二二三　三月六日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

南満山東ヘノ派兵ヲ対中国交渉上威圧ノ目的ニ利用方訓令ノ件

第一三八号

往電一三四号ニ関シ南満駐屯一ヶ師団及山東守備一個師団ハ来ル十六七日頃ヲ以テ同時ニ呉宇品等ヨリ出発スベシ右ハ前電通何レモ交代ノ為ナレトモ交渉上貴官ニ於テ然ルベク威圧ノ目的ニ利用セラルルヤウ致シタシ又北清駐屯軍約一千二百ヲ増員シ差当リ天津ニ送ルベキ内議アリ目下詮議中ナリ

二二四　三月七日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

第七回談判ニ於テ週三回ノ会談開催ニ決定竝第二号一條二條三條商議ノ経過及中国側ノ態度ニ付報告ノ件

第一一〇号

三月六日午後三時外交部ニ於テ第七回談判ヲ開ク会議ニ入ルニ先タチ本使ハ一言陸総長ノ注意ヲ喚起シ置キタキコトアリト断ハリ談判ハ今日迄既ニ六回重ネタルモ議事ノ進行頗ル遅々トシテ何等見ルヘキノ進捗ナク此状態ニテハ到底急速ニ満足ナル解決ヲ告クルコト困難ナルヘク今日迄本使ノ感想ニテハ支那側ノ態度ハ両国々交ノ危機ヲモ来サントスルカ如キ最モ重要ナル案件ヲ議スルノ誠意アルモノトモ認ムルヲ得ス殊ニ前回ノ如キハ故ラニ此感ヲ深クセリ一日数時間ニ亘リ商議シナカラ一個條タニ議了セス徒ニ文字ノ末若クハ些々タル事項ニ拘泥シテ無用ノ議論ヲ闘ハスカ如キハ国交ノ大局ニ顧ミ甚タ遺憾ニ堪ヘサル次第ニ付若シ支那側ニ於テ誠意アラハ此ノ際直ニ一週三回位会議ヲ開クコトニ同意セラレ可然旨警告シタル所陸ハ自己ノ見ル所ニテハ会議モ相当ニ進行ヲナシツツアリト弁明シ兎モ角次

回ヨリハ一週ニ火木土ノ三回会議ヲ開クコトニ同意シタリ

次テ談判ニ移リ前回ノ引続トシテ第二号第一條中ノ南満洲鉄道及安奉鉄道ノ買収ノ件ニ関シ議事ニ入ルヤ陸ハ支那政府ニ於テ慎重ニ研究考慮シタルモ矢張リ前回主張通此ノ二項ニ付テハ乍遺憾日本国ノ提議ニ同意スルコトヲ得スト断言シタルニ拘ハラス本使ノ頑強ナル態度ニ余儀ナク漸次譲歩ノ口吻ヲ洩ラシ先ツ南満洲鉄道ニ付テハ本條約締結ノ日ヨリ起リ買収期限ヲ三十六ヶ年ニ延長シ安奉鉄道ニ付テハ原約期限ヲ二十ヶ年ニ延長スト云ヒ次ニ三十ヶ年迄延長シテ可ナリト云ヒ更ニ論議ノ末結局南満洲鉄道買収期限ハ原約ニ照ラシ更ニ三十六ヶ年（前後七十二ヶ年）延長シ安奉鉄道買収期限ハ原約期限満了ヲ俟チ更ニ三十ヶ年（前後四十五ヶ年）ヲ延長スヘシト提議セルモ本使ハ尚我方ノ原案トノ差甚ダシキヲ指摘シ其修正案ヲ退ゾケ置ケリ安奉鉄道ハ結局南満洲鉄道買収期限迄譲歩スル先方ノ腹案ナラント推察ス右ニテ南満安奉両線期限延長問題ニ対スル支那結局ノ意嚮モ略明瞭トナレルニ付先方ノ駈引ノ為空シク時間ヲ徒費スルヲ避ケ本使ハ直チニ第二條及第三條ノ討議ヲ主張シ先ツ原案ト対案トハ根本ノ性質観念ニ於テ相違スル所以ニアラズシテ偶々日本国ト紛争ヲ刺戟スルノミナリト弁シ満洲開放ハ外人雑居トナリ治外法権ノ下ニアル外人雑居ヲ許スコトハ或ル意味ニ於テ支那ノ主権ヲ制限スル如キ形トナリ支那トシテハ到底同意シ得ヘキ性質ノ事柄ニアラザルノミナラズ若シ萬一日本国ニ対シ南満洲ヲ開放スルニ至ラバ勢露国ニ対シ北満洲ヲ開放セザルベカラザルコトトナリ其ノ結果ハ支那ノタメ極メテ憂慮スベキ危機ヲ現出スルニ至ルベク旁日本国ハ支那ノ対案ニテ提議シタル方法即チ多数ノ商埠地開放ニテ満足セラレタク又此ノ方法ニテ十分日本ノ希望ハ達セラルル次第ナリト述ヘ極力対案ヲ支持シ徹頭徹尾原案ニ反対ノ意嚮ヲ洩ラセリ

本件ニ関シテハ支那側ハ論難最モ努メ枝葉ノ論拠トシテ外蒙古ニ於ケル外国人雑居ノ事情其他ノ事項ニ関シ種々論議ヲ重ネタルモ結局支那側ハ例ニ依リ頗ル曖昧頑強ノ態度ヲ示シ本使モ亦本件ハ帝国政府ニ於テ最モ重ヲ措ク個條タルハ勿論日本国トノ国交ヲ永遠ニ維持スルニ最モ重要ナル意義ヲ有スル問題トシテ特ニ支那政府ノ慎重ナル考慮ヲ促ガスト同時ニ已ニ事実ノ問題トシテ支那政府カ日本人ノ満蒙ニ入込ノ已ムヲ得サル自然ノ趨勢タルヲ認ムル以上ハ此際商埠地開放ノ如キ姑息策ニ執着スルコトナク寧ロ英断ヲ以テ満蒙開放ノ挙ニ出デ其條約制度等ニ関係アル点ハ何トカ調和ノ方法ヲ案出スル方得策ニアラズヤト告ゲ余ハ次回ノ論議ニ移スコトトシ午後六時三十分会議ヲ終了シタリ次回ハ来ル火曜日開会ノ筈

モノナリト喝破シタル後所謂満蒙開放則チ居住営業ノ自由ニ関スル問題ハ今日始メテ事新シク提起セラレタルモノニ非ス満洲善後條約議定ノ際ニモ既ニ其議アリタルノミナラス爾後十年ノ間種々ノ機会ニ於テ又種々ノ形式ニ於テ両国間ノ交渉若シクハ論議ニ上リタル事アル宿題ナルコトハ支那政府ニ於テモ之ヲ熟知ノ筈ナリ尚実際問題トシテモ満洲各地ニ於テ日本人ノ開放地外ニ於ケル居住営業問題ハ屢次所在帝国領事ト関係支那官憲トノ間ニ煩ハシキ交渉事件トナリ来リタルコトハ是亦支那当局ノ夙ニ承知セラルル所ノ如シ之レ日本ト満洲トノ間ニ於ケル地理上沿革上将又経済上ノ関係ヨリ生スル当然ノ結果ニシテ日本人ノ満洲ニ入込ムモノノ年々歳々多ヲ加フルコトハ人為ノ法律又ハ條條等ヲ以テスルモ到底抑圧シ得ベキモノニ非ズ之ヲ抑圧セントスルハ経済上自然ノ趨勢ニ背クモノニシテ到底人為ノ力ヲ以テ能クスベキコトニ非ズ故ニ支那政府トシテハ此際満洲ヲ開放シテ以テ日本人ト紛争ヲ来スベキ原因ヲ根絶スルノ英断ニ出ヅルコト寧ロ両国国交ヲ永遠ニ維持スル為最必要且事宜ニ適スル措置ト確信スルニ付支那政府ハ断然日本国ノ原案ヲ承諾セムコトヲ切ニ希望スル旨詳細説明シ陸ハ之レニ対シ満洲ヲ開放スルハ日本人トノ紛争ヲ根絶スル

二二五　三月七日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

威圧手段執行前ニ講ズベキ外交措置ニ関シ意見

上申ノ件

第一一一号

貴電第一三四号ニ関シ此際威圧手段ヲ執ル目的ヲ以テ種々御考慮中ナル趣拝承スルハ本使ノ欣喜ニ堪ヘサル所蓋シ我決心一度定ラバ恐ラクハ之レヲ実行スルニ至ラズシテ我ガ目的ヲ達スルヲ得ルナラン兎ニ角愈々貴電ノ如キ計画実行ノ暁ニハ如何ナル大事ニ変化スベキカ到底豫知シ難キ所ナルヲ以テ之レガ実行著手前ニ於テ有ラユル外交上ノ手段ヲ尽スベキハ当然ノ順序ナルベシト思考スルニ付本使ハ此際直ニ陸総長ニ御来電ノ趣旨ニ依リ懇談ヲ遂ゲ尚必要ノ場合ニハ袁総統ニ面談スルコトシタシト考フ尤モ前陳ノ場合

ニハ我最後譲歩程度（第二号ハ乙案ヲ全然抛棄シ飽迄甲案ヲ主張スル決心ナリヤ）ト膠州湾還附ヲ詮議スルコトヲ内示スルヲ必要ト思考ス以上ノ手続ヲ尽シタル上先方ノ態度猶一変セザルニ於テハ我ニ於テ提案全部ニ亘ル最後的ノ決定案ヲ作リ之レヲ以テ最後通牒的ニ同意ヲ迫リ猶同意ヲ肯ゼザルニ於テハ初メテ威圧手段ヲ用ユルコトニシタシト愚考ス何分ノ御電示ヲ請フ

二二六　三月八日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

威圧手段執行前ニ於ケル我対中国交渉振ニ付訓令ノ件

第一四一号

貴電第一一一号ニ関シ往電第一三四号ヲ以テ申進シ置キタル威圧ノ目的ニ供セラルベキ手段ノ中満洲駐屯及山東守備ノ軍隊ガ来ル十六七日頃出発スベキコト及該軍隊発動ノ理由ハ交代ノ為メナルモ同時ニ威圧ノ目的ニモ副ヒ得ベキモノナル事ハ往電第一三八号ヲ以テ申述ベ置キタルガ如シ其他ノ方法ニ付テハ目下何レモ詮議中ニ属シ外交上一切ノ手段ヲ尽クシタル上ニテ其実行ニ着手スル次第ナルニ付右ニ御承知アリタシ而シテ愈々此等詮議中ノ方法ヲ決行スル迄ニハ雙方充分討議ヲ尽クシ向後折衝ノ経過ヲ看ルコト必要ト思考スルニ付貴官ハ是迄通リ着々交渉ヲ進メラルルヤウ致度第二号第二條第三條ニ関スル支那側ノ態度執拗ニシテ到底我主張ヲ容レシムルコト困難ナルニ於テハ右両條ハ後廻ハシトナシ順次席ヲ追ヒ第三号第四号ヨリ第五号ニ至ル迄篤ト論議ヲ尽クサルルヤウ致シタシ第二号第二條第三條ニ就テハ当方ニ於テ目下甲乙両案ノ中間案ヲ考量中ナルモ未タ先方ニ内示スルノ時機ニ達セリト認メサルニ付貴官ハ依然甲案ノ主張ヲ維持セラレタク我要求全部ニ亘リテ雙方論議ヲ尽クシタル後ニ於テ或ハ貴電ノ如キ方法ニ出ヅルノ必要モ之アルベキモ其時機ハ今後尚ホ暫ラク交渉ヲ試ミタル上ニテ定ムル事トシソレ迄ハ我最後ノ譲歩程度ヲ示シテ袁又ハ陸ニ懇談的警告ヲ与フル事ハ見合ハス事ニ致シタシ

二二七　三月八日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

曹汝霖ニ対シ時局ノ重大性ニ付警告竝我要求応諾方勧説ノ件

第一一四号

三月七日曹汝霖ヲ呼寄セ時局頗ル危険ノ状態ニ急転シツツアルコトヲ警告シ支那側ニ於テ断然我主要ノ要求ニ対シ直ニ内意ヲ表スルノ決意ヲナスコト得策ナルヲ痛切ニ説諭シ大総統ニモ十分趣意ヲ通達スベシト申聞ケタリ右曹トノ会見ハ恰モ同人カ大総統府ヘ出仕前ノコトナリシヲ以テ旁右ノ警告ハ尠カラザル反響ヲ見ルナラント思料ス尚威圧実行ニ先ダチ往電第一一一号ノ手続ハ是非履ムコトニ致シタシト思考ス

二二八　三月八日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

威圧手段ノ執行ハ外交折衝ト照応スルノ必要アル旨上申ノ件

第一一五号

貴電第一三八号ニ依レバ我兵ハ来ル十六七日頃出発ノコトニ既ニ決定セル趣ノ所威圧手段実行著手ノ順序ニ関シテハ往電第一一一号ヲ以テ卑見（註）上申シ置キタル次第モ有之ニ付右ノ趣旨篤ト御参酌相成リタシ将又威圧手段ニ移ル前ニ外交手段ヲ尽スヘシトノ卑見ニ関シテハ種々理由アルモ今回談判ノ成効ヲ以テ純然タル外交上ノ捷利ニ帰セシメ得ベキノ望アルコトモ其重ナルモノノ一ナリ之ヲ要スルニ最後ノ手段ヲ執ル決意ヲナスニ於テハ現実ニ威圧方法ヲ実行スル迄尚相当交渉ヲ進メ得ル余地ノ存スルヤニ思ハルルニ付軍隊出動ノコトハ当方今後ノ折衝ト照応シ其期限ヲ伸縮スルヲ必要トスルハ勿論就中貴電第一三四号ノ二末段鄭家屯新民府出兵並吉長鉄道押収等ノコトハ今後ニ於ケル折衝ノ模様ヲ見テ臨機実行スルヲ得策ナリト信ス将又北支那駐屯軍増兵ノ件ハ本官ヨリ何分ノ義申進スルヲ俟テ実行セラルル様致タシ

註　威圧手段実行前事態ヲ説明シ我最終譲歩程度ト膠州湾還附ヲ言明シテハ如何トノ意見

二二九　三月八日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

曹次長来訪我警告ヲ衷大総統ニ伝達ノ旨竝我提案第二号一、二、三條ニ同意ノ旨申越ノ件

第一一六号

往電第一一四号ニ関シ三月八日曹汝霖本使ヲ来訪シ昨日警告ニ及ハレタル次第ハ早速大総統ヘ申伝ヘタルニ大総統ニ於テハ深ク本使ノ忠告ヲ諒トシ当局者ノ意ヲモ徴シタル上安奉鉄道期限ニ付テハ大体ニ於テ我方ノ満足スヘキ程度ニ迄延期スルヲ承諾シ第二條第三條ニ付テハ主義上我方ノ提議ニ同意シ支那ノ主権ト條約関係竝諸般ノ制度ニ適応スヘキ辦法ヲ案出シ能フ限リ日本国ノ希望ニ応スルコトニ決定シタルニ付右様御承知アリタク委細ハ明日ノ会議ニ於テ説明スヘシト述ヘ引取レリ不取敢御参考迄

二三〇　三月九日　在奉天落合総領事ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

駐屯軍増兵ニ関スル新聞記事取締竝交渉署ヨリ我軍隊移動ニ関シ問合アリタル件

第三〇号

関東都督府民政長官ヨリ満洲駐屯新師団ハ不日到着スルモ於テ独立山砲兵中隊ノ編成ヲ令セラル編成第一日ハ三月十日ナリ

大正四年三月九日午前十一時　陸軍大臣　岡　市之助

外務大臣　加藤高明殿

二三二　三月十日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

第八回談判ニ於テ第二号各條議了ノ経過報告及請訓ノ件

第一一七号

三月九日午後三時外交部ニ於テ第八回談判ヲ開キ前回ニ於テ未了ノ各條項ノ討議ヲ初メ午後六時散会ニ至ル迄ニ略ホ第二号各條ヲ議了セリ其結果左ノ如シ

前回ニ於テ安奉鉄道買収期限問題未了ノ儘トナリ居リシカ本日会議ノ劈頭ニ於テ支那側ハ本件考量ノ結果トシテ日本国希望ノ通リ第一條全部ノ提議ニ同意シ旅大租借期限竝ニ南満及ヒ安奉両鉄道ハ其期限ヲ九十九個年ニ延長スルコトヲ承諾シ附註トシテ旅大ハ民国八十六年即チ西暦千九百九十七年ニ至リテ満期トナシ南満鉄道ハ民国九十年即チ西暦二千一年ニ至リテ満期トナシ安奉鉄道ハ民国九十二年即チ西暦二千三年ニ至リテ満期トナスノ一項ヲ添加シタシト申出デタルニ付本使ハ先ツ支那政府カ考量ノ結果全部日本国ノ希望ヲ容ルルニ至リタルハ本使ニ於テ深ク其好意ヲ諒トスル所ナル旨ヲ述ベ更ニ南満洲鉄道期限ヲ九十九ヶ年ニ延長スルハ還附期限ヲ延長スル趣旨ナリヤ将又買収期限ヲ延長スル趣旨ナリヤト質問シタルニ支那側ハ両者トモ同一期限トナル結果ナリト答ヘタリ依テ本使ハ此事ハ何トカ明瞭ニ定メ置ク必要アリト思考スル旨言明シ置ケリ然ルニ右支那側ノ申出ノ通リ定メ置ク時ハ九十九ヶ年後ニ於テ還附期限ト買収期限トカ同時ニ到達シ頗ル奇異ナル結果ヲ生スル次第ニ付此点ニ対スル我政府ノ意見至急承知シタシ次ニ第二條及第三條ニ関シテハ支那側ニ於テ日本人ニ対スル南満洲開放主義ヲ是認シ之ト同時ニ支那ノ主権條約及制度上ノ根本義ト背馳セザル趣旨ニテ特別修正案ヲ案出シタリトテ左記ノ如キ案文ヲ本使ニ手交シ農業ノ事ハ国論反対激烈ナルベキヲ顧慮シ文書交換ニテ取極メ南満洲内地ニ於ケル日本人ノ居住営業ノコトハ條約中ニ規定スルモ差支ナシト附言シタリ

在来師団ハ引揚ヲ行ハズ其儘止マリ山東天津ヨリ駐屯軍増兵セラルル所此際軍隊ノ移動ニ関シテハ一切新聞紙ニ掲ゲザル様新聞紙及通信共厳重ニ取締ル様事務官宛来電アリ当地新聞紙及通信員ハ殆ド皆附属地外ニアルヲ以テ都督府ノ通達ヲ以テ彼等ヲ束縛スベキ筋ニアラザルモ不取敢本官ノ裁量ヲ以テ記事差止方応急措置シ置キタルガ本日交渉署ヨリ近頃日本ガ満洲方面ニテ増兵スルヤノ風説アリ人心不安ナル旨地方官ヨリ報告ノ次第アリ近々駐屯師団交替ノ為軍隊ノ移動アルニ付右様ノ疑義ヲ釈ク為右ハ全ク交替ニ過キザル旨公文ヲ以テ説明セラルル様願ハレ間敷ヤト問合アリタルニ付本官ハ軍隊移動ノ場合ニ其性質ヲ説明スルガ如キコト今迄モ為シタル先例ナキ次第ナル旨回答シ置ケリ

二三一　三月九日　岡陸軍大臣ヨリ
加藤外務大臣宛

派遣部隊編成ニ関シ通報ノ件

青島守備軍中ノ歩騎砲工兵隊ト交代セシムル為第十師団ニ於テ歩兵第八旅団歩兵第十及第四十聯隊留守隊独立騎兵中隊、同野砲兵中隊、同工兵中隊、又北支那ニ派遣スル為第五師団ニ於テ歩兵第七十一聯隊及同留守隊、第十七師団ニ

（文書案

中國政府允許設一中日墾務公司由中政府酌擇東三省南部荒曠地方劃定界址准公司備價租領開墾一切章程應按照中日合辦採木公司章程與該處地方長官另行商訂）

「條約第三條案凡在東三省南部内地居住貿易之外國臣民須先覓妥實商保聲明赴何處作何項執業呈請該省巡按使或道尹查核果係正當營業發給居留執照以便居留惟此項在内地居住之外國臣民遇有民刑訴訟應由中國官吏處理所有中國法令警察規條稅課章程均應一律遵守其因蓋造工商業應用房廠之地基應向業主公平商租」

右両案ニ対シテハ新規修正案ナルヲ以テ本使ニ於テハ何等適切ナル意見ヲ発表スル地位ニアラザルモ兎モ角一読シタル丈ニテモ原案ニ於テ主張スル所ノ精神ト余程相違スル所アルヲ以テ之ニテハ到底日本国政府ノ同意シ能ハザル所ナリト断言スルニ躊躇セザル旨言明シ第一墾務公司設立ノ如キハ結果ハ暫ク別問題トシ兎モ角日本国政府ノ主張スル日本人ノ農業自由ト云フ根本義ニハ何等解釈ヲ与ヘ居ラザルノミナラズ居住営業ノ自由ニ関スル新規修正案モ其末段ニ日本人ヲ支那ノ法権稅権警察権ニ服従セシメナカラ而カモ一方ニ於テ地方官ノ許可ヲ願出執照発給ヲ受ケ僅ニ満洲

内地ニ於テ居住営業ヲナシ得ルカ如キ極端ナル束縛ヲ加フルモノニシテ寔ニ言語道断ト云フノ外ナク日本国政府ニ於テ断シテ同意シ難キ所ナルベシト確信スル旨一応反駁ヲ加ヘ最後ニ支那側トシテハ此際第二條及第三條トモ原案ニ同意ヲ表シ課稅問題及警察取締問題等ニ関シ適当ノ調和的辦法ヲ案出スルヲ至当ト考フル旨述ヘ置ケリ

本件ハ何レ次回談判ノ節再ヒ論議スベキモノナルニ付テハ我政府ニ於テ右新修正案ニシテ何等考量ノ価値アリト思考セラルルニ於テハ之ヲ骨子トシテ適当ノ修正意見ヲ至急御回訓アリタシ左スレバ談判進行上大ニ好都合ナルベシ過般御電訓ニ依レバ帝国政府ハ第二号第二條ノ土地所有権及第三條ノ居住営業権ノ要求ニ関シテハ自然生シ来ル事アルヘキ治外法権問題ト関聯シ若シ支那側ニ於テ本邦警察官ヲ雇入ルルニ於テハ司法権ニ就キ或ハ何等カ妥協方法ヲ詮議シ得ベキ御見込ニテ目下御考案中ナル趣ニ付テハ幸ヒ今回支那側ヨリ稍々主義上ニ於テ満洲内地ニ於テ本邦人ノ居住営業ヲ認ムル底意ヲ示シ来レル機会ヲ捉ヘ話ヲ進ムル事或ハ案外我目的ヲ達スルニ捷径ナリト信スルニ依リ何分ノ御意見至急御回示アリタシ

右第二條及第三條論議中陸総長ハ東部内蒙古問題ニ論及シ

東部内蒙古ハ辺陬ニ僻在シ今尚人民蒙昧ニシテ商務開発セス現ニ赤峰朝陽ノ如キモ開放ヲ企テナガラ今ニ開埠ノ運ニ至ラズ其間匪賊横行シテ頗ル危険ノ状態ニ在ルヲ以テ他日商務発達ノ時機ヲ俟チ協議スルコトト致度ニ付東部内蒙古ハ第二号ヨリ是非除外セラレンコトヲ希望スト述ベタルニ付本使ハ東部内蒙古除外ノコトハ断シテ希望ニ応ジ難キ次第ナルヲ言明シ続テ総長ニ反問ヲ試ミ他日商務発達ノ時機ヲ俟チ協議シタシトハ今日其旨約束シ置クモ苦シカラズトノ意味ナリヤト念ヲ押シタルニ陸ハ日本国政府ニ於テ希望セラルルナラバ今日公文書ヲ以テ此事ヲ約束シ置クモ差支ナシト確答セリ

次ニ第四條ニ付テハ本使原案ヲ主張セルニ対シ支那側ハ原案ノ機会均等主義ニ牴触スル所以ヲ縷述シ極力対案ヲ支持セルモ結局鉱業條例ニ拠ルコトヲ條件トシ直ニ採掘スベキ各鉱山ヲ列記指定セバ原案ニ同意スルモ差支ナシト言明シ本件ハ條約ニ定ムルヨリモ別ニ文書ヲ交換シテ其ノ取極メヲナシタシト希望セリ次ニ第五條ニ付テモ原案及対案ニ付彼我各其ノ主張ヲ支持シ論戦十数回ヲ重ネタルモ結局支那側ハ鉄道敷設竝ニ諸稅ヲ担保トスル外国借款ノ二件ニ関シ支那側対案ノ意味合ヲ公文書ヲ以テ取極ムベキ点迄同意

セリ次ニ第六條ニ関シテモ我政府最後ノ修正案通（真先ニ）ヲ削除シ（政事財政軍事）ノ外（警察）ヲ加ヘ且（顧問）ノ外（教官）ヲ加フルコトニ略ボ同意ヲ表セルモ本條モ前二條ト同様之レヲ條約中ニ規定セズ文書ヲ以テ取極ムルコトヲ頻リニ主張セリ之ヲ要スルニ第四條乃至第六條ハ略ホ我希望ヲ容ルルコトニ同意シタルモ何レモ條約トセズ文書ヲ以テ取極ムルコトヲ主張セリ其理由ハ一ニ内政上人民ノ激昂政客ノ批評ヲ虞ルルニアルカ如シ本使ノ見ル所ニテハ格別ノ必要アラザル限リ先方ノ希望ヲ容レ文書ヲ以テ取極ムルモ不可ナカルヘシト思料ス條約中ニ規定スヘキ格段ノ必要アラバ其理由詳細御回示ヲ請フ次ニ第七條吉長鉄道管理経営ノ件ハ本使ニ於テ極力原案ヲ支持シ先方ニ於テ撤回説ヲ主張シタルモ結局更ニ充分考量ヲ加フベシト約シタリ或ハ次回ニハ該鉄道ノ不満足ナル現状ヲ改善シ得ベキ辦法ヲ案出シ修正案トシテ我方ノ考量ヲ促シ来ルヘシト察セラル最後ニ対案第七條ニ対シ本使ハ之ニ異議ナキ旨ヲ言明シ置キタリ

二三三　三月十日　加藤外務大臣ヨリ在奉天落合総領事宛（電報）

我軍隊移動ニ関シ新聞紙掲載差止方指示ノ件

第一七号

帝国政府ハ目下進行中ノ対支交渉ノ関係モアリ差当リ交代期ニ在ル満洲駐屯師団及山東守備隊帰還ノ時期ヲ当分不定ニ延期シ他面後任師団ノ出発期ヲ繰上グルコトニ決定シ何レモ三月十六七日頃出発セシムルコトニ取運ビタリ右ハ必ズシモ絶対秘密ニ附スル必要ハ無之モ新聞紙等ニ掲載スルコトハ都督府希望通差止メ置カルル様致タシ

二三四　三月十日　加藤外務大臣ヨリ在上海有吉総領事宛（電報）

我中支派遣軍ニ対シ所定ノ手続ヲ履ムコトナク武器弾薬輸送セラレタル件

第五五号

松井次官ヨリ左ノ通

今般陸軍省ヨリ中支那派遣隊ニ対シ萬一ノ場合ニ備フル為機関銃、実包、無線電信機械（表面電灯用機械）等百三十六梱ヲ三月十日門司発安芸丸ニ爆薬火器鉄條網二十六梱ヲ日貴電第一四一号ヲ以テ満洲及山東守備隊出発以外ノコトハ外交上一切ノ手段ヲ尽シタル上ニテ実行セラルル筈ナル旨御通報ノ次第アリタルヲ以テ北支那駐屯軍増員ノ義ハ帝国政府ニ於テ既ニ御詮議中ニ属スルモ右御確定ノ上ハ一応本使ヘ御通知ノ上実行セラルルコトト心得居リ差支ナキヤ将又北支那駐屯軍増員ノ義ハ如何ナル名義ノ下ニ実行セラルル次第ナルヤ何分ノ義至急電報アリタシ

二三六　三月十一日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

我提案第二号ノ南満東蒙ニ於ケル土地ノ所有権及賃借権竝居住営業問題ニ関シ回訓ノ件

第一四九号

貴電第一一七号ニ関シ

貴電第一一七号ノ四（註）案文ノ如クニテハ我原案ノ意味ト多大ノ懸隔アルノミナラス手続甚煩雑且幾多ノ制限ヲ加フルモノニシテ到底同意ノ限ニ非ルモ此際当方ニ於テモ篤ト支那側ノ立場ヲモ考量シ成ルヘク其体面ヲ傷ツケザル形式ヲ撰ムコトトシ従テ支那側ノ案ヲ出来得ルダケ活用スルコトニ努メ結局南満洲及東部内蒙古地方ニ支那側申出ノ通リ此際新ニ多数ノ商埠地ヲ開クコトニ取極メ右新開埠地点トシテハ客年十二月三日付機密号外第二号乙案附属書列記ノ諸都市ヲ支那側ニ提示シ且将来商務更ニ発達スルヲ俟ツテ右ノ外更ニ開埠地点ヲ増加シ得ル様取極ムルト同時ニ（前記附属書列記諸都市中長春ハ之ヲ除ク同地ヲ編入シ置キタルハ従来我方主張通リ開放実行サレ居ラザリシニヨルモ之ニ関シテハ同様ノ状態ニアル他ノ都市ト共ニ別ニ適当ノ機会ニ於テ之カ開放実行方督促スルコトニ致スベシ）支那側考案ノ形式ヲ参酌シ南満洲及東部内蒙古地方内地ニ在リテ居住貿易セントスル日本国臣民ハ其正当ノ営業ニ従事スルモノナル旨日本領事官又ハ確実ナル保證人ニ於テ保證スル限リ正当ノ理由ナクシテ地方官ニ於テ之ヲ阻止セザルベク又現ニ右等地方ニ在リテ居住貿易シツツアル日本国臣民ニ対シテハ何等阻止ヲ加ヘザルベキ旨竝ニ右内地居住ノ日本国臣民ニ関スル民刑訴訟事件起ラバ従来ノ例ニ依リ処理スベキコトノ趣旨及工商業上ノ建物ノ為ニ要スル土地ニ付テハ応ニ土地ノ所有者ニ対シテ公平ニ暫租又ハ永租（或ハ土地ノ賃借又ハ購買トスルモ差支ナシ）ヲ商議スベシトノ意味ヲ本條約中ノ一個條トシテ取極メ別ニ農業ノコトハ公文

三月十二日神戸発加奈太丸ニ夫々積込ミタル由発送後聞知シタル処右ハ其暇ナカリシモノト見エ支那ニ於ケル武器弾薬輸入規則ノ手続ヲ履ミ居ラザル由右貴官御含迄

右漢口ヘ転電アリタシ

二三五　三月十日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

我北支駐屯軍増員ノ名義等ニ関シ問合ノ件

第一二一号

対支交渉上差当ノ威圧手段トシテ満洲駐屯後任師団出発期日ヲ早メ且山東新守備軍ヲ派遣スルコトトシ既ニ準備ニ取掛ルコトトナリ且北支那駐屯軍増員ノ義モ御詮義中ナル趣ヲ以テ三月五日貴電第一三四号ニテ特ニ卑見御下問アリ引続キ三月六日貴電第一三八号ヲ以テ前記満洲及山東ノ分ハ来十六七日ヲ以テ宇品出発ニ決定シ尚北支那駐屯軍ハ約一千二百名増員ノ内議ナル旨御通報ニ接シタルヲ以テ三月八日往電第一一五号ヲ以テ軍隊ノ出動ト当地ニ於ケル折衝トノ照応方ニ付卑見ヲ上申シ尚北支那駐屯増員ノ義ハ本使ノ申出ヲ俟テ実行相成タキ旨電稟ニ及ヒ閣下ヨリモ恰モ同

ヲ以テ南満洲及東部内蒙古地方ニ在リテハ日本国臣民ハ其開放地タルト未開放地タルトヲ問ハス単独ニテ又ハ支那国臣民ト合同ニテ自由ニ農業ヲ営ムコトヲ得ベク又農業用地ハ地主ト公平ニ賃租又ハ永租（或ハ土地ノ賃借又ハ購買）ヲ商議スヘシトノ趣旨ヲ取極メ置クコトト致度シ尤モ前述開埠増設ニ付テハ支那側ニテ経費ノ増加ヲ心配シ居ル如キモ右ハ単ニ前記各開埠地内ニ本邦人ノ雑居ヲ承認スルノミニテ可ナル次第ニテ別ニ商埠ヲ新ニ経営スルニハ及バザル義ナルヲ以テ格別経費ノ増加ヲ懸念スルヲ要セザル旨貴官ヨリ支那側ニ説明セラルベシ貴電第一一七号ノ三（註）墾務公司ノコトモ一案ナルモ之ヲ組織スルニ多大ノ困難ヲ見ルベキハ勿論之カ運用ニモ亦幾多ノ雑件伴フヘキハ鴨緑江採木公司ノ例ニ見ルモ豫見ニ難カラザル所ニシテ且種々ノ弊害モ之ニ伴フベキ憂アルニ付墾務公司ノ件ハ見合スコトト致度シ尚東部内蒙古ノコトハ御承知ノ通リ我ニ於テ最モ重キヲ置ク主張ノ一ナルニ付已ニ申進シタル通リ是非共南満洲通リ取極ムルコトニ主張相成リ支那側ノ態度飽迄執拗ナルニ於テハ本件ハ後廻シトナシ順次第三号乃至第五号ニ進マルルコトト致度シ

リハ輸入禁止等種々ノ面倒ヲ起スベキハ必然ナルニ付数量個数等詳細ニ各汽船会社支店ニ通知ノ上説明ナシ置ク等規定ノ手続ヲ取ラシムル様至急陸軍省ヘ御通知相成タシ

二三九　三月十二日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

第九回談判ニ於テ我提案第二号ノ諸問題ニ関シ商議シタルニ付経過報告ノ件

第一二二号

三月十一日午後三時外交部ニ於テ第九回談判ヲ開ク先ツ南満洲鉄道期限延長問題ニ関シ協議セルニ支那側ハ買収期限ノコトハ適当ノ取極ヲナシ其條項ヲ廃棄スルコトトシ九十九年ノ期限ハ之ヲ無償還附期限トスルコトニ同意アリタシト頻ニ懇談ニ及ビタルヲ以テ本件ニ関スル御電訓ノ次第モ有之ニ付本使ハ之ニ同意シ更ニ満鉄ノ期限ハ東清鉄道條約第十二條ニ基キ運転開始ノ日即チ西暦千九百三年七月十四日ヨリ起算シ民国九十一年即チ西暦二千二年ト定ムルノ至当ナルヲ説明シ前回陸ヨリ手交ノ附註ニ定メタル其起算点ニ誤謬アルコトヲ指摘セルニ支那側ニ於テハ直ニ之ヲ承認

註　貴電第一一七号ノ三又ハ四ト云フハ同電ガ長文ナリシガ故ニ発電ノ際之ヲ適当ニ分割シテ数個ノ独立電報トシ各電報ニ右ノ如キ番号ヲ附シタルモノナリ右ハ其一例ナリ

二三七　三月十一日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

我北支駐屯軍増員ノ儀問合ニ関シ回示ノ件

第一五〇号

貴電第一二一号末段ニ関シ北支駐屯軍増員ノ儀ハ既ニ申進置タル通目下準備中ニテ直ニ実行スル次第ニアラズ愈実行スル場合ニハ豫メ貴官ニ其旨通知スベク又如何ナル名義ヲ用フベキヤモ其節合セテ電報スヘシ

二三八　三月十一日　在上海有吉総領事ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

中国ヘノ武器弾薬等ノ輸入ニハ規定ノ手続ヲ執ルベキ様陸軍省ニ要請方ノ件

第四四号

貴電第五五号ニ関シ当方ヨリ必要ノ手続ヲナシ置カザル限シ同時ニ安奉鉄道ノ分モ過日ノ附註ニハ誤謬アルニ付計算等ニ関スル類似ノ誤謬ハ條約其他ノ文書確定案作成ノトキニ適当ニ訂正シ可然ト云ヘリ続テ陸ハ前回ニ支那側ヨリ提出ノ第二條及第三條ニ対スル新修正案ニ対シテハ日本国政府ニ於テ意見如何決定シタルヤ承知シタシト尋ネタルニ付本使ハ支那側新修正意見ハ原案ノ趣旨ト懸隔尚甚シキモノアルノミナラス問題ノ性質頗ル重大ニシテ複雑ナル関係モアリ十分審議ヲ尽シ研究ヲ要スヘキニ依リ追テ何分ノ意見ヲ述フルコトアルヘキ旨ヲ答ヘ兎モ角第二條及第三條ノ原案ノ趣旨ハ東部内蒙古ニ及ホスニ在ルヲ以テ本使ハ特ニ此ノ機会ニ際シ東部内蒙古問題ハ帝国政府ニ於テ依然其主張ヲ支持スル次第ナルヲ声明シ置キタシト述ヘタリ然ルニ本使ノ此声明ニ対シテハ陸ハ過日ノ議論ヲ再ヒ繰返シ蒙古地方ニ於ケル未開危険ノ状態ヲ説キ他日ヲ俟テ実際ノ情況ニ応シ相談シタシトテ執拗ニ前議ヲ固持シ尚過日示挙シタル外反対ノ理由トシテ或ル第三国ハ現ニ深甚ノ注意ヲ以テ我交渉ノ成行ヲ監視シツツアル事実ヨリ推断シ他日此国ヨリ何等特ニ要求ヲナシ来ル虞アリトテ暗ニ露国ノ要求ヲ恐レ居ル趣ヲ仄カシタリ依テ本使ヨリ兎モ角本問題ハ後廻トナスコトヲ提議シ続テ第四條ハ前回ニ於テ原案ノ通トシ

此際日本人ノ採掘スヘキ鉱山ヲ我方ヨリ指定スルコトトセハ考慮ノ余地アル旨陸総長ノ言明アリタルニ付テハ其後支那政府ノ詮議如何相成リシヤト尋ネタルニ陸ハ篤ト農商工部ト協議ノ結果現在直チニ日本ヨリ各鉱山ヲ指定セラルルニ於テハ支那政府トシテハ之カ許可ヲ与フル前一応委員ヲ派遣シ各鉱山ノ実況ヲ調査セシメ差支ノ有無ヲ確メサルヘカラス斯クテハ自然ニ時期モ遷延シ現ニ商議中ノ條約モ長ク纏マラサルヘキニ付本條ハ矢張リ支那側対案通リ一年間ノ踏査期限ヲ約シ其結果ニ依リ採掘スヘキ鉱山ヲ選択決定スル事便宜ナラン且此方法ハ支那政府ノ見解ニテハ何等機会均等主義ニ牴触スル所アラスト認ムルニ付対案方法ニ同意セラレタク将又鉱業條例ニ拠ル事ハ絶対的ニ必要ト主張シタルニ付本使ハ支那側ノ毎回意見ノ変更スルコトヲ詰リ兎モ角鉱山ヲ指定シ原案ニ同意スヘキコトヲ主張シ鉱業條例ニ依ルコトハ未タ正式ニ外交団ノ承認ヲ経サルモノニ付キ此事ヲ條約若ハ公文書中ニ記入スルコトハ絶対ニ同意シ難シト駁シ論戦数回ニ亘リタルモ結末ヲ見ス先方モ鉱業條例ニヨルコトハ案外ニ強硬ニ其ノ主張ヲ支持シタルヲ以テ雙方今一応ノ考慮ヲ試ムルコトトセリ本使ノ所見ニテハ鉱山ヲ指定シテ原案通取極ムルモ支那側対案ノ如ク取極ムルモ必ズシモ其ノ結果ニ於テハ多大ノ相違アラザルヤニ考ヘラルルヲ以テ此点ハ支那側ノ提案ニ同意スル方却テ利益ナラザルヤニ思ハル鉱業條例ニ依ルノ一事ハ同條例発布以来外交団ノ本條例ヲ承認セザルニ拘ハラス支那政府ニ於テハ該條例ノ主義ト相容レザル形式ニテハ全然外国人ノ支那鉱山ニ関係スルコトヲ絶対ニ許サザルノ方針ヲ採レルニ顧ミ我方ノ主張ヲ貫徹スルコト余程困難ナルヤニ考ヘラル現ニ本日ノ会議ニ於テモ鉱業條例ニ対スル外交団未承認ノ一点ヲ以テ日本側ニ於テ反対セラルル訳ナラバ何トカ其旨適当ノ意味ヲ附加シ鉱業條例ニ依ルコトニ定メテ可ナリト主張セリ就テハ原案第四條ハ満蒙ニ於ケル特定ノ鉱山ヲ全然日本人ノ手ニ収メ経営スルノ方針ナリヤ此ノ場合ニ於テハ外国人ヨリ同様ノ要求ヲ為スコトヲ豫期セサルヘカラス斯ノ如キ支那側ノ論拠ニ対シ反駁ニ値スル適当ノ理由アリヤ一応其辺ノ御意見可成詳細ニ御回示ヲ請フ次ニ第四條第五條第六條ハ先方タツテノ希望ニ任セ御電訓ニ基キ本日ノ会議ニ於テ本使ハ文書ノ取極メトスルモ差支ナキモ右ハ附属文書又ハ議定書トシテ為シテ公表スルコトト為スヘキ旨言明シ置ケリ然ルニ支那側ハ照会文ノ形式ニテ取極メタシト希望シ将又文書ニ依ル取極ハ現行條約ト同様ノ効力ヲ有スル旨ハ矢張リ照会文ノ形式ニテ約束シ置クモ苦シカラス将又前記三箇條ヲ文書ノ形式ニ依リ取極メントスル支那側ノ目的ハ之ヲ公式ノ方法ヲ以テ公布スルコトヲ避ケントスルニアルコトナレハ日本側ニ於テモ公式ノ方法ヲ以テ公布スルコト丈ハ避ケラレタシト述ヘ居レリ要スルニ文書ニ依ル取極メノ形式ハ之ヲ條約附属文書トスヘキカ附属議定書トスヘキカ将又照会文ヲ以テ交換スヘキカ時間ノ都合ニテ本日ハ確定議ニ至ラス本使ノ意見ニテハ此等ハ他日交渉案件ノ内容カ商議確定スルヲ俟ツテ取極ムルコトトスルモ可ナルヘシト考フ

本日ハ陸総長急用ニテ是非大総統府ヘ出仕セサルヘカラストノコトニ付会議ヲ中止シ午後五時三十分散会セリ

二四〇　三月十三日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

曹次長来訪ノ上日本軍ノ山東満洲出動ニ関シ中国側ノ苦慮陳述ノ件

第一二四号

三月十二日曹汝霖本使ヲ来訪シ日本国ハ愈々其軍隊ヲ山東満洲方面ヘ出動スル趣ナルガ右ハ交替ノ為トハ承知シ居ルモ次第ナルモ何分ニモ目下交渉事件商議中ニ軍隊出動抔トノ報伝ハルニ於テハ誤解所在ニ伝播シ結局民心ノ動揺ヲ来スコトアルモ保シ難ク民国成立後日尚浅ク政府ノ基礎モ十分鞏固ナリト云フヲ得サル今日民心ノ動揺ヲ来スガ如キハ支那政府ノ最モ苦慮スル所ナルニ就テハ交渉談判ノ結了ヲ俟テ満洲等ニ於ケル軍隊ノ交替ヲ行ハルルコトヲ希望スル次第ナルモ萬已ムヲ得ズバ本使ヨリ右ノ如キ軍隊ノ移動ハ単ニ交替ノ為ニ過ギザル旨ノ通告書ヲ受ケ人民ニ対スル説明ノ用ニ供シ以テ人心ヲ安ンズルコトシタク談判ノ模様ハ殊ノ外好都合ニ運ビ居リ支那政府トシテハ出来得ル丈ケ譲歩ノ精神ヲ以テ交渉シツツアル次第ナルヲ以テ譲歩シ得ベキ極度ノ点以上ハ日本国ヨリ如何ナル圧力ヲ加ヘラルルモ譲歩シ能ハザル次第ナリ云々ト述ベタルニ付本使ハ程能ク軍隊出動ニ関スル談話ハ成ルヘク之ヲ避ケ兎モ角此際支那当局者ニ於テ今ヨリ三四回ノ会議ヲ以テ主義上提案全部ノ商議ヲ結了スル態度ヲ執ルニアラザレバ両国ノ為頗ル面白カラサル事態ヲ惹起サストモ限ラザルベク目下ノ場合最肝要ナルハ十分互譲ノ精神ヲ以テ速ニ談判ヲ結了スルニアル旨ヲ懇諭シ置ケリ我軍隊出動ノ報道ハ昨今支那政府ニ勘

カラザル不安ノ念ヲ与ヘタルモノノ如ク曹ハ慌シク本使ヲ来訪シテ右ノ如キ陳述ヲ為シタルカ如キ又一月十八日本使カ我要求條項ヲ袁ニ申込ミタル当時両三回袁ト面会シタル以来今日迄一回モ袁ヨリ諮問ヲ受ケタルコトナキ坂西ガ十二日急ニ袁ヨリ招カレタルガ如キハ多少注目ニ値スルノ事柄ナラント信ス

二四一　三月十三日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

我提案第二号第四條南満東蒙ニ於ケル鉱山採掘権ニ関シ回訓ノ件

第一五四号

貴電第一二二号中第二号第四條鉱山ノ件ニ付同電ノ五ヲ以テ支那側対案ノ如ク取極ムルモ其結果ニ於テ多大ノ相違アラザルベキ旨御来示ノ次第ハアルモ二月十二日支那側対案ニヨレハ本件特権ヲ有スルモノハ或ル一日本資本団ニ止マルコトト成リ此点既ニ不可ナルノミナラス同案ハ一年間日本側ニ独占権ヲ与フル結果ト成ルベク斯クテハ他日例ヘハ英国側カ揚子江流域ニ於テ同様独占権ヲ獲得セントスル場合ニ日本ハ何等之ヲ阻止スルノ途ナクヨシ又第三国側ニ於テ斯ノ如キ企図ヲ為ス意ナシトスルモ少クトモ此種ノ企図ヲ誘致スル結果トナルベク且又御承知ノ通リ嘗テ「スタンダード」陝西石油契約問題ニ際シ同契約ノ独占的性質ヲ指摘シ支那側ノ不都合ヲ責メタル日本国カ此度ハ自ラ同様ノ不都合ヲ侵ス筋合ト相成ルハ如何ニモ面白カラズ旁矢張リ原案通リ我方ニ於テ特定ノ鉱山ヲ指定スルコトト致度ニ付往電第一四六号ヲ以テ申進シタル諸鉱山ニ付同電所載通リノ方法ヲ取極メ置クコトト相成様御尽力アリ度シ又支那側ニ於テ是非共鉱業條例ニ依ルコトヲ主張スルニ於テハ已ムヲ得サルニ付外交団ニ於テ既ニ抗議ヲ提出シ居レル各項及日支両国間現行ノ各種條約取極ト抵触スル点ヲ除キ其他ハ大体鉱業條例ノ精神ニ照シ努メテ遵行スヘキコトト為シ置クモ差支ナシ将又貴電第一二二号ノ六末段ヲ以テ御請訓ノ点ニ付テハ貴電ノ意味明瞭ヲ缺クモ若シ御問合ノ趣意ニシテ満蒙ニ於テ我列挙指定スル鉱山ヲ他ト合同セス全然日本人ノ手ニ収メ経営セントスルコト我提案ノ趣旨ナリヤト云フニアレハ其通リナルコト勿論ノ次第ニシテ従テ御来示ノ通リ将来他国人ヨリ満蒙地方ニ於テ日本人ノ採掘セサル鉱山ニ付同様ノ要求出ヅベキコトモ豫期セザルヲ得ザル義ナリ我原案ニ於テ機会均等主義抵触問題ヲ避クル為南満洲及東部内蒙古地方鉱山全部ニ対シテ我特殊ノ優越権ヲ獲得スルコトヲ見合セ鉱山ヲ指定スル方針ニ出デタル以上右ハ必然ノ結果ナリ尤モ事実ニ於テ優良ナル鉱山ハ全部我方ニ帰スルコトトナルベキニ付実際上他国人ニ於テ関係ヲ附クルヲ欲スルガ如キ良鉱残リ居ラザルニ至ルベシ右御含迄申進ス

二四二　三月十四日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

提案第五号ニ対スル中国側態度ニ鑑ミ我譲歩程度ニ付更メテ請訓ノ件

第一二六号

談判モ漸次進行シ近ク第五号ニ入ルヘキ所同号ニ対シテハ支那側ニ於テモ強硬ニ撤回方ヲ要求シ機会アル毎ニ其ノ意志ヲ表示シ当方ニ於テハ常ニ断乎トシテ之レヲ撥ネ附ケ居ルニ拘ハラス今ニ断念ノ模様見エザルガ右ハ種々ノ事情譬ヘバ初メヨリ希望竝勧告條件トシテ先方ヘ申込ミタルコト竝ニ関係各国政府ヘ通知セラレザリシ事実ノ内情ハ過日閣下ガ米国大使ト会談中若シ要求ニシテ先方ノ聞ク所トナラザランカ当事国間ニ容易ナラザル事態ヲ惹キ起スハ自然ノ勢ナレドモ所謂第五項ノ諸項ハ此種ノモノトハ其ノ性質ヲ異ニシ単ニ之ガ勧告スルニ止マレリト言明セラレタルコトヲ支那側ニ於テ探知シ居ルト他ノ一方ニ於テ顧問官兵器鉄道問題ニ関シテハ一般外国人竝ニ外国公使中窃カニ支那政府ノ尻押ヲナシ居ルモノナキニアラズヤト疑ハルル廉ナキニアラザルガ如キ事情ノ存在ニ依ルコトナラント推量セラル而シテ第五号ニ関シテハ曩ニ閣下ヨリ陸公使ヘ或ル程度迄譲歩ノ意志アルコトヲ表示セラレ又貴電第八八号ヲ以テ逐一譲歩程度ヲ明示セラレ本使裁量ニ依リテハ直ニ之ヲ支那側ニ示シ得ル権限ヲモ許与セラレ居ル義ナルガ貴電第一四一号末段ニ依レバ帝国政府ハ此際或ハ貴電第八八号ヲ以テ表示セラレタル譲歩ハ一ト先ヅ撤回セラレントスル意志アルニアラザルカトモ感ゼラルルニ付此辺ニ関シ改メテ何分ノ御訓示ヲ得置キタシ

二四三　三月十四日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

第十回談判ニ於テ第二号各條ニ付前回ニ引続キ商議ノ模様報告及請訓ノ件

第一二八号

三月十三日午後三時ヨリ外交部ニ於テ第十回談判ヲ開ク先ツ支那側ヨリ第二号第一條ニ関シ過般来議了ノ趣旨ヲ條約及公文案ニ認メ左記ノ通提示シ前回支那側ヨリ提出ノ附註ハ公文ノ形式トシタキ旨申出デタルニ付本使ハ之レニ同意シ先方ノ希望ニ任セ附屬公文案各二通ヲ作リ雙方共ニ之レニ記名シ各一通宛ヲ所持スルコトセリ第一條條文案（兩締約國互相約定將旅順大連租借期限竝南滿洲及安奉兩鐵路期限展至九十九年爲期）（附屬公文案　旅順大連租借期限至民國八十六年即西曆一九九七年爲滿期南滿鐵路交還期至民國九十一年即西曆二〇〇二年爲滿期其原合同第十二款所載開車之日起三十六年後中國政府可給價収回一節毋庸置議安奉鐵路期限至民國九十三年即西曆二〇〇四年爲滿期）

次ニ第二條及第三條ニ関シテハ貴電第一四九号ノ趣旨ニ遵ヒ修正案提出ノ筈ノ所御電訓ノ趣旨ニ付篤ト研究ヲ要スルニ付本使ハ不取敢陸ニ対シ支那側修正案ノ尚原案ト多大ノ懸隔アルノミナラス手続甚タ繁雑ニシテ且幾多ノ制限ヲ加フルモノナルヲ以テ到底同意ノ限リニアラザル旨ヲ述ヘ兎モ角原案ヲ基礎トシ今一応考慮ヲ加フルコトヲ希望シ置ケリ然ルニ陸ハ支那側ヨリ既ニ二回モ本件ニ関シ提案シタル次第ニ付日本国ヨリ右ヲ基礎トシ何トカ修正意見ヲ発表セラルルヲ至当トシ又其事ヲ豫期シタリトテ懇々修正意見提出ヲ希望スル旨反覆陳述セリ

第四條鉱山採掘権ノコトハ最後ノ請訓ニ対シ未タ御回訓ニ接シ居ラサリシヲ以テ後廻トシ第五條ニ移リ商議ヲ進メタルニ本條ハ前回ニ於テ公文交換ニ同意セシ次第ナルヲ以テ先方ヨリ左記ノ公文案ヲ提示セリ

（公文案ノ一、中國政府聲明嗣後在東三省南部需造鐵路由中國自行籌款建造如需外款中國政府允許先向日本國資本家商借）

（公文案ノ二、中國政府聲明嗣後東三省地方官如有以關税鹽税以外之税課作抵商借外款之事中國政府不能允准）

右公文案ノ一ニ於テハ我原案中ニ要求セル他国ニ鉄道敷設権ヲ与フル場合ヲ明言セザルモ支那側ノ説明ニ拠レハ右公文案中ニ明言セルカ如ク将来南満洲ニ於テ鉄道敷設ヲ要スル時ハ支那自ラ資金ヲ用意シ敷設スヘク云々トアルニヨリ外国ニ敷設権ヲ与ヘザル意味明瞭シ居ルノミナラス事実問題トシ論ズルモ南満洲ニ於ケル日本国ノ現地位ニ顧ミルモ支那トシテ到底外国ニ鉄道敷設権ヲ与フルガ如キ事ハ断ジテ無之次第ナリ而シテ是非外国ニ敷設権ヲ与フル場合ヲ防グ意味合ノモノヲ入ルルコトヲ日本国ニ於テ必要トセラルルニ於テハ他国ヲ外国トシ其意味ヲ入ルルトモ差支ナカルヘシト主張セリ

右支那側主張ノ理由一応ハ尤ノ様思料セラルルノミナラス他国ニ対スル敷設権許与ヲ防グコトヲ我ニ於テ極力争フニ於テハ勢我国自身モ之ニ制セラレ敷設権要求ヲ為シ得ザルコトトナルヤニ考ヘラルルニ付寧ロ支那側修正案ノ通ニ取極メ置キ可然ヤト思料ス若シ他国ニ対スル敷設権許与ノ場合ヲ制限スル意味ヲ存スルコトヲ是非必要トセラルルニ於テハ前記支那側案文中ニ東三省南部ニ於テハ鉄道敷設権ヲ外国（他国トスルコトハ絶対的ニ支那側ニ於テ同意セス）ニ許与セス若シ其敷設ヲ要スルトキハ支那自ラ資金ヲ準備シ之ヲ建造スヘク云々（以下支那側修正案ノ通）ト取極メシムルコト不可能ニアラズト信ズ何分ノ御意見御回示ヲ請フ

次ニ諸税担保借款ニ関スル件ハ過般会議ノ節ニ於ケル先方ノ所説ト一致セサル所有之ニ付本使ハ其ノ点ヲ指摘シ原案ノ趣旨ヲ公文ヲ以テ取極ムル必要ヲ主張シタルモ先方ニ於テ本件ハ数回財政当局者トモ凝議ノ結果借款ヲ起ス場合ニハ一々日本国政府ノ同意ヲ要スルコトシテハ余リニ支那ノ体面ヲ傷クルコトトナリ到底同意シ難シト決定セル次第ニ付兎モ角右ノ支那側修正案ヲ一応日本国政府ヘ転達セラレタシト請求シタルニ付一応御考量ヲ請フ右借款ノ件ニ限ラズ第二号ニ於テ要求シタル各項ハ支那側ノ体面上日本国ニ協議云々ノ意味合ニテ取極ヲナスコトヲ嫌ヒ居ルヲ以テ本件モ我原案ノ意味合ニテハ到底承諾ヲ得ルコト困難ナラムト考フ或ハ（支那政府ハ爾後東三省南部及ヒ東部内蒙古ニ於ケル諸税「但シ従来一般的借款ノ担保ニ供セラレ居ル関税塩税ノ類ヲ除ク」ヲ担保ニ他国ヨリ借款ヲ起サントスル時ハ先ツ日本国ノ資本家ニ向ヒ商議借入ルベキコトヲ声明ス）トノ意味合ニテ交渉セバ先方ニ於テ何等カ考慮ノ余地アラズヤト考ヘラル之トテ必成ハ期シ難キモ御異存ナケレバ当方ヨリ修正意見トシテ一応交渉ヲ試ムヘシ是亦何分ノ御意見御回示アリタシ

次キニ第六條ニ関シテハ支那側修正案中ニ（警察）及（教官）ノ二語ヲ挿入スルコトニハ異議ナキ旨言明シタルモ

（最先ニ）ノ一語ヲ削除スルコトニハ同意セス支那側ノ説明スル所ニ依レハ日本国ノ原案ニハ顧問教官ヲ要スル場合ニハ必ス先ツ日本国ニ協議スヘシトアルモ支那ノ対案ハ之ヨリ一歩ヲ進メ外国ヨリ顧問等ヲ聘傭セントスル時ハ（最先ニ）日本人ヲ聘傭スヘキコトヲ声明セル次第ナルニ付（最先ニ）ノ一語丈ケハ支那ノ体面ヲ立テ之ヲ存スルコトニ同意セラレタシト懇願セリ

本日談判ノ要領右ノ如ク午後六時四十分散会セリ

二四四　三月十四日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

提案第二号ノ多数商埠開放ト内地雑居問題ニ関シ意見開陳ノ件

第一二九号

貴電第一四九号ノ御趣旨ハ此際支那側ヲシテ我方ノ指定スル多数ノ商埠ヲ開キ且ツ将来之ヲ増加スル事ヲ條約ノ一箇條トシテ約セシムルト同時ニ別ニ一箇條トシテ所在領事若クハ保證人ノ證明シタル日本人ニ限リ内地ニ居住シ貿易其他ノ業務ニ従事スル事ヲ認メシメントスルニアル義ト解

セラルル処右様了解シ可然ヤ為念一応御回示ヲ仰キ度若シ果シテ然リトセハ同一條約中ニ二箇ノ相違セル主義ヲ認メシムルノ嫌ナキヤ即チ一方ニ於テ内地雑居ヲ認メザル主義ト照応スル為多数ノ商埠地ヲ開カシメナガラ他ノ一方ニ於テ領事其他保證ノ下ニ内地雑居ヲ認メシムルコトトナリ各主義一貫セザル点ト我修正案ニ於テ支那側ノ最モ重キヲ措ク裁判権警察課税等ノ事項ヲ悉ク削除セル点トハ共ニ必然支那側ノ強硬ナル反対ヲ招ク事ト豫期セラルルモ兎モ角次回談判ニハ我修正意見トシテ之ヲ提出スヘシ

本使ノ所見ニテハ多数商埠開放主義ヲ執ルナラハ寧ロ此際條約面ニ於テハ其主義ヲ一貫シ別ニ密約ヲ以テ従来未開放ノ満蒙内地ニアリテ居住シ貿易其他ノ業務ニ従事シツツアル日本国臣民ニ対シテハ其事実ヲ其儘黙認シ地方官ヲシテ何等阻止ヲ加ヘシメス又今後満蒙内地ニ入込ミ各種ノ生業ニ従事セントスルモノニ対シテモ正当ノ理由ナクシテ地方官ニ於テ之ヲ阻止セザルベキ旨ノ取極ヲナシ置キ以テ條約面上ハ飽迄商埠地主義ヲ一貫スル方針ヲ執ルニ於テハ体面ヲ重ンシ他国ノ均霑ニ懸念スル支那当局ハ案外商議ニ応ズルニアラズヤトモ考ヘラル若シ又原案ノ雑居主義又ハ今回新修正ノ折衷案ノ貫徹ヲ期センニハ民刑訴訟ニ関スル裁判権問題ハ兎モ角トスルモ尠クモ内地居住ノ我臣民ヲシテ或程度ノ警察規則（例ヘハ我領事官ノ承認シタル）及或種ノ課税（前同断）ニ服セシムルコト丈ハ我方ニ於テ之ヲ考慮セザレバ到底我主張ヲ貫徹スルコト至難ナルベシト思考ス就テハ右ニ対スル何分ノ御意見御回示ヲ請フ

二四五　三月十四日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

提案第二号ノ鉱山ニ関シ提出セントスル修正案ニ付請訓ノ件

第一三〇号

貴電第一五四号鉱山ノ件ハ御訓示ノ通我原案ノ趣旨ヲ支持シ客年十二月三日附機密号外第二号附属書列記諸鉱山ヲ支那側ニ提示シ日本側ニ於テ右諸鉱山ニ付成ルヘク速カニ調査ヲ行ヒタル上ニテ指定希望スル鉱山採掘ヲ支那政府ヨリ許可スルコトニ取極メ鉱業條例ニ依ラザルコトハ絶対的ニ支那側ニ於テ同意ス間敷ト思料スルニ付貴電第一五四号御訓示ノ趣旨ニヨリ次回談判ニ於テ左ノ如キ修正意見ヲ提出スヘク御意見アラバ来ル火曜日談判前迄ニ何分ノ御回訓アリタシ

（支那政府ハ南満洲及東部内蒙古ニ於テ左記諸鉱山中日本国政府ガナルベク速カニ調査ヲ行ヒタル上指定シタルモノノ採掘権ヲ日本国臣民ニ許与スルコトヲ承諾ス前項ニヨリ日本国臣民カ各鉱山ノ採掘ヲナスニ当リ既ニ外交団ヨリ抗議ヲ提出シ居ル各項及日支両国間各種現行條約ノ取極メト牴触スル事項ヲ除キナルベク鉱業條例ニ照ラシ之レヲ遂行スヘシ）

尚前項修正案ヲ提出スルニ於テハ前電ニモ申進シタル通支那側ニ於テ右鉱山採掘権ヲ我ニ許与スル前豫メ農商部ヨリ人ヲ派シ実地ニ付キ差支ノ有無取調フルコトヲ要スト主張スヘキニ付此ノ点ニ付テハ如何応対シ可然ヤ是又何分ノ御回訓ヲ請フ序乍ラ往電第一二二号ノ㈥末段ヲ以テ我指定スル鉱山ハ他ト合同セス全然日本人ノ手ニ収メ経営セラルヘキコト我提案ノ趣旨ナリヤ否質疑ニ及ヘル次第ハ本使ニ於テ必ズシモ他国人ト合同経営ノ場合ヲ意味シタルニハ無之現行鉱業條例ニ依ルトキハ外国人ノ鉱山採掘ハ必ズ支那人ト合資ノ形式ニ依ルヲ原則トスルヲ以テ我提案ノ趣旨ハ鉱業條例ヲ離レ絶対的ニ単独ナル採掘権ヲ欲スルニアル次第ナルヤ此点ニ付疑義アリタルヲ以テ一応質問ニ及ヒタル次第ナリ其後貴電第一五四号御電訓ニ接シ已ムヲ得ザレバ

制限的ニ鉱業條例ニ準拠スルコト差支ナキ旨ヲ承知シ得タルニ付疑義ノ点ハ明瞭スルニ至レリ

二四六　三月十五日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

提案第五号ニ関スル我譲歩程度及交渉上ノ取扱方ニ付回訓ノ件

第一五六号

貴電第一二六号ニ関シ往電第一四一号末段ハ往電第八八号ノ修正ヲ一ト先ツ撤回シタル意味ニハアラス右往電第八八号ノ修正ハ同電末段ニモ申述ヘ置タル通リ我方ニ於ケル最終譲歩ノ限度ヲ示シタルモノニシテ帝国政府ニ於テハ貴地ニ於ケル折衝ノ結果ニヨリ成ルヘク右最終譲歩ニ至ルコトナクシテ交渉ヲ完了センコトヲ切望セルハ勿論ノ義ニ付右ノ含ヲ以テ遺憾ナク交渉ヲ取運ハレ度シ尚往電第八八号中第五号ノ㈠鉄道ノ件ニ付テハ出来得ル限リ我原案ノ主張ヲ努メラレタキモ往電第一五一号ヲ以テ御承知ノ通リ英国政府ヨリ申出ノ次第モアルニ付右等ノ関係上自然交渉全部ノ完了ヲ遅延セシムルカ如キコトト成リテハ遺憾ニ堪カラサルヲ以テ若シ支那側ニ於テ英国側トノ契約ノ結果我希望ニ応シ難キ旨ヲ主張シ折合付キ兼ヌル場合ニ至ラハ英国側トノ問題ハ帝国政府ニ於テ引受ケ処理スベキニ付英国側ニ於テ故障ナキ限リ同意スヘキ旨ノ約束ヲ取リ置キ詳細ノ取極ハ今回ノ交渉ト引離シ別個ノ協定ニ譲ルコトトスルモ差支ナシ又往電第八八号第五号ノ㈡兵器ノ件ハ追テ我軍憲トノ間ニ商議協定スヘキ旨ノ主義上ノ取極ヲ為シ置クニ止マルコトトナラズ成ルベク支那内地ニ日支合辦ノ兵器製造所ヲ設クルコトニテ話ヲ纏ムル様精々御尽力ヲ希望ス将又貴電第一二六ノ二ニヨレハ第五号ニ関シテハ曩ニ本大臣ヨリ陸公使ニ或程度迄譲歩ノ意志アルコトヲ表示云々トアルモ当時本大臣ノ陸公使ニ述ベタル意味ハ第五号ノ諸項ハ絶対ニ論議ノ余地ナシト云フニ非ズトノ趣旨ヲ暗示シタルニ止マリシモノニシテ決シテ譲歩ノ意ヲ表示シタルノ義ニ無之ニ付誤解ナキヤウ致度シ

二四七　三月十五日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

提案第二号ノ多数商埠開放ト内地雑居問題ニ付説示ノ件

第一五七号

貴電第一二九号ニ関シ

往電第一四九号ノ意味ハ御了解ノ通リナルモ開埠ノコトト内地居住ノコトトハ必ズシモ別個ノ箇條トスルヲ要スル趣旨ニハ非ズ後者ハ但書トスルモ文書ノ形式トスルモ敢テ差支ナキモノニ付右ニ御含置アリ度シ又右ノ案ハ同一條約中ニ二箇ノ相違セル主義ヲ認ムルコトトナル嫌ナキヤトノ御来示ナルモ決シテ然ラズ多数開埠主義ハ素ヨリ原則ナルモ満蒙ノ特殊事態ニ鑑ミ例外ノ便法トシテ我修正案ノ如キ内地居住方法ヲモ認メシメントスルモノニ過ギズ将又貴電第一二九号ノ二ノ如ク内地居住ノコトヲ密約トスルハ面白カラザルニ付密約ニアラザル形式ニテ取極ムルコトニ主張相成度尤右貴電末段御請訓ノ通内地居住ノ日本臣民ヲシテ我領事官ノ承認シタル行政警察ニ関スル諸規則及課税ニ服セシムルコト丈ハ約束スルモ差支ナシ

二四八　三月十五日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

提案第二号ノ鉱山ニ関スル修正案承認ノ旨回訓ノ件

第一五八号

二四九　三月十五日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

第十回談判ニ於テ商議セラレタル第二号ノ諸問題ニ関シ回訓ノ件

第一五九号
貴電第一二八号ニ関シ

㈠　第二号第一條ノ件公文案ハ貴電第一二八号ノ二末段御来示ノ次第モアリ単ニ備忘ノ為ニ作成セラレタルモノト思考スル処夫ニシテモ文言面白カラザル点尠カラズ特ニ「旅順大連租借期限」及「南満洲鉄道期限」ナル語ハ我原案ニモ支那対案ニモ使用セル所ナルモ右ハ正確ニ云ヘバ日露媾和條約第五條及第六條ノ権利全部ヲ指スモノタルハ勿論ノ義ナリ又貴電第一二八号ノ二安奉鉄路交還期九十三年即西暦二〇〇四年トアルモ右ハ満洲ニ関スル日清條約附屬協定第六條ノ期間ヲ誤テ同條約調印ノ年ヨリ起算シタルモノナルヘク右第六條所載ノ軍隊送還期間一ヶ年改良工事完成期限二ヶ年ヲ通算控除シ其後ヨリ起算スレハ民国九十六年即二〇〇七年ト相成ルハ往電第一四七号末段ノ通ナリ字句計算等ノコトハ後日ニ譲ルヘキモ右貴官御含迄申進ス

㈡　第五條公文案ノ一、大体差支ナキモ対等国ニ対シ「允許」云々ト称スルハ不都合故右ハ「允諾」又ハ「同意」ト改ムベシ鉄道敷設権ノコトハ貴電第一二八号ノ六後段貴見ノ如ク強ヒテ規定ヲ設クルヨリモ寧ロ何等ノ規定ヲモ設ケサル方得策ナルヘシト思考スルニ付敷設権ノ件ハ見合スコトト致スベシ諸説担保借款ノ件ハ貴電第一二八号ノ八貴案ノ意味ニテ差支ナキニ付右ニテ話ヲ纏ムル様御尽力アリ度尤モ貴案中「他国」トアルハ「外国」ト改メラレ度シ

㈢　第六條「最先ニ」ヲ挿入スルコトハ止ムヲ得ザルニ付同意スヘシ尤モ此ノ如キ字句ノコトハ後ニ至リ始末スルコトトシ成ルベク交渉ヲ速進セシムル様致度最近両三回会見ノ模様ニ見ルニ支那側ハ兎角問題ノ細節ニ拘泥シ枝葉ノ議論ニ亘ル傾アリ或ハカクシテ談判ヲ引延バサン魂胆カトモ察セラルル処貴官ニ於テハ素ヨリ其辺御如才ナク支那側ヲ鞭撻シ居ラルルコト勿論ナルベキモ先方ノ内意右ノ如シトスレバ此上共我方ハ益々速進ノ方法ニ出ヅルコト肝要ト思考スルニ付右ノ御含ニテ可然御措置相成度シ

二五〇　三月十五日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

北支駐屯軍増員決定ニ関スル司令官通牒ニ付問合ノ件

第一三一号
北支駐屯軍増員ニ関スル往電第一二一号ニ関シ貴電第一五〇号ヲ以テ御回示ノ次第アリタル所三月十三日付ヲ以テ司令官ヨリ今般七十一聯隊及独立山砲中隊ヲ同軍ニ増加スルコトニ決定相成リ右ハ三月中旬大沽ヘ転送セラルル予定ナル旨公然通牒ニ接シタリ右ニヨレハ本件ハ愈実行セラルルコトニ決定シタルヤニ存ゼラルル所従来ノ行懸モ有之コトニ付為念本使含迄事実ノ如何御回示ヲ請フ

二五一　三月十六日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

北支駐屯軍増員ノ司令官通牒ニ関スル件

第一六一号
貴電第一三一号ニ関シ司令官通牒ハ単ニ豫定ニ止マリ現ニ実行見合中ノ計画ト同一ナレバ右ハ同司令官ニ於テ其事情ヲ知ラズシテ当初豫定ノ内報ヲ受ケタル儘貴官ヘ通牒シタルモノト察セラル

二五二　三月十七日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛

中国新聞論調続報ノ件

公第七五号　（三月二十五日接受）
大正四年三月十七日

支那新聞論調続報（三月五日ヨリ十五日ニ至ル）

前報ノ通リ逐條討議開始ト共ニ漸ク平静ニ傾キツツアリシ支那新聞論調ハ一、革盟党一派ノ暗中飛躍説二、欧米殊ニ英国側輿論ノ趨向三、日本ノ出兵説トニヨリ漸次乱脈悲観ニ傾ケルモノノ如シ即チ革命党一派ニ対シテハ重ナル新聞社ハ何レモ其筋ノ意ヲ承ケ居ルモノノ如ク一面ニ日本ノ要求ヲ誇張シテ危急救国ヲ絶叫シ以テ彼等ノ愛国心ヲ喚起シ而シテ政府ハ一面ニ特赦令ヲ発シ其他種々ノ方法ヲ以テ極力彼等ノ引誘懐柔ヲ試ミ着々其功ヲ収メツツアルカ如キモ尚ホ日本カ之ヲ利用シテ活躍ヲ試ムルナキヤヲ極端ニ危惧スルモノノ如ク依然各新聞ヲシテ革命一派ノ運動ヲ誇大ニ

吹聴セシメ以テ国民ノ嫌悪心ヲ喚起スルニ努メ居レリ又日本カ支那ニ対シテハ二十一ヶ條ノ要求條件ヲ提出シナカラ英米国ニ対シテハ其軽易ナル十一ヶ條丈ケヲ内告シタルハ支那ヲ圧迫シ列強ヲ罔スル卑劣手段ナリトテ極力日本外交ヲ攻撃シアリシカ欧米ノ輿論ハ左迄ノ反響ナキノミカ先キニハ倫敦「タイムス」ノ公正ナル論説アリ次イテ日本ハ爾余ノ各條件ヲモ之ヲ英米側ニ内告シタルニ拘ハラス欧米政府輿論ハ何等驚異スル処ナキノミナラス此際日本カ此種ノ要求解決ヲ為サントスルハ寧ロ当然ナリト云フニ至レルヨリ北京一般ノ輿論ハ如上ノ趨勢ニ鑑ミ甚シク絶望悲観ノ傾向ヲ呈セリ此際本邦各紙カ激烈強硬ニ吹聴セラルル出兵記事ハ支那当局者及ヒ識者間ニ於テハ之レ駐屯兵交替期ヲ利用シテ恫喝ヲ試ミントスルモノトハ探測スルモ一面交渉ノ遅々トシテ徒ラニ枝節ニ拘泥スルノ実情ニ鑑ミ或ハ日本カ嚇怒最後ノ決心ヲ為スモノニアラサルヤヲ憂慮シ多少ノ不安ヲ抱クモノノ如シ故ニ日本各紙ノ出兵記事ハ巨細トナク皆ナ誇大ニ之ヲ訳載シ悲憂ノ激語ヲ臚列シテ偏ニ国民ノ反抗心ヲ挑発セント期スルモノノ如ク陽ニ盲動ヲ抑制シナカラ暗ニ「ボイコット」サヘ容認スルノ傾向アル所以也而カモ細カニ北京輿論ノ心裏ヲ忖度スレハ此際少ク共米英側ノ反対牽制ヲ萬一ニ期待シ欧洲戦争終了ノ日列強カ協力シテ日本ヲ圧迫スルノ一日アランコトヲ恃ムモノノ如ク日本カ絶好ノ此機会ニ乗シ多年ノ懸案ヲ解決シ日本ノ支那ニ於ケル地位ヲ鞏固ニスルハ固ヨリ日本ノ為メニ謀ル所以ナルモ実ハ東洋ノ平和ヲ維持シ支那領土保全ニ眷々タル所以ニシテ実ニ又支那萬全ノ良図タルノ根本義ニ至レハ依然トシテ諒解スル処ナキモノノ如キハ遺憾ナリ

左ニ各紙重要記事論説ヲ摘訳セン三月六日ノ大自由報ハ「中日交渉ノ険象」ト題シ

「我国ノ幸ヒニ亡ヒサリシモノハ列強均勢保障ニヨルハ言ノ諱ムヘキナシ故ニ此度日支ノ交渉日本ノ尤モ畏忌スルモノハ列強ナリ二十一ヶ條ノ要挟ハ列国ノ利権ヲ侵奪シ尽スモノ其内十一ヶ條ヲ列国ニ内告シ掩耳盗鈴ノ計ヲ為スモ実ハ恐嚇ニ次クニ従来譲歩ノ余地ヲ存スルノミ今ヤ日本ハ事情ニ余議ナクセラレ二十一ヶ條全部ヲ列国ニ内告セリト而シテ列強ノ態度ハ知ルヘカラサルモ今ヤ日本カ悍然トシテ玆ニ出ツルヲ見レハ支那侵略最後ノ決心ヲ為シタルモ未タ知ル可カラス日本ハ維新以来清韓保全ヲ唱道シナカラ朝鮮前ニ亡ヒテ列国ノ顧ミルナシ外交ノ変幻他人ハ恃ムヘカラス我国人ハ自ラ謀ル処アルヤ否

ト浩歎シ三月七日ノ民視報ハ「感情説」ト題シ

「一草一木一子一髀ト雖共其栄枯消長ノ際必ス覚愛ノ感情アリ況ンヤ人ニ於テヲヤ国家ニ於テヲヤ西哲ハ云フ一撃友ハ十仇ヲ禦ク可シト我ハ則チ云フ一善隣ハ三敵ヲ禦クヘシ国家ノ感情ハ元首政府ノ感情ニアラス実ハ全体国民ノ感情ナリ吾国ハ弱ト雖共四億萬人ノ感情ハ弱シト云フヘカラス

日本高橋男ハ云フ日支ノ交渉ハ支那国民ノ感情ヲ傷フヘカラスト善哉言ヤ両国ハ其語文種族歴史地理経済上ヨリスルモ実ニ天然ノ善隣国ニアラスヤ而シテ日本ハ毎々両国連絡ヲ唱道シナカラ扶持提携ノ誠ヲ以テセス我ヲ欺凌シ我ヲ侵略ス而カモ此手段ハ国民全体ノ公意ニアラスシテ政府少数者ノ野心ニ出ツ日本政府ハ実ニ日支両国感情ノ罪人ナリ

ト怨言ヲ放テリ三月八日ノ新中国報ハ「国民夫レ毅力シテ外ニ対セヨ」ト題シ

日本ハ悍然世界ノ評議ヲ顧ミス我ヲ朝鮮ニセントス我カ外交当局ハ対外一定ノ方針ナシ独リ我カ各省ノ長官及ヒ各種ノ団体海外在留ノ商人学生カ紛々連名シ要求厳拒ヲ電請シ来ル主権ノ保持只タ此ノ一線ノ生機民気ニ頼ルアルノミナリ要スルニ今日ノ交渉ハ国家存亡ノ問題ナリ其如何ニ論ナク承認スル能ハス何レノ国家モ艱難ニ遭遇スルノ時代アリ宜シク朝野上下一徳一心破釜沈舟以テ自存ヲ図ル可シ由来殷憂ハ聖ヲ啓キ多難ハ邦ヲ興ス燦爛光輝ノ五色旗ハ東亜大陸ニ飄揚スルノ一日ナカラス国民猛力抗禦セヨ云々

而シテ此両日来ノ各紙ハ頻リニ日本出兵記事ヲ訳載シ三月九日ノ北京日報ハ「日本主戦不可能」ト題シ

日本ハ近来頻リニ軍隊出動ノ準備ヲ為シ形勢ノ漸ク険悪ニ赴クヲ伝フルモ吾人ノ知ル所ニヨレハ日本主戦ノ不可能ナル説左ノ如シ

一　民気不振也、日本民性囂張其長所ハ即チ短所ナリ此度ノ無理要求ハ国民ノ関知セサル処惟タ一ニ新聞ノ盲説ナルノミ

二　選挙ノ多忙也、今ヤ日本ノ朝野政治家ト選挙ニ忙殺セラル故ニ主戦説アリトスルモ四月以前ニハ発動シカタシ

三　軍費支出ノ方法ナシ、国会ハ三月二十五日ノ選挙ヲ了ヘサレハ成立セス国会成立セサレハ協賛ヲ経ルノ途ナシ且ツ此次ノ交渉タル元来無理不法ナレハ憲法上ノ緊急

必要ノ規定ヲ用ユルニ由ナシ

四　実際上財政ハ困難也、青島ノ役国庫剰余金ヲ費消シ尽シ大局ノ影響輸出ノ減少ハ人民ノ負担力ヲ減少シ租税ノ収入ヲ減少シタレハ事実上財政ノ困難奈事トモスヘカラサル者アリ

故ニ我国上下ハ宜シク一致シテ極端迄堅持シ其恐嚇ヲ受クル勿レ

ト結論セハ三月九日ノ新中国報ハ又「新交渉外ノ新交渉」ト題シ

両国当事者カ正ニ交渉中ナル十一ヶ條ノ新交渉未タ解決ヲ聞カサルニ日本ハ更ラニ爾訳伝フ所ノ二十一ヶ條全部ヲ列国ニ内告シテ我ニ対スル新交渉外ノ新交渉ヲ開始セントスト支那ノ積弱兵力財力智力共ニ恃ムニ足ラス日本ノ短小精悍ナル無厭ノ貪欲莫大ノ野心ヲ以テ東方ニ逞フセントセハ今日一條件明日又別條件層出萬端中国国民ハ安枕ノ日ナカラン

ト慨シ九月十日ノ北京日報ハ「外交ト信義」ト題シ

一　日本此次ノ要挟中南満東蒙ヲ其独占勢圏ト為シ山東ノ独逸権利継承一般借款、顧問、礦権ノ同意南支大鉄道ノ要求ノ如キハ日英同盟日仏日露協商ノ東洋平和維持門ノ阻隔ナク革命乱党サヘモ今ヤ続々帰順報効ヲ図リ居レリ世界国民ノ最モ畏ルヘク重ンスヘキハ沈静堅忍ノ態度也日本我ニ迫ル太シケレハ我ノ団結シテ起ツノ日侮ル可カラサルモノアラン且ツ我国ノ日本要求ヲ拒絶スル要旨ハ第一国家ノ存亡ニ関スルト第二欧米列国ノ利益範囲ヲ顧念スルノ深意ニ出ツ日本ハ目前ノ利ヲ貪リ百年ノ禍根ヲ種ヘ敢テ武力ヲ以テ外交ノ後援ト為サントスル乎今仮リニ兵ヲ支那ニ用ユルトスルモ其利害ノ列国ニ関係スルモノ欧洲ノ「セルビヤ」白耳義ノ比ニアラサルモノアリ列国ハ能ク袖手傍観セサルヘシ日露ノ役露ハ必勝ヲ期セリ而カモ其敗レタルハ露カ侵略的ニシテ日本ノ愛国心ヲ旺盛ナラシメタルニヨル今日本兵ヲ支那ニ加フルモ其形勢ノ相似タルモノナキ乎日本ハヨク萬全ノ勝算アル乎支那将ニ一蹶シテ復タ振ハスト云ハハ之レ囈語ノミ殊ニ数年以来我軍事ハ訓練整頓シ進歩ノ見ル可キアリ日本ニ勝ツ能ハストスルモ亦断シテ遽カニ敗ルルニ至ラス故ニ我カ支那人ハ日本ヲ怕ルルニ及ハス況ンヤ一朝開戦ノ暁挙国一致セハ三五年間夷滅セラルルニ至ラサルヘク其内欧戦終局シテ義ニ仗リ我ヲ助クルモノアラン且ツ況ンヤ蠢蠢モ毒有リ況ンヤ国ヲヤ嗚乎何ソ日本ヲ怕ルルニ足ラ

戸開放機会均等主義ト背馳スルモノ乃チ欧米列国ニ不信義ナルモノ

二　支那ニ対シテ一切ノ秘密厳守ヲ強迫シナカラ自ラ其内容ヲ列国ニ内告ス支那ニ対シテ不信義ナルモノ

三　最初列強ニハ十一ヶ條ヲ内告シ世界ノ公論ニ余儀ナクセラレ更ラニ二十一ヶ條全部ヲ内告スルノ虚偽ヲ敢テス国家ノ尊厳地位ヲモ顧ミス之レ日本ノ自ラニ不信義ナルモノ

日本ハ将来支那ニ対シ幾多ノ利権ヲ奪取シ得ルヤハ知ルヘカラサルモ已ニ外交上此不信義ヲ敢テシテ其信用ヲ失セルノ価値若干ソヤ日本自ラ好ク之ヲ為セ

ト云ヘハ十日十一日ノ亜細亜日報ハ「日本ハ果シテ武力ヲ以テ外交後援ト為スカ」ト題シ

最近日本ハ頻リニ出兵説ヲ伝フ日本人ノ意ヲ推スニ支那ハ一度示威運動ニ会ヘハ恐懼シテ唯命是聴ク可シトスルモノニ似タリ然レ共思ヘ一国ノ大事ハ兎戯ニ非ス我当局愚ナリト雖共国勢ヲ度ラス徒ラニ強硬ノ態度ニ出テ外鬻ヲ啓クモノナランヤ国家ノ主権已ムヲ得サレハナリ且ツ国民ノ成立スルヤ国民ノ愛国心ハ前清時代ノ比ス可キニアラス我大総統ハ天下ノ安危ヲ以テ自任シ且ツ種族問題ン我国人ハ袂ヲ投シテ起テヨ云々

三月十一日国権報ハ「騙術ノ説」ト題シ

日本カ支那ニ二十一ヶ條ヲ要挟シ列国ニハ十一ヶ條ヲ内告シタルハ騙詐ノ術ナリ

ト愚痴リ十一日ノ新中国報ハ又「武力要索」ト題シ

日本ハ近ク伝フ日本ハ武力ヲ以テ要求ノ後援トスト是レ即チ武力要求ナリ強奪ナリ必スシモ要求スルヲ要セス直チニ攘奪スレハ可也但シ支那ハ死ニ抵ルモ与ヘサレハ日本ハ果シテ何種ノ手段ニ出ツヘキカ嗚乎日本ノ武力要求我国ハ何ヲ以テ之ニ対セン

十一日ノ民視報モ亦「日本ハ果シテ武力ヲ以テ交渉問題ヲ解決セントスルカ」ト題シテ云フ

近ク外交団中ニ日本出兵説ヲ喧伝ス吾人ハ日本カ果シテ出兵ノ挙動アルヤ否ヲ問フ前先ツ我国人ノ決心如何ヲ問ハントスルモノナリ生死存亡ハ固ト天命此度ノ交渉ハ承認スルトセサルト共ニ其窮極スル処ハ亡国ノミトスレハ屈従苟全シテ第二ノ朝鮮タランヨリハ轟々烈々歴史ノ光栄ヲ留メン政府ハ自餒スル勿レ国民ハ自棄スル勿レ

ト云ヒ十一日ノ黄鐘日報ハ又「中日交渉ノ過去及将来ヲ論ス」ト題シ

最近日本人ノ消息ニヨレハ欧米各国ハ日本ノ対支要求全部ヲ容認シタレハ第三国ノ干渉ノ患ナク日本ハ海陸ノ兵力ヲ以テ支那ノ承認ヲ迫ルヘシト詭変測リカタク人ヲシテ心悸カシム而カモ日人ノ温和手段ト云ヒ又強迫手段ト云フモ共ニ詭詐変幻作用ノ一端要ハ吾外交当局及ヒ欧米列国ノ共ニ其術中ニ陥ルナキヲ希ムノミ日本ノ巧詐ハ及フ可カラサルモノアルモ日本ノ昏愚モ亦誠ニ及ヒ難シ第一日本ハ支那ヲ強要シ列国ノ利権ヲ蹂躙侵奪シテ列国黙居スルモノト為スカ第二支那ノ民気ハ緊張シ前清時代ノ昏愚ニアラス国民上下ニハ玉砕一戦ノ心アリ日本ヨシ支那ヲ征服スルモ断シテ枕ヲ高フスル能ハサルヘシ若シ他日欧米群起シテ難ヲ為スアラハ行々ハ支那ト共ニ尽クルニ帰セン吾人故ニ日本ヲ昏愚ト云フ

十二日ノ新中国報ハ「国民ニ詔ク」ト題シ

日支ノ交渉ハ絶大ノ険浪ヲ発現セリ曰ハク日本ハ武力ヲ以テ其目的ヲ達セントスト我国民ハ聴ケヨ此度ノ日支交渉ハ支那存亡ノ関係国民生死ノ岐路ナリ日本ハ処心積慮我国ヲ待ツニ朝鮮ヲ以テス試ミニ問フ我カ錦繡ノ山河我カ聰秀ノ人民ハ甘シテ高麗ノ衆生タルヤ否日本果シテ武力ヲ以テ来レハ我ハ唯タ一死抵抗アルノミ西人ハ我ヲ譏ハ干渉ヲ慮リ表面頻リニ平和解決ヲ唱フルノミ我国今日ノ立場ハ徳ヲ度リ力ヲ量リ譲ルヘキハ譲リ譲ルヘカラサルハ譲ラサルノミ平和ニ解決スルト武力解決スルトハ日本ノ勝手我問フ勿ルヘシ

ト放論シ十五日ノ国権報ハ「中日交渉ノ観測」ト題シ日本出兵ノ謂レナキヲ論評シタル後

巧智ナル日本ハ軽挙盲動怨ヲ構ヘ釁ヲ結ヒ世界ノ不韙ヲ冒シテ列国ニ口実ヲ与フルモノニアラス武力説ノ如キハ思フニ無責任ナル新聞ノ恐喝言論ノミ我当局者ハ持理力拒スヘク退譲ヲ示シテ其術中ニ陥ル勿レ

ト十五日ノ黄鐘日報モ亦「決裂ト平和」ト題シ

白耳義ハ其実力ヲ以テセハ独逸ニ抗スル能ハサルヲ知リナカラ敢テ強抗スルハ国ハ亡ホスヘクモ侮ルヘカラサルニヨル白耳義独逸ニ対スルト支那ノ日本ニ対スルトヲ比較セハ支那ノ亡ハ未知数也日本ハ日々我ニ決裂ヲ迫ル知ラス能ク成算アルヤ否我ハ唯タ自衛ノ責ヲ尽スヘキノミ

三月十五日ノ亜細亜日報ハ又「対日ノ別一見解」ト題シ政略ニ声誉最モ高キ某公ノ記者ニ語ル処ナリトテ記シテ云フ

一国ノ他国ニ対シテ武力ヲ用ユルハ其主張ノ貫徹セサルヲ以テ散砂ノ如シト我ハ謂フ日支交渉ハ水ナリ此禍水ヲ以テ散砂ニ乗進セハ奚ソ知ラン散砂ハ凝結シテ間然スルナキニ至ルヲ国民ノ弱ヲ転シテ強トナス此一機ニ在リ之ヲ慎メヨ云々

三月十四日国権報ハ「中日交渉最後ノ研究」ト題シ

伝説ニヨレハ日本ハ武力ヲ以テ最後ノ解決ヲ為サントスト日本ノ陸海軍精鋭ヲ以テセハ一時我国ヲ圧スルニ足ルモノアランモ而カモ我ニモ亦背城借一ノ心アリ況ンヤ国土ノ広、人民ノ衆ヲ以テ果シテ我ヲ第二ノ朝鮮タラシメ得ルヤ否且ツ日本ノ国民経済能力ハ欧米ノ軍力ト相対応スルカ如キニアラス日本ノ貿易ハ支那ヲ其最大ノ市場トス一朝事アラハ貿易杜絶シテ其苦痛支那ヨリ甚シキモノアラン我国ニシテ堅持二三年セハ日本能ク堪ヘ得ルヤ歴世我カ文化ヲ受ケナカラ今ヤ徳ニ報ユルニ怨ヲ以テセントスル日本以テ如何トスル

十四日ノ北京日報ハ「平和解決ノ疑問」ト題シ

日本ノ我ニ対スル面目ハ曰ハク狐媚ト鬼獰ニシテ其手段ハ巧誘ト強迫ナリ日本人近日頻リニ平和解決ヲ外交ノ常套語トスルハ我政府ノ懦弱ヲ知ルモ民気ノ張盛ヲ怕レ平和解決ノ語ニ藉リ之ヲ消滅セントスルト列国環視ノ間萬時ニ於テス日支ノ交渉ハ正ニ着々進行中ナラスヤ若シ又日本ハ区々十数條件ヲ我ニ強ヒ我国主権ヲ移転スル朝鮮ノ如クセントセハ三尺ノ童子モ其不可ヲ知ル支那ノ存在ハ列国ノ均勢ニヨル故ニ日本ハ今日一時一隅ヲ占領シ得ルモ到底ハ列国ノ阻礙ヲ蒙ラン故ニ日本ノ武力解決トハ無意義ノ至リナリ日本ノ海陸軍実力ハ支那ノ平日能ク承知スル処ナリ故ニ今更出兵説ニ怕レテ如何ナル條件ヲモ聴クモノトセハ誤愚ノ極也日本若シ萬一出兵シタリトスルモ我ハ之ニ打テ合ハサルノ一途アルノミ一地一隅ノ占領ハ何カアラン欧戦終了セハ必ス世界各国ノ支那処分ノ日アラン其時コソ最後ノ決心ヲ為スヘク今日ハ日本ニ対シテ決死ノ力ヲ用ユル場合ニアラス「トルストイ」ハ曾テ云フ支那タルモノ各国ニ対スル惟タ忍辱退譲ヲ主トシ柔ヲ以テ剛ニ克ツノ老荘学説ヲ実行スヘシト言偏激ニ近キモ今日対日本ノ格言也云々

此旬日間ニ於テ北京各紙ニ掲出セラレタル各方面ノ反日請願電報ノ重ナルモノハ留日学生帰国者ノ上海ニテ煽動発企セル中華民国請願会ノ上書、黒龍江在北京学界ノ東三省父老ニ告クルノ一書、日本留学生北京派遣代表者劉文島等ノ稟請書、上海ナル進歩党交通部ノ檄文等ニシテ何レモ慷慨

悲憤亡国ヲ絶叫シテ日本ヲ非議スルニアラサルナシ其他内外各団体ノ日本要求拒絶ノ電報ハ乍例陸続連日ノ紙上ニ掲ケラレ而シテ稍々研究ニ値スヘキハ黄奐、陳炯明、柏文蔚、鈕永建、李烈鈞等ノ連名シ二月廿五日付ヲ以テ上海ノ神州日報ヲ経テ全国ノ各紙ニ伝ヘタルモノナリト称スル電報ナリ該電報ハ革命以来ノ自己ノ所思ヲ歴叙表明シ「外力ヲ借リテ祖国ヲ覆亡セン」様ノ言ハ荒誕無稽某等ノ不肖ト雖共敢テ為ササル処ナリト弁シタル後極力第二革命以後ノ衰世凱政府ノ施設専断ヲ攻撃シテ後云フ

年来内政荒蕪シ紀綱地ニ墜ツ国情愈々悪シク民困愈々滋シ一言ニ之ヲ云ヘハ只タ私権アルヲ知ツテ国権アルヲ知ラス政治組織ノ不良ハ外交取侮ノ道ナリ今吾国ノ政治ハ国家ヲ見ス国民ヲ見ス唯一人ヲ見ル耳

ト切言シテ一般ヲ警醒セリ又三月七日ノ大総統申令ハ段陛軍総長陛駐日公使等ノ報告ニヨリ黄英、范賢方、顔両臨(?)、何文斌、林支宇、余燿栄、李雲四、童子鈞、童斗臬、張登仙、張海舟、成国屏、萬勲、楊祖時、蔡蕙ノ特赦令ヲ公布セリ右ハ多分本邦ニ亡命シ最近帰国セリト伝ヘラルル何海鳴、劉芸舟一派ニ対スル特赦令ナラント推測サルルモ名姓甚タ区々確知ニ便ナラス

第一三四号

三月十六日午後三時ヨリ外交部ニ於テ第十一回談判ヲ開ク本日ハ高尾微患ニ付船津ヲ帯同通訳ノ任ニ当ラシメ会議ノ劈頭ニ於テ本使ハ貴電第一五九号ノ㈠末段ニ於テ御注意ノ安奉鉄道期限起算ノ点ニ付先方ニ誤解ノ点アルコトヲ指摘説明シタル処支那側ニ於テハ字句数字ノ点ハ大綱談判ノ結了シタル後適当ノ時機ニ於テ案文確定ノ際ニ訂正シ可然旨言明セルニ付右ニ御承知置ヲ請フ

次テ本使ハ原案第二條及第三條ニ関シ貴電第一四九号御電訓ノ趣旨ニ遵ヒ修正案ヲ先方ニ提出シ其内容ニ付詳細説明ヲ加ヘ更ニ帝国政府ガ斯ノ如キ折衷案ヲ提出スルニ至レル委曲ノ事情ヲ披陳シ本件ハ第二号條約案中ノ眼目トモ目スヘキモノナルヲ以テ最真摯ナル支那側ノ考慮ヲ切望スル旨陳述シ置ケリ右本使所説ニ対シテハ陸ハ新修正案ニ対シテハ篤ト研究ノ上ナラデハ何トモ意見ヲ開陳スル訳ニハ参ラサルモ一寸一読シタル丈ノ感想ニ依レハ第一東部内蒙古ヲ修正案中ニ入レアルハ支那政府ノ絶対ニ承諾シ能ハサル所ナルノミナラス原案第二條及第三條ニ対スル支那側第一回修正案ハ比較的多数ノ商埠地ヲ此際開放シ以テ現行條約ノ主義精神ニ悖ラスシテ日本国ノ希望ヲ満サンコトヲ欲シタルニ不幸ニシテ此修正案ハ日本国政府ノ同意ヲ得ザリシニ依リ更ニ切実ナル考慮ヲ加ヘタル末第二回修正案トシテ制限的内地雑居案（往電第一一七号ヲ以テ報告ノ支那側修正案ヲ陸ハ斯ク称セリ）ヲ提出シタルニ不幸ニシテ是亦同意ヲ得ス然ルニ今回日本国ヨリノ提出案ハ支那側第一回修正案ノ開埠地案モ実行ト同時ニ第二回修正案ノ制限的雑居案ヲモ併セテ要求スルニ至リテハ支那政府ノ頗ル怪訝ニ堪ヘザル所ナリ開埠地主義ト云フモ制限的雑居主義ト云フモ共ニ適当ナル別種ノ辦法ナリ故ニ何レカ其一ノ主義ニ依リ商議スルヲ妥当ト信ス此二箇ノ主義ヲ混交併用スルハ重複繁雑ニ流レ支那政府ニ於テハ到底考慮ノ余地ナカルベシト信ズルモ兎モ角一応ノ研究ヲ加ヘ更ニ確答ヲナスベシト述ヘタルニ付本使ハ日本国ハ満蒙ニ対シテハ日本国ノ現状ニ鑑ミ原案ニ於テ希望スルガ如ク無制限雑居ヲ要求スル次第ナルモ支那側ニ於テ之ニ同意セザルヲ以テ支那側両次ノ修正案ヲ参酌シ又其立場ヲ諒トシ飽迄妥協ノ精神ヲ以テ斯ノ如キ折衷案ヲ提出スルニ至リタル次第ナリ元来開埠主義ハ区域ヲ限レル無制限雑居ノ方法ナリ併モ如何ニ多数ノ商埠ヲ開クモ尚原案ノ希望スル満蒙開放案トハ多大ノ懸隔アリ将又総長ノ所謂制限的雑居案ハ人ニ区別ヲ設クル一種ノ

又三月九日ノ亜細亜日報ニヨリテ発表セラレタル袁総統カ曾テ其三十年間ノ幕友タリシ謝某ニ対シ

予ハ前清ノ政界ニ在ル三十年頗ル表見アリ、ヨシ辛亥以前牖下ニ老イシムルモ近世ノ偉人ト為スニ足ラザラズ且ツ予ハ世家産業給スルニ足リ子孫衆多、名山佳園林下ニ逍遙シテ自ラ娯ムニ足ル名利ニ於テ何ノ求ムルナシ、二年以来出テテ艱難ニ任シ死生ノ間ニ出入シ孜々倦マサルモノハ救国救民ノ為メニ非ザルナシ予ノ一息尚ホ存スル限リ断シテ我国体ヲ損害シ我主権ヲ侵損セシメ我国民ヲ牛馬奴隷タラシムル能ハス成敗利鈍ハ計及フ所ニ非ス云々

ト豪語シタル由ニテ真偽ハ兎ニ角時節柄民国国民ヲ信頼セシムル一資料タラン

右及報告候也

二五三　三月十七日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

第十一回談判ニ於テ提案第二号第一條ノ安奉鉄道期限問題以下全七條ニ亘リ商議シタルニ付経過報告竝意見具申ノ件

満蒙開放ナリ併モ尚原案ノ希望スル所ニ達セザルコト遠キヲ以テ帝国政府ハ支那側両次ノ修正案ヲ参酌シ折衷的ニ此案ヲ提出シタル義ニテ日本国トシテハ之レ以上譲歩ノ余地ナキ次第ナル旨ヲ最モ懇切ニ反覆敷衍シ更ニ其考慮ヲ促シ置ケリ

次ニ本使ハ第四條ノ商議ニ移リ支那側対案ヲ批評シ其機会均等主義ニ反スル所以ヲ指摘シ且ハ曾テ「スタンダード」石油会社ニ対シ支那カ陝西石油借款ニ関シ同様ノ権利ヲ同社ニ与ヘタル際日本国ガ之ニ抗議シタル行懸モアリ到底同意スベカラサル旨ヲ言明スルト同時ニ修正案トシテ往電第一三〇号ヲ以テ請訓シ我政府ノ同意ヲ得タル本使ノ建議案ヲ客年十二月三日附機密号外第二号甲案附屬書列記ノ鉱山表ト共ニ文書ニ認メ提示シ更ニ日支合辦ノ鉱山採掘ハ日本国政府ノ考慮シ居ラザル所ナルニ付此点ハ鉱業條例ノ精神ニ依ラズ全然日本人ノ単独経営トスル方針ト承知アリ度旨附言シタルニ陸ハ日本国ノ主張ハ篤ト考慮ヲ加フル考ナルモ兎モ角合辦経営ノ一点ハ鉱業條例中尤モ重要ナル主義ナルヲ以テ此主義ヲ破壊スルコトハ到底同意シ難キ所ナルノミナラス今日日本国ニ之ヲ譲レハ他日他国ハ必ス同様ノ要求ヲナスニ至ルヘク之カ為メ支那カ喪失スル利権ノ前途ハ

真ニ寒心ニ耐ヘサル次第ナリ就テハ本件ハ将来支那トシテハ非常ニ苦境ニ立タサルヘカラサル次第ナルニ付支那ノ如何様ニモ同意シ難キ事情ハ幾重ニモ日本国政府ニ於テ諒察セラレタシト述ヘ鉱山ノ合辦ニ依ラザル日本人ノ単独経営案ニハ強硬ニ反対ノ意思ヲ表明セリ本件ニ関シ本使ノ見ル所ニテハ支那ニ於テ既ニ鉱業條例ヲ発布シ其国内ニ於ケル鉱山採掘事業ヲ一律辨理セントスル方針確立セル以上條約ノ精神規定ト牴触セサル限リハ外国ト雖モ其鉱業政策ニ準拠シテ適宜投資ヲナスコト妥当ノコトト信セラル仮令満蒙ハ我特殊勢力区域ナルニモセヨ此條約ノ精神ト條項ニ牴触セサル限リ已定ノ鉱業政策（外国人トノ合辦主義ノ如キ例）ヲ破壊セントスルハ如何様ニモ條理アル主張ト考フルヲ得ズ之ヲ要スルニ貴電第一五八号末段ニ於テ合辦主義ニ依ラズ全然日本人単独ニテ満蒙ノ諸鉱山ヲ経営セント欲スル主張ハ支那ノ鉱業政策ト最相容レサル点ニシテ到底貫徹ノ見込ナキヤニ存セラルルニ付兎モ角外交団ノ抗議ヲ提出シタル條項及明カニ日支條約等ニ牴触スル点ヲ除キ鉱業條例ハ之ヲ遵行スル方針ニテ合辦経営主義ヲ認ムルノ外ナカルヘシト信ス現ニ過般モ談判ノ席上ニ於テ支那側委員（曹）ノ言明シタル所ニ依リ考フルモ我経営者ノ手腕如何

ト将来ニ於ケル我対支方針如何ニ依リテハ名ヲ合辦ニ藉リ経営ノ全権ヲ我企業家ノ手ニ収ムルコト至難ノ事ニアラザルベシト信ズ就テハ此点今一応十分ナル御考量ヲ仰ギタシ

次ニ本使ハ第五條ノ商議ニ入リ同條第一項鉄道借款ノ件ニ関シ支那側対案（往電第一二八号ノ㈣公文案ノ一）ニ同意ヲ表シ允許ノ二字ヲ允諾ニ改ムル事ヲ提議シタルニ陸ハ直チニ之ニ同意シタルニ付協定済トセリ更ニ第五條第二項租税ヲ担保トスル借款問題ニ移リ我方修正意見往電第一二八号ノ㈧本使建議案（御電訓ニヨリ他国ヲ外国ト訂正シタリ）ヲ文書ニ認メ陸ニ手交シタル上一応説明ヲ加ヘ速カニ同意スル様警告シ置キタリ第六條ハ（最先）ノ一語ヲ存スル事ニ同意シ往電第一二八号ノ㈧後段ノ趣旨ニテ商議整ヒ之亦協定済トセリ次ニ第七條ノ商議ニ入ルヤ支那側ハ初メ本條ハ政府部内ニ最モ強硬ナル反対アル為削除不同意ノ考ナリシモ譲歩ノ誠意ヲ示ス為新ニ考慮ヲ加ヘタル結果左ノ如キ対案ヲ提出スルコトトナシタルニ付考慮アリタシト述ヘ其案文ヲ示セリ

（第七條案文、吉長鐵路建築資本全數改向日本商借所有一切條款仍照中日新奉吉長鐵路協約及中日新奉吉長鐵路續約暨細目合同辦法）本使ハ右対案ニ対シテハ直ニ可否ヲ明言

スルノ地位ニアラザレドモ一読シテ得タル感想ニ依レハ原案ノ趣旨ト対案ノ趣旨トハ全然別個ノモノニシテ原案ノ九十九年間ノ管理経営権ヲ要求セルニ対シ対案ノ借款額増加案ヲ提出セルハ恰モ縦シ一歩ヲ譲リ借款契約改訂説ニテ折合フトスルモ支那側対案ハ借款額ノ増加ヲ提議シタル外何等吉長鉄道ノ不満足ナル現状ニ改善ヲ加フルノ條件ヲ示サザルハ到底日本国政府ノ同意シ兼ヌル所ナリト思料スル旨相答ヘ兎モ角提示ノ対案ハ政府ニ電送シ回訓ヲ請フコトトスヘシト告ケ会議ヲ散会セリ時ニ午後六時五十分ナリ吉長鉄路ノ件ニ関シテハ後電ヲ以テ別ニ意見ヲ具申スル筈

二五四　三月十七日　在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

日中交渉ニ関シ張作霖ハ譲歩的意見ヲ北京ニ電報シタル旨ノ情報報告ノ件

第三二号

左ノ情報ハ張作霖ニ親近ナルモノヨリ本官参考ニ止メ孰レニ対シテモ絶対的ニ秘密ニナシ置キ度旨附言内報シ来レルモノナリ（右附言ハ本官ニ於テ承知ノ旨答ヘタルニ付御含ミアリタシ）

今回日本国カ支那各地ニ於テ兵力ヲ増加スル事ニ決シタルハ当地ニ於テモ豫想外ナリシモノノ如ク先般北京政府ヨリ右増兵ニ関スル情報アリ之ニ対シ張作霖ハ二回迄其意見ヲ電稟シタリ其趣意ハ支那今日ノ陸軍ハ何レノ点ニ付テモ決シテ日本ノ敵ニアラサルニ付今回ノ交渉ハ及フ限リ譲歩シ平和ノ間ニ解決スル事得策ナラント云フニアリ之ニ対シテ北京ヨリ未タ何等回答ナシ又張作霖自身ハ萬一両国ノ間干戈相見ユルカ如キ事トナラハ自分ハ其渦中ニ投ゼズ部下ヲ率ヒテ遠ク蒙古方面ニ立退カント欲ス尚先日来呉俊陞馬龍潭馮麟閣等当地ニ集リ打合ヲ為シタルモ日本ニ対抗ノ策ヲ講ジタルニアラストノ事ナリ

二五五　三月十八日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

提案第二号第七條ノ吉長鉄道ニ関スル修正案ニ付請訓ノ件

第一三八号

吉長鉄道ノ件ニ関シテハ往電第一三四号末段ヲ以テ報告ノ通支那側ニ於テハ最モ強硬ニ反対ヲ唱ヘ其ノ管理経営ヲ我

ニ委ヌルコトハ絶対ニ之レヲ承諾セス其論拠ハ政府部内ニ有力ナル反対アルト若シ一旦日本国ニ対シ此ノ要求ヲ容ルル例ヲ開クニ於テハ鉄道借款ニ関係アル各国ハ相次テ其関係アル借款鉄道ヲ同様ノ地位ニ変更セムコトヲ要求スルニ相違ナカルヘク斯クテハ支那ノ鉄道政策ニ由々敷危機ヲ来スニ至ルベシト云フニ在リ、其ノ実際ノ結果果シテ斯クアルヘキヤ否聊カ疑シク幾分論議ノ余地アルモ兎ニ角理論トシテハ一応尤トセザルヲ得ズ右ニ対シテハ前回談判ノ席上本使ハ一応駁撃ヲ加ヘ置キタルモ我方ニ於テ他ニ十分強力ナル論拠ヲ得テ説破セザル限リ先方ノ所信ヲ変更セシムルコト先ツ困難ナラムト察セラル就テハ本件ハ豫テ貴電第八八号(三)末段ノ趣旨ニ由リ此際借款契約改訂案迄譲歩シ借款金額供給ノコトハ談判ノ都合ニヨリテハ先方ノ提議ヲ容ルルコトトシ借款條件ハ今日迄支那カ外国ト締結シタル鉄道借款條件中我ニ最モ有利ト考フル例ニ準シ借款契約ヲ改訂スルト同時ニ将来外国ニ対シ更ニ有利ナル借款條件ヲ与ヘタル場合ニハ日本国ニ対シテ同様ノ條件ヲ与フルコトヲ約セシムルコトト致シタク右ニ御異存ナケレバ次回ノ会議ニハ大体左ノ文案ニテ修正案ヲ提出スルコトニ御承認相成タシ

（支那政府ハ従来支那ト諸外国資本家トノ間ニ締結シタル鉄道借款契約規定事項ヲ標準トシ速ニ吉長鉄道借款契約改訂ヲ行フヘキコトヲ承諾ス将来支那政府ガ鉄道借款ニ関シ外国資本家ニ現存鉄道借款契約ノ規定ヨリモ更ニ有利ナル條件ヲ附与シタル場合ニハ日本国ノ希望ニ依リ随時右改訂ヲ行フモノトス）

尤モ右第二項ハ各国ヨリ同様ノ要求ヲ起シ結局現存借款契約ノ改訂ヲ迫ルベシトノ理由ノ下ニ支那側ノ反対アルベシ仮ニ支那側ヲ押シ付ケ之ヲ承諾セシメ得タル場合ヲ想像スルニ他国資本家ニ於テ必然同様ノ要求ヲ為シ各其ノ借款関係ヲ有スル鉄道ニ対シ益其ノ地歩ヲ鞏固ナラシメント努ムベキハ逆睹スルニ難カラズ斯カル事態ハ満洲以外ニ於テハ僅カニ南満鉄道ニ対シテノミ借款関係ヲ有スル我国ニ取リ大ニ考慮ヲ要スル義ニ付今回ハ第一項丈ノ取極ニ止メ将来支那ニ於テ他国資本家ニ更ニ有利ナル條件ヲ与ヘタル場合ニ別ニ均霑方ヲ主張スルコトニ致シ然ルヘキカトモ思料ス篤ト御詮議ノ上何分ノ義御電訓ヲ請フ

二五六　三月十九日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

提案第二号鉱山採掘権ニ関シ大体ニ於テ鉱業條例ノ件ニ遵拠及合辦主義ヲ認ムル旨回訓ノ件

第一六六号

貴電第一三四号ニ関シ

第二号第四條鉱業條例ノ件ハ成ルヘク往電第一五八号末段通リノ趣意ニ止ムルコトト致度モ貴電縷々御来示ノ如ク支那側ヨリ懇請ノ次第モアリ且ツ結局経営者如何ノ問題故折角支那政府ニ於テ確立セル主義ヲ破壊スルコトト相成モ本懐ニ非ル故若シ支那側ノ態度飽迄執拗ナルニ於テハ貴見ノ通リ外交団ノ抗議ヲ提出シタル條項及日支両国間現行ノ各種條約取極ト牴触スル点ヲ除キ大体鉱業條例ノ精神ニ遵拠シ合辦経営主義ヲモ認ムルコトトシ差支ナシ貴電第一三四号ノ八曹汝霖ノ言明トハ如何ナルコトナルヤ為参考承知シ置度ニ付電報アリ度シ尚第二号第一條案文ノ件支那文冒頭第一條ノ次ハ貴電第一二八号ニモ貴電第一三二号ニモ「公文案」トアル処右ハ「條約案」ノ誤ニ非ルヤ電報アリ度シ

二五七　三月十九日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

吉長鉄道ニ関スル修正案ニ付回訓ノ件

第一六七号

貴電第一三八号ニ関シ

吉長鉄道ノ件ハ已ムヲ得サレハ往電第八八号ヲ以テ申進シタル借款契約ヲ根本的ニ改訂スルコトヲ約束セシムル案迄譲歩スルモ差支ナク其場合ノ修正案トシテハ貴電第一三八号ノ三御申越ノ貴案第一項第二項共ニ約束セシメ置クコト致度シ将又支那側申出ノ借款額増加ノ件ハ今回ノ交渉トハ全然別問題ト致度ニ付右ニ御承知アリ度シ

二五八　三月十九日　中村関東都督ヨリ
加藤外務大臣宛

日中交渉ニ関スル中国人ノ感想ニ付報告ノ件

民高警秘第一三七七号　（三月二十五日接受）

対支交渉ノ新聞紙等ニ依リ伝播セラレタル以来按件ニ対スル揣摩臆説ト共ニ種々ノ流言浮語行ハレ人心動揺ノ虞ナキヲ保シ難ク厳重注意中ノ処現下ノ状況左記ノ通リニ有之候條此段及報告候也

一、租借地内ノ状況

州内ニ於ケル住民ハ斯ル事件ノ発生シタルスラ知ラザルモノ多ク新聞紙ヲ購読スル少数ノモノニアリテモ態度概ネ冷静ニシテ生命財産ノ安固ヲ得レバ足レリトナシ人心頗ル平穏ナルモ大連ノ如キ州外支那人ノ去来頻繁ナル地ニ於テハ種々ノ謡言流布シ時局ノ進展ト共ニ市民漸ク危惧ノ念ヲ懐クノ状アリ満洲駐屯軍増遣ノ説伝ハリテヨリハ商取引ノ如キモ現金ニ非ザレハ成立セザルガ如キ傾向ヲ生ジ下層部民ハ日支開戦ノ結果ハ日本ノ施政区域拡大シ事業勃興スベケレバ生活容易トナルベシトテ意トセザルガ如キモ中流以上ノ者ニ在リテハ事件ノ進行ヲ憂慮シ汽船六隻ヲ有スル政記公司ノ如キハ開戦後船舶ノ捕獲セラレンコトヲ恐レ避難策ヲ講ゼントスル等ノ聞エアルヲ以テ大連民政署ニ於テハ公議会長等ヲ召喚シ事件ハ遠カラズ円満ノ解決ヲ告グベク仮令萬一ノ事アリトスルモ管下住民ノ生命財産ハ確実ナル保護ヲ与ヘラルベキ旨ヲ部民一般ニ論告セシメタル結果目下ノ状況人心動揺スルガ如キコトナシ

二、州外ノ状況

州外ニ於テハ附属地ノ内外支那人ノ間ニハ種々ノ流言行ハレ或ハ我カ要求按件ニ対シテ揣摩臆説ヲ逞クシ若シ支那政府ニシテ日本ノ要求ヲ悉ク容認センカ其ノ波及スル処ノ影響甚大ニシテ支那ハ累卵ノ危殆ニ瀕スルニ至ルベケレバ此ノ際国力ヲ賭シテ戦ハザルベカラズ既ニ山東及山海関方面ニ於テハ開戦セリト称シ或ハ又支那ハ如何ニ日本ノ要求ニ不服ナルモ国歩艱難ノ折柄実力敵セザレバ結局日本ノ要求ヲ容認スルニ至ルベシ等其ノ他種々無稽ノ浮説盛ニシテ為メニ商家ハ取引上多少警戒ヲ加ヘ居ルノ状アルモ未ダ人心動揺スルガ如キ兆ナシ各地ノ支那官場又応接交際等平常ト異ナルコトナク外面極メテ冷静ヲ装ヒ時局ニ関スル談話ヲ避ケントスルノ傾アルモ内心我ガ決意ノ堅キモノアルヲ見テ憂慮ノ状アルガ如ク営口奉天等重ナル地方ノ状況左ノ如シ

一、営口

日本ノ要求過大ナル為支那ハ承認セズ英米両国ハ利害ノ関係上支那ノ武力抗争ヲ援助スベシ等ノ種々ノ謡言流布シ軍警界及地方有力者中ニハ日本製煙草酒類食用品撫順炭等排斥鼓吹ノ風説アリ支那官憲ハ大局ニ障害アリトシ訓令ヲ発シテ謡言ヲ取締リ居ルモ市場多少動揺ノ兆アリ日支人商取引ヲ手控ヘ為ニ上海為替及過炉銀相場下落ノ傾アリ

一、奉天

奉天支那官場ニ於テハ態度従前ト異ナル処ナク極メテ平静ヲ装ヒ何レモ緘黙ヲ守リ居レリト雖モ時局ニ関スル謡言ノ取締ヲ厳ニシ人心ノ動揺ヲ恐ルルモノノ如ク破壊党ノ隙ニ乗ゼラレンコトヲ慮レ其警戒ヲ厳ニシ又屢々軍事会議ヲ開キテ時局ニ関スル協議ヲ為シ支那兵ノ軽挙妄動ヲ堅ク戒メタルモノノ如ク又軍器軍需品ノ補充ニ腐心スルモノノ如キ形跡アリ張作霖等カ私ニ洩ス処ノ口吻ニ依レバ日本出兵ノ真意ハ時局ノ解決ヲ速ニセントスル権宜ノ処置ニシテ所謂高圧手段ニ外ナラズトナシ居ルモノノ如キモ我決意ノ堅キヲ見テ稍悲観ノ状アリト云フ民間ニ於テハ外面平穏ナルガ如キモ内心開戦ヲ恐レ平和解決ヲ希望スルモノ多数ニシテ過般日本留学ノ奉天人七名帰来シ過激ナル排日的意見ノ鼓吹ヲ試ミタルモ之ニ耳ヲ傾クルモノナカリシト云フ

一、鉄嶺

謡言蜚語ノ流布他地方ノ如ク甚シカラズ従テ附属地及其ノ近接ノ都市共人心何レモ平穏ニシテ支那官憲ノ態度亦冷静ナリ

一、長　　春

謡言蜚語盛ニシテ日本留学生帰来排日思想ヲ鼓吹シ一時長春城内外ノ商人間ニ於テ日貨非買同盟ヲ企画シ各地ニ檄文ヲ送付シタル聞エアリタルモ反応ナク民心平穏ニシテ支那官憲ノ態度平常ニ異ナル処ナシ

一、安　　東

各地方ノ状況ト大同小異ニシテ官民共其形勢ヲ観望シ平常ト異ナル処ナキモ鳳凰城駐在辺防隊長馬統領ハ奉天軍事会議ヨリ帰来後当局者ガ支那現在ノ軍備及財力到底日本ニ対シテ勝算ナキ形勢ヲ察セズ留学生等ノ過激ナル主戦論ニ惑ハサレ時局ヲシテ益々悲境ニ陥ラシムルハ誠ニ憂慮ニ堪ヘズトテ憂色アリト云フ

二五九　三月二十日　在済南林領事ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

山東鉄道警備隊ノ東部ヨリ西部ヘノ移動情況報告ノ件

第三四号

我山東鉄道警備隊ハ東部ヨリ西部ニ兵ノ輸送ヲ開始シ三月ニ第二次修正案トシテ東三省南部ニ於テ十六箇所ノ商埠地（我最後修正案トシテ出セル商埠地二十七箇所中東部内蒙古ニ属スル十一箇所ヲ除キタル全部）ヲ開放シ其章程取極方ハ第一号中ノ附属公文ノ例ニ依リ辦理スルコト竝他日商務発展ノ上ハ他ノ箇所ヲモ開キ得ルコトヲ諾スルト同時ニ農業耕作ニ関スル特例ヲ開キ左ノ辦法ヲ提議シタリ

（在東三省南部無論商埠與否可許外國人與中國人民合辦公司或商租地畝經營開墾事業所有租地開墾章程由中國別行規定此項開墾之外國人如在商埠以外居住須遵守中國内地警章由中國官管束竝完納各項税課如有民刑訴事均由中國官吏審理）

右新修正案ニ対スル説明トシテ陸ハ通商貿易ノ為メニ南満ニ於テ既ニ十六箇所ノ商埠地ヲ開放スル以上ハ他ニ人口ノ稠密スル都市ハ幾許モナク従ヒテ通商貿易ノタメナレハ右以外殆ント日本人カ居住シテ貿易スルノ地点無之ト云フモ不可ナク通商貿易ノ見地ヨリシテ極言スレハ殆ント満洲全部ノ開放ト大差ナク将又通商上ヨリ云ヘハ日本ノ希望ハ右ノ如ク多数ノ商埠地開放ニテ十分達シ得ラルヘシト信ス次ニ通商貿易以外ノ目的即チ農業耕作ノタメニハ右ノ如キ商埠地丈ニテ不適当ナルヘキヲ慮リ支那政府ハ特ニ之レニ関

二十日当停車場ニ歩兵一大隊東停車場ニ半ケ大隊到着シタルガ尚二十一日工兵砲兵各一中隊二十三日ニ歩兵半ケ大隊到着ノ筈ニテ貴志（？）中佐ノ談ニヨレハ当地ノ兵数ハ本月末迄ニハ済南合計三大隊半、張店一大隊濰県及坊子合計四大隊ニ増加シ旅団本部ハ坊子ニ置カレ当地混成隊ハ有事ノ日ニ於テ貴志（？）中佐自ラ指揮ニ当ル筈ナリト云フ

二六〇　三月二十一日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

第十二回談判ニ於テ提案第二号第二條第三條ニ関スル我最後案ニ対シ先方ヨリ更ニ第二次修正案ヲ提議及撤回ノ経緯等報告ノ件

第一四三号

三月二十日小幡ヲ本使ノ代理トシ高尾ト波多野書記生ヲ同伴セシメ往電第一三六号ヲ以テ稟請セル趣旨ニテ会議ニ臨マシメ当日ハ例ニ依リ陸曹施三人出席総長主トシテ議事ノ衝ニ当リ会議（註）ハ午後三時ニ初マリ六時ヲ以テ終レル由議事ノ模様要領左ノ如シ

本日ハ只第二号第二第三條ニ関スル我最後修正案ニ対シ更スル例外ヲ開キタル次第ナリト述ヘ、小幡ハ之ニ対シ適当ニ反駁ヲ加ヘ右ハ日本ノ原案若クハ我最後修正案トハ懸隔尚遠ク且我要求案ノ外問ニ洩レ日本国民モ満蒙ニ於ケル居住営業ノ自由土地所有等ノ問題ガ両国間ニ商議セラレ居リ将又有力ナル外国新聞ニ於テ略ボ之ヲ是認スル事ヲモ承知シ居ル今日日本国政府トシテハ到底国民ニ対シテモ斯ノ如キ修正案ニハ同意ン得ザルベシト思考スル旨ヲ説明シテ今一応支那政府ノ痛切ナル考慮ヲ望ミ原案若クハ過日ノ修正案ニ同意アル様切ニ希望スト述ベタル処、陸ハ商埠地主義ナラバ商埠地主義ニテ話ヲ進メタク雑居地主義ナラバ雑居地主義ニテ議ヲ纏メタク彼是差繰ヲ要スル事ハ甚ダ望マシカラザル事ニ付何レカ一方ノ主義ニ拠リ決定シタシト述ヘ頻リニ過日来ノ論拠ヲ反覆弁論シタルヲ以テ小幡ハ右ニ対シ本問題ハ既ニ論議モ略尽キ居ルト考フルニ付再ビ後戻リヲナシ論議ヲ闘ハス必要ナク要ハ支那側ニ於テ満蒙ノ事態ニ鑑ミ痛切ナル考慮ヲ加ヘ最後ノ決断ヲナス一点ニ存スト指摘シタル所陸ハ暫ク無言ニテ考ヘタル後兎モ角本日ノ修正案ハ之レヲ撤回シ次回ニハ雑居地主義ニ依リテ今一応考慮ヲ加ヘ更ニ商議ヲ進ムベキ考ナルモ内地雑居ト治外法権トハ重要密接ノ関係アル次第ナレバ治外法権ヲ存シ内

地雑居ヲ許スコトハ到底出来難キコトト考フル旨ヲ反覆シ次條ノ商議ニ移ル

第四條日本側修正案列挙ノ諸鉱山ハ農商部ニテ調査ノ結果吉林省南部ノ杉松崗及缸窯ノ二箇所ヲ除キ余ハ皆既ニ支那人ニ試掘若クハ採掘許可ヲ与ヘアルカ又ハ現ニ出願中ノモノニシテ折角ノ希望ナガラ日本国ヨリ提示ノ鉱山ニ付テハ如何トモナスコト能ハズト述ベ同時ニ現ニ出願中ノモノノ中ニハ鞍山站ノ如ク日本人ト合辦ニテ出願中ノモノナキニアラズト附言シタリ（本件農商部ノ調査書ハ参考ノタメ陸ヨリ申シ受ケタルニ付郵送スベシ）尚右ノ如ク二三箇所ノ鉱山ニテ差支ナクバ本條案文ハ支那側ニ於テ左ノ如ク取極メタキ希望ナリト述ベタリ

（中國政府允許日本國臣民在東三省南部之左開各鑛之中除業已探勘或開採各鑛外速行調查呈請該管官廳遵照中國將來確定之鑛業條例辦理）

次ニ第五條第二項ハ過日御承認ヲ得我方ヨリ提出シタル修正案（往電第一二八号ノ八参照）ニ同意シ左ノ如キ漢文翻訳ヲ手交セリ

（中國政府聲明嗣後將東三南部之各種稅課惟除業已中央政府借款作押之關稅及鹽稅等類作抵由外國借款之時須先向何レモ鉱山トシテ知ラレ居ルモノナルヲ以テ已ニ支那人ニ於テ何等カ関係ヲ有シ居レルモノナルコトハ当方ニ於テ期待シ居リシモノナリ従テ我方ニ於テ新ニ採掘ニ着手セントスルニ当リテハ必ス此等支那人ト妥商スルカ又ハ已ニ試掘採掘ノ許可ヲ得居ラザル鉱区ヲ撰択スルカノ方法ニヨラザルベカラズ就テハ貴官ハ支那側ヲシテ此点ヲ諒解セシメ当方提示通リノ鉱山ヲ悉ク列記セシムルコトトシ「速行調查呈請該管官廳」ヲ改メ速ニ調査ヲ行ヒタル上日本側ニ於テ撰択シタル鉱山ニ対シテハ直ニ試掘採掘ノ許可ヲ与フルコトト致シタシ其場合ニ関係支那人ノ先取権ガ毀損セラルルコトナキヤウ相当ノ方法ヲ講スベキコトハ申ス迄モナシ又陸総長ハ鞍山站ハ日支人ニ於テ合辦出願中ナル旨申述ベ居レル処若シ此際右出願ニ対シ直チニ許可ヲ与フルヤウ約束セシムルコトヲ得バ好都合ナルニ付右御含ノ上然ルヘク措置アリタシ

日本資本家商借）

（尤モ我提案ニハ一般的借款トアリ漢文ニハ中央政府借款ト訳シアルモ漢文ニハ一般的ノ一語ニ該当スル文字ナキ為ナランモ之レハ他日條約其他ノ案文修正ノ時適当ノ文句ニ修正スヘキ旨ヲ留保シ該漢文ハ一応本使ニ取次クヘシト小幡ヨリ答ヘ置キタル由）最後ニ第七條吉長鉄道管理問題ハ到底貫徹ノ見込ナキニ依リ小幡ヨシテ豫テ御承認ヲ得タル本使ノ修正案（往電第一三八号）ヲ提出セシメタル所陸ハ交通部ト協議シ置クヘシト答ヘタル由ナリ

註　三月二十日ノ会議ハ第十二回談判ナリ

二六一　三月二十一日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

提案第二号採掘権ヲ日本人ニ許与スベキ鉱山ニ関シ回訓ノ件

第一七三号

貴電第一四三号ノ七ニヨレハ列挙スヘキ鉱山ハ同電六記載ノ二個所ノミナルガ如ク見ユル所果シテ然ラバ支那側提出ノ取極案ハ甚ダ無意味ノモノナリ元来当方提示ノ諸鉱山ハ

二六二　三月二十二日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

日本軍ノ山東奉天ニ於ケル兵力増強ニ関シ説明方中国政府ヨリ要請ノ件

別電　同日日置公使発加藤外務大臣宛電報第一四七号

右要請ノ外交部公文

第一四六号

三月二十二日陸外交総長ハ部員ヲ本使ノ許ニ遣ハシ別電第一四七号ノ公文ヲ手交スルト共ニ日本国カ満洲山東両地方ヘ交替兵出動ノ義ニ関シテハ人心ノ動揺ヲ防グ為一時其延期ヲ諾セラルルカ若ハ本使ヨリ公文ヲ以テ今回ノ軍隊出動ハ交替ノ為ニ外ナラザル旨ヲ支那政府ヘ声明セラレタシトノ旨曩ニ曹次長ヲシテ懇談ニ及バシメ置キタル次第モアルニ拘ラズ（往電第一二四号参照）何等回答ヲモ与ヘス直ニ実行ニ著手セラレタルハ頗ル遺憾トスル所ナル旨ヲ述ベ斯クナル上ハ速ニ中央政府ヨリ地方官憲ヘ説明ヲ与ヘ人心動揺ヲ防止スルノ絶対的必要ナルヲ認ムルニ付本日持参ノ公文ニ対シ日本軍隊出動シタルモ新旧部隊交替ノ為ナル旨ノ回答ヲ至急外交部ヘ寄セラレタシトノ懇請及尚右ノ次第ハ公文ニ書キ入レテハ自然角立ツ虞アルニ付特ニ人ヲ以テ

説明スル次第ナリト申出デタリ就テハ右ニ対シテハ如何取計可然ヤ何分ノ義御電訓ヲ請フ

（別　電）

三月二十二日在中国日置公使発加藤外務大臣宛

電報、日本軍ノ兵力増強ニ関シ説明方要請ノ外

交部公文

別電第一四七号

済南ヨリノ電報ニ依レハ近頃坊子ニ日本歩兵五百余名砲兵騎兵各一隊到著シ又済南ニモ日本歩兵砲兵併セテ七百名到著シ尚大部隊アリ続イテ到著スヘシト云フ又奉天来電ニ依レハ日本ハ奉天停車場ニ約三千余名ノ増員ヲ行ヒ又大連東港ニハ既ニ日本兵三千余名到著セリトノ趣ナリ査スルニ膠州湾戦争ハ既ニ解決シ膠済鉄道沿線ノ少数ノ軍隊スラ将ニ撤去方商議シツツアル際突如斯ル多数兵力ノ増加ヲ行ハレタルハ寔ニ疑訝ニ堪ヘス殊ニ地方ハ安静ニシテ毫モ軍隊増加ノ必要ナキモノナリ依テ貴国ハ這次該両省ニ於テ畢竟何カ故ニ兵力ヲ増加セラレタルヤ至急何分ノ義回答セラレタシ

他借款ニ関スル事務ハ総テ同銀行ニ於テ之ヲ取扱フコト

三、工事請負物品購入等経費支出ヲ要スルモノ竝会計部員ノ任免ハ一切会計主任ノ承認ヲ必要条件トシ又鉄道工事ニシテ新タニ決定ヲ要スルモノ竝技術部員ノ任免ハ一切技師長ノ承認ヲ必要条件トスルコト

四、吉長鉄道ニ関シ資金ヲ要スル場合ニハ必ラス日本側ヨリ借入ルルコト

五、技師長会計主任以外ニモ日本人ヲ用フルコト（例ヘハ運輸主任保線主任）

六、吉長鉄道ニ関シ外国品ヲ必要トスル場合ニハ先ツ日本品ヲ購入スルコト

七、技師長会計主任共ニ日本側ヨリ推薦スルコトトナスコト

二六四　三月二十三日　在済南林領事ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

日本軍増兵ニ関スル謡言取締状況報告ノ件

第三五号

当地ニ於ケル我兵ノ増加ハ日支人一般ニ知レ亘リ我居留民

二六三　三月二十三日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛

吉長鉄道借款契約改訂ノ約定取付ト共ニ別ニ協定ヲ要スル事項ニ付訓令ノ件

政機密送第四七号

本件ニ関シ往電第一六七号ヲ以テ吉長鉄道ノ件ハ已ムヲ得サルニ於テハ往電第八八号ヲ以テ申進シタル借款契約改定案迄譲歩スルモ差支ナキ旨申進置候処当方ニテハ愈々右改訂実行ノコトト成ル際ニハ少クトモ左記ノ事項ハ成ルヘク取極置ク様致度内意ニ有之候得共此際此等詳密ナル事項ニ就キ協議致候時ハ徒ラニ全交渉ヲ長引カシムル虞モ有之コトニ付先ツ契約改修ノコトダケ取極メ置キ別ニ此等ノ諸点ヲ協定スルコトト致度ニ付右ニ御含置相成度尚左記各項ハ吉長鉄道ノ現状ニ顧ミ且ツ浦信寧湘両鉄道借款契約ノ有利ナル点ヲモ参酌立案シタルモノニ有之候ニヨリ右様御承知置相成度貴官御参考迄此段申進候也

左　記

一、償還期限ヲ延長スルコト

二、借款ハ之ヲ日本国ノ銀行ニ預入ルヘク右ハ総辦及会計主任連署ノ同銀行宛支払命令ニヨリテ之ヲ引出スコト其

間ニハ謡言頻リニ伝ハリ居ルモ支那当局者ニ於テハ将軍巡按使協力ニテ一般ニ謡言取締ヲ厳重ニシ特ニ告示ヲ発シ日本兵増加ハ守備交替ノ為ナルコト及謡言製造者ノ処罰等ヲ布告セル為支那人間ハ比較的平穏ナルモ市況頗ル振ハス揚警察庁長ノ来談ニ依レハ支那当局ノ此際最恐ルルハ匪賊ノ横行ニシテ是カ取締ニ全力ヲ尽シツツアリト云フ

北京及天津ヘ電報シタリ

二六五　三月二十三日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

第十三回談判ニ於テ第二号第二條第三條ニ関スル先方ノ修正案提出竝吉長鉄道問題協定済ニ付報告ノ件

第一五〇号

三月二十三日陸総長ハ曹次長及施秘書ヲ従ヘ来館シ第十三回談判ヲ当館ニ於テ開ク本使親シク其ノ衙ニ当リ午後三時ヨリ七時ニ亘リ未了ノ各條項ヲ商議ス要領左ノ如シ

本日ハ陸ヨリ原案第二條第三條ニ対シ修正案ヲ持参セリトテ本使ニ之レヲ手交シ且支那側ニ於テハ開埠地主義ヲ希望

スル次第ナルモ日本側ノ同意ヲ得サルニヨリ已ムヲ得ス雑居主義ニヨリ一ノ修正案ヲ作リタリ而シテ之レハ支那ノ法律及條約ニ照ラシ仲々困難ノ所アリ幾重ニモ妥協ノ精神ニヨリ協議ヲ纏ムル様致シタキ旨附言説明セリ

第二條第三條支那側修正案

（中國政府約定所有日本國臣民在東三省南部地方内地擬欲居住或經營各項生業如有日本国領事官或確實保人證明從事正當營業者中國地方官卽准其註冊非有正當理由勿得藉詞阻止竝約業在前開地方居住或經營各項生業之日本國臣民亦不加何等之阻止但前項日本國臣民均應服從中國警察法令完納一切賦稅與中國人民一律如有民事刑事一切訴訟由中國法官秉公審判日本國領事官或由領事官委派官吏可任便到堂聽審惟人命重案則須先行知照日本國領事官到堂聽審日本國領事官對於此項重大案件如能指出不按法律判斷之處可請中國另派員複審以昭信讞又前項日本國臣民蓋造商工營業房屋需用地畝得與業主公平商租）

（在東三省南部無論商埠與否可許日本国臣民與中國人民合辦公司或商租地畝經營開墾事業所有關於租地開墾各項章程由中國另行規定）

右修正案ニ対シテハ本使ハ我原案竝ニ修正案ト甚シキ懸隔ニヨリ詳細説明シ（速行調査呈請該管官廳）ヲ改メ速カニ調査ヲ行ヒタル上日本側ノ選択シタル鉱山ニ対シテハ直チニ試掘採掘ノ許可ヲ与フル事ニ同意アリタキ旨述ベタルニ陸ハ本使ノ趣旨ヲ十分ニ了解シ各鉱山ヲ列記スル事ニハ同意ナルモ既ニ試掘採掘ノ許可ヲ得居ル権利者ノ権利ヲ除外セズシテ只単ニ列挙ノ鉱山ニ関シ日本臣民ニ採掘権ヲ与フル様取極ムルトキハ此等権利者ヨリ必ズ苦情ヲ起シ来ル可キニ付此事ハ何トカ明記シ置クノ必要アリ只各鉱山中ニ於テモ現ニ試掘採掘ノ許可ヲ与ヘ居ルモノノ鉱区以外ニ開掘ノ見込アル所鮮ナカラザルベケレバ過日提出ノ修正案中「除業已探勘或開採各鑛外」トアル各鉱ノ次ニ区ノ一字ヲ挿入スレハ意義明瞭トナルニ付左ノ如キ公文案ノ次ニ各鉱山名ヲ列記スルコトトシテハ如何ト述ヘタリ（中國政府允許日本人民在東三省南部之左開各鑛除業已探勘或開採各鑛區外速行調査選定呈請該官廳仿照現行辦法准其探勘或開採俟中國鑛業條例確定時一律遵照辦理）

右ノ内現行辦法及確定鉱業條例ノ意義ニ関シ本使ノ質問ニ答ヘテ現行辦法トハ外交団抗議ノ下ニ鉱業條例ヲ適用シ居ルヲ以テ之ヲ現行辦法ト称シ右ニ遵據スヘシトノ意味ニテ

アルヲ以テ到底同意ノ限リニアラザル旨ヲ述ベ農業ニ関スル修正案中租地開墾ニ関スル各項章程ハ中国ヨリ別ニ規定ヲ行フトアルヲ指摘シ斯カル章程ヲ支那側ニ於テ勝手ニ設ケ不必要ナル制限若クハ故意ヲ以テ甚シキ検束ヲ加フルガ如キ場合ニハ折角ノ條約モ無効ニ終ルナキヲ保シ難ク若シ仮リニ日本国政府ニ於テ本案ニ同意スルコトアリト仮定スルモ是等ノ点ハ必ス日本国官憲ノ承認ヲ得タル章程ナラザルベカラザルコトヲ言明シ置ケリ、之ヲ要スルニ満蒙問題商議ニ入リテヨリ以来殆ト一ヶ月ノ日子ヲ経過シ会議ヲ重ヌルコト十回ノ多キニ及ベリ然ルニ第二條第三條ノ論議ニ於テハ何時モ支那側ハ警察課税司法ノ三点ニ関スル法律條約主権等ノ関係ニ藉口シテ執拗ニ其主張ヲ抛棄セズ今回ノ修正案モ第四回目ノ修正案ニシテ而モ十分考慮ヲ加ヘタリト称スルニ拘ハラス将又一面我増遣隊ノ陸続出動シツツアル今日尚満洲ニ於テ我臣民ノ雑居ヲ承認スルガ為此等我臣民ヲシテ全然支那ノ警察権課税権及司法権ニ服従セシメンコトヲ主張スルハ稍意外ノ感ナキニアラス本件ニ関シテハ雙方トモ既ニ略ホ其論議ヲ尽シタルコトナレハ今後本問題ニ対スル本使心得特ニ御回訓ヲ請フ

次ニ第四條ニ関シテハ本使ハ貴電第一七三号御来訓ノ趣旨又将来外交団ニ於テ承認シタル鉱業條例カ確定スベケレバ之ヲ確定鉱業條例ト称スル次第ナリト陸ハ説明シタリ就テハ右修正案ニ対スル御意見今一応承知シ置キタシ次ニ第七條ニ移リ支那側ハ過日小幡ヨリ本使ニ代リ提出シ置キタル吉長鉄道借款契約改訂ノ修正案ニハ全然異議ナシトテ右修正案漢訳ヲ提出シタリ本條ハ之レニテ協定済トナル即チ左ノ通

第七條第一項（中國政府允諾以向來中國與各外國資本家所訂之鐵路借款合同規定事項爲標準速行從根本上改訂吉長鐵路借款合同第二項將來中國政府關於鐵道借款付與外國資本家以較現在鐵路借款合同事項爲有利之條件時依日本之希望另行改訂前項合同）

本日ハ尚商議ヲ進メ第三号漢冶萍公司ノ問題ヲ議シタリ其ノ要領ハ後電ヲ以テ電報ス（終リ）

二六六　三月二十四日　加藤外務大臣在本邦中国公使会談

日本軍隊ノ増遣見合方陸公使申出ニ対シ中国民心ノ動揺ハ交渉内容漏洩ニ依ル旨竝交渉ノ進捗ニ付勧説ノ件

三月二十四日支那公使来省会談要領

大正四年三月二十四日支那公使劉参事官同伴来省大臣ト会談ノ要領左ノ如シ

公使　今回貴国軍隊ヲ支那方面ヘ増派セラレツツアル模様ナル処貴国トノ交渉ニ関聯シ各地ノ人心頗ル動揺シ居ル際更ニ一般民衆ニ不安ノ念ヲ抱カシムルノミナルベキニ付右出兵ヲ見合サル様閣下ヘ申出ヅヘキ旨本国政府ヨリ訓令ニ接セリ

大臣　右同様ノ申出ハ貴国外交部ヨリ既ニ日置公使ニ対シテモ為サレタル趣同公使ヨリ電報アリ之ニ対スル回答振ニ関シテハ多分本日中ニ日置公使ヘ電報シ得ベシト信ズ貴方ニテハ民心ノ動揺ヲ云々セラルレドモ民心ノ動揺ト云フコトナラバ実ハ貴方ニ其責アリ抑今回ノ交渉開始以来本大臣及日置公使屢次ノ勧告ニモ拘ラズ貴国側ヨリ常ニ交渉ノ内容ヲ漏洩セラルルハ誠ニ其意ヲ得ズ民心ノ動揺ニシテ之アリトセバ其真因ハ却テ貴方ニ於ケル交渉内容ノ漏洩ニ在リト云ハザルベカラズ貴方ニ於テ交渉ノ内容ヲ漏サルルトキハ折角若シ我方ニ於テ貴方ノ主張ニ応ゼントスル点アルトモ遂ニ聴クコトヲ難シトスルニ至ルベシ我方再三ノ警告ニモ拘ラズ貴国当局者ハ今以テ悟ラレザルト見ユ今一応此点ニ付閣下ヨリ痛切ナル勧告ヲ貴国政府ニ致サレンコトヲ切望ス

公使　交渉ノ内容カ支那側ヨリ漏レタル如キ新聞記事等ハ見聞セザル様ナリ

大臣　北京ヨリ当地ヘノ新聞電報ハ当国ノ民心ヲ動揺セシメザル為差押ヘテ公表セシメザルガ故ニ御目ニ止ラザルハ御尤ナレドモ外国ヘノ通信ハ続々公表セラレ居リ英米等ノ新聞ニ顕レタル通信ハ一々当方ヘ報告シ来リ居レリ要スルニ民心ノ動揺ハ決シテ日本出兵ノ為ニ非ズ日本ノ出兵ハ元来交代ノ為ニシテ旧駐屯兵ハ直ニ帰還スベキ筈ナレドモ貴国一般秩序ノ情況ニ依リテハ多少其出発ヲ見合スコトトナルヤモ知レズ情報ニ依レバ上海等ニ於テハ今回ノ交渉ニ関聯シテ「ボイコット」ヲ起シツツアリ日本人ニ対シ種々ノ迫害ヲ加ヘ或ハ投石シタル者モアリトノコトナルガ斯ル不穏ノ行動ニ対シ貴国政府ニ於テ自ラ進テ防止ノ手段ヲ講ゼザルニ於テハ日本ハ自然自国人及其利益ヲ保護スル為必要ナル方法ヲ講ゼザルベカラザルニ至ルベシ交渉自体ノ内容ニ付テ論ズルモ貴国当局者ハ徒ニ議論ノ末ニ拘泥シ貴国法制トノ関係等ニ藉口シテ偶々其進捗ヲ妨ゲントセラルルガ如キハ甚ダ貴国ノ為ニ取ラザル所ナリ例ヘハ満蒙居住権ノ問題ニ付テ見ルモ貴国外交総長ハ日本ノ修正案ヲ目シテ商埠地主義ト開放主義ト互ニ相容レザルモノヲ一時ニ認ムルモノトナシ之ヲ拒マレタル由ナレドモ我提案ニハ決シテ斯クノ如キ矛盾ナシ元来日本人カ商埠地内丈ニ住居シテ其他ニ出デザルコトトスルハ司法権運用ノ上ヨリ云フモ警察取締ノ上ヨリ云フモ望マシキコトナルニ付商埠地主義ヲ原則トセントスルナリ然レドモ右商埠地以外ニ於テ居住営業ヲ為サント欲スル日本人ナキヲ保シ難キニ付是等日本人ノ為ニ例外トシテ一ノ便法ヲ設ケント欲スルナリ実際ニ於テモ商工業者ニハ内地ニ入ル者ハ少ナカルベク農業者ト云ヒテモ労働者トシテ満蒙地方ニ於ケル支那労働者ト競争スルガ如キハ経済上不可能ノコトナルヲ以テ単ニ少数ノ経営者ガ内地ニ入リ込ムニ過ギザルベシ裁判ニ関スル貴方ノ提案ハ純然タル理論トシテハ兎ニ角実際ニテハ到底之ニ服スルコトハ出来難シ何分現在ニ於ケル貴国ノ司法制度ハ不完全ニシテ外国ニ於テ到底安心シテ事ヲ托スルコトヲ得ザルナリ新シク商埠地ヲ開クコトトナレバ日本人ノ居住ノ中心点ヲ増シ日本領事館所在地モ増加スレバ事件ノ起ルニ連レ容易ニ最寄ノ日本領事館ニ於テ処理スルコトヲ得ベク貴国ノ司法制度完成ノ期到ラバ我方ニ於テモ無論悦デ之ニ服スベク吾人モ亦カカル時節ノ一日モ速ニ来ランコトヲ希望スルコトニ於テ敢テ人後ニ落ツルモノニ非ザレドモ目下ノ状態ニテハ何分ニモ貴意ニ応ズルコトヲ得ザルナリ要スルニ貴国トシテハ此際カカル細目ノ問題ノ為ニ時ヲ移スコトハ断然之ヲ避ケ大局ヨリ見テ速ニ妥結ノ途ヲ講ゼラルルコト最モ肝要ナリ今次交渉ノ諸問題サヘ決定セラルレバ日支両国ノ親善東洋全局ノ平和ハ期シテ待ツベク貴我両国ノ親善一ト度確立セバ或ハ我　天皇陛下モ貴国大総統ニ対シ一層具体的ニ敬意表彰ノ途ヲ講ゼラルルコトモアルベシト存ゼラル事是ニ至レハ両国ノ慶事之ニ勝ルモノナカラン切ニ貴国政府ノ反省ヲ求ム

公使　委細本国政府ヘ電報致スヘシ

二六七　三月二十四日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）
第十三回談判ニ於テ我提案第三号漢冶萍公司合弁問題ヲ討議シタルニ付其模様報告ノ件
第一五一号
（三月二十三日談判要領続キ）
漢冶萍公司合弁問題ニ付テハ支那側ハ依然政府トシテ商辦会社ニ干渉不可能ナルヲ主張シ元来支那政府ハ始メ本件ニ付テハ全然日本国ノ提議ヲ容認セザルコトニ決定シ居リタル次第ナルモ日本側ノ切ナル希望アリタルニ由リ格別ノ考量ヲ加ヘ先般提出ノ対案迄譲歩シタルモノナリ然ルニ昨今ニ至リ該公司董事若ハ株主ヨリ殆ンド日々ノ如ク反対意見ヲ外交部ニ申出ヅル様ノ次第ニテ此際支那政府トシテハ過般ノ対案以上ニ譲歩スルコト絶対的ニ困難ナリト述ベ最執拗ニ前陳ノ意味ヲ反覆敷衍シ反対ノ態度ヲ表シタリ右ニ対シテハ本使ハ漢冶萍公司ノ沿革ニ遡リ近ク革命乱前後ニハ地方都督ノ同公司官設計画アリ又国有案ノ現出アリ遂ニハ米資ヲ借入レ日本国資本ヲ償還セントシタル陰謀迄行ハレ之カ為其都度日本資本家ノ利益ハ甚ダ威嚇セラレ我関係者ハ常ニ不安ノ状態ニアルノミナラズ延テハ日本国製鉄事業ニモ多大ノ影響ヲ与フル次第ニシテ日本国トシテハ到底斯ノ如キ状態ニ満足スル能ハズ必ズ合辦ヲ実行シテ我資本家ノ利益ヲ確保シ合セテ我製鉄事業ノ安全ナル発達ヲ期スル必要アリト論ジ更ニ進ンデ事実ヲ挙ゲ漢冶萍公司現在ノ状態ニ論及シ其経営不整理財政紊乱ハ軈テ公司ノ破綻ヲ来スベク其時期ニハ株主其他ハ多大ノ損失ヲ被ムルコト勿論ナリ従テ今ニ於テ合辦ヲ実行シ財政ヲ整理シ経営方法ヲ改善セバ独リ日本資本家ガ其資本ノ保護ヲ受クベキノミナラズ支那ノ株主其他モ亦多大ノ利益ニ浴スルニ至ルベキ次第ヲ懇切ニ説明シタルモ陸ハ前議ヲ執リテ動カサス其弁スル所ハ要スルニ千篇一律ニ商辦事業ニ対スル政府干渉ノ不能ヲ繰返シ主張セルニ過ギス本使モ亦剴切ニ我説ヲ主張シ支那ノ現状並現政府ノ実力ニ顧ミ政府ガ公司ヲ慫慂シテ合辦ノ実ヲ挙グルコト必ズシモ不可能ト信ゼザルノミナラズ日本国ノ趣旨モ今直ニ合辦ヲ実行スルニアラズ此際主義上合辦ニ取極メ置キ他日徐ニ両国関係者ヲシテ此計画ヲ実行セシムレバ足ル次第ナルヲ述ベ置ケリ之ヲ要スルニ本件ハ何等纏マリタル所ナク結局次回ノ会議ニ於テ再ヒ論議ヲ闘ハスニ至ルベキモ陸ハ支那側ノ修正案ニ対シ日本側ニ於テ修正意見アラバ承知シタキ口気ヲ洩ラシタル所ヨリ察スルニ或ハ次回ニハ多少譲歩ノ態度ヲ示シ来ランカトモ察セラル

二六八　三月二十四日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）
中国政府ヨリノ我軍隊出動ニ付説明方要請ニ対スル回答振ニ付回訓ノ件
第一七九号
貴電第一四六号ニ関シ
貴官ハ単ニ口頭ヲ以テ支那当局ニ対シ今回ノ我軍隊出動ハ交替ノ目的ニ出デタルモノナルモ支那側ノ取締行届カザル為上海地方ニハ不穏ナル集会催サレ又本邦人暴行ヲ受ケタルヤノ情報モアリ又山東地方ニモ匪賊横行スルヤノ風説モアリ（本省宛林来電第三五号参照）且又近頃山東鉄道ニ対スル妨害頻々トシテ起リ加之往電第一七八号ノ如キ事件モアリ其他各地方ニ於テ諸般ノ謡言続出我方ノ不安軽カラス之レ畢竟支那側ニ於テ迅速ニ交渉ヲ纏ムルノ挙ニ出デザルニ職由スルモノニシテ談判円滑ニ結了シ従テ右等ノ謡言竝不穏ノ風潮消滅スルニ於テハ我軍隊モ速ニ交替ヲ了スルコトヲ得ベキモ然ラズシテ依然談判モ其進行遅々トシテ多ク要領ヲ得ズ其間前記ノ如キ面白カラザル風潮已マザル形勢ナルニ於テハ或ハ我軍隊ノ交替モ豫期ノ如ク速ニ完了スルヲ得ザルニ至ルナキヲ保セザル旨極メテ慎重ニ申入レ置カルヘシ

二六九　三月二十四日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）
第十三回談判ニ於テ先方ヨリ提出セラレタル修正案ニ関シ回訓ノ件
第一八一号
貴電第一五〇号ニ関シ
㈠　原案第二條第三條ニ付貴電第一五〇号ノ五ヲ以テ貴官尚今廿四日在本邦支那公使来省本国政府ノ訓令ニ基ク趣ニテ帝国政府ニ於テ支那ニ軍隊ヲ増派スル事ヲ見合ハセラレタキ旨申出デタルニ付本大臣ハ同公使ニ対シ大体前顕ノ趣意ヲ申述ヘ此際支那政府ニ於テハ大局ニ顧ミ速ニ日本ノ要求ニ応ジ交渉ヲ至急完了セシムル事極メテ必要ナルニ付其旨篤ト本国政府ニ申入ルル事然ルヘキ旨申添ヘ置キタリ

心得方御請訓ノ次第アル処右ハ貴官ニ於テ前記両條ニ関スル交渉ハ差当リ此上支那側ヲシテ譲歩セシムルノ余地ナシトノ御見込ニ出デタルモノカトモ思考セラルルモ右両條ノ交渉モ追々彼我ノ主張接近シ来リ今一歩ニテ解決ヲ見ルベキ様感ゼラルルニ付成ルベクハ以下所述ノ案ニテ話ヲ纏ムル様御尽力アリ度之ヲ提出シタル上結局先方ノ同意ヲ得ザルニ於テハ右両條ノ件ハ後廻シトナシ順次他ノ問題ニ話ヲ進メラルルコトニ取計ハレ度シ即チ(イ)此際新ニ商埠地ヲ開クコトハ是非必要ト認ムルニ付開埠地ノ件往電第一四九号ノ通リ取極ムルコトト致シタシ開埠増設ノコトハ貴電第一四三号ノ通リ兎ニ角大体支那側ニ於テモ同意シタル所ナルニ付是非共我案通リ承諾セシムル様致度シ(ロ)貴電第一五〇号ノ二支那側修正案中「或確實保人證明従事正當營業者中國地方官」ノ次ニアル「即准其註冊」ヲ削ル「但前項日本國臣民均應服従中國警察法令」以下貴電第一五〇号ノ三「以昭信懲」迄ヲ次ノ意味ニ改ム「但シ前項日本国臣民ハ日本国領事官ニ於テ承認シタル支那行政警察法令ヲ遵守スヘク又日本国領事官ニ於テ承認シタル課税ニ服ス若シ民刑訴訟事件起ラハ従来ノ例ニ依リ処理ス」（支那修正案訴訟ノコトハ

間島協約朝鮮人ノ例ニ依リタルモノナルベキモ右ハ承諾ノ限ニ非ス）次ニ「需用地畝得與業主公平商租」ノ「租」及「中國人民合辦公司或商租地畝」ノ「租」ハ曩ニ訓令シタル如ク暫租永租ト為スモ差支ナキモ成ルベクハ共ニ「土地ノ賃借又ハ購買」ト改ムルコトト致シタシ尚右「合辦公司或商租地畝」ノ意味明瞭ナラザルニ付其説明電報アリ度シ最後ニ末段「所有關於租地開懇各項章程」以下ヲ削ル右修正案ノ趣旨ハ元来日本人カ開埠地内タケニ居住シテ其他ニ出デザルコトハ司法権ノ上ヨリ見ルモ警察取締ノ上ヨリ云フモ日支両国ニ取リ共ニ都合好キコトナルニ付我方ニテハ開埠地主義ヲ原則トナスノ趣意ナルモ例外ノ場合トシテ開埠地以外ニ於テ居住営業ヲ為スモノ無キヲ保シ難キニヨリ其場合ヲ慮リ上記ノ如キ辦法ヲ設ケントスルモノニシテ新ニ多数ノ開埠ヲ見ル上ハ日本人居住ノ中心点モ増シ日本領事館所在地モ増加スル次第故民刑訴訟事件起ルモ容易ニ最寄リノ日本領事館ニ於テ処理スルコトヲ得ベク従テ我案ノ如ク従来ノ例ニヨルコトトスルモ決シテ事実上支那側ニ不便ナカルベシ此ノ如ク我商工業者ノ開埠地外ニ出ヅルモノハ実際ニ於テ極メテ少数ナルベク又農業者ニ付テ言フモ亦同シ且又支那ノ

司法制度完備ノ暁ニハ我方ニ於テモ勿論悦ンデ之ニ服スベク帝国政府ニ於テハ此ノ如キ日ノ一日モ速ニ到来スヘキコトヲ切望スル次第ナルモ何分現在ノ支那司法制度ハ不完全ニシテ外国人ノ信ヲ維グニ足ラズ旁以テ第二條第三條中司法制度ニ関スル支那側主張ハ目下ノ状態ニ於テハ何分我方ノ首肯シ難キ所ナル旨敷衍申添ヘラルベシ

(ハ)　第四條鉱山ノ件貴電第一五〇号公文案中前段ハ差支ナキモ後段ハ「呈請該官廳仿照現行辦法」ヲ削リ且「俟中國鉱業條例」以下ヲ「鉱業條例確定ニ至ル迄ハ現行辦法ニ拠ル」ノ意味ニ改ム

(ニ)　今回交渉ノ條約公文等ハ一切日本文ヲ正文トスルカ少クトモ日支両文ヲ正文トスルコトト致度ニ付御含置アリ度シ

二七〇　三月二十五日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

第十四回談判ニ於テ第二号ノ諸問題竝第三号漢冶萍公司第四号中国領土保全問題ニ付商議ノ件

第一五七号

三月二十五日午後三時ヨリ七時迄当館ニ於テ第十四回談判

ヲ開ク先方ヨリハ陸総長等例ニ依リ列席ス本日ノ会議ニ於テハ本使ヨリ先ツ貴電第一八一号ヲ以テ御訓令ノ第二号原案第二條第三條ニ関スル修正案ヲ提出シタル処陸ハ之ヲ一読シ本案ハ日本側第一次修正案ト大差ナク而カモ開埠主義ト雑居主義トヲ併用スルコトハ支那側ニ於テ極力不同意ヲ唱ヘタルニ拘ハラス今回又復此種ノ提案ヲ出サレタルハ深ク失望スル所ナリトテ従来ノ会議ニ於ケルト殆ンド同様ノ論鋒ヲ繰返シ商埠地開放ノ上ハ更ニ雑居ヲ許スコトハ頗ル困難トスル所ニシテ斯ノ如クナレバ原案要求以上ニ更ニ商埠地ヲ開クコトトナリ他日條約公布ノ場合ニ至リ民間ヨリ排斥攻撃ヲ受クベシト述ヘ理屈ト情実論トヲ羅列シ極力反対ヲ試ミタリ依テ本官ハ本修正案ニ於テ警察ノコト課税ノ点ニ付譲歩ヲ示シタルハ我方ノ一大決断ニシテ曩ニ提出ノ修正案ト非常ノ相違アル旨ヲ指摘シ陸カ両者ノ間大差ナシト云ヘル点ヲ反駁シ更ラニ開埠主義ト雑居主義トヲ併用セルハ結局我原案無制限雑居主義ヲ支那側ニ於テ同意セザリシ第一次及第二次支那側修正案ノ趣旨ヲ折衷シ更ラニ第三次ノ支那側修正案ヲ参酌シ成ルベク我原案ノ希望ニ副フ様考案シタルニ外ナラザルニ付今回ノ修正案ハ我方ニ於テ譲歩シ得ル最低限度ノモノトシテ篤ト支那政府ニ於テ

考慮ノ上直ニ之レニ同意アル様致シタキ旨ヲ最剴切ニ陳述シ置キタリ右本使ノ意見ニ対シテハ陸ハ更ニ開埠主義雑居主義ヲ併用スルコトハ絶対的ニ同意シ難キ所ナルモ追々討議ノ結果雙方ノ意見モ漸次接近シ来レルヤノ観アリ現ニ支那ハ雑居主義ヲ承認シ日本国モ警察課税ノ点マテ譲歩シ残ル所ノ問題ハ民刑訴訟審理問題トナレル次第ナレバ此点ニ関シ何トカ適当ナル辦法ヲ案出シ雑居主義ニテ商議ヲ纏ムル様次回迄ニ考慮ヲ加フヘシト述ヘタルニ付本使ハ雑居主義ヲ基礎トスル辦法ナラバ我原案ヲ承認スル範囲ニ於テ考案セラレタク左モナケレバ矢張我修正案ノ主義ヲ基礎トシ開埠雑居両主義併用ノコトニ工夫セラレタク将又警察課税ノコトハ別トシ治外法権ノ撤回ヲ意味スルガ如キ修正案ニハ断ジテ帝国政府ニ於テ考慮ノ余地ナキ次第ナル旨ヲ付此点ハ特ニ考慮ヲ加ヘ新修正案ヲ案出セラレタキ旨呉々モ注意シ置ケリ

次ニ第二号第四條ニ付テハ貴電第一八一号(五)鉱山ニ関スル御訓示ノ次第ニ基キ修正意見ヲ提出シタルニ陸ハ東部内蒙古ノ文句ヲ除キ同意ヲ表セリ第三号漠冶萍公司ノ問題ニ付テハ陸ハ前回同様支那側対案以上ニ譲歩ノ余地ナキ旨ヲ始終反覆スルノミニテ何等耳新シキ論拠ヲ発表セズ只本日ハ嘗テ本件ニ付大総統府ニ於テ会議アリタル節農商総長張謇主トシテ反対シ一時ハ絶対的ニ日本国ノ提議ヲ拒絶スルニ決シタル次第ナルモ日本国ヨリタツテノ要求アリタルニ依リ柱ゲテ提案ヲ出スニ至リタル内情ヲ打明ケ説明シ実際民間ノ輿論ニ反シ支那側トシテ商辦事業ヲ勝手ニ合辦トスル事ヲ外国政府ニ約束スル事ハ到底不可能ノ事ナルニ付此点ハ幾重ニモ支那政府ノ困難ナル立場ヲ諒察セラレ対案通ニテ我慢アリ度旨縷々懇願ニ及ヘリ本使ハ之レニ対シ支那政府ノ立場ハ去ルコトナガラ対案ノ如キ漠然タル意味合ノモノニテハ到底考慮ノ余地ナキ旨ヲ述ベ絶対ニ原案ヲ基礎トシ今一応考慮ヲ加フルコトヲ促シ置キタリ本件ハ裏面ニ如何ナル事情ノ伏在スルヤ之レヲ察知スルニ由ナキモ先方ノ態度意外ニ強硬ナルヤニ観察セラレタリ或ハ両国政府ニ於テ同公司及其ノ関係者ヲ慫慂シテ合辦実現ニ尽力スルコトヲ約束スル様ノ案ナラハ案外先方モ亦耳ヲ傾クルニ至ラズヤトモ察セラル之レトテ成否ハ豫メ計リ知ルベカラザルモ次回ニ於テ提議ヲ試ミタシト存ズ

右ノ如ク本件ハ先方ノ態度中々強硬ナルニ付本日ハ議論ヲ右ニテ打切リ第四号商議ニ進ミ豫テ御訓令ノ趣旨ニ基キ我原案ノ趣意ヲ第一号第二條ノ山東不割譲ニ関スル件ト同様ノ形式即チ公文ニテ約束センコトヲ本使ニ於テ極力主張シタルモ支那側ハ民国成立以来未タ一回モ斯ノ如キ支那側ノ体面ヲ傷クルカ如キ約束ヲナシタルコトナク今若シ日本国ト斯ノ如キ約束ヲナスニ於テハ支那側ノ統治上衷総統ハ非常ニ悲境ニ立ツ次第ナルヲ以テ之ハ矢張リ支那自身ノ発意ニヨリタル体ニテ自ラ宣言スルノ形式ニ違テ同意アリタシト述ヘ是レ亦頗ル執拗ノ態度ヲ示セリ本件ニ対シテモ本使ハ弁難最モ努メ既ニ山東ニ関シ不割譲ヲ約スル公文ノ交換ヲナシ得ル以上支那全土ニ対シテモ同様ノ形式ヲ採リ得ザル理由ナカルベキヲ指摘シ反覆我主張ヲ支持シタルモ先方ニ於テハ容易ニ応諾ノ意ヲ表セザルヲ以テ次回ニ於テ再応論議ヲナスコトトシテ本日ノ会議ヲ終了セリ第四号ノ件ハ或ハ先方ニ於テ依然前議ヲ固執スルニ於テハ対案通リ宣言ノ形式ニ同意シ可然ヤト考フ或ハ宣言ヲ特ニ我ニ通告セシムルコトモ一案カト存セラル次回ニ於テハ本使ハ我主張ヲ更ニ支持シ見ルベキモ何等カ修正ノ余地アラハ御一考ヲ仰キタシ

（終リ）

二七一　三月二十五日　在天津松平総領事ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

天津地方ニ於ケル人心動揺及日貨排斥運動ヲ未然ニ防止ノ措置ニ付請訓ノ件

第二〇号

往電第一八号ニ関シ出来得ル限リ当地人心ノ動揺ヲ防キ日貨排斥等ノ事実現ハレザル様先般来巡按使警察庁長等ト協議シ有ラユル方法ヲ講ジ居ルモ昨今天津ニ増兵セラルル噂支那人間ニ伝ハリ頗ル不安ノ念ヲ起サシメタルガ上海方面ノ排日熱益々発展ノ傾向アリ旁当地ニ於テモ排日熱勃興スルコトナキヤ保シ難キ処若シ当分当地ニハ出兵セラレザル様ノコトニ御決定相成リ居ル様ノコトモアラバ此際巡按使ニ対シ日支交渉ノ不進行又ハ排日熱起ラザル限リ差当リ当地ニハ出兵アルマジキコトヲ本官ヨリ「コムミット」セザル様公トナク先方ニ伝フルコトヲ得バ人心ノ動揺ヲ防ギ日貨排斥運動ヲ未然ニ防ガシムル上ニ大ナル効果アリト思ハルルニ付右様取計差支ナカルベキヤ

註　右請訓ニ対シ三月二十六日加藤外務大臣発往電第八号ヲ以テ「貴電第二〇号ニ関シ御来示ノ通取計ハレ差支ナシ」ト回訓シタリ

二七二　三月二十六日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

大総統申令ヲ以テ排日運動禁止ニ関スル訓令ヲ各地方官ニ下セル旨報告ノ件

別電　同日日置公使ヨリ加藤外務大臣宛電報第一五九号
右大総統申令要領

第一五八号

過日来南方支那ニ於ケル排日ノ気勢漸ク激烈ナラントスル傾向アリ一面本使再三ノ警告アリシ為支那政府ハ愈々三月二十五日大総統申令ヲ以テ大要別電第一五九号ノ通訓令ヲ各地方官ニ下シタリ右上海漢口広東福州ヘ転電シタリ

（別電）

三月二十六日在中国日置公使発加藤外務大臣宛電報

排日運動禁止ニ関スル大総統申令要領

別電第一五九号

支那ト日本ハ唇歯ノ関係ヲ有シ友誼素ヨリ厚シ近来交渉案件アルモ外交部ト日本公使トノ間ニ誠意商議中ナレバ平和解決ノ望アリ然ルニ商民中其ノ真相ヲ詳カニセズ誤解スルモノ多ク為メニ日貨ヲ排斥シ或ハ日本居留民ト行違ヲ生ゼシモノアルハ実ニ遺憾ニ堪ヘザル所ナリ加フルニ乱党虚ニ乗ジテ人心ヲ煽惑セムトスルモノアルハ最モ痛恨スルニ堪ヘタリ査スルニ通商貿易及外国人保護ハ條約ノ規定スル所我国民ハ皆之レヲ遵守スベキモノトス此ノ欧洲多事商業沈衰ノ際ニ当リ更ニ葛藤ヲ惹起スルガ如キコトアリテハ小ハ商民ヲ煩ハシ大ハ全局ヲ動揺スルニ至ラン各地将軍巡按使等地方ノ責任アルモノハ此際十分注意シ剴切ニ説諭禁止スヘシ若シ乱徒ニシテ名目ヲ仮リ治安ヲ擾乱スルアラバ直ニ厳重処分ヲ加ヘ以テ大局ヲ維持シ民生ヲ安ンゼヨ云々

『日本国ハ従来漢冶萍公司ニ対シ多額ノ資金ヲ投ジ居リ同公司ト日本国トノ関係ハ極メテ密接ナルニ付両締結国ハ同公司及其関係者ヲ慫慂シテ同公司日支合辦実現ニ尽力スベク又支那国政府ハ日本国ノ同意ナクシテ同公司ノ現状ヲ変更スルニ至ルガ如キコトハ悉ク之ヲ防止スベキコトヲ約ス』

又第三号第二條ハ形式ハ兎ニ角意味合丈ハ是非原案通リト致度右ハ出資者タル日本側ノ利益保護上当然ノ規定ナリ将又若シ支那側ヨリ同條冒頭「公司ニ屬スル諸鉱山附近ニ於ケル鉱山」トアルハ広キニ失シ同意シ難シトノ論起ラバ右ニ所謂「附近ニ於ケル鉱山」ノ何タルヤハ追テ両国ヨリ員ヲ派シ実地査定ノ上決定スルコトノ了解ト為シ置キ差支ナシ此点ニ付テハ往電第九三号参照アリ度シ

(二)　第四号不割譲ノ件ハ支那側ノ態度次第ニテ結局左ノ如キ案ニヨルコトトスルモ差支ナシ

（我方ヨリ原案第四号前文竝本文ヲ別紙トスル公文ヲ支那側ニ送リ右別紙ノ通リ約束セラレ度旨ヲ申入レ之ニ対シ支那側ヨリ右ノ如キ国際的約束ヲ為スコトニハ同意致難キニ付玆ニ別紙ノ通リ自ラ宣言スル旨ヲ照覆シ其別紙ニハ原案第四号ノ本文ノミヲ記載スルコト）

二七三　三月二十六日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

第三号漢冶萍公司ニ関スル原案第一條ノ修正案提出方竝第四号不割譲問題等ニ付訓令ノ件

第一九〇号

貴電第一五七号ニ関シ

(一)　第三号漢冶萍公司ノ件ニ付テハ支那側ノ態度飽迄執拗ナルニ於テハ我原案第一條ヲ左ノ意味ニ改ムルコトヲ提案相成リタシ

支那側ニ於テ之ニモ同意スル見込ナケレバ貴電第一五七号七末段宣言ヲ特ニ我方ニ通告セシムルコトトナスモ差支ナシ

尚第二号第二條及第三條ニ関連シ本條約中又ハ別約ヲ以テ満蒙ニ於テ我農民ノ経営ニ係ル生産物ハ防穀ノ措置ニ障碍ヲ及ボサザル限リ支那政府ニ於テ之カ輸出ヲ特許スヘキコトヲ取極置度ニ付適当ノ機会ニ於テ先方ノ同意ヲ取付ケラレ度シ

二七四　三月二十六日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

日本軍隊出動目的説明ニ対シ陸総長ハ民心動揺防止及談判進捗ニ付真摯ニ応答シタル件

第一六二号

貴電第一七九号御訓令ノ次第ハ三月二十五日第十四回談判ノ節会議ニ入ル前口頭ヲ以テ委曲陸総長ニ申入レタル処陸ハ日本軍隊出動ノ事ハ交代ノ目的ニ出デタルモノナル旨ノ声明ヲ聴キ大ニ安心セリ速ニ地方ニ打電シ民心ニ安堵ヲ与ヘ動揺ヲ防グノ措置ヲ執ルベク将又着々談判ヲ進捗セシメ

速ニ完了ヲ期スルコトハ支那政府ニ於テモ至極同感ニシテ誠心誠意円満ナル解決ヲ為スニ苦慮シ居ル次第ナル旨極メテ真摯ニ述ベタリ

二七五　三月二十六日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

ボイコット鎮圧方申入ニ対シ中国政府ハ各地方官ニ右取締方厳訓セル旨陸総長弁明ノ件

第一六三号

貴電第一七七号上海其他ニ於テ「ボイコット」鎮圧方ニ関シ厳重ニ支那政府ヘ警告ノ件ニ付三月二十五日第十四回会議ノ節本使ハ陸総長ニ対シ各地ニ於ケル実情ヲ指摘シ厳重鎮圧ノ必要ヲ警告シタルニ陸ハ上海ニ於テハ既ニ「ボイコット」開始セラレ民心漸ク激烈トナリツツアル趣ハ外交部ニ於テモ電報ニ接シタルヲ以テ夫々各地方官ニ極力取締方ヲ厳訓セルノミナラス愈々大総統ヨリモ申令ヲ発シ人民ノ軽挙妄動ヲ戒飭スルコトニ決定シタリト述ヘ鎮圧方ニ就テハ極力苦慮シツツアル趣弁明シ更ニ山東方面ニ於ケル日本人殺害ノコトハ未タ何等報道ニ接シ居ラサルモ事実トスレハ遺憾此上ナク兎モ角取調ノ上当該地方官ニ対シ取締方ニ付十分注意スヘキ旨電訓ヲ発スル積ナリト述ヘタリ

二七六　三月二十七日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

北京ガゼット掲載ノ排日記事ニ関シ中国政府ノ注意ヲ喚起シ置キタル件

第一六五号

Putnam Weale ハ数月前来北京「ガゼット」ト関係シ居リ同人ノ署名セル排日的論文屢々同紙上ニ掲載セラレツツアリ世上ノ注意ヲ惹キ居ル処近来同紙ハ倫敦特電トシテ屢々長文ナル英国新聞紙ノ論調ヲ掲ケ就中「デーリー、テレグラフ」「マンチエスタア、ガアデアン」ノ記事多キヲ占ムルニ付特ニ注意ヲ払ヒ居リタルニ未タ確実ナル真相ヲ突止ムルニ至ラサルモ右ハ支那政府ニ於テ前記両新聞通信員タル Putnam Weale ヲ利用シ同人ヲシテ両新聞ニ向ヒテ日本国ニ不利益ナル通信ヲ発セシメ更ニ之ヲ英国ヨリ北京ニ電報セシメ「ガゼット」ニ掲載セシメ居ルモノナルコト事実ト認メラルルニ付秘密厳守ノ件ト関聯シテ夫レトナク支那当局ノ注意ヲ喚起シ置キタリ

二七七　三月二十七日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

第十五回談判ニ於テ第二号第二條第三條ニ付先方ヨリ更ニ提出ノ修正案竝第三号第四号及第五号第一項ニ関スル商議ノ模様報告ノ件

第一六六号

三月二十七日午後三時ヨリ七時十分迄当館ニ於テ第十五回談判ヲ開ク陸総長以下例ニ依リ来館ス、会議ニ入ル前談判内容漏洩ノ件ニ関シ本使ヨリ厳重ナル警告ヲ与ヘタル所陸ハ本席ニ列セル三人ノ当局者ノ口ヨリナレバ誓ヒテ会議ノ内容ヲ他ニ漏洩スルコトナキヲ言明スル次第ナルモ現ニ内容ノ新聞紙上ニ出ヅル事実ハ実際ナルヲ以テ何レノ辺ヨリ漏ルルモノカ自分モ至極奇怪ニ思ヒ居ル次第ナリト頗ル不得要領ナル答弁ヲナシ一時遁レノ挨拶ヲナシタルニ付本使ハ更ニ「デーリー、テレグラフ」及「マンチエスター、ガーディアン」ノ通信員「シムプソン」ガ支那政府ノ使嗾ヲ受ケ頻ニ誇大ノ電報ヲ英国ニ送リ同国ノ輿論ヲ動シ日本国ニ対シテ悪感ヲ抱カシメント画策シツツアル裏面ノ事実ヲ暗ニ指摘シテ十分ニ陸以下ノ注意ヲ喚起シ置ケリ

次テ会議ニ入ルヤ陸ヨリ第二号第二條第三條ニ関シ民刑訴訟ノ点ニ付十分考慮ヲ加ヘタル結果更ニ一ノ修正案ヲ出スコトトセルニ付日本国政府ニ於テモ十分支那政府ノ立場ヲ諒トシ同意ヲ与フルコトニ考慮セラレタシトシテ左ノ修正案ヲ提出セリ

（前段ハ往電第一五〇号㈠ト同一文句ニシテ「完納一切賦税與中國人民一律」以下ヲ「至日本人與日本人之訴訟關于土地之爭執及牽涉中國人者均歸中國官審判其日本人犯有刑事罪案可由日本領事會同中國官員審判俟該省司法制度完全改良之時所有日本國臣民之民刑訴訟完全由中國法廷審判」ト修正シ以下第二項第三項トモ往電第一五〇号ヲ以テ報告ノ修正案ト同様ニテ即チ同電ノ「又前項日本國臣民蓋造商工營業房屋」以下全文）

右修正案ニ対シテハ本使ハ民刑訴訟審判問題ハ到底同意スベキ限リニアラザルノミナラズ開埠主義ヲ加味セザル雑居主義案ナレバ必ス我原案ニ近キ修正案ナラザルベカラズ即チ領事等ノ證明ノコト地方官庁ニ登録ノコト等ハ全然之レヲ撤去スルノ要アリ将又第三項農業ノ件ニ関シテモ租地開墾章程ヲ支那側ニ於テ勝手ニ取極ムルガ如キハ最モ不可ナル旨ヲ指摘シ本案カ到底日本国政府ノ同意ヲ得ベキ性質ノ程度ニ達シ居ラザルコトヲ懇々言明シ置ケリ然ルニ陸ハ殆

ンド従来幾回トナク述ヘタル論法ヲ反覆シ結局支那ノ主権條約ノ関係ニ顧ミ最モ苦心シテ案出シタル考案ニ付之レニテ商議ヲ纏メラレタシト只管懇願ニ及ベルニ付本使ハ右修正案ノ如キヲ基礎トシテハ到底帝国政府ニ於テ考慮ノ余地ナカルベシト思料スルモ達テノ希望ニ付枉ゲテ政府ニ代達スベシト答ヘ置ケリ序デナガラ第三項租地開墾章程ハ目下何等ノ規定ナク又遵守スベキ習慣ナキニヨリ将来日本人及支那人農業者ニ一律適用スベキ規則ヲ制定スル考ニテ又右ノ章程ハ之レヲ公布スル前豫メ我方ト接洽スルコトトスルモ差支ナキ旨本使ノ質問ニ対シ言明シタリ

次ニ第三号ニ移リタルモ支那側ハ前回同様執拗ノ態度ヲ以テ前議ヲ固持シ我原案承認ノ意ヲ示サザルニ付本使ハ已ムヲ得ズ貴電第一九〇号御電訓ノ趣旨ニ依リ修正意見ヲ提出シ熱心ニ同意ヲ勧告シタルニ拘ハラズ之レ又承諾スルコトヲ肯ンゼザルニ付第三号ハ更ラニ次回ニ論議スルコトトシ、第四号ノ討議ニ入リ前回ニ引続キ我主張ノ貫徹ニ努メタリ本号ニ付キテモ亦支那側ハ前議ヲ固執シ容易ニ応諾ノ色ヲ示サザルノミナラズ結局貴電第一九〇号(二)ヲ以テ御電訓ノ第一案モ第二案モ承諾セサルニ付已ムヲ得ス是又次回ニ於テ更ニ論議ヲ為スコトトシ第五号ニ移レリ、第五号ハナリ尚将来ニ於テモ必要ノ場合ニハ必ズ日本人ヲ聘傭スルノ意志アルコトヲ言明セルニ付本使ハ支那政府ニ於テ現在ノ人員以上ニ有力ナル日本人顧問ヲ聘傭スルノ意図アルモノトノ了解ノ下ニ強テ文書ニ取極メ置クコトヲ見合セ将来必ズ実行セラルルコトヲ期待スベシト述ヘ貴電第八八号御電示ノ趣旨ヲ声明シ置ケリ尚本日ハ第五号第二項ヲモ多少論議シタルモ雙方十分其意志ヲ尽サザリシニ因リ次回談判ノ節更ニ引続キ論議ノ上詳細報告スヘシ

二七八　三月二十八日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

第十五回談判ニ於テ先方提出ノ第二号第二條第三條ニ関スル修正案竝第五号ニ関スル交渉ノ進捗方ニ付回訓ノ件

第一九四号

貴電第一六六号ニ関シ

第二号第二條及第三條ニ対スル貴電第一六六号ノ三支那側修正案ハ到底帝国政府ニ於テ考慮ノ余地ナキニ付矢張リ往電第一八一号ノ我修正案ヲ維持スルコトト致度ニツキ右ニ

談判ノ当初ヨリ支那側ニ於テ商議ニ応ズルノ意志ヲ表示セザリシヲ以テ兎モ角第一号ヨリ第四号迄ノ商議ヲ終ヘタル後ノコトニスヘシトノ話合ノ下ニ第一号ノ商議ヲ開キタル次第ハ疾ク既ニ御承知ノ通ナリ右様ノ行懸モ有之ニ付支那側ハ豫想ノ通絶対的ニ商議ニ応ズルヲ難ンジ本号ノ各項ハ支那ノ主権領土権各国トノ約束（機会均等主義ヲモ含ムト云ヘリ）ト牴触スル所アルヲ以テ概括的ニ何レモ同意シ難シト主張シ断乎トシテ商議ニ応ゼザル態度ヲ示セリ依テ本使ハ第五号中ノ各項ガ支那ノ主権及領土権ヲ侵害シ又各国トノ約束機会均等主義等ニ牴触スト主張セラルルモ斯ク概括的ニ論断セラレテハ一々我方ノ腑ニ落チ兼ヌルニ付各項ニ付詳細主権其他ニ牴触スル点ノ説明ヲ聴クニアラザレハ当方ニ於テモ断ジテ支那側ノ主張ヲ承認シ難シト反覆シ漸ク各項ニ付先方ヲシテ口ヲ開カシムルノ機会ヲ得タリ即チ第一項ノ有力ナル日本人顧問聘傭ノ件ハ先方ニ於テ文書ヲ以テ之ヲ約スルハ支那ノ主権ヲ侵害スルノ嫌アリトテ之ニ反対セルヲ以テ本使ニ於テモ適宜ニ反駁ヲ加ヘ次第ニ意見交換ノ結果支那政府ニ於テハ公文ヲ以テ約束スルコトニハ応ジ難キモ有力ナル日本顧問聘傭ノコトハ現ニ之ヲ実行シツツアリテ有賀平井両博士坂西大佐ノ例ニ顧ミルモ明カ

御承知アリタシ又租地開墾章程ハ支那側ニ於テ如何ナル規定ヲ設クル考ナルヤ豫想シ兼ヌルモ若シ相当ノ章程ヲ作ラントスル考ナレハ当方ニ於テモ成ルヘク好意ヲ以テ接洽スヘキコトヲ口頭又ハ書面ニテ約束シ置キ差支ナキニ付キ右章程ノ制定セラルル迄ハ商埠ノ内外ヲ問ハス農業ニ従事スルコトヲ許ストノ簡単ナル規定ニ止メ置キ第三項末段租地開墾各項章程ニ関スル文句ハ除クコトトシ即第一八一号訓令ノ通リト致シ置キタク又開墾ノ語ハ荒蕪地ヲ開拓スルノ意味カトモ思ハレ誤解ノ虞アルヲ以テ明カニ一般農業ニ従事スルヲ得ルコトト致シタキニ付右御承知置アリタシ尤モ支那政府ニ於テ希望スルニ於テハ前記貴電第一六六号ノ三支那側修正案中「俟該省司法制度完全改良之時所有日本國臣民之民刑訴訟完全由中國法庭審判」ノ意味ヲ條約中ニ記載スルコトハ差支ナシ但シ明治三十六年十月八日調印ノ日清通商航海追加條約第十一條ニ同趣旨ノ規定モアルニ付字句ハ追テ修正スルコトアルヘキ旨為念断リ置カルヘシ

貴電ニヨレハ御尽力ノ結果第五号ニ付テモ支那側ヲシテ其所見ヲ吐カシムル迄ニ至リタルニ付此機ヲ逸セス次回会議ニ於テハ引続キ第五号ニ関スル交渉ノ進捗ニ努メラレ遅クモ今後二三回ノ会議ニテ全部一応議了スルヤウ御尽力アリ

タシ今回総選挙ノ結果ハ別電第一九五号ノ通ナルカ之レ畢竟今回ノ対支要求カ国民多数ノ要望ニ副フ所以ナル旨特ニ支那側ニ申述ベ置カレタシ

二七九　三月二十八日　在天津松平総領事ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

天津地方ニ於ケル人心動揺及排日貨運動未然防止ノ措置ニ関スル件

第二一号

貴電第八号ニ関シ三月二十七日朱巡按使ヲ訪問適宜申入レタル所深ク感謝ノ意ヲ表シ当地方ニ於テハ責任ヲ負フテ今後共必ス排日的行動ヲ起サシメサルヘキヲ言明シ尚商務総会総理トモ協議ノ上同会ヨリハ商民ニ対シ他所ノ例ニ倣ヒ萬一軽挙ニ出ヅル様ノ誤解ナキ様告示ヲ発スルコトシタル旨申シ居リタリ又揚警察庁長ハ三月二十六日本官ノ許ニ人ヲ派シ昨今上海方面ヨリ日貨排斥等ノ勧誘アルモ当地ニ於テハ断ジテ起サシメザルベキ旨申来リ尚管下十六ヶ所ノ警察署及警察分署長等ニ対シ密令ヲ発シ若シ各管内ニ於テ日貨排斥又ハ日本人ト事ヲ醸スガ如キモノヲ生ジタル時ハ主管官吏ヲ厳罰ニ処スベキ旨ヲ厳達シタル旨申越シタリ右

様ノ次第ニ付今後局面一変セザル限リ当地ニテハ排斥運動ノ波及ヲ防ギ得ル積リ

二八〇　三月二十九日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

提案第五号ノ六福建問題ハ後廻シトスベキ旨訓令ノ件

第二〇一号

別電第二〇〇号（註1）ノ通在米大使ヨリ電報アリタル処福建問題ニ付テハ一両日中貴官ニ訓令スヘキニ付夫レ迄ハ我要求第五号ノ六福建投資優先権問題ニ付テハ支那側トノ間ニ何等決定相成ラズ他ノ題目ニ移リ行カルル様御措置相成度シ尚貴官参考迄在米大使来電（註2）第九〇号第九五号及同大使宛往電第四五号（註3）ヲモ転電ス

註1　別電第二〇〇号ハ珍田大使来電第一〇三号（五八八文書）ト同文ナリ

2　珍田大使来電第九〇号及第九五号ニ付テハ五六九及五七九ノ各文書参看

3　加藤外務大臣発珍田大使宛往電第四五号ニ付テハ五七六文書参看

二八一　三月三十日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

日中交渉ニ関スル米国ノ申出ニ鑑ミ提案第五号第六福建問題ノ我修正案ニ付訓令ノ件

第二〇三号

対支交渉ニ関スル米国政府ノ申出ニ対シ帝国政府ヨリ回答スル処アリタルニ付キ更ニ米国国務長官ヨリ珍田大使ニ申入ノ次第アリタル義ハ同大使発本大臣宛第一〇三号（註1）電信ニテ御承知ノ通ナル処本月二十九日在本邦米国大使来省本国政府ノ訓令ニ基キ同問題ニ関シ本大臣ニ開陳スル処アリ其要領ハ顧問問題ニ付テハ顧問ノ相当ナル員数ヲ日本ヨリ出ダス事ニハ米国政府ニ於テ異議ナク兵器問題ニ付テハ一定ノ数量トナサズ単ニ相当ノ数量ヲ供給スルコトナレバ差支ナク警察問題ニ関シテハ満蒙ニ於テ日本人ノ居住スル地方ニ限リテ特別ノ制度ヲ設クルト云フ義ナレバ別ニ故障ナカルベシトノコトニテ以上ノ諸問題ニ付テハ米国政府ニ於テモ左シテ重キヲ措カザルモノノ如ク察セラル福建問題ニ（註2）関シテハ同大使ノ受ケタル訓令ノ文言ハ別電第二〇四号ノ通リニシテ米国ハ同省沿岸ニ於テ海軍貯炭所ヲ得ントスルカ如キ意図ハ米国政府ニ於テ毫モ懐抱セス従テ支那政府カ

福建省沿岸ニ於テ港湾ヲ修築シ又ハ貯炭所海軍根拠地ヲ設クルコトヲ他国ニ許ササル旨ヲ日本政府ニ約束シ米国政府ハ日本政府ト文書ノ交換ニヨリテ右約束ヲ賛同スルコトセハ日本側ノ危惧ノ念ヲモ去ラシムルコトモナリテ宜シカルヘシト云フニ在リ帝国政府ニ於テハ我要求條項第五号第六ヲ変更シテ今回米国政府申出ノ趣旨ニ基ケル取極ヲ為スコトヲ得バ我原案ニ比シムシロ有利ナルモノト思考スルニ付貴官ハ第五号第六ニ関シ支那側ト交渉セラルルニ当リ適当ノ機会ヲ見計ヒ原案ヲ改メ左ノ趣旨ニテ交渉セラルルヤウ取計ハルヘシ

原條項第五号第六ハ支那側ニ於テ領土主権ヲ傷ケ且ツ機会均等主義ニモ違背スルモノナリト主張シ居レルハ帝国政府ノ甚タ意外トスル処ナリト雖モ交渉モ漸次進捗シテ漸ク円満解決ノ曙光ヲ認メ得タルカト思ハルル迄ニ至リタルニ付帝国政府ニ於テハ支那政府ノ主張ニ充分ノ敬意ヲ表シ枉ゲテ原條項ヲ改修スルコトニ詮議スヘシ元来帝国政府カ原條項ヲ申出スニ至リタルハ同省ト台湾トノ関係上第三国ノ勢力同省ニ瀰漫シヒイテ台湾ノ防備ヲ脅カシ遂ニ累ヲ日支ノ国交ニ及ボスニ至ルベキヲ虞レタルニヨルモノニシテ同省ニ第三国ノ政治上ノ勢力ノ扶植セラルルコトヲ防ギ同省ニ

於ケル軍事上ノ重要ナル施設ガ他国ノ権内ニ入ルコトヲ確実ニ阻止スルノ方法アラバ帝国政府ハソレニテ満足スル次第ナリ就テハ帝国政府ハ支那政府ニ於テ左ノ二項ヲ約束センコトヲ希望ス

第一、支那政府ハ福建省沿岸ニ於テ造船所、軍用貯炭所又ハ海軍根拠地ヲ設ケ若クハ其他軍事上ノ施設ヲ為スコトヲ何レノ国ニモ許サザルコト及ビ支那政府ニ於テ外国ノ資金ニヨリ該省沿岸ニ同様ノ施設ヲ為サザルコト

第二、現行辦法ニヨリ安溪鉱山ヲ開採スルコトヲ日本人ニ許可スルコト

以上ノ内第一項前段ハ別ニ説明ヲ要セザルベク後段ニ付テハ外国資金ヲ借入レテ此等ノ設備ヲ為スニ於テハ自然支那ノ国防上ニ外国ノ勢力ヲ誘ヒ来ルコトトナリ支那ノ独立主権ヲ害スルニ至ルノ虞アルガ故ニ之ニ備ヘントスルモノニシテ港湾ノ修築ヲ除キタルハ其軍事上ノ施設ニアラザルト通商貿易ノ関門タル港湾ノ改良ニ何等制限ヲ加フルコトヲ欲セザルトニヨル又第二項ハ同省ニ於ケル鉱山鉄道等ニ対スル優先権ヲ断念スルノ代償ナリトス右優先権断念ノ為メニ従来及今回支那ニ要求シ居レル鉄道線路ニシテ福建省ヲ経過スルモノガ何等ノ影響ヲ受ケザルベキコトハ申迄モナク本件ニ関スル公文ヲ齎ラシタリ大要左ノ如シ

上海地方日貨排斥ノコトアリシモ我政府ハ既ニ地方官憲ニ電訓シテ厳重取締ヲ行ヒ且大総統申令ヲ発シテ其豫防方ニ付各地方官ヘ厳訓スル所アリタレバ此上ノ風潮ヲ醸スコトナカルベシト信ズ山東方面モ地方官憲ニ於テ秩序維持ニ対シ特ニ注意ヲ加ヘ居ルヲ以テ日本兵ト支那人民間ニ時々行違ヲ生スルコトアルモ支那人カ何等鉄道ニ妨害ヲ加ヘタル事実アルヲ聞カズ

日本人撃殺云々ノコトハ直チニ取調ベ公平ニ処分方ヲ地方官ニ命ジ置キタリ之ヲ要スルニ地方ノ秩序維持ハ我政府ノ責任ナレバ果シテ不穏ノ形勢アル時ハ速ニ鎮圧ヲ行フベシ貴国政府顧慮ヲ煩ハス勿レ今回ノ交渉モ我政府ニ於テ極力進行ヲ計リ速ニ平和解決ノ希望ヲ達センコトヲ期ス惟フニ是レ貴国政府ノ諒トセラルル所ナラン然ルニ此ノ時局ニ際シ貴国ハ突然山東奉天方面ニ多数ノ軍隊ヲ増派セラレタルヲ以テ謡言繁興人民疑慮冀クハ軍隊ニ訓令シテ速ニ交代ヲ実行シ以テ始終親善ノ素志ヲ貫徹セラルル様貴国政府ヘ御転達アランコトヲ切望ス云々

原文郵送ス

二八三　三月三十日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

第十六回談判ニ於テ第二号ノ第二條第三條及第三号第四号竝第五号ノ第二項及第七項ニ付討議シタル模様報告ノ件

第一六八号

三月三十日午後三時ヨリ七時迄当館ニ於テ第十六回談判ヲ

シ為念申添ユ

註1　前掲二八〇文書ノ註1参照

2　別電第二〇四号ハ五八九文書ノ附属書全文ナリ

二八二　三月三十日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

中国政府ハ国内ニ不穏ノ形勢アルトキハ自ラ鎮圧スベキニ付日軍交代ヲ早急実行セラレ度旨公文ヲ以テ申越ノ件

第一六七号

往電第一四六号ニ関シテハ其後貴電第一七九号御訓令ノ趣ニ遵ヒ口頭ヲ以テ三月二十七日会議ノ席上陸外交総長ヘ篤ト説明ヲ与ヘ置キタル所本月二十九日外交部秘書来館更ニ本件ニ関スル公文ヲ齎ラシタリ大要左ノ如シ

開ク本使ハ先ツ第二号第二條第三條ニ対スル支那側修正案ハ之ヲ帝国政府ニ進達シタルモ帝国政府ヨリ右ハ到底考慮ノ余地ナキ旨回電アリタルニ付左様承知アリタシト述ヘ同時ニ我最後修正案ニ同意方ヲ極力主張シタル処陸ハ我政府ノ支那側修正案ニ不同意ヲ表シタルヲ聴キテ頗ル遺憾トスル旨ヲ述ヘ更ニ支那側修正案ハ広ク各国ノ法制実例等ヲ参酌シ慎重ニ考慮ヲ加ヘタル末ニ案出シタルモノニ係リ各国トノ條約支那現在ノ法制ニ照ラシ到底是レ以上譲歩ノ余地ナク最早如何程考量ヲ費シ又如何ニ脳漿ヲ搾ルモ領事裁判権ト内地雑居問題トノ調和上別段ナル良策モ考ヘツカズトテ頗ル当惑ノ色ヲ現ハシ且商埠主義ト雑居主義トヲ併用スルコトハ絶対的ニ支那政府ノ同意シ難キ所ナリトテ従来ノ論拠ヲ繰返シ今一回日本国政府ノ考慮ヲ請フ途ナキヤト云ヘルニ付本使ハ断乎トシテ之ヲ排斥シ更ニ従来ノ所説ヲ敷衍シテ商埠主義ト雑居主義併用ノ必ズシモ不合理ニアラザル所以ヲ説明シ既ニ支那側ニ於テ我原案ヲ承認セサル以上日本国ヨリ本案ヲ提出スルニ至リタルハ已ムヲ得ザル次第ナリト述ヘ兎モ角本問題ハ巨細既ニ論議ヲ尽シタルコトナレバ此上最早際限ナク論議ヲ闘ハス必要ナキニ付支那政府ニ於テ我方ノ修正案ヲ承諾セザル以上本問題ハ之ニテ打

切リ交渉案件全部ノ調印ニ至ル迄ニ我方ノ修正案ヲ十分ニ熟考セラレタシト言ヒ放チタリ然ルニ本使ノ右ノ如キ断乎タル所存ニ対シ多少陸ハ不安ノ色ヲ現ハシ一條ツツ順次ニ決定シ議事ヲ進捗スルヲ得策ト考フルニ付支那側ニ於テハ今一応熟慮ヲ試ムヘキヲ以テ日本側ニ於テモ妥協ノ精神ヲ以テ十分ニ商議セラレタシト云ヘルニ依リ本使ハ原案若ハ修正案ニ極メテ接近スル対案ニアラズバ如何ナル案ヲ提出セラルルトモ到底我方ニ於テ考慮ノ余地ナク徒ラニ時日ヲ遷延スルノミニシテ何等得ル所ナキ旨ヲ最モ明確ニ声明シ置ケリ

次ニ本使ハ第三号及第四号ヲ一括シ前回ニ於テ述ベタル筋合ニテ同意ヲ与フル様切実ナル勧告ヲ試ミタルニ拘ハラズ陸ハ其態度前日ト毫モ異ナラス依然執拗ナル強硬論ヲ唱ヘ第三号ハ政府トシテ絶対的ニ民間ノ商務ニ干渉スルヲ得ズ故ニ豫テ提出セル対案ノ意味ニ加フルニ漢冶萍公司ヲ国有トセザル事竝ニ漢冶萍公司ニ他外国筋ノ資本ヲ入レザルコトノ保證ヲ支那側ニ於テ為スコト以外ニ最早ヤ譲与ノ余地ナク将又第四号モ主権ト体面問題ニ顧ミ支那自ラ宣言スル以外日本ノ提議ニハ断ジテ応諾シ難シト主張セリ本使モ之ニ対シテハ弁難最モ努ムル所アリタルモ先方ハ従来ノ論拠ヲ固執シ頗ル頑強ニ抵抗セルヲ以テ右両問題モ何等決定ヲ見ルニ至ラズ遂ニ第五号ニ移リ同号第七項布教権問題竝第二項病院学校及寺院ノ土地所有権問題ヲ一括商議スルコトトシ本日ハ主トシテ布教権問題ニ付議論ヲ闘ハセリ本件ハ殆ト二時間以上ニ亘リ雙方トモ最モ熱心ニ論議ヲ交ヘタルモ結局支那側ハ我布教権ヲ承認スルヲ肯セス本日本使ノ得タル印象ニ依レハ本件ハ到底其同意ヲ得ルコト困難ナラントト感ゼラル陸カ我布教権承認ニ反対セル理由ノ要領ハ左ノ如シ

日本仏教ノ布教権問題ハ二十余年来未決ノ懸案ナルハ夙ニ承知スル所ニシテ本件カ斯ク永年ノ間未決ノ儘トナリ支那政府ノ当局者カ承認ヲ与フルコトヲ肯ゼザルハ主トシテ支那カ多年耶蘇教ノ為ニ悩マサレタル所謂教案問題ヲ仏教ニ関シ日本国トノ間ニ惹起シ以テ紛争ニ次クニ葛藤ヲ以テシ自然国交ヲ破ルニ至ル危険アルヲ慮カリタルガ故ト信ズ且ツ仏教ハ支那在来ノ宗教ニシテ一般社会道徳ノ基礎ヲナス関係ニ顧ミ必ズシモ日本国ヨリ事新シク布教ヲ受クル必要ヲ見ザル而已ナラス日本ヨリスル仏教ト在来ノ仏教トハ勢ヒ衝突ヲ起スルコトモアルベク教義ノ争ハ延テ僧侶教徒ノ争トナルナキヲ保セズ又其結果ハ社会ノ平和ニ影響ナキヲ保シ難シ況ンヤ従来耶蘇宣教師カ猥リニ其教徒ヲ曲庇シテ地方ノ訴訟事件行政事件ニ干渉セルト同様ノ事ヲ日本国仏教僧侶等ガ為サザルトモ限ラズ極端ニ論ズレバ彼等ハ政治的野心ヲ包蔵シテ支那ニ入リ支那ノ僧侶ト結託シテ寺院ニ隠レ種々取締ノ附キ難キ行為ヲ敢テスルガ如キ場合モ可有之斯ノ如ク種々ノ点ニ於テ支那側ハ日本僧侶ノ布教ヲ承認シ難キ理由ト事情ヲ有スル次第ナルニ付日本国政府ニ於テハ支那ノ立場ヲ諒トシ本件ハ其主張ヲ固執セラレザル様希望スト云フニアリ之ニ対シテハ本使ハ一々反駁ヲ加ヘタル上仏教布教ノ利害正否問題ハ暫ク之ヲ別問題トスルモ帝国政府ガ二十年来未決ノ此問題ヲ提起シ承認ヲ要求スル所以ハ支那ガ既ニ他ノ外国ニ対シ耶蘇教ノ布教ヲ承認シタル以上殆ド日本国ニ於テ之ニ匹適スル地位ニ在ル仏教ノ布教権ヲ収メテ帝国臣民ニモ之ヲ享有セシムル事国家トシテ当然ノ責務ト認ムルガ故ナリ日本国カ布教ノ権利ヲ主張スルハ実ニ此見地ニ基クナリ殊ニ仏教ハ支那在来ノ宗教ナル上善隣ノ誼ニ顧ミルモ之ヲ許スノ至当ナルノミナラズ取締等ノ事ハ別ニ適当ノ方法アル可ク必ズシモ之ヲ拒否スルノ理由トナラズト詳細ニ論弁シ置キタリ結局支那ハ其所説ヲ翻サズ言ヲ左右ニシ頑トシテ同意ヲ肯ンゼザルニヨリ本使ハ我方ニ於テ飽迄此要求ハ之ヲ支持シテ棄ツル事ナキモノナル旨ヲ声明シ本件ハ一先其論議ヲ打切リ他ノ議題ニ移ル事トセリ会議終了ノ後曹ハ余談ニ入リ自己ノ私見トシ布教ハ種々ノ関係上（主トシテ我政事的陰謀ノ機会ヲ作ルノ虞アル事ヲ恐ルルモノノ如シ）断ジテ同意シ難キモ学校病院ノ土地所有権問題ハ何等カ適当ノ辨法アラント述ベ居リタリ（終リ）

二八四　三月三十日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛

山東奉天ニ於ケル日本軍交代実行方要請ニ関スル公文送付ノ件

附屬書　三月二十九日付中国政府公文写

公信第九三号

大正四年三月三十日附　（四月六日接受）

本件ニ関スル三月廿九日附支那政府公文ノ大要ハ既ニ往電第一六七号ヲ以テ及報告置候処玆ニ右公文写訳文相添及送附候間御査閲相成度此段申進候也

（附屬書）

照　會

外交總長陸　　爲照會事日本 此次派兵 理由 經本 政府於三月二十二日照會請

貴公使見復嗣於三月二十五日准

貴公使面稱奉政府回訓此次派兵係交代之目的准中國各地方有不穩之狀況如上海集會排斥日貨山東鐵路時有中國人妨害日本人在山東地面被中國人擊斃及其他不穩情形之類中國政府若不從速鎮壓各地方之風潮恐實行交代之事不能謂不難又各地方有此不穩情形亦係此次 交涉遲延解決之所致盼望中國政府從速解決 此次交涉 並鎮壓各地方之風潮等語查中國各地方秩序平靜 竝無不穩情狀上海 租界內雖有 少數抵制日貨之舉動業經本政府 訓電地方 官嚴行查禁 竝於三月 二十五日

大總統特頒申 令重 申誥誡對 於各 地方爲預 防之警誡 決不至 釀成 風潮 至山 東方面自 青島 戰事 以來 日本 軍 隊 尚未退 盡地 方官 對於 該地 之秩 序亦 特加 注意 雖日 本 士 卒與華 民時 有齟齬然 尚未 聞華 民有 何等 妨害 鐵路 之事 實至擊 斃日 本 人之 事當 飭地 方官 查明 情節 秉公 辦理 總之維持 地方 秩序 係本 國之 責任 果有 不穩 情形 自必 速行 鎮壓

貴國政府毋煩顧慮至此次交涉本政府極力進行期達迅速和平解決之希望諒

貴國政府亦表同情惟際此時局

貴國於山東奉天方面忽添派多數兵隊謠言繁興人民疑慮尚希轉達

貴國政府訓飭該軍隊從速實行交代以期貫徹始終親善之宗旨實所厚望須至照會者

右照會

大日本國欽命駐華全權公使日置

中華民國四年三月二十九日

（右和訳文）

（中華民国四年三月二十九日附）

以書翰致啓上候日本今回派兵ノ理由ニ関シテハ既ニ本国政府三月廿二日附公文ヲ以テ貴公使ノ御回答ヲ求メ置候処其後三月廿五日貴公使ノ面称ニ拠レハ今回ノ派兵ハ交代ノ目的ナリシモ中国各地方不穏ノ状況アリ上海ニテハ集会ヲ催シ日貨ヲ 排斥シ 又山東鉄道ニ 対シ常ニ中国人ノ妨害ヲ加

維持 地方 秩序 係本 國之 責任 果有 不穩 情形 自必 速行 鎮壓

貴國政府毋煩顧慮至此次交涉本政府極力進行期達迅速和平解決之希望諒

貴國政府亦表同情惟際此時局

貴國於山東奉天方面忽添派多數兵隊謠言繁興人民疑慮尚希轉達

貴國政府訓飭該軍隊從速實行交代以期貫徹始終親善之宗旨實所厚望須至照會者

右照會

大日本國欽命駐華全權公使日置

中華民國四年三月二十九日

（右和訳文）

（中華民国四年三月二十九日附）

以書翰致啓上候日本今回派兵ノ理由ニ関シテハ既ニ本国政府三月廿二日附公文ヲ以テ貴公使ノ御回答ヲ求メ置候処其後三月廿五日貴公使ノ面称ニ拠レハ今回ノ派兵ハ交代ノ目的ナリシモ中国各地方不穏ノ状況アリ上海ニテハ集会ヲ催シ日貨ヲ 排斥シ 又山東鉄道ニ 対シ常ニ中国人ノ妨害ヲ加

フルアリ或ハ日本人カ山東地方ニテ撃斃サレタル事アリ及其他不穩ノ情形アリシ如キノ類中国政府若シ速ニ此等各地方ノ風潮ヲ鎮圧セザレバ交代ノ実行モ或ハ困難トナラン又各地方此ノ如キ不穩ノ情形アルハ今回交涉ノ解決遅延ノ致ス所ナラント思ハルルニ付中国政府ニ於テ速カニ今回ノ交涉ヲ解決シ且ツ各地方ノ風潮ヲ鎮圧セラレン事ヲ希望スル旨貴国 政府ヨリノ回訓 アリタル 由査スルニ 中国各地方秩序平靜少シモ不穩ノ情狀ナシ上海租界内少数ノ日貨排斥的挙動アリシト雖トモ既ニ本国政府ヨリ厳重査禁スヘキ旨地方官ヘ電訓シ且ツ三月廿五日大総統ハ特ニ申令ヲ発布シテ重ネテ誥誡ヲ加ヘ各地方ニ対シ豫防ノ警誡ヲ為シ置キタレバ決シテ風潮ヲ醸成スルニ至ラザルベシ山東方面ニ至リテハ青島戰事以来日本軍隊尚未タ尽ク撤退セザルニ付地方官ハ該地ノ秩序ニ対シ特ニ注意ヲ加ヘ日本兵ト華民間時々行違ヲ生スル事アルモ尚未タ華民カ鉄路ニ何等妨害ヲ加ヘタルノ事実アルヲ聞カス日本人撃殺ノ事ニ関シテハ既ニ地方官ニ情形ヲ査明シ公平辦理スヘキ旨訓令シ置ケリ之ヲ要スルニ地方ノ秩序ヲ維持スルハ本国ノ責任ニ係ル果シテ不穩ノ情形アラバ固ヨリ必ズ速ニ鎮圧ヲ行フヘシ貴国政府顧慮ヲ煩ハス勿レ今回ノ交涉ニ関シテハ本国政府極力進行迅速

ニ平和解決ノ希望ヲ達セン事ヲ期ス諒スルニ貴国政府亦同情ヲ表セラルルナラン然ルニ此時局ニ際シ貴国ハ山東奉天方面ニ於テ忽然多数ノ軍隊ヲ増派セラル為ニ謠言繁興人民疑慮望ムラクハ該軍隊ニ訓飭シテ速ニ交代ヲ実行シ以テ始終親善ノ趣旨ヲ貫徹セラルル様貴国政府ヘ御転達アラン事切望ノ至ニ堪ヘス右照会得貴意候　敬具

二八五　四月一日　在広東赤塚総領事ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

我総領事館爆破未遂事件ニ関シ報告ノ件

第一三号

四月一日、昨夜九時半頃当館事務所入口ニ於テ爆裂仕掛ノ鑵ヲ発見セリ発見セシトキハ点火導火線ニ伝ハリ将ニ爆薬ニ触レントシツツアル刹那ニ於テ幸ニ水ヲ掛ケ爆発ヲ防キ得タリ鑵ハ従量三百八匁高サ五寸二分厚サ二寸五分西洋刻煙草ノ空鑵ヘ爆薬ヲ塡装シタルモノナリ漢字新聞ヲ以テ包ミアルト爆薬ノ塡メ工合ヨリ察スルニ支那人ニ相違ナキカ如ク而シテ其目的ハ事務所ヲ破壊スルニアルカ又事務所トナレル官舎ヲ破壊シ本官ニ危害ヲ加ヘントスルニアリシヤ

不明ナリ諸般ノ事情ヨリ推シテ時局ニ憤慨セル無智無謀ナル支那人ノ所業ナルヤニ察セラル英国居留地内ノ出来事故英国領事ニ注意シ置クヘキ筈ナルモ居留地巡査ハ何ノ役ニモ立タス却テ針小棒大ノ報世間ニ伝ヘラルル虞アルニ付之ヲ見合セ当館警察官ヲ以テ今後警戒スル筈ナリ兎モ角日本国領事館ニ対シ斯ノ如キ悪謀ヲ企テタルハ容易ナラサル大事ナルヲ以テ此際重テ北京政府ニ対シ地方ニ於ケル激烈ナル新聞並危険人物ヲ取締ル様御交渉願ハシク龍済光巡按使ニハ本官ヨリ直接掛合ヲナス筈ナリ

二八六　四月一日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

山東省平度ヘ中国軍派遣ヲ阻止セザル様中国側要請ニ付請訓ノ件

附記一　二月二十八日在済南林領事発加藤外務大臣宛電報第二三号平度地方土匪鎮圧ノ為中国派兵通知ノ件

二　三月六日在済南林領事発加藤外務大臣宛電報第二六号平度地方ニ派兵ノ必要ナキ旨中国側ニ通知ノ件

第一六九号

三月三十一日外交部ヨリ特ニ部員ヲ当館ニ派シ山東省平度ニ於ケル匪徒ノ擾乱ニ対シ黄県ヨリ兵二連ヲ派シ鎮圧セントシタルニ日本軍隊ノ為阻止セラレタル処平度知事ノ電報ニ依レハ匪徒ハ南村汚嶺地方ニ於テ多ク民家ヲ搶刼シ平城ニ波及セントスル勢アリ之ヲ鎮圧スヘキ兵ナキハ実ニ危険ナリトノコトナルニ付今回ノ派兵カ僅ニ二連ニ過キス且単ニ土匪ヲ討伐シ秩序ヲ維持セントスルニアリ決シテ他意ナキニ顧ミ之ヲ阻止セサル様当該帝国軍憲ニ電報アリタキ旨懇請シ来レリ本件ニ関シテハ在済南領事発閣下宛第二三号第二六号電報ノ次第ハアルモ貴方ヨリ其筋ニ御協議ノ上外交部ニ対スル我回答振至急電報アリタシ

済南ヘ転電シタリ

（附記一）

二月二十八日在済南林領事発加藤外務大臣宛電報

山東省政府ハ平度地方土匪鎮圧ノ為派兵シタル旨通知越ノ件

第二三号

二月二十八日羅交渉員ヨリ山東省政府ハ平度地方土匪盛ン

ナルヲ以テ鎮圧ノタメ黄県ヨリ二連（約二百名）ノ兵ヲ派出セシメタルガ我政府及軍隊側ニ於テ誤解ナカランコトヲ望ム旨通知シ来レリ

北京ヘ電報ス

（附記二）

三月六日在済南林領事発加藤外務大臣宛電報

平度地方ハ平穏ニ付派兵ノ必要ナキ旨中国側ニ通知ノ件

第二六号

往電第二三号ハ神尾司令官ヘモ電報シ置キタルカ三月五日更ニ交渉員ヨリ代理ヲ派遣シ黄県ヨリ派遣ノ支那兵ハ掖県（萊州）ニ於テ我守備兵ノタメ前進ヲ差止メラレタルニ付誤解ヲ解カルル様電報アリタキ旨依頼シ来レルニヨリ其ノ旨司令官宛電報セルニ三月六日参謀長ヨリ左ノ通電報アリタルニ付口頭ヲ以テ支那側ヘ我軍司令官ハ平度地方ハ平穏ニシテ支那派兵ノ必要ナシト認メ居ル旨通知シ置キタリ

萊州知県ハ我萊州守備隊長ニ対シ支那兵ヲ平度ニ派遣スルコト日本支那代表者間ニ交渉済ナル旨申出タルカ交戦地域内ニ於テ支那軍隊ノ移動ハ軍司令官ニアラサレハ承諾スル権能ヲ有セサルニ付萊州知県ハ何カ誤解セルモノナルヘシ平度地方ハ平穏ニシテ支那ハ派兵ノ必要ナシト認ム

北京ニ電報シタリ

二八七　四月一日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

日中交渉ニ関連シ若干ノ事項ニ付回電方督促ノ件

第二〇六号

対支交渉ニ関シ曩ニ電訓ニ及ヒタル左記ノ事項ニ付何分ノ義回電アリタシ

一、支那側ニ於テ「南満洲」ニ代フルニ「東三省南部」ナル文字ヲ用ユル理由竝「南満洲ナル名称ニ対スル支那側ノ解釈振ニ関スル件（往電第一一七号）

二、烟濰鉄道借款権其他独逸カ山東省ニ関シ支那ニ対シテ有スル利権等ニ関スル文書入手ノ件（貴電第一二七号）

三、満蒙ニ於ケル鉱山経営ニ関シ曹汝霖言明ニ関スル件（往電一六六号）

尚奉天借款問題ヲ対支交渉ノ掛引ニ利用方往電第一二八号ヲ以テ訓令シ置キタル処其後如何取計ハレタルヤ併セテ回電アリタシ

二八八　四月一一日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

福建問題ニ関シ在本邦米国大使提出ノ覚書中ノ文面ノ疑義明瞭トナレル旨通報ノ件

第二〇九号

往電第二〇四号在本邦米国大使提出ノ覚書中ニハ往電第二〇〇号ヲ以テ転電シタル在米大使来電冒頭「日本国政府ニ於テ希望スルトキハ進テ其旨支那政府ニ声明スルコトヲ辞セサルヘシ」云々ノ意味見エサルニ付在米大使ニ注意シ置キタル処同大使ハ為念国務長官ニ対シ右ノ相違ヲ指摘シタルニ長官ハ往電第二〇〇号ノ通相違ナシト答ヘ声明ノ時機ハ帝国政府ノ希望ニヨリテハ日支取極出来タル後ニテモ其前ニテモ差支ナシト附言シタル趣ナリ御含迄

二八九　四月一一日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

第十七回談判ニ於テ第二号ノ第三條第四條ニ関シ先方ヨリ提出ノ新修正案ヲ拒否竝第五号ノ第二項第三項ニ付商議ノ模様報告ノ件

第一七〇号

四月一日午後三時ヨリ七時過迄当館ニ於テ第十七回談判ヲ開ク本日ハ先ツ陸ヨリ第二号第二條第三條ニ関シ前回ノ修正案ハ土耳其遅羅ニ於ケル現行制令ヲ参酌シ考案シタルモノナルモ不幸ニシテ日本国政府ノ同意ヲ得ザリシニ依リ日本国ヨリ提出ノ原案中南満洲雑居問題ニ関シ土地所有権ヲ改メテ土地租借権トナシ土地耕作ノ点ニ関シ別々章程ヲ定ムルノ一節ヲ加ヘタル外全部原案ニ同意スルコトトシ警察及課税問題ハ既ニ日本国政府ニ於テ主義上同意ヲ表セラレタルニ付裁判問題ニ関シ一層考慮ヲ加ヘ更ニ一ノ修正案ヲ提出スルコトトセリ之ヲ土耳其遅羅国ノ現行辦法ニ比スレバ一段ノ譲歩ニシテ支那政府ハ右以上譲歩ノ辦法ナキニ付篤ト考慮ヲ希望ストテ左ノ修正案ヲ本使ニ手交セリ

日本國臣民在東三省南部爲蓋造商工業應用之房廠或爲耕作可向業主商租須用之地畝其耕作租地章程由中國另行規定

日本國臣民可在東三省南部任便居往往來竝經營商工業等各項生意

前二款所載之日本國臣民除須將照例所領護照向地方官註冊外應服從中國警察法令完納一切賦稅與中國人一律至日本人與中國人之民事訴訟及日本人與日本人之訴訟關于土地或租契之爭執及牽涉中國人者均歸中國審判

其刑事訴訟各歸被告之本國官審判彼此均得派員聽審俟該省司法制度完全改良之時所有日本國臣民之民刑訴訟即完全由國中法庭審理

陸ハ右修正案ニ一ノ説明書ヲ添付シ其内容ニハ本件ニ関スル商議ノ成行ヲ記述シ数次支那側ヨリ提出ノ修正案ガ何レモ日本国政府ノ同意ヲ得ルニ至ラサリシ来歴ヨリ説キ起シ終ニ苦心ノ末此案ヲ案出スルニ至リタル次第ヲ述ヘ之ヲ以テ最後ノ譲歩案トスル旨ヲ明ニシアリ

本使ハ右修正案ヲ一読シタル上本修正案カ前回提出ノ分ト大同小異ノモノニシテ主義上ヨリ論ジテ甚シキ逕庭ナキモノナルヲ断定シ斯カル修正案ニテハ之レヲ東京ニ進達スルモ到底帝国政府ニ於テ同意ノ余地ナカルベシト確信スルヲ以テ外交総長等ノ苦心ハ去ルコトナガラ本案ハ之レヲ受理スルヲ得ザルハ深ク遺憾トスル所ナル旨ヲ述ヘ新修正案ノ受理ヲ拒ミ同時ニ警察法令及賦税ノ件ニ関シ日本領事官ノ承認ヲ要スルコトヲ修正案ニ於テ省キアル旨ヲ指摘シ此点ハ帝国政府ニ於テモ頗フル重キヲ措キ居ル所ニシテ之ノ條項ナクハ適当ナル保護ヲ内地居住ノ我カ臣民ニ加ヘ得ザル次第ヲ説明シ極力之ノ條項挿入ノ必要ヲ主張シタルニ支那側ハ種々辨明ヲ試ミ結局警察法令ハ全国ニ通行スル規則ヲ制定スル考ニシテ斯ノ如キ法律ニ日本国領事ノ承認ヲ條件トスル事ハ支那側ニ於テ体面上同意シ難ク又課税ノ事ハ支那人民ト一律ニスベケレバ決シテ不公平ノ事ナキ筈ナリト説明セリ本使ハ之ニ対シ適当反駁ヲ加ヘ就中一般警察法ノ全国ニ通行セラルルモノハ暫ク別トスルモ地方官ガ其権限内ニ於テ発布スル地方限リノ警察令ハ必ズ之ヲ日本国臣民ニ適用スル場合ニ日本官憲ノ同意ヲ経タルモノナラザル可カラザル旨竝修正案ニハ広ク警察法令トアルモ日本国政府ノ意志ハ行政警察法令ヲ意味シ司法警察ハ之ニ含マザル次第ト承知セラレタキ旨ヲ声明シ置ケリ

次ニ裁判問題ニ付テハ本使カ断乎トシテ修正案ヲ政府ニ取

次クコトヲ拒絶シタルヲ以テ陸ハ約二三十分モ曹次長ト熟議ノ結果更ニ左ノ修正案ヲ提出シタリ

（民刑訴訟各歸被告之本國官審判彼此均得派員聽審但關於土地或租契之爭執日本人與日本人或日本人中國人之訴訟均歸中國官審判）

右修正ハ原則トシテ我領事裁判権ヲ認メ唯土地ニ関スル訴訟ノミ支那ガ其法権ヲ行使スルモノニシテ従来ノ修正案ニ比スレバ主義上数段ノ進境ヲ示セルノミナラズ先方ニ於テ種々苦心ノ末案出シタルモノナルニ付之ヲモ無下ニ排斥スルノ理由ナシト認メ政府ノ考慮ニ附スルコトヲ諾シ置ケリ

我原案ニ土地ノ所有権ヲ提議セルニ対シ特ニ之ヲ租借ト修正シテ更ニ土地ニ関スル争執ノ場合ニ日本人間及ヒ支那人日本人間ノ訴訟審判権ヲ其手ニ収メントシタルハ土地耕作ニ関スル章程制定案ト共ニ満洲ニ於ケル本邦人ノ土地兼併ヲ防止セントスル苦心ト用意ノアル所ヲ見ルニ足ルヘク旁土地ニ関スル訴訟ノ点ハ容易ニ我主張ヲ応諾ス間敷ヤニ察セラル兎モ角本問題ハ支那側ニ於テモ最モ難関トシタル重要ノ争点ナリシニ拘ハラズ既ニ原則上雑居ト共ニ我法権ノ維持ヲ承認シタル以上ハ仮令土地ニ関スル訴訟ニセヨ我ニテ御異存ナクハ先方ノ主張通ニテ取リ運フヘシ次ニ第三項警察合同ノ件ニ関シテハ貴電第八八号御訓示ノ趣旨ニ依リ曩ニ之カ撤回ヲ声明シタル次第ナルヲ以テ第五号中ノ一項トシテハ之ヲ商議スル必要ナキモ順序トシテ一応本項撤回ニ関聯シ満蒙ニ於テ内地雑居行ハレ日本人カ支那ノ警察規則ニ従フ場合ニハ必然日支警察合同ヲ実行スルカ若クハ顧問又ハ教習ノ名義ニテ支那ノ警察ニ日本人ヲ聘傭スルコトヲ考慮セザルベカラザル場合アルコトヲ特ニ玆ニ声明シ置ク旨本使ヨリ陳述シ以テ本件ニ関シ満蒙ニ於テ他日提議ヲナスノ地歩ヲ存シ置ケリ本日ハ尚第四項兵器問題ニ入リ多少論議ノ端緒ヲ開キ置キタルモ時間切迫ノ為十分意見交換ヲナシ得サリシヲ以テ詳細ハ次回ノ談判報告ノトキ一括電報スヘシ

二九〇　四月二一日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

第五号第三項警察合同ノ件撤回声明ニ付問合ノ件

第二一〇号

貴電第一七〇号ノ九ニヨレハ第五号第三項警察合同ノ件ハ

ニ於テ之ヲ譲ルコトハ尚不勘遺憾ノコトト思考スルニ付本使ハ尚一段ノ努力ヲ辞セザル覚悟ナルモ支那法権ノ体面上日本人間ノ土地ニ関スル訴訟ハ兎モ角トシ勘クトモ日支人間ノ訴訟ハ或ハ会審位ノ辦法迄譲歩セザレバ急速解決ヲ得難カラント信ズ

次ニ本日ハ第五号第二項学校病院ニ対シ土地所有権ヲ認ムル件ヲ討議シ（寺院ノ事ハ第七項布教権問題討議ノ時絶対的ニ同意ヲ表示セサリシニ付本日ハ之ヲ除外シテ商議セリ）タルニ陸ハ種々弁論ヲナシ容易ニ応諾ノ意ヲ表スルヲ肯ンゼザリシモ彼我ノ間ニ熱心ナル論争ヲナシタル結果支那側ハ遂ニ学校ハ小中学校程度ノ普通国民教育以外ノ学校又病院ノ如キ慈善的事業ハ支那内地ニ於テ之ヲ設立スル事ヲ主義上認諾スルモ文書ヲ以テ約束スルヲ得ズト述ヘ更ニ数回ノ押問答ノ末結局日本人カ支那内地ニ於テ学校病院ヲ設立スル為土地ヲ租借セントスル時ハ中央政府ハ之ヲ允許スベシトノ趣旨ヲ会議録体ニ認メ記事ノ正確ヲ認メ置ク意味ニ於テ高尾書記官及施秘書官之ニ記名シ各一通宛外交部及当公使館ニ存案スル事迄譲歩シタリ右ハ尚不充分ナルヲ以テ是非本使ト総長トノ署名ヲ附加セン事ヲ主張シタルモ先方ハ強硬ニ反対シ容易ニ同意セズ就テハ前記ノ方法往電第八八号電訓ノ趣旨ニ従ヒ曩ニ撤回ヲ声明相成タル趣ノ処右ハ何日ノ会議ノ節如何ナル順序ニテ撤回ヲ声明相成タルモノナルヤ電報アリ度シ

二九一　四月二一日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

第五号第三項警察合同ノ件撤回ニ付回報ノ件

第一七二号

貴電第二一〇号警察合同ノ件撤回声明ノ義ハ三月九日第八回会議ニ於テ第二号第六條顧問教習聘傭ノ件ヲ商議スルニ方リ我修正意見トシテ本條ニ警察及教習ノ文字ヲ追加スルコトヲ要求シ其結果トシテ第五号第三項警察合同ニ関スル提議ハ差向撤回スヘキ旨声明シタル次第ナリ

二九二　四月二一日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

第二号第二條第三條ニ関シ第十七回会議ニ先方提出ノ新修正案ニ加味スベキ我方修正其他ニ付回訓ノ件

第二一一号

貴電第一七〇号ニ関シ段々ノ御尽力ニテ多大ノ進捗ヲ見ル

ニ至リタルハ本大臣ノ満足トスル処ナリ

第二号第二條及第三條ニ関スル支那側修正案ニ付テハ篤ト審議ヲ加ヘタル結果支那当局苦心ノ存スル所ヲモ諒トシ右修正案ニ左記ノ通リ修正ヲ加フルコトニテ満足スヘキニ付其含ニテ更ニ交渉ヲ遂ケラレ度シ

㈠　貴電第一七〇号ノ二冒頭ノ條項中「可向業主」ノ次ニ「商租」トアルハ「土地ノ賃借又ハ購買」ノ意味ニ改ムルコトト致シタキモ商租ノ租ハ暫租及永租タル事明ナルニ於テハ商租ニテモ差支ナシ土地購買ノ語ハ一八六四年西清通商條約第八條、一八五八年露清天津條約第五條、（註）一八六五年及一八九五年ノ仏清取極（「ハーツレット」）第一巻三二一頁）及一九一二年露蒙協約附属議定書漢訳第六條等ニ見ユ為念申添ユ次ニ同條項末段租地章程ノコトハ往電第一九四号通リノ取計ヒトシ右章程ニ関スル文句ハ一切除クコトト致度シ尤モ支那側ニ於テ達ツテ希望スルニ於テハ貴電第一六六号ノ五支那側言明ノ次第モアルコト故右「耕作租地章程由中国前行規定」ノ次ニ右章程ハ日本政府ト豫メ妥商ノ上決定スヘキ旨ノ意味ヲ加フルコトトシ章程ニ関スル文句存置方ニ同意スルモ差支ナク又支那側ノ希望ナレハ右ノ次第ハ條約中ノ文言ト為

サズ為ニ機密文書ノ交換トナスモ差支ナシ又耕作ト云フヨリモ一般農業トスル方概括的ニテ宜シカルヘシト思考セラルルニ付其御含ニテ然ル可修正セラレタシ

㈡　護照云々ノ條項中「除須將照例」ヨリ「尚地方官註冊外」ヲ削ル此ノ如キ手続ハ徒ラニ居住者ニ煩雑ナル制限ヲ加ヘントスルモノニシテ関係官憲ノ意嚮如何ニヨリテハ随分面倒ナル事トモナリ従テ弊害ヲ生スルニ至ルノ虞ナシトセサルニ付是非共削除スル事ト致シタシ次ニ警察法令及賦税ノコトハ如何ナル警察法令及租税ニ服セシメントスルモノナルヤヲ知ルコトナクシテ支那側修正案ノ如キ規定ヲ設クルコトハ到底我方ニ於テ承諾シ得サル所ナルニ付警察法令（勿論行政警察ニ限ル）ニ付テハ矢張リ当方ノ案ノ通リ我領事官ノ承認ヲ受クルコトトナス外ナシ又租税ニ付テモ同様ナリ尤モ相当ノ警察法令及租税ニ対シテハ我方ニ於テ徒ラニ異議ヲ申入ルルカ如キ意志ナキ事ハ支那側ニ言明セラレ差支ナシ

㈢　貴電第一七〇号ノ六裁判問題修正案但書中日本人間ノ訴訟ノコトハ支那官憲ノ関係スルニ及バザル事ナルニ付除クコトトシ又日支人間ノ訴訟ニ付テハ貴見ノ通リ我方ヨリ会審スルコトトナスコトト致シタシ（会審ノ文字ニ付従来議論ヲ生シタルコトモアルニ付右ハ共同審判ノ意味ナル旨特ニ明白ニ致置度シ又前記但書中ノ租契トハ如何ナル事ナリヤ其意味ヲ確メ電報アリ度シ）尚以上ノ如ク取極ムルコトト相成ルトモ右裁判制度及警察法令竝ニ租税ノコトハ未開放地ノミニ関スルモノニシテ従来ノ商埠地ニハ何等影響ヲ及ホササルモノタルハ勿論ノ儀ニ付其旨為念何等カノ方法ニテ明カニシ置クコトト致度シ

次ニ第五号第二項病院学校土地所有権ノコトハ日本人カ支那内地ニ於テ学校病院ヲ設立スル為土地ヲ租借買セントスル時ハ中央政府ハ之ヲ允許スヘシトノ趣旨トナシ之ヲ会議録体ニ認ムルコトニテ差支ナキモ少クトモ曹次長ト小幡一等書記官之ニ記名スルコトト致度シ

註　一八九六年英国人 Sir Edward Hertslet 著 Treaties, etc., between Great Britain and China; and between China and Foreign Powers. 第一巻三二一頁及同第二巻七一一頁参照

二九三　四月三日　在上海有吉総領事ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

上海ノ日貨排斥運動ガ当局ノ取締ニヨリ漸次鎮静ニ復セル旨報告ノ件

第五二号

当地ニ於ケル日貨排斥運動ハ其筋ノ取締厳重ナル為頗ル鎮静シ来リ日本商店ニ対シ営業妨害又ハ暴行ヲナスモノナク檄文ノ散布亦減少セリ綿糸ハ漢口筋ノ売行盛ナル為メ四五日来商況恢復シ砂糖ハ未タ新約定ナキモ薬品ノ引取ハ頗ル良好ナリ又先般「ボイコット」ヲ決議シタル雑貨ハ其後違約者ヲ生シ廿三日来支那内地行ノ積出ヲ開始シ当地本邦商人ヨリ内々ニテ仕入ヲナスモノモアリテ漸次常態ニ復サントスルモノアルモ一般ノ大取引ハ日支交渉ノ前途ヲ憂慮シ不振ヲ免カレス又日清汽船ノ上航荷物ハ他会社ノ船腹十分ナル為メ依然支那人ノ貨物少ク但シ郵船会社ニハ未タ何等ノ影響ナシト云フ

二九四　四月三日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛

北京ニ於ケル中国新聞論調報告ノ件

公信第九七号（機密）　（四月十二日接受）

大正四年四月三日

北京ニ於ケル支那新聞論調報告（自三月廿六日至四月一日）

我カ対支談判解決ノ遷延スルニ伴ヒ排日的気勢ヲ一般ニ伝

播スルニ至リタルハ頗ル遺憾トスヘキ事実也新聞紙上留学生輩ノ檄文論説ノ流布セラルルハ已ムナシトスルモ責任アル地方将軍巡按使等ノ反日本的激越慷慨ノ電報即チ徐州ノ巡閲使張勲カ各省将軍巡按使ニ宛テタルモノ欽州ナル将軍劉永福カ大総統ニ宛テタルモノ広東将軍巡按使カ福建広西江蘇江西四省ノ将軍巡按使ヲ会同シ大総統各部総長ニ宛テタル電報ノ多ク上海支那紙ニヨリテ発表セラレ（仮令ハ三月廿八日上海時報参照）人心ニ刺撃ヲ与ヘツツアルハ看過スヘカラサル事態ナリ右等電報ノ真偽ハ固ヨリ不明ナルモ地方官憲ノ一般煽動者輩ニ対スル取締ハ概シテ緩慢ナルモノアルハ事実ナリ其一例ヲ指摘センニ上海ナル蘇路停車場（上海杭州線停車場）ニテ排日ノ檄文ヲ散布スルモノアリ巡警ハ之ヲ捕縛セントセルニ逸走シタリト而シテ其散布シタリト云フ日本ヲ悪罵シ卑汚率読ニ堪ヘサル文字ヲ臚列シタル檄文全文ハ翌日ノ支那紙上ニ掲載セラレ又「ボイコット」申令告示ニヨリ禁止セラルルニ拘ハラス新聞輿論ハ盛ンニ個人売買ノ自由ヲ鼓吹シ地方有力紳商者ハ或ハ率先シテ勧用国貨会（支那産物使用勧励）ヲ提唱スルアリ如斯クンハ十百ノ大総統申令地方官憲ノ告示モ其効力甚タ少キモノト言ハサルヲ得ス

三月廿八日ノ新中国報ハ「漢冶萍」ト題シ

漢冶萍ハ二千萬ノ投資四十年ノ経営支那ノ一大実業也日本ノ処心積慮スル一日ニ非ス曾テ之ヲ張之洞ニ謀リテ允サレス盛宣懐ニ計ツテ盛ハ借款数次日本ハ遂ニ毎年数萬噸ノ鉄礦ヲ利用スルニ至リ日本ノ実業製造軍器ノ相俟ツモノ至ツテ多シ而カモ日本ノ重要視スルモノハ我ノ更ラニ重要視スル処然ルニ該公司ハ幾多ノ曲折変遷ニ遇ヒ今ヤ飄揺零落虎視眈々ノ際ニ在リ日人ハ機ニ乗シ鯨呑蚕食ヲ謀ル自ラ優勝劣敗ノ公理ナリ然レ共石炭ト鉄ハ二十世紀立国ノ要素也吾人ハ政府者ニ望ム盛宣懐タモ尚ホ断送ヲ敢テセサレ漢冶萍ヲ以テ立談之ヲ日本ニ譲リ国民ノ痛哭株主ノ扼腕シ盛氏ノ窃笑スル処トナラサルコトヲ

三月三十日ノ黄鐘日報ハ「主権ト独立」ト題シ

海通以来前清頑愚ノ執政者ハ領事裁判権ノ規定ヲ設ケ神聖ノ独立法権ヲ損害セリ而カモ此度日本ノ要求ハ国家ノ独立ト相容レサルモノアリ元来利権ト主権トハ同シカラス居住権、土地所有権、礦山開採権ノ如キハ固ヨリ我利権ヲ喪失スル多キモ未タ独立ノ主権ヲ尽失スルニハ至ラサルモ仮令ハ南満警察権全国ノ練兵権、教育権ノ如キハ実ニ我主権ヲ侵害スルモノ外交当局者ノ尤モ慎ニセサル

又中央当局者ノ態度及輿論ヲ観測スルニ最初ヨリ欧戦終結後少ク共列強ノ均霑要求アルヘキヲ憂慮シ結局日本ノ要求ニ対シテハ欧米各国ナルモノハ決シテ黙々ニ終ルヘキモノニ非スト信念スル支那当局者ハ其内容ノ如何ハ暫ク問ハス英国一二新聞論調ノ漸ク興奮シ来レルト又米国カ日本ニ対シ何等カノ提議或ハ申出ヲ為シタリトノ一事ノ漸次喧伝セラルルニ連レ叙上ノ信念期待ヲ深ウセラレタルハ勿論ナルヘク且ツ日本此次ノ提議タル欧洲多事絶好ノ機会ニ乗シ過大ノ利権ヲ搏取シ其功績ヲ銜ウテ国民ヲ眩耀シ以テ其内閣ノ地歩ヲ鞏固ニセントスル利用策ニモ出テタルモノト観測シタル支那当局者及一般輿論者ハ総選挙ノ結果政府党カ絶対多数ヲ占取シタルヲ見我政府ハ対支要求ニ対シテハ却ツテ或程度迄自由退譲ノ余裕ヲ生スルニ至リタルモノト推測シタルモノノ如ク此旬日来ノ新聞論調ハ措詞用語漸ク平静ニ帰シツツアルヲ見ル而カモ日本側日本人ノ各方面ニ於ケル行動ハ多大ノ注意ヲ以テ誇大ニ記載セラレ又支那当局者ノ操縦スルモノト目サルル外字新聞ノ反日本的論説記事ハ遺憾ナク訳載セラレ且ツ平静ナカラモ尤モ執拗ニ其主権論ヲ繰返シ列強利権抵触ヲ絶叫シテ日本ノ要求ヲ非議セリ例ニヨリ重要論説記事ヲ左ニ訳出ス

ヘカラサル点也云々

三十日ノ北京日報ハ「今ノ対日交渉如何」ト題シ

此次日本無理ノ要求タル将来欧戦終結後列強ノ出ツヘキ手段ニアリ一ハ昔年三国干渉遼東還附ノ例也二ハ我国ニ向ヒ利益均霑ヲ主張スルナリ第一ノ方法ニ出ツレハ支那ノ幸福ナルモ第二ノ方法ニ出ツレハ支那莫大ノ禍分割ヲ免レサルヘシ今日本ノ為ニ計ルモ支那ノ分割ハ日本ノ対支貿易杜絶ノ困窮ヲ意味シ大不利益ナルノミナラス支那ノ為メニ計レハ固ト正ニ極力日本ヲ拒絶スヘク若シ力能ハサレハ列国ニ打電シテ日本要求ノ内容ヲ示シ之ヲ拒絶シタル結果日本ハ出兵シ支那ハ赦シカタク已ムヲ得ス條約ニ調印シタル所以ヲ豫メ声明セハ将来自ラ弁論ノ余地アルヘシ

二十七八日ノ天民報ハ「高麗ノ滅亡ヲ論ス」ト題シ

高麗滅亡ノ故ハ要スルニ種々ノ原因アリ決シテ偶然ノ事ニ非ス日露戦後滅亡ノ局已ニ定マリ「ポーツマウス」條約成ツテ滅亡ノ事実已ニ演成セラル吾想フ先是日本兵ノ入韓ヲ以テ日本カ全力ヲ以テ已ヲ危難ノ中ニ拯ヒ世界ノ一独立国ト為スモノナリト為サハ其愚ヤ及フヘカラサルナリ夫レ高麗ノ滅亡ハ世界ノ笑談論弁ノ価値ナシ吾人

ノ研究セントスルモノハ高麗ヲ滅亡シタル敵国ノミ
彼レ一陰賊険狼狡獰萬悪陽ニ善状ヲ作シテ陰ニハ実ニ毒
辣ノ敵国也其ノ得隴望蜀進取無厭ノ野心ヲ挟ミ尺ヲ得レ
ハ則チ尺寸ヲ得レハ則チ寸之ニ当ル者高麗ノ流タラスン
ハ幸ナリ嗚呼彼ノ高麗ヲ滅ス仇敵ハ今又其手段ヲ我ニ試
ミントス我カ神州ノ国民急起之ヲ図レヨ

四月一日ノ新中国報ハ「善意乎悪意乎」ト題シ
此度日本ノ要求タル我国民ハ之ヲ悪意的ト見做シ極力反
対スルモ日本側ハ之ヲ東洋平和ノ為メニスル善意的ニ出
ツト云フ然レ共記者ノ眼光ニ中外各新聞論調ニ見レハ如
何日本ノ要求ニシテ支那極端ニ之ヲ拒絶セハ次イテ来ル
モノハ兵禍ナラン東洋ノ平和維持歟果タ擾乱歟善意的乎
果タ悪意的乎要スルニ同一事タルモ雙方ノ観念相異ルナ
リ日本ノ必ス此目的ヲ達セントスルハ我ヲ第二ノ朝鮮ト
セント欲スル耳知ラス我荘厳新造ノ中華民国タルモノ拱
手シテ之ヲ日本ニ譲ルヘキヤ否

四月二日ノ北京日報ハ「強迫條約ノ無効ヲ論ス」ト題シ
條約ノ訂立ハ雙方ノ請願ニ出ツヘク強迫ヲ以テ承諾ヲ迫
ルモノハ條約ノ効寡シ仮令ハ甲ヨリ「ピストル」ヲ擬シ
乙ヲ強迫シテ銀物ヲ要シ且ツ其譲与證書ヲ認メシム乙
ハ生命ノ怕レ已ムナク之ニ応スルモ他日法庭ニ起訴セハ
其證書ハ認諾給与ノ證拠タルヲ得サルハ勿論ナリ日本ノ
兵力ヲ擁シテ我ニ要挟スル恰カモ相似タリ我已ムナク條
約ニ調印スルモ其無効タル勿論ナリ宜シク先ツ其実情ヲ
列強ニ宣布シ他日欧戦終局ヲ俟チ其公議ヲ求ムヘシ然ラ
サレハ列強均霑ヲ主張シ分割ノ禍立ロニ至ラン若シ日本
カ條約有効無効ニ論ナク兵力ヲ恃ンテ利権ヲ佔取セント
ナラハ何ソ故ラニ條件ヲ提出シテ我ノ承認ヲ迫ルヲ須ヒ
ン已ニ承認ヲ求ムトセハ我ノ承認セサル強迫條約ハ到底
無効也

ト云ヘリ袁総統ハ三月三十一日附ヲ以テ本邦亡命中ニテ先
日帰来セル張堯卿劉芸舟以下十名ノ特赦令ヲ発シ一意斯輩
懐柔買収ニ勉メツツアルハ云フ迄モナク革命一派殊ニ孫文
等ノ一挙一動ハ頗ル神経ヲ過敏ナラシムルモノノ如ク故ラ
ニ誇張ニ記載セラレ現ニ四月一日ノ国権報外各紙ハ特ニ二
号活字ヲ以テ孫文カ大倉寺尾等ト立約シ百五十万元ト十万
ノ小銃トヲ得日本ノ退伍軍人ヲ雇ヒテ義勇軍ヲ組織シ活動
スル処アルヘシ抔ノ記載ヲ為スヲ見ル又三月廿六日頃ノ各
紙ハ長文ナル何海鳴ノ表白書ナルモノヲ掲ケ孫文一輩カ売

国ノ罪悪ヲ摘発セリ真偽固ヨリ信スヘカラス
右及報告候也

二九五　四月四日　在南京高橋領事ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

南京地方ノ排日運動概シテ鎮静シタル旨報告ノ件

第八号

往電第五号ニ関シ当地鎮江及蕪湖交渉員ヨリ夫々電信又ハ書面ヲ以テ取締リ方取計ヘル旨回答アリタルカ其ノ後当地ニ於テモ煽動的印刷物ヲ配布スルモノアリ又鎮江及蕪湖ヨリモ更ラニ同様ノ情報アリ殊ニ右両地ニ於テハ我商品ノ広告又ハ看板ヲ破壊シ又ハ引卸シ或ハ日本商店ノ使用支那人ニ対シ離職スヘキ様脅迫的書面ヲ配布セルモノアリタル由ニ付本官去ル二日巡按使ニ会見シ更ラニ厳重取締方要求シ置ケルカ当地一般支那人ハ先ツ概シテ動揺ノ模様ナク又其ノ後鎮江蕪湖ヨリノ郵報ニ依レハ両地トモ四五日前ヨリ落著タル模様ナリト是レヲ要スルニ今日ノ模様ニテハ管内各地トモ格別ノコトナクシテ終ルヘキ見込

公使済

二九六　四月四日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

第十八回談判ニ於テハ第二号第二條第三條ニ関スル論議ニ終始竝我修正意見ノ貫徹ニ努力ノ旨報告ノ件

第一七三号

四月三日午後三時ヨリ七時半迄当館ニ於テ第十八回談判ヲ開ク本日ハ殆ト第二号第二條第三條ニ関シ貴電第二一一号ヲ以テ御訓示ノ我修正意見ノ貫徹ニ全力ヲ費シ其ノ為時間ノ余裕ナク第二條第三條ノ問題以外ノ問題ヲ議スルコト能ハサリシノミナラス裁判権問題ニ関スル御電訓ノ修正意見スラモ之ヲ論議スルノ機会ヲ得ズシテ散会セリ是レ支那側ニ於テ比較的小問題ニ論議ヲ費シ容易ニ譲歩ノ意ヲ表セザリシニ依ル

本使ハ先ツ第一ニ支那側修正案ニ対スル我修正意見トシテ第一項（支那側修正案）中ニ耕作トアルハ意義狭隘ニ失スル嫌アリ帝国政府ノ希望ハ一般農業トスルニアルヲ以テ別段字義ニ多大ノ差違モ有之次第ニモアラザルヲ以テ同調セラルル様致シタシト述ベタルニ陸ハ耕作ト云ヒ農業ト云フモ殆ド同様ナルハ貴説ノ如クナルモ既ニ政府部内ノ会議

ニ於テ日本原案ノ文字ヲ其儘採用スルコトニ決定シタル今日今更之ヲ農業ノ文字ニ修正スルコトハ自己ノ立場トシテ甚タ困難ナリト述ベ容易ニ同意ヲ肯ゼス本使ハ続テ論議ヲ試ミ同意方ヲ求メ次回迄ニ考慮ヲ促シ置キタルモ要スルニ右ハ我原案ニ使用シタル関係モ之レアルノミナラズ字義ノ広狭ハ或ハ之レアランモ実際問題トシテハ将来如何様ニモ解釈ノ付クコトト考ヘラルルニ付次回論議ノ節支那ニ於テ依然同意ヲ肯ゼザルニ於テハ耕作トナスコトニ御承認アリタシ

次ニ我修正意見ノ第二トシテ同シク第一項中ニ商租トアルハ「土地賃借又ハ購買」ノ意味ニ改ムルカ然ラサレハ「向業主商議暫租或永租須用之地畝」ト明記スルコトヲ主張シタルニ陸ハ商租ノ意義ヲ説明シ右ハ地主ト商議シテ土地ヲ租借スルノ謂ニシテ永租ノ意味ヲ含マズ之レハ土地購買ト共ニ支那政府ニ於テ許サザル方針ナリトテ彼我ノ間ニ数回論弁ヲ交ヘタルモ断乎トシテ応諾ノ色ヲ示サズ是レハ満洲ニ於テ我カ富豪等カ土地ヲ兼併スルノ端ヲ啓クヲ危険トシ豫メ之レヲ防ギ置ク底意ト察セラル兎ニ角本使ハ此点ハ我政府ニ於テ頗ブル重ヲ措ク所ナルヲ以テ篤ト考慮ヲ加ヘ次回ニハ必ス同意セラルル様致シタシト述ヘ

更ラニ修正意見第三トシテ支那側修正案第一項末段ニ於テ「其耕作租地章程由中国另行規定」トアル一節ヲ削除スルカ又ハ達ツテ之レガ存置ヲ必要トスルニ於テハ右一節ノ次ニ該章程ハ日本国政府ト豫メ妥商ノ上決定スヘキ旨ノ意味ヲ加フルコトヲ主張シタルニ陸ハ満洲内地ニ日本人ノ耕作ヲ許ス以上是非之レカ章程ヲ定ムル必要アルヲ説明シ極力其存置ヲ主張シ其ノ章程規定ノ際ニ我政府ト妥商スル場合ニハ本項前段ニ商租トアルヲ其儘トシ章程中ニ永租ノ意味ヲ含マシメザルコトヲ日本側ニ於テ今日同意スルニ於テハ本修正意見ハ支那側ニ於テ之ヲ考慮スヘキ旨陳述セリ本使ハ此両者ハ全然別問題ニシテ我ニ於テ一方ヲ譲歩スレハ彼ニ於テ他ノ一方ヲ承諾スルト云フガ如キハ道理アル主張ニアラズ此二者ハ全然別個ノ問題トシテ商議スベキモノナリト主張シ再三再四問答ノ末陸ハ次回迄ニ考ヘ置クベシト云ヘリ尚本件論議ノ際陸ハ耕作租地章程ハ有力ナル日本人ニノミ適用スベキモノニアラズ一般支那人耕作者ニモ均シク適用セラルベキ一般的性質ヲ帯ブル法律ニシテ決シテ不公平ナル区別的取扱ヲ為スモノニアラズ将又斯ノ如キ一般的ノ法律制定ニ外国政府ノ承認ヲ要スト スルハ支那ノ面目ヲ損スルコト勘カラザルヲ以テ甚ダ困難トスル旨ヲ附言セリ

次ニ本使ハ我修正意見第四トシテ支那側修正案第二項第一段中「除須将照例」ヨリ「向地方官註冊外」ノ一節ヲ削ルコトヲ提議シタルニ陸ハ此一節ハ決シテ制限ノ趣旨ニアラス前ニ出シタル修正案ノ如ク内地雑居者ニ対シ領事若クハ確実ナル保證人ノ證明ヲ要ストセバ或ハ稍繁雑ナル制限トナランモ単ニ例規ニ依リ護照ヲ領シ其居住スル所ノ地方官署ニ登録スルコトハ居住者トシテ当然ナスベキノ事柄タルノミナラス斯カル例ハ何レノ外国ニ於テモ有リ勝ノコトニシテ支那側ヨリ云フモ如何ナル一地点ニ如何ナル外国人カ居住スルカヲ明カニシ置キ以テ一ハ其保護ニ便ニシ一ハ課税其ノ他訴訟等ノ場合ニ於ケル調査上之レヲ必要トスル次第ナリトテ最モ剴切且熱心ニ其ノ修正案ヲ支持シタリ本件ハ先方ニ於テモ一応尤ノ道理アル云ヒ分ヲ有シ且ツ内地居住本邦人ニ左迄不條理ノ制限ヲ加フルモノトモ認メラレザルヲ以テ先方ノ希望ニ応シ都合ニヨリテハ我修正意見ヲ撤回スルコトトシテハ如何カト思料ス

我修正意見ノ第五トシテ本使カ警察法令ハ之レヲ行政警察法令ト修正スルコト将又該法令及課税ハ必ス我領事官ノ

承認ヲ経タルモノナラサルヘカラサル旨ヲ御訓示ノ趣旨ニテ主張シタルニ対シ陸ハ警察法令トアルハ大体行政警察法令ノ意味ナルモ仮令ハ満洲内地ニ於テ犯罪者若クハ不法行為者アル場合ニハ取締上支那ハ之レヲ逮捕シテ附近領事所在地ニ押送シテ求刑セザルベカラズ是等ハ行政警察ノ行為ナルヤ将又司法警察ノ行為ナルヤ自分ニ於テハ明カニ承知セザルモ是等ノコトハ支那警察ニ於テ当然管掌セザレバ地方ノ安寧秩序ヲ保持シ難シ若シ此ノ事カ司法警察ニ屬スル次第ナレバ寧ロ行政警察トセズ広ク警察トシ置キ可然ノミナラズ支那ノ警察法令ニハ行政司法ノ明確ナル区別モ存セザルコトナレバ旁々之レハ修正案通同意セラレタシト主張セリ

右ニ対シテハ本使ニ於テモ一応弁駁ヲ加ヘ我主張ヲ支持シタルモ何分ニモ実際問題トシテハ司法警察ニ関スル事項ト雖支那警察ノ手ニ委スルノ已ムヲ得ザル場合モ有之ベキニ付旁行政警察ト修正スルコトハ今一応研究ト明確ナル論拠トヲ要スル次第ト思考セルニ付本件ハ更ニ進テ論議ヲ闘ハスコトヲ見合タリ就テハ本件ニ関シ今少シ詳細ナル具体的説明ト我主張ヲ支持スルニ必要ナル論拠ヲ明示セラレンコトヲ希望ス例ヘハ犯罪捜索ノ如キハ純然タル司法警察ノ

行為ニ屬スベキコトト思考スルモ我領事ノ請求若クハ我警察官ノ出動ナキ限リ支那側ニ於テ全然手ヲ附ケ得ザル義ナリヤ斯クテハ支那カ其安寧秩序ヲ保持スルニ甚ダシキ不安ヲ感ズル様ノコトナキヤ是等ノ場合ニハ実際上如何ニ措置シ然ルベキ御見込ナリヤ詳細ナル説明ヲ請フ

次ニ警察法令竝課税ノ点ニ関シ我領事官ノ承認ヲ要スル件ニ付テハ支那ノ主権ノ発動ヲ制限スル結果トナリ又外国ニ於テ例ヲ引キ同様ノ要求ヲ為スニ至ルベク元来警察法令ト云ヒ租税ト云フモ共ニ広ク支那全土ニ行ハルベキ一般的法律若ハ課税ナルヲ以テ特ニ南満洲ニ限ル特別法ヲ施行スル次第ニアラズ且内外人ノ区別ヲ為サズ一般支那人ト同様一律ニ服従スベキモノナレバ外国官憲ノ承認ヲ受クルコトトスルハ支那ノ体面上到底同意シ難シト陸ニ於テ頗ル強硬ナル反対ヲ試ミタリ

本使ハ右ニ対シ満洲ニ於ケル警察課税ノ実状ヲ指摘シ其不規律無節制ナル実例ヲ説明シ兎モ角満洲ニ於テ我臣民ヲ支那ノ警察課税ニ服セシムルハ非常ノ英断ニシテ又一大譲歩タルヲ失ハザル次第ナレバ帝国政府トシテハ最慎重ニ且出来得ル丈十分ナル保障ヲ取リ置クコトヲ必要トスル次第ナリ換言スレハ我政府ハ支那ノ現状ニ照ラシ何等ノ保障ナ

クシテハ到底我臣民ヲ支那ノ警察権及税権ニ服セシムルニ忍ビザル次第ナリト言明シ以テ我方ニ於テ強硬ナル意志ノ存スル旨ヲ知ラシメ置ケリ本件ニ付テハ尚数回応答論議ヲ交ヘタルモ結局支那側ニ於テ同意ヲ表スルニ至ラス

二九七　四月四日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

我提案第二号第二條中ノ文言「耕作」及「購買又ハ永租」ニ付説示ノ件

第二一六号

貴電第一七三号ニ関シ我原案ニ耕作ノ語ヲ用ヒタルハ御承知ノ通リ露蒙協約ノ例ニ倣ヒタルモノナルモ狭義ニ解セラルル虞アルヲ以テ成ル可農業一般ト云フ事ニ致シタキモ此ノ如キ字句ノ点ニ拘泥シ徒ラニ論議ヲ費ヤス事ハ避ケタキヲ以テ其決定ハ文案作成ノ節ニ譲ル事トセラレタシ、購買若クハ永租ノ意ヲ明記スル事ハ絶対的ニ必要ナリ元来購買又ハ永租ノ語ヲ用フル事ニ支那側ニ於テ反対スルハ如何ナル理由ニ基ク次第ナリヤ先方ノ明確ナル主張ヲ承知シタシ当方原案ニ於テハ露蒙協約ノ例ニ倣ヒ所有権ノ語ヲ用キタルモ支那ニ於ケル土地ノ所有ハ領土主権ニ伴フモノナル

趣ニテ露蒙協約以外ノ條約ニハ所有ノ語ヲ用ヒス購買ノ語ヲ用キ居ルヲ以テ当方ニ於テモ成ル可支那通有ノ観念ヲ重ンジ購買又ハ永租ノ語ニテ甘ンズル事トシ実際ニ於テ所有権又ハ永代借権ヲ取得セント欲スルモノナリ支那側ノ云フ処ニヨレハ地主ト商議シテ租借スル事ノミヲ許ストノ事ナルニツキ官庁又ハ地主ヨリ購買シ又ハ永租スル事ヲ許サザル事トナル処果シテ然ラバ実際ニ於テ邦人ノ得ル処ハ極メテ不安固ナル暫租ノミニシテ従テ之ニ永久的ノ建物ヲ設ケ又ハ土地ノ改良ヲ行フ如キ事ハ殆ンド望ムベカラサル事トナリ畢竟満洲ニ関スル問題中最モ重要ナル点ハ殆ント無意味ノモノトナルベシ右ノ次第ニ付購買又ハ永租ノ意味ヲ明記スル事ハ絶対ニ必要ナル義ト御承知アリタシ

警察法令ニ関スル点ハ調査ヲ要スル点アルニ付調査済ノ上追テ訓令スヘシ

二九八　四月四日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

裁判問題ニ関シ提出セントスル我修正案ニ付豫メ請訓ノ件

第一七四号

貴電第二一一号ノ三末段裁判問題ニ関シテハ御電訓ノ次第ニ基キ次回談判ニ於テ左ノ如キ意味ニテ修正説ヲ提出スル所存ナリ

（民刑訴訟ハ各被告所屬国官吏之ヲ審判シ彼等員ヲ派シ聽審スルコトヲ得但シ土地或ハ租契ニ関スル争執ニシテ日本人ト支那人ノ間ニ起ル訴訟ハ両国官吏ニ依リ共同審判ス）

然ルニ支那側四月一日提出修正案中ニ聽審ノ文字ヲ用ヒアル処第十八回談判ノ節本使ノ質問ニ対シ支那側ハ聽審トハ法廷ニ於テ発言スルコトナクシテ臨席傍聽スルノ意ナリトノ説明ヲ与ヘタルカ聽審ノ文字ハ御承知ノ通間島條約中朝鮮人裁判ノ場合ニ用キラレアリ

該條約日本文ニハ立会トナリ居リ実際問題トシテハ間島ニ於テ朝鮮人裁判ノ場合ニ聽審若クハ立会ノ文字ニ対シテハ解釈上両国ノ意見一致セス今日迄争議トナリ決定セサル趣ナルニ就テハ今回聽審ノ文字ヲ其儘用ヒテ其解釈ヲ一定スルニ於テハ自然間島條約解釈上従来争ヒ来リタル我主権ハ之ヲ抛棄スルコトトナルヘキ次第ナリ右様ノ次第ニ付今回ハ或ハ間島條約ニ用ヒタルト別ノ文字ヲ用ヒテ間島條約ニ関スル我見解ヲ支持スルノ必要ナキヤ其辺ノ御見込ニ付

何分ノ御回示ヲ請フ、支那側修正案但書中ノ租契トハ土地ノ租借契約ヲ意味スル次第ナリト支那側ハ説明セリ

二九九　四月五日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

日中交渉ニ関連スル若干ノ事項ニ付中国側ノ意向確認ノ結果報告ノ件

第一七五号

貴電第二〇六号ニ関シ第十八回談判ノ節支那側ノ意見ヲ確メタル処左ノ如シ

㈠　支那側ニ於テ「南満洲」ニ代フルニ「東三省南部」ナル文字ヲ用フル理由ナシ元来支那政府ニ於テハ「南満洲」ナル地名ヲ用ヒズ「南満洲」ハ日本国ニ於テ普通用ヒラルル所ニシテ支那ハ之ニ対シ「東三省南部」ナル文字ヲ該当セシメタルニ過ギズ尚東三省南部北部ト区別スルモ法制上何等一定ノ区劃ナシ併シ東三省南部トハ大凡長春以南ト心得居レリトノコトナリ

㈡　烟灘鉄道借款権其他独国ガ山東省ニ関シ支那側ニ対シテ有スル利権譲与等ニ関スル文書入手ノ件ハ来ル水曜日当館員ヲ曹次長ノ許ニ派シ秘密ニ内示ヲ受クルコトニ話合ヒ置ケリ

㈢　第十一回談判ノ節満蒙ニ於ケル鉱山経営ニ関シ曹汝霖ノ言明シタル所ハ厳格ナル意味ニ於テ談判委員ノ資格ヲ以テ言明シタル次第ニアラザルヲ以テ当時ノ事情ヨリ云フモ責任者ノ責任アル言トシテ直ニ之ヲ援用スルコトヲ得サル次第ナルガ要スルニ合辦ハ名義上其ノ形式具備スレバ実際ノ経営ハ日本人独力ニテ之レニ当リ得ルノ便法モアルベシト考フル旨ヲ洩ラシタリ此ノ事ハ独リ談判ノ席上ニ於テ曹ガ洩ラシタルノミナラス天宝山採掘問題ニ関シテモ当館員其ノ他（三菱秋山ニ対シテモ同様ノ説話ヲナシタルコトアリ）ニ対シ略ボ同様ノ意見ヲ洩ラシタルコトモアリ

㈣　貴電第一二八号奉天借款問題ヲ対支交渉ノ駈引ニ利用方御訓令ノ件ハ三月四日別用ヲ以テ小幡ヲシテ曹次長ヲ往訪セシメタル節夫レトナク本借款問題ガ再ヒ奉天ニ於テ持チ上リ居ル次第ヲ内話シ先方ノ腹ヲ捜ラシメ其ノ模様如何ニ依リテハ更ニ進ンデ交渉ノ用ニ供セム所存ナリシモ当時小幡ノ復命ニヨリ曹ハ全然右様ノ話ヲ知ラザリシノミナラズ余リ乗リ気トナルベキ模様ナキ次第ヲ承知セルニヨリ本件ハ必ズシモ交渉談判ノ進捗ニ利用シ有力ナル効果アラザルヘシト思料シ爾後本件ハ其儘トナシ置ケリ

三〇〇　四月五日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

在広東我総領事館爆破未遂事件ニ関シ中国外交総長ニ厳談ノ件

第一七六号

貴電第二一二号ニ関シ第十八回談判席上ニ於テ外交総長ニ厳談ヲナシタル所排日的行動取締方ニ就テハ屢々地方官憲ニ訓令ヲ下シタルニ拘ラス斯ル事態ノ現出ヲ見ルニ至リタルハ遺憾トスル所ナリト述ヘタル後爆発薬事件ニ就テハ未タ何等当該官憲ヨリ報告ナク初メテ承知シタル義ナルガ寔ニ由々敷次第ニ付早速此上トモ十分取締ル様訓令スヘク尚日本側ニ於テ本件ヲ秘密ニ附セラレタル措置振ハ深ク感謝スル所ナリト語リ又福建ヨリハ随時取締振ニ関シ報告ニ接シ居ルモ興化事件ニ関シテハ何等報告ナキニ付早速広東同様厳重訓令ヲ発スヘキ旨答ヘタリ

右ノ次第夫々広東及福建ヘ転電シタリ

三〇一　四月五日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

裁判問題ニ関スル我修正案承認ノ旨回訓ノ件

第二一八号

貴電第一七四号ニ関シ民刑訴訟ニ関スル件貴案ノ通リノ修正ヲ提出セラレ差支ナシ間島協約ニ付テハ聴審ノ日本文タル立会ナル文字ニ付争アル次第ナル処往電第二一一号裁判問題我修正案中ニ聴審ナル文字ヲ用ヒタルハ日本側支那側共ニ法廷ニ於テ何等発言スルコトナク単ニ臨席傍聴スルニ止メ度趣意ニ出デタルモノナルニヨリ此意味ニ適フ様「臨席傍聴」其他適当ノ語句ヲ用ヒ置カレ度シ

三〇二　四月六日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

提案第二号第二條第三條ニ関連シ警察権竝護照及註冊ニ付回示ノ件

第二二二号

貴電第一七三号ノ八ニ関シ

行政警察ト司法警察トノ区別ノ困難ナルハ当方ニ於テモ豫期シタル所ニシテ満洲実際ニ鑑ミルモ其区別ヲ為スハ殆ンド不可能ナルヘシト思ハルルニ付必ズシモ行政警察ノ文字ニ拘泥セズ我領事官ニ於テ承認シタル警察規則ニ服従セシムルコトト為シ置カバ夫レニテ実際上差支ナカルベシ右ノ如ク我領事官ノ承認ヲ條件トナスハ満洲ニ於ケル日本国

ノ地位ノ特殊ナルニ顧ミ当然ノコトタルノミナラズ支那警察制度ノ不備及支那警察官ノ不熟練ナル実状ニ照シ已ムヲ得ザルノ処置ナリ旁貴官ハ以上ノ趣旨ヲ以テ更ニ交渉ヲ遂ゲラレ度シ次ニ貴電第一七三号ノ六護照及註冊ノ件ニ関シテハ護照ノコトハ単ニ従来ノ例ニ依リ支那地方官ニ於テ副署（明治二十九年七月二十二日日清通商航海條約第六條参照）スル丈ノ意味ナラバ夫レニテモ差支ナキモ将来支那官憲ハ濫リニ右副署ヲ拒絶シ又ハ之ヲ遅延セシムルガ如キコトナキ様約束セシムルカ会議録ニ記載セシムルカ其他然ルヘキ方法ヲ講ジ置カレ度シ又註冊ノ方ハ右ノ護照ヲ携帯セル日本国臣民ハ其目的地到着後当該地方官ニ向テ届出ヲナシ地方官ハ之ヲ登録スル事ナレバソレニテ差支ナキニ付右ニテ話ヲ纏ムル様御措置相成度シ

三〇三　四月七日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

第十九回談判ニ於テ引続キ第二号第二條第三條ニ関シ我修正案ヲ提出及商議シタルニ付経過報告ノ件

第一七八号

余地ナキニ苦ム所ナリ元来原則トシテ日本国領事裁判権ヲ承認シタルハ今尚不完全ナル支那ノ司法制度ノ現状ニ顧ミ忍ビテ譲歩シタル次第ナリ他日本條約発表ノ暁国民ヨリ猛烈ナル反対アルヲ豫期スルモ尚国民ニ向テハ弁解ノ辞ナキニアラザルナリ併カモ国土ト密接ノ関係アル土地租契等ニ関スル裁判権ヲモ維持スルコトナク会審制度ヲ布クガ如キハ到底国民ニ対シ何等弁解ノ辞ダモナク政府トシテハ到底堪フル所ニアラズ

況シテ事実問題トシテ見ルモ土地租契ニ関スル訴訟ハ必ズヤ其土地ノ法律習慣ニヨリ裁断スベキ正当ノ理由アルモノナルヲ以テ会審制度ヲ布クモ其実行殆ド不可能ニ終ルベク故ニ此点ハ必ズ支那ノ法律ニヨリ支那ノ官憲カ裁判スルヲ至当トセザルベカラス現ニ土耳其国遥羅国ニ於テモ外国ニ対シ領事裁判権ヲ認ムルニ拘ハラズ土地ニ関スル訴訟ハ必ズ自国法権ノ管掌ニ帰セシメ居ルニ見ルモ土地ニ関シ特例ヲ開クノ不当ニアラザルヲ知ルニ足ルベシト論ジ最モ強硬ナル態度ヲ示セリ右ニ対シ本使ハ土地租契ニ関シ日本国ハ支那ノ意思ヲ尊重スルガ為メ特ニ会審ノ制度ヲ布クコト迄譲歩セル次第ナリ且会審裁判庭ニ於テハ支那ノ法律習慣ニヨリ訴訟ヲ裁断スルコト毫モ不可ナカルベキ旨ヲ指摘シ

四月六日本使ハ外交部ニ赴キ第十九回談判ヲ開ク是レ本使負傷後始メテノ外出ナリ本日ハ第二号第二條第三條ニ関シ貴電第二一一号御訓示ノ我修正意見中前回ノ会議ニ於テ説明残リノ分即チ裁判ニ関スル我修正意見ヲ説明シ終リテ貴電第二一一、二一六及二一八号御訓示ノ趣旨ニ基キ作製シタル修正案ヲ支那側ニ交付シタル処陸ハ之ヲ一読シ本修正案中裁判ニ関スル修正ノ部分以外ハ前回ニ於テ既ニ詳細ノ説明ヲ承知セルニ依リ直ニ政府ヘ報告シタルモ右日本政府ノ修正意見ハ乍遺憾何レノ点モ政府ニ於テ同意ヲ表スルヲ得ザル所ナリトテ前回若ハ其以前ノ会議ニ於テ開陳セルト殆ド同様ノ理由ヲ反覆シ我修正意見各項目ニ付一々反対シ最後ニ裁判問題ニ関シ我修正意見ニ対シ反対意見ヲ述ベ裁判問題ニ関シテハ政府ニ於テ最慎重ニ且痛切ナル考量ヲ加ヘ忍ビ難キヲ忍ビ数回ノ修正ヲ経テ漸ク原則トシテ領事裁判制度ヲ存続シナガラ内地雑居ニ同意シ僅ニ土地租契ノ点ノミ支那ノ国土ニ重要ノ関係アルニ顧ミ支那ノ法権ヲ維持スルコトトセル次第ニシテ支那政府トシテハ断乎タル決心ヲ示シタル一大譲歩ナリ然ルニ此ノ僅カ許ノ点ニ付テモ日本国カ尚支那ノ法権ヲ承認スルコトヲ肯ンゼザルハ支那政府ニ於テ最遺憾ニ感ズル次第ニシテ此上ハ到底譲歩ノ終リニ第二号中第二條第三條カ最モ重要ナル問題ニシテ其内特ニ土地所有（又ハ永租）ノ点ハ其原素トモ見ルヘキモノナリ

然ルニ支那側ニ於テハ特ニ商租ナル語ヲ用キテ永租若クハ所有ヲ許サザルノ意ヲ示シ別ニ租地章程ヲ作リテ我農業者ニ対シ其ノ根底アル事業ヲ制限若クハ阻止セントスルノ意嚮ヲ有シ更ニ又土地ニ関スル裁判権ヲ絶対的ニ握有シテ訴訟ノ場合ニ機宜ノ手心ヲ為サントスル底意ノ見ユルハ我方ニ於テ甚タ不満ニ感ゼザルヲ得ザル次第ナリ各地方行政官司法官等カ相協同シテ本條約ニ於テ得タル権利ヲ制限スルガ如キコトアルニ於テハ折角得タル我権利ヲ殆ド無意義ニ帰シ日本人ハ到底満蒙ニ於テ根底アル業務ニ従事スルヲ得ザル次第ナリ従テ陸総長ノ反対ハ到底我ニ於テ同意シ能ハザル所ナルト同時ニ本日提出ノ修正案ハ我最後ノ譲歩案ナルヲ以テ之レ以上ノ譲歩ヲ期待スベカラザルモノトシテ今一応慎重ナル考慮ヲ切望スル旨述ベ置ケリ

尚本件ニ関シ御訓示ノ次第ハ屢々陳述シ各節ニ付数回論議ヲ交ヘタルモ要スルニ陸ノ所論満洲ニ於テ日本人ニ永租若クハ所有権ヲ許シ併カモ領事裁判権ヲモ存続スルニ於テハ満洲ハ挙ゲテ支那ノ「コントロール」シ得ザル日本国ノ

殖民地ト化シ去ルノ危険アリト謂フニ帰著スルモノノ如シ尚陸ハ租借章程ノ如キモ租地期限ヲ定ムル筈ナルモ期限満了ノ節ハ期限ヲ更新スルコトモ出来得ベク決シテ日本人ノ事業ノ妨ゲトナルガ如キコトナカルベク要スルニ支那ノ修正案ハ十分日本人ニ実益ヲ与フルコトニナリ居リ支那ハ虚名ヲ擁スルニ過ギザル次第ナリト述ヘ日本国ハ名ヲ去リ実ヲ収ムルニ満足セラレタシトテ更ニ我方ノ考慮ヲ希望スト云ヘルニ付本使ハ結局本日提出ノ我修正案ハ全然譲歩ノ余地ナキモノナルコトヲ言明シ考慮ノ如何ハ支那側ニ於テ之ヲ為スノ已ムヲ得ザルベキヲ附言シ置ケリ

三〇四　四月七日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

第十九回談判ニ於テ提案第三号漢冶萍問題及第五号第四項兵器問題ニ関シ論議努力ノ件

第一七九号

漢冶萍公司ニ関シテハ本使ヨリ支那側ニ於テハ原案ニ接近セル修正案ニテモ考案セラレ居ル次第ナルヤト質問シタルニ陸ハ支那側ニ於テハ全然其考ナク本件ハ初ヨリ声明シ得ラルルコトナルベシトテ最執拗ノ反対意見ヲ表示セリ元来漢冶萍公司問題ハ巨額ナル我資本ノ投ゼラレ居ル関係将又小田切盛宣懐ノ間ニ合辦ノ仮約束迄成立ノ事情ニ顧ルトキハ斯ク迄支那側ニ於テ強硬ニ且執拗ニ反対スベキ理由ナキ筈ナルニ拘ハラズ実際前後数回ノ論議ニ徴スルニ先方ノ態度意外ニモ強硬ナルハ本使ノ不審ニ堪ヘザル所ナリ尤先日来在当地二三英国通信員《第二流第三流ノ雑輩ニシテ当地英人間ニ重ヲ措カレザル Simpson（「デーリー、テレグラフ」及「マンチェスター、ガーディアン」）Donald（前ニ紐育「ヘラルド」通信員ヲ担当シ「フレーザー」不在中「タイムス」代理通信員ヲ為セリ）Giles（「シカゴ、デーリー、ニュース」及北京「エンド」天津「タイムス」）》ガ頻ニ本件ハ日本国ガ揚子江流域ニ於ケル鉱山事業ヲ壟断スルモノニシテ大ニ英国ノ利権ヲ侵害スル旨ノ意見ヲ発表シ盛ニ日本ヲ非難スル様ノ言動ヲ敢テセル事実アルニ付或ハ支那側ハ是等雑輩ノ言ニ左右セラレ英国政府筋ノ意見モ亦斯クアルベシト速断シ執拗ナル反対ヲ試ムルニアラズヤトモ考ラレタルニ付本使ハ殊更右ノ事実ヲ挙ゲ支那政府ニ於テ萬一ニモ英仏筋ノ思惑ヲ顧慮シ居ルガ如キコトモアラバソハ大ナル間違ナリト述ベ注意ヲ喚起シタルニ陸ハ左

タル通他日漢冶萍公司関係者ト日本資本家トノ間ニ合辦ノ議熟シタル暁ニハ支那側ニ於テハ之ニ異議ナキ次第ナル外本公司ヲ没収若シクハ国有トセザル事及外国ヨリ資本ヲ入レシメザル事ヲ約スル以外到底原案ノ趣旨ハ之ヲ考慮シ得サル次第ナリト言明シタルニ付本使ハ更ニ反問シテ政府ガ合辦実現ニ尽力スル事ヲ約束スル事モ出来難キ次第ナリヤト尋ネタルニ対シ陸ハ支那人ノ心理ニハ一種不可解ノ処アリテ山ト云ヘバ川ト頑張ル癖アリ一度反感ヲ生ズレバ殆ンド理知ノ以テ如何トモ仕難キモノアリテ殊ニ漢冶萍公司ノ役員竝ニ株主等目下ノ心理状態ヲ顧ルニ政府ニ於テ万一右様ノ約束ヲ為ス時ハ感情上忽チ彼等ノ反抗心ヲ惹起シ其気合ハ益昂マル一方ニテ之ガ為メ折角将来成功ノ望ミナキニアラザル合辦モ遂ニ不可能ニ終ルヘキ懸念アリ就テハ目下殊更ニ政府ニ於テ原案ノ如キ約束ヲ為スコトハ益々人心ヲ反抗セシムル虞アルノミニシテ偶々合辦ノ将来ニ障碍ヲ来タス外何等ノ効果ナカルヘク又株主竝役員中ニハ現在有力ナル地位ニ在ル者モ尠カラス此等ノ反抗ハ政府ノ最モ恐ルル所ナルヲ以テ今日ノ所ハ先ツ前述ノ程度ノ約束ニ止メ置キ他日人心鎮静シ両国関係者ノ間ニ徐ニ合辦ノ議ヲ纏メ得ル時機ヲ待ツ方却テ都合好ク日本国ノ希望ヲ実現シ様ノコトハ絶対的ニ無之支那側ノ顧慮スル所ハ一ニ漢冶萍公司株主ノ反対ノ一点ニ存スルコトヲ極メテ淡泊ニ明言シタリ兎モ角本件ハ右様ノ次第ニテ支那側ノ態度意外ニ強硬ナルコトハ此際特ニ貴聞ニ達シ置キタシ

次ニ兵器問題ニ対スル支那側反対ノ理由ハ兵器ノ統一及独立ニ関シ日本国カ特ニ支那ニ援助ヲ与ヘントスルハ支那政府ニ於テ深ク其好意ヲ諒トスル次第ナルモ本件ハ陸軍部ニ於テ最モ強力ナル反対アリテ要スルニ兵器ノ統一若クハ独立ト云フカ如キハ外国ノ干渉ニ委スヘキ事柄ニアラザルノミナラズ其所要武器カ一々外国ニ知レ居リテハ軍器ノ秘密モ保ツヲ得ザル次第ニテ支那陸軍部ハ最モ之ヲ面白カラズトスル所ナリ兎ニ角将来支那ニ於テ兵器ノ統一及独立ニ関スル調査完了シ将又日支両国ノ関係親善トナラバ或ハ自ラ進ンデ日本国ノ援助ヲ仰グ日アルベシトハ信ズルモ先以テ今日ノ所ニ於テハ到底本件ニ関シ何等ノ約束モ出来難シト述ベ陸軍側ニ盛ナル反対説アル事ヲ再三繰返シ説明シタリ

本使ハ本件ニ関スル我提案ガ断ジテ支那ノ兵器ノ統一若クハ独立ニ干渉スル意思ニ出デタルモノニアラザル次第ヲ詳細ニ説明シテ陸軍部ニ於テハ干渉云々ト称スルモ雙方協

議ノ上方法ヲ取極ムルコトハ決シテ干渉ト称スルヲ得ザルベク特ニ当分日本国ヨリ兵器ヲ供給シテ以テ支那兵器ノ統一ヲ図ルハ結局日支両国ノ兵器ヲ同一ニスル所以ニシテ一朝東洋ニ於ケル有事ノ日ニハ相協同シテ平和ノ維持ニ力ヲ尽シ得ベク進ンテ支那カ兵器独立ヲ実行スルニ至ラバ日本国ニ於テハ最モ有力ナル友邦ヲ隣トスルコトトナリ東洋ノ平和ヲ維持スルニ有力ナル保障トナル次第ナルノミナラズ今後一定ノ兵器ヲ日本国ヨリ供給スルヲ得バ日本国ニ於ケル兵器製造ノ全力ヲ之ニ用ヒテ常ニ一定ノ製造力ヲ保持スルノ頗ル日本ニ取リ有益ナル結果ヲ生ジ将又日本国ノ最モ恐ルル他国ガ支那ノ兵器ニ干渉スルヲ防止スルコトトナル次第ニシテ本件ハ最モ熱心ニ我主張ヲ支持セザルヲ得ザル次第ナリト論ジ尚陸総長ノ言ノ如ク将来日支親善ノ場合ニ本件実現ノ希望アルナラバ何故今日之カ実行ヲ約束シ得ザルベキカト反詰シ更ニ本使ハ最近支那陸軍部内ノ主要ナル地位ガ総テ親独派ノ軍人ニ依リ占メラレ居ルコトヲ遺憾トシ彼等カ独逸ノ甘言請託ニ中毒シ兵器廠建設ノ如キモ挙ゲテ其手ニ委ネントスル傾向アルハ到底日本国政府ノ軽々ニ看過シ得ザル所ナルノミナラズ最モ不満不安ノ念ヲ抱キ居ル次第ナリト極言シ極力我主張ノ貫徹ニ努力セリ

特ニ強硬ナル反対論アリ到底日本国ノ提議ニ応スルコト能ハサルヘク目下外交部ハ雙方ノ中間ニ立チ苦シミ居ル次第ナリト述ヘタルニ付本使ハ日本国ノ提議ニ同意スルコトアルモ何等支那ノ国防ニ障害アリト云フヲ得ズ元来日本国カ此ノ要求ヲ提出スルニ至リタルハ福建省ト台湾トノ関係上第三国ノ勢力同省ニ入込ミ延イテ台湾ノ防備ヲ脅カシ遂ニ累ヲ日支両国ノ国交ニ及ボスニ至ルヲ虞レタルニ依ルモノニシテ福建ニ第三国ノ政事上ノ勢力扶植セラルルコトヲ防ギ同省ニ於ケル軍事上重要ナル施設ガ他国ノ権内ニ入ルコトヲ確実ニ阻止スル方法アラバ帝国政府ハ夫レニテ満足スル次第ナリ従テ我原案ハ一字一句モ変更セズ之ヲ維持スル趣旨ニアラザルヲ以テ支那政府ニ於テ充分誠実ナル考慮ヲ遂ゲ帝国ノ希望ニ応ズル態度ニ出デラレタキ旨縷々説明シ置ケリ本回ハ時間切迫ノ為福建問題ニ付テハ雙方十分ナル意見交換ヲ行ヒ得サリシヲ以テ次回ノ会議ニ於テ更ニ本使ハ我主張ヲ支持シ貴電第二〇三号ノ四御訓令ノ修正案提出ノ考ナリ

然ルニ本回陸カ再三洩ラシタル口気ニ依レハ第五号各項ハ何レモ約束トシテ我方ト取極ヲ為サザル当初ヨリノ底意ヲ強硬ニ固執スル了見ナルガ如シ本問題ハ如何ニ我方ニ於テ

然ルニ陸ハ自分一個ノ観察ナリト前提シテ支那軍人ノ親独的ナルハ全ク独逸国人カ支那人ノ感情ヲ融和スル事ニ努ムル巧妙ナル手段ニ原因スルモノニシテ他意アルニアラザルベシ現ニ先年「クルップ」会社ヨリ招待セラレ同社ヲ参観セル支那武官ニ対シ歓待好遇至ラザルナク後独逸皇太子来遊ノ企アリ更ニ同社ノ代表者カ来京シテ兵器ノ売込其他巧妙ナル運動ヲ試ミ遂ニ兵器廠建設ノ話迄モ進メタルヤニ聞及ビタリトノ旨ヲ内話シ暗ニ日本国カ些細ノ事ニ迄支那ノ感情ヲ害シ居ルハ到底支那ノ事業ニ成効スル所以ニアラザル旨ヲ諷刺セルガ如ク感ゼラレタリ

三〇五　四月七日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

第十九回談判ニ於テ提案第五号第六項福建問題ニ関シ商議シタルニ付報告及請訓ノ件

第一八〇号

次ニ福建問題ニ付テハ支那政府ニ於テ如何ニ考ヘ居ル次第ナルヤト先ツ本使ヨリ質問シタル処陸ハ本問題ハ港湾造船所ノ設備ニ関スルヲ以テ国防上ノ見地ヨリ海軍部ニ於テ重要視シ居ルカヲ今一層十分痛切ニ支那側ニ覚知セシムル為将又一面米国ニ於テ我要求ヲ是認シ居ル次第ヲ知ラシムル為差支ナクハ貴電第二〇〇号中福建省ニ関スル珍田「ブライアン」話合ノ要領ヲ差支ナキ程度ニテ内話シ以テ我主張ノ支持ニ資シタシ何分ノ義御電訓ヲ請フ

今回第十九回会議ハ午後三時ニ始リ八時ニ漸ク散会シタリ（終リ）

三〇六　四月七日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

中国側ノ外国新聞通信員ニ対スル談判内容漏洩ニ付厳重警告ノ件

第一八一号

談判ノ内容ガ頗ル微細ノ点迄外間特ニ外国新聞通信員ニ漏洩セラルル情況ニ付稍確実ニシテ併モ具体的ナル内報ヲ耳ニシタルニ付本使ハ四月六日談判ノ節議事ニ入ルニ先立チ此事実ヲ指摘シ本使ノ或信用スベキ節ヨリ聞キ得タル報道ニ依レバ談判ノ成行ガ早キ時ハ其日夜半ニ遅クモ翌朝ニハ外国新聞通信員ニ洩ラサレ併モ此事カ大総統府内ニ於テ頗

ル英語ニ堪能ナル或有力ナル海軍武官ノ手ニテ実行セラルルト云フニ至リテハ本使ノ極メテ意外トスル所ナリト陳述シ今日迄既ニ幾回ノ警告モ殆ド馬耳東風ニ附シ事毎ニ秘密ニ附スヘキ事項ヲ外間ニ洩サルルハ不信ノ行為トシテ帝国政府ニ於テ最モ不満ニ感ズル次第ニ付今後モ同上ノ態度ヲ依然継続スルニ於テハ自然談判ヲ中止セザルヲ得ザルニ至ルベキ旨ヲ最モ峻厳ナル態度ヲ以テ十分ナル警告ヲ与ヘ置ケリ右警告ニ対シテハ陸ハ稍当惑ノ体ニテ秘密漏洩ノコトハ厳ニ取締方法ヲ講ズベキハ勿論総統府内武官ノコトハ心当リナキモ是亦十分ニ調査スベキ旨答ヘタルニ付本使ハ十分秘密厳守ノ実ヲ挙ゲ同時ニ調査ノ上該武官ニ対シ相当処分ヲ行フベキコトヲ注意シ置キタリ

三〇七　四月七日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

済南ヘノ日軍増兵ニ関シ中国外交部ヨリ累ネテ申越ニ付請訓ノ件

公信第一〇一号（機密）　（四月十四日接受）

済南ニ又々増兵ニ関シ外交部ヨリ申越ノ件

本件ニ関シ別紙写ノ通リ陸外交総長ヨリ申越ニ接シ候間往ヨリ都督府法院又ハ内地裁判所ノ管掌ニ帰スル場合ニモ支那側ノ聴審ヲ許スモノナルガ如キ誤解ヲ招ク虞ナキニ非ルニ付右ハ日本国領事官ニ限ル問題ナル旨ノ意味ヲ明ニ表ハシ置ク為貴電第一五〇号ノ二支那側修正案ノ用語ニ倣ヒ「民刑訴訟ハ日本人被告タル場合ニハ日本国領事官ニ於テ又支那人被告タル場合ニハ支那国官吏ニ於テ之ヲ審判シ互ニ員ヲ派シ云々」ト記載スルコトト致度ニ付右様取計ハレ度シ

（註）又貴電第一四三号ノ一ニヨレハ当時支那側ヨリ第二号第二條第三條第二次修正案トシテ東部内蒙古ニ属スル十一箇所ヲ除キタル其他ノ我方要求ノ商埠地点開放方承諾ノ旨申出デタル趣ノ処右十一箇所ノ地名為参考承知シ置度ニ付電報アリ度将又往電第一八一号電訓ニ基キ貴電第一五七号ノ一ノ通リ貴官ヨリ第二号第二條第三條ニ関スル修正案ヲ提出相成タル節ニハ往電第一四九号開埠地点二十七箇所全部ヲ提示相成タルモノト了解スル処右ノ通リナルヤ併セテ電報アリ度シ

註　「又貴電第一四三号」以下ハ郵報ノコトトセラレタリ

電第一六七号及ヒ三月三十日附機密第九三号往信ノ件ト合セ何分ノ儀御回訓相成候様致度此段申進候也

（別紙）

写

逕啓者據山東地方官報告稱本月二日上午由張店開至濟南日軍官等二百七十餘人下午由坊子開至濟南日兵三百六十餘人均帶有軍械等語相應函請

貴公使查照本部三月二十二、二十九兩日照會轉達貴國政府併案辦理為荷順頌

日祉

陸徵祥

四月六日

三〇八　四月八日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

裁判問題ニ関スル案文冒頭ノ語句ニ付訓令竝開埠地点ニ関シ問合ノ件

第二二五号

貴電第一七四号民刑訴訟ニ関スル件案文冒頭ニ各被告所属国官吏ノ文字アル処カクテハ日本側ニ於テハ事件ノ種類ニ

三〇九　四月九日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

第二十回談判ニ於テ第二号第二條第三條ニ関シ細論シ竝第五号ニ関シ先方ハ商議ヲ拒否シタルニ付経過報告ノ件

第一八五号

四月八日本使ハ外交部ニ赴キ第二十回談判ヲ開ク本日ハ午後三時ヨリ七時二十分ニ至ル迄会議ヲ継続進行セリ第二号第二條第三條ニ関シ支那政府ニ於テ考慮ノ結果トシテ陸ハ㈠「耕作」ノ語ヲ「農業」ニ改ムルコトハ同意ナリ㈡「商。租」ノ語ハ支那側最後修正案ノ通其儘存スルコトトシタク商租ノ中ニ永租ヲ含マシムル提案ニハ応諾シ難シ若シ斯クスルトキハ永租ハ無期限ナルガ故ニ所有権ト全然異ナラズシテ支那政府従来ノ方針ニ反スル次第ナルガ故ニ絶対ニ同意ヲ難シトスル所ナリ但シ租地章程ニハ成ルベク長キ期限ヲ設ケ又期限満了ノ時ニハ継続租地スルヲ許可スル方針ニシテ決シテ日本人ニ不利益ヲ与フル様ノコトナキ筈ナレハ右ニテ同意セラレタク㈢護照註冊云々ノコトハ條約ニ基ク従来ノ成例ニ依ルノ外何等故意ニ制限ヲ加フル等ノコトナキ次第ニテ一面保護ニ便ニシ一面内地居住者ノ所在ヲ明

カニシ置ク必要アルニ付之ヲ支那修正案通トスルモ決シテ日本国民ノ不便トナラザルベク支那官憲ハ猥リニ領事館ヨリ発給シタル護照ノ副署ヲ拒ミ又ハ之レヲ遅延セシムル様ノコトナキハ総長トシテ責任ヲ以テ言明ス又註冊ノ事モ護照携帯者カ目的地ニ到リタル時地方官ニ向ヒ届出ヲナシ地方官ハ単ニ之ヲ帳簿ニ登録スレバ足ル次第ナリ是亦責任ヲ以テ言明ス㈣租地章程ニ関スル日本国ヨリノ承認問題ハ同意ノ余地ナシ元来本章程ハ租地ニ関スル地方ノ不文的習慣法ヲ成文ニ制定スルニ過ギザル次第ニシテ商埠章程ノ如ク新規ノ規定ヲ設クル次第ニハアラザルヲ以テ日本国官憲ノ承認ヲ受クルコトヲ要セズ支那ノ体面ニモ関スルコトナレバ同意シ難ク又㈤警察法令課税ノ事ニ付日本官憲ノ承認ヲ受クルハ国家ノ体面上絶対的ニ同意シ難ク最後ニ㈥土地租契ニ関スル日支人ノ訴訟ヲ共同審判ニ附スル事ハ断シテ同意シ難キ所ナルモ最後譲歩私案（之ハ未タ政府ノ公認ヲ経ス純粋ナル私見ナリトノ注意ヲ附言セリ）トシテ（按中國之法律及地方習慣由兩國共同審判）トシテハ如何ヤト思ヒ居ル旨陳述セルニ由リ本使ハ貴電第二一一号御訓示ニ基キ右㈠商租ノ事ハ土地賃借又ハ購買ニアラズンバ暫租永租ノ意味ニ明カニシタキ旨ヲ主張シ㈡護照註冊云々ノ一節付何等カ之ヲ保護スヘキ相当ノ保障ヲ取リ置クコト当然ナル旨ヲ説明シテ強硬ニ我修正意見ヲ主張シ置ケリ本件モ支那側ニ於テ絶対的ニ応諾ノ色ヲ示サス

次ニ㈥土地租契ニ関スル共同審判ニ於テ支那ノ法律習慣ヲ適用スルコトハ帝国政府ニ於テ同意シ得ザルヤニ信ズルモ新ナル一ノ修正意見ナレバ何トモ即答シ難シ兎モ角政府ニ電報シ置クヘシト答ヘ置ケリ

之ヲ要スルニ右諸問題ハ約二時間以上ニ亘リ論議シタルモ先方ノ態度頗ル強硬ナルモノアルハ事実ナルモ本使カ本日感知シタル印象ニ依レハ支那側ハ最モ右第二條第三條ノ難問題円満解決ニ焦慮シ居ルモノノ如シ之レ右二條ヲ以テ両国衝突ノ危機伏在スル暗礁ト考ヘ居ルモノト認メラレ従テ支那側ノ方略トシテハ可成速ニ此暗礁ヲ乗越シ他ノ諸問題特ニ第五号ハ執拗ニ其主張ヲ支持シテ成ルベク譲歩セザル底意ニハアラズヤト察セラル

次ニ第五号第六項福建問題ニ移リ前回ニ於テ本使閣陳ノ意見ハ支那政府ニ於テ如何考量セラレタルヤ結果承知シタキ旨ヲ述ベタルニ陸ハ支那政府ノ名ヲ以テ言明スト称シ支那政府ハ福建沿岸ニ於テ外国ノ資本ヲ以テ港湾設備造船所軍用貯炭所又ハ海軍根拠地ヲ設クル事ナク又外国ニ之等ノ施

ハ総長ガ責任ヲ以テ右ノ如ク言明スルニ於テハ之ヲ存置スルモ差支ナキ旨ヲ言明シ置ケリ

同時ニ貴電第二一二号後段御訓示ノ次第ニヨリ何等カ約束ノ形式ニテ取極メタキ意見ヲ陳述セルモ支那側ニ於テハ右ハ当然ノコトニシテ必要ナシトセリ右ハ別段他意アルモノトモ認メ難ク結局論点ヲ錯雑シ談判ヲ延引スルノ機会ヲ与フルニ過キサルヲ以テ本件ハ先方ノ責任アル言明ニ信頼シ前記総長ノ言明ニテ終了トスルコトニ致シタク次ニ㈣ノ租地章程ヲ領事ニ於テ承認スルコトハ関係スル所重大ニシテ将来我農業者ノ発展ニモ勘ナカラサル影響ヲ及ボスベキ問題ナルヲ以テ本使ハ極力我主張ヲ支持シ更ラニ支那側ノ考量ヲ促シ置ケルモ先方ニ於テ其ノ主張ヲ固持シテ動カザル決意ヲ示セリ

試ニ本使カ総長ノ長キ期限ノ租地ヲ認ムル見込ナリトノ言ヲ捉ヘ長キ期限トハ凡ソ幾年位トナス考ナリヤト尋ネタルニ対シ陸ハ日本人ノ農業ニ差支ナキ程度ニテ可成長キ期限トナス考ナルモ目下何等ノ考案モナシ居ラズト答ヘタリ次ニ㈤警察法令課税ニ関スル領事承認ノ件ニ対シテモ本使ハ既ニ帝国臣民ヲシテ支那ノ警察課税ニ服従セシムル以上ハ我政府トシテハ其臣民ヲ服従セシムル警察法令又ハ課税ニ設ヲ許サザル事勿論ナルモ此事ヲ約束トシテ取極ヲ為ス事ハ絶対的ニ同意シ難シト確言セリ仍テ本官ハ右ノ言明ハ帝国政府ノ希望ト殆ト相一致スル次第ニ付之ヲ如何ナル形式カニテ約束トシテ取極ムル事何等差支ナカルベク元来本件ハ日支両国間ニ最モ重大ナル関係アル問題ニシテ支那カ萬一他ノ外国ニ前記施設ヲ許スカ若クハ其資本ニヨリ施設ヲナスガ如キコトアレバ日支両国間ハ勿論其ノ外国トノ間ニ甚ダ面白カラザル紛争ヲ惹起スルノ虞アルヲ以テ既ニ両国ノ意志略ボ一致シ居ル以上ハ是非何等カノ形式ニテ約束トシテ取極メ置キタク実ハ其意味ニテ修正案ヲ持参シタルニ付篤ト審議ノ上同意アリタシト述ヘ貴電第二〇三号ノ四御電訓ノ通修正案ヲ提出シタルニ陸ハ頗ル当惑ノ体ニテ右修正案ノ受理ヲ肯ゼズ結局第五号ハ絶対的ニ約束スルヲ得ズトテ同意ヲ拒ミ自分ハ大総統ノ委任ヲ受ケタル権限以外ニ渉タリ商議スルヲ得ザルノミナラズ第五号ニ付約束ヲ為シタリトアリテハ国民ニ対シテモ殆ド面目立タザル次第ナリトテ断ジテ商議ニ応ゼザル態度ヲ示シタルニ付本使ハ支那政府ノ態度ハ本使ノ最モ意外トシ且遺憾トスル所ナル旨最モ厳格ニ宣明シ元来第五号ノ各項ニ付テハ未ダ十分ニ双方ノ意見モ交換セズ将又帝国政府ヲシテ首肯セシムルニ

足ル何等反対ノ理由ヲモ示サズ漫ニ或ル問題ガ第五号中ノモノナルカ故ニ十分ナル商議モ約束モ為スヲ得ズトスル支那政府ノ不誠実ハ了解ニ苦ム所ナルノミナラズ総長ハ修正案ヲ一見スルコトナクシテ直チニ拒絶セラレタルハ本使ニ於テ深ク遺憾トセザルヲ得ザル次第ナリ斯ノ如クムバ第五号ハ商議ヲ進ムルモ詮ナキコトナリ本号ノ談判ハ之ニテ打切リ更ニ帝国政府ノ指揮ヲ請フ外ナカルヘシト云ヒ卓上ニ於テ修正案ヲ収メ将ニ席ヲ起タントスルヤ事態ノ尋常ニアラザルヲ看取シタル曹汝霖ハ稍狼狽ノ気味ニテ陸ニ耳打ヲナシ急ニ本使等ヲ引留メ種々泣言ヲ述ベ山東問題満蒙問題ハ非常ニ複雑セルモノニ係リ幾多ノ難問モアリ旁国民ニ対スル思惑ニモ顧ミ今日之等ヲ決定シ第五号ハ他日適当ノ機会ヲ見テ更ニ之ヲ協議スルコトトシテハ如何ト考ヘ居ル旨ヲ洩ラシ頻ニ支那政府ノ窮境ヲ訴ヘタルニ付本使ハ第五号ノ諸問題解決ハ今日ヲ以テ最モ適当ノ機会ナリト確信スル旨ヲ申聞ケ外交部ヲ引取レリ別ルルニ臨ミ陸ハ頻ニ可然日本国政府ニ執成シ第五号ノ要求ハ日本国ニ於テ譲歩セラレタキ旨ヲ懇請ニ及ベリ（終リ）

三一〇　四月九日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

次回ノ談判ニ於ケル議題及第五号中ノ未商議問題ニ関シ問合ノ件

第二二八号

貴電第一八五号ニヨレバ第五号ニ関スル商議ハ貴官ヨリ之ヲ打切ル旨ヲ声明セラレ其後多少ノ問答ハアリタルモ結局其儘ニテ会議ヲ終リタルモノノ如ク見ユルモ右ハ支那側ノ決意ヲ促ス為メニ執ラレタル手段ニシテ明十日ハ従前ノ通リ会議ヲ開クコトト推察ス果シテ然ラハ明日ハ何レノ問題ヲ討議スヘキ御見込ナリヤ承知シタシ又第五号ノ中第四項後段兵器廠ノ件及第五項鉄道ノ件ニ関シテハ未タ何等商議ニ上リ居ラザル処右ハ追テ商議スヘキ御見込ト思考スルモ果シテ然リヤ以上ノ点至急回電アリタシ

三一一　四月十日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

山東省平度地方ヘノ中国兵派遣問題ニ関シ回訓ノ件

第二二九号

貴電第一六九号ニ関シ陸軍省ノ意嚮ヲ尋ネタルニ同省ヨリ青島守備軍司令部ノ意見ニ拠レバ萊州平度地方匪徒ノ横行甚シトノ支那側ノ申立ハ事実全ク無根ニシテ支那兵派遣ハ毫モ其必要ナキモノト認ムル旨申越セリ就テハ右様ノ事情ニ付支那側ノ申出ハ応諾致難キ旨回答方可然御取計アリタシ

右済南ヘ転電アリタシ

三一二　四月十日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

四月九日曹次長ヨリ前日ノ陸総長ノ態度ニ付釈明アリタル後彼我意見ノ扞格アル諸問題ニ関シ討議シタルニ付右経過報告ノ件

第一八八号

四月九日曹汝霖本使ヲ来訪シ昨日談判ノ際福建省ニ関スル事項ハ極東ノ大局ニ顧ミ日本国政府ニ於テ特ニ重要視セラルル旨ヲ切言セラレ且第三国ノ関係モアル様暗示セラレタル処陸総長ニ於テ事情ヲ承知セズ従テ貴方ノ底意ヲ了解シ得サリシ為終ニカノ始末トナリタル次第ナルガ所謂第三国ノ関係ナルモノニ付今少ク詳細説明ヲ承リタキ趣旨ニテ総

長ノ命ニ依リ来訪シタリト述ヘ尚昨日総長ガ閣下ヨリ提出セラレタル案文ヲ一覧ダニセザリシ訳合ハ元来総長ハ大総統ヨリ第五号ニ付テハ一切討議ヲ避クベキ旨厳命ヲ受ケ居リタルニ拘ハラズ貴方ノ執拗ナル主張ト巧妙ナル操縦トニ依リ終ニ討議ニ引込マレ大総統ニ対シ深ク申訳ナシト感ジ居リタル矢先ユエ貴方ノ案文ヲ吟味シ又復何等カノ約束ヲ為サザルベカラザル破目ニ陥ラズヤトノ懸念ニ出デタル次第ナリ

総長ハ至ツテ正直且小心ノ人ナレハ現ニ昨日ノ談判ニ於テモ之レハ大変ナリト思詰メ忽チ顔色ヲ変ジ最後ニ閣下ヨリ述ベラレタルコト抔ハ殆ド耳ニ入ラズ又総長自身ノ述ベタルコトモ確トハ記憶シ居ラザル模様ナリ右ハ其後総長ノ自分ニ語リタル所ナリト云ヒ総長ノ態度ニ関シ頻リニ弁解ヲ試ミタリ依テ本使ヨリ昨日ノ談判ニ於ケル総長ノ態度ニ付テハ多少遺憾ナキニアラザルモ総長ノ人格ニ対シテハ平素尊敬ノ念ヲ有シ居ルヲ以テ昨日ノ態度ハ敢テ咎メ立テスル次第ニアラザルモ今後ハ冷静ニ討議ヲ尽サルル様希望スル旨ヲ述ベ次テ全然大総統及総長限リ内密ノ含ミマデトシ且如何ナル方法ニテモ後日之ヲ援用セザルコトヲ絶対條件トシテ福建問題ニ関スル日米交渉ノ極大要ヲ説明シ「ウキ

ルソン」政府ノ存在スル今日ニ於テ此問題ヲ決定シ置クハ東洋平和維持ノ為緊要ナルコトヲ懇々諭シタル所曹ハ十分ニ本使ノ趣旨ヲ了解シ支那政府トシテハ主義上固ヨリ異存ナカルベキ訳合ナルガ唯他国ト斯ル約束ヲ為ストキハ幾分其国ノ保護ノ下ニ立ツ姿トナリ独立国トシテ体面上忍ビ難キ次第ナリト述ベタルニ付本使ヨリ支那ガ斯ル事ヲ約束スル為日本国ノ保護ノ下ニ置カルベシトノ見解ノ全然理由ナキコトヲ反駁シ斯ル重要ノ問題ヲ議スルニ当リ徒ラニ体面論ヲ云為スルハ智者ノ執ルベキ途ニ非ズ元来貴国国民性ノ弱点ハ余リニ体面ノミニ重ヲ措キ実際ヲ閑却スルニアリ今日ハ貴国ニ取リ将ニ其弱点ヲ自覚シ非常ノ決心ト勇気トヲ以テ進ムベキ時ナリト説キ聞カセ昨日ノ談判席上総長ハ本件ニ関シ支那政府カ福建沿岸ニ於テ軍事的経営ヲ外国ニ許サズ又外国ノ資本ニ因リ自カラ之ヲ行フコトヲモ為サザル旨ヲ声明スルノミニテ足ルベシト述ベタルモ日本政府ハ遺憾ナガラ之ニテ満足スル能ハズ是レ支那政府ノ真意ヲ疑フガ為ニアラズシテ支那政府ニ其声明ヲ実行スルノ実力アリヤ否ヤニ付疑ヲ有スルガ為ナリ甚ダ極端ノ例ナルガ仮ニ某国ノ艦隊ガ突如三都澳ヲ占拠シタリトセン支那政府能ク之ヲ撃退シ得ルヤ否ヤト問ヒタルニ曹ハ黙シテ何等答フル所ナカリキ

次テ本使ヨリ米国海軍勢力巴奈馬運河開通ノ東洋ニ及ボセシ影響及之ニ処スベキ東洋人ノ覚悟等ヲ詳細ニ説述シ今ヤ米国ニ於テハ日支両国間ニ何等カ協定ノ成立スルヲ待チ自ラ進ンデ自制的約束ヲ為スベシト考ヘ居ル好機ヲ逸スルハ即チ後世ニ大罪ヲ負フモノナリ明達ナル大総統ノ必ズヤ事態ノ緊要ナルコトヲ了解セラルベキニ付篤ト本使内話ノ次第ヲ稟議シ本問題ニ関シ談判進捗ノ途ヲ開クコトニ尽力アリタシト述ベタルニ曹ハ本使ノ趣旨ハ十分了解シタルモ何分支那政府ノ立場トシテハ約束ヲ為スコト困難ナルニ付日本国政府ニ於テ支那政府ノ声明ヲ利用シ米国ト協定セラルルコト然ルベク尤日本国政府ニ於テ第五号ニ関シテハ福建問題以外ハ一切要求ヲ強請セズト約セラルル義ナレバ本問題ニ付尚多少談判ヲ進ムル余地ナキニアラザルベシト語リ尚ホ大総統ハ今回ノ要求ニ対シ誠意ヲ以テ出来得ル限リ譲歩ノ覚悟ヲ有シ居ラレ日本国ニ於テ重要視セラルルモノト認メタルモノニ対シテハ既ニ思切リテ譲歩ヲ約セラレ只第五号ノミハ勘クトモ現時ニ於テハ絶対的ニ之ヲ排斥シ以テ国民ニ対セラレントスル決心ナルヲ以テ第五号ニ付具体的約束ヲナス事ハ到底不可能ナリト繰返シ支那政府カ第一号第二号ニ関シ為シタル多大ノ譲歩ニ顧ミ第五号丈ケハ日本国政府ニ於テ強請セラレザルベキ事ヲ希望スル旨只管ラ愁訴セリ之ニ対シ本使ヨリ第五号ニ対スル日本政府ノ態度ハ従来屢々言明シタル通ニテ重テ説明ヲ須ヒザルベキモ要スルニ鑒方十分ニ討議ヲ尽シ何等カノ形ニ於テ協定ヲ遂ゲザレバ止マザル方針ナリト強硬ニ言明シ置キタリ次デ曹ハ満洲問題中未決事項ニ談及シ支那ノ主張ハ絶対絶命ニシテ此上譲歩ノ余地ナキニ付キ枉ゲテ同意アリ度彼ノ租地章程制度ノ如キモ畢竟多年ノ慣行ヲ成文トシ各地方ノ制度ヲ統一センストスル外他意アルニアラズ

又日本国カ雑居権ノ交換トシテ警察及課税ニ服従スベキコトヲ承諾セラレタルハ現行警察法規及課税ニ服スベキコトヲ承諾セラレタル次第ナルベク之ニ対シ日本国領事官ノ承認ヲ條件トセラレタルハ甚ダ了解ニ苦ム所ナリ独立国タル支那トシテハ其警察法規又ハ課税方法ニ付他国ノ承認ヲ條件トスルコトハ体面上到底忍ビ得ベキ所ニアラザルニ付是非共支那側ノ主張ニ同意アリタク将又裁判権問題ハ全ク世界ニ例ナキ程度迄譲歩シ支那政府ハ今ヤ国民ニ対シ弁解ノ辞ナキ苦境ニ立チ居ル次第ニ付土地ニ関スル裁判権ハ是非共完全ニ支那ヲシテ保有セシメラレタシト懇願シ更ニ漢冶萍公司問題ニ移リ今日ノ場合是迄言明シタル以上ニ本問題ヲ進ムルコトハ支那政府ノ到底不可能トスル所ナリ公司株主心理状態ハ実際日本国ニ於テ十分ニ了解シ居ラザルベキガ若シ万一中央政府ニ於テ日支合辦ヲ承諾スルガ如キ態度ヲ示サンカ彼等ハ必ズヤ激烈ナル反対ヲ為スベク其結果政府ハ頗ル困難ナル地位ニ陥ルベシ実ハ自カラ弱点ヲ披露スルガ如キ嫌アルモ極ク有体ニ云ヘバ袁大総統ノ勢力ハ今ヤ北方ニ於テハ遺憾ナク行ハレ居ルモ南方ニ於テハ未ダ確定スルニ至ラズ事毎ニ気兼ネ気苦労ヲナシ居ル実情ナルヲ以テ本問題ニ対スル支那政府ノ苦衷ハ充分ニ諒トセラレタシ要スルニ漢冶萍公司ニ関シ日本資本家ノ顧慮スルハ之ヲ国有トシ又ハ官設シ乃至ハ外国ノ手ニ帰セシムルガ如キ事無之ヤノ点ナルベキモ此等ノ点ニ付テハ支那政府ニ於テ直ニ否定的約束ヲナシ得ルモノナルヲ以テ此約束ヲ得バ差向キ寸毫モ懸念ナカルベク殊ニ支那政府ニ於テハ適当ノ機会ヲ以テ日本国ノ希望ナル合辦ヲ実現セシムル決心ヲ有シ居ル次第ナレバ此際日本国ニ於テ支那ノ国情ヲ無視シ無理強セラルルル必要ナカルベシ実際支那政府ニ於テハ公司不始末ノ情況ニ顧ミ近キ将来ニ於テ公司ノ調査ヲ行フ考ナルガ其結果トシテ整理ノ目的ヲ達スルニハ之ヲ国有トスルカ又

ハ更ニ外国資本ヲ仰グノ外ナカルベキモ此二方法トモ前記約束ニヨリ拘束セラルルモノトセバ結局日本国ト合辦経営ヲナスノ外途ナキニ至ル次第ナルヲ以テ政府ハ斯クシテ日支合辦ヲ実現セシムル決心ナルニ付是非共支那ノ主張ニ同意セラルル様致シタシト切言セリ

最後ニ本使ハ我原提案第二号ノ東部内蒙古ニ関スル事項ニ付テハ別ニ議ストノ約束トナリ居レルガ右ハ如何ニ取極メラルル考ナリヤト問ヒタルニ曹ハ東部内蒙古ニ対スル日本国ノ関係ハ南満洲ニ対スルト全然其類ヲ異ニシ一律ニハ論ジ難ク殊ニ東部内蒙古ノ地域ナルモノガ果シテ日本国ノ意味セラルルガ如ク赤峰熱河迄モ包含セラルルモノトセバ更ニ由々敷大事ニシテ絶対ニ考量ノ余地ナキト同時ニ同地方ノ現状ガ他地方ニ比較シ全然別世界タルノ観アルニ顧ミ日本人ノ雑居貿易ヲ許シ又ハ商埠地ヲ開カントスルガ如キハ事実上行ハレ難キノミナラズ外人保護ノ点ニ付テモ到底其責任ヲ全フスルコト不可能ノ有様ニ付條約ニ基ク護照発給スラモ是迄屢々異議ヲ唱ヘ居ル仕末ナリ

従テ今回ノ日本国提議ニ対シテハ徹頭徹尾同地方ヲ除外セントヲ主張スル筈ナリシモ日本国ノ意志ヲ尊重スル趣旨ニ依リ兎モ角一応ノ考量ヲ加ヘ何等カノ方法ヲ以テ商議ヲ

纏メタシト考ヘ居ル次第ナリト云ヘルニ付本使ハ東部内蒙古ヲ除外セントノ貴国政府ノ趣旨ガ只今述ヘラレタルガ如キ理由ニ基クモノトセバ同地方ニシテ現ニ支那ノ行政区域ニ編入セラレ居ル地方換言セハ支那ノ勢力ガ普及シ居ル部分ニ対シテハ南満洲ト同様ノ取極ヲ為スモ差支ナク又実際上何等ノ障害ナキモノト了解セラルルガ如何ト反問セルニ対シ曹ハ現在内蒙古ニ喰込ミ居ル行政区域ナルモノハ他地方ト全ク趣ヲ異ニシ一概ニハ論ジ難シ要スルニ蒙古地方ハ政治上ノ関係ガ如何様ニナリ居ルトモ人文ノ発達セザル一種ノ野蛮地方タルニ相違ナキコトナレバ到底南満洲地方ト同様ニハ律シ難シト答ヘタルニ付本使ハ果シテ然ラバ地方ノ野蛮ト否トヲ問ハス無難ニ適用実行シ得ヘキ問題ニ対シテハ貴国政府ニ於テ之ヲ拒マルルノ理由ハナカルベク即チ顧問教習鉄道借款ノ如キ然リト切込ミタルニ曹ハ何等弁解ノ辞ナク兎モ角何トカ講究スベキ旨答ヘタリ依テ本使ハ東部内蒙古問題ニ関スル帝国政府ノ決心ハ強固ニシテ到底不問ニ附シ難キ旨ヲ言明シ是非共我主張ニ同意スル様尽力方ヲ促シ置ケリ

以上曹ノ談話ノ次第ハ悉ク支那政府ノ真意トハ素ヨリ断言シ難キモ或程度迄ハ同政府ノ意図ヲ代表シ居ルモノト看

テ差支ナカルヘク御参考トナルヘキ点尠カラスト存シ特ニ電報ス（終）

三一三　四月十一日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

第二十一回談判ニ於テ福建兵器南支那鉄道ノ諸問題ヲ商議ニ付報告竝第五号ニ対スル我政府ノ所見ニ付請訓ノ件

第一八九号

四月十日第二十一回会議ヲ外交部ニ開ク本日ハ午後三時ヨリ七時ニ至ル迄福建問題及兵器問題ニ関シ詳細ニ亘リ再応論議ヲ尽シ終リニ南支那鉄道問題ニ入リ多少意見交換ヲ行ヒタリ、福建問題ハ昨日曹ト話合ノ結果多少雙方意志ノ疏通セル感ナキニアラザリシモ要スルニ陸総長所見ノ要領ハ今回ノ交渉談判ニ付テハ既ニ東三省山東省ニ関シ支那トシテ実ニ忍ビ難キヲ忍ビ多大ノ譲歩ヲ為シ日本国ノ要求ニ応ズルコトトナリタル訳ナルガ此上更ニ他ノ地方ニ及ビ福建問題モ応諾スルニ於テハ国民ヲシテ多大ノ疑惧心ヲ懐カシメ自然民心動揺ヲ来タスモ保シ難ク斯クテハ独リ支那ノ為メニ不幸ナルノミナラズ日本国ノ為メニモ決シテ利益ト云フベカラズ併シ福建省沿岸ニ於テ支那ガ外国ニ軍事的設備ヲナスコトヲ許サザルノミナラズ又外国資本ニヨリ是等施設ヲナサザルベキコトハ既ニ日支両国ノ意見相一致シ居ル次第ナレバ此事ハ第一号ヨリ第四号迄ノ各取極ニ一旦記名調印ヲ終リ然ル後右各号ト離シ別問題トシテ商議ノ上取極ヲナシ度何卒枉ゲテ同意アリタシト云フニ帰シ頻リニ懇談スル所アリ、本使ヨリモ昨日曹ニ内話セル理由ヲ以テ本問題ノ解決ハ今日ヲ以テ絶好ノ時期トスル所以ヲ説明シタルモ陸ハ第五号以外各号ノ調印後ナレバ直チニ提議セラルルモ苦シカラザレドモ他ノ各号ト同時ニ第五号ニ関シ取極ヲ為スコトハ到底出来ズト固ク主張シテ動カズ旁々貴電第二〇三号ノ四御電訓ノ修正案モ之ヲ提出スルノ機ヲ得ズ已ムヲ得ズ福建問題ハ論議略ボ終結ト認メ兵器供給ノ件ニ移リ第三回目ノ論議ヲ闘ハシ本件ハ本使ハ本件ガ我対支政策中ノ最モ重要ナル一問題タルノ関係ニ顧ミ論難最モ努メ余力ヲ貽サス我主張ノ支持ニ努力シタルモ支那側ハ前日来屢次ノ報告ニ拠リ御承知ノ通第五号中ノ各項ハ殆ド絶対的ニ我要求ニ応ゼザルノ方針ヲ立テ居ル次第ナルヲ以テ兎角言ヲ左右ニ託シ応諾ヲ肯ゼズ之ヲ要スルニ本日彼我ノ間ニ交ヘタ

ル論旨ハ過日ト殆ド同様ニシテ陸ノ言フ所ハ結局兵器ノ秘密ト其選択ノ自由ハ国防上頗ル重大ナル関係ヲ有スルノミナラズ必ズ或ル一定ノ数量ヲ日本国ヨリ購買スベシト約束スルトキハ機会均等主義ニ反スルノミナラズ自然支那ノ主権ガ一種ノ制限ヲ受ケ兵器選択ノ自由ハ甚シク束縛セラルルコトトナリ一国ノ体面上決シテ同意シ能ハザル所ナリト謂フニ帰シ本使ノ之ニ対スル反駁ノ要旨ハ支那ノ現状ニテハ兵器供給ハ殆ド之ヲ外国ニ仰ガザルベカラズ既ニ外国ヨリ供給ヲ仰グノ止ムヲ得ズトスレバ理論トシテハ国防論ヲ如何ニ振リ廻ストモ到底実際上兵器ノ秘密ハ絶対的ニ保ツヲ得ズ将又現在ノ実状ヨリ論ズレバ支那ニ対スル兵器供給ハ事実日独両国ニ限ラレタリト云フモ不可ナク其数量モ亦相半バス而カモ其兵器ノ精粗ニ付テ云ヘバ独逸国ノ供給ニ係ルモノハ八十八年式銃ニシテ我三十八年式ノ精銃ナルニ比スベカラズ又其価格モ品質ニ比較シ日本国ノモノハ低廉ナリ既ニ事実上兵器供給ガ日独両国ニ限ラルル以上其兵器ノ精鋭廉価ナルニ顧ミ所謂兵器選択ノ自由権ヨリ日本兵器ヲ採用スルニ決定セバ兵器統一ノ必要ハ各国ノ斉シク認ムル所ナルヲ以テ一定ノ数量ハ勿論全部ノ供給ヲ日本国ニ約束スルモ毫末モ機会均等主義ニ反スルモノト謂フベカラズ

被服材料ノ如ク各国同様ニ供給シ得ル物品供給ヲ或ル一国ニ約スルコトハ或ハ機会均等主義ニ反スルナランモ兵器ノ如キ各国各特別ノ制式ヲ有スルモノニアリテハ支那カ自由ニ其欲スル制式ヲ選択シ其国ヨリ一定ノ数量ヲ購買スルコトハ何等機会均等主義ニ牴触セズト云フニ在リ、次テ兵器廠合辦経営ノ件ニ関シテモ数回応答論弁ヲ重ネタルモ陸ハ断乎トシテ我希望ニ応ズルノ色ヲ示サズ但シ結局支那政府内部ノ内議トシテ決定セル所ナリトテ陸ハ日本兵器ハ品性良好ニテ価格ニ於テ廉ナルニ依リ他日適当ノ機会ニ於テ支那政府自身ノ発意ニ基キ陸軍武官ヲ日本国ニ派遣シ其軍事当局ト直接兵器購入若ハ合辦兵器廠設立ノ事ヲ協議スルコトヲ考慮スベキモ今日直チニ此事ヲ豫メ日本国ノ要求ニヨリ約束スルコトハ支那ノ体面上又主権関係上不可能ナル旨ヲ洩セリ尚陸カ政府ヲ代表シ責任ヲ以テ言明スル次第ナリト云ヘルニ不拘本使ガ然ラハ本件ハ他日適当ノ時機ニ両国軍憲ノ間ニ之ヲ商議スヘキ旨ノ取極ヲ今日取結ビ置キ差支ナキヤト切込ミタルニ対シ陸ハ忽チ又々言ヲ左右ニシテ朦昧ノ態度ヲ示セルヲ見レバ多少右様ノ内議ハ支那政府部内ニアリタラント思ハルルモ真実ニ十分ノ誠意ヲ以テセル

言トモ認ムルヲ得ズ結局本問題ハ尋常一様ノ交渉ニテハ我主張ヲ貫徹シ得ベキ見込ナキモノト認メタリ

次ニ第五号第五項南支鉄道問題ニ関シテモ陸ハ兎角ニ論議ニ深入リスル事ヲ避クル態度ヲ示シ兵器問題竝ニ福建問題ト同様本件モ第五号中ノ一項ニシテ第五号ハ始ヨリ対内政策上切ニ日本国ノ譲歩ヲ希望シ居ル次第ナルヲ以テ論議ヲ須ヒス達テ譲歩セラレタシトノミ懇請シテ止マザリシモ本使ハ前回モ述ベタル通リ何等適切ナル理由ヲモ示スコトナク只単ニ第五号中ノ一項ナルガ故ニ承諾シ難シト云フ事ハ道理アル説明トシテ首肯スルヲ得ズト反駁シ極力先方ヲシテ商議ニ応ゼシメント試ミタルニ拘ラズ陸ハ又々談判ノ歴史ニ遡リ縷々支那政府当初ノ意見ノアリシ所ヲ詳述シタル後第五号ハ当初ヨリ絶対的ニ拒絶ノ覚悟ヲ有シタルモノニシテ此覚悟ハ今尚ホ之ヲ堅持シテ変ラザル次第ナリト述ベ更ニ斯クスルノ対内政策上已ムヲ得ザル所以ヲ憩ヘ且ツ第五号各項多クハ支那ノ主権領土権若クハ他外国トノ條約ト牴触スル所アルヲ以テ到底同意シ難キモノナリト論ジ最後ニ第五項南支鉄道問題ノ如キモ或ル外国ト取極タル約束ニ牴触スルガ故ニ応諾シ難キ次第ナリト論結セリ依テ本官ハ更ニ陸ニ対シ反問スルニ我要求鉄道線路中他国ニ与ヘタル線路ニ何等関係ナキ部分ハ十分商議ノ余地アルベク又他国トノ鉄道借款契約條項ニ対スル解釈上我方ヨリ要求ノ線路ヲ支持スヘキ十分ノ理由ヲ提出スル場合ニハ是又商議ノ余地アルベク将又他国ノ取極ト牴触スル点ハ日本国ガ直接他国ト協議ヲ整ヘタル場合ニハ支那ハ何等反対スベキ理由ナキニアラズヤト切リ込ミ右三点ニ対スル陸ノ所見ヲ求メタルモ陸ハ右質問ニ対シ明確ナル答弁ヲ避ケ只漠然タル大体論ト情実論ノミヲ繰返シ繰返シ陳述スルノミニシテ本使ニ於テモ折衝甚ダ困難ヲ感ジタリ之ヲ要スルニ支那政府内部ノ底意ハ四月九日曹汝霖カ本使ヲ来訪シ内話シタル通ナルヘク結局我要求ニ対シテハ第一号ヨリ第四号迄何トカ適当ニ纏リヲ付ケ第五号ハ全然我要求ヲ拒絶セル旨ヲ発表シ一方ニ於テハ対内政策上民心緩和ニ資シ又一方ニ於テハ世界ニ対スル多少ノ体面ヲ装ハントスル真意ナリト了解セラル然ルニ今ヤ第五号各項ハ略ボ論議ヲ尽シ残ル所ノ第五項南支鉄道問題モ次回ニ於テ兎モ角意見ヲ交換スル所存ナルモ其成行ハ他各項ノ例ニ照ラシ略ボ見当モ相付ケ得ル次第ナルガ結局第五号ニ対シ我政府ハ今後如何ニシテ之レガ解決ヲ期セラルル御所存ナリヤ本使ニ於テハ目下夫レ夫レ研究中ニシテ追テハ何分ノ意見上申ノ機アルベシト思料

スルモ兎モ角第五号ニ対スル我政府ノ御所見此際御回示ヲ得バ今後ニ於ケル本使折衝ノ指針トシテ頗ル便トスル所ナリ

三一四　四月十二日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

第二十回談判ニ於テ問題トナリタル租地章程護照註冊及土地租契ニ関スル共同審判ノ三件ニ付回訓ノ件

第二三一号

貴電第一八五号ニ関シ

㈠　租地章程ノコトハ(イ)矢張往電第一九四号ノ通リ全然條約ヨリ之ヲ除キ只前ニ右章程ニシテ相当ノモノナルニ於テハ他日右出来ノ上ニテ我方ニ於テモ成ルベク好意ヲ以テ接洽スヘキ旨言明スル位ニ止メ度(ロ)然ラズンバ右章程ハ我方ト妥商決定スヘキ旨ヲ取極置クコトト致度モ(ハ)貴電第一八五号ノ一及同五御来示ノ通リ支那側ノ意嚮ガ租地章程ニ成ルベク長キ期限ヲ設ケ又期限満了ノ時ニハ継続租地スルヲ許可スル方針ナル以上已ムヲ得ザレバ先ツ貴官ヨリ支那側ノ所謂土地章程ナルモノニハ如何ナル事項ヲ規定スベキヤヲ問合ハセラレ規定事項ニシテ別段差支ナク又期限ノ点ハ蘇州日本居留地取極書第八條ノ如キ精神ニテソレヨリ成ルベク永キ期限ノ規定ヲ入レ且右章程ヲ変更又ハ修正スル場合ニハ必ズ我方ノ同意ヲ得ルコトノ了解ト相成ルニ於テハ右ノ條件ノ下ニ商租ノ語ヲ用フルコトニ同意シ及租地章程ハ日本国ト妥商決定スベキ旨ノ修正ヲモ撤回スルコトトスルモ差支ナシ尤モ右土地章程ノ件ハ勿論農業用地ニノミ関スルコトニシテ商工業用地ニ付テハ往電第二一六号ヲ以テ申進シタル通リ購買又ハ賃借或ハ永租又ハ暫租ノ意ヲ明記スルコト必要ナリ尚商租トハ「租借ヲ商議ス」トノ意味ニ過キスト思考スル処如何ニヤ之亦為念電報アリ度シ

㈡　護照註冊ノ件ハ如何ニ総長ノ責任アル言明ナリトモ後日ニ何等ノ證拠モ残ラザルハ我方ニトリ不利少カラザルニ付他ノ同様ノ支那側言明ノ諸件ト共ニ貴電第一七〇号ノ八第五号学校病院土地所有権ノ件ノ如ク陸総長言明ノ意味ヲ会議録体ニ認メ貴官竝ニ陸ニ於テ記名スルコトトスルカ又ハ最終議定書様ノモノニ一括記入シ置クコトト致度シ尚今回ノ交渉ハ最初ヨリ会議録ハ調成シ居ラレザル次第ナルヤ為念承知致度シ

㈢　土地或ハ租契ニ関スル共同審判ノ件ハ貴電第一八五号ノ三陸総長私案ノ意味ニテ差支ナシ尤モ右ハ日本人間ノ訴訟ノ件ハ無論除外セルモノト思考ス尚字句ハ後日修正スルコトアルベキハ申ス迄モナシ

三一五　四月十二日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

平度地方ノ匪徒ニ対スル中国側派兵ニ同意方進言ノ件

第一九二号

貴電第二二九号ニ関シ平度地方ニ於ケル匪徒ノ状況如何ハ本使ニ於テ詳知セザルモ支那側ニ於テハ切ニ派兵ノ必要ヲ認メ再応我同意ヲ求メ来リタル次第ニ付兵数モ少キコト故他ニ差支ナキ限同意スルコトトシタシト考フ左スレハ支那政府ガ帝国政府ノ意図ニ対スル疑惑モ幾分除カレ談判進行上ニモ好都合ト存セラルルニ依リ再応其筋ニ御協議ノ上何分ノ義電報アリタシ

三一六　四月十二日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

警察法令及租税ノ我領事官承認問題ニ関スル妥協的考案ニ付意見問合ノ件

第二三二号

貴電第一八五号ニ関シ

警察法令及課税ノ件ニ付テハ我方ニ於テハ支那ニ如何ナル警察法令アルヤヲ熟知セザルノミナラズ満洲ニ於ケル実状ニ徴スレハ支那警察官ハ警察法令ノ適用解釈等ニ付甚専擅ノ措置ニ流レ居ルヤニ見受ケラレ又或種ノ警察法令違反ニ付テハ今ニ笞刑ヲサヘ実行シ居レル模様ニモアリ其他支那警察制度ノ不備及支那警察官ノ不熟練ナル実状ニ照ラシ支那側ノ主張スル如ク日本国臣民ヲシテ無條件ニ支那ノ警察法令ニ服従セシムルコトハ到底我方ニ於テ同意シ得ザル所ナリ然レトモ本問題ニ付テハ支那側ニ於テモ頗ル困難ナル事情アル模様ナルニ顧ミ仮令ハ左記(甲)又ハ(乙)ノ如キ考案ニヨリ本件ノ解決ヲ図ルコトモ亦一策ナルヘシト思考ス即チ(甲)支那側ヨリ日本国領事ニ必要ナル警察法令ヲ通告シ日本国領事ハ出来得ル限リ右警察法令ヲ内容トセル日本国領事館令ヲ発布シ日本人ハ右館令ニ服従スル形式トスルコト

モ一案ナルヘク右ハ日本国遷羅国間ニ於テ類似ノ実例アル所ナリ（明治四十三年三月編纂領事官執務参考書第五九六頁参照）右ノ如ク為サバ実質ニ於テ支那側ノ希望スル所ト大差ナキコトナルベク而シテ我方ニ於テ甚シク不都合ノ法令ト認メザル限リ大抵ノ法令ハ右ノ方法ニヨリ日本人ニ適用アラシムルコトトナスベキ旨ヲ言明シ又右ノ如ク取極ムル以上現在ノ未開放地ニ於テハ支那警察官ニ於テ最寄ノ日本領事官ニ引渡スガ為ニ日本人ヲ逮捕シ得ルコトヲ認ムルコトトナスベク其代リ満蒙ニ於ケル支那警察ヘ日本ヨリ相当数ノ警察官ヲ入レ之ヲ必要ナル地点ニ配置シ以テ運用ヲ便ニスルコトト致度右日本警察官ヲ入ルルコトハ言語風俗ノ相違支那警察ノ現状不備等ニ顧ミ必要ノ処置ナリ右日本警察官ハ支那側ノ都合ニヨリ当分無給トスル事モ詮議シ且ツ又租税ノ方ハ相当（reasonable）ナル課税ニハ服スル旨ノ取極ト為シ置クコトトスルカ又ハ（乙）「相当ナル行政警察法令及相当ナル租税ニハ服スル旨」ノ取極ト為シ置キ一面右警察法令運用ノ円滑ヲ図ランガ為此際相当ノ日本警察官ヲ傭聘セシムルコトト為スガ如キモ一案ナリト思考スル処右甲乙両案何レモ未定ノモノナレドモ先以テ之ニ関スル貴官御見込ヲ承知セシ上ニテ当方ノ意見ヲ決定スルコトト要スルニ付四月十三日ノ閣議ヲ経タル上更ニ確定ノ所ヲ申進ズベキニ依リ右ニ御含置アリ度シ（註）

㈠　顧問ノ件ニ付テハ貴電第一六六号ノ八支那側言明「将来ニ於テモ必要ノ場合ニハ必ズ日本人ヲ傭聘スヘキ旨」ノ意味ヲ会議録体ニ認メ雙方記名シ置クコト

㈡　学校病院ノ土地所有権ニ付テハ往電第二一一号ノ通リ取計フコト

㈢　兵器問題ニ付テハ貴電第一八九号ノ五末段陸総長ノ所謂支那政府ノ内議ノ通リ「他日適当ノ機会ニ於テ支那ヨリ陸軍武官ヲ日本ニ派シ日本軍事当局者ト直接兵器購入若ハ合辦兵器設立ノコトヲ協議スヘキ旨」ヲ会議録体ニ認メ雙方記名スルカ又ハ右ニ付文書ノ交換ヲ為シ置クコト

㈣　南支鉄道ニ付テハ他外国ニ於テ故障ナキコト明ナルニ至リタル場合ニハ必ズ日本国ニ許与スベキコトヲ約スルカ又ハ本件ハ全然今回ノ交渉ヨリ引離シ別ニ日本国ニ於テ直接支那側ノ所謂本件関係他外国トノ間ニ話ヲ纏ムベキニ付右纏マル迄ハ本件鉄道ハ何レノ国ヘモ許与セザルベキヲ約スルコト右約束モ前記ノ如ク会議録体ニ認ムルカ又ハ文書ノ交換トスルコト

㈤　福建省ノ地位ニ関スル問題ハ貴電第一八九号ノ二ノ通

致度ニ付至急何分ノ御意見御申出アリ度シ尚別ニ御意見モアラハ同時御申報アリ度シ

尚貴電第一七〇号ノ五及貴電第一七三号ノ十ニヨレハ支那側ハ警察法令トハ全国ニ通用スル一般的規則ナル旨陳弁シ居レル処支那側ノ所謂警察法令トハ印鋳局刊行ノ法令全書ニ在ルガ如キ一般的ノ法令ノミヲ指ス趣旨ナルヤ又ハ東三省政略ニ見ユルガ如キ満洲ニ特殊ノモノ迄ヲモ含マシムル意味ナルヤ其辺明確ナル説明ヲ得置カレ度シ

三一七　四月十二日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

第五号各項ニ関スル我方譲歩ニ付竝内蒙古問題等ニ関スル我主張貫徹方ニ付訓令ノ件

第二三四号

貴電第一八九号及第一九〇号ニ関シ

第五号各項ニ付テハ篤ト審議ノ結果左記ノ点迄譲歩スルコトトナスベキニ付其代リ第二号第二條及第三條内蒙古問題等ニツキ出来得ルダケ我主張ノ貫徹ヲ見ル様極力交渉ヲ遂ゲラレ度シ尤モ左記各項中兵器問題ニ付テハ閣議ノ決定ヲリ已ニ日支両国ノ意見相一致シ居ル次第ニ付往電第二〇三号末段我修正案第一項ノ意味ヲ何等カノ形式ニテ約束スルコト右ハ貴電第一八八号ノ四末段曹汝霖ノ日本国ニ於テ福建問題以外ハ一切要求ヲ強請セザル義ナレバ本問題ハ考慮ノ余地アル旨洩セルニ見テモ貫徹ノ見込アルベク将又米国政府ノ内意貴官ヨリ支那政府ヘ内告方米国ニ異存ナキハ往電第二三三号転電ノ通ナリ

㈥　最後ニ布教権ノコトハ追テ更メテ我方ヨリ交渉ヲ開始スヘキ旨ノ声明ヲ会議録体ニ認メ雙方記名スルコト

尚支那側ハ国内人心ノ動揺ヲ云々シテ第五号等ノ商議ヲ拒ム有力ナル理由ト為シ居レル如キモ国内人心ノ動揺ナルモノアリトセバ右ハ其実支那政府ガ不謹慎ニモ日支交渉ノ内容ヲ内外ニ漏洩セル結果ニシテ云ハバ自縄自縛トモ云フヘキ筋合ナル旨序ノ節申添ヘ置カレ度シ

註　此ノ点ニ関シ四月十三日加藤外務大臣発日置公使宛第二三六号ヲ以テ左ノ通リ電報セラレタリ

「往電第二三四号ニ関シ兵器問題同電記載ノ通リ決定シタルニ付其趣旨ニテ御交渉相成タシ」

三一八　四月十三日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛

中国ノ新聞論調続報ノ件

公信第一一三号（機密）　（四月二十六日接受）

大正四年四月十三日

支那新聞論調報告（自四月三日至四月十二日）

我カ対支提案解決ノ追々遷延スルヨリ或者ニ使嗾煽動セラルル排日本的気勢ノ四川雲南ノ辺境ニ至ルマテ洽ネク伝播セラレタルノ一事ハ其ノ実情ノ如何ニ論ナク大イニ注目スヘキノ現象ナリ第五号案ノ逐次討議ニ上ルニ連レ支那方面一般ノ輿論ハ漸ク緊張シ其記事論説振リ共ニ稍々堅実ノ体度ヲ示スヲ見ル第五号案ハ支那側ニ於テ最初ヨリ討議拒絶ノ意ヲ表シ居ルモノニシテ殊ニ近来東洋方面ニ在ル英米人等ハ我日本ニ対スル一種ノ猜疑心ヨリ且ツハ我要求條件ノ内容ヲ公表セザルヲ利用シ漫然主権侵害ト列国ノ利益侵蝕トヲ論議鼓吹スルアリ又第五号案ハ最初ヨリ其形式ヲ異ニシ希望條件トシテ提出セラレタル等事情ヲ察知シ一面我政府ハ総選挙ニ於テ絶体多数ヲ占ムルヲ得テ国論ノ反対ヲ抑圧シ得ルニ至リタル結果少ク共第五号案ニ就テハ十分退譲ノ余地アルヲ期待シ居ルモノノ如ク此際中外各紙ニ転載

サレタル大隈首相ガ「ルーター」通信員トノ会談中日支交渉現在ノ進行情態ニ満足ヲ表シタルノ一事ト英米提議内容ノ略ボ外間ニ漏洩セルトハ確カニ支那側ノ輿論態度ヲ執拗堅実ナラシメタルノ一因ナリト認メラル四月十二日ノ民視報ノ如キハ（民視報ハ元来官僚系新聞ニテ今回ノ談判成行ニ就イテハ常ニ尤モ的確ノ記述ヲ為シ居レリ多分ハ外交部或ハ総統府側ヨリ洩ラサルルモノト察セラル）其緊要新聞欄ニ於テ「中日交渉ノ索隠談」ト題スル記事中「第五号問題提出ノ裏面」ナル一節ニ於テ

日本公使カ第二号第三号ノ各問題ノ皆ナ未ダ解決セザル此際忽如又第五号問題ヲ挟雑提出シテ開議ヲ求ムル元来第五号ノ各問題ハ開議ノ余地ナキモノナルニ日本公使此種ノ辦法ハ人ヲシテ模捉ニ苦マシムルモノアリ昨某消息通ハ云フ日本公使ノ南満雑居問題ト五号各項問題トヲ一併シテ開議セントスルハ其用意蓋シ支那ガ五号問題ヲ承認セザレバ日本ハ南満雑居問題ヲ譲歩セス仍チ南満問題解決ノ為メ五号各問題ヲ交換利益ト為スモノニアラザルナキカト此手段タル頗ル巧妙ニテ以テ一面ニハ南満問題ヲ堅持シ得ベク一面ニハ交渉ノ進行ヲ停止セザルヲ得ベケレバナリ云々

ト云ヘリ正ニ一種ノ消息タルヲ認ムル要スルニ此際日本カ武力ノ圧迫ヲ断行スルモノニ非ズト確信スル支那当局者及一般ノ識者ハ最初ヨリ我ガ幾分ノ退譲ヲ期待シ忍耐持久我ガ要求ヲ値切ラント期スルモノノ如ク偶々我ガ交替兵ノ出入ハ排日的好口実ヲ与ヘ救亡論ハ絶叫セラレ日貨排斥ハ唱道セラレ国貨専用論ト愛国儲金説ハ提唱セラレ人心漸ク浮動シテ険象迭出シ現ニ北京ニ於テサヘ排日的文字ヲ列記シタル引札ノ配布ヲ見ルニ至レリ左ニ重ナル各紙ノ論説ヲ摘訳セン、四月三日ノ北京日報ハ「米国近日ノ態度」ト題シ

日本人ハ種々ノ謡言ヲ作リ米国ハ日本要求ヲ賛成シタルモノノ如ク言ヒ振ラスモ「ウキルソン」ノ声言ニヨレハ対日ノ質問ニ対シテハ未ダ日本ノ回答ニ接セス又米国ハ未ダ曾テ日本ノ要求ヲ賛成シタルコトナシトアリ此声言ハ支那当局者ノ尤モ尋味スヘキ処幸ヒニ日本ノ恐嚇ヲ受クルコト勿レ

ト同日ノ国権報ハ「日支邦交維持ノ希望」ト題シ

日支交渉発生以来我国ハ垢ヲ含ミ辱ヲ忍ヒ真誠懇摯ノ態度ヲ以テ融通遷就シツツアルハ世界ノ認ムル処ナラン日本方面ハ専ラ強硬ヲ事トシ何等ノ余地ヲ存セシメス夫レ黄雀ノ螳螂ヲ捕フル勝負ハ吾ニ決スヘキモ恐ルル処ハ猟

者ノ後ロニ伺フアルノミ要スルニ日本此度ノ要求ハ二三野心家ノ図功ノ計ノミ日本ノ言論界ニハ其政府カ強ヲ畏レ弱ヲ凌クヲ責メ武力内閣ト攻撃シ日支感情乖離ノ責ハ寧ロ日本側ニ在リト主張スルモノアリ之レ実ニ仁人君子人道ヲ尊崇スルモノノ声ナリ他日東亜ノ兄弟国手ヲ携ヘテ世界ノ牛耳ヲ執リ強権無理ノ白種族ニ対スルノ日アランコトヲ希望スルモノナリ

ト云ヒ同日ノ亜細亜日報ハ其社説ニ「允否」ト題シ

四月一日ノ会議ニ於テ日本公使ハ某問題ニ対シ「允否」ノ二字ノ決答ヲ我ニ迫リタリト驚心動魄ノコトナリ惟フニ堂々タル国家ノ権利損失ハ是レ殆ント允スヘカラサルモ亦好々ノ友邦ノ睦誼モ決絶的ニ否却スヘカラス実ニ両難ノ問題ナリ故ニ「允」ハ我国ノ言フヲ欲セスシテ日本公使ノ必ス言ハシメントスルモノ「否」ハ日本公使ノ聞クヲ欲セサル処ニシテ我国ハ之ヲ聞カシメサル能ハサルモノ「允否」ハ実ニ一大問題ナリ吾人ハ今我国人ニ代リ之ヲ解答ヲ為サントス曰ハク日本公使ヨク平心和気我ノ「否」ヲ允スヤ否

四月五日ノ北京日報ハ「政府ト民気」ト題シ

民気ノ磅礴ハ愛国心ノ表示ナリ其ノ優秀ノ点ハ之ヲ滋長

スヘク其危険ノ点ハ之ヲ防護スヘシ今日我国民ノ程度ヲ以テスレハ政府正当ノ防護ハ不可ナシトスルモ之ヲ遏抑スルハ絶体ニ不可ナリ

同日ノ黄鐘日報ハ「外交ト国連」ト題シ

今日日本ノ要求中外交者ノ所謂絶体ニ承認スル能ハスト称スルモノヲ漫然允認スルニ於テハ他日欧戦終結シテ分割ノ惨ヲ免レサルニ至ルヘシ

ト極言シ天民報ハ又三四五日ニ渉リ「理勢ノ作用ト日支ノ得失ヲ論ス」ト題シ滔々数百言天下ノ理勢ヲ説キ歴史ヲ回顧シタル後

要スルニ日本ノ一時ノ勢力ヲ用ヒ支那ノ委靡ニ乗シ之ヲ摧残セントスルハ到底日本ノ計ニアラス同種同文唇歯相依ルノ両国ハ其地理上物資上ヨリスルモ相維持シ相扶植スルノ責任アリ日本人夫レ之ヲ知ルヤ否

ト結論セリ四月七日ノ民視報ハ「愛国者ハ妄動スル勿レ」ト題シ

日本ハ今日二十一ヶ條ノ要挟ヲ提出シ両月以来交渉未タ解決セス我カ当局カ和平礎議ノ苦心モ日本国人ノ諒スル所トナラス迭リニ武力威嚇ノ計ヲ為シ或ハ匪類ト句結シテ擾乱ノ謀ヲ為ス吾国民ノ憂憤不平已ムヲ得サル也憂憤

不平ハ愛国心ノ発動ナリ人々已ニ此心ヲ以テ其職ニ勉メハ必ス国家勃興ノ日アルナリ然レ共徒ラニ虚憍ノ気血気ノ勇攘臂怒目軽挙妄動以テ外釁ヲ招クカ如キハ国家ヲ危難ニ赴カシムルモノナリ

近ク南方各省ノ日貨排斥ハ理否ハ言ハサルモ明令ノ已ニ禁止スル所ナレハ我ノ賛同スル能ハサルモノナリ抑モ其不買不売ハ純然タル商人貿易ノ自由ニテ国家ノ権力モ之ヲ強制スル能ハサレハ其必買必売モ亦吾人何ソ必ス重ネテ貶責セン但吾人ハ愛国ノ一念カ常ニ軌道ヲ逸セサルコトアル耳

七日ノ国権報ハ「宗教篇」ト題シ

日本ハ西洋人布教ノ例ニ准シ日本人ノ仏教布教ヲ要求スト夫レ宗教主義ハ原ト大同ヲ取リ智識ノ交換ニハ何等不淑ノ理由ナシ若シ仏教ハ我ヨリ伝ヘタルモノ三峡ノ水ハ倒流スヘカラストノ論法ハ宗教ノ歴史ニ適用シカタケン但タ日本仏教ノ腐敗ハ支那ヨリ甚シキモノアリ其長大老大谷光瑞伯ノ如キ宮内省土地買上ケニ関スル賄賂ノ醜聞サヘアリ其他推シテ知ルヘシ其程度ノ我仏教ト韻頑スル能ハサルヲ見ル況ンヤ日本ノ要求ハ名ヲ布教ニ借リ其政治侵略的勢力ニ利用セントスルニ在ルハ人ノ知ル処一旦

其要求ヲ容レハ我全国ニ布満セル信仏教ノ国民ハ日本勢力ノ下ニ庇護セラルルニ至リ其害礦山鉄道ヨリ甚シキモノアラン

七日ノ大自由報ハ「日人口中ノ亜洲「モンロー」主義」ト題シ

貴族員議員沢柳政太郎氏ハ日支交渉評語中亜細亜ノ新天地ニ一種ノ「モンロー」主義ヲ立テ以テ日支両国ノ利益ヲ維持スヘシト云フモ第一外交上各国勢力均等主義ハ如何ニ之ヲ打破スルヤ第二日本ノ軍力強ト云フモ全世界ニ敵スルヤ否第三経済上日本ハ列強ニ仰ク処ナキカ斯ク一々観シ来レハ所謂日本ノ「モンロー」主義ハ自ラ量ラサルノ甚シキモノナリ

八日ノ国権報モ亦「開会排貨ノ非ヲ論ス」ト題シ

近来上海香港各所ニテ開会演説シテ日貨排斥ヲ主張シ甚タシキハ商店破壊ノ事アリト無謀ノ甚タシキモノナリ我上下各社界ヲシテ悉ク日本品ヲ使用セサラシメハ日本ノ大打撃ナルニハ相違ナキモ之レ一ニ国民カ愛国心如何ニ見ルノミ一時ノ憤激持久ノ性ナキハ吾国民ノ缺点一関ノ「ボイコット」ノ龍頭蛇尾ニ終ルハ豫知スヘシ徒ラニ開会演説スルカ如キハ草ヲ打チ蛇ヲ驚スモノ已ニ益ナク人

ニ損ナク但タ人ニ口実ヲ与フルノミ夫レ人ヲ謀ルノ心アツテ人ニ知ラルルモノハ危ク人ヲ謀ルノ心ナクシテ人ニ知ラルルモノハ愚ナリ「ボイコツト」ヲ行ハントセハ前清革命手段ノ如ク秘密ノ方法ハ可也一時ノ客気ニ激シ不謹慎ノ行アルハ大不可ナリ公等真ニ愛国ノ心アラハ自ラ日本品ヲ買ハサレハ可ナリ何ソ秩序ヲ擾乱シ強隣ニ口実ヲ与フルヲ敢テスルヤ

八日ノ北京日報ハ「内地雑居ハ範囲ヲ指定スヘカラス」ト題シ

日本ノ満洲内地雑居要求ハ極力拒絶スヘキモノナリ萬々一已ムヲ得ス之ヲ許可ストセハ必ス附帯條件ヲ要ス即チ将来他国カ利益均霑ヲ主張シ雑居ヲ要求スル時ハ地域範囲ヲ取消シ相互雑居スヘシト声明スルコト是也雑居結果ハ該処ニ会審衙門ヲ設クル上海ノ如クスヘシ然リ上海ノ如クセハ公共雑居ノ地ハ中国尚以テ亡ヒサルヘシ若シ日本ハ何処英国ハ何処露仏独ハ何処ト界限ヲ定メテ雑居ストセハ之レ支那分割ノ起点ナリ当局者之ヲ酌量セヨ

九日ノ民視報ハ「南満前途ノ光景」ト題シ

日本此度ノ要求五号二十一ヶ條一号ノ山東問題二号ノ満洲問題ハ漸次解決シ五号ノ要求ハ吾国ノ前途主権ニ至大

ノ妨礙アルモノ南満ノ一地ハ日本ノ特殊関係ヲ主張シ尤モ重要視スルモノナリ全部二十一ヶ條中ノ三分ノ一ヲ占ム我方面ハ時勢ノ已ムナキニ顧ミ殆ント戦敗国ノ体度ヲ以テ交渉ニ譲歩セリ旅大租借期南満安奉鉄道ノ延期九十九年南満九ヶ所ノ開鉱権鉄道借款租税抵当借款ノ制限顧問ノ傭聘吉長鉄道ノ改約、居住営業土地租借ノ権利此ノ七項ハ一トシテ支那ノ否認セルモノナシ雑居已ニ拒ム能ハスシテ領事裁判権ニ及フ領事裁判権拒ム能ハスシテ土地訴訟ノ一部裁判権ノミヲ保持ス主権ノ喪尽シ懦弱不振ヤ如何当局者ノ土地裁判権ヲ保持スルノ苦心ハ諒トスヘキナキニ非ルモ條約定マル後日本ノ資本家ハ多数ノ遊民ヲ率ヒテ南満内地ニ蜂集シ横行肆虐シ虎豹ノ羊群ニ於ケルカ如キモノアラン数年ノ後我ハ恐ル南満ノ地ハ折レテ日本人ノ手ニ入ランコトヲ

右及報告候也

三一九　四月十三日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

提案第三号漢冶萍問題ニ関スル妥協案ニ付訓示ノ件

第二三七号

漢冶萍問題ニ付テハ支那側屢次ノ言説ニヨリ先方意嚮ノ存スル所モ大体明瞭ト成リタルニ付篤ト審議ノ結果左ノ趣旨ノ約束ヲ取付クルヲ得バソレニテ満足スヘキニ付其御含ヲ以テ可然交渉ヲ遂ケラレタシ

（日本国ト漢冶萍公司トノ関係ハ極メテ密接ナルニ付他日同公司関係者ト日本資本家トノ間ニ合辦ノ議成リタルトキハ支那政府ニ於テ之ヲ承認スベク又支那政府ハ同公司ヲ没収セザル可又日本資本家ノ同意ナクシテ国有トナス事ナカル可且又日本国以外ヨリ外資ヲ公司ニ入レシムル事ナカルベシ）

原案第三号第二條ハ之ヲ存置スル事ト致シタシ尤モ同條中所謂「附近ニ於ケル鉱山」ナルモノハ今日直チニ之ヲ指定スル事不可能ナルベキニヨリ其何タルヤハ本交渉結了後追テ日支両国ヨリ員ヲ派シ実地ニ就キ調査ノ上決定スヘキ旨ヲ如何ナル形式カニテ記録シ置ク事トスルモ差支ナシ

三二〇　四月十四日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

第二十二回談判ニ於テ南支鉄道問題ヲ討議シタルニ付其ノ経過及提案第五号全体ニ対スル中国側ノ態度ニ関シ報告ノ件

第一九三号

外交部ニ於テ四月十三日第二十二回談判ヲ開ク本日ハ例ニ依リ午後三時ヨリ議事ヲ始メ午後六時五十分ニ至ル約四時間ニ亘リ南支鉄道ニ関シ前回ニ継続論議ヲ闘ハシタリ本使ハ先ツ南支鉄道要求カ西公使時代初メテ総理衙門ニ提出シタル十五年前ヨリノ沿革ヨリ説起シ客年故山座公使カ更ニ本問題ヲ外交部ニ提起シ交渉スルニ至ル迄ノ来歴ヲ述ヘ尚其ノ間明治四十年中林外務大臣時代ニモ厦門福州ヨリ漢口ニ至ル線ヲ日本国ニ於テ建設スルノ意志アルコトヲ英国ニ通知シタル事実アリ日本国カ終始一貫本鉄道布設ノ希望ヲ捨テザル次第ヲ説明シ支那政府ニ於テ此ノ事実ヲ十分ニ認識シ以テ前回ニ於テ本使カ為シタル三ヶ條ノ質問ニ対シ明確ナル支那政府ノ意向ヲ披露セラレンコトヲ望ム旨ヲ陳述シタルニ陸ハ本使ノ第一ノ質問即チ我方希望ノ線路中英国既得ノ線路ト衝突セザル部分ニ対シテハ果シテ日英両国ノ希望線路中ニ相衝突セザル部分アリヤ否ヤ之ハ実際調査ノ上ナラデハ明ナラザルノミナラズ英国トノ約束ニハ線路ノ起点ト終点トノミ定メタルモノモ之レアルニ付其線路経過地点ノ如キモ今日未ダ確定セサル様ノ次第ニテ英国側ニ於テ之カ決定ヲナササル限リ如何ナル部分ガ日本ノ要求線路ト相衝突スルヤ否ヤ明ナラズ従テ本使ノ第一問ニ対シテハ明確ナル言明ヲナシ難ク又第二問即チ英国トノ契約條項解釈上日本国ガ其ノ要求線路ヲ主張シ得ヘキ正当ニシテ且有力ナル論拠アル場合ニ於ケル支那政府ノ意嚮如何トノ質問ニ対シテハ殆ンド第一問ニ対スルト同様ノ答ヲナス外ナク英国トノ約束ハ概括的ノモノナルニ付既ニ一定ノ地域ニ英国ニ鉄道敷設取極ヲナシタル以上更ニ又日本国ニ対シ略同様ノ線路ニ付キ約束スルヲ得ザル次第ナリ（陸ノ説明ハ甚ダ曖昧ニシテ要領ヲ得ザリシモ大体叙上ノ通説明シタリ）次ニ第三質問即チ本鉄道ニ関シ日英両国間ニ適当ナル協議ヲナシ話ヲ纏メタル場合ニハ支那政府ノ意嚮如何トノ問ニ対シテハ元来支那ガ借款シテ敷設スヘキ鉄道ヲ日英両国カ勝手ニ協定スルトモ支那政府ニ於テ之ヲ承諾シ得ベキ限リニアラズ支那政府自身ニ於テ土地ノ経済状態其他ニ照ラシ其ノ経過スヘキ地点等ヲ定メザルベカラザル次第ナ

リト弁明シ雷ニ其理由薄弱且曖昧ニシテ本使ノ質問ニ対シ肯綮ニ当ル適切ノ意見ヲ表白セザルノミナラズ再三再四本使ガ肉迫窮追シテ明確ナル答弁ヲ迫レバ迫ル程言ヲ左右ニ託シテ容易ニ明白ナル意志ヲ表示セズ徒ニ詭弁ヲ弄シテ論鋒ヲ避ケ結局第五号全部ハ支那政府ニ於テ日本国ノ譲歩ヲ希望シ何等約束ヲナスヲ得ズ第五号中ニハ他日何等カ話ノ纏ラザルニアラザルベシト認ムベキ問題ナキニアラザルモ此際ハ兎モ角全部ノ譲歩ヲナシ支那政府ノ体面ヲ保タシメラレタシト繰返シ殆ド千編一律ノ調子ニテ執拗ニ懇請スルニ過ギズ従テ本件鉄道問題ハ更ニ進ンデ腹蔵ナキ意見ノ交換ヲナスベキ見込ナカリシノミナラズ本日本使ノ得タル印象ニ依レバ福建問題及学校病院敷地所有権問題ヲ除キ第五号中ノ他ノ問題ハ貴電第二三四号御訓示ノ程度ニ於テスラ協議ヲ纏ムル望ナキヤニ考ヘラル元来第五号中ニハ我対支政策上重要ナル意義アル問題二三ニ止ラザルニ鑑ミ本交渉談判第五号ニ入リタル以来当初ヨリ第五号各項ガ単ニ勧告若ハ希望條件トシテ支那政府ニ申入レラレタル事情アルニ拘ハラズ日夜精励是レ努メ其ノ論議ノ如キモ最微細ノ点ニ迄立入リ忌憚ナキ意見ヲ闘ハシ極力支那側ノ反省ヲ促スニ努メタル次第ナルモ豫期ノ程度ニテ話ヲ纏ムルヲ得ザル本使ノ最遺憾トスル所ナリ第五号解決方竝本交渉案件ノ進行ニ付テハ別ニ意見上申ノ筈ナルモ不取敢本日談判ノ要領一応申進ス（終リ）

三二一　四月十五日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

第二十三回談判ニ於テ第二号東部内蒙古問題ヲ討議且第五号問題ト交換的ニ解決希望ノ旨陸総長告白ノ件

第一九六号

四月十五日第二十三回談判ヲ外交部ニ於テ開キ午後三時ヨリ七時迄東部内蒙古問題ヲ討議シ本使ハ先ツ東部内蒙古ハ政事上地理上其他各種ノ関係上南満洲ト同様ニ論議スヘキ次第ハ已ニ数回論議ヲ重ネタル所ナルガ議事進行上後廻トシ商議スルコトノ了解トナリ居レルニ付テハ第二号第二條ヨリ第六条ニ至ル五ヶ條ハ之ヲ東部内蒙古ニモ及ボサントスル我方ノ要求ハ其後支那政府ニ於テ如何考慮ナリタルヤ承知シタキ旨質問シタルニ陸ハ従来幾回モ陳述セル論拠ニ依リ同地方ノ文化ノ幼稚ナルコト民智未ダ開ケザルコト及交通不完全ナルコト等ヲ列挙シ此方面ニ入込ム外国人ニ対シ十分ノ保護ヲナスヲ得ザルノミナラズ現ニ旅行者ニ対シテモ非常ニ制限ヲ加ヘ居ルガ如キ状態ナルヲ以テ東蒙ハ到底満洲同様ノ地位ニ置キ難ク且日本国カ歴史上政治上南満洲ニ対シ或ル特殊ノ地位ヲ占メントスルハ或ハ相当ノ理由アルコトト認ムルモ東部内蒙古ニ付テハ何等斯ノ如キ特殊ノ理由存在セザルヲ以テ日本国ノ希望ハ支那政府ニ於テ之ヲ容ルルコトヲ困難トスル次第ナリ只支那政府ハ特ニ日本国ノ希望ヲ尊重シ他日同地方ノ風気開発シ諸般ノ事情ガ容ルスニ至レバ東部内蒙古地方ニ商埠ヲ添設シテ日本人ノ希望ヲ充タサントスル方針ナリト答ヘ概括的ニ東部内蒙古ヲ第二号ヨリ除外センコトヲ主張シタルニ付本使ハ内地雑居及土地所有権問題ニ関シ東部内蒙古ヲ以テ文化未ダ開ケズ民智尚朦昧ナリト一概ニ論ズルハ実際論ニアラズ蒙古中ニハ既ニ支那ノ行政権ガ完全ニ行ハレ南満洲其他ノ部分ト毫モ異ナラザル地域アリ従テ童蒙未開ノ部分ハ暫ク別トスルモ尠クトモ此部分ニ対シ日本人ノ雑居及土地所有ヲ許サザルノ理由絶対ニ存セス尚又顧問聘傭及租税ヲ担保トスル借款若クハ鉄道借款ニ対スル優先的待遇ヲ日本国ニ与フルコトニ付テモ東蒙ノ文化交通不完全ナル状態ハ之ヲ拒絶スベキ何等ノ理由トナラズ

日本国ハ既ニ南満洲ト地理上政事上歴史上最モ密接ノ関係ヲ有スル東部内蒙古ニ於テ枢要ノ地位ヲ占ムル有力ナル理由ヲ有スル以上他外国勢力ノ猥リニ此方面ニ侵入スルコトハ日本帝国ノ到底黙視シ難キ所ナリ従テ日本国ハ豫メ東蒙ニ付テモ南満洲同様ノコトヲ約シ置クコトヲ絶対必要トスル次第ナリト論ジ極力支那側ノ考慮ヲ促シタルモ頑トシテ耳ヲ傾ケズ頻リニ支那行政区劃ニ編入セラレタル東部内蒙古ト雖其ノ風気尚未タ開発セズト強弁シ鉄道ノ如キモ既ニ満蒙五鉄道借款ヲ日本国ニ仰グコトトセル以上日本国ハ急速他ノ鉄道ヲ要求スルニモ及バザルベシ抔ト放言シ誠意ヲ以テ各條ニ付キ東蒙ヲ含マシムル当否ヲ論議スルノ態度ヲ示サズ遂ニ本使ハ将来支那カ東部内蒙古ニ於テ他国ニ鉄道鉱山借款等ノ利権ヲ与ヘ他国ノ勢力ヲ此方面ニ助長スルガ如キコトアルニ於テハ之レ即チ南満洲ニ於ケル日本国ノ特殊地位ヲ威嚇スルモノトシテ日本国ハ最モ之ヲ不安ニ感ズル所以ナリト述ベ更ニ今ヤ現政府ハ総選挙ニ於テ多数ヲ制シ内閣ノ基礎ハ漸ク確立セルモ第二号ノ如キ日本国民挙リテ緊要視スル重大問題ヲ現在ノ如ク不完全ナル程度ニテ商定スルニ於テハ現政府ハ極端ナル国民ノ反対ヲ受ケ遂

ニハ此ノ問題ノタメニ瓦解スルガ如キコトナキヲ保シ難ク従テ現政府ハ如何ナルコトアリトモ非常ナル決心ヲ以テ第二号ハ国民ヲ満足セシムヘキ程度ニテ之ヲ解決セザレバ已マザルベキ旨ヲ本使ガ縷説スルニ至リテ陸ハ始メテ東部内蒙古問題ガ夫レ程日本国ニ重要且現政府ノ為ニ困難ヲ来スベキ問題ナラバ支那政府ニモ最困難ヲ感ズル第五号問題ト交換的ニ解決スルコトシテハ如何即チ日本国政府ニ於テ此際第五号ヲ全然撤回セラルルニ於テハ支那政府ハ東蒙問題ヲ成ルベク日本国ノ希望セラルル様考慮スベシト告白スルニ至レリ陸ノ此説ニ対シテハ第五号ニ対スル我政府結局ノ真意モ未ダ明ナラザル今日本使ニ於テ軽々シク意見ヲ表明スルハ面白カラズト思考セルニ付東部内蒙古ヲ南満洲ト同様ニ考量セラルルニ於テハ第五号ノ解決ニ無論影響アルベキ事ト信ズルモ現在本使ハ之ニ付キ何等意見ヲ開陳スルノ地位ニアラザル旨ヲ答ヘ置キタリ尚本使ノ参考トシテ万一日本国ガ第五号ヲ譲歩スルガ如キ場合アリトセバ東部内蒙古ハ如何ナル程度ニテ商議スル意嚮ナリヤ承知シタシト尋ネタルニ陸ハ明答ヲ避ケ兎モ角本日ノ会議内容ハ詳細之ヲ政府ニ報告シ次回会議ノ節何分ノ議申述ブヘシト答ヘタリ右本日談判要領不取敢電報ス（終）

三二二　四月十六日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

警察法令ニ関スル妥協的考案ニ付意見上申ノ件

第一九七号

貴電第二三二号警察法令ニ関スル貴案ノ甲ハ既ニ日本国臣民ヲ支那ノ警察法令ニ服従セシムルノ意志ヲ我方ヨリ声明シタル今日更ニ支那ノ警察法令ヲ内容トスル日本国領事館令ヲ発布シ我臣民ヲシテ之レニ服従セシムルヲ形式トスルコトハ其ノ実質ノ内容ハ支那警察法令ナルニセヨ形式ヨリ論ズレバ我法令ヲ満洲内地ニ行フ姿トナリ之レニテハ到底主権論体面論ニ拘泥スル支那人ノ特性ニ顧ミ貫徹不可能ナルベシト信ゼラル本使ノ見ル所ニテハ到底本案ヲ提出スルモ成立ノ見込ナシ

乙案モ亦相当ナル語ハ意義明確ヲ缺キ或ハ将来紛争ヲ生スル因トナルヘキ虞アリ但シ我警察官ヲ傭聘セシメ放漫不規律ニシテ絶エテ法治的観念ナキ支那警察吏ノ専断違法ナル行為ヲ監視シ以テ我臣民ノ保護ニ資セントスル貴案ハ本使ニ於テハ実際的辦法トシテ大ニ考慮ノ価値アルモノト思料ス就テハ此際現行違警律（光緒三十四年四月十日発布）ニ基キ特ニ満洲ニ行ハルベキ警察章程ヲ我方ト協定発布スルコトトセシメ同時ニ未開放ノ重要地点ノ警察官署ニ我警察官ヲ聘用セシムルコトトスルモ一案ナラン尤モ本案トテモ必然支那側ニ於テ反対スヘキコトト想像セラルルモ目下ノ処右以外適当ニ我臣民ヲ保護スベキ妙案モ考付カザルニ付兎モ角一応先方ニ提議シテハ如何カト存ゼラル第二十三回談判ノ席上曹汝霖ノ説明スル所ニ依レハ警察法令トハ一般的規定タル光緒三十四年発布ノ違警律及ヒ之ニ基キ委任命令権ニヨリ地方官（巡按使）ノ発布スル警察章程ヲ意味ストノコトナリ課税ニ関スル件ハ目下研究中ニ付追テ意見上申スヘシ（終）

三二三　四月十六日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

東部内蒙古問題ニ付訓示竝第五号譲歩ニ付中国側ノ誤解ヲ招カザル様注意方ノ件

第二四二号

貴電第一九六号ニ関シ東部内蒙古ハ種々ノ点ニ於テ南満洲ト情勢ヲ異ニスルハ争フベカラザル事ナルニヨリ止ムヲ得ザル場合ニハ同地方ニ対シテハ必ズシモ南満洲ニ対スルト同一ノ條件ヲ要求スルニモ及バザルベシト思考スルニ付租税担保借款及鉄道借款ハ先ヅ日本ニ協議スルコトトシ若干ノ商埠地ヲ増設シ支那ノ行政権ガ完全ニ行ハルル部分ニ限リテ日本人ノ居住往来及農工商業ニ従事シ土地ヲ暫租永租スル事ヲ許サシムル位ノ事トシ又鉱山ニ付テハ成ル可南満洲ニ於ケルト似寄リタル振合ニテ何等カノ形ニテ特権ヲ収ムル事トナシ得レバ其他ノ点ハ譲歩スルモ差支ナシ第五号ニ付テハ已ニ往電第二三四号当方譲歩ノ程度ヲ申進シ置キタルニ付其標準ニテ交渉ヲ進メラレタシ貴電ニヨレハ貴官ハ陸ニ対シ萬一日本カ第五号ヲ譲歩スルカ如キ場合アリトセハ東部内蒙古ハ如何ナル程度ニテ商議スル意嚮ナリヤヲ尋ネラレタル趣ナルガ右貴官ガ第五号ヲ譲歩スト云ハレタルハ第五号ノ各項ニツキ多少ノ譲歩ヲ為ストノ意味ニテ第五号全部ノ撤回ヲ意味セラレタル義ニハアラザルコト信ズルモ貴電ノ文句ニテハ或ハ支那側ヲシテ日本ハ第五号全部ヲ撤回スルノ内意アルモノトノ誤解ヲ抱カシムルノ虞アリト懸念セラルルニ付為念申添ユ又貴電ニヨレハ東部内蒙古問題ト現内閣存亡問題トヲ連結シテ論議セラレ居ル

処此クテハ現内閣ハ政権把持ノ為メニ対支交渉ヲ試ミ居ルモノノ如ク認メラレ貴官ノ論点外間ニ洩ルルガ如キコトアル場合ニ甚ダ面白カラザル印象ヲ外部ニ与フルノ虞アリ元来現内閣ガ総選挙ニ勝ヲ収ムルヲ得タルハ種々ノ理由アリト雖モ対支交渉ガ国民ノ賛同ヲ得タルコト実ニ其一大原因タリ即チ国民ガ今回ノ対支交渉ヲ支持シ居ル次第ニシテ内閣ノ存亡ト云フガ如キ区々タル問題ニアラサルニ付貴官ニ於テモ誤解ナキヤウ致シタク若シ必要ナレハ次回会議ノ節然ル可ク貴官ノ論点ヲ補正シ置カルベシ貴官段々ノ御尽力ニヨリ蒙古問題モ幾分支那側ノ意嚮ヲ窺知スル事ヲ得ル迄ニ至リタル矢先キニ於テ右申進ムルハ甚タ不本意ノ至ナルモ念ノ為メ御注意ニ及ブ次第ナリ

三二四　四月十六日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

平度方面匪徒討伐ノ為ノ中国兵派遣許可方詮議ニ関スル件

附記　四月十四日陸軍次官発在青島守備軍参謀長宛電報

第二四三号

貴電第一九二号ニ関シ支那側再三ノ申出モアルニ付当方ニ於テハ枉ケテ応諾スルコトトシ派兵許可方詮議スヘキ様陸軍省ヨリ在青島軍司令部ニ電訓シタリ

（附記）

四月十四日陸軍次官発在青島守備軍参謀長宛電報

平度地方ヘ派兵ノ支那側要求ニ対シテハ貴意見ノ通拒絶ノコトヲ外務省ニ回示シ置キタル処更ニ支那政府ヨリ再応我同意ヲ求メ来レル趣ニテ差支ナキ限リハ許可スルコトニ致シ度サスレハ支那政府ノ帝国政府ノ真意ニ対スル疑惑モ幾分カハ解カレ談判進行上ニモ好都合ナリトテ外務大臣ヨリ当大臣ニ懇談アリタリ外交政策上此際先方ノ希望ヲ容ルルヲ有利ナリト認ムルニ依リ適宜支那側ノ要求ヲ許可スル様取計アリタシ

三二五　四月十七日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

青島軍司令官ヨリ中国兵ノ平度派兵許可アリタル件

第二四七号

往電第二四三号ニ関シ青島軍司令官ヨリ派兵方許可シタル旨電報アリタル趣陸軍省ヨリ通知アリタリ為念右済南ヘ転電アリタシ

三二六　四月十七日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

日中談判漸ク未決事項再議ノ段階ニ入ルベキニ付此際特ニ第一号山東問題ニ関シ再応請訓ノ件

第一九八号

対支交渉談判モ追々進行シ第五号以外ノ各号ハ早晩何等カ纏マリ相ツクベク軈テハ第一号以外各号ニ戻リ未決定事項再議ニ取掛カルベキ段取ニ入ルベキコトト信ゼラルルニ付各号ニ対スル帝国政府譲歩程度御回示相成タク特ニ第一号山東問題ニ付テハ曩ニ膠州湾還附問題ヲ初メ種々支那側ヨリ要求スル所アリタル次第ナルヲ以テ此際左記ノ諸点ニ対スル我政府御決意ノ次第本使含迄ニ御回示アリタシ尚申迄モナキコトナガラ第一号ニ附帯シ提出シタル支那側要求ニ対スル帝国政府ノ態度如何ハ他ノ未決事項解決ニ拗カラザル影響ヲ与フルコトト信ズルヲ以テ其辺ノ事情十分御斟酌ノ上可然御詮議アル様致シタシ

（一）膠州湾還附問題ハ既ニ屢次ノ電訓ニ依リ我政府真意ノ存スル所ハ本使ニ於テモ略了解シ居ル次第ナルモ此際支那政府ニ対シ断然還附ノ決意ヲ明白ニ声明スルヲ必要ト信ズルモ之レヲ許サザル事情アラバ拗クモ同租借地ハ適当ノ時機ニ或ル條件ノ下ニ之レヲ支那ニ還附スルコトヲ詮議スベキ旨公式ニ文書ヲ以テ声明スルコト必要ト信ゼラル右ニ対スル我政府其ノ後ノ御詮議如何相成リタルヤ又膠州湾還附ノ義決定セバ政府ハ如何ナル時機ニ如何ナル形式ヲ以テ支那ニ声明セラルル御見込ナリヤ

（二）膠州湾租借地以外ニ於ケル我軍隊撤退ハ膠州湾還附ト共ニ決行セラルヘキ御内意ハ貴電第八九号ヲ以テ御電示アリタル所此際支那ニ安心ヲ与フルタメ明確ナル時期ヲ約シ置ク方得策カト思料ス仮令ハ日独講和後若干月以内ニトカ若クハ膠州湾還附実行ト同時ニ之レヲ撤退スルトカノ意味ニテ今日豫メ之ヲ約束シ置クコトハ独リ支那人ノ疑惑ヲ釈クノミナラズ彼等ニ多大ナル安心好感情ヲ与ヘ是又タ他ノ問題解決上効果アルベシト考ヘラル尚本使参考ノタメ租借地外ニ於ケル鉄道守備兵以外ノ目的ニ使用セラレ居ル我軍隊目下ノ配置状態承知シ置キタシ

（三）金嶺鎮鉄山ニ到ル軽便鉄道ハ如何処置セラルル御見込

ナリヤ貴電第八九号御電報ニ依レハ右ハ該鉄山ニ於ケル兵士糧食供給ノ為必要ナルモノナルニ付差当リ之ヲ撤去シ難シトアル処該鉄道布設ノ目的ハ爾ク単純ナル意味ニ止マル次第ナリヤ若シ将来該鉄道ヲ鉱山用ニ供セントスル趣旨ナラバ寧ロ一時ヲ糊塗スルガ如キ遁辞ヲ与ヘ自繩自縛ノ為累ヲ他日ニ及ボスガ如キ説明ハ之ヲ避ケ可然カト考フ就テハ本軽便鉄道ノ将来ニ対スル政府真意ノ程モ本使含迄ニ承知シ置キタシ

(四)　臨時軍用ノタメ架設セル電線ハ貴電第八九号ニヨリ当時既ニ取外シ中ナル趣承知シタル所右ハ全部既ニ撤去セラレタル次第ナリヤ将又済南ニ於ケル無線電信存廃ニ対スル御意嚮竝ニ青島ト我長崎間ニ敷設ノ海底電線工事ハ豫定通六月頃竣成ノ見込ナリヤ又電信守備兵撤退ハ何時頃実行セラルル御見込ナルヤ右ノ諸点本使参考ノタメ一応更ニ承知シ置キタシ

(五)　膠州湾内ノ税関電信郵政等ハ軍政ニ支障ナキ限リナルヘク従来ノ便法ニヨリ辦理スヘキ御内意ナリトハ是又貴電第八九号ヲ以テ御電示相成リタル次第ノ所此等事項モ今少シク具体的ノ意味ニテ先方ニ約束スル形式トナラバ支那側操縦上好都合ナルベシト存ゼラル尚青島税関目下ノ状態ハ

軍政ノ必要上原則トシテハ殆ンド独治時代ノ辦法ニ拠ラザルモノノ如ク電信郵政ニ関シテモ之ト同様ニ辦理セラルルコトト了解セラル就テハ此種辦法ハ本交渉談判結了後ニ於テモ之ヲ継続セラルル御意見ナリヤ

(六)　山東省交戦区域撤廃問題ハ対支交渉談判開始ト共ニ未決ノコトトナレル処交渉結了後ニ於テ本件ハ如何ニ処置セラルル御見込ナリヤ（終）

三二七　四月十七日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

警察法令ニ関スル妥協的考案ニ付回訓ノ件

第二五〇号

貴電第一九七号ニ関シ御意見ノ次第ニ付テハ篤ト査閲ヲ加ヘタルガ我方ニテハ警察法令ノコトハ往電第五七号及同第一八一号ニテ御承知ノ通リ日本国領事官ノ承認シタル支那法令ニ限リ之ニ服従スルコトトスルモ差支ナキ旨申入レタルニ過ギザルモノニテ無條件ニテ支那警察法令ニ服従スル事ヲ言明シタル義ニアラザルガ故往電第二三二号甲案ヲ持チ出スニ何等支障ナク又今般貴官御稟申ノ案ハ日本国領事官ノ承認ヲ條件ト為スコトト同様ノ困難アルベキ様思考セラルルモ貴官ニ於テ貴案ノ方貫徹ノ見込多シト認メラルルニ於テハ先方ニ提議相成差支ナシ但シ現行違警律中巡官署ニ拘留スルコトニ関スル規定ハ支那ノ拘留所ガ不完全極マルモノニシテ殆ンド一刻モ居ルニ堪ヘザル状況ナルニ顧ミ日本人ヲ右拘留ノ規定ニ服セシムベキ事ハ同意シ難キ義ナリト考フ而シテ拘留ノ規定ヲ除外スルコトトナラバ事実上違警律ノ眼目ヲ失フコトト相成ルベシ之等ノ辺御含置アリ度シ将又貴電第一九七号ノ一ニ甲案ヲ採ルコトトナラバ我法令ヲ満洲内地ニ行フ姿トナル云々トノ旨見エ居レル処申ス迄モナク同案ハ日本人犯人ヲ日本国領事館ニ引渡シタル上ニテ領事館令ヲ適用セントスルモノニシテ我法令ヲ満洲内地ニ行フモノニ非ズ此点ハ所罰取締等ニ関スル他ノ現行領事館令ト何等異ル所ナシ之亦御参考迄申添ユ

三二八　四月十七日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

商租ノ意義及第五号各項ニ関スル会議録作製ノ困難ニ付回報ノ件

第一九九号

貴電第二三一号ノ二末段商租ノ意義ハ「租借ヲ商議ス」ニアラズシテ「商議シテ租借ス」ト解釈スベキモノナリ次ニ同号ノ三会議録ノ件ハ第一回会議ノ際調製ノ有無議題ニ上リタレドモ雙方共ニ列席書記官多忙ノ為調製セザルコトニ決定シ居レリ従テ今後必要ノ場合ニハ随時断片的ニ会議録体ノモノヲ作製スルノ外ナキ次第ナルモ現今ニ於ケル支那側ノ態度ニ徴シ第五号ニ関シテハ第二項ノ学校病院敷地問題ニ付取極ヲ諾シタル外貴電第二三四号御訓令ノ如ク多数作製スルコトニ支那側ヲシテ同意セシムルコトハ殆ド困難ナルヤニ感セラレ取極方形式ニ付テハ更ニ研究ノ上申進ズベシ

三二九　四月十七日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

第二十四回談判ニ於テ東部内蒙古第五号及漢冶萍ノ問題ニ関シ商議ヲ試ミタルモ中国側ノ態度強硬不誠実ナルニ付請訓ノ件

第二〇〇号

四月十七日外交部ニ於テ第二十四回談判ヲ開ク本日ハ陸ヨリ前回ニ於テ第五号撤回ト交換的ナレバ東部内蒙古問題ハ

出来得ル丈日本国ノ希望ニ応スル様考慮スルモ一案ナラントノ私見ヲ披露シ置キタル所其後政府ニ於テ篤ト考慮ヲ凝ラシタルモ第五号ハ初ヨリ商議ニ応ゼザルノ決心ナリシニ拘ラズ日本国政府ノ達テノ希望黙シ難ク単ニ不同意ノ理由ヲ説明スルノ意味ニテ意見ヲ交換シタル次第ナル故東部内蒙古問題ト交換的ニ解決スベキ性質ノモノニアラズトスル説多ク元来東部内蒙古ハ南満ト其地位ヲ異ニスル次第ハ累次ノ説明通ナルノミナラズ該地方ハ支那ノ首都タル北京ノ藩屏ヲナスヲ以テ此地域ニ於テ日本国ニ対シ或ル権利ヲ附与スルトキハ自然之ニ均霑シテ其附近ニ他ノ外国モ同様ノ権利ヲ獲得セザレハ已マザルベク斯クテハ一国首都ノ藩屏ニ外国ノ勢力ヲ侵蝕セシムルコトトナリ支那政府ノ最モ困難ヲ感ゼザルヲ得ザル次第ナリ従テ前回ニ洩シタル私見ハ遺憾ナガラ政府ノ同意ヲ得ザリシ次第ニテ此際支那政府トシテハ他日適当ノ時機ニ商埠地ヲ添設スヘキコトヲ約束シ得ル以外東部内蒙古ニ関シテハ何等ノ約束ヲモ為スヲ得ザル次第ナリト断言シ体好ク前回ニ於テ仄カシタル私案ヲ打消シ第五号ノ全部ハ勿論東部内蒙古問題ニ付テモ断乎トシテ拒絶ノ意向ヲ最モ露骨ニ示シタルヤノ感アリ本使ニ於テモ従来ノ論拠ヲ固守シ先方ノ謬見ヲ反駁シタル上第五

号ト東部内蒙古問題トヲ交換的ニ解決スルコトハ日本国政府ニ於テモ亦絶対的ニ同意セザル所ニシテ日本国ノ立場トシテ両者トモ何レモ別々ニ夫々主張ノ根拠アルコトナレバ交換的解決案ニハ本来不同意ナル次第ナリト述ベ更ニ転ジテ両国政府ノ意見斯ク懸隔アリテハ殆ド商議ノ余地ナカルベシト認メラルルニ付今一応支那政府ノ反省ヲ促シタシト陳述セルモ陛ハ断然考慮ノ余地ナシトテ無下ニ本使ノ提言ヲ排斥シタリ本使ハ之レ以上論議ヲ費スモ殆ド徒労ニ属スルコトト思ヒ東部内蒙古問題ハ右ニテ打切リ漠冶萍公司ノ問題ニ転ジ第三号第二條ハ未タ一回モ論議ニ上ラザルノミナラス第二條ノ要旨ハ会社ノ事業ヲ保護スルニアルヲ以テ何等之ニ不同意ヲ唱フルノ理由ナキ次第ナラズヤト質問シタルニ陛ハ第三号ニ対シテハ第一第二両條一括シテ主義上政府トシテ同意シ得ル極度迄同意シ対案ヲ出シタル次第ナルヲ以テ右以上考慮スヘキ余地モナケレバ又再ヒ意見ヲ述ブベキ必要モナシトテ之亦頗ル不誠実ナル言語ニヨリ一言ノ下ニ本使ノ意見ヲ拒否シタリ本日陛ノ与ヘタル説明ハ右ノ如ク頗ル簡単ヲ極メ本使ヨリ更ニ進ンデ論争ノ機会モナク又強ヒテ論争ヲ試ミタリトテ今日ニ至ル迄譲歩セル以上到底先方ヲシテ譲歩セシメ得可キ見込無之ト考ヘタル

ニ付本日ハ之ニテ話ヲ中止シ午後四時十五分会議ヲ終了シタリ本日本使ノ得タル印象ニ依レハ近来如何ナル動機カニヨリ支那側ノ態度俄然強硬ニナリタルヤノ感ナキニ非ズ従テ最早凡ソ論議モ尽キ先方ノ譲歩スル程度モ略ボ決定セルモノノ如クナルヲ以テ此上幾回論議ヲ重ヌルモ最早多大ヲ期待シ得ザルベシト考ヘラル後電ト併セテ御審議ノ上何分ノ御回訓アリタシ

三三〇　四月十七日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

彼我民論ノ趨向ト我対支政策トニ鑑ミ最後ノ決心ヲ以テ具体的協定案ヲ押付クルノ方策ニ付上申ノ件

第二〇一号

対支交渉談判モ本日ヲ以テ二十四回ヲ重ネ我提案全部ニ亘リ略ボ討議ヲ終リタル処現ニ未決ニ属スル事項ハ何レモ支那側ニ於テ体面上内政上対外関係上強硬ニ同意ヲ肯ンゼザルモノニテ此上論議ヲ重ヌルモ徒ニ枝葉ニ亘リ実質上格別ノ進展ヲ見ザルベキハ逆睹スルニ難カラズ殊ニ第五号ニ至リテハ支那側ニ於テ談判当初断乎トシテ商議ヲ拒絶シタル

ニ拘ハラズ我ニ於テ終ニ其態度ヲ変更セシムルノ措置ニ出ヅルコトナクシテ他号ノ逐條審議ヲ承諾シタルコト同号ガ他号ト同時ニ各国ニ内告セラレザリシコトガ問題トナリタルコト及同号ノ性質竝内容ニ関シ英米両国ヨリ帝国政府ニ交渉アリタルコト等ノ関係ヨリシテ支那当局者ニ於テ何等カノ信念ヲ懐キ居ルモノノ如ク最近第五号討議ニ際シ陛総長ノ示シタル態度ハ正ニ這般ノ消息ヲ反映シタルモノト認メラル翻ツテ他面輓近支那人心ノ趨向ヲ観察スルニ内外新聞紙ノ鼓吹ニ由リ我国ニ対スル憎怨ノ念漸ク上下ニ瀰漫シ露骨極端ナル言動ハ幸ニ当局ノ力ニ依リ取締ラレ居ルモ隠密ノ内排日的傾向ノ愈々増大シツツアルハ争フベカラザル事実ナルヲ以テ何等カノ事端ヨリシテ意外ノ異変ヲ見ルガ如キコトナキヤモ計リ難ク同時ニ諸外国人殊ニ在支英米人ノ我ニ対スル同情ハ日々ニ薄ラギ今ヤ彼等ハ殆ド異口同音ニ我ヲ誹謗シテ余ス所ナク之カ為支那上下ノ排日感情一層助長シ居ルノ風アルハ是又軽々ニ看過シ得ザル所ニシテ此緊張セル事態ハ可成速ニ之ヲ一掃スルコト諸般ノ関係上得策ナリト信ズ

惟フニ帝国政府ニ於テハ我民論ノ趨向ト対支政策ノ関係トニ鑑ミ飽ク迄我提案貫徹ヲ切望シ一方支那政府ニ於テモ亦

同様自己ノ利害関係ニ顧ミ出来得ル限我要求ヲ排斥セント努メ現ニ満洲及山東ニ対スル我示威的出兵ニモ屈セス最後ノ（電文不明）ヲ持シテ譲ラザル姿ナルヲ以テ最早普通ノ折衝応酬ニ依リ我希望ヲ貫徹センコト到底覚束ナカルベキニ付此際細目ニ亘ル議論ハ之ヲ打切リ直ニ各号ニ対スル具体的協定案ヲ提出シ最後ノ決心ヲ示シテ之ヲ押付ケ急速解決ヲ図ルコト正ニ其時機ニアラズヤト思料ス

而シテ右協定案ハ既ニ是迄ノ討議ニヨリ帝国政府ニ於テ支那政府ノ同意シ難シトスル事項ノ性質及ヒ程度ヲ十分ニ了知セラレ且支那側ヨリ第一号ニ関聯シテ提出シタル要求竝ニ第五号ニ関スル英米両国ノ意向ヲ承知シ居ラルル今日ハ宜敷是等諸点ヲ斟酌セラレ帝国政府ニ於テ譲歩シ得ヘキ極度迄譲歩シテ作成セラルルコト可然尚右協定案ハ本使ニ於テ閣下ヨリ御電示ニ接シ次第帝国政府最後ノ提議トシテ之ヲ陸総長ニ手交シ日ヲ限リテ回答ヲ求メ若シ萬一応諾セザル場合ニハ威力ヲ用テ強圧スルノ順序ニテ取運フコトニ致度シ

註　右ニ対シテハ四月十八日加藤外務大臣発日置公使宛往電第二五一号ヲ以テ左ノ通リ訓達セラレタリ

「貴電第二〇一号御稟申ノ義ニ付テハ篤ト考慮ノ上来ル二十日閣議ヲ経テ何分ノ義電訓スヘシ」

三三二　四月十八日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

中国側態度俄然硬化セル事情ニ付問合ノ件

第二五二号

貴電第二〇〇号末段ニ関シ此際ニ於テ支那側ノ態度ガ俄然強硬トナリタルニ付テハ果シテ何ノ恃ム処アリテ然ル次第ナルヤ推測ニ苦シム義ナルガ或ハ支那政府部内ノ強硬論者ニ圧迫セラレテ止ムヲ得ス此ノ如キ態度ニ出デタルモノナルヤ又ハ最後ノ屈服ノ止ムベカラザル事ヲ豫見シ殊更ニ日本ノ高圧手段ヲ誘致シ其為メニ余儀ナクセラレタリトノ理由ノ下ニ国内ノ外交攻撃ニ対シ責ヲ遁レントスル為ナルヤ将又本交渉ヲ究極ノ点マテ押詰ラセ日本側ヨリ膠州還附其他ノ譲歩ヲ言ヒ出サシメン為メカ若クハ第三国ノ仲裁ヲ招致セン為ナルカ等ノ底意ニ出デタルコトカトモ想像セラルル処其辺ニ関シ当方参考トナルベキ貴見モアラバ電報アリタシ

三三三　四月十九日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

中国ノ態度硬化ノ原因ニ関シ回申ノ件

第二〇四号

貴電第二五二号ニ関シ支那政府ガ昨今ニ至リ存外強硬ノ態

度ヲ示スニ至リタル原因ハ種々ナルベキモ㈠第五号ニ関シテハ英米両国政府ヨリ帝国政府ヘ交渉ノ結果之ガ遂行ノ為我国ガ兵力ヲ用ヒザルコト明瞭トナリタルコト㈡日本国ガ突然出兵ノ結果ハ急ニ激烈ナル英米人ノ反感ヲ惹起シ続テ生ジタル新聞紙ノ論調幷ニ在支英米人ノ言動ハ支那ヲシテ現在ニ於ケル世界ノ同情ガ悉ク支那ニ傾注セラレ居ルト思惟セシムルニ至リタルコト㈢過去ニ於テ為シタル譲歩ヲ以テ十分ナリト思料シ又時々国際通信若ハ其他ノ方法ニ依リ日本当路者ノ所見ナリトシテ伝ヘラルル所ニ依リ日本国政府ニ於テモ大体満足シ居ルモノト見込ミ居ルコト㈣従来ニ於ケル日本国政府ノ遣口ハ如何ニモ無理ナリトノ感念ヲ支那側ニ与ヘ右ハ選挙競争ニ対支交渉ヲ利用セントノ意向ヨリ出デタル乱暴ノ挙動ナリト諦メタルモノノ如クナルモ選挙ニ於テ優ニ多数ヲ占メタル今日ニ於テハ最早日本国ハ斯ル公道ニ違背スルガ如キ手段ニ依ルヲ要セスト思料シ居ルコト㈤政府部内ノ反対竝国民ノ輿論ヲ顧慮スルコト等ハ其重ナル事情ト察セラルルモ要スルニ今日ニ於ケル談判進行ノ程度ニ於テハ日本国ハ最早武力ヲ用フル口実ヲ世界ニ対シ有セズト断定シタルモノト推断セラル

三三四　四月十九日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

米国政府ガ在支同国公使ヲシテ非公式ニ中国政府ニ通告セシメタル事項ニ関スル聞込ニ付露国公使内告ノ件

第二〇五号

四月十九日露国公使来訪左ノ事ヲ聞込ミタル旨内告セリ

北京天津在留米国人竝在支米国（脱）ヨリ日支交渉ニ関シ米国政府ニ送リタル電報ニ対シ在支米国公使ハ左記三項ノ事ヲ支那政府ニ通告スヘキコトヲ命セラレ去ル金曜日公然ノ方法ニ依ラス其趣ヲ支那政府ニ通告シ追テ必要ノ場合ニハ公然ノ方法ヲ以テ通告スヘキコトヲ申添ヘタル趣ニテ支那政府ハ此報ニ接シ非常ニ歓喜シ居レル由ナリ

1. That the Chinese Government shall not make any concession that would impair in any way the treaty rights of America.
2. That the American Government will not recede an iota from the principle of territorial integrity and equal opportunity.
3. That the negotiation may be concluded to mutual satisfaction.

三三四　四月十九日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

タイムス特派員フレーザーハ日本ノ南支鉄道ニ関スル対支要求ニ反対ナル旨及ＡＰ特派員ムーアノ対日態度変化ニ付報告ノ件

第二〇七号

貴電第二四九号ニ関シ「フレーザー」ニハ豫テ御電訓ノ次第アルニ付来訪ノ都度接見シ交渉ノ内容ニ関シテモ可ナリノ程度迄ハ打明ケ内話シ居レルガ過日来訪ノ際次回会議ノ問題ニ付尋ネタルヲ以テ南支鉄道問題ナリト答ヘタルニ彼ハ日本国ハ尚之ヲ支那ニ向ヒテ要請セントスルカ日本国政府ノ意志実ニ不可解ナリ他ノ問題ハ兎ニ角該鉄道ハ現ニ英国会社ノ得タル権利ト全然衝突スルノミナラス既ニ英国政府ヨリ日本国政府ニ対シ明白ニ其事実ヲ通知シタル今日日本国政府ガ尚此問題ヲ捉ヘテ支那ヲ強圧セントスルハ如何ニシテモ余リニ無理ナリト思料ス吾人ハ乍遺憾断然之ニ反対セサルヲ得スト述ヘタリ

依テ本使ヨリ南支鉄道問題ハ多年ノ懸案タル関係上今回他ノ事項ト共ニ提出セラレタルモノナル処一旦提出シタル以上支那側ヨリ之ニ対シ十分ナル説明ヲ与ヘザル限撤回スルコト出来難キ行懸ナリ尤本問題ニ対スル英国ノ関係ハ我外務大臣ニ於テ能ク了知シ居ラルルヲ以テ帝国政府ニ於テ漫ニ英人ノ既得権ヲ侵害スルガ如キコトナキ筈ト信用セラレ差支ナク従テ此際本問題ニ関シ漫ニ騒グ必要ナキニアラザルヤト答ヘタルニ彼ハ帝国政府ノ真意如何ハ之ヲ知ルヲ得ザルモ今日南支鉄道問題ヲ中華民国ニ対シ強要スルノ一事ハ吾人ニ対スル公然ノ挑戦ト認メザルヲ得ズ自分カ日本国ニ対スル同情ニ顧ミ甚タ遺憾ニ感ズルモ飽迄此問題ニハ反対セザルヲ得ズ元来「タイムス」ノ政略ハ成ルヘク日本国ノ政策ヲ弁護スル方針ナルモ日本国政府ノ遣口ニシテ斯ノ如クナル以上弁護スルコト殆ド不可能ナリト陳述セリ「フレザー」カ先般東京ニ於テ閣下ニ会見シ種々内話ヲモ承ハリタル関係上一時頗ル日本弁護ノ筆ヲ振ヒタルニ拘ラズ当地着後間モナク其態度ヲ一変シタル模様アルハ豫テ本使モ心付居リタルガ其態度一変ヲ促シタル事情ニ関シ本邦通信員等ヨリ間接ニ聞ク所ニ依レバ同人ハ当地帰着後同国人側ヨリ同人ノ日本国ヨリ本社ヘ送レル通信ニ関シ盛ニ攻撃ヲ受ケ甚ダシキ嘲笑ヲ蒙リタルガ其後事情ヲ調査シ且各方面ノ人ト所見ヲ交換シタル結果遂ニ同人ガ東京ニ於テ得タル見解ヲ変更セザルヲ得ザルニ至リ閣下ニ欺カレタリトテ痛ク後悔シ居ル趣ナリ将又米国聯合通信社北京特派員「ムーア」モ談判開始ノ際東京ニ居合セ閣下ニ会見ノ上内談ヲ伺ヒ当時北京ニ於ケル代理者ノ発送セル通信ヲ東京ヨリ正誤セルコトモアリタルガ同人ハ事件発生ノ為急遽当地ニ帰リ事情ヲ探査シタルニ東京ニ於テ聞キタル所ト大差アルコトヲ発見シ嚢ニ東京ヨリ代理者ノ通信ヲ正誤シタル関係上本社ニ対シ頗ル具合悪キ関係ニ立ツニ至リタルガ兎ニ角当地ニ於テ十分確実ナリト認ムベキ筋ヨリ得タル報道ニ基キ要求全部二十一箇條ヲ完全ニ報告シタル処本社社長ハ之ヲ珍田大使ニ示シ同大使ハ之ヲ不正確ナリト云ハレタルニ付本社ヨリ同人ニ対シ不正確ナリト通知来レリトテ頗ル残念ガリ当時本使ニ対シ要求全部ノ内示ヲ求メタルコトアリシガ最近間接ニ聞ク所ニ拠レバ同人モ東京ニ於テ外務省ニ欺カレタリトテ非常ニ怨ミ居ル由ナリ同人ハ元来極メテ実著公平ニシテ新聞社会ニハ稀ナル高潔ノ人物ナルガ本邦通信員等ニ対シ語リタル所ナリト云フヲ聞クニ同人ハ元来日本国ノ同情者ナルモ今回ノ対支問題ニ関スル日本国ノ遣リ方ニ付テハ如何ニシテモ反対セザルヲ得ズト唱ヘ居ル由ニテ平素屢々本使ヲ来訪スルニ拘ハラス前記会見以来ハ一回モ来館セス本邦通信員等カ来館ヲ勧ムルモ日本国公使ニ面会スルコトハ気ノ毒ニ堪ヘズト云ヒ居ル由ナリ

右御参考迄

三三五　四月十九日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

中国側態度硬化ノ原因ハ米国公使ノ通告ニ在ル旨報告ノ件

第二〇八号

第二十四回談判ニ於ケル陸ノ調子ガ俄然硬化シ現ニ東部内蒙古問題ニ対シテハ前回ニ於テ第五号ト交換的ニ解決スルノ意向ヲ仄カシナガラ俄カニ第二十四回会議ニ至リ其ノ態度ヲ変ジ第五号ハ勿論東蒙問題ニ対シテモ殊ノ外強硬ナル意見ヲ主張セルハ本使ノ不審ニ思ヒタル次第ニシテ当時其ノ動機ノ那辺ニ在ルヤヲ疑ハシメタル次第ハ往電第二〇〇号末段ニ於テ一寸ト本使ノ感想トシテ報告シタル通ナルガ往電第二〇五号露国公使内話ノ米国公使ノ通告ナルモノガ確カニ支那政府ノ態度ヲ一変セシメタル直接ノ原因カト想像セラル四月十九日発刊ノ「ペキン、テンテン、タイムス」紙上ニ四月十八日北京電報トシテ米国公使 Reinsch

ハ米国政府ノ命ニ依リ米支條約ト牴触シ若ハ領土保全及機会均等主義ニ反スル事項ニハ寸毫モ米国ニ於テ之ヲ認容セサルベキ旨支那政府ヘ通告セル由報道セリ
右為念更ニ電報ス

三三六　四月十九日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）
山東奉天ニ於ケル我軍隊交代方ニ関スル件
本件ニ関シ支那政府ヨリ申出ノ次第ハ三月三十日付機密第九三号及四月七日附機密第一〇一号等貴信ヲ以テ御申越有之候処右支那政府ノ申出ニ対シ貴官ニ於テ何等回答ノ必要ヲ認メラルルニ於テハ矢張リ往電第一七九号ノ趣旨ヲ以テ可然応答シ置カルル様致シ度此段申進候也

三三七　四月二十日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）
我最後ノ具体的協定案ニ関スル訓電発送延期ノ件
第二五六号
往電第二五一号（註）ニ関シ帝国政府ノ執ルヘキ方針ハ今二十日

ノ閣議ニ於テ略々決定シタルモ尚ホ此上ニ執ルベキ手続アルニヨリ本日ハ未タ貴官ニ対シ訓電ヲ発スル能ハズ多分明日中ニハ訓令シ得ヘシト思考ス取敢ズ御含迄ニ右申進ズ

註　前掲三三〇文書ノ註参照

三三八　四月二十日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）
「フレーザー」ノ見解ニ誤解アル旨同人ニ説明セル旨通報ノ件
第二五七号
在英大使ヨリ別電第二五八号（註1）ノ通電報アリタルニ付別電第二五九号（註2）ノ通リ同大使ヘ電報セリ尚右英国外務大臣電報中事実相違ノ点ハ三月十七日ノ会見ニ関スル在本邦英国大使発英国外務大臣宛電報中ノ誤謬ニ基クモノト存セラルル処右英国外務大臣宛電報ハ多分在支英国公使ヘモ転電セラレ居ルコトト思料セラレ貴電第二〇七号 Freaser 談話中ニハ或ハ右電報ニ基ク同公使ノ内話等ニ動カサレ帝国政府カ今尚鉄道問題ニ付支那側ト交渉シ居ルハ本大臣ノ在本邦英国大使ニ対スル言明ニ反スルモノト考ヘ居ルニ因ルト云フ

如キコトモナキニ非ザルカト存ゼラル御参考迄

註1　後出六〇九文書即チ四月十七日在英国井上大使発加藤外務大臣宛電報第二二七号ト同文ナリ
2　後出六一三文書即チ四月二十日加藤外務大臣発井上大使宛往電第一〇〇号ト同文ナリ

三三九　四月二十一日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）
我最後ノ協定案ニ関スル訓電発送遅延ノ件
第二六〇号
往電第二五六号ニ関シ貴官ニ対スル訓令今二十一日中ニハ発送ノ運ニ至ラス成ルヘク速ニ訓令方取計フヘキモ為念右電報ス

三四〇　四月二十二日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）
我最後譲歩案決定ニ付訓令ノ件
別電　同日加藤外務大臣発日置公使宛電報第二六二号
未決条項ニ関スル我最後譲歩案
第二六一号（極秘至急）
貴電第二〇一号御申越ノ次第ヲモ参酌シ帝国政府最後譲歩

ノ程度ヲ別電第二六二号ノ通リ決定シタルニ付支那政府ニ於テ右譲歩案ヲ其儘承諾スルニ於テハ(1)全部商港トシテ開放スルコト(2)日本国カ指定スル地区ニ日本専管居留地ヲ設置スルコト(3)列国ニシテ希望スルニ於テハ共同居留地ヲモ設置スルコト(4)独逸施設物ノ処分其他ノ條件手続ニ付テハ還付実行ニ先チ日支両国間ニ協定ヲ遂クヘキコトノ條件ノ下ニ「戦争終結後膠州湾租借地ニシテ全然日本国ノ自由処分ニ委セラルル場合ニハ同地ヲ支那ニ還附スヘキ旨」支那政府ニ対シ約束スルコトトナスヘキニ付貴官ハ右ノ趣支那当局ニ説示セラレ支那側ニ於テモ東亜ノ大局ト日本国ノ誠意アル譲歩トニ顧ミ是非共別電通リノ我提案ニ同意アル様致度旨切実懇談ヲ遂ケラレ度我方ニ於テ右ノ如キ和平穏当ノ措置ニ出ヅルニ拘ラス支那側ニシテ依然反省スルナクンバ或ハ遂ニ貴電第二〇一号末段御来示ノ如キ方法ヲ執ルノ已ムナキニ至ルベキモ右ハ其際更ニ詮議ノ上ノコトトシ兎モ角前記ノ方法ニテ至急今一応交渉ヲ試ミ其結果電報アリ度シ

（欄外註記）
「右大正四年四月廿日閣議ニテ決定、四月廿一日山県公松方侯ニ内話済、山県公ヨリ井上侯ニ内話済」

（別　電）

四月二十二日加藤外務大臣発日置公使宛電報未決條項ニ関スル我最後譲歩案

第二六二号　別電

已ニ協定済ノモノハ其儘採用スル事トシ未決條項ニ対スル我最後譲歩案ハ左ノ通リトス但辞句行文等ハ確定案作成ノ際修正ヲ加フルコトアルベキ旨留保シ置カレ度シ

㈠　第一号第三條ハ支那対案ノ通リ即支那政府自ラ芝罘（煙台）又ハ龍口ヨリ膠済鉄道ニ接続スル鉄道ヲ敷設スルニ当リ若シ独逸国ニシテ煙濰鉄道借款権ヲ抛棄スルニ於テハ日本資本家ニ対シ借款ヲ商議スヘキコトヲ約ス

㈡　第二号原案前文ハ左ノ通リ改ム

日本支那両国政府ハ南満洲及東部内蒙古ニ於ケル彼我ノ経済関係ヲ発展セシムル目的ノ為ニ左ノ條款ヲ議定セリ

㈢　第二号原案第二條第三條ニ対スル支那側修正案（貴電第一七〇号第十七回会議ニ於ケル支那側提案）ニ基ク我譲歩案左ノ通リ

第二條　日本国臣民ハ南満洲ニ於テ各種商工業上ノ建物ヲ建設スル為メ又ハ農業経営ノ為必要ナル土地ヲ賃借又ハ購買（暫租又ハ永租トスルモ差支ナク或ハ成ル可永キ期限付ニテ且ツ無條件ニテ更新シ得ヘキ租借ヲ含ムコトノ明ナル了解ノ下ニ商租ノ語ヲ用ルモ可ナリ）スルコトヲ得

（本條ニ関聯シ支那側ニ於テ若シ租地章程ヲ作ル場合ニハ必ズ日本国トト協議スルコトト為シ置クコト）

第三條　日本国臣民ハ南部満洲ニ於テ自由ニ居住往来シ各種ノ商工業及其他ノ義務ニ従事スルコトヲ得

第四條　前二條ニ関シ日本国臣民ハ例規ニ依リ下附セラレタル旅券ヲ地方官ニ提出シ登録ヲ受ケ且日本国領事官ニ於テ承認シタル警察法令ニ服従シ同ジク其承認シタル課税ニ服スベシ但シ右警察法令及課税ニ関スル点ハ支那側ニ於テ希望スルニ於テハ密約トスルモ差支ナシ民刑訴訟ハ日本人被告タル場合ニハ日本国領事官ニ於テ又支那人被告タル場合ニハ支那国官吏ニ於テ之ヲ審判シ互ニ員ヲ派シ臨席傍聴スルコトヲ得但シ土地ニ関スル日本人支那人間ノ民事訴訟ハ支那国ノ法律及地方慣習ニ依リ日本国領事官及支那国官吏ニ於テ共同審判スヘシ但シ将来同地方ノ司法制度完全ニ改良セラルルトキハ日本国臣民ニ関スル一切ノ民刑訴訟ハ完全ニ支那国法廷ニ於テ審理スヘシ

㈣　第二号中ノ東部内蒙古ニ関シテハ租税担保借款及鉄道借款ハ先ヅ日本ニ協議スルコトトシ第一号山東省ノ例ニ倣ヒ若干ノ商埠地ヲ増設シ日支両国臣民カ合辦ニ依リ農業及附随工業ノ経営ヲ為サントスルトキハ支那政府之ヲ承認スヘキコト（此点ハ客年十二月三日機密号外往信第二号乙案第三條ニヨル）ダケノ要求ニ止ム尤モ東部内蒙古ニ関スル項ハ都合ニヨリテハ南満洲ニ関スル分ト引離シ別個ノ約束トナスモ可ナリ

㈤　第三号第二條（往電第一九〇号ノ㈠ヲ以テ修正）ヲ撤回ス

㈥　第四号ハ支那政府自身ノ宣言ニテ足リ之ヲ日本政府ニ通告スルニ及バザルコト

㈦　第五号全部六項ハ往電第二三四号訓令ノ趣旨ニ依ルコト

三四一　四月二十二日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

我最後譲歩案提示ニ際シ中国当局トノ懇談ノ際ノ説述振訓令ノ件

第二六三号

別電第二六一号訓電ニ基キ貴官ガ支那政府当局ト懇談ヲ遂ケラルルニ当リ貴官ハ特ニ帝国政府ノ訓令ニヨレル旨ヲ以テ左ノ趣旨ヲ支那側ニ説述セラルヘシ

（今回ノ交渉ヲ通シ支那側ヲシテ各條項ニ対スル当方ノ趣旨ヲ了解セシムルニ於テ帝国政府ハ凡テノ手段ヲ尽クシマタ余蘊ナシト信ス交渉開始以来今日ニ至ルマテ廿余回ノ会議ニ於テ交渉條項ノ或モノニ付テハ略協定ヲ見ルニ至リタルモ我ニ於テ特殊ノ関係ヲ有スル南満洲ニ於ケル居住及土地ニ関スル権利東部内蒙古ニ関スル問題福建省ニ関スル問題其他数個ノ問題ニ付テハ或ハ国家主権ニ害アリトシ或ハ他国トノ條約ニ牴触スト為シ帝国公使ニ於テ百方其然ラザル所以ヲ説示スルニモ拘ハラズ支那側当局ハ毫モ耳ヲ傾ケズ全然和衷妥協ノ誠意ヲ示スコトナシ其主権ニ障碍アリト為スモノニ付テハ我ニ於テハ努メテ之ニ触ルル事ヲ避ケ成例ニヨリテ辦法ヲ設ケ又他国トノ條約ニ制束セラルルト称スルモノニ付テハ若シ果シテ右ノ如キ條約アリトセハ我ニ於テ関係国ノ同意ヲ求ムベキ事ヲ條件トスルモ尚支那側ニ於テハ何等協定ヲ為ス能ハザル事ヲ主張シ甚シキニ至テハ或條項ニ付テハ全然論議スル事ヲ避クルガ如キ帝国政府ハ実ニ支那政府ノ為メニ其此ノ如キ態度ニ出ヅルコトヲ惜

マザルヲ得ズ而カモ尚帝国政府ハ本交渉ノ円満ナル解決ガ東洋和平ノ維持ノ為メニ極メテ緊要ナルヲ思ヒ難キヲ忍ビテ別電第二六二号ノ如キ一大譲歩案ヲ作成シ加フルニ若シ支那政府ニシテ右譲歩案ヲ応諾スルニ於テハ或案件ノ下ニ膠州湾ヲ還付スベキ事ヲ言明セントス膠州湾ノ還付ハ実ニ日本帝国カ支那ニ対スル至大ノ贈与ナリ独逸ガ此地ノ為メニ費シタル資財ト労力ノ大ナルハ支那政府ノ能ク知レル所ニシテ独逸国拮据経営ノ結果タル膠州湾カ支那ノ独力ヲ以テシテハ到底其恢復シ得ベキモノニアラザル事ハマタ支那当局ノ熟知スル処ナルベシ而シテ此要枢ノ地ヲ独人ノ掌裡ヨリ奪取スルガ為メニハ日本帝国ハ実ニ多大ノ人命ト軍費トヲ使用シタリ此血ト財トヲ擲テ辛ウジテ収メ得タル膠州湾ノ地ヲ其旧主ニ回ヘサントスルハ実ニ日支国交ノ親善ヲ願フガ故ニ外ナラズ支那政府タルモノ宜シク静カニ大局ニ顧ミ区々タル小利小名ニ拘泥セズ速ニ日本政府ノ提案ヲ容レ以テ極東和平ノ維持ニ努ムベキナリ之レ帝国政府ガ切ニ支那政府ニ望ム所ナリトス

近来支那政府当局者ノ為ス所ヲ見ルニ内外ノ人士ニ依嘱シ東西ノ新聞紙ヲ操縦シ頻ニ日本提出ノ條項ヲ誇大シ日本主張ノ議論ヲ曲諚シ時ニ或ハ当局自ラ其名ヲ掲ゲテ日本ノ態度政策ヲ讒謗スルアリ支那政府ノ意蓋シ此クシテ以テ外部ノ同情ヲ買ヒ若クハ外部ノ容喙ヲ招カントスルニ在ルモノ如シト雖モ此ノ如キハ徒ラニ交渉ヲ紛糾セシメ人心ノ激昂ヲ増スノミニ止リ支那ノ為メニモ亦何等ノ利益アルヘシト信スル能ハス此点ニ就テハ帝国政府ハ支那政府ニ対シ警告ヲ与ヘタル事一再ニシテ止ラズト雖モ更ラニ其反省ヲ得ル能ハザルハ帝国政府ノ深ク遺憾トスル処ナリ帝国政府ハ支那政府ガ此ノ如キ無思慮ノ手段ヲ弄スルコトヲ断念シ叙上ノ如キ寛大ナル日本ノ譲歩ニ顧ミ速ニ日本ノ提案ヲ容レテ交渉ノ局ヲ結ハン事ヲ切望ス）

三四二　四月二十三日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

我最後譲歩案ニ於テ訓令未済トナリタル事項ニ付更ニ請訓ノ件

第二一二号

往電第一九八号ヲ以テ請訓ニ及ヒタル所ニシテ貴電第二六二号中ニ見エサル諸点モ談判中当然提起セラルヘキ問題ナルノミナラス支那側ニ於テ頗ル重要視スル所ナルヲ以テ右ニ関シ帝国政府ノ決意至急御回示ヲ請フ

三四三　四月二十三日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

最後譲歩案ハ速ニ一括中国側ニ提出セラレタキ件

第二六六号

貴電第二一二号ニ関シ貴電第一九八号御問合ノ各項ハ膠州湾還付ノ件ヲ除クノ外ハ往電第二六二号修正案提出ノ為是非共必要ナルモノトモ思考セズ且対支交渉落着ノ後ハ自カラ容易ニ解決セラルベキモノト存ジ往電第二六二号中ニハ右ニ関シ何等申進ゼザリシ次第ナルガ御問合ノ諸点ハ目下夫々其筋ト協議中ニ付決定次第至急電報致スベシ就テハ往電第二六二号各項ハ右諸点ニ関スル電報ヲ待タズ可成速ニ一括提出セラルル様致度シ

三四四　四月二十三日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

第五号ニ関スル我政府ノ決心ニ付請訓ノ件

第二一三号

対支交渉案件中第五号ニ関シテハ果次ノ電報ヲ以テ縷報ノ通支那政府ニ於テ将来適当ノ時機ニ至ラバ兎モ角今回ハ如何ナル形式ヲ以テスルモ絶対的ニ我希望ニ応ゼザル決心ナルベシト確信セラル是レ本使ガ最近数回ノ会議ニ於テ最明確ニ感知シタル所ニシテ恐ラク此推測ハ誤ナカルベシト思料ス然ルニ今回貴電第二六二号ヲ以テ第五号ハ貴電第二三四号ノ趣旨ニテ我最後譲歩案ノ一部トシテ先方ヘ提出シ今一応交渉ヲ試ムヘキ旨御電訓アリ右ハ早速手続ヲ執ル筈ナルガ他ノ各号ハ兎モ角トスルモ第五号ハ前述ノ如キ次第ナルヲ以テ支那側ニ於テ依然其主張ヲ枉ゲザルニ於テハ勢再ビ交渉行悩トナルベク此場合ニ於テ我政府ハ断乎タル決心ヲ以テ之ヲ処理セラルル御方針ナルヤ今回ハ御電訓ノ趣旨ニ依リ我最後譲歩案トシテ提議スル以上字句形式ノ修正変更ハ兎ニ角主義ニ於テハ断ジテ之ヲ変更セザル決心ニテ交渉ニ取懸リタキニ付其辺ニ対スル政府御意見為念本使参考トシテ今一応至急承知シ置キタシ尚貴電第二六四号会見時日ハ本電ニ対スル御回電接手次第決定更ニ電報スヘシ

三四五　四月二十四日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

我最後譲歩案訓令ハ外交上ノ手段ヲ尽シテ我主張貫徹ヲ計ルニ在ルニ付飽ク迄懇談方訓令ノ件

第二六七号

貴電第二一三号ニ関シ

第五号各條項ハ主義ニ於テ彼我ノ意見已ニ一致シタル福建省ニ関シ取極ヲ為スノ外ハ大体ニ於テ会議ノ席上及其他ノ場合ニ支那側ノ言明シタル処ヲ記録ニ止メントスルニ過ギズシテ支那側ニ於テ口頭ニテ言ヒタル処ヲ記録ニ止ムルコト能ハズト云フベキ理由ハ全ク了解シ能ハザル次第ナリ殊ニ我方ヨリ膠州湾還附ヲ約束セントスルハ日本ニ於テ多大ノ物議ヲ招クベキ問題タルノミナラズ元来同地ノ事タル日本ノ全然自由ニ処分シ得ベキコトニシテ之ヲ還附スベキ何等ノ義務モナキモノナレ共一ニ支那領土保全ノ主義ヲ重ンジ自ラ進ンデ犠牲ヲ払ハントスルモノニシテ至大ノ譲歩ト云ハザルベカラズ此ノ如キ譲歩ヲ為スニモ拘ラズ支那側ニ於テ右ノ如キ不理屈ノ主張ヲ為ストセバ之レ本交渉ニ関シ全然誠意ヲ缺クモノト言ハザルヲ得ズ支那側ニ於テ誠実ニ交渉ヲ解決スルヲ欲セザルナレバ之レ日支国交ノ親善ヲ計ルノ意ナキモノニシテ斯ノ如キ次第ナレバ交渉自体ノ結果ヨリモ寧ロ支那側不誠実ナル態度ノ結果日本ニ於テモ断然タル処置ニ出デザルベカラザルニ至ルヤモ知ルベカラス夫迄ハ外交上ノ手段ヲ以テ極力我主張ノ貫徹ヲ計ルヲ要スル義ニシテ又今回ノ訓令ノ趣意ハ何処迄モ懇談ヲ遂グルニ在ル次第ナルヲ以テタトヒ最後ノ手段ニ出ヅル場合ニ於テモ外交上アラユル方法ヲ尽シタル後ナラザレハ内外ニ対シ我立場ノ正当ナルコトヲ明ニスルコト能ハザルハ申ス迄モナキ義ナルニ付右篤ト御含ノ上此上遅疑セラルル如キコトナク遅クモ月曜ニハ必ズ会見スル様取計ハルベシ会見時日決定ノ上ハ電報アレ

三四六　四月二十四日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

第一号山東問題特ニ膠州湾地区ノ軍隊撤退其他鉄道税関電信郵政等ニ関シ回訓ノ件

第二七一号

貴電第一九八号ニ関シ

(一)　膠州湾租借地内外ノ軍隊ハ其還附後可成速ニ之ヲ撤退スル但シ内外ノ情勢ニ鑑ミ必要ノ場合ニハ山東鉄道ニハ或ハ守備兵ヲ置クコトアルヘシ

(二)　金嶺鎮鉄山ニ至ル軽便鉄道ハ山東鉄道本線ノ処分問題決定後ニ於テ適当ノ処置ヲ見ルヘキ件ナルニ付其レ迄ノ間ハ差向キ単ニ同鉄山巡視及其守備兵ヘノ糧食供給等ノ為敷設セラレタルモノト致置タシ

(三)　用兵ノ為添設シタル軍用鉄道ハ既ニ全部之カ撤廃ヲ了セリ

(四)　済南ニ於ケル無線電信ハ移動シ得ヘキ装置ナルヲ以テ別段其存廃ヲ彼是スル程ノ重要ナル問題ニハアラスト思考スルモ同地青島間電信線屢々匪賊ノ為ニ切断セラルルコトアリ該無線電信ハ右ノ如キ場合ニ軍事通信ヲ持続スルヲ為ニ絶対ニ必要ナリ之レ恰モ在北京外国公使館ノ或モノカ公使館守備兵ノ軍事通信用ノ為ニ無線電信ヲ設ケ置クト同一ノ目的ニ出テタルモノナリ右無線電信カ公衆ノ為ニ使用セラレ居ラサルハ申ス迄モナク又軍事通信ノ為ニモ実際使用セラルル場合ハ甚タ少シ

(五)　青島ニ於ケル税関電信郵政ノ類ニ関スル将来ノ処置振ハ今回ノ日支交渉結了後雙方妥協ノ精神ヲ以テ商量スルニ於テハ容易ニ話ヲ纏メ得ルコトナリ税関問題ノ如キハ当方ニ於テ何時ニテモ従来ノ交渉ヲ継続シ支那側ヨリノ開談ニ応スヘシ

(六)　膠州湾租借地外ノ軍隊（山東鉄道守備兵以外ノ）カ撤退セラレ且ツ軍用電信撤廃ノ暁ハ交戦地域ハ実益ナキコトトナルヲ以テ其際ハ直ニ之カ撤廃方ニ異議ナシ

(七)　膠州湾租借地内外ニ於ケル鉄道守備兵以外ノ目的ノ為使用セラレ居ル我軍隊目下ノ配置状態左ノ如シ

龍口高密間電線守備ノ為一個大隊青島ニ歩兵二個大隊其他騎兵砲兵若干以上ノ外歩兵十一個大隊ハ鉄道守備ノ為沿線ニ散布シアリ

(八)　青島長崎間ニ敷設中ノ海底電線工事竣成期ハ天候其他不慮ノ事由ナキ限リ五月中旬ノ見込従テ

(イ)　軍用ノ為架設セラレタル電信ノ撤廃ハ海底電線竣工後成ルヘク速ニ実行ス

(ロ)　電信守備兵ノ撤退ハ電信ノ撤廃ト同時ニ之ヲ行フ以上ノ内(一)ヨリ(六)ニ至ル六項ハ適宜支那側ニ申述ヘラルルモ差支ナキモ最後ノ(七)(八)ハ申ス迄モナキ義ナカラ貴官限リ御含置相成度若シ支那側ニ於テ軍用電信ノ撤廃期ヲ云々セハ右ハ軍用電信ヲ撤スルモ軍事通信ノ持続ニ差支ナキ方法

付キ次第直ニ撤廃スヘク従テ電信守備兵モ其節同時ニ撤退スヘキ旨説明シ置カルルニ止メラレ度シ

三四七　四月二十六日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

第二十五回談判ニ於テ我最後譲歩案ヲ提出シ我政府訓令ニ基ク説明ヲ与ヘタル旨報告ノ件

第二一五号

四月二十六日午後三時外交部ニ赴キ第二十五回談判ヲ開キ本使ハ談判開始以来既ニ二十数回ノ会議ヲ経其間ノ討議ニ依リ帝国政府ニ於テモ支那政府ノ意志ノアル所ハ略ボ之ヲ明ニスルヲ得タルヲ以テ十分慎重ナル考量ヲ加ヘ今回新ニ修正案ヲ提出スルコトナレリ本修正案ニ於テハ譲歩シ得ベキモノハ十分譲歩ノ意ヲ示シタルモノニシテ実ニ帝国政府譲歩ノ極度ナルカ故ニ支那政府ニ於テハ帝国政府ノ極メテ和平穏当ナル措置ヲ諒トシ速ニ同意ヲ表セラレンコトヲ切望スル旨ヲ述ベ貴電第二六二号御訓電ニ基キ作成セル修正案ヲ手交シ更ニ修正條件等ニ関スル一応ノ説明ヲ与ヘタル上若シ支那政府ニシテ本修正案ヲ其儘承諾スルニ於テハ或條件ノ下ニ（貴電第二六一号ニテ列挙ノ條件ヲ説明シテ）戦争終結後膠州湾租借地ニシテ全然日本国ノ自由処分ニ委セラルル場合ニハ日本国ハ同地ヲ支那ニ還附スルコトヲ約束シ得ベキ旨ヲ説示シ最後ニ貴電第二六三号御電訓ノ次第ヲ特ニ帝国政府ノ訓令トシテ申入レ置ケリ

前記修正案ニ対シテハ陸ハ両回程通読シタル後東部内蒙古問題漢冶萍公司問題及第五号ニ付テハ依然支那政府ニ於テ同意ヲ困難トスル口気ヲ洩ラシ兎モ角本案ハ政府ニ提出ノ上十分慎重ノ考慮ヲ加ヘ多分本週木曜日迄ニハ何分ノ意見ヲ開示スヘキ旨ヲ約セリ

尚陸ハ東部内蒙古ノ区域ニ論及シ支那政府ニ於テハ南満洲接壌地域ヲ以テ東部内蒙古ト看做シ北満洲及直隷省ニ接近スル地域ハ之ヲ東部内蒙古ト看做シ居ラサル所日本側ノ東部内蒙古ニ対スル見解ハ如何ト質問セルニ付本使ハ帝国政府ノ意見トシテハ請訓ノ上ナラデハ明言シ難キニ付追テ請訓ノ上何分ノ義申述ブベシト答ヘ置ケリ就テハ本件ニ対スル答弁振ハ至急御回訓ヲ請フ本日ノ会議ハ午後四時十五分ヲ以テ終了シタリ

三四八　四月二十七日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

東部内蒙古ノ範囲ニ関スル我方ノ見解ニ付回答ノ件

第二七六号

貴電第二一五号ノ三ニ関シ

東部内蒙古ノ範囲ニ付テハ第三回日露協約ノ関係モアリ「デリケート」ナル問題ナルニ付貴官ハ支那側ニ対シ左ノ通リ説明シ置カルルコトト致度モ

「南満洲ト云フモ東部内蒙古ト云フモ共ニ素ト漠然タル地理的名称ナルガ我方ノ所謂東部内蒙古ハ長城以北ニシテ南満洲ニ接壌セル地域ヲ指シ普通ニ所謂内蒙古東四盟ノ大部ヲ包括シ西方多倫諾爾辺迄ヲ含ム地方ヲ謂フモノナリ」

右地域ニツキ直隷省内長城以北ノ地方ニ就テハ支那側ニ於テ或ハ之ヲ東部内蒙古ト為スコトニ反対スルヤモ測リ難キニ付其場合ニハ確タル境界ハ本交渉決定ノ後改メテ両国間ニ協定スルコトトナスモ差支ナキニ付今日ハ主義上ノ取極ヲ為スニ止ムルコトト致度又右地域内ニ在テモ支那側ノ事情ニヨリ特ニ我勢力範囲内ニ入ルルコトヲ困難トスル地方アラバ其地方ニ付テハ他ノ地方ト異ナリタル特別ノ取極ヲ為スコトモ差支ナシ

三四九　四月二十七日　高木陸郎ヨリ
小村政務局第一課長宛

漢冶萍公司ノ日中合辦ヲ要求スルニ至リシ経緯説明ノ件

附屬書　日本政府要求漢冶萍公司中日合辦之緣因節略

拝啓

益々御清祥ノ段奉賀候小生貴地出発後去ル二十四日無事当地着李維格氏及経理代理ノ王閣臣ト面談仕候処同氏等ヨリ何故今回ノ日支交渉中ニ本公司ノ日支合辦ヲ要求スルニ至リシヤ商事会社ノ本公司ニ関スル事ヲ政府ニ交渉スルハ異ナモノニ非ズヤトノ質問ヲ相受ケ候ニ付小生ノ知リ居ル限リニ於テ今回日本政府ヨリ支那政府ニ日支合辦ヲ要求スルニ至リシハ日本資本家ヲ保護スル関係上又公司ノ将来永遠ノ利益ノ為メヲ謀リ萬全ノ最良策ト信シ公司当局者竝ニ株主モ必ズ之レニ同意スルナラム事ヲ信ジテ支那政府ニ要求スルニ至リシモノ其公司当局者ト前以テ此事ヲ交渉セザ

リシハ事ノ性質上却テ害アリテ益ナシトノ考ヨリ出デシモノ即チ公司当局者カ日本ト串通シテ支那政府ヲ苦シムルナリナド云フ謡言疑団ヲ生ゼザラシメンガ為メニシテ決シテ他意アルニ非ズト説キ示シ候処同氏等モ之ヲ諒トシ全ク日本資本家ノ立場トシテ此要求ヲ見ルハ止ム可カラザル事ナル可ク公司トシテモ却テ利益アリ株主トシテモ此方利益ナル可シナド云フ意見モ出デ候ニ付盛宣懐ニモ会見前李王氏ヲシテ此意ヲ通ゼシメ盛ノ内意ヲ探リシニ盛モ案外ナリシト喜ビ居リタリトノ事ニ翌日盛ト会見ノ際更ニ此意ヲ詳述セシニ盛モ大ニ満足シ実ハ本交渉開始ノ始メ袁氏ヨリ今回ノ日支合辦要求ハ曾テ盛氏カ日本ニアリシ時日支合辦ヲ約セシ事アリ其為メ今回ノ要求ヲ見シモノニテ盛カ日本ト通シ居ルニ非ズヤトノ疑ヲ以テ質問アリシ故決シテサル意味ノ事ナシ且ツ何等約束サル可キ約束ヲナシ居ル事ナシト申置キタルナルガ日本ノ真意ガ其如シト云フナレバ幸ヒ袁ヨリ盛ノ上京ヲ望ミ来リ居ルモ斯クノ如キ病体故出京出来難シト断リシ為メニ二日前袁ハ孫宝琦ガ盛トモ親戚関係アルヨリ（孫ノ第一女ハ盛ノ嗣子ニ嫁シ其第三女ハ袁ノ子ノ嫁トナリ居リ且ツ孫ト袁トハ若カキ時ヨリノ友ナリ）孫ヲ盛ト打合セノ為メ上海ニ派シ来リ盛ノ別宅ニ仮寓シ居レバ真ニ公司ノ前途ヲ思フモノ竝ニ公司株主トシテハ感謝スルガ当リ前ニ候尚ホ盛ハ専実病体ニテ精神ハ確カニ候ヘ共脚モ歩行出来ザル位ニ弱リ居リ床上ニ居ルカ又ハ床前ノ椅子ニ坐シ居ル事出来ル位ニ候テ盛ノ後継者ニ就テハ盛モ余程苦心致シ居ル模様ニ有之且ツ袁世凱トモ常ニ意思ノ流通ヲナス上ニモ適当ノ後継者ヲ得ル必要有之丁度孫宝琦ガ来滬シ同人ガ前記ノ如ク袁トモ盛トモ仲ヨク尤モ親シキ親戚関係モ有之候ヨリ盛ハ之レニ目ヲ付ケ将来漢冶萍公司ノ会長ヲ孫ニ譲ル内意アリ当分ハ副会長トシテ北京ニ置キ意思疏通ヲ謀ラシムル考ヘラシク孫モ既ニ之ヲ内話シ居リ袁モ内諾シ居ル様ニ御座候公司ノ為メニモ孫ナレバ都合ヨカル可ク日本トシテモ孫ナレバ別ニ不可ナカル可シト存シ居ルニ候実ハ此儀電信ニテ申上ゲンカトモ存ジ候ヒシガ未ダ発表シタル訳ニモ無之本状到着後御異存アラバ御電示ヲ請ヒ其上ニテ更ニ接衝ヲ試ミテモヨロシク何分未タ内々ノ議ニテ公司ノ董事、経理等スラ（王、李トモ知ラス小生ヨリ聞キ驚キ居ル位ニ候）知ラザル位ニ候ヘバ其御含マデ何分ノ御意見御洩示願上候

先ハ右本日迄ノ成行不取敢御内報申上置度如斯御座候　草草拝具

バ同人ニ其旨ヲ詳説シ日支合辦ノ止ム可カラザルヲ力説シ且ツ公司当局者竝ニ公司株主トシテモ其方利益ナル可シト申ス様トノ事ニテ且ツ之レヲ詳説スルノミナラズ其大略ヲ参考ノ為メ記シ孫ニ会見ノ際示シ置ク様又孫トノ会見時刻等ハ盛ノ方ニテ孫ト打合セ置ク可シトノ事ニ候ヒシヨリ乃チ別紙ノ如キ一文ヲ草シ王閣臣李維格氏ニモ示シ後昨夜又盛ト会見之ヲ示シ盛モ之レニテヨシ此意味ニテ力説ス可シトノ注意モ有之乃チ本朝孫宝琦ニ面会此趣意申伝ヘシニ孫モ大ニ其意ヲ諒シ誠ニ尤モナリ袁政府ニ於テモ創業日尚ホ浅ク公司ノ事ニ注意及バサリシ結果事ノ玆ニ至リシモノ大要ハ日置公使ヨリ陸外務総長ニ話サレタル事及小田切氏ヨリモ聞キ居リタルガ事実全ク如此ニ相違ナケレバ日本資本家ノ立場トシテ日支合辦ヲ要求サルルハ無理カラヌ事ナル可ク公司当局者トシテ又大株主タル盛ガ之レヲ予ニ小生ノ手ヲ経テ申サスルモ無理カラヌ次第兎モ角本書（小生ノ記シタルモノ）ハ政府ノ方ヘ直接伝達ス可シトノ事ニ有之豫テ此旨盛、李王ノ諸氏ニモ申シ置キタル様ノ次第ニ候テ今回ノ日支合辦要求ニ関シテハ公司当局者何レモ満足ノ意ヲ表シ盛ハ殊ニ喜ビ居ル様ノ姿ニ候余事ナカラ可笑シキハ盛一家ノモノカ均シク皆喜ビ居ル事ニテ事実此通リ参レバ

再伸　別紙ノ一文ハ盛及王閣臣氏等ノ注意ヲ聞キ草シタルモノニテ第六項内ノ事実ノ如キハ当地ニ参リテ始メテ知リシ次第ニ候又別紙ノ前文中ニモ記シ置キ候如ク此実例ハ公司内部ノ人ヨリ日本ニ洩ラシタルモノニハ無ク総テ公司内ニ日本ヨリ派シ居ル会計顧問カ日本ニ情報シタルモノノ如ク記シ以テ北京政府ノ疑ヲ避クル事ニ致シタルニ候間左様御含置キ被下度候

（附属書）

（別　紙）

日本政府要求漢冶萍公司中日合辦之緣因節略

日本資本家業已分次借與公司日金約貳千萬圓嗣與公司當局者再四磋商以爲如再將日金壹千五百萬圓借與公司則公司藉得整理財政擴充事業能期公司事業十分發達故此於前年冬已將日金壹千五百萬圓借妥詎料事反豫想中國政府種々設法妨害公司事業不特公司事業不能見発達竝且有公司前途不堪寒心者日本資本家爲保全所投資本之安固不得已迫令日本政府對中國政府要求中日合辦此係唯一無二之保全投資方法除此方法實無善法矣現將中國政府迫害公司之實例據該公司所聘之日本顧問報告情形開列於左

一、日本資本家當初確信公司係先根據張之洞之上奏嗣照商律註冊農商部純屬完全商辦故其既得權應由中國政府的確保障不料數年以來孫武督辦之説有迫害江西萍鄉煤礦事件有湖南都督留難運煤船案等種々妨害案件使日本資本家疑惑公司根本

二、大冶地方除公司所有鐵礦外之官有鐵礦以及武昌縣與國州内與公司有關係之各鐵礦錳鑛煤礦等當初公司（即盛宣懐）由張之洞承辦鐵廠之時約定公司有優先採礦權後來共和政府成立以後此種優先權漸顯不安固故當初日本資本家視公司爲有此種優先權而投資本者現欲放心亦不得也

三、萍鄉縣内一帶礦務前清時代有上諭明文准公司有優先權共和政府成立以後任意准許土民採取侵害公司既得權絲毫不顧公司虧損暫且不論然確信公司此種優先權投資之日本資本家不能坐視寛假亦自明之理矣

四、公司應繳税課本定出銑鐵每一噸完納一兩此外各種税課一切免豁此事據張之洞之奏文早已明定近來藉以整理税制爲名對於大冶礦砂勤索地方礦業税竝對於公司之小火輪駁船賦課鈔税確係明侵既得權而公司所受損害即累及日本資本家者也

五、萍珠鐵路本係爲運萍煤起見公司出資安設後歸國有者故其運費應按國有鐵路所定運費最低率照收不想津浦鐵路等運送嶧縣煤按每英理每噸僅收洋八厘而萍珠鐵路即收洋一分三厘之高率竝且報求車輛不敷置若罔聞明出於迫害公司之態度不但公司損害巨大且日本資本家所受虧累亦不淺矣

六、中國國内安設鐵路應用鋼軌於前清時代准許悉歸漢陽鐵廠有優先供給權而共和政府成立以来不啻不認此優先權竝且粤漢鐵路等購買公司所造鋼軌每噸五十兩〇七　七中國政府京奉鐵路所用鋼軌悉由外洋購辦其價每噸八十五兩之多此種事件顯係故意迫害公司侵害既得權者公司所受損害巨大則與公司有深大關係之日本資本家不能視爲對岸之火

七、日本資本家酌察公司財政困難將合同條款所定還本期限延長四年僅收利息使公司有財政餘裕以維持公司大局誰料等故意種々迫害公司日本資本家實不堪甘心坐視

上開各項均係中國官憲迫害公司者公司實受巨大損害竝且當初因信用公司既得之各種利權而投資之股東以及日本資本家所受虧累實非筆舌所及原來公司辦事人等爲恢復此種既得權起見種々設法再四懇請北京政府故日本資本家姑觀望其進行狀態再行研究對付方法後來北京政府不但始終不充公司所請竝且迫害公司日比一日倘再任意延擱究竟公司要遭遇破産之命運延而日本資本家有受絶大損害之危險日本資本家認公司辦事人等既業盡完最善之方法再督勵公司辦事人與中國政府力爭終無效果既與日本政府商議保全資本之方法日本政府認識公司之利害與日本資本家之利害互相一致如欲公司事業之發達昌榮則應中日兩國政府設法特別保護維持爲要其根本解決方法即將公司作成中日合辦組織爲最良方策風聞此次日本政府對中國政府要求承認中日合辦即係出於此種主意至於中日合辦交涉開始以前尚未與公司豫先商議者交涉案件專係於北京政府竝地方官憲之迫害行爲日本政府之眞意不出於期公司事業之發達昌繁之外故日本政府確信公司辦事人竝公司股東必無何等異議如中國政府之態度一決則彼等亦必衷心贊成無異矣

（右和訳文）

漢冶萍公司ノ日支合辦ノ已ム可カラザル事由

日本資本家ハ曩ニ公司当局者ト種々協議ノ末日本ヨリ既ニ

之レ迄数回ニ分カチ弐千萬円ヲ公司ニ貸与シ居ルモ更ニ壱千五百萬円ノ資金ヲ公司ニ貸与セバ公司ノ財政モ整理スル事ヲ得拡張モ出来十分公司事業ノ発展ヲ期シ得ル事ト信シ一昨年冬壱千五百萬円ヲ貸与スル事トナリシニ事ハ豫想ト違ヒ支那政府ハアラユル手段ヲ以テ公司事業ニ妨害ヲ加ヘ為メニ公司ノ事業ノ発展ヲ見ザルノミカ公司ノ前途甚ダ寒心ニ耐ヘズ日本資本家モ其投資ノ安全ヲ期スルカ為メニハ勢ヒ日本政府ニ迫リ支那政府ニ対シ其唯一ノ投資安全方法トシテ日支合辦ヲ要求セシムル外無キニ至リタルナリ即チ其支那政府ガ公司迫害ノ例ヲ公司ガ傭聘セル日本顧問ノ報告ニ基キテ列挙セハ大略左ノ如シ

一、日本資本家ハ公司ガ張之洞ノ上奏ニ準拠シ其後農商部ニ登記シ完全ナル商事会社ニシテ既得ノ権利ハ確実ニ支那政府ノ威力ニヨリ確保サレアルモノト信ジ居リタルニ前年来湖北ニ於ケル孫武督辦事件アリ江西省ノ萍郷炭坑ニ対スル迫害アリ湖南都督ノ公司運炭船ノ抑留等アリ甚シク日本資本家ハ公司ノ根本ニ不安ヲ感シ来レリ

二、大冶地方ニ於ケル公司所屬ノ鉄礦以外ノ官有鉄山其他武昌県與国州ニ於ケル公司ニ関係ヲ有スル鉄山錳鉱煤鉱等ハ其始メ公司（即チ盛宣懐）カ鉄廠ヲ張之洞ヨリ譲リ

受ケタル際ハ公司ニ於テ優先採掘権ヲ有シ居リタルモノナルニ共和政府トナリタル以来其優先権甚シク不安固トナリ引テ此優先権ヲ有スルモノトシテ投資セル日本投資ノ不安ヲ感ズルニ至レリ

三、萍郷県内一帯ハ前清時代上諭ノ明文ニ拠リ公司ニ於テ採掘権ヲ有シ居ルモノナルニ共和政府トナリタル以来猥リニ土民ノ採掘ヲ許シ公司既得ノ権利ヲ侵害シテ顧ミズ公司ノ損害ハ勿論ナガラ此公司既得ノ権利ヲ信ジテ投資セル日本資本家ガ此儘寛仮シ得ザルハ自明ノ理ナルベシ

四、公司ノ政府ニ納ムル課税ハ銑鉄製出高毎一屯ニ対シ一両ノ税金ヲ納ムル以外総テノ課税ハ免除セラル可キハ張之洞ノ上奏文ニヨリ明カニ規定セラレ居ルニ拘ハラス近来ニ至リ税制整理ヲ名トシ大冶礦石ニ対シテハ更ニ採掘税ヲ課シ公司所有ノ小蒸汽、艀ニ対シ船税ヲ課スルハ明カニ既得権侵害ニシテ公司ノ蒙ムル損害ハ引イテ日本資本家ニ対スル損害トナルナリ

五、萍珠鉄道ハ元ト公司ノ運炭ノ為メ敷設シ後国有トナリシモノ故其運賃ハ国有鉄道運賃ノ最低率ヲ以テス可キ筈ナルニ津浦鉄道等ニ於テ嶂県炭ハ毎哩八厘ナルニ萍珠鉄道ニ於テハ一銭三厘ノ高率ヲ徴シ且ツ車輛ノ不足ヲ訴フルモ故意ニ之レヲ聴カス明カニ公司ヲ迫害スル態度ニ出デ公司ノ損害大ナルト同時ニ日本資本家ノ蒙ムル損害モ大ナルナリ

六、支那国内ニ敷設スル鉄道用「レール」ハ前清時代ニ於テハ総テ漢陽鉄廠ニ於テ優先供給権ヲ有シ居リタルモノナルニ共和政府以来此優先権ヲ認メザルノミカ粤漢鉄道等ニ公司ニ於テ毎屯五十両七匁七分ニテ納入シ居ルニ京奉鉄道等ニ於テハ八十五両ノ高値ヲ以テ却テ外国ヨリ購入シ居ルガ如ク故意ニ公司ヲ迫害シ既得権ヲ侵害サルルハ公司ノ損害ハ勿論之レト関係深キ日本資本家ハ坐視スルニ耐ヘザルナリ

七、日本資本家ハ公司ノ目今ノ財政状態ニ鑒ミ契約條項ニ拠ル元金支払ヲ向フ四ヶ年延期シ公司ノ財政余裕ヲ来タス迄ハ単ニ利息ノミヲ支払ハシメ以テ公司ノ維持ヲ計リ居ルモノナルニ之レヲ保護ス可キ支那政府カ「レール」代前貸アルヲ名トシ現金支払ノ約束アル「レール」代金ヲモ差押ヘ公司ニ交付セザルカ如キハ故意ニ公司ヲ迫害スルモノニシテ日本資本家ニ於テ坐視スルニ忍ビサルナリ

以上列記セルモノハ総テ官憲ノ迫害ニ係リ公司ノ蒙ムル損害莫大ニシテ当初ノ既得利権ヲ信ジ応募セル株主及之ヲ信シテ投資セル日本資本家ノ蒙ムル損害又莫大ナリ然シテ公司当局者モ之レカ既得権恢復ニ関シテハ種々方法ヲ尽シ一再ナラズ北京政府ニ懇訴シ居リシヲ以テ日本資本家モ之レカ成行ヲ観望シ居リシニ北京政府ハ之レカ懇願ヲ聴カザルノミカ益々其迫害ヲ加フルノミナルヨリ斯クテハ窮極公司ハ破産ノ運命ニ遭遇スルノミナラズ延テ日本資本家ノ蒙ムル損害大ナルモ既ニ公司当局者トシテハ最善ノ力ヲ尽シ居ルモノナルヨリ此上公司当局者ヲ督励シテ支那政府ニ抗議スルモ其効ナキヨリ其投資ノ安全保護ヲ日本政府ニ謀リシ結果日本政府ハ種々熟慮ノ末公司ノ利害ト日本資本家ノ利害トハ相一致シ公司事業ノ発展繁栄ヲ謀ラントセバ中日両国政府ニ於テ特種ノ保護維持ヲナサザル可カラズ之レガ根本解決ハ公司ヲ日支合辦組織トナスヲ最良ノ方策ナリト決シ即チ今回支那政府ニ対シ公司ノ日支合辦ヲ認ムル事ヲ要求スルニ至リタルモノナリト仄聞ス然シテ其交渉開始前ニ公司当局者ト何等豫備交渉ヲ開始セサリシハ事専ラ北京政府及地方官憲ノ行動ニ関シ其真意ハ公司事業ノ発展繁栄ヲ期スルニ外ナラサレハ公司当局者竝ニ公司株主ニ於テモ必ズ何等異議ナキハ勿論政府ノ態度ニシテ決セバ喜ンテ之レニ賛ス可キヲ信ジテ疑ハザリシカ故ナリ

三五〇　四月二十七日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

第二十五回談判中ノ漢冶萍公司問題ニ関スル陸総長ノ異議ニ付問合ノ件

第二七七号

貴電第二一五号ノ二末段ニヨレハ陸総長ハ東部内蒙古及第五号ノ両件ハ兎モ角トシ漢冶萍ニ関スル我最後修正案ハ原案第一條ヲ往電第二三七号前段ノ通リ更メ原案第二條ヲ往電第二六二号(五)ニヨリ全然削除シタルモノニテ畢竟貴電第一七九号ノ一ノ通リ陸ニ於テ約束シ得ベキ旨言明セル範囲ノ事項即チ「日本国ト漢冶萍公司トノ関係ハ極メテ密接ナルニ付他日同公司関係者ト日本資本家トノ間ニ合辦ノ議成リタルトキハ支那政府ニ於テ之ヲ承認スヘク又支那政府ハ同公司ヲ没収セザルベク又日本資本家ノ同意ナクシテ国

有トナスコトナカルベク且又日本国以外ヨリ外資ヲ公司ニ入レシムルコトナカルベキ旨」ノ趣旨丈ニ止メタルモノニシテ（貴電第一六八号ノ四参照）右ノ趣旨ハ貴電第一八八号ノ七曹汝霖内話ノ中ニモ繰返ヘサレ居ル位ナリ従テ漢冶萍ニ関スル我最後修正案ハ全然支那側ノ言フ処ヲ採用シタルモノニシテ今更支那側ニ於テ何等異議アル筈ナキナリ右ハ如何ナル行違ナルヤ為念貴見至急回電アレ

三五一　四月二十八日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

漢冶萍公司ニ関スル我最後修正案ニ付陸総長不同意ノ理由説明及請訓ノ件

第二一六号

貴電第二七七号ニ対スル回答

漢冶萍公司問題ニ関シテハ貴電第二六二号御電訓ニ依レハ同号(ロ)ノ第五ニ「第三号第二條（往電第一九〇号(一)ヲ以テ修正）ヲ撤回ス」トアルニ依リ去ル二十六日提出ノ修正案ハ貴電第一九〇号ヲ基礎トスル御趣旨ト了解シ同号ノ第二條ハ之ヲ撤回シ第一條丈ヲ新修正案トシ提出セル次第ナルヲ以テ陸ニ於テ一応不同意ノ口吻ヲ洩ラシタルモノト察セラル然ルニ本件ハ貴電第二七七号ニ接シ初メテ貴電第二六二号中ノ「往電第一九〇号」トアルハ「往電第二三七号」ノ誤ニアラザリシカト存セラルルモ今更支那側ニ対シ訂正ヲ試ムルカ如キコトハ甚タ好シカラス去リトテ支那側ヨリ反対セラレタル際譲歩ノ形式ニテ第二三七号ノ案ニ改ムルコトモ已ニ既ニ譲歩ノ極度トシテ提出シタル行懸上是亦面白カラズト思考ス如何取計ヒ可然ヤ

三五二　四月二十八日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

漢冶萍公司ニ関スル我最後修正案訂正方ノ件

第二七八号

貴電第二一六号漢冶萍ノ件ニ関シ御承知ノ通リ我最後修正案ハ已ニ英国政府ヘモ内告スルコトニ取計ヒ置キタル関係モアリ此儘打捨テ置クヲ得ザルニ付貴官ハ至急支那政府ニ対シ電報ノ行違ヨリ生ジタル誤ナル旨ヲ述ヘ本件訂正方取計ハルベシ

三五三　四月二十八日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛

我最後修正案漢訳文写送付ノ件

附屬書　右修正案漢訳文

対支要求ニ関スル修正案漢訳文写送付ノ件

第一二二号　（五月三日接受）

大正四年四月二十八日

往電第二一八号ヲ以テ申進候通四月二十六日支那側ヘ提出セル修正案漢訳文写茲ニ及郵送候條御査閲相成度候也

（附屬書）

修正案漢訳文写

另開各款係將日文譯漢文者未次確定時應有修正文字之處特此聲明

第一號前文（譯漢文）

日本國政府及中國政府互願維持東亞全局之平和並期將現存兩國友好善隣之關係益加鞏固玆議定條款如左

第一號第一款（譯漢文）

中國政府允諾日後日本國政府擬向德國政府協定之所有關於山東省依據條約或其他關係對中國政府享有一切權利利益讓與等項處分概行承認

第一號第二款　改爲換文（譯漢文）

中國政府聲明凡在山東省内並其沿海一帶之地及各島嶼無論何項名目概不讓與或租與別國

第一號第三款（譯漢文）

中國政府允准自行建造由煙臺或龍口接連膠濟路線之鐵路如德國願拋棄煙濰鐵路借款權之時可向日本資本家商議借款

第一號第四款（譯漢文）

中國政府允諾爲外國人居住貿易起見從速自開山東省内合宜地方爲商埠

附屬換文（譯漢文）

所有應開地點及章程由中國政府自擬與日本國公使預先妥商決定

第二號前文（譯漢文）

日本國政府及中國政府爲發展彼此在南滿洲及東部内蒙古之經濟關係起見議定條款如左

第二號第一款（譯漢文）

兩訂約國互相約定將旅順大連租借期限並南滿洲及安奉兩鐵路期限均展至九十九年爲期

附屬換文（譯漢文）

旅順大連租借期至民國八十六年卽西歷一千九百九十七年爲滿期南滿鐵路交還期至民國九十一年卽西歷二千零二年爲滿期其原合同第十二款所載開車之日起三十六年後中國政府可給價收回一節毋庸置議安奉鐵路期限至民國九十六年卽西歷二千零七年爲滿期

第二號第二款（譯漢文）

日本國臣民在南滿洲爲蓋造商工業應用之房廠或爲經營農業可得租賃或購買其須用地畝

第二號第三款（譯漢文）

日本國臣民得在南滿洲任便居住往來並經營商工業等各項生意

第二號第三款第二項（譯漢文）

前二款所載之日本國臣民除須將照例所領護照向地方官註冊外應服從由日本國領事官承認之警察法令及課稅至民刑訴訟其日本人被告者歸日本國領事官其中國人被告者歸中國官吏各審判彼此均得派員到堂傍聽但關於土地之日本人與中國人民事訴訟按照中國法律及地方慣習由兩國派員共同審判俟將來該地方司法制度完全改良之時所有關於日本國臣民之民刑一切訴訟卽完全由中國法庭審判

第二號第五款第二項　改爲換文（譯漢文）

中國政府聲明嗣後將東三省南部之各種稅課（惟除業已由中央政府借款作押之關稅及鹽稅等類）作抵由外國借款之時須先向日本資本家商借

第二號第六款　改爲換文（譯漢文）

中國政府聲明嗣後如在東三省南部聘用政治財政軍事警察外國各顧問教官儘先聘用日本人

第二號第七款（譯漢文）

中國政府允諾以向來中國與各外國資本家所訂之鐵路借款合同規定事項爲標準速行從根本上改訂吉長鐵路借款合同將來中國政府關於鐵路借款附與外國資本家以較現在鐵路借款合同事項爲有利之條件時依日本之希望再行改訂前項合同

中國對案第二號第七款

關於東三省中日現行各條約除本協約另有規定外一概仍舊實行

關於東部內蒙古事項

一　中國政府允諾嗣後在東部內蒙古之各種稅課作抵由外國借款之時須先向日本國政府商議

一　中國政府允諾嗣後在東部內蒙古需造鐵路由中國自行籌款建造如需外款須先向日本國政府商議

第二號第四款　改爲換文（譯漢文）

中國政府允諾日本國臣民在南滿洲左開各鑛除業已探勘或開採各鑛區外速行調查選定卽准其探勘或開採在鑛業條例確定以前仿照現行辦法辦理

一　奉天省		
所在地	縣名	鑛種
牛心臺	本溪	石炭
田什付溝	本溪	同上
杉松崗	海龍	同上
鐵廠	通化	同上
暖池塘	錦遼陽縣起至本溪縣	同上
鞍山站一帶		鐵

二　吉林省南部		
杉松崗	和龍	石炭鐵
缸窰	吉林	石炭
火皮溝	樺甸	金

第二號第五款第一項　改爲換文（譯漢文）

中國政府聲明嗣後在東三省南部需造鐵路由中國自行籌款建造如需外款中國政府允諾先向日本國資本家商借

一　中國政府允諾爲外國人居住貿易起見從速自開東部內蒙古內合宜地方爲商埠其應開地點及章程由中國自擬與日本國公使預先妥商決定

一　如有日本國人及中國人願在東部內蒙古合辦農業及附隨工業時中國政府應行允准

第三號（譯漢文）

日本國與漢冶萍公司之關係極爲密接如將來該公司關係人與日本資本家商定合辦中國政府應卽允准又中國政府允諾如未經日本資本家同意將該公司不歸爲國有又不充公又不准使該公司借用日本國以外之外國資本

第四號　按左開要領中國自行宣布

所有中國沿岸港灣及島嶼概不讓與或租與他國

第五號

換文（譯漢文）

中國政府允諾凡在福建省沿岸地方無論何國概不允建設造船廠軍用蓄煤所海軍根據地又不准其他一切軍務上施設並允諾中國政府不以外資自行建設或施設上開各事

換文第一案（譯漢文）

對於由武昌聯絡九江南昌路線之鐵路又南昌至杭州及南昌至

潮州之各鐵路之借款權如經明悉他外國並無異議應將此權許與日本國

換文第二案（譯漢文）

對於由武昌聯絡九江南昌路線之鐵路及南昌至杭州南昌至潮州各鐵路之借款權由日本國與向有關係此項借款權之他外國直接商妥以前中國政府應允將此權不許與外國

（譯漢文）

陸外交總長言明如左

一　嗣後中國政府認爲必要時應聘請多數日本人顧問

二　嗣後日本國臣民願在中國內地爲設立學校病院租賃或購買地畝中國政府應卽允准

三　中國政府日後在適當機會遣派陸軍武官至日本與日本軍事當局協商採買軍械或設立合辦軍械廠之事

註　原訓令ニハ有力ナル日本人トアリ多数ノ字ナシ

（譯漢文）

日置公使言明如左

關於布教權問題日後應再行協議

三五六　四月二十八日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

中国側ニ於テ我最後案審議ノ為会議中止ノ件

第二二一号

四月二十六日提出ノ我最後修正案ハ支那政府ニ於テ十分審議ヲ尽スノ必要アルニ依リ明二十九日ノ会議ハ中止シタキ旨申越セルニ付事情已ムヲ得サルモノト認メ同意ヲ与ヘ置ケリ

三五七　四月二十九日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

会議中止ノ真相ニ関シ回報ノ件

第二二二号

貴電第二二八号廿九日会議中止ノ真相ニ関シテハ初メ廿六日会見ノ節陸ハ篤ト審議ヲ要スルモノト認ムルニ付多少時日ノ余裕ヲ存シ次回ノ会見ヲナシ度希望ナルモ多分廿九日頃ニハ回答ヲナシ得ベシト考フル旨ヲ述ベタルニ付兎モ角次回ノ会見ヲ略ホ廿九日ト定メタル次第ナリ然ルニ其後大総統府ニ於テハ数回重要会議ヲ開キ評議ヲ凝シタル模様ニテ段祺瑞ノ如キハ最モ硬論ヲ唱ヘ其職ヲ賭シテ迄主戦説

三五四　四月二十八日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

最後譲歩案ニ於ケル警察法令及課税ノ我領事官承認問題ニ関シ請訓ノ件

第二一九号

貴電第二六二号(三)ニ関シ警察法令及課税ニ関スル点密約云々ノ件「日本領事官ノ承認」ナル制限的規定ハ之ヲ密約ト為スモ差支ナシトノ御趣意ト了解シ居ル処右ニテ可然ヤ将又租地章程ノ件ハ支那側ニ於テ條約中ニ規定センコトヲ主張スル場合ニハ日本国ト協議スルコトヲ條件トシテ同意ヲ与ヘ差支ナシトノ御趣意トハ了解シ居ル処若シ支那側ヨリ前記協議ノ点丈ハ密約ト為シタキ旨申出デタル場合ニハ是亦同意ヲ与ヘ差支ナキヤ併セテ御電訓アリタシ

三五五　四月二十八日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

漢冶萍公司修正案訂正済報告ノ件

第二二〇号

貴電第二七八号ニ関シ四月二十八日訂正方取計置ケリ

ヲ主張シタルモ袁世凱ノ為メ屢々慰諭セラレタルヤノ風説伝ハリ折柄日本国ヨリノ報道ハ時々刻々ニ対支交渉ニ関スル我輿論ノ高潮シ来ル消息ニ連レテ支那政府部内ノ人々モ漸ク事態ノ重大ニ赴キツツアルヲ感覚シ旁々一方ニ於テ内部ノ評議未ダ全ク決定セザルト他ノ一方ニ於テ事態ノ重大ニ顧ミ此際懲イニ駈引的回答ヲナシ一歩ヲ誤ルトキハ非常ノ危機ニ陥ル懸念モアリ目下支那政府当局ハ進退両難ノ地位ニ鑑カラス苦慮シツツアルモノノ如シ昨今外間ヨリノ内報ニ依レバ第一号乃至第四号ハ多少修正ノ上全部大体同意ニ内定セルモノノ如ク此点ハ二三別筋ノ消息略ボ相一致セリ然ルニ第五号ニ関シテハ今一回全部之ガ拒絶ヲ試ムベシトノ説モアレバ又同号ニ付テハ妥協的修正案ヲ提出スルニ至ルベシトノ説モアリ内外人間ニ於ケル観測一ナラザルモ本日仏国公使カ本使ト会談ノ際同公使ハ梁士詒及外交部員等ニ面会シ得タル感想ニヨリ判断シ新修正案ハ全部支那政府ニ於テ承諾スルナラムト観察シ居ル旨内話セリ又外国新聞通信員中ニモ略同様ノ観察ヲ下スモノ勘ナカラザルガ如シ会見期日延期ノ内情モ初メ外国筋ニ探リヲ入レ若クハ其ノ意嚮ヲ確ムルタメニハアラズヤトノ疑アリタルモ其後ニ於ケル実際ノ模様ニヨリ右ハ全ク審議ノタメ時日ヲ要ス

ルタメト認メタルニ付一応同意ヲ与ヘ置キタル次第ナリ会見期日確定方ノ件ハ早速帝国政府ノ訓令トシテ支那側ニ申入レタルニ多分土曜日トナルベキ見込ナルモ明三十日朝確答スヘキ旨挨拶アリタリ回報旁御含迄

三五八　四月三十日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

土匪討伐ノ為中国軍艦派遣ニ同意セラレタキ旨中国側ヨリノ申越ニ付請訓ノ件

第一二三号

在芝罘領事発電報第一九号ニ関シ四月二十二日附覚書ヲ以テ外交部ヨリ土匪討伐ハ海陸ヨリ竝進ノ必要アルニ付支那軍艦ヲ交戦地域ニ派遣ノ件同意セラレタキ旨申越シ次テ四月二十四日附覚書ヲ以テ山東来電ニ依レハ青島ノ乱匪大挙シテ起リ古鎮口ニハ既ニ約二百名上陸シ大珠山ニハ大小汽船各二隻到達シ貢口ニ於テモ土匪上陸掠奪ヲ擅ニシ居ル趣ニ付速ニ軍艦派遣方同意セラレタキ旨重テ照会アリタルヲ以テ吉田大佐ヲシテ青島要港部司令官ニ協議セシメタル所四月二十九日同司令官ヨリ海賊已ニ逮捕セラレ海上安全ト問題ニ関シテハ南満洲及熱河道ニ属スル東蒙古ニ限リ租税担保借款鉄道借款及商埠地ノ件ハ大体ニ於テ我提議ヲ容レタルモ農業合辦ノ件ハ全然之ヲ承認セズ次ニ第五号ニ付テハ福建問題ヲ除キ他ノ諸項ハ全然之ヲ承認セズ本日ノ会見ニ関スル詳報竝支那側回答ノ内容ハ後電ヲ以テ電報スベキモ取急キ要領ノミ

三六〇　五月二日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

我最後修正案ニ対スル中国側回答ニ関シ陸外交総長ノ説明報告ノ件

第一二九号

五月一日外交部ニ於ケル会見ノ概要ハ往電第一二八号ヲ以テ不取敢電報シ置キタルガ本日ハ先ヅ過日我方ヨリ提出ノ最後修正案ニ対スル回答トシテ陸ハ一ノ対案ヲ本使ニ手交スル旨ヲ述ヘ秘書ヲシテ大体左ノ意味ノ口上ヲ朗読セシメタリ

「曩ニ日本国政府ノ提出シタル要求五号アリ第一号ハ山東問題第二号ハ南満洲問題第三号ハ漢冶萍公司問題第四号ハ

ナリ且要港部ニ於テ今後十分取締ルヘキヲ以テ支那軍艦派遣ノ必要ヲ認メス尚軍艦松江ハ瑯邪台附近ノ秘密測量中ナルヲ以テ支那軍艦ノ巡航ハ紛擾ヲ醸スノ虞アリトノ返電ニ接セリ

右様ノ次第ナルヲ以テ外交部ノ照会ニ対シテハ不同意ノ旨程ヨク回答スルノ外ナカルヘキカト思料スルモ尚本省ニ於テ其筋ト御協議ノ上何分ノ義電報アリタシ

三五九　五月一日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

我最後修正案ニ対スル中国側ノ回答受領及其内容不満足ナル旨報告ノ件

第一二八号

五月一日午後三時外交部ニ赴キ陸総長ト会見我最後修正案ニ対スル回答ヲ受領シタルモ其内容ハ大体ニ於テ頗ル不満足ト認ムベキモノニシテ就中第二号ニ於テハ土地租契ニ関スル訴訟ハ日本人対支那人ノ分ハ勿論日本人間ノ分迄モ全然支那法廷ノ審理ニ服スベキコトヲ主張シ違警律及違警章程及課税ノ件ハ日本領事承認ノコトヲ同意セズ東部内蒙古支那沿岸不割譲ノ件及第五号ハ顧問傭聘外六箇條ニシテ其内第一号及第二号ハ條約ヲ以テシ第三号及第四号ハ公文交換ヲ以テ之ヲ取極メ第五号ハ勧告條件ナル旨当時日本国公使ヨリ委曲言明アリ

爾来支那政府ハ慎重審議ヲ尽シ誠意ヲ披瀝シテ交渉ニ応シタリ即チ山東問題ニ付テハ概要同意ヲ表シ第二号ニ付テハ日本国ノ南満ニ於ケル特殊ノ地位ニ鑑ミ旅大租借期限ヲ延長シテ九十九年トナシ南満洲鉄道三十六年ノ期限ヲ延長シテ九十九年トナシ安奉鉄道モ亦其期限ヲ九十九年ニ延長セリ之レ実ニ支那政府ガ忍ビ難キ苦痛ヲ忍ビ以テ日本国ニ対シ絶対善隣友好ノ誼ヲ表示シタルモノト云ハザルベカラズ此外第二号中ノ各項ハ譲歩スベキハ殆ト譲歩シタリ只雑居問題ニ付テハ支那ト日本支那ト外国トノ間ニ存スル條約上ノ牴触ヲ避ケントシ最初ハ完全ニ裁判権ヲ支那ニ収メンコトヲ求メタルモ日本国ノ同意ヲ得ズ爾後五六回ノ修正ヲ加ヘ遂ニ満洲内地ニ於ケル雑居ノ日本人ニ係ル民刑訴訟ハ依然トシテ現行條約ノ規定ヲ適用スルコトトシ只土地租契ニ関スル訴訟ニ付テノミ支那ノ法権ヲ維持シ以テ領土主権ノ表示トセリ

是亦支那政府カ極度ノ譲歩ヲ示シタル誠意ヲ見ルベシ東部

内蒙古ハ風気尚未ダ開ケズ元ト南満洲ト同一視スベカラズ故ニ先ツ商埠ヲ開キ以テ外人貿易ノ利ヲ図ルニ止ムルノ外ナシ次ニ第三号漢冶萍公司ノ件ハ純然タル商事ナリ政府ノ漫ニ干渉スベキ性質ノモノニアラズ故ニ豫テ本件ニ関シ声明シタル範囲内ニ於テ約束ヲ為スコトハ之ヲ妨ゲザルモ其以外ノ事ニ至テハ殆ト不可能事ニ属ス将又第四号ハ我主権ニ妨害アリ従テ最初ハ断然商議ニ応ゼザル方針ナリシモ日本代表者ノ切実ナル請求ニ依リ更ニ考慮ヲ加ヘ主権ノ範囲内ニ於テ自ラ宣言スルコトトセリ之ヲ要スルニ以上ノ諸項ハ皆我主権、領地及機会均等主義ニ干渉スルモノナルモ支那政府ハ最慎重ニ考慮シ務メテ日本国ノ希望ニ副ヒ以テ多大ノ譲歩ヲ示シタリ

之レ実ニ支那政府苦心ノ存スル所ニシテ日本国政府ニ於テモ亦之ヲ諒トスル所ナルベシ若シ夫レ第五号ニ至リテハ当初要求條件提出ノ際日本国ハ之ヲ勧告條件ト声明シタルガ故ニ支那政府ハ終始文字上ノ取極ハ之ヲ為スヲ得ズト主張シタリ特ニ第五号各項ハ多ク主権領地及機会均等主義幷ニ外国トノ約束等ニ牴触スルモノアルヲ以テ到底支那政府ニ於テ之ニ同意スルヲ得ズ只福建問題ノミ特ニ日本国ノ意志ヲ尊重シ公文ヲ以テ取極ヲ為ス事ニ決定シタリ是亦日本国置ケリ兎モ角本日提出ノ支那政府修正案ナルモノハ豫期ニ反シ甚ダ不満足ノ対案ナルハ勿論毫モ誠意ノ認ムベキモノナシ是レ本使ノ最モ遺憾トスル所ニシテ我政府ニ於テモ亦本使ト其感ヲ同ウセラルル所ナラント信ズ尚本日会見ノ終リニ本使ハ本対案ハ支那政府ノ最後決答トシテ日本国ヘ報告シ可然哉ト念ヲ押シ尋ネタルニ陸ハ最モ明確ニ然リト即答シタリ是レ又御参考迄貴聞ニ達シ置クコトヲ至当ト信ズ右本日会見ノ模様不取敢電報ス

三六一　五月二一日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

我最後修正案ニ対スル回答トシテノ中国側対案報告ノ件

第二三〇号

第一号　前文　我原提案通

第一條　支那政府ハ日清日独両国政府間ニ独逸カ山東省内ニ於テ條約及成案ノ辦法ニ拠リ支那政府ニ対シテ享有スル一切ノ利益等ノ処分ヲ協定シタルトキハ総テ承認スヘキコトヲ声明ス

ニ於テ支那ノ誠意ヲ諒トセラルル所ナルヘシ云々」

次ニ陸ハ本使ノ請求ヲ容レ支那側修正要点ヲ挙ゲ順次ニ一応ノ説明ヲ与ヘタリ其修正ノ主要ナル点ハ既ニ往電第二二八号ヲ以テ電報ノ通ナリ

右ノ外膠州湾還附ノ件日独講和会議加入ノ件山東ニ於ケル賠償金ノ件撤兵ノ件等ヲ第一号條約中ニ規定スルコトヲ主張シ第二号第二條中ニハ依然商租ノ語ヲ存スルト同時ニ租地章程ハ新ニ之ヲ制定セザル考ニシテ土地租借ノ年限其他ノ事ハ土地ノ慣習ニ拠ラシムル考ナリト説明シタリ詳細ノ点ハ別電第二三〇号対案訳文ニテ御承知相成タシ本日陸カ修正要点説明ノ際ニハ本使ハ特ニ論議ノ必要アリトモ認メザリシモ余リニ不誠実ナル修正ニ対シテハ一々痛切ナル反駁ヲ加ヘ置キタリ特ニ土地租契ニ関スル訴訟問題ノ如キハ其修正独リ誠意ヲ缺クモノアルノミナラズ逆戻ノ感アリ即チ日本人間ノ土地租契ニ関スル訴訟ハ之ヲ日本国法廷ニ於テ審判スルコトヲ認メ又私見乍ラ陸ハ支那ノ法律慣習ニ準拠セルニ於テハ日支人間ノ土地租契ニ関スル訴訟ハ両国官吏ノ共同審判ニ附スルモ差支ナカルヘシト言明シ置キ乍ラ今ニ至リ右ノ二点ニ関シ当時ノ了解ヲ抹殺セルハ尤モ不信不誠実ノ態度ト認メザルヲ得ザルヲ以テ厳重ニ之ヲ詰責シ

第一條　第二項　往電第六七号ノ㈠第二項通即チ「日本国政府カ前項ノ利益ヲ」ヨリ「会議ニ加入スルノ権アルコトヲ承認ス」迄

第二條　往電第六七号ノ㈠第二條全文

第三條　公文文換案我原提案第二條全文但シ「他国」ヲ「別国」ニ「約ス」ヲ「声明ス」ニ改ム即チ往電第八八号ノ㈥ノ要領ニ基クモノニシテ今回ノ我修正案通リ

第四條　貴電第二六二号ノ㈠第一号第三條ノ通リ

第五條　（公文案）ハ往電第九三号ノ㈢「中國政府允諾」ヨリ「合宜地方爲商埠」迄（公文文換案）ハ往電第一〇六号ノ㈠「所有應開地點」ヨリ「妥商決定」迄ニシテ何レモ今回ノ我修正案通リ

第六條　以上各條ハ将来日独政府間ニ協商スヘキ譲与等ノ事項ニシテ若シ或ハ確定シ能ハサルトキハ本件豫約ハ無効タルヘキモノトス

第二号　前文　貴電第二六二号ノ㈡ノ通リ但シ東部内蒙古ヲ削除セリ

第一條　「條文案」ハ往電第一二八号ノ㈠末段「兩訂約國互相約定」ヨリ「九十九年爲期」迄「公文交換案」ハ往電第一二八号ノ㈡「旅順大連租借期」ヨリ「西曆二千零

四年為期」迄但シ安奉線期限ハ貴電第一五九号ノ㈡ニ依リ訂正済

第二條　往電第一七〇号ノ㈡「日本國臣民」ヨリ「商租須用之地畝」迄ニテ「耕作」ヲ「農業」ニ改メ租地章程ノ件ハ削除シタリ本條ハ今回ノ我修正案通ナルモ「賃借又ハ購買」ヲ「商租」ニ改メアル次第ナリ

第三條　貴電第二六二号ノ㈢第三條通

第三條第二項　貴電第二六二号ノ㈢及㈣第四條ノ我修正案中「且日本国領事官ニ於テ承認シタル」ヨリ「日本国領事官及支那国官吏ニ於テ共同審判スヘシ」迄ヲ削リ「応ニ支那違警律及違警章程ニ服従シ一切ノ賦税ヲ支那人同様ニ完納スヘク民刑訴訟ニ至リテハ各被告ノ本国官吏ノ審判ニ帰シ彼我員ヲ派シ傍聴スルコトヲ得但シ日本人ト日本人ノ訴訟及日本人ト支那人ノ訴訟ニシテ土地若クハ租契ニ関スル争執ハ支那官吏ノ審判ニ帰シ日本国領事官ヨリ員ヲ派シ傍聴スルコトヲ得」ト改ム

第四條ヨリ第七條迄ハ貴電第二六二号御訓令ニ基ク我修正案通リ右ノ外別ニ往電第六七号ノ㈣末段支那対案第七号一個條ヲ加フ

（東部内蒙古ニ関スル公文交換案）㈠支那政府ハ嗣後南満洲及ヒ熱河道所轄ノ東部内蒙古（熱河道所轄地域ハ民国三年七月六日附大総統教令第九一号ニテ公布シタリ政府公報参照セラレタシ）ニ於テハ関税塩税以外各種ノ税課ヲ以テ外債ノ担保トセザルコトヲ声明ス

㈡　支那政府ハ嗣後南満洲及熱河道所轄ノ東部内蒙古ニ於テ鉄道ヲ敷設セントスル時ハ支那自ラ資金ヲ調達シテ敷設スヘク若シ外資ヲ要スル場合ニハ他国トノ成約ニ牴触セサル限リ先ツ日本国資本家ト商議スヘキ事ヲ声明ス㈠支那政府ハ外国人居住貿易ノ為可成速カニ自ラ南満洲及熱河道所轄ノ東部内蒙古ニ於ケル適当ノ地方ヲ商埠トナス事ヲ承諾ス其章程ハ支那ノ他地方ニ於テ既ニ自ラ開ケル商埠ノ辦法ヲ按照シテ辦理ス可シ

第三号貴電第二三七号ニ基ク修正案中「同公司関係者」トアルハ単ニ「同公司」ト改メ「日本資本家ノ同意ナクシテ」ヲ削除セリ

（福建問題）本使ヨリ外交総長ヘ発スル公文案「聞ク所ニ拠レハ支那政府ハ福建省沿岸地方ニ於テ外国ニ造船所軍用貯炭所海軍根拠地及其他一切ノ軍事上ノ施設ヲナス事ヲ許シ又支那自ラ外資ヲ借入レ前記各施設ヲ行フヘシトノ趣ナルカ斯カル事実アルヤ否ヤ回答アラン事ヲ請フ

外交総長ヨリ本使ヘノ回答案

「何月何日附来示ノ趣閲悉セリ支那政府ハ福建省沿岸地方ニ於テ外国ニ造船所軍用貯炭所海軍根拠地及其他一切ノ軍事上ノ施設ヲ為スヲ許ルスカ如キコト決シテ之レナク又外資ヲ借入レ前記施設ヲ為サントス欲スルカ如キ意志ナキ旨声明スルコトヲ得ヘシ茲ニ回答ス」

全文郵送ス但シ右支那修正案中ニハ既ニ協定済トナリ居レル條項ハ省略シアリ尤一号ノ各條項ハ新ニ同号ニ第六條ヲ加ヘタル行懸上協定済ノ箇條モ加ヘアリ為念申進ス

三六二　五月三日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

日中交渉ニ関スル中国側現下ノ意嚮等報告方ノ件

第二九四号

日支交渉現下ノ局面ニ関スル支那側ノ意嚮其他ノ消息大至急電報アレ

三六三　五月三日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

中国ノ回答ニ関スル新聞論評及フレザー私見報告ノ件

第二三四号

今回ノ如キ態度ヲ示スニ至リタル支那側ノ内情及其決心ノ程度如何ニ付テハ折角内探ヲ遂ケツツアルモ未ダ何等信憑スルニ足ルヘキ報道ヲ得ルニ至ラス五月三日ノ諸新聞ハ何レモ支那側回答ノ要領ヲ掲ケ之ヲ以テ譲歩ノ極度ト為シ此上ハ最早一歩モ退クヲ得ザル旨強硬ニ論述セリ外国新聞通信員等モ支那ノ譲歩程度ハ公平ノ見地ヨリシテ十分ノモノニテ日本国ハ之ニテ満足シ可然モノト認メ居ルモノノ如ク現ニ「フレザー」ノ如キハ今朝本使ヲ来訪シ其ノ一己ノ私見トシテ日本国ハ既ニ是迄支那ノナシタル譲歩ヲ以テ満足シ可然是ノ問題ヲ捕ヘテ開戦スルガ如キハ甚ダ取ラザル所ナリ露仏ハ兎ニ角英米ハ決シテ斯カル行為ヲ是認セザルベク従ヒテ日英同盟モ決裂ヲ見ルニ至ルベキヤ明カナリ日本国政府ニ於テ此際譲歩スルコトハ新聞及反対党ノ攻撃ニ顧ミ頗ブル困難トスル所ナルベキモ世界ヲ敵トシテ争フガ

如キハ聰明ナル加藤男爵ノ敢テ為サザル所ナルベシト信ズル旨ヲ述ベタリ右御参考ノ一端迄

三六四　五月三日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

最後通牒発送ノ場合ニ於ケル措置ニ付手配方訓令ノ件

日支交渉ノ成行ニ鑑ミ帝国政府ハ支那政府ニ対シ最後通牒ヲ発スルニ至ルヤモ難計ニ付貴官ハ管内居留民ノ引揚方其他貴官ニ於テ此際必要ト認メラルル一切ノ措置ニ付内々手配致シ置カレ度シ且右ノ事態ヲ居留民ニ対シテモ極内密ノ含トシテ示シ置カレ度シ

在支各領事ヘ電報シタリ

註　右同文電報ハ同日付ヲ以テ在支各総領事、領事及分館主任竝中村関東都督、安東台湾総督、寺内朝鮮総督ニモ発セラレタリ

三六五　五月四日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

我最後修正案第五号ノ一中ノ語句ニ付問合ノ件

第二九八号

四月二十八日附機密第一二二号貴信添付我最終修正案ニハ原案第五号ノ一ニ関シ多数ノ日本人顧問ヲ聘請スト記載シアル処「多数」ノ語ハ今日迄我方ニ於テハ用ヒタルコトナキニ貴官ニ於テ今回此レヲ加ヘラレタルハ何等特種ノ理由アル次第ナルヤ折返シ回電アリタシ

三六六　五月四日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

我最後修正案ニ関シ曹次長ノ高尾書記官ニ対スル談話報告ノ件

第二三六号（別件）

貴電第二九二号ニ関スル回答ノ件並ニ其他二三ノ要務ニテ高尾ヲ曹汝霖ノ許ニ遣ハシタル際曹ハ第二十六回会議ノ結果ニ付政府ヨリ何等電訓ニ接セスヤト尋ネタルニ付高尾ハ未タ接到セスト答ヘタルニ曹ハ支那側修正案ニ対スル本使ノ感想ハ如何又彼我ノ案ヲ比較対照シテ支那案ヲ不満足ナリトセバ何レノ個條ヲ最モ重シトスルヤ全然個人ノ資格ニテ腹蔵ナキ意見承ハリタシト云ヘルニ付高尾ハ公使ノ感想ハ第二十六回ノ会議ニ於ケル論議ニテ其要ヲ尽シ居ル筈又何レノ個條ヲ最モ不満足ナリトスルヤト言ハバ我最後譲歩案ニ対スル支那側修正條項全部ナリト云フヲ憚カラザルベク其間何等軽重アルヲ見ズト答ヘタルニ曹ハ甚ダ露骨ノ申分ナレドモ日本国ノ要求ハ余リニ非友誼的ニシテ又余リニ圧迫的ナリ支那ニ幾分ノ同情ヲ有シ東亜永遠ノ平和ヲ思ハバ今少シク緩和スルノ方法アルベキ筈ナリ試ニ問ハンカ此次日本国ノ要求ニシテ其希望ヲ達セザルモノ果シテ幾何アリヤ第一号ハ全部其目的達セラレ第二号ハ九分九厘迄支那ハ之ヲ譲歩シ僅ニ一厘ノ面目ヲ残スノミ第三号第四号ニ至リテハ何レモ当初ノ主張ヲ翻ヘシ屑ク日本国ノ要求ニ応ジタリ蓋シ第三号ハ日本国ヨリ第二條ヲ譲リ第四号ハ支那案通ナリト云ハレンカナレドモ抑モ第三号ヲ取極ムルコトカ既ニ支那側ノ大譲歩ニシテ第四号モ亦同様ナリ第五号ニ至リテハ支那側ハ反覆其理由ヲ説明シ極力其撤回ヲ求メツツアルニ拘ラズ特ニ福建問題ニ関シテハ難キヲ忍ビテ之ヲ譲歩セリ之レ日本国ノ希望ヲ尊重スル所以ニシテ毫モ他意ナキハ明ナリ然ルニ世上伝フル所ニ依レバ日本国ハ支那ノ態度ニ不満ヲ懐キ支那側ノ頑強ナルハ背後ニ某国ノ勢力ヲ恃メルモノナルベシトナスト云ヘリ臆測モ亦甚ダシキモノニシテ若シ恃ムベキ力アラバ寧ロ要求全部ヲ拒ムノ優レルニ如カズト述ベ次テ各條ノ具体的陳弁ヲ試ミタルガ尚前電ノ通第二号第三條第二條ノ裁判問題ニ関シテハ土耳其ノ例ヲ引證シ土地租契ニ関スル裁判丈ハ如何ニシテモ国家ノ体面ト他外国トノ條約関係上断ジテ譲歩シ難ク日本国ガ之レヲ容ルレバトテ実質上何等不都合アルベキ筈ナク結局ハ矢張日支人間ノ土地租契裁判丈ガ支那ノ管理ニ帰スルコトトナル訳ナリ（語気ヨリ高尾ノ察スル所ニテハ日本人ト日本人トノ間ノ裁判ハ土地租契ノ争執ト雖実際ニ於テ日本人ヨリ支那官衙ニ訴フルモノハナカルベシトノ意ヲ仄カシタルモノノ如シト云ヘリ）

次ニ警察法令課税等ノ件モ何レモ既ニ公布実施セラレツツアル関係上尚更日本国領事トノ相談ハ絶対的ニ困難ナリ但第二條商租ノ意義ハ其年限ニ付何等カ豫メ了解ヲ付ケ置ク位ノコトハ出来得ルヤモ知レザルガ之ヲ要スルニ今次ノ支那修正案ハ既ニ十分研究ヲ遂ゲ極度迄譲歩シタルモノナレバ此上考量ノ余地ナカルベシ何トカ円満ナル解決ノ方法

ヲ発見シタキモノナリト繰返シ申述ベタル趣ナリ御参考迄（終リ）

三六七　五月四日　在天津松平総領事ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

最後通牒提出ノ場合守備隊増員ノ必要ニ付稟申ノ件

第二三号

愈々最後通牒提出トモナラハ多少不穏ノ状態ヲ来タスコトヲ覚悟セザルベカラザル所目下当地駐屯ノ守備兵ハ萬一ノ危険ニ際シ到底居留民ヲ保護スルニ十分ナル数ニアラザルヲ以テ愈々引揚ノ態度ヲ示サルルニ於テハ其以前ニ当地守備兵ヲ十分ニ増員セラルルコト居留民保護ノ見地ヨリ必要ト思ハル此辺ノ手配ハ既ニ御成案ノ義トハ信スルモ為念卑見稟申ス

三六八　五月四日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

日中交渉ニ関連シ袁大総統ノ坂西ニ対スル談話竝露国公使及漢字新聞ノ所説等中国側ノ消息ニ付報告ノ件

第二三七号

五月四日坂西ガ袁世凱ト会見シ日支交渉談判ニ談及スルヤ袁世凱ハ既ニ支那ノ譲歩シ得ベキモノハ総テ譲歩シタルヲ以テ一面支那ノ主権他面外国トノ條約ノ関係竝ニ国論沸騰等ニ顧ミ到底此ノ以上譲歩ノ余地ナキヲ語リ更ニ話頭ヲ英国議会ニ於ケル多数ノ質問ニ転ジテ英国ノ国論モ漸次支那ノ為メニ有利ノ方向ニ動カントシツツアル趣ヲ指摘シ暗ニ英国筋ヨリ援助ヲ期待シ居ルモノノ如キ語気ヲ洩シタル由ナリ

同日本使ヲ来訪セル露国公使ノ説ニ依レバ支那人間ニ於テハ過日米国公使本国政府ノ訓令トシテ支那政府ニ申入レタル米国政府ノ意嚮（往電第二〇五号）ニ重ヲ措キ居ルモノノ如ク従テ支那当局者ハ萬一日本国ニシテ強力ニ訴フルニ至ラバ米国ノ輿論ヲ動カスニ至ルベク米国ノ輿論動カバ英国ノ国論動キ英国政府動キ遂ニハ日本国政府ヲ動カスニ至ルベシト観測シ居ルガ如シトノコトナリ

昨今総統府筋ヨリ当館ノ諜報者ニ洩ス情報中ニハ往々当館ヘ通ゼヨカシニ外国干渉ノコトヲ仄メカシアリ将又本日発行ノ漢字新聞中ニハ外交部ヨリ長文ノ電信ヲ各省ニ発シ日支交渉ノ現状及自己ノ立場ヲ説明シ其内ニ交渉開始以来討議ヲ重ヌルコト既ニ二十余回其遅々トシテ決セザルハ実ニ慎重審議我主権ヲ失ハザランコトヲ期スル為ナリ今ヤ各国亦能ク此意ヲ諒トシ調停ノ労ヲ執ルコトヲ承諾セリ惟フニ今次ノ交渉ハ遠カラス恐慌時代ヨリ転ジテ穏固ノ地位ニ入リ更ニ捷利ノ佳境ニ進ムベク皆之レ意中ノコトナリ云々ノ一節アリ之レ亦外国ノ干渉ヲ仄メカシ居ルモ是等ハ何レモ新聞ヲ操縦シ我ニ対応セントスル政府筋ノ策略ニ出デタルモノニアラズヤト想像セラル又昨今英国公使トハ本使モ数回面会セルモ「ジョルダン」ハ何時モ故ラニ交渉問題ニ談及スルヲ避クル風アルノミナラス Kroupensky モ「ジョルダン」ノ態度ヲ批評シ英国公使ハ日支交渉ニ付談話ヲナスコトヲ避クルコト殊ノ外甚タシク少シニテモ話ガ其方ニ進ム時ハ「ジョルダン」ハ逃グルガ如ク話頭ヲ他ニ転ジ寸毫口ヲ開カズト笑ヒ居レリ兎モ角本使ノ見ル所ニテハ「ジョルダン」ハ我交渉問題ニ関シ日本国ヨリ何等カ誤解ヲ受クルコトナキヤヲ殊ノ外懸念シ居ルモノト察セラル

次ニ五月四日曹汝霖ト最昵懇ナル某日本人カ曹ヲ訪問シ事体甚タ切迫シ危機正ニ一髪ノ間ニ在ル様観察シ居ル旨ヲ語リタル処曹愕然色ヲ失シ実ハ形勢左程迄切迫シ居ル事ハ想像シ居ラズ支那側ニ於テハ日本国政府ニ於テ直チニ最後通牒ヲ発スベシト豫期セズ今一回繰返シ警告ヲ受ケ其後ノ成行ハ或ハ最後通牒ニ接スル様ノ段取トナラント考ヘ居タリトテ不勘不安ノ感想ヲ懐クニ至レル由又最近楊士琦李盛鐸等カ当館員其他ニ洩ラシタル所ニ拠レハ時局ヲ此難関ニ致シタルハ主トシテ曹汝霖ガ打算ヲ誤リ曹ガ日本国ノ決意ヲ甚敷軽ク見積リ余リニ駈引ヲ弄シタル為ナリトシ曹ヲ非難スルノ声漸ク高マリツツアリトノ事ナリ之ヲ全ク裏面ノ消息ヲ洩ラシタルモノカト察セラル右取交セ何等カノ御参考迄

三六九　五月四日　在南京高橋領事ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

居留民引揚ニ関スル手筈ニ付報告竝請訓ノ件

第一三号

貴電第一号ニ関シ早速当地鎮江及蕪湖各所在留日本人ニ内

示方取計置キタリ右ニ関シ鎮江蕪湖ノ両所ヘハ館員ヲ内派シタリ御承知置アリタシ又萬一ノ場合各所在留日本人引揚ノタメ其ノ必要アリト認ムルトキハ本官限リ相当ナル汽船一隻上海迄借入レ方取計可然ヤ豫メ何分ノ義御電訓ヲ請フ

三七〇　五月四日　在長春山内領事ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

居留民引揚ノ場合財産額ノ保護方露国領事代理ニ委嘱ニ付請訓ノ件

第三一号

貴電第二三号ニ関シ当地在留日本人カ引揚クル場合附属地外ニ在ル建物及財産例ヘハ横浜正金銀行出張所日清燐寸会社等ニテハ建物ハ勿論引揚ノ際悉皆持運ヒ得サル頗ル貴重ナル財産類ノ保護方困難ナル処右ニ付是等建物ヲ一時露国領事ノ手ニ引渡シ其管轄ノ下ニ置ク旨公文ヲ以テ本官ヨリ通知スルトキハ露国領事館ニ於テ適当保護ノ方法ヲ講スヘキ旨在当地露国領事代理ノ内諾ヲ得タリ萬一ノ場合ニハ右様取計差支ナキヤ折返御回訓ヲ願フ

右日本人ハ今朝（五月四日）右ノ次第ヲ曹ニ伝ヘタル筈ナリ其結果未ダ回報ニ接セズ

右御参考迄

三七一　五月五日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

日中交渉ノ局面展開策ニ付曹汝霖ヨリ我方ノ意向ヲ打診シ来レル件

第二三八号

日支交渉局面カ急転直下ノ勢ヲ以テ危機刻々ニモ迫リツツアル形勢ヲ見テ交渉事件開始以来密接ノ関係アル曹汝霖ハ最痛心措ク能ハザルモノノ如ク五月四日同人ハ其最親近スル或日本人ヲ介シ日本国ヨリ最後通牒ノ来ラザル前何トカ局面ヲ展開シ以テ国交ノ決裂ヲ防ギタキニ付今一回会議ヲ開キ妥協ヲ遂グル策ナキヤ否ヤトテ内々本使ノ意向ヲ尋ネ来レルニ付本使ハ我廟議ガ抑々最後ノ決意ヲ為スニ至レルハ去ル五月一日ノ会見ノ節陸総長ガ支那側提出ノ回答ハ支那政府ノ最後ノ決答ナリト断言シ本使ハ更ニ念ヲ押シ右様日本国政府ニ報告シテ宜シキヤト尋ネタルニ対シ宜シト確答セルニ因ルモノナルガ故ニ此際陸総長正式ニ前言ヲ取消ス旨ヲ本使ニ申出尚我最後譲歩案ノ殆ド全部ヲ同意スルノ決心ヲ以テ会議ヲ開クノ了解アルニアラザレバ到底曹汝霖ノ希望ノ如キ局面展開ノ途ナキヤト考フル旨申聞ケ置ケリ

三七二　五月五日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

膠州湾還附声明ノ撤回問題ニ付説明ノ件

第二三九号

貴電第二九六号ニ関シ五月一日ノ会見ニ於テ本使ハ陸ヨリ提出セル回答ヲ一覧シ且修正要点ニ関スル陸ノ為シタル一応ノ説明ヲ聴取リタル上支那政府ノ回答ハ甚ダ不満足ノモノト認ムル外ナク此ノ回答振リニテハ到底満足スベキ解決案トシテ帝国政府ノ受領シ得ザル所ナルベシト述ヘ更ニ進ンテ支那側修正案各條項ニ付一応反駁ヲ加ヘタルトキ支那側回答中第一号第二條膠州湾還附ノコトヲ規定シアルヲ指摘シ同租借地還附ハ我方最後譲歩案全部ノ同意ヲ條件トスル次第ナルヲ以テ既ニ支那側回答ガ多大ノ修正ヲナシ我最後案ヲ一括承認セザル以上膠州湾還附ニ関スル四月二十六日会議ニ於ケル声明ハ自然効力ヲ失フニ至ルベキ旨ヲ casually ニ remind シタルニ過ギズ敢テ厳格ナル意味ニテ膠州湾還附声明ヲ撤回シタル次第ニハアラザルナリ右ニ御承知アリ度シ

三七三　五月五日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

日中交渉ノ局面展開ノ為談判再開ノ希望曹汝霖ヨリ申出ニ付請訓ノ件

第二四〇号

往電第二三八号ニ関シ曹ハ本使ノ意嚮ヲ聴取リタル（仲ニ立チタル某日本人）後更ニ陸総長ト協議ヲ凝ラシタル上再ヒ該日本人ヲ介シ支那政府ハ二十六日ノ日本最終案ニ対シ更ニ考慮ヲ加ヘ談判開始シタキ希望ニ付其旨日本国政府ヘ打電アランコトヲ願フ旨申込来レルニ付本使ハ右ハ支那政府ヨリ正式ノ申込ヲ受クルニアラザレバ取上ゲ政府ニ請訓シ難キ旨返答シ置ケリ多分明五月五日朝曹ハ陸ヲ代表シ本使ヲ来訪スルナラント察セラル就テハ本件ニ関シ本使ノ含トシテ何等承知シ置クベキ義アラバ大至急御垂訓ヲ請フ尚右支那側ノ局面展開案ハ新聞ニ洩レザル様注意アリタキ旨懇願セル由ニ付其御含ニテ御取扱ヲ請フ

三七四　五月五日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

我最後修正案第五号ノ一中ノ語句訂正ニ付申入方ノ件

第二九九号

貴官ヨリ支那政府ヘ提出セラレタル最後修正案中第五号顧問傭聘ノ問題ニ関シ「多数」ノ語ヲ用キラレタルハ如何ナル次第ナルヤ往電第二九八号ヲ以テ御問合ニ及ヒ置キタル処右「多数」ノ二字ハ重大ナル誤解ヲ招クコトトナル虞アルニ付此場合ニ莅ミ甚タ面白カラサル次第ナルモ我方ノ立場ヲ正当ニスルカ為ニ絶対ニ必要ナルヲ以テ大至急支那側ニ対シ右ハ電報ノ誤ナルコト郵報東京着ノ上発見セラレタルニ付正誤スル旨申入レラレ「多数」ノ二字ヲ削除シ置カルヘシ

三七五　五月五日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

局面展開ノ為談判再開希望申出ノ曹汝霖ニ対スル応接振回訓ノ件

第三〇〇号

貴電第二四〇号ニ関シ貴官ハ何等意見ヲ表白スルコトナク以テ「将来必要ノ場合ニハ必ス日本人ヲ傭聘スヘキ旨」会議録体ニ認メ雙方記名スルコトトナス様取計ヒ方御訓令アリタル処必要ノ場合ニハ必ス日本人ヲ傭聘スルト記載スルトキハ将来顧問ハ日本人ニテ之レヲ独占スル形トナリ甚ダ当ヲ得ザル義ト思料シタルノミナラズ元来本件ハ支那側言明ノ本旨ヲ記録ニ存スル御趣意ト了解シ居リタルニ依リ第十五回会議ニ於ケル陸総長言明ノ本旨ガ現在ノ人員以上ニ有力ナル日本人顧問ヲ傭聘スベシト云フニ至リタルニ顧ミ前記独占的意味合ヲ緩和スル方法トシテ特ニ（多数）ナル語ヲ挿入シ将来必要ノ場合ニハ日本人以外ニモ外国人ヲ聘傭シ得ベキ余地ヲ存スル形式ト為シタル次第ナルニ付右様御了知ヲ請フ将又貴電第二八五号各国ヘ内告セル分ニハ that the Chinese Government will, in case of necessity in future, employ Japanese Advisers トアリ前記貴電第二三四号御訓令中ニアル「必ズ」ナル意味合現ハレ居ラス為念申添フ

単ニ先方ノ陳述スル所ヲ聞取ラルル様致度

尤モ曹ノ来訪ハ内密ニテ差支ナキモ其資格ハ正式ノモノタルコトヲ要スルコト勿論ナリ尚右会見ノ内容ハ至急当方ヘ電報アリタシ

三七六　五月五日　在中国日置公使宛　加藤外務大臣宛（電報）

我提案第五号ノ一中ノ語句訂正済ノ件

第二四一号

貴電第二九九号ニ関シ五月五日午前十時高尾書記官ヲ外交部ニ遣ハシ御訓令ノ通リ第五号中顧問ノ項ヨリ「多数」ナル語削除方取計ハシメタルニ付右様御承知相成タシ「多数」ナル語ヲ加ヘタル理由ハ後電ニテ申進ス

三七七　五月五日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

我提案第五号ノ一ニ「多数」ノ語句挿入ノ理由釈明ノ件

第二四二号

往電第二四一号ニ関シ顧問ノ件ニ付テハ貴電第二七四号ヲ

三七八　五月五日　在奉天落合総領事ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

引揚実行ノ場合ニハ時間的余裕ヲ以テ訓令方稟申ノ件

第四二号

貴電第二五号ニ関シ当館管内遠隔ノ地ニ居住スルモノハ出来得ル限リ夫レトナク当地ヘ集ムルノ方法ヲ執リ特ニ新民府ヘハ警官ヲ特派シ追テ引揚ノ通達ニ接シタル場合ニハ直チニ当地迄引揚得ル様準備方内達取計ハシメ又撫順本溪湖地方ニモ附属地外居住者アルコト故此等ニ対シテモ準備方警務支署長ヨリ通シ内命シ置キタリ又当奉天ニ於テハ居留民会及警察官ヲシテ準備方内達セシメタル処既ニ老幼婦女及荷物ヲ附属地方面ニ移転セシメタルモノモアリ軍隊側ノ意見ハ居留民ハ附属地内ニ纏ムルヲ要シ又城内婦女子ノ引揚ハ軍事行動ニ出ヅル数時間前ニ終ルヲ要ストノコトナルニ付一般居留民モ其心得ヲ以テ引揚ニ準備シ居レリ就テハ引揚ヲ要スル模様ナラハ十分ニ時間ノ余裕アル程度ニ於テ引揚方ノ御訓令相成様致度シ

三七九　五月五日　在漢口川瀬総領事ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）
引揚ノ場合ニ於ケル利益保護国ニ付請訓ノ件

第二九号

当地居留民中ニハ今後引揚ノ場合生スルトキハ其ノ後ノ始末ヲ英国人ニ委托セムトスルノ考ヲ懐キ居ルモノアルモ英国ハ日本トノ関係上将来支那ニ対シ我国ト同一ノ地位ニ立ツヤモ計リ難ク右委托方ニ付テモ如何ニ決行スヘキヤヲ考量シ居ル次第ニ付今後萬一本官引揚ノ場合ニハ日本ノ利益保護ノ任ニ当ルハ何国領事ヲ以テセラルル御意嚮ナルヤ御差支ナケレハ本官心得迄ニ豫メ電報アリタシ

三八〇　五月五日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）
日中交渉問題ノ和平解決ニ関シ曹汝霖高尾書記官ニ対シ談話ノ件

第二四三号

往電第二四一号ニ関スル用向終リタル際曹汝霖ハ高尾書記官ニ対シ事態益々切迫シ居レル模様ナルガ何トカ和平解決ノ方法ハナキモノニヤ自分ハ真ニ両国ノ為苦心焦慮シ居ル次第ナリト云ヘルニ付高尾ハ往訪前本使ノ内意ヲ含ミ居ルコトトテ帝国政府トシテハ此上考慮ノ余地ハ萬無カルベク貴国政府ニシテ事態ノ切迫ヲ認メラルルナラバ宜ク此際最後ノ決心ヲ固メ我修正案全部ニ同意セラルル外和平解決ノ途ハナカルベシト信ズル旨ヲ述ベタルニ曹ハ日本修正案全部ニ同意ヲ与ヘ得ルナラバ何等手段ヲ要セズ直ニ決行スル迄ナレドモ如何ニ考慮スルモ到底為シ能ハザルコトナレバコソ苦心シ居ル訳ナリト述ベ次デ最後通牒ノ風説ニ対シテ極力其不法ヲ訴ヘ斯ル挙動ハ大局ノ為断ジテ取ラザル所ナリトテ殊ノ外憤慨ノ語気ヲ洩ラシ次テ又支那案ノ趣旨ヲ反覆説明ニ及ブ等極メテ熱烈ニ論ジタレトモ高尾ハ今日ノ場合斯ル談議ヲ試ムル要ナク又自分ニ於テ口外シ得ベキ地位ニアラザルヲ以テ委細聴取リ置クニ止ムベキガ結局支那政府ニ於テ決裂ヲ賭シテ迄モ断ジテ同意シ難シトスル条項及絶体絶命ノ場合ニハ已ムナク譲歩シ得ベシトスル事項等モ有之義ナルヤト反問シタルニ曹ハ先ツ今日迄政府ノ意嚮ニテハ第五号及第二号第三条中ノ法令及課税ニ関シ日本領事ノ承認ヲ求ムル件等ハ絶対的ニ不承諾ナル（脱字、電文不明）仮令如何ナルコトアリテモト附言セル由東部内蒙古ニ関スル字句中農業合辦ノ件及第三条中ノ裁判問題ニ付テハ更ニ考慮ノ余地アルベク又支那修正案ノ第一号第二条ハ場合ニヨリテハ公文交換ノ形式トナスモ可ナリト考フルトノ内意ヲ洩シタル由御参考迄不取敢電報ス尚曹ハ本日（五月五日）午後四時来訪ノ筈

三八一　五月六日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）
我最後案ヲ基礎トスル交渉再開方曹汝霖ヨリ公式申出及局面展開ニ関スル同氏ノ私見開陳ノ件

第二四四号

往電第二四〇号ニ関シ曹汝霖ハ五月五日朝来訪ノ筈ナリシモ都合ニ依リ午後四時本使ヲ訪問シ陸総長ノ代理トシテ公式ニ五月一日支那側ヨリ提出ノ回答ヲ取消シ四月二十六日日本国ヨリ提出ノ修正案ニ付支那側ニ於テ考慮ヲ加フルノ了解ニテ会議ヲ継続シタキ旨申出デ右ノ趣帝国政府ヘ取次ギ方ヲ求メ尚全然曹自身ノ私見トシテ譲歩ノ程度ニ関シ大体五月五日朝高尾ニ洩ラシタルト同様ノ意見（往電第二四三号）ヲ敷衍開陳シタル外第二号第二條中土地商租（支那側ハ土地商租案ヲ採用スル見込ナラン）ノコトハ別ニ公文

レバ会議ヲ再開スルトモ所詮満足ナル解決ヲ為シ得可シトモ思考セザル旨ヲ述ベ置ケリ

更ニ曹ハ会議再開ニ関スル支那政府ノ希望ハ兎モ角帝国政府ニ転達セラレタク将又前述譲歩ノ程度ハ全然曹自身ノ私見ナルガ故ニ果シテ支那政府ニ於テ採用スルヤ否ヤハ明ナラザルノミナラズ或ハ支那政府ニ於テハ右以上譲歩ヲナスニ至ルヤモ知レズト述ベ甚ダ曖昧ナル態度ヲ持シ容易ニ本音ヲ吐露セズ要スルニ会議再開ニ至ラバ何分ノ譲歩ヲナスベキモ我最後修正案ヲ直ニ承諾スル底意トハ見エズ結局雙方ヨリ互譲的ニ解決ヲナサントスル腹カト考ヘラル

三八二　五月六日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

会議継続ノ申出ニ応ジ難キ旨回答方訓令ノ件

第三〇四号

貴電第二四四号ニ関シ曹ノ所言ニヨルニ支那政府ハ到底誠意ヲ以テ我修正案ニ対シ満足ナル考量ヲ加フルノ意アルモノト認メラレザルニヨリ会議継続ノ申出ニ応ジ難キ旨先方ヘ回答セラルベシ

三八三　五月六日　秋山軍務局長ヨリ　坂田通商局長宛

支那沿岸ニ於ケル艦船ノ件

大正四年五月六日

海軍省軍務局長　秋山真之

外務省通商局長　坂田重次郎　殿

支那沿岸ニ向フベク命ゼラレタル艦艇左ノ通リニ有之候

揚子江附近　鹿島、三笠、常磐、日進、利根、駆逐艦十一隻

馬公附近　須磨、明石、対馬、音羽、秋津洲

新嘉坡平戸

秦皇島附近　周防、相模、千代田、水雷艇四隻

青島附近　宇治、水雷艇四隻

右通報ス

三八五　五月六日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

参政院参政李盛鐸ノ日中交渉ニ関スル時局談報告ノ件

第二四六号

参政院参政李盛鐸五月五日夜船津（以下脱字不明）日支交渉現下ノ情況ヲ尋ネタル後曰ク今回ノ交渉ヲシテ斯ノ如キ難局ニ陥ラシメタルハ第一我当局ガ余リニ英米両国公使ニ依頼スル所アリシト第二ニハ事件ノ内容ヲ漏シテ外部ノ声援ヲ得ントシタル結果支那自身モ進退ノ余地ヲ失ヒタルニ起因スルモノナリ而シテ後者ノ失策ハ其罪職トシテ曹汝霖ニアルモノノ如シ（曹ト李トノ間柄ハ平素余リ良好ナラズトノ説アリ）

又英国ハ揚子江流域ニ於ケル鉱山ニ嘱目シ現ニ昨春某英国人ハ江西全省鉱山合辦運動セシコトアリ支那政府カ漢冶萍公司ニ関スル日本国ノ要求ヲ容ルルニ躊躇セシハ全ク英国カ寧湘鉄道ノ関係上非常ニ萍郷炭礦ニ垂涎スルヲ知レバナリ又過日来危機漸ク切迫スルヤ我同僚中大ニ憂慮シ袁大総統ニ問フ所アリシモ何レモ我（大総統）ニ自ラ辦法アリ決シテ憂フル勿レト一言ノ下ニ撥ネ付ケラレタル由自分ノ観察スル処ニ依レバ大総統ハ此交渉終結ノ上ハ必ズ南方人民ノ非難攻撃ヲ受ケ延イテ（脱字）風潮ヲ醸ス虞アルニ付之ニ対応スル方策トシテ（不明）日本国ノ要求ヲ軽減センコトシ今回ノ如キ態度ニ出デタルモノナランカ若シ日本愈最後ノ決意ヲ示スニ至ラバ支那ハ譲歩スルノ外ナカルベシ

袁総統ハ多分各省将軍巡按使ニ内意ヲ授ケ此際日本国ト戦端ヲ啓クハ危険且不利ナルヲ以テ暫ク隠忍日本国ノ要求ニ応ズル外ナカル可シトノ勧告的意見ヲ提出セシメ之ニテ表面袁総統自身ノ立脚地ヲ見出シ以テ局ヲ結フノ策ヲ執ルナラン過般各省ノ文武官ヲシテ本件ニ関シ強硬ナル反対ノ電報ヲ発セシメ之ニ対シ慰諭的ノ電報ヲ発シタルカ如キ全ク袁総統ノ仕組ミタル狂言ナリシ所ヨリ察スレバ或ハ今回再ヒ同様ノ方策ニ出ヅルヤモ計リ難シ云々右ハ李一己ノ観察ニ過ギズ従テ果シテ肯綮ヲ得居ルモノナルヤ否ヤ疑ハシキモ時節柄何等カノ御参考迄電報ス

三八六　五月六日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

五月七日最後通牒提出ノコトニ決定ノ件

第二四八号

貴電第三〇五号ニ関シ五月七日午後三時陸総長ニ面会ノ上最後通牒ヲ提出スルコトニ決定シタリ

三八七　五月六日　加藤外務大臣ヨリ　在本邦中国公使宛

最後通牒提出方取計済ノ旨通告ノ件

政機密送第一六号

以書翰致啓上候陳者今回ノ日支交渉ニ関シ五月一日貴国政府ヨリ在北京日置公使ニ提出セラレタル貴国ノ対案ハ貴国政府最後ノ決答ナル旨陸外交総長ニ於テ言明セラレ候処右ノ如キ対案ニ対シテハ到底帝国政府ニ於テ其儘承諾難致候ニ付帝国政府ニ於テハ五月六日日置公使ニ電訓シ同公使ヲシテ貴国政府ニ対シ帝国政府ノ修正案ニ付其ノ考慮ヲ促シ且ツ右ニ対シ来五月九日午後六時迄ニ満足ナル回答ヲ受領セザルニ於テハ帝国政府ハ其ノ必要ト認ムル手段ヲ執ルノ已ムヲ得ザルニ至ルベキ旨声明セシムル様取計置候間右様

『抑モ帝国政府カ支那政府ニ対シ今回ノ交渉ヲ開始シタルハ一ハ日独戦争ニ因リ発生シタル時局善後ヲ図ルト一ハ日支両国ノ親交ヲ阻害スルノ原因タルベキ諸種ノ問題ヲ解決シ両国友好関係ノ基礎ヲ固クシ以テ東亜永遠ノ平和ヲ確保セントスルニ在ルモノニシテ本年一月我提案ヲ支那政府ニ申入レテヨリ以来今日ニ至ル迄胸襟ヲ披ラキ支那政府ト会議スルコト実ニ二十有五回ヲ重ネタリ此間帝国政府ニ於テハ終始妥協ノ精神ヲ以テ我提案ノ要旨ヲ解説シ同時ニ支那政府ノ主張ニ至テハ細大努メテ之レニ聴キ円満和平ノ間ニ解決ヲ見ンコトヲ努メタルニ於テ実ニ余蘊ナキヲ信ズ交渉全部ノ討議ハ第二十四回会議即客月十七日ニ於テ略終了シタルヲ以テ帝国政府ハ交渉全部ヲ通シテ支那政府ノ論議シタル処ヲ参酌シ最初編製シタル原提案ニ対シ多大ノ修正譲歩ヲ加ヘ同月二十六日ヲ以テ修正案ヲ支那政府ニ提出シ其同意ヲ求ムルト同時ニ若シ支那政府ニシテ該案ニ対シ同意ヲ表スルニ於テハ日本ガ多大ノ犠牲ヲ以テ獲得シタル膠州湾一帯ノ地ヲ公正至当ナル条件ノ下ニ適当ノ機会ニ於テ支那ニ還付スベキコトヲ声明セリ

帝国政府ノ修正案ニ対シ五月一日ヲ以テ支那政府ノ与ヘタル回答ハ実ニ全然帝国政府ノ豫期ニ反スルモノニシテ啻ニ

御承知相成度此段御通報旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

三八八　五月六日　岡陸軍大臣ヨリ　加藤外務大臣宛

朝鮮及満洲駐屯部隊応急準備令伝達ノ件

満洲ニアル第十三第十七師団独立守備隊及朝鮮ニ在ル第九師団（師団司令部歩兵一聯隊騎兵野砲兵各一中隊ヲ除ク）ノ応急準備ヲ令セラル

三八九　五月六日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

中国政府ニ交付スベキ最後通牒全文電送ノ件

附記一　五月二日於外務大臣私邸起草ノ日置公使宛電訓原案

二　五月四日起草ノ元老会議ヘノ報告案

第三〇六号

貴電第二二八号第二二九号及第二三〇号ニ関シ貴官ハ至急支那政府ニ左ノ通リ申入レラレ且ツ覚書トシテ之ヲ先方ニ交付セラルベシ

支那政府ガ該案ニ対シ誠意アル研究ヲ加ヘタルノ痕ヲ示サザルノミナラズ膠州湾還付ニ関スル帝国政府ノ苦衷ト好意トニ対シテハ殆ンド一顧ノ労ヲモ与ヘザルモノナリ元来膠州湾ノ地タル商業上軍事上実ニ東亜ニ於ケル一要地タリ之ヲ獲取スルガ為ニ日本帝国ノ要シタル血ト財トノ尠少ナラザルコトハ言ヲ俟タズ而シテ一度之ヲ我手ニ収メタル以上之ヲ支那ニ還付スルノ義務ハ毫モ之ナキナリ然ルニ敢テ之ヲ還付セントスルハ誠ニ将来ニ於ケル両国々交ノ親善ヲ思ヘバナリ然ルニ支那政府ニ於テ之ヲ察セズ帝国政府ノ苦心ヲ諒トセザルハ実ニ帝国政府ノ遺憾禁ズル能ハザル処ナリ支那政府ハ啻ニ膠州湾還付ニ関スル帝国政府ノ情誼ヲ顧ミザルノミナラズ帝国政府ノ修正案ニ対スル其回答ニ於テ同地ノ無条件還付ヲ求メ日独戦争ニ際シ日本カ膠州湾ニ於テ用兵ノ結果生ジタル避クベカラザル各種損害ノ賠償ノ責ニ任ゼンコトヲ求メ其他同地方ニ関係シ数項ノ要求ヲ提出スルト同時ニ更ニ今後日独媾和ノ会議ニ参加スル権アルコトヲモ声明セリ殊ニ膠州湾無条件還付若クハ日独戦争ノ為メニ生ジタル避クベカラザル損害ノ賠償ヲ日本ニ於テ負担スベシトノ要求ノ如キハ日本ニ対シ到底其容認スル能ハザルコト明白ナル所ノモノヲ求メントスルニ外ナラズ而モ支

那政府ハ右要求ヲ含メル今回ノ対案ヲ以テ其最後ノ決答ナリト明言セリ従テ日本ニ於テ此等ノ要求ヲ容認セザル限リ他ノ諸項ニ関シ如何ニ妥協商定スル所アルトモ是等ハ皆遂ニ何等ノ意味ヲモ有セザルコトトナルベク結局支那政府今回ノ回答ハ其全体ニ於テ全ク空漠無意義ノモノナルニ至ルベシ

加之翻テ帝国政府ノ修正案中他條項ニ対スル支那政府ノ回答ニ就キ考フルモ元ト南満洲及東部内蒙古ノ地タル地理上政治上将タ商工業ノ利害上帝国ノ特殊関係ヲ有スル地域タルハ中外ノ認ムル所ニシテ此関係ハ実ニ帝国ガ前後二回ノ戦役ヲ経タルニヨリテ特ニ深キヲ致シタルモノトス然ルニ支那政府ハ此事実ヲ閑却シ帝国ノ該地方ニ於ケル地位ヲ尊重セズ却テ支那政府ノ代表者ガ会議ノ席上言明シタル処ニ基キテ帝国政府カ互譲ノ精神ヲ以テ案出シタル條項ニ付テモ支那政府ノ回答ハ濫リニ之ヲ改刪シテ代表者ノ陳述ヲシテ一片ノ空言ニ止マラシメタルモノアリ或ハ一方ニ於テ之ヲ許シナガラ他方ニ於テ之ヲ禁ゼントスルガ如キモノアリ支那当局者ノ信義ト誠意トハ全然之ヲ認ムルヲ得ズ

将又顧問ニ関スル件学校病院用地ニ関スル件兵器若クハ兵器廠ニ関スル件南支鉄道ニ関スル件等ニ関シテハ帝国政府必要ト認ムル手段ヲ執ルベキコトヲ併セテ玆ニ声明ス』

（欄外註記）
「大正四年五月六日御前会議ニテ決定（総理大臣及各省大臣ノ外山県大山両公松方侯列席）」

註　右電報ハ左掲附記一ノ電訓原案ヲ元老会議ニ於テ修正シタルモノナリ

（附記一）

中国ニ対スル我最後修正案受諾方要求ノ最後通牒ニ関スル日置公使宛電訓原案

大正四年五月二日於外務大臣私邸起草

貴電第二二八号第二二九号及二三〇号ニ関シ貴官ハ至急支那政府ニ左ノ通リ申入レ且ツ覚書トシテ之ヲ先方ニ交附セラルヘシ

「抑モ帝国政府カ支那政府ニ対シテ今回ノ交渉ヲ開始シタルハ一ハ日独戦争ニヨリ発生シタル時局ノ善後ヲ図ルト一ハ日支両国ノ親交ヲ阻碍スルノ原因タルヘキ諸種ノ問題ヲ解決シ両国友好関係ノ基礎ヲ固クシ以テ東亜永遠ノ平和ヲ確保セントスルニ在ルモノニシテ本年一月我提案ヲ支那政府ニ申入レテヨリ以来今日ニ至ル迄胸襟ヲ披ラキ支那政府ト会議スルコト実ニ廿有五回ヲ重ネタリ、此間帝国政府ニ

ノ修正案ハ関係外国ノ同意ヲ條件トシタルカ若クハ支那政府代表者ノ已ニ言明シタル処ヲ記録シ置カントスルカニ止リ何等支那ノ主権又ハ條約ニ牴触スルモノニアラズ然ルニ支那政府ノ回答ハ単ニ主権又ハ條約等ニ関係アリトシテ帝国政府ノ希望ニ応ズルコトヲ拒絶セリ

帝国政府ハ支那政府ノ此ノ如キ態度ニ鑑ミ此上協商ヲ継続スルノ余地殆ンド之ナキヲ遺憾トスルモノナリト雖モ極東平和ノ維持ニ眷々タル帝国ハ努メテ本交渉ヲ円満ニ結了シ時局ノ紛糾ヲ避ケンコトヲ冀ヒ難キヲ忍ビテ更ニ隣邦政府ノ情意ヲ酌ミ曩ニ帝国政府ノ提出シタル修正案中第五号ノ各項ニ付已ニ両国政府代表者間ニ協定ヲ経タル福建省ニ関スル公文交換ノ一事ヲ除クノ外五項ハ本交渉ト引離シ後日改メテ協商スルコトトナスヲ承諾スベキニヨリ支那政府ニ於テモ亦帝国政府ノ誼ヲ諒トシ他ノ各項即第一号第二号第三号第四号ノ各條項及第五号中福建省ニ関スル公文交換ノ件ニ付テハ去ル四月二十六日ヲ以テ提出シタル修正案記載ノ通リ之ニ対シ何等改訂ヲ加フルコトナク速ニ応諾センコトヲ玆ニ重テ勧告シ帝国政府ハ此勧告ニ対シ支那政府ヨリ来ル五月九日午後六時迄ニ満足ナル回答ニ接センコトヲ期待ス右期限迄ニ満足ナル回答ヲ受領セザレハ帝国政府ハ其於テハ終始妥協ノ精神ヲ以テ我提案ノ要旨ヲ解説シ同時ニ支那政府ノ主張ニ至リテハ細大努メテ之レニ聴キ円満和平ノ間ニ解決ヲ見ンコトヲ努メタルニ於テ実ニ余蘊ナキヲ信ズ、交渉全部ノ討議ハ第二十四回会議即客月十七日ニ於テ略終了シタルヲ以テ帝国政府ハ交渉全部ヲ通シテ支那政府ノ論議シタル処ヲ参酌シ最初編製シタル原提案ニ対シ多大ノ修正譲歩ヲ加ヘ同月廿六日ヲ以テ修正案ヲ支那政府ニ提出シ其同意ヲ求ムルト同時ニ若シ支那政府ニシテ該案ニ対シ同意ヲ表スルニ於テハ日本ガ多大ノ犠牲ヲ以テ獲得シタル膠州湾一帯ノ地ヲ公正至当ナル條件ノ下ニ適当ノ機会ニ於テ支那ニ還附スヘキコトヲ声明セリ

帝国政府ノ修正案ニ対シ五月一日ヲ以テ支那政府ノ与ヘタル回答ハ実ニ全然帝国政府ノ豫期ニ反スルモノニシテ啻ニ支那政府ガ該案ニ対シ誠意アル研究ヲ加ヘタル痕ヲ示サザルノミナラズ膠州湾還附ニ関スル帝国政府ノ苦衷ト好意トニ対シテハ殆ント一顧ノ労ヲ与ヘザルモノナリ元来膠州湾ノ地タル商業上軍事上実ニ東亜ニ於ケル一要地タリ之ヲ獲取スルガ為メニ日本帝国ノ要シタル血ト財トノ尠少ナラサルコトハ言ヲ俟タス而シテ一タビ之ヲ我手ニ収メタル以上之ヲ支那ニ還附スルノ義務ハ毫モ無之ナリ然ルヲ敢テ之ヲ

還附セントスルハ誠ニ将来ニ於ケル両国国交ノ親善ヲ思ヘバナリ然ルニ支那政府ニ於テ之ヲ察セズ帝国政府ノ苦心ヲ諒トセサルハ実ニ帝国政府ノ遺憾禁スル能ハサル処ナリ

支那政府ハ曾ニ膠州湾還附ニ関スル帝国政府ノ情誼ヲ顧ミサルノミナラズ帝国政府ノ修正案ニ対スル其回答ニ於テ同地ノ無條件還附ヲ求メ日独戦争ニ際シ日本ガ膠州湾ニ於テ用兵ノ結果生シタル避クヘカラサル各種損害ノ賠償ノ責ニ任センコトヲ求メ其他同地方ニ関係シ数項ノ要求ヲ提出スルト同時ニ更ニ今後日独媾和ノ会議ニ参加スルノ権アルコトヲモ声明セリ

帝国政府ノ修正案中他ノ條項ニ対スル支那政府ノ回答ニ就テ考フルニ元ト南満洲及東部内蒙古ノ地タル地理上政治上将タ商工ノ利害上帝国ノ特殊関係ヲ有スル地域タルハ中外ノ認ムル処ニシテ此関係ハ実ニ帝国ガ前後二回ノ戦役ヲ経タルニヨリテ特ニ深キヲ致シタルモノトス然ルニ支那政府ハ此事実ヲ閑却シ帝国ノ該地方ニ於ケル地位ヲ尊重セス支那政府ノ代表者ガ会議ノ席上言明シタル処ニ基キテ帝国政府カ互譲ノ精神ヲ以テ案出シタル條項ニ付テモ支那政府ノ回答ハ濫リニ之ヲ改删シテ代表者ノ陳述ヲシテ一片ノ空言ニ止ラシメタルモノアリ或ハ一方ニ於テ之ヲ許シナガラ他ル五月一日迄ニ回答ニ接センコトヲ期待ス右期日迄ニ満足ナル回答ヲ受領セサレハ帝国政府ハ其必要ト認ムル手段ヲ執ルヘキコトヲ併セテ玆ニ声明ス」

以上ノ申入ニ対シ支那当局ニ於テ詮義ノ上回答スヘキ旨ヲ答フルニ於テハ当方指定ノ期日即チ来ル一日迄其回答ヲ待合ハスヘキハ勿論ナルモ若シ彼ニ於テ到底再考ノ余地無キ旨言明スルコトアラハ貴官ハ館員ヲ引纏メ至急帰朝ノ途ニ就カルベシ帝国政府ハ軍艦一一ヲ貴官指定ノ地ニ回航セシムヘキニ付貴官ハ家族ト共ニ之ニ搭乗セラルベシ

本交渉大体ノ経過ハ当方ヨリ在支各領事ニ電報シ置キタリ貴官ハ北京引上ト決定シタル節ハ其旨在支各領事ニ電報セラルベシ

在北京在留本邦人保護方ニ付テハ天津駐屯軍司令官トモ協議ノ上適宜ノ処置ヲ講ゼラレ萬遺漏ナキヲ期セラルベシ

（欄外註記）
「本案ハ大正四年五月二日加藤外務大臣私邸ニ於テ起草セラレタル対支最後通牒原案ニシテ後元老会議ノ結果修正ヲ加ヘラレタリ」

方ニ於テ之ヲ禁セントスルカ如キモノアリ支那当局者ノ信義ト誠意トハ全然之ヲ認ムルヲ得ス

帝国政府ハ支那政府ノ態度ニ鑑ミ此上殆ント協商ヲ継続スルノ余地ナキヲ遺憾トスルモノナリト雖モ若シ帝国政府ノ主張ニシテ支那政府ノ容ルル所トナラズンバ日支両国国交ノ将来誠ニ寒心ニ堪ヘサルモノアルヲ虞ルルカ故ニ帝国政府ハ支那政府ニ於テ大局ニ鑑ミ更ニ其回答ニ再考ヲ加ヘ曩キニ帝国政府ノ提出シタル修正案全部ニ対シ何等改訂ヲ加フルコトナク速ニ応諾センコトヲ玆ニ重ネテ勧告シ帝国政府ハ此勧告ニ対シ支那政府ヨリ今後四十八時間以内即チ来

（附　記二）

中国ニ対スル我最後修正案受諾方勧告ニ関スル
元老会議ヘノ報告案

（廃案）

大正四年五月四日起草

今回帝国政府カ支那政府ニ提出シタル要求條件ハ日独戦争ノ善後ヲ図リ日支両国親善関係ヲ増進シ東洋永遠ノ平和ヲ保持センコトヲ企図スルト共ニ帝国自衛ノ目的ヲ全ウスルヲ以テ眼目トナシ帝国カ従来支那ニ関シ列国ニ対シ随時声明シタル領土保全、機会均等、門戸開放等ノ主義ト牴触スル虞アリト認メラルルモノハ努メテ之ヲ避クルコトニ留意シタリ従テ右條件ハ大体山東ニ於テ独逸ノ有スル利権ヲ我ニ於テ継承スルコト南満洲及東部内蒙古ニ於ケル帝国特殊ノ地位及利益ノ承認ニ関スルコト多年来日支両国間ニ懸案トナリ居レル諸問題ヲ解決スルコト及従来支那政府カ事実上認メ来レル事項ヲ文書ヲ以テ確認スルコト並ニ日支両国ノ和親増進上必要ト認ムル案件ヲ協定スルコト等ニシテ即チ左ノ如シ

第一、山東省ニ関スル件

一、独逸カ山東省ニ関シ條約其他ニヨリ支那ヨリ獲得シタ

ル一切ノ権利々益譲与等ノ処分ニ付帝国政府カ独逸政府ト協定スヘキ一切ノ事項ヲ承認スルコト

二、山東省内若クハ其沿岸島嶼ヲ他国ニ譲与又ハ貸与セサルコトヲ保證スルコト

三、芝罘又ハ龍口ト膠済鉄道トヲ連絡スヘキ鉄道ノ敷設ヲ帝国ニ允許スルコト

四、支那政府自ラ山東省ノ主要都市ヲ外国人ノ居住貿易ノ為ニ開放スルコト

第二、南満洲及東部内蒙古ニ関スル件

一、旅順大連租借期限並南満洲及安奉両鉄道ニ関スル各期限ヲ更ニ九十九年延長スルコト

二、帝国臣民ニ各種商工業上ノ建物ノ建設又ハ耕作ノ為必要ナル土地ノ賃借権又ハ所有権ヲ許与スルコト

三、帝国臣民カ居住往来並各種商工業及其他ノ業務ニ従事スルヲ許スコト

四、帝国臣民ニ特ニ指定セル鉱山採掘権ヲ許与スルコト

五、他国人ニ鉄道敷設権ヲ与ヘ又ハ鉄道敷設ノ為他国ヨリ資金ノ供給ヲ仰クトキ並ニ諸税ヲ担保トシテ借款ヲ起ストキハ豫テ帝国政府ノ同意ヲ経ヘキコト（メ）？

六、政治財政軍事ニ関スル顧問教官ヲ要スル場合ニハ帝国政府ニ協議スヘキコト

七、吉長鉄道ノ経営管理ヲ九十九ヶ年間日本ニ委任スルコト

第三、漢冶萍公司ニ関スル件

一、日本国資本家ト同公司トノ密接ナル関係ニ顧ミ本公司ヲ適当ノ機会ニ日支合弁トナスコト並ニ支那政府ハ帝国ノ同意ヲ得スシテ公司ニ属スル一切ノ権利財産ヲ自ラ処分シ又ハ公司ヲシテ処分セシメサルヘキ旨ヲ約スルコト

二、日本資本家側債権保護ノ必要上支那政府ハ本公司ニ属スル諸鉱山附近ノ鉱山ニ付公司ノ承諾ヲ経スシテ之カ採掘ヲ公司以外ノモノニ許可セサルヘキ旨並ニ其他直接間接公司ニ影響ヲ及ホス虞アル措置ヲ執ラントスル場合ニハ先ス公司ノ同意ヲ経ヘキ旨ヲ約スルコト

第四、一般沿岸島嶼ノ不割譲ニ関スル件

支那沿岸ノ港湾及島嶼ヲ他国ニ譲与又ハ貸与セサルヘキ旨ヲ約スルコト

第五、懸案解決其他ニ関スル件

一、中央政府ニ政治財政及軍事顧問トシテ有力ナル日本人ヲ傭聘スルコト

二、支那内地ニ於ケル日本ノ病院寺院及学校ニ対シ土地所有権ヲ認メルコト

三、必要ノ地方ニ於ケル警察ヲ日支合同トスルカ又ハ此等ノ地方ニ於ケル警察官庁ニ日本人ヲ傭聘スルコト

四、日本ヨリ一定数量ノ兵器ノ供給ヲ仰クカ又ハ支那ニ日支合弁ノ兵器廠ヲ設立シ日本ヨリ技師及材料ノ供給ヲ仰クコト

五、武昌ト九江南昌線トヲ聯絡スル鉄道及南昌抗州間、南昌湖州間鉄道敷設権ヲ帝国ニ許与スルコト

六、台湾トノ関係及福建不割譲約定ノ関係ニ顧ミ福建省ニ於ケル鉄道、鉱山、港湾ノ設備（造船所ヲ含ム）ニ関シ外資ヲ要スル場合ニハ先ツ日本ニ協議スヘキコト

七、支那ニ於ケル日本人ノ布教権ヲ認ムルコト

山東ニ於ケル我要求條項ニ関シテハ曩ニ帝国政府ハ多大ノ犠牲ヲ払ヒテ同方面ニ於ケル独逸ノ勢力ヲ駆逐シタリト雖モ支那ノ現状ハ到底独逸カ同地方ニ於テ其勢力ヲ回復シ再ヒ将来ノ禍根トナルコトヲ妨止スルノ実力ヲ欠クコト明ナルヲ以テ帝国ニ於テ既ニ提出ノ如キ要求ヲ為シテ以テ自ラ独逸ノ権利ヲ継承シ其勢力ノ復活ヲ豫防スルノ挙措ニ出ヅルハ已ムヲ得ザル所ナリ又南満洲及東部内蒙古ニ関シテハ帝国ノ従来同地方ニ対シテ有セル地理上政治上商工業上ノ利害上特殊密接ナル関係ハ前後二回ノ戦役ニ依リテ特ニ深キヲ致セル現状ニ顧ミ帝国ニ於テ優越ナル地位ヲ確立シ居レルハ中外ノ承認スル所ナリ将又日支両国和親ノ関係ヲ益々増進センカ為ニハ将来両国間ニ紛糾ヲ生ズベキ各種懸案ヲ此際一併解決スルト共ニ支那側ニ於テ事実上承認シ来レル事項ニ付将来ノ紛争ヲ防グ為文書ヲ以テ取極メ置クコトノ必要ナルハ言ヲ俟タザル所ナリ而シテ帝国政府ハ本項ニ関シテハ他ノ各項トハ別個ノ問題トシテ支那政府ニ其実行ヲ勧告セリ之レ他ノ各項トハ主トシテ條約其他ニ基キ権利トシテ支那ノ同意ヲ求ムルモノナルモ本項ニ付テハ専ラ支那政府ニ於テ国交ノ誼ヲ重ンズルガ為ニ其実行ニ同意センコトヲ求メタルナリ

叙上ノ趣旨ニ基キ慎重審議ノ結果提出シタル要求ニ対シ支那政府ハ或ハ交渉ノ当初ニ於テ両国政府代表者ガ交渉ノ内容ヲ厳ニ秘密ニ附シ置クベキ約束ヲ無視シ提案各條項ヲ故意ニ誇大ニシ又ハ誣曲揑造ヲ加ヘテ外間ニ流布シ以テ列国ノ我ニ対スル反感ヲ挑発セントシ或ハ談判ノ内容ヲ随時新聞ニ記載セシメテ交渉ノ進行ヲ阻礙シ或ハ帝国ニ不利ナル報道ヲ揑造シ以テ帝国ト与国トノ関係ヲ離間セント試ミ或

ハ膠州湾ノ無條件還附、日独戦争ニヨリ生ジタル損害ノ賠償等ノ要求ヲ提出スル等当初ヨリ交渉ノ円満解決ヲ図ルノ誠意ナキモノト認メラルルノミナラズ我方ニ於テ十分誠意ヲ披瀝シ要求ノ趣旨ヲ反覆説明スルト共ニ支那側ノ腹蔵ナキ意見ヲ聴取スルニ努メタルニ拘ラズ却テ我方ノ友好的態度ヲ利用シテ交渉ノ遷延ヲ図リタルハ掩フベカラザル事実ナリトス帝国政府ニ於テハ交渉開始以来二十五回ノ会議ヲ重ネ三ヶ月余ノ日子ヲ費シ有ラユル手段ヲ尽シテ円満解決ヲ図リタルモ支那側ニ於テハ山東省ニ関スル條項ニ付テハ略ボ承諾ノ意ヲ表スルニ至リタルモ條項中ノ主要問題タル南満洲ニ於ケル居住及土地ニ関スル権利東部内蒙古ニ関スル問題及前記第五懸案解決其他ニ関スル件ノ項下ニ列記セル諸問題等ニ付或ハ国家主権ニ害アリト為シ或ハ他国トノ條約ニ牴触スト為シ帝国公使ニ於テ百方其ノ然ラザル所以ヲ説示シタルニ対シ毫モ耳ヲ傾クルコトナク全然和衷妥協ノ誠意ヲ缺キタリ

帝国政府ハ交渉ノ円満解決ガ東洋和平維持ノ為極メテ緊要ナルヲ思ヒ支那側ノ主張ヲ尊重シ交譲妥協ノ精神ヲ以テ至大ノ譲歩ヲ為シ去ル四月二十六日ヲ以テ支那政府ニ対シ修正案ヲ提出シタリ

修正案ノ提出ト同時ニ帝国政府ハ支那政府ニ対シ帝国ガ多大ノ犠牲ヲ払ヒテ獲取シタル膠州湾ヲ戦後媾和会議ノ結果帝国ノ自由処分ニ委セラルル場合ニハ相当條件ノ下ニ支那ニ還付スヘキコトヲ言明シタリ膠州湾ハ独逸ガ其東洋ニ於ケル発展ノ根拠地トシテ多年巨額ノ資財ト多大ノ労力トヲ投シテ経営シタル軍事上通商上極メテ重要ナル地点ニシテ同地ノ発展ニ伴ヒ支那ノ一角ニ於ケル独逸ノ勢力ハ実ニ牢乎トシテ抜クベカラザルモノアルニ至リ支那ノ独力ヲ以テシテハ此地ヲ恢復セントスルカ如キハ到底望ム能ハザラントス而シテ帝国ハ将来東洋ノ平和ヲ擾乱スルノ虞アル此禍源ヲ除クカ為メニハ実ニ勘少ナラサル資財ト生命トヲ擲チタルモノニシテ已ニ此地ヲ奪取シタル上ハ之ヲ如何ニ処分スヘキヤハ主トシテ帝国ノ意志ニ属シ之ヲ支那ニ還附スヘキ何等ノ義務ナキコト勿論ナリ然ルニ帝国ニ於テ進ンデ同地ノ還付ヲ豫約シタル所以ノモノハ実ニ帝国ガ日支国交ノ親善ト極東全局ノ和平トニ眷々タルガ故ニ外ナラズ

右修正案ハ従来ノ会議ニ於ケル支那側ノ主張ヲ参酌シタルモノニシテ即チ㈠東部内蒙古ニ付テハ差向キ絶対必要事項丈ニ止メ㈡漢冶萍ノ件ハ屢次ノ会見ニ於ケル支那側言明ノ事項丈ケニ止メ㈢沿岸不割譲ノ件ハ支那側希望通リノ形式ニ改メ、其他顧問ノ件学校病院ノ土地所有ニ関スル件兵器ノ件福建省ノ地位ニ関スル件ハ総テ会議ニ於ケル支那側委員ノ言明ニ基キ其意嚮通リト為シ南支鉄道ニ付テハ特ニ関係第三国ノ関係ヲ尊重シテ修正ヲ加ヘ布教権ノ件ハ他日ノ交渉ニ譲リ警察及寺院ノ敷地所有権ニ関スル件ハ之ヲ撤回シタリ修正案ノ要領ハ即チ左ノ如シ

一、南満洲ニ関シ新ニ左ノ提案ヲ為ス

㈠　日本国臣民ハ南満洲ニ於テ各種商工業上ノ建物ヲ建設スル為又ハ農業経営ノ為必要ナル土地ヲ賃借又ハ購買スルコトヲ得

㈡　日本国臣民ハ南満洲ニ於テ自由ニ居住往来シ各種ノ商工業及其他ノ業務ニ従事スルコトヲ得

㈢　前二項ニ関シ日本国臣民ハ例規ニ依リ下附セラレタル旅券ヲ地方官ニ提出シ登録ヲ受ケ且日本国領事官ニ於テ承認シタル警察法令ニ服従シ同シク其承認シタル課税ニ服スヘシ民刑訴訟ハ日本人被告タル場合ニハ日本国領事官ニ於テ又支那人被告タル場合ニハ支那国官吏ニ於テ之ヲ審判シ互ニ員ヲ派シ臨席傍聴スルコトヲ得但シ土地ニ関スル日支人間ノ民事訴訟ハ支那国ノ法律慣習ニ依リ日本国領事官及支那国官吏ニ於テ共同審判スヘシ又将来同地方ノ司法制度完全ニ改良セラルルトキハ日本国臣民ニ関スル一切ノ民刑訴訟ハ完全ニ支那国法廷ニ於テ審理スヘシ

二、東部内蒙古ニ関シテハ支那政府ニ左ノ要求ヲ為ス

㈠　該地方ニ於テ日支両国臣民合弁ニ依リ農業及附随工業ノ経営ヲ為スヲ允許スルコト

㈡　支那政府ガ将来該地方ニ於ケル鉄道ニ関シ又ハ各種税課ヲ担保トシテ外国ヨリ借款ヲ為サントスルトキハ先ヅ日本ニ商議スルコト

㈢　開放地ヲ増設スルコト

三、漢冶萍公司ニ関シテハ支那政府ハ㈠他日同公司ト日本資本家トノ間ニ合弁ノ議成リタルトキハ之ヲ承認スヘク㈡同公司ヲ没収セザルベク㈢関係日本資本家ノ同意ナクシテ同公司ヲ国有ト為スコトナカルベク㈣日本国以外ヨリ外資ヲ公司ニ入レシムルコトナカルベキコトヲ約束センコトヲ支那政府ニ要求ス

四、支那沿岸不割譲ニ関シテハ帝国政府ト支那政府立案ノ如キ声明ヲ以テ満足スヘシ

五、其他ノ諸点ニ関シテハ左記ノ各項ヲ記録ニ留メ置カンコトヲ提議ス

(イ)　支那政府ハ将来必要ノ場合ニ日本人ヲ傭聘スヘキコト

(ロ)　日本人支那内地ニ於テ学校病院ヲ建設スル為土地ヲ租借又ハ購買セント欲スルトキハ中央政府之ヲ允許スヘキコト

(ハ)　支那政府ハ他日其陸軍武官ヲ日本ニ派シ日本軍事当局者ト直接兵器購入又ハ支那ニ於ケル日支合弁兵器廠設立ノコトヲ協議セシムヘキコト

(ニ)　南支地方鉄道敷設権ニ関シテハ他国ニ於テ故障ナキコト明ナルニ至リタル場合ニハ必ズ之ヲ日本国ニ許与スヘク又ハ別ニ日本国政府ヨリ支那政府ニ於テ本件ニ関係アリト認ムル他国トノ間ニ直接話ヲ纏ムヘキニ付右話ノ纏マル迄ハ本件鉄道ハ何レノ国ヘモ許与セザルベキコト

(ホ)　日本人布教権ノ問題ハ之ヲ他日ノ商議ニ譲ルコト

六、原案警察合同ニ関スル件ハ之ヲ撤回ス

七、福建省ニ関シテハ支那政府ハ其沿岸ニ於テ造船所軍用貯炭所若クハ海軍根拠地ヲ設ケ又ハ其他ノ軍事上ノ施設ヲ為スコトヲ何レノ国ニモ許サザルコト及外国ノ資金ニヨリ該省沿岸ニ同様ノ施設ヲ為サザルコトヲ何等カノ形式ニ於テ約束スヘキ旨支那政府ニ要求ス

以上ハ未決條項速決ノ為帝国政府ノ為シタル提案ナルガ尚帝国政府ハ若シ支那政府ニ於テ之ヲ承諾セハ支那政府ニ対シ自ラ(一)青島ヲ商港トシテ開放スルコト(二)日本国カ指定スル地区ニ日本専管居留地ヲ設置スルコト(三)列国ニ於テ希望スルニ於テハ共同居留地ヲ設置スルコト(四)独逸施設物ノ処分其他ノ條件手続ニ付日支両国間ニ協定ヲ遂クヘキコト等ノ條件ノ下ニ膠州湾租借地ガ他日全然日本ノ自由処分ニ委セラレタル場合ニ於テハ同地ヲ支那ニ還付スヘキ旨ヲ声明スルコトスベキ趣支那政府ニ申入レタリ

右ノ中顧問ノ件ハ従来支那政府ニ外国人顧問傭聘ノ幾多ノ例アルカ如ク更ニ同政府ヲシテ日本人ヲ傭聘セシメ以テ其政治ノ改善ニ資スル所アラシメントスルニ過ギズ兵器ノ件モ亦単ニ諸外国ノ先例ヲ追フニ止マルモノニシテ敢テ新奇ノ問題ニアラス又台湾ト一葦帯水ヲ隔テタル福建省ニ於テ山東ニ於ケル独逸ノ如ク他国ノ政治上軍事上ノ勢力樹立セラルルガ如キコトアランカ我国防関係ニ於テ重大ナル影響アルベキヲ以テ豫メ支那政府ト約束シ右ノ懸念ヲ除去スルノ処置ヲ執ルハ当然ノコトナリトス其他学校病院ノ敷地及布教権ノ要求ノ如キハ支那ガ従来條約ニ拠リ諸外国ニ許与シタル権利ニ均霑セントスルモノニ過ギズ

然ルニ支那側ニ於テハ我方交譲妥協ノ誠意ヲ無視シ五月一日ニ至リ更ニ我修正案ニ対スル修正案ヲ提出シ之ヲ以テ其最後ノ修正案ナリト声明セリ右支那政府ノ修正案ハ従来ノ会議ニ於ケル自国委員ノ責任アル陳述ノ一部ヲ否定シ或ハ既ニ一旦撤回シタル條項ヲ復活セシメ或ハ又已ニ協定シタル事項ニ変更ヲ加フル等ノ廉勘カラザルヲ認メタリ従テ我ニ於テ如斯修正案ヲ其儘承認スルニ於テハ今回ノ交渉ヲ開始シタル所以ノ帝国政府ノ大趣旨ハ全然之ヲ貫徹スルコトヲ得ザルノミナラズ延イテ東洋永遠ノ和平ヲ確保スルニ必要ナル帝国ノ地位及権威ヲ薄弱ナラシムルニ至ルベシ此ノ如キ事態ニ陥ルハ帝国ノ断ジテ忍ブ能ハザル所ナルヲ以テ帝国政府ハ五月一日ヲ以テ在支帝国公使ニ訓令シ支那政府ニ於テ其修正案ニ対シ更ニ慎重ナル考量ヲ加ヘ帝国政府ノ提出シタル最後ノ修正案ニ対シ速ニ承諾ノ意ヲ表スベキコトヲ勧告セシメ同時ニ帝国政府ハ之ニ対シ来ル五月一日―時迄ニ支那政府ノ満足ナル回答ヲ期待スルモノナル旨ヲ申入レシメタリ

（欄外註記）
「本案ハ大正四年五月四日起草シタルモノニシテ後元老会議ノ結果最後通牒案ニ変更ヲ見従テ本案ハ廃案トナレリ」

三九〇　五月六日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

最後通牒ニ関シ我方ノ趣意徹底ノ為注意スベキ事項ニ付指示ノ件

第三〇九号

往電第三〇六号帝国政府最後通牒ニ関シ左記ノ諸点御含置ノ上各事項ニ付口頭又ハ必要ナレバ書面ヲ以テ当方ノ主意ヲ明確ニ先方ニ徹底シ少シニテモ誤解ナカラシムルヤウ取計ハルベシ

(一)　中段「福建省ニ関スル公文交換ノ一事ヲ除クノ外五項」云々トアルハ申ス迄モナク顧問傭聘ニ関スル件学校病院用地ニ関スル件南支諸鉄道ニ関スル件兵器及兵器廠ニ関スル件並ニ布教権ニ関スル件ヲ指ス

(二)　福建ノ件ハ四月二十六日提出ノ我最後修正案ノ通リトナスモマタハ五月一日支那側ヨリ提出ノ対案通リトナスモ何レニテモ差支ナシ今回ノ最後通牒中ニハ四月廿六日

提出ノ我修正案ニ対シ改訂ヲ加ヘズシテ応諾スベキコトヲ支那ニ求メアルモ之ハ原則ヲ示シタルモノニシテ本項及㈣㈤ノ如キ例外アルコトハ篤ト御含ノ上適宜先方ニ説明シ置カルヘシ

㈢　今回ノ最後通牒ヲ以テ要求セル各項ヲ支那政府ニ於テ承諾スルニ於テハ往電第二六一号ニ基キ貴官ヨリ支那政府ニ申入レラレタル通リ膠州湾還附ノ声明ハ依然其儘残リ居ル次第ナリ

㈣　往電第二六二号ノ通リ第二号第二條土地ノ賃借又ハ購買トアルハ暫租又ハ永租トスルモ差支ナク或ハ成ルヘク永キ期限付ニテ且無條件ニテ更新シ得ヘキ租借ヲ含ムコトノ明ナル了解ノ下ニ商租ノ語ヲ用ユルモ可ナルコト及第二号第四條警察法令及課税ノ承認ニ関スル件ハ密約トスルモ差支ナキコトハ申ス迄モナシ

㈤　四月廿八日附機密第一二二号貴信ヲ以テ御送付ノ支那側ヘ提出セル我修正案漢訳文ニ拠レハ東部内蒙古事項中租税担保借款ニ関スル件及鉄道借款ニ関スル件ハ共ニ「日本国政府ニ向テ商議ス」トナリ居レル処右ハ同種類事項ニ関スル満洲ニ付テノ取極同様「日本国資本家ニ向テ」云々ト改メラレ度シ尚前記漢訳文中「東三省南部トアルモ日本文ニテハ総テ「南満洲」トシ又「東三省」トアルハ「満洲」ト改メラレタシ将又右漢訳文ニ拠レハ東部内蒙古事項中開埠地ノ件ハ地点及章程ノコト迄條約文トナスガ如ク見エ居レル処右地点及章程ノ件ハ山東省同様公文ノ交換トナスモ可ナルハ勿論ナリ又同漢訳文第三号中「該公司関係人」トアルハ五月一日支那側対案通リ単ニ「該公司」ト改ムル方然ルヘシ

㈥　其他必要ナル字句ノ修正ハ彼我共ニ他日本調印前之ヲ行フコトハ豫テ申進シタル通ナリ尚「テクスト」ハ日本文ヲ正文トスルカ少クトモ日漢両文ヲ正文ト致度ハ之亦御承知ノ通ナリ（往電第一八一号）

㈦　其他本件交渉開始以来大小ノ問題ニ関スル当方屢次ノ訓電ヲ御参酌可相成ハ勿論ナリ

三九一　五月六日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使及各領事官宛（電報）

国交断絶ノ場合ニモ引揚不要ノ旨指示ノ件

在支　日置公使宛　第三一二号
在哈爾賓　佐藤総領事代理宛　第一四号
在長春　山内領事宛　第二五号
在鉄嶺　酒匂領事代理宛　第二三号
在奉天　落合総領事宛　第二九号
在遼陽　土谷領事宛　第四号
在安東　吉田領事宛　第七号
在済南　林領事宛　第二三号（開館準備出張中）

国交断絶ノ場合ニ立至ルモ貴地方ハ特ニ危険ナキモノト思考セラルルニ付貴官ニ於テ必要ト認メラレザル限リ貴官ノ引揚ヲ要セザルハ勿論居留民ノ引揚ヲモ実行セシメラルルニ及バザルベシ御含迄

三九二　五月六日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

最後通牒ヲ躊躇ナク提出スベキ旨指示ノ件

第三一四号

貴電第二四五号ニ関シ曹申出ノ内容如何ニ拘ハラズ最後通牒提出方ハ躊躇ナク取計ハルヘク又曹申出ノ次第ハ直チニ電報アリタシ

三九三　五月六日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

最後通牒ニ関スル重要事項ニ付意見上申ノ件

第二四九号

別電第二五〇号ヲ以テ最後通牒ニ関スル重要事項ニ付卑見電稟セリ大至急御詮議ノ上五月七日午後二時迄ニ御電訓アリタシ

三九四　五月六日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

曹汝霖申出ノ中国側譲歩案ニ関シ報告竝右申出ニ基キ我最後通牒案文改訂方稟申及請訓ノ件

第二五〇号

往電第二四五号ニ関シ曹汝霖ハ五月六日午後七時本使ヲ来訪シ陸総長ノ命ニ依リ左ノ通リ申出デタリ

支那政府ハ日支親善竝東亜和平ノ為最モ慎重ナル考量ヲ加ヘ日本国ヨリノ要求ニ関シ第一号ハ全部日本最終案ニ同意シ膠州湾還附ノ事ハ公文ヲ以テ日本国ヨリ支那ニ声明シ其他ノ事項即チ支那側最後修正案第一号第一條第二項末段同第二條及同第六條ハ今回ノ交渉談判完了調印後ニ日本国ハ好意ヲ以テ可成支那ノ希望ニ応スル事ニ同意セラレタク、第二号中商租ノコトハ別ニ公文ヲ以テ成ルベク永キ期限ニ取極ムルコトトシテ差支ナク裁判問題ハ支那側最後修正案中ノ土地ニ関スル訴訟ニ付テハ日本人間ノ訴訟ヲ除外シ日本人ト支那人間トノ訴訟ノミ支那法官之ヲ審判シ日本領事館ヨリ員ヲ派シ観審ストシ警察法令承認ノコトハ日本顧問官ヲシテ現法令ヲ検査セシムルコトトシ（此点支那側ノ意志明確ナラザルモ質問ノ結果日本人顧問ヲシテ現行違警律ヲ調査セシメ及日本人ニ適用スルニ不都合ナルヤ否ヤヲ審定セシムベシト云フニ在リ）又東部内蒙古ノ問題ニ付テハ四ヶ條ノ内支那側修正案ニ於テ承諾セザル残リ一ヶ條ハ日本国ノ要求ヲ承諾ス但シ日支合辦会社ヲ設立シテ之ヲシテ経営セシメタク（東部内蒙古ノ区域ハ南満洲及熱河所轄ノ東部内蒙古ヲ主張セリ）最後ニ第五号ニ付テハ鉄道問題ハ日本最終案第二案（？）ニ同意シ顧問兵器及布教ノ事ハ日本ノ最終案ヲ基礎トシテ他日商議スヘキコトヲ声明ス学校病院設立ノ件ハ豫テ協議済ノ次第ヲ会議録トシ存案スルコトトス右ハ支那政府ノ多大ナル譲歩ナルニ付日本国政府ハ之ニ同意セラレ以テ日支親善ヲ計リ東亜ノ和平ヲ維持セラレンコトヲ切望ス云々

本使ハ右ニ多少質問ヲ試ミタルモ昨日曹ノ私見トシテ述ベタルモノヨリ一段ノ進境無之ニアラザルモ大体ニ於テ我最終案ト尚拮抗カラザル距離アルヲ以テ本使ハ既ニ最後通牒ヲ発スル旨ノ通告ヲ政府ヨリ受領セル今日甚ダ乍残念右譲歩案ハ之ヲ帝国政府ニ取次グ程度ニ達シ居ラザルモノト認ムルニヨリ之ガ受領ヲ承諾シ能ハザル旨ヲ答ヘタル所曹ハ殊ノ外心外ノ様子ニテ種々泣言ヲ述ベタル末今一応考慮ヲ試ムベシトテ引取リタリ然ルニ他ノ各号ハ兎モ角モトシテ第五号ニ対シ曹持参ノ支那側譲歩案ハ貴電第三〇六号ノ七第五号ニ関スル我新修正案ニ比シ遙カニ有利ナルモノノ様考ヘラルルニ付最後通牒覚書中第五号（福建問題ヲ除ケリ）ニ関スル件ハ拮抗トモ本日曹言明ノ程度ニ改訂シ可然ト思料ス御異存ナケレハ大至急覚書改訂部分御電訓アリタシ（因ミニ曹ト会見ノ時ハ未タ最後通牒全文ヲ接手シ居ラズ）（終リ）

三九五　五月七日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

最後通牒ハ訓令通リ提出ヲ決行セラレタキ件

第三一六号

貴電第二五〇号ニ関シ廟議決定ノ上ノコトニモアリ又別電第三一七号ノ次第モアリ旁今更変更シ難キニ付訓令通リ最後通牒提出方決行セラルベシ為念電報ス

三九六　五月七日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

最後通牒提出ニ付電訓ノ旨中国公使ニ通報竝該通牒ノ内容ヲ英米仏露四国ニ内告済ノ件

第三一七号

五月六日夜在本邦支那公使ニ対シ最後通牒ノ内容ニ触ルルコトナク単ニ五月九日午後六時ヲ期限トシテ支那政府最後ノ再考ヲ促スベキ旨貴官ニ電訓シタル趣書面ヲ以テ通報シタリ又英米露仏四国政府ニ対シテハ右四国駐在帝国大使ヲシテ夫々任国政府ニ最後通牒ノ内容内告方五月六日電訓シ本大臣ヨリモ同日在本邦右四国使臣ニ対シ同様内告方取計ヒタリ

三九七　五月七日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

最後通牒提出済迄ハ右通牒ニ関スル公表見合方ノ件

第二五一号（大至急）

最後通牒提出前支那側ヨリ我最終修正案（但シ第五号ハ最後通牒ヲ以テ譲歩セシ程度）ヲ承諾スル旨申出デタル場

合ニハ当然ノ成行トシテ最後通牒ノ提出ハ之ヲ見合スコトニ致スベキニ付本使ヨリ愈々提出済ノ旨電報スル迄ノ間ハ右通牒ノ内容等公表ノ義見合セ置カルル様致シタシ

三九八　五月七日　外務省発表

最後通牒提出ニ至ル迄ノ日支交渉顛末発表ノ件

今回帝国政府ガ支那政府ニ提出シタル要求條件ハ日独戦争ノ善後ヲ図リ日支両国ノ親善関係ヲ増進シ東洋永遠ノ平和ヲ保持セントスルヲ以テ眼目トナシ帝国ガ従来支那ニ関シ列国ニ対シテ随時声明シタル領土保全、機会均等、門戸開放等ノ主義ト牴触スル虞アリト認メラルルモノハ努メテ之ヲ避クルコトニ留意シタリ従テ右條件ハ大体山東ニ於テ独逸ノ有スル利権ノ処分ニ関スルコト南満洲及東部内蒙古ニ於ケル帝国特殊ノ地位及利益ノ承認ニ関スルコト多年来日支両国間ニ懸案トナリ居レル諸問題ヲ解決スルコト等ニシテ、即左ノ如シ

第一、山東省ニ関スル件

一、独逸カ山東省ニ関シ條約其他ニ依リ支那ヨリ獲得シタル一切ノ権利利益譲与等ノ処分ニ付帝国政府ガ独逸国政府ニ協議スベキコト

七、吉長鉄道ノ管理経営ヲ九十九ヶ年間日本国ニ委任スルコト

第三、漢冶萍公司ニ関スル件

一、日本国資本家ト同公司トノ密接ナル関係ニ顧ミ本公司ヲ適当ノ機会ニ日支合辦トナスコト竝ニ支那政府ハ帝国ノ同意ヲ経ズシテ公司ニ属スル一切ノ権利財産ヲ自ラ処分シ又ハ公司ヲシテ処分セシメザルベキ旨ヲ約スルコト

二、日本資本家側債権保護ノ必要上支那政府ハ本公司ニ属スル諸鉱山附近ノ鉱山ニ付公司ノ承諾ヲ経ズシテ之ガ採掘ヲ公司以外ノモノニ許可セザルヘキ旨竝ニ其他直接間接公司ニ影響ヲ及ボス虞アル措置ヲ執ラントスル場合ニハ先ヅ公司ノ同意ヲ経ベキ旨ヲ約スルコト

第四、一般沿岸島嶼ノ不割譲ニ関スル件

支那沿岸ノ港湾及島嶼ヲ他国ニ譲与又ハ貸与セザルベキ旨ヲ約スルコト

第五、懸案解決其他ニ関スル件

一、中央政府ニ政治財政及軍事顧問トシテ有力ナル日本人ヲ傭聘スルコト

政府ト協定スベキ一切ノ事項ヲ承認スルコト

二、山東省内若クハ其沿岸島嶼ヲ他国ニ譲与又ハ貸与セザルコトヲ保證スルコト

三、芝罘又ハ龍口ト膠済鉄道トヲ連絡スベキ鉄道ノ敷設ヲ帝国ニ許与スルコト

四、支那政府自ラ山東省ノ主要都市ヲ外国人ノ居住貿易ノ為ニ開放スルコト

第二、南満洲及東部内蒙古ニ関スル件

一、旅順大連租借期限竝南満洲及安奉両鉄道ニ関スル各期限ヲ更ニ九十九年延長スルコト

二、日本人ニ対シ各種商工業上ノ建物ノ建設又ハ耕作ノ為必要ナル土地ノ賃借権又ハ所有権ヲ許与スルコト

三、日本人カ居住往来竝各種商工業及其他ノ業務ニ従事スルヲ許スコト

四、日本人ニ対シ特ニ指定セル鉱山採掘権ヲ許与スルコト

五、他国人ニ鉄道敷設権ヲ与ヘ又ハ鉄道敷設ノ為他国ヨリ資金ノ供給ヲ仰グトキ竝ニ諸税ヲ担保トシテ借款ヲ起ストキハ豫メ帝国政府ノ同意ヲ経ベキコト

六、政治財政軍事ニ関スル顧問教官ヲ要スル場合ニハ帝国政府ニ協議スベキコト

七、支那ニ於ケル日本人ノ布教権ヲ認ムルコト

右ノ内山東省ニ関スル我要求條項ニ関シテハ曩ニ帝国政府ハ多大ノ犠牲ヲ払ヒテ同方面ニ於ケル独逸ノ勢力ヲ駆逐シタリト雖モ支那ノ現状ハ到底独逸ガ同地方ニ於テ其勢力ヲ回復シ再ビ将来ノ禍根トナルコトヲ防止スルノ実力ヲ缺クコト明カナルヲ以テ帝国ガ叙上ノ要求ヲ提出シテ自ラ独逸ノ有スル権利処分ノ方法ヲ講ジ其勢力ノ復活ヲ豫防スル

二、支那内地ニ於ケル日本ノ病院寺院及学校ニ対シ土地所有権ヲ認ムルコト

三、必要ノ地方ニ於ケル警察ヲ日支合同トスルカ又ハ此等ノ地方ニ於ケル警察官庁ニ日本人ヲ傭聘スルコト

四、日本ヨリ一定数量ノ兵器ノ供給ヲ仰グカ又ハ支那ニ日支合辦ノ兵器廠ヲ設立シ日本ヨリ技師及材料ノ供給ヲ仰グコト

五、武昌ト九江南昌線トヲ聯絡スル鉄道及南昌杭州間、南昌潮州間鉄道敷設権ヲ帝国ニ許与スルコト

六、台湾トノ関係及福建不割譲約定ノ関係ニ顧ミ福建省ニ於ケル鉄道、鉱山、港湾ノ設備（造船所ヲ含ム）ニ関シ外資ヲ要スル場合ニハ先ヅ日本国ニ協議スベキコト

七、支那ニ於ケル日本人ノ布教権ヲ認ムルコト

右ノ内山東省ニ関スル我要求條項ニ関シテハ曩ニ帝国政府ハ多大ノ犠牲ヲ払ヒテ同方面ニ於ケル独逸ノ勢力ヲ駆逐シタリト雖モ支那ノ現状ハ到底独逸ガ同地方ニ於テ其勢力ヲ回復シ再ビ将来ノ禍根トナルコトヲ防止スルノ実力ヲ缺クコト明カナルヲ以テ帝国ガ叙上ノ要求ヲ提出シテ自ラ独逸ノ有スル権利処分ノ方法ヲ講ジ其勢力ノ復活ヲ豫防スル

ノ挙措ニ出ヅルハ已ムヲ得ザル所ナリ又南満洲ニ関シテハ帝国ノ従来同地方ニ対シテ有セル地理上政治上商工業ノ利害上特殊密接ナル関係ハ前後二回ノ戦役ニ依リテ特ニ深キヲ致セル現勢ニ顧ミ帝国ニ於テ優越ナル地位ヲ占ム可キハ中外ノ承認スル所ナリ東部内蒙古ニ付テモ略其軌ヲ一ニス

又日支両国和親ノ関係ヲ益々増進センカ為ニハ将来両国間ニ紛糾ヲ生ズベキ各種懸案ヲ此際一併解決スルト共ニ将来ノ紛争ヲ防グガ為取極ヲ為スコトノ必要ナルハ言ヲ俟タザル所ナリ帝国政府ハ是等ノ条項ハ他ノ各項ト区別シ別個ノ問題トシテ支那政府ニ其実行ヲ勧告セリ即チ他ノ各項ハ主トシテ条約其他ニ基キ権利トシテ支那ノ同意ヲ求ムルモノナルモ本項ハ専ラ支那政府ニ於テ国交ノ誼ヲ重ンズルガ為ニ其実行ニ同意センコトヲ求メタルモノナリ

叙上ノ趣旨ニ基キ慎重審議ノ結果提出シタル要求ニ対シ支那政府ハ或ハ交渉ノ当初ヨリ其内容ヲ厳ニ秘密ニ附シ置クベキ約束アルヲ無視シ提案各条項ヲ故意ニ誇大ニシ又ハ誣曲揑造ヲ加ヘテ外間ニ流布シ以テ列国ノ我ニ対スル反感ヲ挑発セントシ或ハ談判ノ内容ヲ随時新聞ニ記載セシメテ交渉ノ進行ヲ阻碍シ或ハ帝国ニ不利ナル報道ヲ揑造シ以テ

帝国ト与国トノ関係ヲ離間セント試ミ或ハ膠州湾ノ無條件還附、日独戦争ニ依リ生ジタル損害ノ賠償等ノ要求ヲ提出スル等交渉ノ円満解決ヲ図ルノ誠意ナキモノト認メラルルノミナラス我方ニ於テ十分誠意ヲ披瀝シ要求ノ趣旨ヲ反覆説明スルト共ニ支那側ノ腹蔵ナキ意見ヲ聴取スルニ努メタルニ拘ラズ支那当局ハ我方ノ友好的態度ヲ諒トセズ漫リニ交渉ノ遷延ヲ図リタルハ掩フヘカラサル事実ナリトス

帝国政府ニ於テハ交渉開始以来二十五回ノ会議ヲ重ネ三ヶ月余ノ日子ヲ費シ有ラユル手段ヲ尽シテ交渉ノ円満解決ヲ図リタルモ支那側ニ於テハ山東省ニ関スル條項ニ付キ略ホ承諾ノ意ヲ表スルニ至リタルモ南満洲ニ関シテハ其主要問題タル居住及土地ニ関スル権利ニ付種々ノ制限ヲ加ヘ東部内蒙古ニ関スル問題及前記第五項ニ列記セル諸問題等ニ付テハ或ハ国家主権ニ害アリト為シ或ハ他国トノ條約ニ牴触スト為シ帝国公使ニ於テ百方其然ラザル所以ヲ説示シタルニ対シ毫モ耳ヲ傾クルコトナク全然和衷妥協ノ誠意ヲ缺キタリ然レトモ帝国政府ハ交渉ノ円満解決ガ東洋ノ和平維持ノ為極メテ緊要ナルヲ思ヒ支那側ノ主張ヲ尊重シ交譲妥協ノ精神ヲ以テ至大ノ譲歩ヲ為シ去ル四月二十六日ヲ以テ支那政府ニ対シ修正案ヲ提出シタリ

右修正案ハ従来ノ会議ニ於ケル支那側ノ主張ヲ参酌シタルモノニシテ即チ㈠東部内蒙古ニ付テハ差向キ絶対必要ナル事項ニ止メ㈡漢冶萍公司ノ件ハ屢次ノ会見ニ於テ支那側ノ言明セル事項ニ止メ㈢沿岸不割譲ノ件ハ支那側希望通リノ形式ニ改メ、其他顧問ノ件学校病院用地ニ関スル件兵器ノ件福建省ノ地位ニ関スル件ハ総テ会議ニ於ケル支那側委員ノ言明ニ基ケルモノト為シ南支鉄道ニ付テハ特ニ関係第三国ノ関係ヲ尊重シテ修正ヲ加ヘ布教権ノ件ハ他日ノ交渉ニ譲リ警察ニ関スル件及寺院用地ニ関スル件ハ之ヲ撤回シタリ修正案ノ要領左ノ如シ

第一、南満洲及東部内蒙古ニ関スル件ヨリ東部内蒙古ヲ除キ第二項第三項ヲ左ノ通訂正ス

(イ)　日本国臣民ハ南満洲ニ於テ各種商工業上ノ建物ヲ建設スル為又ハ農業経営ノ為必要ナル土地ヲ賃借又ハ購買スルコトヲ得

(ロ)　日本国臣民ハ南満洲ニ於テ自由ニ居住往来シ各種ノ商工業及其他ノ業務ニ従事スルコトヲ得

(ハ)　前二項ニ関シ日本国臣民ハ例規ニ依リ下付セラレタル旅券ヲ地方官ニ提出シ登録ヲ受ケ且日本国領事官ニ於テ承認シタル警察法令ニ服従シ同シク其承認シタル

課税ニ服スヘシ民刑訴訟ハ日本人被告タル場合ニハ日本国領事官ニ於テ又支那人被告タル場合ニハ支那国官吏ニ於テ之ヲ審判シ互ニ員ヲ派シ臨席傍聴スルコトヲ得但土地ニ関スル日支人間ノ民事訴訟ハ支那国ノ法律慣習ニ依リ日本国領事官及支那国官吏ニ於テ共同審判スヘシ又将来同地方ノ司法制度完全ニ改良セラルルトキハ日本国臣民ニ関スル一切ノ民事訴訟ハ完全ニ支那国法廷ニ於テ審理スヘシ

第二、東部内蒙古ニ関スル件

(イ)　該地方ニ於テ日支両国臣民合辦ニ依リ農業及附随工業ノ経営ヲ為スヲ允許スルコト

(ロ)　支那政府カ将来該地方ニ於ケル鉄道ニ関シ又ハ各種税課ヲ担保トシテ外国ヨリ借款ヲ為サントスルトキハ先ヅ日本ニ商議スルコト

(ハ)　開放地ヲ増設スルコト

第三、漢冶萍公司ニ関シテハ支那政府ハ(イ)他日同公司ト日本資本家トノ間ニ合辦ノ議成リタルトキハ之ヲ承認スヘク(ロ)同公司ヲ没収セザルベク(ハ)関係日本資本家ノ同意ナクシテ同公司ヲ国有ト為スコトナカルベク(ニ)日本国以外

ヨリ外資ヲ公司ニ入レシムルコトナカルベキコトヲ約束スルコト

第四、支那沿岸不割譲ノ件ハ支那政府案ノ如キ声明ヲナスコト

第五、其他ノ諸点ニ関シテハ左記ノ各項ヲ記録ニ留メ置クコト

(イ)　支那政府ハ将来必要ノ場合ニ日本人ヲ顧問ニ傭聘スベキコト

(ロ)　日本人支那内地ニ於テ学校病院ヲ建設スル為土地ヲ租借又ハ購買セント欲スルトキハ中央政府之ヲ允許スヘキコト

(ハ)　支那政府ハ他日其陸軍武官ヲ日本ニ派シ日本軍事当局者ト直接兵器購入又ハ支那ニ於ケル日支合辦兵器廠設立ノコトヲ協議セシムヘキコト

(ニ)　南支地方鉄道敷設権ニ関シテハ他国ニ於テ故障ナキコト明ナルニ至リタル場合ニハ必ズ之ヲ日本国ニ許与スベク又ハ別ニ日本国政府ヨリ支那政府ニ於テ本件ニ関係アリト認ムル他国トノ間ニ直接協議スベキニ付其間本件鉄道ハ何レノ国ヘモ許与セザルベキコト

(ホ)　日本人布教権ノ問題ハ之ヲ他日ノ商議ニ譲ルコト

第六、警察合同ニ関スル件ハ之ヲ撤回ス

第七、福建省ニ関シテハ支那政府ハ其沿岸ニ於テ造船所軍用貯炭所若クハ海軍根拠地ヲ設ケ又ハ其他ノ軍事上ノ施設ヲ為スコトヲ何レノ国ニモ許サザルコト及外国ノ資金ニ依リ該省沿岸ニ同様ノ施設ヲ為サザルコトヲ何等カノ形式ニ於テ約束スルコト

右修正案ノ提出ト同時ニ帝国政府ハ支那政府ニ対シ帝国ガ多大ノ犠牲ヲ払ヒテ獲得シタル膠州湾ヲ戦後媾和会議ノ結果帝国ノ自由処分ニ委セラルル場合ニハ(一)膠州湾ヲ商港トシテ開放スルコト(二)日本ノ指定スル地区ニ日本専管居留地ヲ設置スルコト(三)列国ニ於テ希望スルニ於テハ共同居留地ヲ設置スルコト(四)独逸ノ施設物処分其他ノ條件手続ニ付日支両国間ニ協定ヲ遂グベキコト等ノ條件ノ下ニ支那ニ還付スベキコトヲ言明シタリ、膠州湾ハ独逸カ其東洋ニ於ケル発展ノ根拠地トシテ多年巨額ノ資財ト多大ノ労力トヲ投シテ経営シタル軍事上通商上極メテ重要ナル地点ニシテ同地ノ発展ニ伴ヒ支那ノ一角ニ於ケル独逸ノ勢力ハ実ニ牢乎トシテ抜クヘカラサルモノアルニ至リ支那ノ独力ヲ以テシテハ此地ヲ恢復セントスルカ如キコトハ到底望ム能ハサル所ナラントス而シテ帝国ハ将来東洋ノ平和ヲ擾乱スルノ虞アル此禍源ヲ除クカ為メニハ実ニ尠少ナラサル資財ト生命トヲ擲チタルモノニシテ已ニ此地ヲ奪取シタル上ハ之ヲ如何ニ処分スヘキヤハ主トシテ帝国ノ意志ニ属シ之ヲ支那ニ還付スヘキ何等ノ義務ナキコト勿論ナリ然ルニ帝国ニ於テ進テ同地ノ還付ノ豫約シタル所以ノモノハ実ニ帝国カ日支国交ノ親善ト極東全局ノ和平トニ眷々タルカ故ニ外ナラス然ルニ支那側ニ於テハ我方交譲妥協ノ誠意ヲ無視シ五月一日ニ至リ更ニ我修正案ニ対スル再修正案ヲ提出シ之ヲ以テ其最後ノ決定案ナリト声明セリ右支那政府ノ修正案ハ南満洲ニ関シテハ日本人ノ未開放地ニ於ケル居住営業及土地賃借権ヲ認メタレドモ永租権ヲ許与スルコトヲ拒ミ且支那ノ警察法規ニ服従シ支那人ト同様ニ各種税課ヲ納メ土地ニ関スル争議ニ付テハ日支人間ハ勿論日本人相互間ノ訴訟ト雖総テ支那官吏ノ審判ニ帰スヘシ等ノ條件ヲ要求シ東部内蒙古ニ付テハ同地方ノ範囲ヲ限局シ我要求ノ眼目タル日支合辦ノ農業及附随工業ノ経営ヲ承認スルコトヲ拒ミ且同時ニ膠州湾租借地ノ無條件還附及日独媾和会議ニ於ケル支那政府参加ノ承認ヲ求メタルノミナラス日独戦役ニ依リ生シタル損害ノ全部ヲ日本政府ニ於テ負担スヘキ旨竝ニ同戦役ニ於ケル日本軍ノ軍事的施設ノ即時撤廃及占領地守備兵ノ至急撤退ヲ要求シ更ニ前掲我修正案中第五ノ全部ヲ拒絶スルニ至レリ

加之支那政府修正案ニハ自国委員ノ責任アル陳述ノ一部ヲ否定シ一旦撤回シタル條項ヲ復活セシメ或ハ既ニ協定済ノ事項ヲ取消ス等背信ノ廉尠カラザルモノアリ殊ニ膠州湾無條件還附ノ要求若クハ日独戦争ノ為メ生ジタル損害賠償負担ノ要求ノ如キハ日本ニ対シ到底其容認スル能ハザルコト明白ナル所ノモノヲ求メントスルモノニシテ而モ支那政府ハ右要求ヲ含メル対案ヲ以テ其最後ノ決定ナリト言明セリ従テ帝国ニ於テ此等ノ要求ヲ容認セザル限リ他ノ諸項ニ関シ如何ニ妥協商定スル所アルトモ是等ハ皆遂ニ何等ノ意味ヲモ有セザルコトトナルベク結局支那政府修正案ハ其全体ニ於テ全ク空漠無意義ノモノトナルニ至ルベシ

帝国政府ハ支那政府ノ此ノ如キ態度ニ鑑ミ此上交渉ヲ継続スルノ余地殆ンド之ナキヲ遺憾トスルモノナリト雖極東和平ノ維持ヲ顧ヒ努メテ本交渉ヲ円満ニ結了シ時局ノ紛糾ヲ避ケンコトヲ冀ヒ難ヲ忍ビテ隣邦政府ノ情意ヲ酌ミ我修正案中第五ノ各項ハ本交渉ト引離シ後日改メテ協商スルコトニ決定シ右ノ趣支那政府ニ申入レシムルト共ニ同政府ニ於テ帝国政府交譲妥協ノ精神ヲ尊重シ更ニ慎重ナル考量ヲ加

ク我修正案ニ対シ速ニ承諾ノ意ヲ表スベキコトヲ勧告セシメ同時ニ帝国政府ハ之ニ対シ来ル五月九日午後六時迄ニ支那政府ノ満足ナル回答ヲ期待スルモノナル旨ヲ声明スベキ旨五月六日ヲ以テ在支帝国公使ニ訓令セリ

（右英文）

The statement published in Tokio by the Gaimusho, at 4.00 p.m., on the 7th May, 1915.

The Imperial Government have, in the demands which were lately presented to the Chinese Government, made it their main object to adjust matters to meet the new situation created by the war between Japan and Germany, to bring closer the friendly relations subsisting between Japan and China, and thus to ensure the permanent peace of the Orient. They have, in formulating these demands, taken especial care to avoid those which might be deemed to conflict with the principles of territorial integrity, equal opportunity, and open door, which Japan has from time to time declared to the Powers in regard to China. Accordingly, these demands include among others those relating to the disposition of the German rights in Shantung, those relating to the recognition of the special position and interests of Japan in South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, and those relating to the solution of various questions which have for many years been pending between the Japanese and Chinese Governments.

I. Demands relating to the Province of Shantung:

1. Engagement on the part of China to consent to all matters that may be agreed upon between the Imperial Government and the German Government with regard to the disposition of all rights, interests, and concessions, which, in virtue of treaties or otherwise, Germany possesses in relation to the Province of Shantung;

2. Engagement not to alienate or lease to another Power the province of Shantung or any portion thereof or any island lying near the coast of the said province;

3. Grant to Japan of the right of construction of a railway connecting Chefoo or Lungkou with the *Tsinan-Kiaochou Railway*;

4. The Chinese Government to open the principal cities of the province of Shantung for the residence and trade of foreigners.

II. Demands relating to South Manchuria and Eastern Inner Mongolia.

1. Extension of the terms of the lease of Port Arthur and Dairen, and the South Manchuria and Antung-Mukden Railways to a period of ninety-nine years;

2. Japanese subjects to be permitted to lease or own land necessary either for erecting buildings of various kinds for commercial and industrial uses or for agricultural purposes;

3. Japanese subjects to be permitted to reside, travel, and carry on business of various kinds, commercial, industrial, or otherwise;

4. Japanese subjects to be granted the mining rights of certain specified mines;

5. The consent of the Imperial Government to be obtained in advance when China proposes to grant a railway concession to subjects of a third Power or to procure a supply of capital from a third Power for the construction of a railway or to raise a loan from such Power on security of duties or taxes;

6. The Imperial Government to be consulted before engaging Advisers or Instructors regarding political, financial or military matters;

7. The management and control of the Kirin-Changchun Railway to be transferred to Japan for a term of ninety-nine years.

III. Demands relating to the Han-Yeh-Ping Company.

1. Having regard to the close relations between Japanese capitalists and this Company, the Chinese Government to agree to bring the Company at an opportune moment under joint Japanese and Chinese management, and not to dispose or permit the Company to dispose, without Japan's consent, any right or property belonging to the Company;

2. Owing to the necessity for the protection of the interests of Japanese capitalists, the Chinese Government to engage not to permit without the consent of the Company any one other than the

Company to work mines situated in the neighbourhood of those belonging to the Company, and also to obtain its previous consent in case it is proposed to take measures which may be deemed to affect the Company directly or indirectly.

IV. Demands relating to non-alienation of the coast of China or islands off the coast.

The Chinese Government to engage not to alienate or lease to a third Power any ports or bays on, or any islands off the coast of China.

V. Propositions relating to solution of pending questions and others.

1. The Central Government to engage influential Japanese as political, financial, and military advisers;

2. The Chinese Government to recognise the right of land ownership for the purpose of building Japanese hospitals, temples, and schools thereon in the interior of China;

3. The police in localities where such arrangements are necessary to be placed under joint Japanese and Chinese administration or Japanese to be employed in police offices in such localities;

4. China to obtain from Japan a supply of a certain quantity of arms or to establish an arsenal in China under joint Japanese and Chinese management and to be supplied with experts and materials from Japan;

5. Japan to be given the right of construction of the railway to connect Wuchang with the Kiukiang-Nanchang line and of Nanchang-Hangchou and Nanchang-Chaochou railways;

6. In view of the relations between the province of Fukien and Formosa and the agreement respecting the non-alienation of Fukien, Japan to be consulted whenever foreign capital is needed in connection with the railways, mines and harbour works including dockyards;

7. The Chinese Government to recognise the right of preaching by Japanese in China;

With regard to the province of Shantung, China absolutely lacks, it is clear, in her present condition the power to prevent Germany from recovering her influence in that province and from becoming in future again a source of disturbance in the Far East. It is therefore natural that Japan who has at a great sacrifice driven Germany out of Shantung should present the above-mentioned demands in order to consider how the rights possessed by Germany would be disposed of and to take measures to prevent the recrudescence of German influence. Japan's relations with Manchuria have always been especially close geographically, politically, and from point of view of commercial and industrial interests; and since those relations have been strengthened by two successive wars, the predominant position of Japan in that region is recognised both at home and abroad. The case is almost similar with regard to Eastern Inner Mongolia. Further, for the advancement of the intimate relations subsisting between Japan and China, no effort should be spared to solve definitely on this occasion all pending questions which are likely to lead to difficulties with China, and at the same time to make an agreement with a view to prevent future misunderstandings; and the Imperial Government, fully expecting that the Chinese Government would value the friendly sentiments existing between the two countries and willingly accede to the Japanese proposals, urged them to carry these matters into effect, whereas in other matters China's consent was demanded by reason of treaty and other rights.

With regard to the demands which were formulated after careful and mature consideration on the basis of the principles above referred to, the Chinese Government, in disregard of an understanding which was made at the commencement of the negotiations to keep the proceedings of the conferences strictly seret, made public the Japanese proposals in various exaggerated forms and endeavoured to stir up the feelings of the Powers against Japan; they caused the matter discussed at the conferences to be published invariably in newspapers with a view to hinder the progress of the negotiations; by fabricating news detrimental to Japan, they attempted to shake the confidence placed by her Ally in Japan; they even demanded the unconditional retrocession of Kiaochou and indemnity for damage caused by the war between Japan and Germany, and thus they showed from the first a lack of sincere desire for a satisfactory

conclusion of the negotiations. Moreover, although the Imperial Government fully showed their sincerity by repeatedly explaining the motives of the demands and endeavoured to hear China's unreserved views on the matter, it is an undeniable fact that the Chinese authorities failed to appreciate the friendly attitude of Japan and persisted in protracting the negotiations. Twenty-five conferences were held in all extending over more than three months, and, throughout these conferences, the Imperial Government exhausted every means to arrive at a satisfactory solution; but the Chinese Government, although they showed a disposition to agree to the demands relating to the province of Shantung, yet, with regard to South Manchuria, put various restrictions upon the most important demands, namely, those relating to the rights regarding residence and land tenure; and objected to those relating to Eastern Inner Mongolia, and the various questions enumerated under Heading V, on the ground that they were derogatory to the sovereign rights of China or that they conflicted with the treaties with the other Powers and although the Japanese Minister explained that such was not the case, they refused to listen to him.

But, recognising that a satisfactory conclusion of the negotiations were most important for the maintenance of peace in the Far East, the Imperial Government treated the Chinese contentions with every consideration, and making very great concessions in a spirit of conciliation, amended their proposals and presented their revised draft to the Chinese Government on the 26th April.

In the revised draft the contentions put forward by the Chinese Government at the conferences were taken into consideration. In this draft (1) as regards Eastern Inner Mongolia, the demands were confined for the present to absolutely necessary matters; (2) those relating to the Han-Yeh-Ping Company were confined to matters which were admitted by the Chinese Government at the conferences; (3), as regards the demand respecting the non-alienation of the coast, the form desired by the Chinese was accepted. The proposals relating to advisers, ownership of land for schools and hospitals, and the position of the Province of Fukien were all altered in accordance with the views expressed by the Chinese representatives at the conferences; as regards the South China railways, the relations with third parties, especially, were respected and alterations made accordingly; the question of right of preaching was reserved for future negotiation; those relating to police and to the ownership of sites for temples were withdrawn. The revised draft is, therefore, practically as follows:

1. Eastern Inner Mongolia is excluded from the proposals respecting South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, and the second and third clauses are amended as follows:

a. The Japanese subjects shall be permitted in the region of South Manchuria to lease or buy land necessary either for erecting buildings of various kinds for commercial and industrial uses or for agricultural purposes.

b. The Japanese subjects shall have liberty to enter, travel and reside in the region of South Manchuria and carry on their business of various kinds—commercial, industrial and otherwise.

c. Referring to the preceding two provisions, the Japanese subjects shall produce before the Chinese local authorities the passports duly issued, and be registered by the said authorities. They shall also observe the Chinese police laws or regulations approved by the Japanese consuls and pay to the Chinese authorities the taxes approved by the Japanese consuls. In civil and criminal suits, the Japanese consul, where a Japanese subject is the defendant, and the Chinese official, where a Chinese citizen is the defendant shall respectively try and decide the case, both the Japanese consul and the Chinese official being permitted each to send his authorized agent to attend the trial of the other and watch proceedings; provided that in a civil suit concerning land between Japanese and Chinese, the case shall be examined and decided jointly by the Japanese consul and the Chinese official according to the laws and local customs of China; provided further that in the future when the judicial system in the said region shall have been completely reformed, all civil and

criminal suits involving Japanese subjects shall be wholly tried and decided by the Chinese courts.

II. Proposals relating to Eastern Inner Mongolia,

a. To permit joint enterprises of Japanese and Chinese in agricultural and auxiliary industries;

b. To consult Japan first in case China contemplates contracting either railway loans or loans to be secured by the taxes;

c. To increase open marts.

III. As regards the Han-Yeh-Ping Company, the Chinese Government shall engage (a) to approve the agreement that may be concluded in future between the company and Japanese capitalists for its joint undertaking, (b) not to confiscate it, (c) not to nationalize it without consent of the interested Japanese capitalists and (d) not to permit it to contract any foreign loan other than Japanese.

IV. As regards the non-alienation of the Chinese coasts, the Imperial Government will be satisfied with the declaration as suggested by the Chinese Government.

V. As to the other points.

1. The following shall be kept on record:—

a. That the Chinese Government will, in case of necessity in future, employ Japanese advisers;

b. That in case Japanese subjects desire to lease or purchase land for the purpose of building schools and hospitals in the interior, the Chinese Government will permit them to do so,

c. That the Chinese Government will some day in future send their military officers to Japan in order to make arrangements directly with the Japanese military authorities either for purchase of arms from Japan or for establishing an arsenal in China under Japanese and Chinese management;

d. That the Chinese Government will grant to Japan the desired railway concessions in South China, in case it becomes clear that there is no objection in this respect on the part of any other Power, or that the Chinese Government will refrain from entering into any agreement with any other party concerning the railway lines in question until Japan may, independently of the present negotiations with China, reach an agreement with the party, whose interests are, in the opinion of the Chinese Government, opposed to the proposed lines;

e. That the question of the freedom of preaching by Japanese missionaries, will be left for future discussion.

2. The proposal for joint administration of police is withdrawn.

3. As to Fukien Province, the Chinese Government to engage in some form that they will not grant to any other Power the right to build a shipyard, coaling or naval station or any other military establishment on or along the coast of Fukien Province, and further that the Chinese Government will not allow any such establishment to be built with any foreign capital on the coast of the said province.

At the same time as the presentation of the revised draft, the Imperial Government declared to the Chinese Government that, if at the peace conference upon conclusion of the present war, Japan should be given free disposal of Kiaochou which she has acquired at an enormous sacrifice, she would return it to China subject to certain conditions, of which the principal ones are as follows: (1) the opening of Kiaochou Bay as a commercial port, (2) the establishment of a Japanese concession in the locality to be designated by Japan, (3) the establishment, if required by the Powers, of an international settlement, and (4) arrangements to be made between the Japanese and Chinese Governments, regarding the disposal of German public structures and properties. Germany having after many years of labor and heavy expenditure of money converted Kiaochou into an important military and commercial port, as the basis of her expansion in the East, Germany's influence in this part of China grew with the development of Kiaochou and became so firmly established that it was utterly hopeless for China single-handed to regain possession of the leased territory. Japan, desiring to remove this

source of danger which might in future again disturb the peace of the East, captured it at no small cost of life and money; and now that it is in her hands, she is almost at liberty to dispose of it as she will, she is certainly under no obligation to return it to China; but she offered of her own will to return Kiaochou, because she was anxious to promote the friendly relations with China and to maintain the general peace of the Far East.

The Chinese Government have, however, failed to reciprocate Japan's sentiment of accommodation and conciliation, and on the 1st May presented a counter draft which they declared to be their final answer. In this counter draft the Chinese Government recognize, with regard to South Manchuria the right of residence, trade, and leasing land of Japanese subjects in the interior, but refuses to grant long leases, and demand that Japanese subjects shall submit to Chinese police laws and regulations and be liable to the same taxes and duties as Chinese, and all actions arising out of land disputes whether between Japanese and Chinese or between Japanese themselves shall come under the jurisdiction of Chinese courts. As regards Eastern Inner Mongolia, they put limitations on the extent of that region and refuse to permit the main point of the Japanese demand, which is the joint enterprise of Japanese and Chinese in agriculture and auxiliary industries. Further, they demand at the same time unconditional surrender of the leased territory of Kiaochou; the recognition of the right of the Chinese Government to participate in the coming peace negotiations between Japan and Germany; the indemnification by Japan for all losses suffered by China in consequence of the Japan-German war; the immediate removal of various military establishments of the Japanese army and prompt evacuation of the occupied territory. They also refused all the proposals contained in Group V of the Japanese amended project except that relating to Fukien.

In this counter draft the Chinese Government still further, in disregard of the responsible statements made by their representatives at the conferences, revived in some cases articles which have already been withdrawn and in others made alterations in matters which have been agreed to. Moreover, they make demands to which it is clearly impossible for Japan to accede, such as those for unconditional surrender of Kiaochou and indemnification for losses incurred through the Japan-German War. Furthermore, the Chinese Government declare that the counter draft formulates their final decision; accordingly, so long as Japan refuses to accede to these demands, whatever agreement may have been arrived at on other points, must ultimately be abortive, and the terms offered by China will prove illusory.

The Imperial Government deeply regret to perceive from the attitude of the Chinese Government that it is no longer of any use to continue the present negotiations; nevertheless, being desirous, with a view to the maintenance of peace in the Orient, to make every effort to bring the negotiations to a satisfactory conclusion and thus to avoid complications in the situation, the Imperial Government, taking fully into account the wishes of the Chinese Government, have decided with great forbearance to leave out of the present negotiations and reserve for future discussion all the items specified in the Fifth Group of their amended draft except that relating to Fukien about which agreement has been reached. The Imperial Government instructed their Minister at Peking on the 6th May that in conveying this decision to the Chinese Government, he should earnestly advise them to give due regard to Japan's sentiment of accommodation and conciliation and to express, after careful consideration, their assent without delay to the Japanese amended draft, and at the same time to announce that the Imperial Government expect from the Chinese Government a satisfactory response to this advice not later than 6.00 p. m. on the ninth May.

三九九　五月七日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

日中交渉顛末書発表ハ最後通牒提出ト否トニ関セザル旨回示ノ件

第三二〇号

貴電第二五一号ニ関シ

帝国政府ニ於テハ此際我方立場ヲ明ニシ世上ノ誤解ヲ一掃スル為日支交渉顛末書ヲ五月七日午後四時ヲ以テ発表シタリ右ニ付テハ往電第三一七号ノ関係モアリ且右顛末書ハ主トシテ交渉今日迄ノ経過ヲ説述セルモノニ係リ所謂最後通牒ニ関シテハ貴官ニ対シ右支那政府ヘ提出方訓令セル旨ヲ記載セルニ止マルモノニテ其後ノ成行ニヨリ貴官ヨリ最後通牒ノ提出ヲ見合スコトトナルト否トニ拘ラザルモノナルニ付右ニ御含アリ度シ尚最後通牒ノ本文ハ尚未タ発表セズ

四〇〇　五月七日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

最後通牒ヲ陸外交総長ニ手交済ノ旨報告ノ件

第二五四号

テ貴電第三〇九号ノ注意事項ヲ説明シ之レ亦為念書付トシテ陸ニ交付セリ

右ニ対シ陸ハ通牒及説明ハ委細之ヲ了解セリ直チニ政府ニ報告スル旨ヲ陳述スル外今日ハ何等他ニ申述ブベキコトナシト云ヘルニ付本使右通牒ニ対シテハ速ニ満足ナル回答ヲ与ヘラレ以テ緊張セル此事態ヲ一掃スル様切望ニ堪ヘズト述ベ更ニ陸ハ之ニ答ヘ両国親善ノ為必ズ速ニ回答ヲ為スベキコトヲ豫メ玆ニ声明スト挨拶セリ

次ニ陸ハ東部内蒙古ニ関スル事項取極形式ヲ條約トスルカ公文トスルカニ付質問シタルニ付本使ハ南満洲ニ於ケル同種事項ト同様ノ形式ニ従フコト可然即チ商埠地開設ノコト及農業合辦ノコトハ之レヲ第二号條約中ニ規定シ可然租税ヲ担保トスル借款ノ件及鉄道借款ノ件ハ南満洲ニ関スル分ト合併シ二通ノ公文ニ認メ可然ト心得居ル旨答ヘ陸ハ重テ附屬公文ハ何レモ密約トシタキガ如何ニトモ尋ネタルニ付本使ハ密約トシ差支ナキモノト然ラザルモノトアリ夫レ等ハ文書整理ノ時協議スルコトトシテハ如何ト答ヘ置ケリ

右ニテ本使ハ本日ノ会見ヲ終リ午後三時五十分諸事滞ナク相果シ帰館セリ右会見ノ模様ニテ想像セラルル如ク又四囲ノ状況ニ顧ミ支那政府十中八九迄ハ我政府ノ勧告通我最後

本使五月七日午後三時小幡高尾両書記官ヲ随ヘ陸総長ヲ往訪ノ上最後通牒ヲ手交セリ委細後電

四〇一　五月七日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

最後通牒手交及陸総長ノ挨拶振竝印象ニ付報告ノ件

附記一　六月二十一日附小池政務局長ヨリ小幡書記官宛半公信

最後通牒提出前曹次長ヨリノ申出ニ関スル情報ニ付問合ノ件

二　七月二日附小幡書記官ヨリ小池政務局長宛半公信

最後通牒提出前曹次長ヨリノ申出ニ関シ回報ノ件

第二五五号

貴電第三〇六号最後通牒ハ豫定ノ通五月七日午後三時本使外交部ニ赴キ陸総長ト会見（曹次長施秘書列席）ノ上帝国政府ノ命令ニ依リ交渉事件ニ関シ最後通牒ヲ提出スル旨ヲ述ベ覚書ヲ陸ニ手交シ高尾ヲシテ其内容ヲ訳読セシメ終リ要求ヲ承諾スベシト感ゼラレタリ右不取敢電報ス

（附記一）

六月二十一日附小池政務局長ヨリ在北京小幡書記官宛半公信

最後通牒提出前曹次長ヨリノ申出ニ関スル情報ニ付問合ノ件

拝啓陳者此程在貴地桑田豊蔵ヨリ当地知人ニ宛テタル書面ニ依レバ最後通牒発送ノ当日即チ五月七日午前十一時過曹汝霖ハ桑田ニ対シ電話ヲ以テ支那政府ニ於テハ我要求條項第一号ヨリ第四号迄全部ヲ承認シ又第五号ハ軍器顧問ノ件ニ付テハ追テ協議スヘキコトヲ口約ヲ以テ声明スルコトトシ其他ハ一切即チ福建問題、鉄道問題、布教権問題、病院学校問題ハ之ヲ承認スルコトニ決シタル処日本公使館側ノ意嚮承知シ度旨通シ来リタルヲ以テ桑田ハ直チニ右ノ次第ヲ高尾書記官ヲ経テ貴官ニ通ジタルヤノ趣ニ候処右ハ果シテ事実ニ有之候哉右ニ関シテハ貴館ヨリノ御報告中記載無之候処右事実ナリトセハ貴館ニ於テハ該報告ニ付キ如何御措置相成候哉其辺ノ消息モ併セテ将来ノ為資料トシテ記録

ニ留メ置度ニ付何分ノ義御回示相成様致度此段得貴意候
敬具

（附　記二）

七月二日附小幡書記官ヨリ小池政務局長宛半公信

最後通牒提出前曹次長ヨリノ申出ニ関シ回報ノ件

拝啓陳者去五月七日午前十一時過曹汝霖ハ桑田豊蔵ニ対シ以電話支那政府ニ於テハ我要求條項第一号ヨリ第四号迄全部ヲ承認シ又第五号ハ軍器顧問ノ件ニ付テハ追テ協議スヘキコトヲ口約ヲ以テ声明スルコトトシ其他ハ一切即チ福建問題、鉄道問題、布教問題、病院学校問題ハ之ヲ承認スルニ決シタルヲ以テ日本公使館ノ意嚮承知シ度旨ヲ通シ桑田ハ之ヲ小官等ニ内告シタルヤノ事実有之ヤ否ヤ若シ事実ナリシニ於テハ当時当館ニ於テ如何措置セルヤ可及御回報旨御来示之趣正ニ敬承致候

右桑田ノ報道ハ大要事実ニ有之候ヘ共我最後通牒発送ノ当日桑田ガ曹外交次長ノ意嚮ナリトテ伝ヘタル処ハ何分電話ヲ以テセルニヨリ十分要領ヲ得兼ネ大要第一号乃至第四号ハ之ヲ承認スルモ其他ノ條項ニ付テハ福建問題、鉄道問題及ヒ病院学校問題ヲ除キ他ノ事項ハ依然同意ヲ肯ゼザルモノナルヤニ了解セラレタルヲ以テ日置公使ニ右ノ次第ヲ具報シ其結果桑田ニ対シ以電話重要ナル問題ノコトナレハ人ヲ介シテハ自然錯誤ヲ生ジ易キ虞アルニヨリ七日午後一時半高尾書記官ガ曹次長ト会見スベキコトトナリ居ルニ付若シ曹氏ニ於テ話ノ次第アラバ直接聞取ルコトトスベキ旨通告シ置キタリ然ルニ午後一時過高尾書記官ガ曹氏ヲ往訪シタルトキハ支那当局ニ於テ已ニ我最後通牒ノ内容ガ緩和的トナレルモノナルコトノ情報ヲ得居リタルヲ以テ兎モ角正式ニ最後通牒ヲ受領シタル上支那側ノ態度ヲ決スベシト決心シタルモノト見エ曹汝霖ハ高尾書記官ニ何等具体的譲歩案ニ関シ口ヲ切ラズ尋テ高尾書記官ハ前日日置公使ガ曹次長ト会見ノ節要求條項全部承認ヲ働告シタルハ最後通牒ノ内容ヲ通読セザル前ノ事ニ係ル事情ヲ夫トナク説明シ最後通牒ノ内容稍緩和的ノモノナルコトヲモホノメカシ置キタル由ナリ右高尾書記官ノ措置ハ公使トモ打合ハセ済ミノ上ニテ為シタル次第ニシテ当時我公使ノ立場トシテ六日中ニ最後通牒ヲ受領シナガラ曹ニ対シ要求條項全部ノ承認ヲ迫リタリトノ疑惑ヲ支那当局ニ与フルハ甚ダ好マシカラザルコトト認メ公使ハ夫レトナク高尾書記官ガ曹汝霖氏トノ会見ノ節右ノ事情ヲ曹ニ説明ニ及バシメラレタル次第ニ有之候

右当時事情記憶ニ存スル丈御請求ニヨリ及御回報候　敬具

大正四年七月二日

在北京

小幡書記官

小池政務局長　殿

四〇二　五月八日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

中国側最後通牒受諾ヲ決心セル模様ナル旨報告ノ件

第二五七号

五月七日我最後通牒ニ接スルヤ支那当局者ハ同夜直チニ総統府ニ於テ会議ヲ開キ回答振ニ付審議ヲ遂ゲ尚今朝引続キ同様会議ヲ催シタルガ午後更ニ各部総長其他有力ナル参政ヲ集メ最終的決定ヲ与フル筈ナリ昨夜来頻繁入手セル各方面ノ情報ヲ綜合シテ観察スルニ支那政府ニ於テハ愈々我最後通牒ヲ承諾スルコトニ決心シタル模様ナルニヨリ多分夕刻迄ニハ回答時刻等ニ付何等申越スベシト思料セラル

四〇三　五月八日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

中国側ヨリ最後通牒ニ対スル回答案ニ付内諾ヲ求メ来レル件

第二五八号

（五月九日接受）

五月八日午後五時外交部ヨリ部員ヲ当館ニ派シ別電第二五九号訳文ノ通我最後通牒ニ対スル支那側回答案ヲ示シ内諾ヲ求メ来レルニ付篤ト審査ノ上「四月二十六日提出セル修正案第五号中ノ五項」ノ次ニ「ハ他日ノ協商ニ譲ル」ノ意味ヲ挿入セバ之ヲ受領スベキ旨答ヘタルニ右ハ多分支那政府ニ於テ異存ナカルベキニ依リ陸総長今夜九時ヨリ午後十二時迄ノ間ニ本使ヲ来訪正式ニ手交スルコトトナルベキ旨申述ベ引取タリ将又別電中附加解釈七條トハ貴電第三〇九号要領ヲ列記シタルモノヲ云フ為念申添フ

四〇四　五月八日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

最後通牒ニ対スル中国側回答案訳文電送ノ件

第二五九号

（五月九日接受）

本月七日午後支那政府ハ日本公使ノ手交セル日本政府ノ最後通牒一件及附加解釈七條ヲ受領セリ該通牒ノ末段ニ曰ク

支那政府ヨリ五月九日午後六時迄ニ満足ナル回答アランコトヲ期待ス若シ期限ニ至リ満足ナル回答ヲ接到セザレハ日本政府ハ必要ト認ムル手段ヲ執ラントス合セテ声明ストアリ

支那政府ハ東亜ノ和平ヲ維持スル為ニ起見シ日本国政府ヨリ四月二十六日提出セル修正案第五号中ノ五項ヲ除ク外第一号第二号第三号第四号ノ各項及第五号中ノ福建問題ニ関スル公文交換ノ件ハ四月二十六日提出ノ修正案ニ記載セル通リ直ニ応諾シ以テ中日間ノ有ラユル懸案ヲ顧慮シテ解決シ益々両国ノ親善ヲ鞏固ナラシメンコトヲ希フ即チ日本公使ハ期ヲ定メ外交部ヘ恵臨シ文字ノ修正ヲ行ヒ速ニ調印センコトヲ請フ（終リ）

四〇五　五月八日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

最後通牒交付ノ際手交セル注意事項説明書全文電送ノ件

別電　同日日置公使発加藤外務大臣宛電報第二六二号

右注意事項説明書全文

（五月九日接受）

最後通牒交付ノ際陸外交総長ヘ手交シタル貴電第三〇九号注意事項説明書全文別電第二六二号ノ通為念電報ス

（別電）

五月八日日置公使発加藤外務大臣宛電報

最後通牒交付ノ際手交セル注意事項説明書

第二六二号　（五月九日接受）

一、福建省ニ関スル公文交換ノ一事ヲ除ク外五項トアルハ顧問傭聘ニ関スル件学校病院用地ニ関スル件南支諸鉄道ニ関スル件兵器及兵器廠ニ関スル件及布教権ニ関スル件ヲ指スモノナリ

二、福建省ニ関スル件ハ四月二十六日提出セル我最後修正案ノ通リト為スモ又ハ五月一日支那側ヨリ提出セル対案ノ通リトスルモ執レニテモ差支ナシ此次最後通牒中ニハ四月二十六日提出ノ我修正案ニ対シ改訂ヲ加ヘズシテ応諾スベキコトヲ支那側ニ求メアルモ之ハ原則ヲ示シタルモノニシテ本項及四、五ノ如キ例外アルコトハ特ニ注意ヲ要ス

三、此次最後通牒ヲ以テ要求セル各項ヲ支那政府ニ於テ承諾スルニ於テハ四月二十六日支那側ニ声明セル膠州湾還附ニ関スル件ハ依然其ノ儘残リ居ル次第ナリ

四、第二号第二條中ニ土地租賃又ハ購買トアルハ暫租又ハ永租トスルモ差支ナク或ハ永キ期限付ニテ且無條件ニテ更新シ得ヘキ租借ヲ含ムコトノ明カナル了解ノ下ニ商租ノ語ヲ用ユルモ可ナリ又第二号第四條警察法令及課税承認ノ件ニ付テハ密約トスルモ差支ナキ次第ナリ

五、東部内蒙古ノ事項中租税担保借款ニ関スル件及鉄道借款ニ関スル件ハ共ニ「日本国政府ニ向ツテ商議ス」トセルモ右ハ同種ノ事項ニ関スル満洲ニ付テノ取極ト同様「日本国資本家ニ向ツテ商議ス」ト改ムベシ又東部内蒙古ノ事項中開埠地ノ件ハ地点及章程ノコト迄モ條約文中ニ規定スルコトトナリ居レドモ地点及章程ノ件ハ山東省ノ取極ト同様ニ公文交換ト為スモ差支ナシ

六、我最後修正案第三号中「該公司関係人」トアル「関係人」ヲ削除スルモ差支ナシ

七、正約及其他一切ノ附属文書ハ日本文ヲ以テ正文トスルカ又ハ日漢両文ヲ以テ正文トスヘキコト（終リ）

四〇六　五月八日　在漢口瀬川総領事ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

中支派遣隊兵営ノ防禦工事ニ付中国当局及領事団ニ通知ノ件

中支派遣隊ニ於テハ時局ニ鑑ミテ自衛ノ必要上五月七日午後二時ヨリ兵営ヲ包囲セル（不明）ニ防禦工事ヲ起シ今後ノ情況変遷ニ伴ヒ更ニ此区域ヲ拡張スル筈ニテ以上ノ事実ヲ司令部ヨリ公然支那当局者及領事団ニ通知シタリ

四〇七　五月八日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

引揚ノ場合ノ利益保護国ニ関シ内訓ノ件

第三二二号

時局ノ進行上萬一貴官及在支帝国領事引揚ノ場合ニハ我公館及在留邦人ノ保護ハ長春、吉林、哈爾賓、斉々哈爾ニ於テハ露国ニ其他ノ地方ハ英国ニ托スヘク目下両国政府ヘ交渉中ナルニ付右様御含置アレ各領事ヘモ電報済

四〇八　五月八日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

米国務長官大隈伯ニ対シ日中交渉ノ和平解決ニ尽力方勧告ニ関スル件

第三二五号

五月六日米国国務長官ハ大隈伯ニ対シ日支交渉ニ当リ日本国政府カ忍堪ノ精神ヲ発揮セラルル様同伯ノ勢力ヲ用ヒラレンコトヲ同伯トノ親交ニ顧ミ個人的且非公式ニ懇望シ和平解決ニ向テ同伯ノ尽力ニ最モ熱心ニ勧告スル旨ノ伝言転達方在本邦米国代理大使ニ訓令シタル趣ヲ以テ其写ヲ在米大使ニ示シ同長官ハ袁世凱ニ対シテモ大隈伯トノ私交ニ関スル点ヲ除キ大統領ノ命ニ依ル旨ノ文句ヲ加ヘ同様ノ伝言ヲ発スル旨ヲ語レリ右御参考迄尚右大隈伯宛伝言ハ五月八日在本邦米国代理大使ヨリ接受之ニ対スル同伯ノ回答振ハ後電ニテ申進ス

四〇九　五月八日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

中国ノ我最後案受諾ガ最後通牒接受後トナリタル事情等ニ関シ報告ノ件

第二六三号　（五月九日接受）

至リタルハ六日夜来ノ総統府会議ニ於テ最後通牒接受前ニ解決スベシトノ説ト接受後ニスベシトノ説二派ニ分レ容易ニ決スルニ至ラズ折柄東京方面ヨリ我最後通牒ハ最終修正案ヨリモ更ニ若干ノ譲歩ヲ示シタルモノナリトノ報道達シタル為（日本人側ニモ此種報道入電アリタリ）結局最後通牒接受ノ上審議スヘシトノ事ニ決定シタル次第ナリト云フ右ハ各方面ノ情報ニ徴シ事実ト認メラル将又最後通牒接受後ニ於ケル支那政府ノ感想ニ関シ当館諜報者ノ大総統府側ニ付探リ及ヒ其他ノ情報ニ依レハ支那政府ニ於テハ我通牒文ノ割合友誼的ナルコト期限割合長キ事ニ付大体満足シ居リ殊ニ福建問題以外第五号各項悉ク後日ノ協商ニ譲ルコトトナシタル点ニ対シ袁世凱ハ深ク感銘シ且日本国政府ニ於テ斯ル寛大ノ度量ヲ有セラレタルナレバ事ノ解決ヲ最後通牒ニ待ツヲ要セザリシト言ヒタル趣ナリ右我最後通牒ニ対スル善後策ヲ講ズル為メ五月七日夜直ニ総統府会議ヲ開キ討議ノ上大体承諾スルニ決定シ（何レノ途承諾スルノ外ナキコトハ最後通牒受領ノ際ニ於ケル陸総長ノ態度ニ徴スルモ受領前略ボ決定シ居リタルモノナラン乎ト存ゼラル）尚今五月八日午前重テ会議ヲ催シ文案等ニ付凝議シタル趣ナルガ本日午前船津書記官ガ最モ信憑スベキ筋ヨリ直

五月六日曹次長来訪申出ノ次第ハ往電第二五〇号ヲ以テ報告シ置キタル所其ノ際曹ノ私見トシテ開陳シタル譲歩案ナルモノハ支那側ノ底意ヲ示シタルモノト認メラレ殊ニ始終頑強ニ主張シタル第五号中鉄道及学校病院ニ関シ我希望ヲ容レ得ベキコトヲ述ベタルハ頗ル注意スヘキ現象ト存ジ最後通牒改訂ニ付キ卑見ヲ具申スルニ至リタル次第ナルガ支那側ニ於テ斯ク俄カニ譲歩的態度ニ出デタルハ帝国政府ニ於テ愈々最後ノ決心ヲ堅メタルコトヲ承知シ且居留民引揚準備ノ模様ヲ目撃シ狼狽ノ余リ最後通牒受領前ニ自カラ進ンデ解決ヲ図ラント企テタルモノニ相違ナシト認メタリ依テ本使ハ支那側ニ於テ七日最後通牒提出前先方ヨリ機先ヲ制シ第一号乃至第四号全部我最後修正案ヲ承諾シ第五号ニ付テハ尠クモ福建以外鉄道及学校病院位ハ同意シ来ルベシト豫想シ（七日ノ英文北京日報ハ支那政府ガ鉄道及学校病院ニ付日本ノ希望ヲ容ルルコトヲ言明セル旨麗々シク記載セリ）七日早朝為念往電第二五一号ヲ以テ最後通牒提出済ノ電報ヲ接受セラルル迄其内容等公表見合セ方電請シタル次第ナリ然ルニ本使ノ豫期ニ反シ同日何等支那側ヨリ申出ナカリシニ依リ愈々午後三時ヲ以テ最後通牒ヲ提出スルニ至リタル処支那側ニ於テ之ヲ接受スル事ニ決心スルニ

接聞込ミタル所ニ依レバ本日午後一時ヨリ大総統府ニ於テ国務卿初メ政事堂左右丞外交総長外交次長各部総長及趙爾巽、李盛鐸、梁士詒、楊度、厳復、聯芳、施愚ノ各参政ヲ招集シ大会議ヲ開キ最後通牒ニ対スル回答振ニ付協議スル筈ナルガ特ニ前記参政ヲ加フルニ至リタル次第ハ最初参政中最後通牒ニ接セルヤ其回答方ニ関シテハ参政院ニ附議スベシト主張シタルモノアルモ参政中ニハ内外ノ形勢ニ通ゼザルモノ多ク萬一善後ノ考モナク徒ニ強硬ノ論ヲ主張シ要求拒絶ヲ議決スルガ如キコトアリテハ由々敷大事ニテ危険至極ナリトノ李盛鐸其ノ他二三参政ノ反対アリタルタメ遂ニ大総統モ全部ノ召集ヲ見合スコトトナリタル次第ナルガ同会議ニ於テ多分和平解決ノコトニ決定スベシト云フ尚支那政府ガ最後通牒ヲ受領スル迄強硬ノ態度ヲ装ヒタルハ対内政策ノ関係モアリタルガ此ノ以外別ニ重大ナル二原因アリ一ハ四月三十日頃在英支那公使ヨリ英国外務当局ハ同公使ニ対シ日本国ハ断シテ戦意ナシト語リタリ（同公使ヨリ其ノ理由ヲ質問シタルモ説明シ難シト答ヘタリト云フ）トノ報告アリタルト一ハ在米支那公使ヨリ最近長文ノ秘密電報到達シ之レガ為メ或ル程度迄ノ決意ヲ与フルガタ

メナリト云フ右情報後段ハ真相ヲ穿チタルモノト思ハレザルモ何等カ御参考迄申添フ（終リ）

四一〇　五月九日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

陸外交総長ヨリ最後通牒ニ対スル正式回答書受領ノ件

第二六四号

五月九日午前一時外交総長来訪往電第二五八号打合通ノ正式回答書ヲ手交セリ委細後電

四一一　五月九日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

陸外交総長最後通牒ニ対スル回答書持参及挨拶竝條約締結ノ形式ニ関シ申出ノ件

第二六五号

五月八日午後十一時陸徴祥ハ我最後通牒ニ対スル回答書ヲ持参シ本使ニ手交ノ筈ナリシモ該回答中ノ文句ニ付再応先方ヨリ打合セヲ要スル点アリ其為来訪ノ時刻ヲ九日午前一時ニ延期シ同時刻ニ同総長ハ曹次長及施秘書ヲ随ヘ来館セルヲ以テ本使ハ小幡高尾ヲ随ヘ之ニ応接セリ陸ハ特ニ深更ニ来館セルヲ詫ビタル上五月七日提出ノ我最後通牒ニ対スル回答書ヲ持参セリトテ之ヲ本使ニ手交シ本使ハ之ガ妥当ナルヲ認メタルヲ以テ之ヲ受領スル旨ヲ告ゲ数ケ月ニ亘レル談判モ玆ニ円満ナル解決ヲ告ゲ緊張セル時局ガ之ニヨリ一掃スルヲ得タルハ本使ノ深ク喜ニ堪ヘザル所ニシテ交渉開始以来終始衝ニ当ラレタル外交総長外各位ノ労ヲ最モ多トシ感謝ノ意ヲ表スル次第ナリ既ニ交渉モ斯ク円満ナル解決ヲ見タル以上ハ将来益日支両国国交ヲ親善ナラシメ以テ東亜ノ和平ニ貢献セン事本使ノ衷心ヨリ希望シテ已マザル所ナリト挨拶ノ辞ヲ陳述セルニ陸ハ右本使ノ所存ハ陸自身ニ於テモ其ノ感ヲ同ウスル所ニシテ談判中種々難問題モアリタルニ拘ハラズ兎モ角斯ク和平解決ヲ見ルヲ得タルハ深ク其ノ満足スル所ナリト答ヘ支那政府回答ノ次第ハ直ニ之レヲ帝国政府ニ電報セラレ更ニ日ヲ期シ会合シテ速カニ條約其ノ他ノ文書ヲ調製シ之レニ調印ノ運ニ至ラムコトヲ希望スル旨ヲ述ベタルニ付本使ハ之ヲ諾シ雙方準備出来次第一日モ速カニ條約ノ調印ヲ終ラムコト本使ニ於テモ亦切ニ之ヲ希望スル次第ナリト答ヘ次デ陸ハ交渉事件モ斯ク和平ニ局ヲ結ビタル以上ハ支那政府ニ於テモ一日モ速カニ緊張セル事態ヲ一掃シ動揺セル民心ニ安堵ヲ与ヘタキニ付襄ニ日本国政府ヨリ派遣ノ交替軍隊ハ直ニ其ノ交替ヲ実行セラレムコトヲ希望スル旨ヲ告ゲタリ本使ハ右申出ノ次第ハ政府ニ電報シ交代ノ実行ヲ禀請スベキコトヲ約シ置ケリ尚ホ最後陸ハ條約締結ノ形式ニ関シ希望ヲ述ベ雙方全権委員ノ資格ニテ調印シタキニ付全権ノ委任ヲ受ケラルル様致シタク都合如何ト尋ネタルヲ以テ本使ハ右ハ我政府ニ於テモ異議ナカルベシト考フルヲ以テ其旨電請スル事トスベシト答ヘ置ケリ就イテハ先方希望ニ対シ御異存ナクバ至急其手続ヲ取ラレ電報ヲ以テ本使ニ全権ヲ委任セラルル様致シタシ支那政府提出ノ回答ハ往電第二五九号ノ通但シ往電第二五八号中ニ豫報ノ通（他日ノ協商ニ譲ル）ノ文字挿入済回答書日附ハ民国四年五月八日附ナリ本文写直ニ郵送ス

四一二　五月九日　在本邦中国公使ヨリ加藤外務大臣宛

中国政府ニ於テ最後通牒応諾ノ旨通告ノ件

外乙字第九号

敬啓者頃奉本國政府訓電内開五月七日接到日置公使面交日本政府來文各節本政府爲維持東亞和平起見對於日本政府四月二十六日修正案除第五號中五項容日後協商外其第一號至第四號之各項及第五號中關於福建問題以公文互換之件照四月二十六日修正案所記載者竝照日本政府五月七日文内附加七件之解釋即行應諾以冀中日懸案就此解決俾兩國親善交誼蓋加鞏固竝再定期修正文字以便細核此項詳細覆文已於八日夜中交付日置公使外應即知照日本政府等因奉此合行備函奉達敬頌

（右和訳文）

以書翰致啓上候陳者今般本国政府ヨリ左ノ電訓ヲ接手致候

五月七日日置公使ノ手交シタル日本政府来文ノ各節ハ本政府東亜ノ平和ヲ維持セムカ為日本政府四月二十六日ノ修正案第五号中五項ヲ将来協議スルコトトシテ除外シ第一号ヨリ第四号ニ至ル各項及第五号中福建問題ニ関シ公文ヲ交換スルノ件ニ付テハ四月二十六日ノ修正案ニ記載スル所及日本政府五月七日ノ来文内ニ添附セル七件ノ解釈ニ照シ即チ応諾ヲ行ヒ以テ中日ノ懸

案之ニ依テ解決シ両国親善ノ交誼ヲシテ益々鞏固ヲ加ヘシメムコトヲ冀望ス尚ホ更ニ期ヲ定メテ文字ヲ修正シ以テ詳細核定ニ便ニスヘシ

以上ノ詳細ナル回答ハ已ニ八日夜中日置公使ニ交付シタルモ尚ホ日本政府ニ通知スヘシ

右ノ次第玆ニ書翰ヲ以テ及御通知候此段得貴意候　敬具

中華民国四年五月九日

四一三　五月九日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

我最後通牒ニ対スル中国政府回答竝條約文及附屬公文等ノ案文ニ関スル件

第三二七号（至急）

貴電第二五九号末段ニ関シ当方ニ於テハ我最後通牒ニ対スル支那政府今回ノ回答ヲ以テ同政府ニ於テ我方要求ヲ主義上承諾セルモノニシテ此際別ニ仮調印等ヲ要セザルモノト認メ居レル所貴官御了解ノ程為念電報アレ尚條約文及附屬公文等ハ既ニ貴館ニ於テ案文出来シ居ル義ナルニ於テハ至急日本文漢文共全文電報アリタシ尤モ右ノ用意未ダ出来シ居ラザルニ於テハ両三日中ニ日本文ダケ当方ヨリ作成電報スルコトトスルモ可ナルニ付否ヤ折返シ回電アリタシ

四一四　五月九日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

北京各漢字新聞ハ悲憤慷慨ノ論説掲載ノ件

第二六六号

五月九日当地発行二十余種ノ各漢字新聞ハ何レモ外交部ヨリ供給セラレタル我最後通牒全文ノ漢訳ヲ掲載シ一般ノ論調悲憤慷慨ヲ極メ五月七日ハ国民ノ一時屈辱ヲ受ケタル永久忘ルベカラザル記念日ナリ国民ハ今後宜シク臥薪嘗胆大ニ発憤シテ自強ノ道ヲ講ジ以テ他日此ノ恥辱ヲ雪グノ覚悟ナカルベカラスト絶叫シ其ノ論旨各紙トモ殆ンド大同小異ナリ且何レモ交渉事件ニ関スル記事論評ヲ以テ殆ンド全紙面ヲ埋メ居レリ

四一五　五月九日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

我最後通牒ニ対スル中国政府回答及條約案文竝東部内蒙古ニ関スル事項ノ取極形式ニ関スル件

第二六七号　（五月十日接受）

貴電第三二七号ニ関シ最後通牒ノ回答ハ明カニ我要求ヲ承諾セルモノナルニ付別ニ仮調印ノ必要無之ト存ズ條約案ノ日本文貴方ニ於テ作製全文電報アリタシ（同時ニ全文郵報アリタシ）但支那側ノ希望次第ニテ適宜字句ノ修正ヲ行フ必要起ルベキニ付確定前随時請訓ニ及ブベシ尚東部内蒙古ノ件ハ往電第二五五号三ニ申述ベ置キタル通リ支那政府ヘ一応ノ説明ヲ与ヘ置キタル所右ノ了解ニテ差支ナクバ鉄道借款及租税担保ノ件ハ第二号中同種類ノ取極公文中ニ併合シ農業合弁及自開商埠ノ件ノミ第二号中ニ條文ノ取極トシテ追加方可然御取計相成様致度シ為念申添ユ

四一六　五月九日　加藤外務大臣ヨリ　在中国日置公使宛（電報）

日中交渉解決ニ付陸外交総長ニ挨拶ノ件

第三二九号

陸外交総長ニ対スル本大臣ノ挨拶左ノ通リ至急同総長ニ伝達アリタシ

長時日ヲ要シタル貴我両国間ノ交渉モ貴総長ノ一方ナラザル御辛労ニヨリ玆ニ円満ナル解決ヲ見ルニ至リタルハ両国ノ為メニ本大臣ノ慶賀措ク能ハザル処ニシテ本大臣ハ今後両国ノ国交益々親善ヲ増スニ至ルベキコトヲ確信シ玆ニ取敢ヘズ本大臣ノ深厚ナル祝意ヲ表ス

四一七　五月十日　陸中国外交総長ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

交渉円満解決ニ付陸総長加藤大臣ニ挨拶ノ件

十日准日置公使面交貴大臣懇摯之電至爲銘感此次交渉端賴貴大臣盡力得以圓滿解決俾兩國邦交保存親善洵爲兩國前途之幸本總長盼望此後彼此睦誼益加鞏固玆特專電表明本總長切實希望感謝之意

（欄外註記）
「右ハ大正四年五月十一日支那公使持参大臣ニ手交シタルモノナリ」

四一八　五月十日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛

最後通牒ニ対スル中国政府回答写送附ノ件

附屬書　五月八日付中国政府回答写

公信第一二九号（機密）
大正四年五月十日　（五月十五日接受）

最後通牒ニ対スル支那政府回答写送附ノ件

本件支那政府回答ノ内容ハ往電第二五九号所報之通リナル処其本文ハ別紙甲号写ノ通リニ有之候尚ホ最後通牒手交ノ際貴電第三〇九号ノ御訓示ニ基キ陸外交総長ヘ交附セシ説明書（註）ハ同乙号写ノ通ニ有之候右ハ往電第二六二号ヲ以テ全文報告済ナレトモ為念写及御送附候併セテ御査閲相成度此段申進候也

註　別紙乙号写省略

（附屬書）
別紙甲号写

五月八日付中国政府回答

節略

本月七日下午三點鐘中國政府准日本公使面遞日本政府最後通牒一件附交解釋七條該通牒末稱期望中國政府至五月九日午後六時爲滿足之答復如到期不收到滿足之答復則日本政府將執認爲必要之手段合併聲明等語中國政府爲維持東亞和平起見對於日本政府四月二十六日提出之修正案除第五号中五項容日後協商外其第一號第二號第三號第四號之各項及第五號中關於福建問題以公文互換之件照四月二十六日提出之修正案所記載者竝照日本政府所交最後通牒附加七件之解釋卽行應諾以冀中日所有懸案就此解決俾兩國親善益加鞏固卽請日本公使定期惠臨外交部修正文字從速簽字爲荷

中華民國四年五月八日　陸徵祥

四一九　五月十日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

北京「ガゼット」社説要領報告ノ件

第二七一号

五月十日「ペキン、ガゼット」社説要領

日本ノ原要求ハ遂ニ全部貫徹スルニ至ラズ彼ノ広汎ニシテ傍若無人ナル計画ノ一部ガ遂ニ（適当ナル時機？）迄ニ延期セラルルコトトナリタルハ全ク英国輿論ノ強大ナル反対ニ出デタルガ為ナリ支那ハ正ニ英国人ノ義俠的措置ヲ徳トセザルベカラズ日本今回ノ高圧手段ハ完成ヲ見ルニ至ラザリシトスルモ尚南満洲ニ於テハ併合前ノ韓国ニ於ケルト同様ノ事態ヲ確立スルコトトナリ又東部内蒙古ニ対シテモ新ニ利権ヲ獲得シタル結果追テハ南満洲ト全然同一ノ事態ヲ作クルニ至ルヘク要スルニ長城以北ノ両地域ハ最早併合ノ運命ニ陥リタルモノト云ハザルベカラズ山東ノ霊地モ政治的発展ノ論理ヨリ推セバ今回ノ約束ノ結果行ク行クハ南満洲同様ノ事態ニ立チ至ルベク将又福建ニ於テハ新ニ優越ナル地位ヲ確立シ漢冶萍ニ関スル約束ニ依テハ湖北湖南全般ニ渉ル石炭及鉄ノ独占権ヲ得タルモノト云フヲ得ヘシ斯クシテ日本ハ仮令原要求ヲ悉ク貫徹シ得ザリシトスルモ尚軍略上経済上最モ重要ナル地方ヲ十分ニ其自己ノ繩張トスルコトヲ得タル次第ナリ

四二〇　五月十日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

東部内蒙古ノ範囲ニ関シ注意方指示ノ件

第三三一号

往電第二七六号東部内蒙古範囲ニ関スル件ハ此際我方ヨリ進デ支那側ニ言明スル必要モナク又右ノ範囲ハ漠然ト致シ置ク方可然ト思考スルニ付若シ未ダ貴官ヨリ支那側ニ言明シ居ラレザル次第ナルニ於テハ右言明方見合セ置カレ度シ尚往電第二七六号前段我方説明振中ニ「長城以北ニシテ南満洲ニ接壌セル地域ヲ指シ普通ニ所謂内蒙古東四盟ノ大部ヲ包括シ云々」トアルハ勿論長城ニ直接接続セル蒙古地方即チ所謂熱河道管轄地方等ヲモ含ム意味ナリ為念尚往電第二七六号後段ヲ以テ直隷省内長城以北ノ地方ニ就テハ支那側ニ反対アルベキ場合ヲ豫想シ申進ジ置キタル義アルモ五月一日支那側対案ニ熱河道所轄蒙古云々ノ字句アルヲ見レハ右豫想ハ杞憂ニ屬シタルモノト思考スルニ付此点モ御含置アリ度シ

四二一　五月十一日　岡陸軍大臣ヨリ
加藤外務大臣宛

朝鮮及満洲駐屯部隊ノ応急準備令解除ノ件

第十三師団第十七師団独立守備隊及第九師団（師団司令部歩兵一聯隊騎兵野砲兵各一中隊ヲ除ク）ノ応急準備ヲ解除セラル

四二二　五月十一日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

最後通牒ノ成行ニ関シ英仏露各公使トノ談話報告ノ件

第二七四号

最後通牒ノ成行内報旁五月十日英国公使ヲ往訪セシニ近来稀ニ見ル快活ナル態度ヲ以テ熱心ニ祝意ヲ表シタル後最後通牒ニ関スル米国政府提議ノ件ニ付テハ九日午前九時三十分在日本英国大使ヨリ電報ニ接シタルニ本国政府ヨリハ何等訓令ニ接セス蓋シ右ハ自分ヨリ既ニ五月八日附ヲ以テ支那政府ニ於テ最後通牒ヲ承諾スルコトニ決定シタル旨本国政府ニ電報シ置キタル結果ナラン尚前記在日本英国大使ノ電報ハ同大使カ加藤高明男ト会見シ本国政府ニ発送シタルモノト同一ニシテ其末段ニ私見トシテ若シ同公使ニシテ加藤高明男ノ所陳ニ同意ナルニ於テハ支那当局ニ向ヒ其趣旨ヲ以テ勧告アリタシト附加シアリタルノミナリ将又最後通牒ニ対スル確執ニ付テハ支那側ヨリ内々相談ヲ受ケタルニヨリ自分ヨリ回答文ハ出来得ル限リ簡単トナシ彼レ是レ弁解ケ間敷コトヲ述ベザル方可然旨ヲ申聞ケタル趣ヲ内話シ夫レトナク我方ニ好意ヲ寄セタル内情ヲ洩シタルヲ以テ本使ヨリ風聞ニヨレバ貴国外務当局者ハ在英支那公使ニ対シ日本国ニ戦意ナシト断言セラレタリ（往電第二六三号末段参照）トノコトナルガ何等斯カル風聞ノ伝ハリ居ルコトヲ耳ニセラレタリヤト試ミニ引掛ケタルニ之レニ対シ同公使ハ本国政府ノ電報ニヨレバ六日井上大使ヨリ最後通牒ノ内告ヲ受ケ居リ七日支那公使来訪ノ際ニハ日本国最後ノ要求ヲ容ルルノ得策ナルベキ旨ヲ切ニ勧告シタリトノコトナレバ英国外務当局者ニ於テ右ノ風聞ノ如キ所見ヲ洩シタル筈ナシト否定シ尚最後ニ本使ヨリ米国政府今回ノ提議ハ如何ナル動機ニ出デタルモノナルヤ支那側ノ依頼ニ基ク義ト認メラレズヤト尋ネタルニ之ニ対シ英国公使ハ右ハ米国政府ノ発意ニ出デタルモノノ如ク支那側ニ対スル交渉ハ米国公使自身行ヒタル形跡ハナキモ書記官ヲ以テ内々交渉セシメタル模様アリト答ヘタリ次ニ仏国公使ヲ訪問セルニ是又懇篤ナル祝詞ヲ述ベタル後実ハ今朝（五月十日）本国政府ヨリ米国政府提議ノ次第ハアルモ仏国政府ニ於テハ支那ガ日本国ノ要求ヲ容レ速ニ和平解決ヲ図ルヲ得策ナリト思料スルニ付其趣旨ニテ支那政府ニ勧告スベキ旨電訓ニ接シタルコトヲ内話シ訓令今少シ早ク到達セハ日本国ノ為ニ尽力スルコトヲ得タル次第ナルガ今日トナリテハ致シ方ナシト語リタリ最後ニ露国公使ヲ訪問セルニ西山ニ赴キ不在ナリシガ今十一日先方ヨリ来訪シ和平解決ニ関シ祝辞ヲ述ベタル上今朝本国政府ヨリ米国ノ提議ニ関スル電訓到達シタルガ右ニ依レバ露国政府ハ米国政府ノ提議ニ対シ日露関係極メテ親善ナル現状ニ鑑ミ斯ル提議ニ応スルコト能ハズ且日支交渉モ終了ニ近ヅキタル今日最早右様ノ措置ヲ執ルノ必要ヲ認メザル旨回答シタル趣ナリト語レリ

前記会談ノ際本使ハ支那当局ノ態度ニ関スル三公使ノ感想ヲ探クルニ努メタル所何レモ支那政府ガ今回ノ交渉中新聞操縦等ニ付多少画策ヲ為シタル外外国政府ニ向ヒテ運動ケ間敷行動ニ出ヅルコトナク終始 correct attitude ヲ持シタルコトヲ認メ居ルモノノ如ク且何レモ陸総長ノ人格及其 refined manner ニ対シテハ相当敬服シ居ルガ如キ口吻ヲ洩ラセリ右何等御参考迄電報ス（終リ）

四二三　五月十一日　加藤外務大臣
在本邦中国公使会談

日中交渉円満解決ニ付挨拶並交渉過程ニ於ケル中国側ノ過誤ニ関スル件

支那公使来省会談要領

大正四年五月十一日支那公使来省大臣ト会談ノ要領左ノ如シ

公使　（別紙日支交渉円満解決及之ニ伴フ将来ノ親交ニ対シ感謝及希望ヲ表スル旨ノ陸外交総長来電（註）写ヲ差出シ）本日ハ此電信ヲ御渡致ス為ニ参上セリ今回ノ交渉円満解決ニ至リタルハ本使ニ於テモ欣幸之至ニ堪ヘズ之ニヨリテ両国ノ交誼今後益敦厚ニ向ハンコトヲ祈ル

大臣　全然御同感ナリ陸外交総長ヨリハ日置公使ヘモ同様ノ挨拶アリ同公使ヨリモ亦之ニ答フル所アリタル趣同公使ヨリ電報アリ大ニ満足ニ存ジ居ル次第ナリ只今御話ノ通今後ハ益両国ノ親善ヲ図ルコトニ努メザルベカラズ閣下ノ御尽力ニ待ツ所モ従テ愈多キヲ加フルコトナルベシ（トテ語調ヲ改メ）此際ハ以上ノ御答ニ止メ置キテモ可ナレドモ尚後日ノ御参考ノ為一言致シ置キ度キコトアリ勿論今回ノ如キ大ナル交渉ハ屢有之次第ニハ非ザレドモ小問題ニ関スル交渉ハ今後常ニ起生シ来ルナルベクソレガ為無用ニ非ズト存スル議ナルガ第一ニハ最後通牒ヲ出スニ至リタル前後ノ事情ナリ彼ノ四月二十六日ノ日本ノ修正案提出ニ際シテハ国民ノ反対ヲ豫期シツツモ膠州湾

還附ノ如キ大譲歩ヲナシタル次第ナルニ五月一日貴国政府ノ回答ニ接シテ実ニ其不当ナルニ驚キ入リタリ而モ陸外交総長ハ之ヲ以テ最後ノ決答ナリト云ヒ日置公使ノ更ニ之ヲ確カメタルニ対シテ明白ニ然リト答ヘラレタリトノコトニテ恰モ支那ヨリ最後通牒ヲ受ケタルガ如キ観アリ日本ハ日本ノ立場ヲ擁護スル為到底之ヲ黙過スルコト能ハズ最後通牒ヲ提出スルノ已ムヲ得ザルニ至レリ斯ク迄ニ事態ノ紛糾ヲ来サズトモ済ミタル筈ナルニ貴国政府ノ為ス所宜シキニ適セザリシガ故ニ事是ニ至リタルナリ幸ニ国交ノ断絶ハ之ヲ避クルコトヲ得タレドモ誠ニ遺憾千萬ナリ

公使　只今ノ御話ノ内ニ陸総長ガ五月一日ノ回答ヲ最終ノモノナリト云ヒ日置公使ノ反問ニ対シ明白ニ然リト云ヒタリ云々トノコトハ本使ノ受領シ居ル同総長ヨリノ電報ノ趣旨トハ相違シ居レリ右ニ依レバ同総長ハ「イエース」ト答ヘタリトノコトナリ当時何ト訳サレタルカ知ラザレドモ「先ヅ先ヅ」ト云フ様ナル意味ニテ云ヘル由ナリ明白ニ然リト云ヒタルニハ非ザルモノノ如シ

大臣　夫レハ如何カ知ラザレドモ日置公使ノ報告ハ前述ノ通ナリ兎モ角今後ハ大ニ注意セラレザレバ貴国ノ為ニ甚ダ有害ナリ次ニ申述ベタキハ新聞漏洩ノ件ナリ談判開始以来再三再四日置公使ヨリ貴国当局者ニ又大臣ヨリ閣下ニ警告ヲ与ヘタルニ不拘談判ノ事続々新聞通信ニ顕ハレ甚シキニ至リテハ談判当日即夜世界ニ知レ渡ルト云フ有様ナリキ交渉中或ハ我ニ於テ再考ノ余地ナキニ非ズト思考スルコトニテモ之ガ為再考ヲモ妨ゲラルルガ如キ場合ナキニ非ザリキ或ハ蔡廷幹氏ガ洩シ居レリトノ噂アリ其真偽ハ別ナレドモ斯クノ如クシテハ何事モ為シ得ルモノニ非ズ将来大ニ慎マルルコト然ルベシ今日ハ頗ル不適当ナル機会トハ存ズルモ今後ノ為無益トハ思考セズ然ルベキ折ニ本国政府ヘ報告セラレタシ

公使　敬承セリ

註　陸外交総長来電写前掲四一七文書

四二四　五月十一日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛

対中国要求ニ関スル中国新聞論調報告ノ件

公信第八五号

大正四年五月十一日　（五月二十二日接受）

対支要求ニ対スル北京支那新聞論調報告ノ件

（四月二十七日即チ我最終修正案交付ノ翌日ヨリ五月七日即チ最後通牒交付ノ日迄）

斯ノ旬日間ニ於ケル論調ハ益々沈着強硬ニ赴ケルヲ見ル大体討議ヲ譲歩シテ逐條討議ニ移リ逐條討議ノ行詰リテ更ニ譲歩ノ新修正案ヲ呈出スルニ至リタルノ成行ハ一般支那側輿論ヲ増長セシメタルノ傾アリ右ハ日本譲歩ノ原因カ少クトモ英米側ノ抗議輿論ニ余議ナクセラルルモノナリト揣摩セルカ為メナリ五月一日支那側カ最後ノ回答ヲ発シタルニ対シ我カ輿論ノ激昂シ最後通牒ヲ発シテ断然タル処置ニ出ツヘシト伝ヘラレ閣議開催元老参与ノ重要会議開カレ形勢ノ漸ク緊張シ来ルノ報続々伝来セラルルヤ一般輿論界ハ頗ル苦悩憂虞ノ色アルニ拘ハラス飽迄静平ヲ装ヒ虚勢ヲ張リ強硬ノ論説記事ヲ掲クルコトニ努メタリ

四月二十七日ノ北京日報ハ「形式変更ノ大注意」ト題シ日人ノ懸トスル処トナリ滅亡ノ禍ニ陥ル勿レト標注シ

一時中止サレタル日支交渉ハ日本ノ譲歩修正ニヨリテ再開セラルル而カモ之ヲ日本ノ言論ニ徴スルモ形式変更ニ過キサルノミ仮令ハ土地所有ヲ永代借地トスル実質ニ何ノ差アル福建ノ不割譲ヲ支那自身ノ宣言トスルモ人ニ強ヒラレテ宣言ストセハ如何南支鉄道問題ニ関スル要求ヲ変更シタルハ日本カ英国ニ気兼スル自謀ノ計ノミ何ノ譲歩カアラン我国今日注意ヲ要スル第一点ハ其形式変更ノ点ニアリ断シテ日本滑稽外交ノ愚弄スル処トナル勿レ我国カ主権ノ喪失ヲ承認セサルヨリ決裂ニ至ルトスルモ其罪ハ日本ニ在ルナリ

四月二十八日―亜細亜日報外各紙ハ我カ修正案ノ内容及ヒ二十六日会議ノ席上本使カ声明シタル膠州湾還附ノ次第ヲ叙述シ同日ノ国民公報ノ如キハ「日本人ハ青島ヲ以テ我ヲ話ル（ツヲット）」抔ト題シ

日本ハ今回新タニ二十四ヶ條ノ修正案ヲ提出シ且ツ甘言シテ云フ某々條件ニテ青島ヲ還附スヘシ云々ト然レトモ思ヘ日本人ノ言信用スヘキヤ、想フニ我当局者ハ其欺弄スル所トナラサルヘシ日本ハ青島攻撃ノ初メ明カニ無條件還附ヲ宣言シタルニアラスヤ然ルニ今更條件附ニテ還附云々トハ実ニ謂レナキノ極ナリ

二十八日ノ民視報ハ「中日交渉ノ憤言」ト題シ

吾人ハ昨日ノ会議必ス満足ノ結果アルヲ期セリ計ラサリキ理想ハ事実ト違ヒ希望ノ愈々殿ナル者ハ失望亦愈々甚シ然ルニ修正ノ内容ハ必竟如何

夫レ此項ノ要求タル日本ハ如何ノ手段ヲ取ルニ拘ハラス我ノ承認スヘキハ之ヲ承認シ毫モ譎詐ナシ然ルニ日本ハ陽ニ名ヲ條件ノ修正ニ托シテ陰ニハ進歩ノ計ヲ為ス処方書ヲ換ヘテ薬ヲ換ヘサル修正案ハ三尺ノ童子モ之ヲ欺ク能ハス況ンヤ之ヲ以テ吾国ヲ欺カントスルヲヤ

先是四月二十六日ノ亜細亜日報ハ「大総統ノ外交宗旨」ナル一節ノ記述ヲ為シテ云ハク

昨某老ノ大総統ニ謁見シ談時局ニ及フヤ大総統曰ク凡ソ一国元首ハ当サニ其国ノ主権ト民生保護ヲ天職トス我ハ中国ノ元首タレハ必ス我ノ天職ヲ尽サン将来我ノ後ヲ継ク者モ亦此天職ヲ重トセハ何ソ国民ノ信仰ヲ得サラン惟タ国家ノ感情ト個人ノ感情トハ同シカラス国家ノ利害関係ハ国際感情ノ優劣ノ関スル処専ラ相手ノ政策ニヨツテ転移スル亦自然ノ勢ナリ外間日支ノ問題ニ対シ種々ノ揣測ヲ為スハ贅語ノミ

而シテ二十七日ノ同報ハ「大総統外交宗旨ノ談話ヲ読ンテ感アリ」ト題シ二十八日ノ京津時報モ亦タ「大総統外交宗旨ヲ読ムノ感」ト題シ其他連日ノ各紙モ各論評ヲ掲ケテ之ヲ賞揚賛成シテ其外交政策ニ期待シ且ツ日本カ第五号案ノ撤回ヲ希望セリ

危キ誠ニ大石正巳ノ言ノ如シ況ンヤ日本ハ短時日ヲ以テ我全国ヲ併合スル能ハサルヘク又我国ハ戦フモ亡ヒ戦ハサルモ亡フトセハ戦フハ尚ホ一縷ノ希望アリ此故ニ戦ヲ主張スルナリ

四月三十日ノ北京日報ハ再ヒ「支那ハ宜シク瓦存ノ想ヲ作スヘカラサルヲ論ス」ト題スル長篇ヲ掲ケ前日ノ主戦論旨ヲ繰返セリ

三十日ノ国華報ハ其記事欄ニ於テ修正案ト原案ノ比較ト題シ我原案ト修正案トヲ比較研究シタル後其論評欄ニ於テ「請フ日本公使ハ案シテ躁ク勿レ」ト題シ

日本提出ノ新議案ハ原案ニ比シ大変更ナキモ吾人ハ善意ヲ以テ之ヲ観測スレハ日本ハ和平解決ノ心アル一斑トモ見ルヲ得然レトモ日本ハ真ニ和平解決ノ決心アラハ吾国ノ主権列国ノ機会均等主義ニ対シ其和平ノ心理ヲ以テ其雅愛ヲ貫徹スヘキナリ去レハ我国方面モ充分従容商議ノ余地アラン我当局ハ不日其答案ヲ提出スヘシト聞ク日本公使乞フ其和平商議ヲ容セ

五月一日ノ各紙ハ本日午後支那側ノ我カ修正案ニ対スル答案ヲ提出スル旨ヲ伝ヘ又同日ノ民視報ハ「日本果シテ真実譲歩ノ意アル哉」ト題シ先ツ比較研究ヲ為シタル後日本ハ

二十九日ノ亜細亜日報ハ「日本ノ修正案ヲ論ス」ト題シ

此度ノ修正案ヲ見レハ吾人ハ日本当局カ幾分相手国ノ意思ヲ容レタルヲ諒トスルモ其好意ヲ徹底スル能ハサルヲ惜ム況ンヤ日本新聞ノ論スル如ク最後ノ処置ヲ云為スルカ如キハ吾人ヲシテ従容トシテ真意ヲ表示スルノ余地ナキニ陥ラシムルモノニテ絶対ニ承認シカタキモノナリ仮令ハ若シ修正案ニシテ期限ヲ付シテ我決答ヲ迎ルカ如キアラハ之レ日本政府ノ誠意ナキモノ最初大体討議ヲ迫リテ我ヲ恫嚇シタルト一般我カ国際的人格ヲ無視シタルモノナリ

又日本要求ニ就キ具体的ニ論セハ仮令ハ鉄道鉱山ノ如キハ十分和平商議ノ余地アルモ概括的請求乃チ政事軍事上ノ顧問軍器専売沿岸島嶼不割譲ノ如キハ国家ノ存亡問題ニ関ス直言スレハ支那ノ地位ヲ被保護国ニ降スモノ人類生存ノ本能国家保衛ノ正誼上絶対ニ応諾スル能ハサルモノナリ

二十九日ノ北京日報ハ「主戦」ト題シ

此度日本ハ要求ヲ提出シ武力ヲ用キテ解決セントセリ然レトモ日本第五号ノ要求ニ応セハ支那全国ヲ拱手シテ日本ニ送ルト一般ナリ支那今日戦ハハ必ス危キモ日本モ亦之ヲ以テ修正譲歩ト云ハハ吾人之ヲ譲歩ト認メント云ヒ更ラニ

日本ハ既ニ條件ヲ修正シテ譲歩ノ好意ヲ表示シタルハ吾人ノ甚タ感謝スル処ナリ竝ニ願フ日本カ更ラニ其真実譲歩ノ好意ヲ表示シ徒ラニ文字上形式上空言ノ譲歩ニ止マラシムル勿レ云々

ト云ヒ五月二日三日ノ天民報ハ「日本提出ノ修正案ノ隠情ト吾国答復後ノ日本態度ヲ論ス」ト題スル長篇ヲ掲ケ

四月十七日ノ第二十四回会議ニ於テ日置公使ハ本国政府訓令ナリト談判ヲ中止シ然カモ日本カ此積極進行中ニ於テ突如訓令トナリ修正トナレルモノ其レ必ス英国外務省ノ質問ト当国政府ノ駐日大使ヘ伝訓ノ結果ナラサルカ其已ムヲ得サルノ隠情アルヲ見ルヘシ況ンヤ日本人士中ニハ種々ノ議論アリ対支態度ヲ是認セサルモノアリ大隈伯ノ強ヒテ此修正緊迫ノ手段ニ出ツルハ我ヲ其術中ニ陥レ其臨時議会ニ於テ一番ノ増栄ヲ所得セントスルニ過キス日本ハ戦ヲ屠シテ我ニ迫ルノ理由モ必要モナキモノナリ云々

五月二日三日ノ亜細亜日報ハ「日本ノ亜洲「モンロー」主義」ト題シ領土保全ノ危機欧米列強ノ失勢ト標註シ我第五

号要求ノ各項及漢冶萍兵器廠、南支鉄道ニ要求ヲ指摘シ日本カ亜細亜ノ利権ヲ壟断スルモノナリト論シ

吾人ハ既ニ日支交渉ノ真象ヲ掲発セリ継起シテ攻察スルモノアラン此交渉ノ結果ハ究竟如何トスルモ日本カ絶好ノ機会ヲ捉ヘ支那ヲ併呑シテ欧米排斥政策ヲ試行セントスルモノナリ我ハ譲リ得ヘキハ已ニ譲リ尽セリ日本或ハ兵力ヲ以テ我ヲ強迫スルアルヘキモ第五号問題ノ如キハ到底吾人ノ俯首聴命スル能ハサルモノナリト

論結セリ三日ノ黄鐘日報ハ「通告ノ主張」ト題シ交渉内容ヲ中外ニ発表シテ日本ノ不当ヲ世界公論ニ問フヘシト云ヒ

五月一日二日三日ノ北京日報ハ「新要求案ノ研究」ト題シ日本ノ修正案ハ其形式ヲ改メタルモ精神ヲ変セサルモノナリト断シ東蒙、土地所有権領事裁判権ニ論及シ最後ニ顧問問題ニ言及シ頗ル悪劣ノ文句ヲ弄セリ曰ク

査スルニ総統府ノ各国顧問少ナカラス日本ノ有賀長雄亦其一旦其人ハ我総統ノ甚タ信用スル所ナリ此度ノ顧問ノ要求タル個人ノ俸給ニ過キスシテ其益限アリ日本ハ貧ナリト雖モ此些微ノ俸給ノ故ニ全国ノ力ヲ以テ之ヲ争ヒ最後通牒ヲ発スルモノニアラストスレハ其用意ハ路人之ヲ知ル顧問ヲ以テ我ヲ朝鮮ニセントスルモノ死ニ抵ルモ処スル自ラ怯ル勿レ自ラ擾ル勿レ始終不亡国ノ思ヲ抱キ済国ノ霊ヲ護ルヘシ云々

七日ノ各紙ハ本日午後三時ヲ以テ最後通牒ノ交付サルヘキヲ伝ヘ又北京日報ハ其緊要記事欄ニ曹外交次長カ六日追加承認シタル消息ヲ記シテ

㈠　南昌潮州鉄道ハ英国ノ承認ヲ得ハ日本ヨリ借款築造スヘキコト

㈡　東蒙古ノ耕作営業工芸製作事業ヲ日本人ニ許可スルコト

㈢　支那内地ニ日本人病院学校建築ノ件

㈣　満洲土地裁判ハ日本法庭ニ帰スルコト

交渉ノ遷延逼迫ニ連レ排日気勢ハ全般ニ瀰漫セルヲ見ル北京ノ中央ニ於テ行路ノ邦人ニ対シ指笑嘲辱的ノ態度ヲ示スモノ屢々日本ノ商店ニ入リ故ラニ其日本商店ヲ確メタル後態トラシク立去ルモノ甚タシキハ小学ノ幼童カ日本人居住ノ壁上ニ「不用日貨」抔ノ落書ヲ為スモノアリト聞ク一班ヲ推知スヘシ

右及報告候也

承認シカタシ要スルニ日本此次ノ要求タル仮令ハ一富戸アリ隣居ノ要事アリ救援ニ由ナキニ乗シ強盗ノ公々然トシテ財物ヲ掠奪スルカ如シ云々

五月六日ノ各紙ハ或ハ「日支国交断絶ノ危機」或ハ「敬告国民」抔ト題シ我内閣会議ノ情況ヲ伝ヘ

我国民今日ノ急務ハ一ハ人力財力ヲ準備シテ政府ノ後援トナリ一ハ鎮静以テ治安ヲ保持シ挙国一致ノ精神ヲ示スヘシ

五月六日七日ノ平報（陸軍部機関紙）ハ「日支交渉ノ憤言」ト題シ

修正案ハ閣議セラレ吾国ハ五月一日其答案ヲ交附セリト内容ハ知ルヘカラサルモ或者ハ頻リニ外交当局ノ軟弱ヲ云フ吾人ハ敢テ偏激ノ議論ヲ為スモノニ非ルモ日本方面ニテハ尚不満意ナリトシ最後通牒ヲ発スヘシト所謂交誼ノ維持ト和平保全ハ何クニカアル其要請スルモノ一ニ之ヲ拱手簽字ストセハ国体国権何クニカアル寧ロ其保護国タルニ如カス

吾ハ更ラニ国人ニ告ク日本ノ最後通牒ハ必ス決裂ヲ欲スルニ非レハ示威ノ挙動ノミ戦ハスシテ人ヲ屈スルノ計ノミ拱手シテ命ヲ奉セハ之レ我レ自ラ亡フノミ国民今日ニ

四二五　五月十一日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

條約及公文案ニ関スル注意事項指示ノ件

第三三三号

往電第三二七号ニ関シ

條約及公文案別電第三三四号乃至第三四一号ノ通リ電報ス右ニ付注意事項左ノ通リ

㈠　條約ハ山東省ニ関スル分、満蒙ニ関スル分ノ二ニシテ漢冶萍ニ関スル分ハ取極案及交換文書案ノ両様ニ作成シ置キタルモ成ルヘク取極ノ方ニ致度シ外ニ福建ニ関スル交換文書案及不割譲ニ関スル宣言案アリ右宣言案ハ単ニ趣意ノミヲ記シタルモノナルニ付其趣意ヲ含メル適宜ノ宣言ヲナサシムル コトトシテ可ナリ又附属公文ハ山東省ニ関スル分往復共四通満蒙ニ関スル分往復共十四通ナリ

㈡　満蒙ニ関スル條約第二條ノ如ク両案以上アルモノハ何レモ夫々別個ノ案文ヲ作成電報シタルニ付何レニスルモ差支ナシ但福建ニ関スル交換文書ハ五月一日ノ支那政府案ノ方ハ面白カラザルニ付支那側ニ強テ異存ナケレバ成ルベクハ四月二十六日提出ノ我最終修正案通リト致度シ

(三)　山東省ニ関スル條約附屬公文第二号ノ一及二開放都市及開埠章程ニ関スル件ハ都合ニヨリ逆トナシ先ツ日本国公使ヨリ外交総長ニ照会シ之ニ対シ外交総長ヨリ日本国公使ニ回答スル形トスルモ差支ナシ

(四)　満蒙ニ関スル條約第四條警察法令及課税ニ我領事官ノ承認ヲ要スル件ハ貴電第二七〇号ノ通リ支那側ニ於テ我説明書七項ヲ全部発表シタル今日密約ノ必要ナキコトト思ハルル故條約文中ニ加ヘ置キタルモ右ハ支那側ノ希望次第ニテ密約トスルモ差支ナシ右密約トスル場合ニハ満蒙ニ関スル條約附屬公文第七号ノ通リト致タシ

(五)　満蒙ニ関スル條約第四條旅券ノ件登録ノ件ハ勿論警察法令竝租税及共同裁判制度ノコトハ未開放地ノミニ関スルモノナルハ申迄モナシ（往電第二一一号末段参照）此点ニツキ念ノ為メ書面ニテ確カメ置クコトヲ得バ好都合ナルニ付右書面交換方先方ト然ルベク協議アリタシ又護照註冊ノ件ニ関シ第二十回会議ノ際陸総長言明ノ次第ヲ成ルベク会議録体ニ認メ貴官竝陸ニ於テ記名スルカ又ハ最終議定書様ノモノニ記入シ置クコトト致度コトモ往電第二三一号(二)ニテ御承知ノ通ナリ

第三條　支那国政府ハ成ルヘク速ニ外国人ノ居住貿易ノ為自ラ進ミテ山東省ニ於ケル適当ナル諸都市ヲ開放スヘキコトヲ約ス

第四條　本條約ハ調印ノ日ヨリ効力ヲ生ス

本條約ハ批准ヲ要ス其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ

ニ於テ交換スヘシ

右證拠トシテ両国全権委員ハ日本文及支那文ヲ以テ作成セラレタル各二通ノ本條約ニ署名調印ス

大正四年　月　日即中華民国四年　月　日北京ニ於テ之ヲ作ル

四二七　五月十一日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

山東省ニ関スル條約ノ各附屬公文案

別電第三三五号

山東省ニ関スル條約附屬公文第一号ノ一

以書翰致啓上候陳者本総長ハ支那国政府ノ名ニ於テ玆ニ左ノ如ク貴国政府ニ対シ声明スルノ光栄ヲ有シ候

支那国政府ハ山東省内若ハ其ノ沿海一帯ノ地又ハ島嶼ヲ何

四二六　五月十一日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

山東省ニ関スル條約案

別電第三三四号

山東省ニ関スル條約

日本国皇帝陛下及支那共和国大統領閣下ハ極東ニ於ケル全局ノ平和ヲ維持シ且両国ノ間ニ存スル友好善隣ノ関係ヲ益鞏固ナラシメムコトヲ欲シ右ノ目的ヲ以テ條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ為ニ日本国皇帝陛下ハ　ヲ支那共和国大統領閣下ハ　ヲ各其ノ全権委員ニ任命セリ因テ各全権委員ハ互ニ其ノ全権委任状ヲ示シ之カ良好妥当ナルヲ認メ以テ左ノ條項ヲ協議決定セリ

第一條　支那国政府ハ独逸国カ山東省ニ関シ條約其ノ他ニ依リ支那国ニ対シテ有スル一切ノ権利利益譲与等ノ処分ニ付日本国政府カ独逸国政府ト協定スヘキ一切ノ事項ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第二條　支那国政府自ラ芝罘又ハ龍口ヨリ膠済鉄道ニ接続スル鉄道ヲ敷設セムトスル場合ニ於テ独逸国カ已ニ烟濰鉄道借款権ヲ有セサルトキハ支那国政府ハ日本国資本家ニ対シ借款ヲ商議スヘキコトヲ約ス

等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス他国ニ租与又ハ譲与スルコトナカルヘシ

右照会得貴意候　敬具

年　月　日

外交総長

日本国公使殿

山東省ニ関スル條約附屬公文第一号ノ二

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ支那国政府ハ山東省内若ハ其ノ沿海一帯ノ地又ハ島嶼ヲ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス他国ニ租与又ハ譲与スルコトナカルヘキ旨貴国政府ノ名ニ於テ帝国政府ニ対シ声明相成致領承候

右回答得貴意候　敬具

年　月　日

日本国公使

外交総長宛

山東省ニ関スル條約附屬公文第二号ノ一

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ山東省ニ関スル條約第三條ニ規定セル開放スヘキ諸都市及開埠章程ハ支那国政府ヨリ豫メ日本国公使ニ協議ノ上決定可致候

右照会得貴意候　敬具

年　月　日

外交総長

日本国公使宛

山東省ニ関スル条約附属公文第二号ノ二

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ山東省ニ関スル条約第三条ニ規定セル開放スヘキ諸都市及開埠章程ハ支那国政府ヨリ豫メ日本国公使ニ協議ノ上決定可致旨御照会相成致領承候

右回答得貴意候　敬具

年　月　日

日本国公使

外交総長宛

四二八　五月十一日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

南満洲及東部内蒙古ニ関スル条約案

別電第三三六号

満洲及蒙古ニ関スル条約

日本国皇帝陛下及支那共和国大統領閣下ハ南満洲及東部内蒙古ニ於ケル両国間ノ経済関係ヲ発展セシメムコトヲ欲シ

右ノ目的ヲ以テ条約ヲ締結スルコトニ決シ之カ為ニ日本国皇帝陛下ハ　ヲ支那共和国大統領閣下ハ

ヲ各其ノ全権委員ニ任命セリ因テ各全権委員ハ互ニ其ノ全権委任状ヲ示シ之カ良好妥当ナルヲ認メ以テ左ノ条項ヲ協議決定セリ

第一條　両締約国ハ遼東半島ノ租借期限竝南満洲鉄道及安奉鉄道ニ関スル期限ヲ何レモ九十九箇年ニ延長スヘキコトヲ約ス

（甲　案）

第二條　日本国臣民ハ南満洲ニ於テ各種商工業上ノ建物ヲ建設スル為又ハ農業ヲ経営スル為必要ナル土地ヲ賃借又ハ購買スルコトヲ得

（乙　案）

第二條　日本国臣民ハ南満洲ニ於テ各種商工業上ノ建物ヲ建設スル為又ハ農業ヲ経営スル為必要ナル土地ヲ永租又ハ暫租スルコトヲ得

（丙　案）

第二條　日本国臣民ハ南満洲ニ於テ各種商工業上ノ建物ヲ建設スル為又ハ農業ヲ経営スル為必要ナル土地ヲ商租スルコトヲ得

第三條　日本国臣民ハ南満洲ニ於テ自由ニ居住往来シ各種ノ商工業其ノ他ノ業務ニ従事スルコトヲ得

第四條　前二條ノ場合ニ於テ日本国臣民ハ例規ニ依リ下附セラレタル旅券ヲ地方官ニ提出シ登録ヲ受ケ又日本国領事官ノ承認ヲ経タル警察法令及同ク其ノ承認ヲ経タル課税ニ服スヘシ

民刑訴訟ハ日本国臣民被告タル場合ニハ日本国領事官ニ於テ又支那国国民被告タル場合ニハ支那国官吏ニ於テ之ヲ審判シ互ニ員ヲ派シ臨席傍聴セシムルコトヲ得但シ土地ニ関スル日本国臣民及支那国国民間ノ民事訴訟ハ支那国ノ法律及地方慣習ニ依リ日本国領事官及支那国官吏ニ於テ共同審判スヘシ

将来同地方ノ司法制度完全ニ改良セラルルトキハ日本国臣民ニ関スル一切ノ民刑訴訟ハ完全ニ支那国法廷ノ審判ニ帰スヘシ

第五條　支那国政府ハ成ルヘク速ニ外国人ノ居住貿易ノ為自ラ進ミテ東部内蒙古ニ於ケル適当ナル諸都市ヲ開放スヘキコトヲ約ス

第六條　日本国臣民ハ東部内蒙古ニ於テ支那国国民ト合弁ニ依リ農業及附随工業ノ経営ヲ為スコトヲ得

第七條　支那国政府ハ従来支那国政府ト各外国資本家トノ間ニ締結シタル鉄道借款契約規定中資本家ニ取リ最モ有利ナル條項ヲ標準ト為シ速ニ吉長鉄道ニ関スル諸協約竝契約ノ根本的改訂ヲ行フヘキコトヲ約ス

将来支那国政府ニ於テ鉄道借款事項ニ関シ外国資本家ニ対シ現在ノ各鉄道借款契約ニ比シ有利ナル條件ヲ附与シタルトキハ日本国ノ希望ニヨリ更ニ前記吉長鉄道借款契約ノ改訂ヲ行フヘシ

第八條　東三省ニ関スル日支現行條約ハ本條約ニ別ニ規定スルモノヲ除クノ外一切従前ノ通リ実行スヘシ

第九條　本條約ハ調印ノ日ヨリ効力ヲ生ス

本條約ハ批准ヲ要ス其批准書ハ成ルヘク速ニ　ニ於テ交換スヘシ

右證拠トシテ両国全権委員ハ日本文及支那文ヲ以テ作成セラレタル各二通ノ本條約ニ署名調印ス

大正四年　月　日即中華民国四年　月　日北京ニ於テ之ヲ作ル

四二九　五月十二日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

南満洲及東部内蒙古ニ関スル條約ノ各附屬公文案

別電第三三七号

満洲及蒙古ニ関スル條約附屬公文第一号ノ一

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ満洲及蒙古ニ関スル條約第一條ニ規定セル遼東半島租借期限ノ延長ハ民国八十六年即西暦千九百九十七年ニ至リ満期トナリ南満洲鉄道還附期限ハ民国九十一年即西暦二千二年ニ至リ満期ト可相成尚其ノ原條約第十二條ニ記載セル運転開始ノ日ヨリ三十六年ノ後支那国政府ニ於テ買戻スヲ得ルノ一節ハ援用スルコトナカルヘク又安奉鉄道ノ期限ハ民国九十六年即西暦二千七年ニ至リ満期ト可相成候

右照会得貴意候　敬具

年　月　日

外交総長

日本国公使宛

満洲及蒙古ニ関スル條約附屬公文第二号ノ二

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ満洲及蒙古ニ関スル條約第五條ニ規定セル開放スヘキ諸都市及開埠章程ハ支那国政府ヨリ豫メ日本国公使ニ協議ノ上決定可致旨御照会相成致領承候

右回答得貴意候　敬具

年　月　日

日本国公使

外交総長宛

満洲及蒙古ニ関スル條約附屬公文第三号ノ一

以書翰致啓上候陳者日本国臣民ニ於テ南満洲ニ於ケル左記各鉱山（既ニ試掘又ハ採掘セラレタル各鉱区ヲ除ク）ヲ速ニ調査ノ上選定シタル節ハ支那国政府ハ其ノ試掘又ハ採掘ヲ允許可致但シ鉱業條例確定ニ至ル迄ハ現行弁法ニ準拠スヘキモノニ有之候

右照会得貴意候　敬具

年　月　日

外交総長

日本国公使宛

古ニ関スル條約第一條ニ規定セル遼東半島租借期限ノ延長ハ民国八十六年即西暦千九百九十七年ニ至リ満期トナリ南満洲鉄道還附期限ハ民国九十一年即西暦二千二年ニ至リ満期ト可相成尚其ノ原條約第十二條ニ記載セル運転開始ノ日ヨリ三十六年ノ後支那国政府ニ於テ買戻スヲ得ルノ一節ハ援用スルコトナカルヘク又安奉鉄道ノ期限ハ民国九十六年即西暦二千七年ニ至リ満期ト可相成旨御照会ノ趣致領承候

右回答得貴意候　敬具

年　月　日

日本国公使

外交総長宛

満洲及蒙古ニ関スル條約附屬公文第二号ノ一

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ満洲及蒙古ニ関スル條約第五條ニ規定セル開放スヘキ諸都市及開埠章程ハ支那国政府ヨリ豫メ日本国公使ニ協議ノ上決定可致候

右照会得貴意候　敬具

年　月　日

外交総長

日本国公使宛

（左　記）（註）

（以下対支政策ニ関スル大正三年十二月三日附機密号外訓令附屬第二号附屬書（諸鉱山ヲ列挙セルモノ）中奉天省及吉林省ノ南部ナル題下ニ掲ケアル諸鉱山ヲ列記スルコト但シ所在地名及県名丈ヲ掲クルニ止メ鉱種ナル見出ノ下ニ記載シアル石炭鉄等ノ種類別ハ一切之ヲ記載セサルコト）

註　「左記」省略ス日本外交文書大正三年第三冊五六八文書附属書二ノ「第二号甲案乙案附属書」参看

満洲及蒙古ニ関スル條約附屬公文第三号ノ二

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ日本国臣民ニ於テ南満洲ニ於ケル左記各鉱山（既ニ試掘又ハ採掘セラレタル各鉱区ヲ除ク）ヲ速ニ調査ノ上選定シタル節ハ支那国政府ハ其ノ試掘又ハ採掘ヲ允許可致但シ鉱業條例確定ニ至ル迄ハ現行弁法ニ準拠スヘキモノナル旨御照会ノ趣致領承候

右回答得貴意候　敬具

年　月　日

日本国公使

外交総長宛

左記

一　奉天省

所在地	県名
牛心台	本溪
田什付溝	本溪
杉松崗	海龍
鉄厰	通化
腰池塘	錦
鞍山站一帯	遼陽県ヨリ本溪県ニ亘ル

二　吉林省南部

所在地	県名
杉松崗	和龍
紅審	吉林
夾皮溝	樺甸

満洲及蒙古ニ関スル條約附屬公文第四号ノ一

以書翰致啓上候陳者本総長ハ支那国政府ノ名ニ於テ玆ニ左ノ如ク貴国政府ニ対シ声明スルノ光栄ヲ有シ候

支那国政府ハ将来南満洲及東部蒙古ニ於テ鉄道ヲ敷設スル場合ニハ自国ノ資金ヲ以テスヘク若シ外資ヲ要スルトキハ先ツ日本国資本家ニ借款ヲ商議スヘシ又支那国政府ハ前記地方ノ各種税課（但シ既ニ支那中央政府借款ノ担保トナレル塩税関税等ノ類ヲ除ク）ヲ担保トシテ外国ヨリ借款ヲ起サントスルトキハ先ツ日本国資本家ニ商議可致旨貴国政府ノ名ニ於テ帝国政府ニ対シ声明相成致領承候

右回答得貴意候　敬具

年　月　日

日本国公使

外交総長宛

地方ノ各種税課（但シ既ニ支那中央政府借款ノ担保トナレル塩税関税等ノ類ヲ除ク）ヲ担保トシテ外国ヨリ借款ヲ起サムトスルトキハ先ツ日本国資本家ニ商議スヘシ

右照会得貴意候　敬具

年　月　日

外交総長

日本国公使宛

満洲及蒙古ニ関スル條約附屬公文第四号ノ二

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ支那国政府ハ将来南満洲及東部内蒙古ニ於テ鉄道ヲ敷設スル場合ニハ自国ノ資金ヲ以テスヘク若シ外資ヲ要スルトキハ先ツ日本国資本家ニ商議可致又支那国政府ハ前記地方ノ各種税課（但シ既ニ支那中央政府借款ノ担保トナレル塩税関税等ノ類ヲ除ク）ヲ担保トシテ外国ヨリ借款ヲ起サントスルトキハ先ツ日本国資本家ニ商議可致旨貴国政府ノ名ニ於テ帝国政府ニ対シ声明相成致領承候

右回答得貴意候　敬具

年　月　日

日本国公使

外交総長宛

満洲及蒙古ニ関スル條約附屬公文第五号ノ一

以書翰致啓上候陳者本総長ハ支那国政府ノ名ニ於テ玆ニ左ノ如ク貴国政府ニ対シ声明スルノ光栄ヲ有シ候

支那国政府ハ将来南満洲ニ於テ政治財政軍事警察等ニ関スル外国顧問教官ヲ傭聘セムトスルトキハ最先ニ日本人ヲ傭聘スヘシ

右照会得貴意候　敬具

年　月　日

外交総長

日本国公使宛

満洲及蒙古ニ関スル條約附屬公文第五号ノ二

以書翰致啓上候陳者本日付貴翰ヲ以テ支那国政府ハ将来南満洲ニ於テ政治財政軍事警察等ニ関スル外国顧問教官ヲ傭聘セムトスルトキハ最先ニ日本人ヲ傭聘スヘキ旨貴国政府ノ名ニ於テ帝国政府ニ対シ声明相成致領承候

右回答得貴意候　敬具

年　月　日

日本国公使

外交総長宛

満洲及蒙古ニ関スル條約附屬公文第六号ノ一

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ満洲及蒙古ニ関スル條約第二條ニ記載セル商租ノ文字ニハ三十ヶ年以上ノ永キ期限附ニテ且無條件ニテ更新シ得ヘキ租借ヲ含ムモノト了解相成候旨御照会ノ趣致領承候

右回答得貴意候　敬具

年　月　日

外交総長

日本国公使宛

満洲及蒙古ニ関スル條約附屬公文第七号ノ一

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ満洲及蒙古ニ関スル條約第四條ノ規定ニ依リ日本国臣民ノ服従スヘキ警察法令及課税ハ豫メ支那国官憲ニ於テ日本国領事官ニ承認ヲ求ムヘク従

テ右承認ヲ得サル場合ニ於テハ日本国臣民ニ対シ何等効力ヲ有セサル儀ニ有之候
右照会得貴意候　敬具

年　月　日

日本国公使

外交総長宛

満洲及蒙古ニ関スル條約附屬公文第七号ノ二

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ満洲及蒙古ニ関スル條約第四條ノ規定ニ依リ日本国臣民ノ服従スヘキ警察法令及課税ハ豫メ支那国官憲ニ於テ日本国領事官ニ承認ヲ求ムヘク従テ右承認ヲ得サル場合ニ於テハ日本国臣民ニ対シ何等効力ヲ有セサル儀ニ有之候旨御照会ノ趣致領承候
右回答得貴意候　敬具

年　月　日

外交総長

日本国公使宛

同意ナクシテ同公司ヲ国有ト為スコトナカルヘク又日本国以外ヨリ外資ヲ同公司ニ入レシムルコトナカルヘキ旨御照会ノ趣致領承候
右回答得貴意候　敬具

年　月　日

日本国公使

外交総長宛

漢冶萍公司ニ関スル取極

日本国政府及支那国政府ハ日本国ト漢冶萍公司トノ関係極メテ密接ナルニ鑑ミ左ノ取極ヲ為セリ

支那国政府ハ将来漢冶萍公司ト日本国資本家トノ間ニ合弁ノ議成リタルトキハ之ヲ承認スヘク又支那国政府ハ同公司ヲ没収スルコトナカルヘク又日本国資本家ノ同意ナクシテ同公司ヲ国有ト為スコトナカルヘク又日本国以外ヨリ外資ヲ同公司ニ入レシムルコトナカルヘシ

右証拠トシテ下名支那国駐劄特命全権公使日置益及支那国外交総長陸徴祥ハ各其ノ政府ヨリ正当ノ委任ヲ受ケ之ニ記名調印ス

大正四年　月　日即中華民国四年　月　日北京

四三〇　五月十二日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

漢冶萍公司ニ関スル公文及取極案

別電第三三八号

（外交総長来翰案）

以書翰致啓上候陳者支那国政府ハ日本国ト漢冶萍公司トノ関係極メテ密接ナルニ鑑ミ将来同公司ト日本国資本家トノ間ニ合辦ノ議成リタルトキハ之ヲ承認スヘク又同公司ヲ没収スルコトナカルヘク又日本国資本家ノ同意ナクシテ同公司ヲ国有ト為スコトナカルヘク又日本国以外ヨリ外資ヲ同公司ニ入レシムルコトナカルヘク候
右照会得貴意候　敬具

年　月　日

外交総長

日本国公使宛

（日本国公使復翰案）

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ支那国政府ハ日本国ト漢冶萍公司トノ関係極メテ密接ナルニ鑑ミ将来同公司ト日本国資本家トノ間ニ合弁ノ議成リタルトキハ之ヲ承認スヘク又同公司ヲ没収スルコトナカルヘク又日本国資本家ノ

ニ於テ之ヲ作ル

日置益

陸徴祥

四三一　五月十二日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

沿岸不割譲ニ関スル中国政府宣言案

別電第三三九号

（支那政府宣言案）

支那国政府ハ支那国沿岸ノ港湾及島嶼ヲ他国ニ租与又ハ譲与スルコトナカルヘシ

四三二　五月十二日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

福建問題ニ関スル公文案

別電第三四〇号

甲案

（外交総長来翰案）

以書翰致啓上候陳者本総長ハ支那国政府ノ名ニ於テ玆ニ左ノ如ク貴国政府ニ対シ声明スルノ光栄ヲ有シ候

支那国政府ハ福建省沿岸地方ニ於テ何レノ国タルヲ問ハス造船所、軍用貯炭所又ハ海軍根拠地ヲ設ケ若ハ其ノ他一切ノ軍事上ノ施設ヲナスコトヲ許ササルヘク且外国ノ資本ニ依リ該省沿岸ニ自ラ同様ノ施設ヲ為スコトナカルヘシ

右照会得貴意候　敬具

年　月　日

外交総長

日本国公使宛

（日本国公使復翰案）

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ支那国政府ハ福建省沿岸地方ニ於テ何レノ国タルヲ問ハス造船所、軍用貯炭所又ハ海軍根拠地ヲ設ケ若ハ其ノ他一切ノ軍事上ノ施設ヲナスコトヲ許ササルヘク且外国ノ資本ニ依リ該省沿岸ニ自ラ同様ノ施設ヲ為スコトナカルヘキ旨貴国政府ノ名ニ於テ帝国政府ニ対シ声明相成致領承候

右回答得貴意候　敬具

年　月　日

日本国公使

外交総長宛

四三三　五月十二日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

膠州湾還附ニ関スル公文案

別電第三四一号

（日本国公使往翰案）

以書翰致啓上候陳者本使ハ帝国政府ノ名ニ於テ玆ニ左ノ如ク貴国政府ニ対シ声明スルノ光栄ヲ有シ候

日本国政府ハ現下ノ戦役終結後膠州湾租借地ニシテ全然日本国ノ自由処分ニ委セラルル場合ニ於テハ左記條件ノ下ニ該租借地ヲ支那国ニ還附スヘシ

一　膠州湾全部ヲ商港トシテ開放スルコト

二　日本国政府ニ於テ指定スル地区ニ日本専管居留地ヲ設置スルコト

三　列国ニシテ希望スルニ於テハ別ニ共同居留地ヲ設置スルコト

四　右ノ外独逸ノ営造物及財産ノ処分竝其ノ他ノ條件手続等ニ付キテハ還附実行ニ先チ日本国政府ト支那国政府トノ間ニ協定ヲ遂クヘキコト

右照会得貴意候　敬具

年　月　日

日本国公使

外交総長宛

乙　案

（日本国公使往翰案）

以書翰致啓上候陳者聞ク所ニヨレハ支那国政府ハ福建省沿岸地方ニ於テ外国ニ造船所軍用貯炭所海軍根拠地其ノ他一切ノ軍事上ノ施設ヲ為スコトヲ許シ又支那自ラ外資ヲ借入レ前記各施設ヲ行ハムトスルカ如キ意志アル趣ナルカ支那国政府ニ於テハ果シテ斯カル意志ヲ有セラルルヤ否ヤ御回答ヲ得度此段照会得貴意候　敬具

年　月　日

日本国公使

外交総長宛

（外交総長復翰案）

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ御申越ノ趣致領承候支那国政府ハ福建省沿岸地方ニ於テ外国ニ造船所軍用貯炭所海軍根拠地其ノ他一切ノ軍事上ノ施設ヲ為スヲ許スカ如キコト決シテ無之又外資ヲ借入レ前記施設ヲ為サムト欲スルカ如キ意志ナキコトヲ玆ニ声明致候

右回答得貴意候　敬具

年　月　日

外交総長

日本国公使宛

（外交総長復翰案）

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ日本国政府ハ現下ノ戦役終結後膠州湾租借地ニシテ全然日本国ノ自由処分ニ委セラルル場合ニ於テハ左記條件ノ下ニ該租借地ヲ支那国ニ還附スヘキ旨貴国政府ノ名ニ於テ支那国政府ニ対シ声明相成致領承候

一　膠州湾全部ヲ商港トシテ開放スルコト

二　日本国政府ニ於テ指定スル地区ニ日本専管居留地ヲ設置スルコト

三　列国ニシテ希望スルニ於テハ別ニ共同居留地ヲ設置スルコト

四　右ノ外独逸ノ営造物及財産ノ処分竝其ノ他ノ條件手続等ニ付キテハ還附実行ニ先チ日本国政府ト支那国政府トノ間ニ協定ヲ遂クヘキコト

右回答得貴意候　敬具

年　月　日

外交総長

日本国公使宛

四三四　五月十二日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

沿岸不割譲宣言発表ノ時期及批准交換ノ場所ニ付打合方ノ件

第三四六号

支那沿岸不割譲ニ関スル支那政府宣言ハ成ルヘク他ノ條約公文公表ト同日ニ支那政府ヨリ発表スルコトト相成様打合置カレ度シ又批准交換ハ東京ニ於テスルモ或ハ北京ニ於テスルモ当方ニ於テハ差支ナキモ制度法式等ノ関係上或ハ支那側ノ方簡単ニ運ビ日本側ノ方手間取ルコトトナルベキカトモ思考セラルルニ付先ヅ支那側ノ批准済ミタル上ニテ東京ニテ批准交換ヲ行フコトトスル方実際上便宜ナリト存セラルル処右ニ対シ支那側ニ於テ異存ノ有無将又往電第三三三号注意事項ノ㈤ニ「共同裁判制度」トアルハ満蒙ニ関スル條約第四條ノ第二項全部即チ「民刑訴訟ハ」ヨリ「共同審判スヘシ」迄ヲ指シテ云ヘルモノナリ為念

四三五　五月十二日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛

総統府ニ於ケル最後通牒回答案討議ノ模様ニ関スル李盛鐸ノ船津書記官ニ対スル談話報告ノ件

公信第一三一号（機密）　（五月十九日接受）

大正四年五月十二日

総統府ニ於ケル日本最後通牒回答案討議ノ模様ニ関スル件

五月七日支那政府ニ於テ我最後通牒ニ接スルヤ其翌八日袁総統ハ徐国務卿ヲ始メトシ楊、銭ノ左右丞竝ニ各部総長及ヒ黎副総統熊希齢（熊ハ湖南ヘ帰省ノ積リニテ数日前北京出発天津ニ滞在中七日夜電話ニテ帰京ヲ命セラレタル由）趙爾巽、李盛鐸、梁士詒、楊度、厳復、聯芳、施愚ノ八参政ヲ召集シ総統府ニ於テ特別会議ヲ開キ日本ヘノ回答方針ヲ討議シタルコトハ既ニ往電第二六三号ヲ以テ及報告候処其後当日ノ模様ニ関シ李盛鐸ガ船津書記官ニ語ル所ニ拠レバ同日午後一時各員参集先ヅ外交部ヨリ提出セル日支間最後ノ修正案及日本最後通牒等ヲ充分通読研究シタル後午後二時開会曽外交次長ヨリ交渉事件成行ノ大略ヲ述ベ同時ニ各條ニ関スル説明アリ時間ノ大部分ハ之ニテ費ヤサレ二三ノ参政ヨリ質問且ツ意見ノ発表アリテ午後四時終了シタル由其際陸外交総長ヨリ日本最後ノ要求ヲ承諾シテ速カニ局ヲ結ブ様英仏公使ヨリ懇切ナル勧告アリ同時ニ露国公使ヨリモ同様ノ勧告アリタル旨報告アリ又日本最後通牒中種々支那政府ノ不誠実不都合ナルヲ攻撃シアリシヲ以テ最初ノ回答案文ハ之ニ対シ一々弁解駁撃ヲ加ヘタル長文ニテ右ハ全ク袁総統ノ旨ヲ受ケテ起草セラレタルモノナリシガ袁総統ハ可成原案ノ趣旨ヲ主張セシモ陸総長ヨリ既ニ日本ノ要求ヲ容ルルコトニ決シタル以上文章字句ノ為日本ノ反対ヲ受ケ将ニ終結セントスル局面ヲシテ再ヒ険悪ニ陥ラシムルハ何等利益ナキノミナラズ英米等友邦使臣ノ好意ニ背クモノナレバ此際可成簡単明瞭トシ無用ノ文字ハ一切省略スル方宜シカラントノ熱心ナル主張アリ各参政各部総長ノ多数ハ何レモ之ニ賛成シ遂ニ今回送付シタル如キ回答文トナリタル由又両三日来時局切迫セシ為メ日本人方面ニ動揺ヲ来シタルノミナラズ同時ニ支那人間ニモ人心恐慌ノ兆アルヲ以テ大局既ニ右ノ如ク決定シタル以上ハ一刻モ早ク交渉ノ成行ヲ宣布シ人民ヲシテ安堵セシムベシト農商総長周自斉ノ注意アリ内務総長朱啓鈐、税務処督辦梁士詒何レモ之ニ賛成シ夫々其手続ヲ取ルコトニ決定シ最後ニ楊度ハ極メテ沈痛ナル態度ヲ以テ大要左ノ如ク述ベタル由

今回ノ交渉ニ関シ極力隠忍以テ円満ノ解決ヲ求メタルハ事情已ムヲ得ザル次第ナルモ我当局者ハ今後益精神ヲ発揮シ国恥ヲ忘ルルナク人物ノ登庸、行政ノ運用総テ従前ノ積弊ヲ一掃シ励精努力以テ国政ノ挽回ヲ図ルベシ云々新聞紙上ニハ段陸軍総長等盛ンニ激烈ナル議論ヲナシ黎副総統モ亦何カ意見ヲ発表シタル如ク報道シ居ルモ右ハ全然事実無根ニテ黎段両氏共当日何等ノ議論ヲ吐露セザリシ由ニ有之又李ノ推測スル所ニ拠レハ袁総統ガ前述ノ如ク日本ノ最後通牒ニ対シ弁駁的辞句挿入方ヲ主張セシハ或ハ幾分ナリトモ自己ノ体面ヲ繕ハントノ趣意ニ出デタルモノナラントノコトニ有之候

尚ホ去ル九日小田切ガ楊士琦ト会見シタル節楊ノ直話ニヨレバ右八日総統府会議ニ於テ強硬ニ日本今回ノ行動ヲ非難シ将来ノ施政ニ最モ熱烈ナル警告ヲ加ヘタルハ熊希齢、聯芳ノ二人ナル由ニ有之候右御参考迄及報告候也

追テ以上ハ極メテ内密ノ談話ニ有之自然外間ニ洩候様ノ事アリテハ楊李両人ニ於テ迷惑スヘシト存候間右様御含置相成度此段申添候也

四三六　五月十二日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛

最後通牒ト北京新聞論調其他ノ状況報告ノ件

公信第八六号

大正四年五月十二日　（五月二十二日接受）

対支要求ト北京新聞論調其他ノ状況報告ノ件

（五月八日即チ最後通牒交付ノ翌日ヨリ十一日迄）

五月七日ヲ以テ我カ最後通牒ノ交付セラルルヤ翌八日ノ北京日報ハ先ツ其全文ヲ訳載シ又民視報国民公報ハ最後通牒ノ内容ト我カ再修正説明書ノ内容ヲ掲出シ兎モ角今回ノ最後通牒案ナルモノハ修正案ニ対シ更ラニ譲歩ヲ示シタルモノナレバ交渉ノ前途和平解決ノ望アリト述ヘ大ニ安堵ノ色ヲ示セルモ而カモ各紙ノ論調ハ激烈ナリ九日以後ノ各紙ハ我カ最後通牒ト附属説明書ニ最終修正案トモ併セテ掲載シ問題解決ノ程度ヲ表示シ居レリ而モ支那人固有ノ口吻権利ノ喪失外交ノ失敗国恥紀念ヲ絶叫シテ盛ニ慷慨ノ態度ヲ示セリ殊ニ東京電報ノ日本民衆ハ外交ノ成功ヲ歓喜シ提灯行列ヲ催スベシトノ記事ハ各紙ニ掲載セラレ一段ノ敵慨心ヲ挑発シタルモノノ如シ五月八日ノ亜細亜日報ハ「中国又リト訂正記載セリ民視報ハ「東亜前途ノ為メニ一哭ス」ト題シ

日支ノ交渉日本政府ハ奪ハサレハ饜カサルノ志アリ遂ニ最後通牒ヲ発スルニ至ル日本ノ支那ヲ欺ク固ト支那ノ不幸ナルモ亦タ東亜全局ノ不幸也支那弱ヲ患ヘ日本ハ貧ヲ患フ若シ地理歴史上ノ方便ヲ利用シテ貿易実力上ノ進歩ヲ謀リ他日提携シテ白種族ニ当リ東亜ノ主人翁タルノ一日ヲ期スヘキナリシナリ日英同盟各国ノ協約ハ支那ノ保全ト機会均等ヲ声言セサルナシ然ルニ惜ムヘシ今ヤ目ハ近利ニ眩ミ心ヲ意気ニ役シ支那ニ対シテハ之ヲ中傷シ自国ニ於テハ則チ之ヲ犠牲ニシ條約ニ於テハ之ニ反シ宣言ニ於テハ之ニ背ク徒ラニ一己ノ私ヲ以テ東亜ノ患ヲ為ス大隈政府ハ誠ニ日支両国ノ罪人ナリ云々

五月八日ノ国民公報ハ「最後通牒」ト題シ

日本ノ最後通牒ハ新案ニ更ニ大修正ヲ加ヘタリト吾人ハ其邦交ヲ顧念スルノ誠意アルヲ認メサル能ハス特ニ惜ム日本ニシテ此誠意アラハ之ヲ談判期中ニ披瀝シテ従容討論ノ暇アラシメス之ヲ最後通牒ニ於テスルヲ第五号案ハ我ノ最初ヨリ絶体ニ拒絶シタルモノナリ今日本第五号及南満東蒙事項ニモ種々ノ大譲歩ヲ為スアリテ

安ンゾ能ク最後通牒ノ屈スル所トナランヤ」ト題シ我カ最後通牒ヲ発スルニ至ル顛末ヲ揣摩シテ云ク

日本ノ臨時議会ハ十余日ヲ出テスシテ開カルヘク大隈氏ハ非常ノ挙動ヲ以テ声誉ヲ議院ニ博セント冒険ヲ惜マス劒抜弩張ノ事ヲ為ス然カモ日本ノ元老山県大山松方等均シク反対シ但シ干戈ノ事ハ発スヘクシテ収ムヘカラス発シテ復タ収メハ日本ノ威信ヲ損シ発シテ収メサレハ兵連リ禍結ヒ日本他日ノ得ル所ハ失フ所ヲ償フ能ハス且ツ世界ノ猜忌ヲ招キ両国人民永遠悪感ノ根ヲ種フルハ誠ニ日本ノ利ニアラスト云フニ在リテ老謀深算固ト一般書生政客ノ企及スル所ニアラス大隈氏モ亦其武断策ノ実行スヘカラサルヲ知リ遂ニ此比較的平和ナル最後通牒ヲ発スルニ至レルナリ云々

五月八日ノ新中国報ハ「加認」ト題シ

曹外交次長カ日本公使館ニ赴キ更ニ四ヶ條ノ追加承認ヲ為シタリトハ驚クヘキ消息ナリ

ト云ヒ当局者カ平和ヲ希望スル余リ一ニ人ノ宰割凌侮ニ任スルヲ攻撃セリ

八日ノ北京日報モ亦其記事欄ニテ昨紙所載曹次長追認四條ノ説ハ日本公使カ極力要求シテ曹次長之ヲ承認セサリシナ

一々吾人通徊顧慮セシムル所アリ吾人ハ日本ノ誠意アル修正ト目セサルヲ得サル次第ナリ日本ニ此誠意アレハ当然支那ヲ交譲セシムヘカリシニ必ス最後通牒ナル悪声ニ於テストハ何ソヤ

八日ノ国華報ハ「当局ニ警告ス」ト題シ

記者ノ見ニヨレハ日本ノ修正ハ減譲ニ似タルモ五号問題ヲ後日ニ議スヘシト云ヘハ撤回シタルモノト認メカタク而カモ言ヲ邦交ノ敦睦ニ借リ四十八時間ヲ限リテ最後通牒ヲ為ス国家ノ奇恥大辱国民ノ心決セリ当局者心セヨ十日ノ国是報ハ「嗚呼政府秘密外交ノ結果」ト題シ

我政府平日鬼々崇々事秘密ニ付シ日本ノ最後通牒提出ニ藉口シテ俯首聴命国人責任解除ノ計ヲ為ス其外交ハ外交ニ非ス外亡ノミ交渉ハ交渉ニ非ス交代ノミ而カモ三四ノ奄ニ無気浮華不実ノ参政輩ヲ召集シ立法院代行ノ名ニ藉リ共同承認国権販売ヲ敢テシテ謗ヲ分ツノ計ヲ為ストテ極言政府ノ秘密主義ヲ攻撃セリ十日ノ国権報ハ「日支交渉結束恫言」ト題シ

五月七日日本提出ノ最後通牒ハ強弁奪理ノ点アルハ勿論ナルモ其隠微ノ趣旨ノアル所ヲ察スレハ平和ノ解決ヲ欲スルニ外ナラス我政府モ内外ノ形勢ヲ審度シ孤住一擲ス

ルニ忍ヒス玆ニ結束ヲ告クルニ至レリ五号問題ハ我カ堅拒峻絶ニヨリ揩イテ議セストスレハ一線ノ生機外交ノ進歩ナリトセハ慰情解嘲ノ言耳要スルニ委曲遷就シテ今日ニ至レルヲ見レハ昨日ノ我承認回答ハ奇恥大辱ノ紀念日ナリ

五月十、十一日両日ノ民視報ハ「不亡国論」ト題スル長篇ヲ掲ケテ云ク

嗚呼日支交渉解決ノ日ハ即チ我中華民国永遠ノ紀念日ニテ痛ヲ忍ヒ垢ヲ含ム之レヨリ甚タシキナシ夫レ国ノ亡不亡ハ土地ノ広人民ノ衆ニアラスシテ人心ノ不死ニ在リ人心ニシテ死セスハ国家興奮ノ一日アリ此次日本ノ最後通牒ハ日本人ヲ以テ見レハ権利攘奪ノ利器ナランモ支那ニ在ツテハ実ニ晨起夢覚ノ鐘鼓ナリ日本人ハ土地ヲ竊盗スルノ利器ト為サンモ支那ニ在ツテハ当頭喝棒ノ用品ナリ日本ノ迫強愈急ナレハ支那ノ反動愈近ク自強ノ期愈近シ人皆日本人ヲ門外ノ賊トスルモ我独リ日本人ヲ支那ノ良教師トナス日本ニシテ訓戒セサレハ吾国誰レカ復タ得テ之ヲ訓戒セン然レトモ第一回良教師ノ督責ハ以テ忍受スヘキモ第二次ノ鞭笞ハ之ヲ預防セサルヘカラサルナリ第一回ノ責斥ハ以テ隠痛スヘキモ第二次ノ違言ハ決シテ容受スヘカラサルナリ我国民タルモノハ果タ何ヲ以テ日本第二次ノ督責ヲ受ケサルヘキヤ之ヲ思ヘ

十一日ノ亜細亜日報ハ「痛言」ト題シ先ツ此次結束ノ利権喪失ノ多端ナルヲ指摘シテ之ヲ内国政治ノ不良ニ帰シ我ハ我政府ニ一言ヲ呈セン今日我内政方針ヲ云ヘハ実ニ近世国家政府ノ原則ニ合ハサルモノナリ已ニ夫レ不変則ナリ外患ノ至ラサルナシ今ヤ日支交渉ハ結束スルモ吾政府カ用人行政ノ諸大端ニ於テ再ヒ故常ヲ踏襲セハ日支ノ交渉相継イテ至リ失敗ノ十百倍スルモノアラン

十、十一日ノ平報ハ「日支交渉了結後ノ補牢語」ト題シテ事今日ニ至ル空言ハ事ニ益ナシ官民上下一心浮華淫逸ノ旧習ヲ去リ国家富強ノ実力ヲ養成スヘシ

ト説キ十一日ノ国権報ハ又「四年五月七日ノ奇恥」ト題シ此国恥大辱ノ永ク紀念スヘク臥薪嘗胆ヲ説ケリ

今回ノ交渉タル曲折多端ニシテ解決ノ遷延シ其間排日的行動各種ノ方法ニヨリ洽ク鼓吹セラレタル結果今日一旦ノ解決ヲ見タルモ其影響決シテ良好ナリト云フヲ得ス北京両三日以来ノ新聞論調ハ既ニ叙上ノ如クニシテ又一般社界方面ニ見ルニ初メ上海ニテ留学生輩ニ提唱セラレタル所謂救国儲金団ナルモノハ少クトモ各方面有力者ヲ動カスニ至リタルモノノ如ク既ニ上海ニテ一流ノ商紳者輩ノ賛成アリ近ク北京ニテモ商務総会総理参政院参政馮麟沛等卒先シテ働誘ヲ試ムルニ至リ上海ト呼応シテ進行ヲ計リ居レリ北京救国儲金団ノ宣言ナルモノハ専ラ此次日本ノ横暴要求ニ帰宿藉言シテ国民ノ愛国心ヲ喚起シ以テ救国儲金ヲ強ヒ又馮参政カ五月十日商務総会内ニ開カレタル儲金団会議ニ於テ演説シタルモノトシテ各紙ノ掲載スル処ニヨレハ民国四年五月七日ヲ最大国恥ノ第一日ナリト云ヒ日本ノ要求ヲ一々指摘シテ其横暴ヲ叫ヒ之レ日韓議定書ノ変象ナリトテ排日心ヲ鼓吹シテ救国儲金ヲ強ヒ又海蘭鉄道督辦施肇曾カ上海ノ儲金団ニ宛テ北京儲金団ノ成立ヲ報シタル電報ノ如キモ略ホ同一ノ語気ヲ臚列セリ

五月十一日北京救国儲金団ハ旧宮城ノ一部ヲ開放シタル中央公園ニ大会ヲ開ク豫メ宣言及白話ノチラシヲ散布シテ洽ク各方面ノ多数ヲ招集シ巡査ハ園門ヲ警戒シテ日本人ノ入園ヲ拒絶シ（他外国人ハ歓迎シタル由）数番ノ演説ハ何レモ日本ノ横暴ヲ攻撃シテ悲憤慷慨ヲ極メ日貨排斥ヲ鼓吹シ愛国儲金ヲ主張シタリト云フ某一邦人ハ支那人ト称シテ臨場シタルニ後ニ其日本人タルヲ看破サレテ退場ヲ迫リ該邦人尚一支那人ナリト主張シ救国儲金ヲ申出タルモ地ニ抛ツテ収受セサリシト云フ

五七会ナルモノモ亦商界有力数者ニヨツテ各界ヲ連合シテ発起セラレ毎月七日ヲ以テ常会トシ各方面ニ渉リ国恥ヲ紀念シ種々ノ計画アルヘシト伝ヘラル又五月八日附京師商務総会ノ名ヲ以テ全国各商会ニ打電セラレタルモノハ甚タ不穏不謹慎ヲ極ム大要左ノ如シ

日本ハ欧洲多故ヲ利用シ朝鮮併呑同一ノ條件承認ヲ迫リ五月七日武力最後通牒ヲ為セリ之レ我ノ生命財産ヲ強奪シ我国家ヲ滅シテ其貪欲ニ供セントスルモノナリ政府ハ内民力ニ顧ミ委曲求全セサル能ハサルモノアリテ譲歩媾和セリ嗟我国民此奇辱ヲ受ク尚何ノ面目アツテ社会ニ存スル夫レ五月七日ノ恥此生此世我子我孫誓ツテ一刻モ相忘レサルヘシ請フ四萬々人ハ本年五月七日ヨリ誓ツテ全力ヲ奮ヒ以テ国家ヲ助クヘシ特ニ玆ニ哀電ス願クハ全体ノ商民ニ普告シテ永ク此志ヲ存シ国恥ヲ忘ルル勿レト而シテ漠口商務総会カ翌九日附ヲ以テ卒先シテ右ニ返電セル処亦頗ル悲壮慷慨ヲ極ム

右及報告候也

四三七　五月十三日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

各條約案及公文案起草ニ関スル修正箇所詮議方
稟請ノ件

第二七七号

貴電第三三四号以下ヲ以テ電報セラレタル條約及公文案等ハ昨夜来篤ト研究ヲ了シ大体準備整ヒタルニ付五月十五日支那側ト協議ヲナス筈ナル所右案文ハ左ノ通夫々修正ヲ加ヘ提出スル方可然カト思料スルニ付御詮議ノ上何分ノ義大至急御電訓アリタシ

(一)　山東省ニ関スル條約第一條末段「協議スヘキ」ヲ「協定スル」又ハ「協定スル所ノ」ト改ムルコト

(二)　同條約附屬公文第二号中「開埠章程」ヲ「商埠章程」ト又「支那政府ヨリ豫メ」ヲ「支那政府自ラ之ヲ擬定シ」ト改ムルコト満洲及蒙古ニ関スル條約附屬公文第二号モ亦同様修正スルコト

(三)　満洲及蒙古ニ関スル條約第一條及同條約附屬公文第一号中「遼東半島」ナル名称ハ今回新ニ用ヒラレタル次第ナルノミナラス意義広キニ失スルヲ以テ支那側ヨリ必ス異議アルベシト認メラルルノミナラズ今ニ於テ斯ル名称ヲ出サシメザル様致タキ趣旨ニ基キタル次第ナリ

四三八　五月十三日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

我提案第五号譲歩ニ関スル最後通牒前後ノ交渉顛末等漏洩ニ関シ注意方ノ件

第三四七号

五月十二日ノ東京日日新聞ニ支那側ニ於テ我最後通牒接手前第五号ノ大部分ヲ承諾シテ交渉ノ解決ヲ計ルコトニ決シ其意嚮ヲ貴官迄申入レタルニ拘ラス我方ニテハ最後通牒ニ於テ却テ第五号ヲ譲歩シタル旨幷ニ其前後ニ於ケル支那側ト貴官トノ交渉ノ顛末即チ大体貴電第二四四号同第二五〇号同第二六三号御来示ノ事実ヲ詳細記述セル五月七日付貴地通信掲載セラレ居リ又五月十三日ノ同新聞ニハ東部内蒙古ノ境域ニ関シ大体日露間秘密協定線ヲ指示セル同十二日発ノ貴地特電掲載セラレ居ル処右ノ如キ消息ハ貴館員ヨリ洩レタルモノトハ信ゼザルモ此際此ノ如キ通信ノ外間ニ出ヅルハ甚ダ好マシカラザル義ニ付注意方貴官ニ於テモ篤ト御配慮アリタシ

ニ改ムルコトハ甚タ好マシカラズト存ゼラルルニ付「旅順大連」ト修正スルコト右ハ露清間ノ原約ノ名称ニモ適ヒ且実際問題トシテモ萬々曲解セラルル虞ナシト思料ス

(四)　同條約附屬公文第一号中「一節ハ援用スルコトナカルベク」ヲ「一節ハ之ヲ無効トナスベク」ト改ムルコト援用云々トナストキハ規定其ノモノハ依然効力ヲ有スル形トナリ名実相副ハザルノ感アリ無効云々ハ漢文ノ意味ニハ適合セザルモ事実ニ適合スル次第ニ付支那側ニ於テモ漢文ニ相当修正ヲ加フルコトニ異議ナカルベシト存ズ

(五)　同條約第六條中「日本国臣民ハ」ヲ「日本国臣民カ」ト又「経営ヲ為スコトヲ得」ヲ「経営ヲ為サムトスルトキハ支那政府之ヲ承認スヘシ」ト改ムルコト

(六)　同條約第七條第一項中「契約規定中資本家ニ取リ最有利ナル條項」ヲ「契約規定事項」ト改ムルコト既成諸鉄道契約ヲ標準トナス以上当然有利ナル事項ニ拠ルヘキ次第ユエ第二項ノ如ク将来ヲ指ス場合ト異リ特ニ有利云々ナル明示ヲ要セザルヘシ

(七)　以上修正事項中(一)ハ文法上ノ関係ヨリ(四)ハ事実上ノ関係ヨリ其他ハ総テ我方ニ於テ成ルヘク我最後修正案内容ヲ変更セサルコトトシ其代リ支那側ヨリモ内容ニ付彼是

四三九　五月十三日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

附屬公文ハ大体密約トセザル様取計方指示ノ件

第三四八号

貴電第二五五号ノ四五月七日最後通牒交附当時陸総長ハ附屬公文ハ何レモ密約ト致度旨申述ヘ居レルモ貴電第二六二号ノ七項説明書ニ於テ明ナル如ク我方ニテ密約トスルモ差支ナキ意嚮ヲ有スルハ満蒙ニ関スル條約第四條警察法令及課税承認ノ件ノミニテ之トテモ往電第三三三号注意事項(四)ノ通リ我方ニテハ成ルヘク密約トセザルコトヲ希望スル次第ニテ右ノ外ハ一切密約トセザル考ナルニ付申迄モナキ義ナガラ此点支那側ニテ誤解ナキ様取計ハレ度シ

四四〇　五月十三日　盛宣懐ヨリ
井上侯爵宛

漢冶萍公司ヲ日中合辦トスルコトニ付消極的意見表明旁陳情ノ件

（訳　文）

謹啓

東京滞在中ハ色々御指教ヲ忝クシ感銘ノ至リニ存候袂別

以来最早三年何時モ御無沙汰ニ打過キ候段平ニ御高免被
下度候陳者今般日支両国商業上ニ関スル重要事件有之旧
知ノ好誼ニ依リ御相談申上度存候ニ付何卒御高教ヲ賜ハ
ランコトヲ切望仕候
過般正金銀行小田切氏ノ来電中ニ漢冶萍公司ヲ此機会ニ
於テ日支合辦トナスノ議有之候処小生ノ愚見ニテハ元来
同公司カ若松製鉄所ト鉄ノ売買借款契約ヲ締結セルハ実
ニ伊藤公爵ト小生トノ発起ニ基ツクモノニシテ貴国必需
ノ鉄ヲ供給スル儀ニ有之候テ公司ノ権利ニハ何等干渉ス
ル事無ク至極公平ナリシモノニ候処其後一昨年小田切氏
李維格氏ト合辦契約草案ヲ議訂致シ候ガ其際株主群起シ
テ之レニ反対シ小生ハ殆ト不測ノ災禍ニ遭遇セント致シ
候依テ昨年別ニ契約ヲ締結シ期限ヲ四十箇年ニ延長シ且
ツ貴国ノ技術会計両顧問ヲ聘傭スルコトトシ中央政府
ノ承認ヲ得申候間右ニテ合辦ノ名無キモ其実質ニ於テハ
能ク効果ヲ挙ケ居ルモノト存候合辦ノ議ハ若シ日支両国
ノミナレハ別ニ深ク慮ル必要無之様ノモノニ候ヘトモ如
何セン今日支那ノ情勢ニ鑒ミ候ニ若シ一国ニ之レヲ許ス
トキハ各国共ニ之レニ倣フベク即チ英ハ(山西省)潞沢ニ独逸ハ山
東ニ其他白仏等何レモ各国ニ其特種ノ條約ヲ有シ而カ
モ支那ノ鉄鉱ハ全国到ル処ニ散在シ且ツ其附近ニ石炭ヲ
産出シ河海交通ノ利便ナルコト萍郷大冶ノ比ニ非ザルモ
ノ多ク将来英支、独支、仏支其他諸国皆之レニ倣ウテ合
辦ヲ要求致候ハバ支那ハ之レヲ拒絶スルコト能ハザル次
第ニ候而カモ漢冶萍公司ハ已ニ今日迄六千萬以上ノ資金
ヲ投下シ居リ候如斯ハ御承知ノ如ク最初官有経営ノ際多
大ノ経費ヲ費消シ次テ革命ニ依リ損害ヲ受ケシコト尠カ
ラザリシ故ニ候元来支那ノ会社ナルモノハ其株主ニ対シ
必ズ利息ヲ支払フヲ要シ候ガ此利息ハ外国会社ニ在リテ
ハ其例無キモノニ有之候而シテ公司ノ旧株主ハ十余年ノ
辛苦艱難ヲ経テ漸ク利益ヲ挙ゲントスル今日若シ合辦ノ
議ヲ出セハ必ズ株主ニ対スル相当利益ヲモ与フルコトヲ
承認セザルベカラザルコトト可相成候然ルニ外国会社ノ
鋼鉄ハ其生産原本漢冶萍公司ニ比シ遙カニ僅少ナル可
ケレバ若シ互ニ競争セハ日商側ハ損アリテ益ナカルベク
ト存候又漢冶萍公司ハ支那ニ於テ創業以来約三十年ニ垂
ントシ親シク艱苦ヲ嘗メ官商共ニ之レガ維持ニ務メ漸ク
今日ニ至リ其基礎モ穩固トナリ其成績ヲモ見ルヲ得ルニ
至リシモノニ有之候其貴国ヨリ屢々巨額ノ借款ヲナスヲ
得事業ノ拡張ニ充ツルコトヲ得タルニ対シテハ公司一同
深ク感佩スルトコロニ御座候ヘ共之レヲ口実トシテ合辦
トナシ公司ノ利益ヲ割ク様ノコトト相成リテハ株主側ニ
於テモ容易ニ御相談ニ応ズルコト能ハザルベシト存候要
スルニ本公司ハ支那目下ノ形勢上唯一無二ノ特種ノモ
ノニ有之人情公理ヨリ云フモ保存セザルベカラザルモノ
ニ有之候ヘバ貴国ニ於カレテモ強ヒテ合辦ヲ要求シ感情
ヲ傷フニモ及ビ申ス間敷ト存候小生老衰無能ニハ候ヘ共
全力ヲ尽シテ公司ノ為メニ籌画仕ルベク各種ノ障碍ニ付
キテハ及ブ限リ政府ノ保護ヲ仰ギテ目的ノ透徹ヲ期スル
共ニ貴国ノ借款援助ニ対スル御厚情ニ背カザルコトヲ務
メ可申候小生日商ノ為メニ計ルニ其虚名ヲ得ンヨリスルコ
トヲ止メ其実利ヲ収ムルノ謀ヲナシ相互ニ其利益ヲ得ル
様致シ度ク即チ必要額ノ鉄鉱ヲ供給スルヲ第一要義ト
シ公司ノ利源ヲ穩固ニスルヲ第二要義トナスヘシト愚考
仕候小生敢テ支那一面ノ利益ノミヲ計ルモノニハ無之実
ハ両国共通ノ利益ヲ慮ルモノニ候間何卒小生ノ愚言ヲ御
嫌忌ナク相互ノ為メ宜敷御取計ヒアランコトヲ切望仕候
老病日ニ加ハリ候ニ付玆ニ謹ンテ数言ヲ呈シ余ハ高木陸
郎氏ニ嘱シテ御面陳スルコトト致候　早々頓首

五月十三日

井上侯爵閣下

盛宣懐

註　右書状ハ高木氏ニ託サレシモノ

四四一　五月十四日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

沿岸島嶼不割譲ニ関スル大総統令発布ノ件

第二七八号

我要求ニ係ル沿岸島嶼不割譲ニ関スル五月十三日附大総統令五月十四日政府公報ニテ発表セラレタリ右ハ豫メ我方ニ打合ヲ為スコトナク支那側限独断ニテ取計タルモノナリ委細後電

四四二　五月十四日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

中国政府ノ日中交渉ニ関スル公表書各新聞紙掲載ノ件

第二七九号

今回ノ事件ニ関スル支那政府ノ official communiqué 五

月十四日官営各新聞紙ニ掲載セラレタリ右ハ頗ル長文ニ亘リ詳細ニ談判ノ経過ヲ記述シ支那カ終始誠意ヲ以テ交渉ニ応シタルコト専ラ主権ノ擁護ト諸外国トノ條約関係ヲ尊重スルコトニ力メタルコト等ヲ弁明シタルモノニテ殊更ニ我態度ヲ非難シタルカ如キ節モナク大体ニ於テ穏健ナリト認ム尚右附屬書トシテ我原提案最終修正案支那最終修正案我最後通牒同説明書及之レニ対スル支那回答書各全文ヲ添附シアリ全部本日郵送ス

四四三　五月十四日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

沿岸島嶼不割譲ニ関スル大総統令発布ノ経緯ニ関シ報告ノ件

別　電　同日日置公使発加藤外務大臣宛電報第二八一号

右大総統令和訳文

第二八〇号

往電第二七八号大総統令全文ハ別電第二八一号ノ通リナル所右ニ関シ五月十三日李盛鐸カ船津ニ語レル所ニ依レハ今回日本国ノ要求中第四号ニ関シテハ支那政府自ラ宣布スル幸甚シ玆ニ五月十二日ノ大会ニ於テ討議全院一致議決セルニ付政府ニ於テ右ノ通公布実行アリタシ云々トアリ査スルニ沿海各地ハ国防ノ大計ニ関係ス速ニ審議措置ヲ施スヘキモノナリ該院ノ建議ハ寔ニ識量遠大特ニ宣布ヲ加フヘシ即チ今後中国ノ有ラユル沿海ノ港湾島嶼ハ何国タルニ論ナク一切租借又ハ譲与ヲ許サズ且陸軍海軍ノ両部及沿海ノ官吏ニ命シ務メテ責任ヲ負ヒ十分警謀ヲ加ヘ以テ国権ヲ鞏固ニスルノ趣意ヲ体スヘシ玆ニ令ス

原文郵送ス

註　右原文ニ付テハ左掲四四四文書附属書参看

四四四　五月十四日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛

中国沿岸島嶼不割譲ニ関スル大総統令原文送附ノ件

附屬書　五月十三日付中国大総統申令

附　記　五月十四日付中国大総統ノ密諭和訳文

合信第八四号

大正四年五月十四日　（五月二十二日接受）

今回帝国政府要求ニ係ル第四号支那沿岸不割譲ニ関シ支那政府ハ五月十三日付大総統令ヲ以テ別紙ノ如キ宣言ヲ発表

コトニ協定シタルモ出シ抜ケニ之ヲ宣言スルトキハ如何ニモ外間ニ奇異ノ感ヲ与フル嫌アルヲ以テ遽ニ去ル十二日参政院会議ヲ開カシメ袁総統ヨリ梁士詒ニ内意ヲ含メ劈頭第一右ニ関スル建議案ヲ提出セシメタル次第ナル由尚参政院ハ客年末閉会以来同日初メテ開会セシモノニシテ最初ノ議事日程ハ単ニ教育会議ニ関スル議案ノミナリシ由

（別　電）

五月十四日日置公使発加藤外務大臣宛電報

沿岸島嶼不割譲ニ関スル大総統令和訳文

第二八一号

参政院ノ上申ニ依レハ前清ノ末葉国政衰頽海疆多事沿海ノ要塞或ハ事ニ依リテ外国ニ譲与シ或ハ外国ノ租借スル所トナリ以テ険要淪陥シ軍備拠ル所ナク庶民枕ヲ安ンスルヲ得ス険ヲ設ケ国ヲ護ルノ趣旨ト大ニ相背馳ス玆ニ建議シ過去ノ失敗ニ鑑ミ将来ノ計ノ為ニ陸海軍及沿海ノ当局官吏ニ令シ海防ニ注意セシメ沿海ノ居民ヲシテ居ニ安ンシ業ヲ楽マシメ同時ニ今後中国ノ有ラユル沿岸港湾島嶼ハ何国ヲ論セス一切租借又ハ譲与ヲ許サザルコトヲ天下ニ宣告シ務メテ本国国防ヲ堅固ニシ共ニ国際平和ノ福ヲ受ケシメハ全国致候右ハ其大要既ニ往電第二八一号ヲ以テ及電報置候ヘ共為念右原文別紙及送附候此段申進候也

（附屬書）

五月十三日付中国大総統令

大総統申令

據參政院呈稱爲建議事前清末季國勢陵夷海疆多故沿海要塞或因故讓與外國或爲外國所租借以致險要淪陷軍防無所憑藉庶民不得安枕於設險守國之義大相背馳玆特建議呈請政府於創鉅痛深之後爲懲前毖後之謀明令陸海軍部暨海疆官吏注重海防使沿海居民得以安居樂業幷宣告天下嗣後中國所有沿海港口灣岸島嶼無論何國概不允認租借或讓與務使本國堅固圍之心而國際共享升平之福全國幸甚玆於五月十二日大會提出討論全院一致議決謹提出建議呈請公布施行等語查海疆區域關係國防大計亟應詳審綢繆該院建議洵屬識慮遠大特加宣布嗣後中國所有沿海港口灣岸島嶼無論何國概不允認租借或讓與並著陸軍海軍兩部及海疆官吏力負責任妥爲籌防以體鞏固國權之至意此令

中華民国四年五月十三日

国務卿　徐世昌

（附　記）

五月十四日付中国大総統ノ密諭和訳文

大総統ノ密諭

今日国ヲ立ツルニハ自ラ強ウスルニ非ザレバ存ヲ図ル能ハズ強弱ノ分ルルハ悉ク人事ニ由レリ日本ハ前ニ閉鎖時代ニ於テ其学術政治ハ中国ト殊ナラサリシガ明治維新ヨリ以来上下心ヲ一ニシ西法ヲ歩武シ時ニ乗ジテ発動シ発憤雄飛シ四十余年間惨憺トシテ経営スル所ノ者ハ其東亜大帝国ノ政略ヲ達センコトヲ求ムルニ非ザルハナシ朝鮮併合ノ時ニ当テ現在ノ首相大隈重信ハ已ニ中国将来ノ統監タランコトヲ自ラ命ゼリ蓋シ其兼営並進ノ図、遠交近攻ノ策、処心積慮殆ンド一朝ニアラズ其強ヲ致セル理由ヲ究ムレバ即チ国民教育ヲ以テ根本トナシ恥ヲ明ニシ戦ヲ教フルコトハ即チ教育ノ中ニ寓セリ故ニ人々兵役ニ当ルヲ以テ義務トナシ戦死ヲ以テ殊栄トナス其近年ノ軍事ニ就テ之ヲ言ヘバ陸軍ノ徴集ハ百万ニ達スベク海軍ノ戦艦ハ已ニ六十萬噸ヲ逾エ其張大セル勢力ニ依テ日ニ拓地殖民ヲ思ヒ彼ハ刀俎トナリ我ハ魚肉トナリ切迫スルコト此ノ如ク岌々トシテ危ムヘシ火ヲ積薪ニ厝キ早ク険象ヲ成セリ前清ノ末造政ハ其綱ヲ失ヒ沓泄風ヲ成シ人ニ遠慮ナク加フルニ親貴ハ事ヲ用ヒ賄賂公行シ各其家ニ私ス何ソ国ヲ衛ルコトヲ知ランヤ武昌ノ事起ルニ及ヒ朝ヲ挙テ措ヲ失シ疆ヲ列ネテ響応シ土崩瓦解セリ日本浪人ハ此機ヲ利用シ秘計陰謀至ラザル所ナク我人民ノ生命財産ハ間接直接ニ損失ヲ受ケタル者勝テ数フベカラス蒼赤何ノ幸ナリヤ之ヲ言ウテ流涕ス幸ニシテ天ハ中国ヲ佑ケ禍乱ハ平ラギ予カ衰病ノ余生ヲ以テ僅ニ全局ヲ定ムルコトヲ得タルハ殊ニ強隣意料ノ外ニ出デタリ当日ノ萬険環生セルコトヲ回憶スレハ今ニ至テ心悸ケリ国事粗ボ定テ欧戦発生シ均勢ニ関係スル者甚タ多ク日本ハ欧洲列強ノ相持スルヲ利シ中国新邦ノ初テ建テルニ乗シ公法ヲ顧ミス我山東ノ中立ヲ破壊シ軍隊ノ至ル処四境騒然タリ官吏侮ラルルノ横ト居民禍ヒセラルルノ惨トハ筆罄（ツク）ス能ハス耳聞クニ忍ビズ我国ハ此痛苦ヲ受ケタルニ因テ退兵ノ抗議ヲナセシニ彼ハ之ヲ省ミズ又酷烈ナル要求條件ヲ提出セリ其内最モ堪ヘ難キ者ハ曰ク切実ニ中国ノ領土ヲ保全スト曰ク各種ノ要政ハ日本人ヲ聘用シテ有力ナル顧問トナスヘシト曰ク必要ナル地方ハ警察ヲ合辦スヘシト曰ク軍器ノ定数ハ日本ヨリ購買スヘシ並ニ兵器工廠ヲ合辦シ其工料ヲ用ユヘシト此四者ハ直チニ亡韓ヲ以テ我ヲ視ルナリ若シ其一ヲ許サバ国スル能ハス牛馬奴隷トナリ萬劫復ラス予ハ此四箇條ヲ見テ曾テ在京ノ文武大官ニ向テ予ノ一息ノ尚ホ存スル間ハ決シテ承認セサルコトヲ誓ヘリ即チ不幸ニシテ交渉破裂セハ予ハ但タ一銃一弾アルノミニテモ亦タ断シテ聴従スルノ理ナシ此決心ヲ具シテ外交部員ニ命シ堅持協商シ其外ノ利権ヲ損失スルコト較ヤ重キ者ハ均ク逐次斟酌シ挽回ニ尽力セリ然ルニ日人ハ我国ノ乱党ヲ利用シ各処ニ滋擾シ又謡言ヲ散布シテ各国ヲ皷惑シ大部隊ノ陸軍ヲ分遣シテ直チニ奉天ノ瀋陽、山東ノ済南ニ趨キ海軍モ亦タ時ニ渤海ニ出没遊弋シ之カ為メ挙国恐惶シ全球震動セリ其用意ノ在ル所ヲ知ラズ予ハ国家ノ保全ヲ以テ責任トナシ外ニ対シテハ定見ヲ堅持シテ終始移サズ内ニ対シテハ人民ヲ撫捺シテ自ラ擾ラザラシメ将ニ四箇月ニ及バントシテ之ヲ持スルコト益堅カリシニ彼ハ遂ニ最後通牒ヲ以テ我ニ承認ヲ迫リタリ然レトモ卒ニ最烈ノ四箇條ニ付テ或ハ全部消滅セシメ或ハ此案ヨリ脱離セシメタリ其他ノ較ヤ重キ損失ハ亦タ再三ノ討論ニ因テ減免スルコトヲ得タリ而カモ統計スルニ已ニ損失シタル権利ハ頗ル多ク疾首痛心憤慚交モ集ル往者ハ已メリ来日方ニ長シ日本ハ既ニ極大ノ政略アリ謀定ルコト已ニ久シ此後ハ但タ進行アルノミ断シテ中止セス弱ヲ兼ネ味ヲ攻ルハ古ヨリ明訓アリ我豈ニ弱味ヲ以テ自ラ居リ甘シテ亡韓ノ続

ヲナスヘケンヤ此競争世界ニ処シテ公理強権ハ勢相対峙ス人ハ強権ヲ逞ウスルアリ我ハ公理ノ言フベキナシ永久ニ此ノ如クンバ何ヲ以テ国ヲ為サンヤ此次ノ交渉解決後ハ凡百ノ職司痛定テ痛ヲ思ヒ如何ニシテ心神ヲ劇錬シ振作ヲ力図スヘキヤ若シ仍ホ復タ悠忽シテ事過キ輒チ忘レハ恐クハ大禍ハ転瞬ノ間直チニ至ラン天幸ハ屢々邀フヘカラス神州陸沈セハ死所ヲ知ラス予ハ老イタリ国ヲ救ヒ身ヲ捨テ天ハ其志ヲ哀ミ或ハ稍ヤ須臾ヲ緩ウシ親ラ滅亡ヲ見ルニ至ラザラン顧ルニ此林々タル衆ニシテ歯ノ予ヨリ少キモノハ決シテ免ル能ハス而カモ子孫ハ更ニ論ナシ予カ此奇痛ノ言ヲナス者ハ萬々予ノ言ノ適中スルコトヲ望ムニアラス試ニ存亡呼吸ハ断シテ予カ一手足ノ力旋転シ得ヘキ所ニアラス危ヲ持シ顛ヲ扶ルハ専ラ群策ニ資ルヲ以テナリ我国ノ官吏ハ積習太タ深ク不肖ナル者ハ敢テ公ヲ仮リテ私ヲ済シ庸謹ナル者ハ亦タ物ヲ玩ヒ志ヲ喪ヒ敵国外患ハ漠トシテ心ヲ動カサズ文恬武喜幾ント風気ヲ成シ因循敷衍病ハ不仁ニ在リ墨ヲ発キ盲ヲ鍼スルハ起色アルヲ期スナリ望ムラクハ凡百ノ職司日ニ亡国滅種ノ四字ヲ以テ之ヲ心目ニ懸ケ天良ヲ激発シ私見ヲ屏除シ各職守ヲ尽シ力ヲ協セ功ヲ程ケ国官ハ僚ヲナシ交モ相勗勉セヨ苟モ国ニ利ナレハ死生ヲ以テセヨ其民

ニ親ムノ責アルモノハ尤モ当ニ随時法ヲ設テ人民ヲ勧導シ
蚩々タル民ヲシテ悉ク各国ノ大勢ト国民ノ義務トヲ暁ラシ
メヨ但タ能ク人ヲ治ル者ハ事々名ニ循ヒ実ヲ責ルヲ以テ
帰トナス治ヲ受ル者ハ人々国ヲ視ル家ノ如キヲ以テ志トナ
ス能ク此道ニ由レハ則チ中国ハ強フスヘク我人民及自身ト
子孫トハ亡国ノ痛ヲ免ルヘシ此レ則チ予カ独居深念シテ寝
饋モ忘レサル所ノ者ナリ但シ堅忍ニシテ始テ成ヲ図ルヘシ
虚憍ハ以テ事ヲ害スルニ足ル北京外省ノ各官ハ当ニ僚屬ヲ
規勧シ人民ヲ申儆シ恥ヲ忍ヒ重ヲ負ヒ其已ニ在ルコトヲ求
ムヘシ切ニ意気ヲ妄逞スル勿レ宣言嫚罵ハ往々益ナキノミ
ニアラス反テ自ラ損ヲ招クナリ務テ各善ク此意ヲ体シ努力
之ヲ為セヨ今ノ革命ヲ言フ者ハ動モスレハ排満ヲ称セリ
試ニ思ヘ満洲ハ一二百歩ノ人ヲ以テ入テ中国ニ主タリ国祚
ハ尚ホ三百年ニ近シ我漢族ハ四億ノ人ヲ以テ若シ久ク其国
ニ主タル能ハサレハ人ハ必ス我漢族ヲ視テ天生受役ノ性質
トナサン人類自立ノ資格ナキハ詎ソ奇恥ニアラサランヤ我
漢族ハ皆ナ神明ノ胄裔ナルカ詰ルニ斯言ヲ以テセハ能ク甘
心忍受スルヤ否ヤ其亡苞桑ニ繋ル惟タ亡ヲ知レハ庶クハ亡
牒交附前後ニ於ケル事情ハ当地ニ於テハ殆ド公然ノ秘密ニ
シテ其間ノ消息ハ殆ド何人ニモ知レ亘レルノミナラズ当時
支那側ニ於テハ我最後通牒ノ内容ヲ苛酷ナルモノナラント
推定シタル結果之ガ接手前ニ和平解決ヲ試ムルノ手段トシ
テ当館牒報者其他平生支那側ト親交アル本邦人ヲ介シ盛ニ
第五号中ノ幾分若クハ大部分ヲ譲歩シ最後通牒交附ヲ喰止
メントシタル裏面ノ消息モ今日トナリテハ既ニ明瞭トナリ
居リ東京日日新聞ニ御電示ノ如キ報道ノ泄レタルハ毫モ怪
ムニ足ラサル義ト思考ス
特ニ当館員ニ於テ内情ヲ洩ラセルガ如キコトハ絶対ニ無之
義ト御承知相成リタシ将又東部内蒙古境域ニ関シ大体日露
両国間秘密協定線ヲ指示セル報道ノ出所ニ付テハ未ダ之ヲ
探究スルニ由ナキモ露国公使館ニ出入スル重ナル本邦通信
員等カ同公使館員ヨリ承知セリトテ日露密約ノ東蒙古協定
線ニ関シ当館員ニ質問セルコトモアリ旁々本件ハ何処トモナク新聞通信員ノ窃カニ洩レ聞ク所トナリタル次第カト
察セラル本使ニ於テ此際特ニ各館員ヲ督シテ秘密漏洩ヲ防
止スル所存ナルモ兎モ角右ノ事情御参考迄電報ス（終リ）

ヒサルヘシ凡百ノ職司其レ密ニ之ヲ誌セヨ此ニ諭ス

中華民国四年五月十四日

四四五　五月十四日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）
最後通牒提出前後ノ交渉顛末漏洩ノ事情ニ関シ
回報ノ件

第二八二号

貴電第三四七号ニ関シ支那政府ハ我最後通牒接手前第五号ノ大部分ヲ承諾シテ交渉ノ解決ヲ計ルコトニ決シ其意向ヲ本使ニ申入レ来リタル前後ノ消息ハ五月七日発行ノ北京日報五月八日発行ノ新中国報及亜細亜日報等ノ紙上ニ詳細之ヲ掲載シ特ニ新中国報ノ如キ支那政府ノ此決定ヲ竊ラシ六日夜本官ヲ訪問シタル曹汝霖其他ノ徒ヲ目シテ売国奴トナシ痛烈ナル批評ヲ試ミタルモノアリ又五月七日ノ「ペキン、エンド、チェンチン、タイムス」紙上ニモ六日深更発北京特派員特電トシテ頗ル詳細ナル報道ヲ掲載シ五月七日「ペキン、デーリー、ニュース」ニモ略ボ同様ノ記事ヲ掲ゲタリ従テ貴電御申越ノ東京日日新聞ノ発表セル我最後通

四四六　五月十四日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）
條約案及公文案ノ修正箇所ニ付回訓ノ件

第三五一号

貴電第二七七号ニ関シ

㈠㈡㈣㈤ノ四項ハ御来示ノ通リ修正相成差支ナシ

㈢ノ「遼東半島」ナル名称ハ日露媾和條約第三條及千八百九十八年四月廿五日露都ニ於テ調印ノ租借協約追加議定書第一條等ニモ用ヒラレ居ル所ニシテ差支ナシトハ思考スルモ御来示ノ次第モアルニ付左ノ通リ改ムルコトニ致スヘシ

『明治三十八年十二月二十二日北京ニ於テ調印セラレタル満洲ニ関スル日清條約ニヨリ清国政府カ日本国政府ニ於テ継承スルコトヲ承認シタル旅順大連竝其ノ附近ノ領土及領水ノ租借幷之ニ関聯スル権利等ノ期限』

右ハ単ニ「旅順大連」トノミニテハ多少不安心ナルニ付満洲ニ関スル日清條約第一條及日露媾和條約第五條ノ行文ヲ参照立案シタルモノナリ

㈥ノ吉長鉄道ノ件ハ成ルヘク我方案文通リト致度ニ付一応我方案文ヲ提出シ交渉セラレ度其上ニテ支那側ニ異存アルニ於テハ貴電御来示ノ通リニ改メラルルモ差支ナシ

四四七　五月十五日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）
條約案公文案正式ニ外交総長ニ手交済ノ件
第二八四号
五月十五日午後四時本使外交部ニ赴キ條約案公文案等ヲ正式ニ外交総長ニ手交セリ委細後電

四四八　五月十五日　在奉天落合総領事ヨリ
加藤外務大臣宛
日中交渉解決前ニ於ケル中国官民ノ動静報告ノ件
公信第一一五号（機密）　（五月二十四日接受）
大正四年五月十五日
最近数ヶ月以来日支関係漸次険悪ニ赴クモノノ如クナルニ付本官ハ当地支那官憲ト絶エス接触ヲ保チ徒ニ事端ヲ惹起セサル様彼等ニ注意シタル次第ハ先般モ報告致シタル如クニ有之支那官憲ニ於テモ治安ノ維持ニ就テハ特ニ配慮警戒ヲ加ヘ居タル模様ニ有之候此間ニ於ケル重ナル官憲ノ態度ヲ観察スルニ張上将軍ハ今回交渉ノ当初ヨリ大局ニ顧ミ交渉ガ和平ノ間ニ解決スルコトヲ熱望シ其趣意ヲ以テ再三北

タル際ニ決定シ其節右両武官ノ来訪ヲ求メテ其態度ヲ言明スベシト豫告シタル由ニ有之即萬一ノ場合ニ於ケル用意ハ之ヲ為シ居タルモノト被認候
張巡按使ハ其後彼自身ノ談話等ニ徴スルモ張上将軍ノ方針ニ従ヒ同将軍ヲ補助シテ一般治安ノ維持ニ関シ尽力シタルモノト被存候又一方張作霖ノ行動ニ就テハ当地軍界ノ実権者ナルヲ以テ常ニ其ノ態度心事等ヲ探ルコトニ努メ居候処其間ニ立チテ満鉄公所員鎌田弥助ガ于冲漢ト巧ニ接触ヲ保チテ先方ノ心事等ニ関シ頗ル価値アル情報ヲ当方ニ致シタルハ本官ノ甚満足ナル所ニ有之候張ノ心事等ニ就テハ三月十七日附往電第三二号及本月五日附往電第四二号後段ヲ以テ及稟報置タル次第モ有之候ガ右報告シタル同師長ノ心事ハ国交ノ危機ニ瀕シテモ同様ニシテソレガ為最後通牒ノ発セラレタル頃ヨリ非常ニ煩悶シ居リ去ル八日ハ特ニ煩悶ヲ加ヘ萬々戦端ノ啓カルルコト無カルベシト告ゲラレ居リタルモ尚ホ北京ヨリノ消息ヲ待チ兼ネ居タル由ニテ現ニ同日夜間満鉄公所員往訪ノ際ハ懊悩ノ態ニテ些ノ落着キナク遂ニ平静ニ家居シテ北京ヨリノ電報ヲ待ツニ堪ヘズ上将軍府ヲ訪ヒ同府ニ於テ夜十時頃北京政府ヨリノ無事解決ノ確ナル旨ノ電報ヲ知得シ始メテ満悦ノ色ヲ浮ベテ帰宅シタル由

京政府ヘ電稟シタル趣ニ有之又当地在留日本人ノ動静ニ就テハ兼テヨリ細心ノ注意ヲ以テ観察セシメ居リタル由ナルガ其ノ観察シタル処ハ無論度々北京ヘ電報シタルモノナルベク而シテ北京政府ヨリハ上将軍以下ニ対シ常ニ無事解決ノ見込アル趣意ノ回電ヲ与ヘ居リタルモノノ如ク同上将軍ハ多分和平解決ヲ見ルナルベシトノ見込ヲ以テ管内人民ノ慰撫ニ努メタリ即本月四日以降城内ノ日本居留民立退ヲ開始シタル頃当地商務総会ニ於テ時局ノ危機迫レルニアラズヤト憂慮シ伺出デタル際ニハ時局ハ無事解決スベキニ付決シテ動揺スベカラザル旨厳重ニ訓示シ一方又国交断絶前ニ於ケル日本兵トノ衝突ヲ極力防遏スルノ手段ヲ執リ現ニ本月七八日城内居住ノ日本人ノ多数附属地ニ立退キタル後ノ城内ノ警戒ハ巡警ヲ以テ之ニ当ラシメ軍隊ハ全部外出ヲ禁止シタル次第ニシテ又如何ナルコトアリトモ正式ニ命令ヲ受ケタル場合ノ外日本兵ト衝突スベカラザル旨軍隊一般ニ厳達シタル由ニ有之事局解決後始メテ同将軍来訪ノ際ニモ治安ノ維持ニ付多大ノ苦心ヲナシタル旨相洩居候尤モ同将軍ニ於テモ今次交渉カ如何ナル場合タリトモ和平ノ間ニ解決セラルベシト確信シ居タル次第ニモ無之現ニ菊地町野両顧問ニ対シ自己ノ執ルベキ態度ハ国交断絶ノ通牒ヲ得

ニ有之候支那一般人民ノ状況ハ例ノ国家的事件ニ多大ノ注意ヲ払ハサル性情ト一ハ上将軍巡按使等ヨリ如何ナル場合ト雖モ平静ヲ保ツベキ旨ノ訓示等続発シタルコトトヨリシテ当初ハ日支ノ関係険悪ナルコトニハ何等介意セザル模様ニ有之候処去ル四五日来本邦人老幼婦女ノ附属地内ニ立退クモノ頻出シタルニヨリ始メテ形勢ノ迫リ居ルニ気附キ今度ハ支那側ニ於テ恐慌ヲ来シ京奉線ニテ避難スル者千有余ニ達シ中ニハ家財ヲモ取リ敢ヘス近傍村落ニ逃走シ或者ハ附属地方面ニ退去ヲ企テタルモノモ有之候由又去ル七日京奉線瀋陽駅員ノ大部分逃走シ運輸業務ニモ一時支障ヲ来シタルガ如キコトモアリシ由情報有之巡按使公署ヨリハ商務総会ヲ通シ人心ノ慰撫ニ力メ漸クニシテ大動揺ヲ防止シ得タルガ如キ次第ニ有之候
右御参考迄此段及稟報候　敬具

四四九　五月十六日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

陸総長ニ手交ノ條約案公文案ニ関シ案文起草上ノ修正要点説明及彼我談話交換ノ件

第二八五号

五月十五日本使ヨリ條約案公文案等ヲ正式ニ支那政府代表者ヘ提出ニ及ヒ置キタル趣ハ往電第二八四号ヲ以テ既ニ報告ノ通ナルガ当日本使ハ右條約案等ヲ陸ニ手交スルト同時ニ字句等ノ修正要点ヲ簡単ニ説明シ支那政府ニ於テ速ニ調印ノ運ビニ至ル様希望スル旨ヲ述ベタルニ陸ハ案文ハ直チニ政府ニ提出シ更ニ何分ノ挨拶ニ及ブベキ旨ヲ答ヘ案文ニ付詳細ノ質問ヲ試ミ本使トノ間ニ大要左ノ如キ説話ヲ交換セリ

陸曰ク第一号第二條ハ四月二十六日ノ最終案ニハ独逸国ニシテ烟濰鉄道借款権ヲ抛棄スルニ於テハ云々トアルモ今回ノ分ニハ借款権ヲ有セサルトキハ云々ト修正シアリ之ハ矢張リ最終案ノ通リ為シ置キタシ已ムナクハ支那文條約ニ右ニ該当スル部分ヲ借款権消滅スルニ至ラハ云々ト為スモ可ナリ本使曰ク夫ニテ差支ナカラント思考スルモ一応政府ノ訓令ヲ請フコトトスヘシ

陸曰ク第一号第四條ニ本條約ハ調印ノ日ヨリ効力ヲ生ズトアル所本條約ハ豫約ノ性質ノモノタルニヨリ直チニ効力ヲ生ズト規定シテハ如何アルベキヤト思考ス貴見如何本使曰ク豫約ノ性質アル各條約ニハ何レモ効力発生ニ條件ヲ附シアルニ付第四條ハ之ヲ存スルモ毫モ差支ナキ考ナリ陸曰ク本條ハ一応考量ヲ加フベキモ支那政府ハ削除ヲ希望ス陸又曰ク山東省ニ関スル條約附屬公文第一号第一中他国ニ租与又ハ譲与トアルモ之レハ従来屢々声明セル通リ他国ヲ外国ト修正シタシ

本使曰ク差支ナカラント考フルモ一応政府ノ意見ヲ確メ返答スヘシ

陸曰ク第二号第一條ハ四月二十六日ノ最終案ニハ旅順大連租借期限トアルモ今回ノ案ニハ遼東半島トアリ之レモ最終案通ナシ置キタシ元来支那ニハ遼東半島ノ語ナキノミナラズ此ノ際最終案若クハ最後通牒ニナキ新ナル文字ヲ使用スルニ於テハ自然外間ノ誤解ヲ招キ興奮セル人心ヲ更ラニ動揺スルノ虞アリ之レハ是非最終案通ナシ置キタシ

本使ハ（貴電第三五一号ノ趣旨ヲ敷衍シ）曰ク「遼東半島」ノ四字ニ改ムルコトヲ主張スルハ十分論拠アル次第ナルモ「明治三十八年十二月二十二日北京ニ於テ調印ノ満洲ニ関スル日清條約ニヨリ清国政府ガ日本国政府ニ於テ継承スルコトヲ承認シタル旅順大連竝ニ其ノ附近ノ領土及領水ノ租借竝ニ之レニ関聯スル権利等ノ期限」トスルモ差支ナカラン左ナクテハ旅大以外ノ租借地ヲ含マザルコトトナル虞アリ

陸曰ク旅順大連租借期限トスルモ断ジテ右様ノ誤解ヲ来タス虞ナシ旅順大連租借トスルモ其ノ基ク根拠ハ露清原約竝ニ満洲ニ関スル日清條約ニアルヲ以テ萬々右様ノ誤解ヲ生ズル虞ナシ尚クモ支那側ニ於テハ旅順大連租借地ト称スルモ其区域ハ該租借地ニ関スル露清原約ニ規定セル区域ト解釈シ一点ノ疑ノ存シ居ラザル次第ニ付最終案通リ為シ置キタシ既ニ最終通牒ニ接シ我政府ニ於テ之ヲ根拠ニ協議決定セル次第ナレバ是非共最終案通リ致シ置キタク又々新ナル修正ヲ承認スルニ於テハ政府部内ハ勿論外間ノ物議ヲ醸ス虞アルノミナラズ支那側ヨリモ内容ノ修正ヲ申出ヅルガ如キ虞アルニ付切ニ当方ノ説ニ同意アル様日本国政府ヘ転達アリタシ

陸又曰ク第二号第二條ハ丙案ヲ採用シタシ商租期限ハ土地慣習等調査ノ結果大抵十年ナルニヨリ十年ト定メタシ本使曰ク最近発布ノ満洲自開商埠章程ハ租借期限ヲ五十年ト定メアル由ナレバ尚クトモ満洲ノ土地商租期限ハ五十年以上ト規定シ置キタシ仕事ノ種類ニ依リテハ十年ノ如キ短キ期限ニテハ到底不可ナリ元来商租ノ事ハ永キ期限ヲ條件トシ承諾セルナリ然ルニ十年ノ如キ短キ期限ニテハ到底日本国政府ノ同意シ能ハザル所ナリ

陸曰ク満洲ノ例ハ商埠地ナレバ例トシテ引用スルコト妥当ナラズ右ハ商埠地ノ地面ヲ政府ニテ買上ケ更ニ外国人ニ転租スル仕組ナリ満洲内地ニ於テ日本人カ土地ヲ租借スルハ多クハ各個人ヨリ租借スル次第ナルヲ以テ土地ノ慣習ニ従ヒテ期限ヲ附スルヲ至当ト考フ且期限ヲ十年ト定ムルモ無條件更新ヲナスコトヲ得ルヲ以テ日本人ノ権利ハ十分ニ保護シ得ラルベシ

本使曰ク丙案ヲ支那政府ニ於テ採用スルニ於テハ必ス永キ期限ト無條件更新ノ二点ニ同意セラルルニアラザレハ日本国政府ニ於テ承諾シ難キ所ナリト信ス陸曰ク一応考慮ヲ加フベキモ五十年ト云フガ如キ長期ニハ到底同意スルヲ得ズ次ニ同ジク第二條丙案ハ必要ナル土地ノ地主（地主所有主若クハ業主）ヨリ商租スルコトヲ得ト修正シタシ本使曰ク其ノ必要ナシト考フ

陸曰ク第二号第四條第一項末段ニ日本国領事官ノ承認ヲ経

タル警察法令及ビ同ジク其承認ヲ経タル課税ニ服スベシトアルモ承認云々ノ意味合ハ是非條約面ヨリ取除キ公文ヲ以テ取極メ度又其公文モ満蒙ニ関スル條約附屬公文第七号ノ一ノ如ク承認ノ二字ヲ用ユル時ハ独立国タル体面上如何ニ考フルモ忍ビ難キ所ナルニ付他ノ適当ノ字句仮令バ接洽ト云フガ如キ字句ニ改ムルコトニ同意アリ度将又該公文案中後段（従テ右承認ヲ得サル場合ニ於テハ日本国臣民ニ対シ何等効力ヲ有セサル義ニ有之候）ハ削除ニ同意アリタシ本使曰ク承認ノ二字ヲ接洽ノ二字ニ改ムルコトハ日本国政府ニ於テ同意ヲ困難トスル所ナラント考フルモ支那政府ノ苦衷モ本使ニ於テ十分諒察シ居ル次第ニ付一応貴意ノ在ル所ハ政府ヘ転達シ其ノ意嚮ヲ伺ヒ置クコトスベシ又附屬公文第七号中ノ後段「右承認ヲ得サル場合ニ於テハ」云々ノ一節ハ之ヲ削除スルコトニ同意スルモ差支ナシト考フルモ請訓ノ上確答スヘシ

陸曰ク第二号第七條第一項中ニ資本家ニ取リ最モ有利ナル云々トアル一節ハ最終案ニハ無之ヲ以テ削除アリタシ右ハ其趣旨ニ於テハ別段異ナラザルモ今更最終案ニ無カリシ文句ヲ入ルル事ハ外間ノ非難ヲ招クノ虞アリ且最終案ハ最後通牒接手ト同時ニ交通部ニ於テモ十分研究ノ上可決セルモ宣言ニテ満足ナリトスレバ今回ノ提出案ハ自然消滅ニ帰スベキ筋合ナルベシ兎モ角交渉継続中ノ問題ナルニ拘ラズ一応ノ打合セモナク宣言ヲ発セラレタル次第ナレバ帝国政府ニ於テ如何考ヘ居ルヤモ知ル可カラズ本使又曰ク批准交換ノ場所ハ東京ト致シタシ御異存ナクハ同意アリタシ陸曰ク夫レニテ差支ナシ

右ハ本使ト陸トノ間ニ交換セル説話ノ要領ナルガ支那側ニ於テハ最終案及最後通牒ヲ政府ノ会議ニ附シ決定ノ上回答ヲ発シタル次第ナルヲ以テ此際余リニ変更スルコトハ字句ノ修正ト雖兎角同意ヲ肯ゼザルノ観アリ勿論最終確定ノ際字句ノ修正ヲ行フコトアルベキハ我方ヨリ屢次声明ノ次第アリ別段先方ヲシテ疑義ヲ挟マシムル筋合ニアラザルモ既ニ最終案及最後通牒ヲ以テ支那政府当局者ノ会議ニ附シ協議可決シタル今日ナレバ右ニ修正変更ヲ加フルコトハ陸ニ於テ最モ苦痛トシ居ルカ如キ次第ナルヲ以テ此点ハ特ニ考量ヲ加ヘラレ可成先方ノ希望ヲ容レ一日モ速カニ條約調印ヲ見ル様致度シ将又警察法令及ヒ課税ニ対スル日本国領事承認ノ件ハ支那側ニ於テ体面上最モ苦衷ノ存スル所ト察セラルルニ付都合ニヨリテハ先方希望ノ通リ接洽ノ二字ヲ承諾シ附屬公文末段ヲ「豫メ支那国官憲ニ於テ日本国領事官

ノナルニ付今更変更ヲ試ムル事ハ手続上ニ於テモ甚ダ困難ナリ本使曰ク趣旨ニ於テハ異ナル所ナキニ依リ削除スルモ差支ナカラント考フルモ一応政府ノ意見ヲ請訓スヘシ

満蒙ニ関スル條約附屬公文第一号ノ一中其ノ原條約第十二條ニ記載セル運転開始ノ日ヨリ三十六年後支那政府ニ於テ買戻シ得ルノ一節ハ援用スルコトナカルヘクトアル処（勿庸置議）ニ援用ノ二字ヲ該当セシムルハ妥当ナラザル様ナレハ（無効トスベク）ト修正スルニ異議ナキヤ陸曰ク（勿庸置議）ハ正ニ無効ニ該当スルニ付異議ナシ

陸又曰ク漢冶萍公司ニ関スル件ハ取極案ト公文案トアル処支那政府ニ於テハ公文案ヲ希望ス

本使曰ク日本国政府ノ希望ハ取極案ナルモ達テノ希望トアラバ政府ノ同意ヲ得公文案ヲ決定スルモ致方ナキ次第ナリ

陸曰ク福建問題ニ関スル公文交換ノ件モ是非乙案ヲ採ルコトトシタシ本使曰ク致方ナキコトト認ムルニ付政府ニ稟議ノ上同意スルコトトスベシ陸曰ク第四号沿岸不割譲ノ事ハ既ニ大総統令ヲ以テ之ヲ宣言セルニ付第四号案文ヲ廃棄スルコトトシタシ

本使曰ク該宣言ハ政府公報ニ拠リ承知セルニ依リ既ニ政府ニ報告シ置ケリ未タ何等回電ニ接セザルモ我政府ニ於テ右ト接洽ノ上施行スヘキ義ニ有之候云々」ト改正スルコトニ御詮議相叶フ間敷キ哉

又満蒙條約第四條中ノ旅券ノ件登録ノ件警察法令課税及共同裁判制度ノ事ハ已開商埠地ニ適用セラレザル次第及護照註冊ノ事ニ関シ第二十回会議ニ陸ノ言明セル次第ヲ文書ヲ以テ明瞭ニシ置クコトヲ本使ヨリ注意シ同意ヲ求メタルモ陸ハ右ハ何レモ当然ノ事ニテ其必要ナシト主張シ同意ヲ肯ンゼズ此事モ最終案若ハ最後通牒以外ノ新シキ事項トシテ支那政府部内ニ対スル思惑上陸ニ於テ承諾ノ意ヲ表セザルモノト察セラレ絶対ノ必要ナクバ之ヲ撤回シテハ如何カト思料ス

四五〇　五月十七日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

膠州湾租借地還附ニ関スル公文案ヲモ陸総長ニ交附済ノ旨報告ノ件

第二八七号

五月十五日ノ会見ニ於ケル條約案等提出ノ模様ハ往電第二八五号ヲ以テ詳細報告ノ通ナルカ当日陸ヨリ膠州湾還附ノ

義ヲ文書ニ認メ置カンコトヲ切ニ希望セルニ依リ最後通牒ノ内容ニ顧ミルモ先方ニ於テ此ノ希望ヲ主張スルノ当然ナルヲ認メ貴電第三三三号ノ五ノ趣旨ニ依リ膠州湾租借地還附ニ関スル往復公文案ヲ陸ニ交附シ置ケリ右報告漏ノ次第補足旁電報ス

四五一　五月十七日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

日中交渉ニ関スル中国政府ノ公表書ニ付稟申ノ件

第二八八号

貴電第三五六号ニ関シ在英大使三箇電報ノ通信ハ何レモ往電第二七九号「コンムニケ」ニ基クモノニシテ右以外支那側ヨリ公表シタルモノナシ将又貴電ニ依レバ帝国政府ニ於テハ支那政府ノ公表書ニ対シ打消シ方法ヲ講ゼラルル御趣旨ナルガ如キモ這回ノ如キ場合ニ彼我ノ間ニ其主張見解ニ関シ一致ヲ缺クハ寧ロ当然ノ義ト存ズルニ付既ニ和平解決ノ今日此上公表書ノ細目ニ亘リ論難弁駁ヲ繰返スコトハ両国ノ感情融和上面白カラザルノミナラズ又我襟度ヲ示ス所

以ニモアラザルベシト思料ス篤ト御詮議ヲ請フ

四五二　五月十七日　在北京坂西陸軍大佐ヨリ長谷川参謀総長宛（電報）

袁大総統ノ日中交渉ニ関スル批評談報告ノ件

坂極秘八号

日支交渉ノ解決ノ今日ニ於ケル袁大総統ノ言左ノ如シ

貴我両国ノ交渉兎ニ角平和ニ解決セリ抑々今回貴国ノ交渉振リハ余リニ活潑ニ過ギ欧米各国ノ関係ヲ顧ルコト稍々疎ナルヤノ感アル此レ其解決ヲシテ却テ多少困難ナラシメタルニ非ズヤ又之レガ為メ欧米各国ヲシテ貴国ニ対シ批難ノ声ヲ高ムル者比較的多ク幾分カ貴国政府ノ信用ヲ損シタルコト無キヤ如何又交渉ノ事項モ主権ニ損害アリテ例ヘハ領土ノ割譲ノ如キモノナル時ハ両国其主張ヲ曲ゲザル結果遂ニ戦争ト成ル可キコト有ルベキモ今回ノ如キ問題ニテハ仮ヘ両国間ニ意見ノ一致ヲ缺クモ是レヲ以テ開戦ノ理由ト為スハ少シク物足ラヌ様ニ思ハル然ルニ貴国ハ其名ハ交代ナルモ多数ノ軍隊ヲ各地ニ増遣シタル為メ我国官民ヲシテ痛ク恐レシメ其結果感情ノ疎隔ヲ来シタルハ遺憾ナリ、予ハ

交渉中モ極力官民ヲ制圧シテ軽挙妄動ナカラシムル為メ努メタリシモ既ニ交渉解決ノ今日漢口ニテハ小暴動アリシハ頗ル遺憾トスル所ナリ

今ヤ欧洲戦争ハ我等東洋ノ貿易ニ悪影響ヲ与ヘツツアル上ニ加ヘ貴我両国官民意思疎隔ノ為メ諸般実業経済上ニ相互ノ損失ヲ蒙ルハ誠ニ忍ビザル処ニシテ此交渉解決ノ好機ニ乗ジテ極力相互ノ融和親善ヲ計ラザルベカラズ支那ニ於テモ南方人ハ北方人ニ比シ多少中央政府ノ意思ヲ覚ユルニ迂遠ナリト雖ドモ是ヲ前清時代ニ比スレバ能ク我言ヲ聴ク故ニ大ニ遣リ易シ予モ亦大ニ努ム貴国ニテモ亦大ニ此点ニ注意セラレンコトヲ希望ス云々ト謂ヘルヲ以テ小官ハ近時上海及南支那ニ於テハ表面上官憲ノ取締厳ナル為メ公然日貨排斥ヲナスコト無キモ却テ裏面ニ於テ巧ニ之ヲ行ヒ或ハ救国貯金或ハ国家維持等ノ名義ヲ借リ又過日北京商務総会ノ各地ニ発送セル激烈ナル電報ノ如キハ益々日支両国人ヲシテ疏隔セシムル機動タル可シ此際多少民心ヲ刺激シテ愛国心ヲ起サシメ其団結力ヲ鞏固ナラシムルコトハ貴国ノ為メ正ニ好機会ナルベシト雖モ苟モ其度ヲ過クルトキハ大総統ノ謂ハレタル日支ノ親善ハ遂ニ計リ得ベカラザルニ至ルヤモ知ルベカラズ懸念ニ堪ヘズト述ベタルニ大総統曰ク誠ニ然リ唯タ救国貯金ノ如キハ斯カル悪意ヲ有スルモノニアラザルベキモ要スルニ此際日貨排斥ト云フ如キコトヲ為スハ却テ支那ノ自ラ損失ヲ招クニ至ルハ予モ能ク知レルヲ以テ漢口ニ事モアリタレバ直接ト間接トヲ問ハズ斯ル風潮ノ起ラヌ様厳密ニ取締ルベク更ニ命ジ置ケリ然シ事アル毎ニ国民ヲ煽動スル風ハ是ヲ貴国浪人ニ学ビタル処多シトテ笑ヒ去レリ小官ハ夫レハ米国風ナルベシト謂ヘリ尚大総統ハ更ニ口ノ中ニテドウモ貴国ノ交渉振ハ活潑過ギルトノ言ヲ繰リ返セリ余程感ジタルモノト信セラレタリ

要スルニ右ハ大総統ガ小官ニ対シ心安立テニ我外交ガ稍近視眼的ナリトノ評言ヲ暗示セルト同時ニ其結果欧米各国ニ対シ信義ヲ失ヒ支那官民上下ノ感情ヲ害シタルハ彼我商工業ニ多大ノ悪影響ヲ蒙リタルヲ以テ之ヲ回復セザルベカラズト言明シタルモノナリ

交渉一決後ハ政府員追々打解ケ来リ就中大総統ノ左右ニ最モ接近セル三太夫ノ一人ハ語リテ曰ク交渉平和ニ解決シテ目出度シ今若萬一決裂セバ日支両国共倒レナリ大総統モ今ヨリ十年シタラ此様ニ困難ノ問題ハ起ラザルヘシト云ハレ居レリ結局ハ富国強兵ノ実ヲ挙ゲ立派ニ日本ト対等ノ位置ヲ得ベシト云フコトナラン然シ支那現在ノ人間ニテハ到底

大総統ノ希望ハ達シ得ザルベシ云々トテ支那人ノ無能ヲ挙ゲテ之レヲ打消シ居レリ是レ蓋シ大総統ノ唯一意図ナルガ如シ心情一端ヲ謂ヒ現ハシタルモノト信ス

四五三　五月十七日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

條約案及公文案ノ起草上ノ修正点ニ関シ回訓ノ件

第三五八号

貴電第二八五号ニ関シ

(一)　山東ニ関スル條約第二條ハ此上ノ論議ヲ避クル為メ四月廿六日ノ我最終案通リノ用語即抛棄云々ヲ採用スルコトト致スヘシ

(二)　同條約第四條効力ノ件ニ付支那側申出ノ次第ハアルモ元来本條ハ豫約ノ効力ヲ生ズル時期ヲ定メシモノナルニ付之ニテ差支ナキ筈ナリ且ツ満蒙ニ関スル條約第九條トノ権衡上及体裁上ヨリ云フモ成ルヘク我案文通リト致置度シ乍併支那側ニテ強キテ異議アリテ到底其同意ヲ得ル見込ナケレバ山東ニ関スル條約中ヨリ効力発生期日ニ関スル規定ヲ削除スルモ差支ナシ

(三)　満蒙ニ関スル條約第一條租借権ノコトハ成ルヘク往電第三五一号ノ案文ト致置度シ已ムヲ得ザルニ於テハ「旅順大連租借期限」ト為スコトトシ一面貴官ヨリ陸総長宛書面ヲ以テ『陸ニ於テ旅順大連租借期限トスルモ断シテ旅順大連以外ノ租借地ヲ含マサルコトトナルガ如キ誤解ヲ来ス虞ナシ旅順大連租借トスルモ其ノ基ク根拠ハ露清原約竝ニ満洲ニ関スル日清條約ニアルヲ以テ萬々右様ノ誤解ヲ生ズルコトナシト信ス勘クモ支那側ニ於テハ旅順大連租借地ト称スルモ其区域ハ該租借地ニ関スル露清原約ニ規定セル区域ト解釈シ一点ノ疑ヲ存シ居ラザル次第ニ付最終案通リ為シ置タシトノ旨言明（貴電第二八五号ノ六）セルニ付玆ニ旅順大連租借期限ノ文字ヲ用ユルコトニ同意スルモノナル旨』申入レ単ニ右ヲ支那側ニテ「アクノレッジ」セシメ置クコトト致度シ尤モ右往復ハ支那側ノ希望ニヨリテハ発表セサルコトトスルモ可ナリ

(四)　商租期限ノコトハヨシ無條件更新ヲナシ得ルトモ十年ニテハ萬事ニ不便且煩雑ナルニ付是非三十ヶ年ト取極ムルコトト相成様御尽力アリ度シ「地主云々」ノコトハ支那側ノ希望ニ応ジ難シ

(五)　警察法令及課税ノ件ニ関スル「接洽」ナル文字ハ日本語ニナキ語句ニシテ意味明瞭ナラズ従テ枢密院等ニ於ケル説明ノ場合ニモ甚ダ都合悪シキニ付已ムナクバ支那文ノ方ニハ「接洽」ノ文字ヲ用ヒ日本文ノ方ニハ右ニ該当スル日本文トシテ「豫メ支那国官憲ニ於テ日本国領事官ト協議ノ上施行スヘキ義ニ有之候云々」ト改ムルコトトスベシ尚右ニ関スル公文ハ密約トスルヲ要セザル支那側ノ意向ノ様見受ケラルル処如何ニヤ為念電報アリ度シ

(六)　貴電第二八五号ノ十旅券登録警察法令課税裁判等ノコト既開商埠地ニ適用セラレサル件及護照註冊ノ件ハ貴官ヨリ陸総長宛書面ヲ以テ陸ニ於テ何レモ当然ノコトニテ必要ナシト認ムル旨言明セルニ付之ヲ撤回スル旨申入レ之ヲ「アクノレッジ」セシメ置クコトト致度シ右往復モ亦発表セザルコトトスルモ可ナリ

(七)　其他貴電第二八五号記載ノ諸点ハ何レモ差支ナシ

四五四　五月十七日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

中国側ガ條約案文起草上ノ修正ヲ申越来レルニ付詮議方請訓ノ件

第二八九号

五月十七日曹汝霖本使ヲ来訪シ五月十五日受領セル日本文條約案中満洲及蒙古ニ関スル條約第六條ノ東部内蒙古ニ於ケル農業及附随工業経営ノ件ハ将来東部内蒙古ニ開カルヘキ商埠地ノミニ適用セラルベキモノニアラサル限斯業ニ従事スル日本人ニ対シテハ矢張南満洲ニ於ケルト同様ニ支那ノ警察法令及課税ニ服従シ裁判制度ノ件モ同一ノ規定ヲ援用スヘキモノト信セラルルニ付テハ第六條ヲ第四條トシ第四條ヲ第五條トシ同條ノ「前二條ノ場合ニ於テ云々」ヲ「前三條ノ場合ニ於テ云々」ト改メ以下順次條項ヲ繰下グルハ何等字句ノ修正若ハ追加等ヲ要スルコトナク趣旨極メテ明瞭トナルベク是非右様同意アランコトヲ望ムト述ヘ元来東部内蒙古ノ件ハ討議ヲ用ヒズ最後通牒ニ依リ一併ニ承諾ニ及ビタル行懸上斯ル手脱（テヌカリ）ヲモ生ジタル次第ナレバ帝国政府ニ於テモ切ニ諒察アランコトヲ請フト云ヘルニ付本使

ハ一応政府ヘ禀議ノ上諾否回答ニ及ブベキ旨ヲ答ヘ置ケリ

五月十八日午後四時小幡高尾両書記官ヲ曹汝霖ニ会見セシメ日支両文ノ打合等ヲ為サシムル筈ニ付可相成ハ右時刻ニ間ニ合フ様往電第二八五号ノ件ト併セテ至急御詮議ノ上何分ノ義御電訓ヲ請フ尚曹汝霖ハ支那側ニ於テハ可成速ニ條約ヲ確定シタキ希望ニ付準備整ヒ次第五月二十一日頃調印ヲ了シタシト云ヘリ

四五五　五月十七日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

南満東蒙條約ニ関シ中国側ヨリ修正申出ニ付請訓ノ件

第二九〇号

往電第二八九号ノ件ニ次デ曹汝霖ハ満洲蒙古ニ関スル條約第二條第三條第四條ノ件ヲ通シ之カ実行ニ際シテハ当該地方ノ裁判官警察官等ノ人選交代ハ勿論凡テノ準備ヲ整フルノ必要アルニ付勘クトモ本條約実施ハ批准交換後三ヶ月ノ余裕ヲ与ヘラレタク右ノ趣條文中ニ取極メ置タシト云ヘルニ付本使ハ帝国政府ニ於テハ本條約ハ調印ノ日ヨリ効力ヲ生スト規定スルノ必要ヲ認メ居ル位ナレバ期限附ノ実施ヲ取極ムルガ如キハ到底同意出来ズト答ヘタルニ曹汝霖ハ然ラバ第二條第三條第四條ノ規定ノミ実施期限ヲ附スルコトニ別ニ公文ヲ以テ取極メ置キテハ如何ト云ヘリ何分ノ義前電ト同時ニ御電訓アリタシ

四五六　五月十八日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

不割譲宣言ニ関スル中国側ノ措置振報告ノ件

第二九一号

（註）貴電第三五三号ニ関シ五月十七日曹汝霖来訪ノ節確メタルニ曹汝霖ハ支那側ニ於テハ該宣言書ヲ関係各国ヘ通告スルカ如キハ勿論一切何等ノ措置ヲモ執ラサルコトニ決定シ居レリト答ヘタリ

註　不割譲宣言ニ関スル件

四五七　五月十八日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

條約案及公文案修正問題ニ付回訓ノ件

第三六〇号

貴電第二八九号旅券登録警察法令課税及裁判ノ件ハ支那側申出通リ取計フコトニ同意相成差支ナシ従テ往電第三五八号ノ(六)貴官ヨリ陸総長宛書面ノ件ニ東部内蒙古ヲ含ムコト相成ルハ勿論ナリ貴電第二九〇号第二條乃至第四條実施期限延期ノコトハ承諾シ難シ実ハ右ニ付テハ我方ニ於テモ相当準備ヲナスノ要アル次第ナルノミナラズ実際ニ於テハ今俄カニ本邦人ノ満蒙内地ニ入込ムモノハ極メテ少数ナルベシト思考スルニ付旁日支両国トモ出来得ル限リ準備ヲ取急ギ其間ニ問題起ラバ相互ニ和衷協同臨機ノ処置ニ出ヅルコトトシ兎モ角條約ニハ成ルベク速ニ調印シ以テ事態ヲ確定シ両国国民ニ安心ヲ与フルコトト致度ニ付右ノ趣旨ニテ可然支那側ヘ回答相成度シ

四五八　五月十八日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

南満青島北支ノ各増遣隊帰還ノ予定通報ノ件

第三六四号

貴電第二八三号ニ関シ陸軍省ニ確メタル処南満洲増遣隊ハ五月二十二日ヨリ六月七日迄ノ間ニ、青島守備軍増遣隊ハ五月十六日ヨリ二十六日迄ノ間ニ何レモ乗船逐次帰還シ又北支那増遣隊ハ六月三日大連ニテ乗船帰還ノ途ニ就ク豫定ナリトノコトナリ御参考迄

四五九　五月十九日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

條約案文其他ニ関シ打合ノ為小幡高尾曹汝霖ト会見シタルニ付右内容報告ノ件

第二九四号

往電第二八九号末段報告シタル通五月十八日午後四時小幡高尾両人ヲ外交部ニ遣シ曹汝霖等ト会見條約案文其ノ他ニ関シ打合ヲナサシメタル所同人等ノ復命左ノ如シ

(一)　支那側ヨリ支那文條約案公文案ヲ交付セルニ付調査ノタメ右書類ヲ持チ帰レリ

(二)　旅大租借地区域解釈ノ件及護照註冊竝ニ日本国臣民ニ対シ警察法令課税適用共同裁判事項ハ之レカ効力ヲ開放地ニ及ボササル件等ヲ公文ニテ往復スルコトハ（仮令貴電第三五八号ノ二及五ノ意味丈ニテモ）最後通牒ニ記載セル文書以外ノ事項トシテ同意ヲ肯ゼズ曹ハ兎モ角日本国政府ノ希望ハ陸総長ニ通ジ置クベキモ同意困難ナラント明言セリ右ニ対シ小幡等ハ右ハ陸総長ニ於テ一再ナラス言明シタル事柄ニシテ併モ事態頗ル明瞭ナル問題ヲ故ナク拒絶スル理由ナキヲ説キ萬一支那側ニ於テ最後通牒ニ無之ヲ理由トシ右ノ事柄ヲ拒絶スルニ於テハ勢ヒ日本側ニ於テモ警察法令課税ニ関シ承認云々ノ件ニ付テモ支那側ノ希望ニ応ジ文字変更ヲ承諾シ得ザル破目トナルベク将又東部内蒙古ニ於テ合辦事業ヲ営ム日本人ニ第四條ヲ適用スルコトモ自然日本側ニ於テ同意ヲ困難トスルニ至ラント解セザルヲ得ズト考フル旨ヲ告ゲ極力反省ヲ促シ置ケリ

(三)　曹公式ニ述ブル訳ニハアラザルモ去ル十四日ハ口頭ニテ又昨十七日ハ書面ヲ以テ米国公使ヨリ今回日本国ガ支那ヨリ獲得スヘキ権利ニ関シテハ米国人民ハ最恵国條款ニ依リ当然之ニ均霑シ得ベキハ勿論ナルモ日本国領事ノ

承認シタル警察法令及課税――ニハ米国人民ヲシテ服従セシムル限ニアラザル旨既ニ支那政府ニ申出デタル様ノ次第ニテ今後他各国ヨリモ同様ノ申出アルベシト豫想セラル斯クテハ支那ノ警察法令等ハ支離滅裂トナル虞アリ故ニ承認（警察法令及課税ニ対スル）云々ノ文字ハ成ルベク軽キ意味ノ字句ニ改メザレバ支那ノ法令ハ一々各国領事ノ承認ヲ経ザレバ満洲ニ於テ行ハレザルコトトナリ主権ノ損失之ヨリ甚シキモノナキ次第ナリ云々ト陳述シ協議ノ上施行スベシト改ムルモ実質ニ於テハ承認ノ意味ト同一ナリトテ重テ字句ノ改正ヲ主張シタリ

(四)　満蒙條約第二條附屬土地商租ニ関スル公文中ニハ是非共業主ヨリ商租スルコトニ修正シタク又商租年限ハ二十年ヲ越エズトシタキ旨曹ヨリ申出デタルニ付小幡等ハ業主ヨリ商租スル旨ヲ明記スルコトハ帝国政府ニ於テ同意セズ商租期限ハ勘ナクモ三十年以上トスルノ必要ナル旨ヲ主張セリ

(五)　往電第二九〇号曹申出ノ通勘クトモ満蒙條約第二條第三條第四條ノ効力発生ノ期限ヲ諸般ノ準備ノ為三ヶ月ノ後トスルコトヲ日本国政府ニ於テ同意セズバ批准交換ハ三箇月許リ裕（ユト）リヲ取リ置クベキコトヲ希望スル旨重テ曹

ハ主張セリ

(六)　本使ハ支那文案ヲ篤ト査閲ノ上明日重テ小幡高尾両人ヲ外交部ニ遣ハシ曹汝霖ト会見打合ヲ遂ゲシムル筈ニ付其上ニテ更ニ詳細電報スヘシ

四六〇　五月十九日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

中国側ニ於テ條約ノ調印ヲ急グ事由ニ関シ回報ノ件

第二九六号

貴電第三六三号ニ関シ支那当局者ニ於テ條約其他ノ調印ヲ急ギ居ル事情ニ付テハ目下ノ処特ニ之ト目スベキ理由断定シ難ク一時ハ本使ニ於テ支那側ノ斯ク調印ヲ急グハ或ハ條約ヲ世界ニ発表シ外国筋ノ抗議ニテモ期待スルガ為ノ底意アルニアラズヤトノ疑念ヲ挟ミタルコトナキニアラザルモ其後支那側ノ字句修正等ニ対スル熱心ナル態度ニ徴スレバ必ズシモ右ノ如キ底意アリトモ考ヘラレズ寧ロ過日来曹汝霖等カ言明シ居ルガ如ク其目的ハ一日モ速ニ條約等ニ調印ヲ了シ其公表ト同時ニ委曲説明ヲ与ヘ以テ今尚不安ノ念ヲ抱キツツアル人心ニ安堵ヲ与ヘントスル趣旨ニ外ナラズト観察スルノ外ナカルベシト思料ス

四六一　五月十九日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

條約案及公文案ノ修正打合ニ関シ報告及請訓ノ件

第二九八号

往電第二九四号報告シタル通五月十九日再応小幡高尾ヲ外交部ニ派遣曹汝霖等ト打合ヲ為サシメタリ其要領左ノ如シ

(一)　満蒙條約ノ表題ハ支那側ニ於テ「南満洲及東部内蒙古ニ関スル條約」トスルコトヲ強硬ニ主張シ譲ラス小幡等ハ本條約ハ満洲ニ関スル日清條約ト論理上同様ノ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ其表題モ満洲及蒙古ニ関スル條約トスルノ至当ナル旨ヲ説明シタルモ曹汝霖ハ明治三十八年ノ條約ハ商埠地開放ノ如キ問題アリ満洲全体ニ関スルモノアルニ付其表題ハ右ニテ差支ナカランモ今回ノ條約ハ絶対ニ南満洲及東部内蒙古ニ限ラルル次第ナルヲ以テ

支那側ノ主張ヲ容レラレタシト主張セル由ナリ本件ニ対スル御意見至急御回示アリタシ絶対必要ナキ限リ先方ノ主張ヲ容レラレ可然カト思料ス

(三)　満蒙條約第二條及附屬公文中土地商租ニ関シ業主若クハ地主ヨリ云々ノ字句ヲ挿入スルコトハ支那側ニ於テ其ノ修正説ヲ撤回セリ商租期限ハ三十年トスルコトヲ承諾セルモ三十年以上トスルコトハ絶対ニ同意セズ支那側ハ三十年ヲ過ギザルノ期限云々トスヘキコトヲ主張セリ本件モ此辺ニテ折合ヒ可然カ

(三)　警察法令及課税ニ関スル承認ノ二字修正ノ件及東部内蒙古ニ於テ農業合辦及附屬工業ニ従事スル日本国臣民ニ対シ満蒙條約第四條ヲ適用スル件ハ支那側ニ於テ別項(四)ノ件ヲ同意セザル限リ自然日本国政府ニ於テ支那ノ希望ヲ容レズ最後通牒通リトスルモ差支ナキヤト小幡等ニ於テ念ヲ押シタルニ曹汝霖ハ致シ方ナシト答ヘタル由ナリ就テハ本件処分ニ付何分ノ御意見至急承知シ置キタシ尚承認ノ二字ヲ支那文ニテ「接洽後施行」日本ニテ「協議ノ上施行スヘシ」トスルコトニハ支那側ニ於テ異議ナシ

(四)　護照註冊ニ関スル公文警察課税及共同審判ノ件ハ商埠ニ適用セザルベキ旨ノ公文及旅順大連租借地区域解釈ニ関スル公文ノ交換ハ最後通牒以外ノ文書ニシテ此上外間ノ物議ヲ招クガ如キコトハ之ヲ承諾スルヲ得ズト曹等ニ於テ最強硬ニ主張シタル由ニテ絶対的ニ右様ノ公文ヲ取附クル望ナシ本件モ支那側従来ノ口頭言明アルニ依リ此際之ヲ撤回スル外ナカラン

(五)　鉱山採掘ノ名目ノ條下ニ在ル鉱種ヲ削ルコトモ前同断同意ヲ肯ゼズ之レモ最後通牒通ト致ス外ナカラム

(六)　漢冶萍公司ニ関スル公文中「支那国政府ハ日本国ト漢冶萍公司トノ関係云々」トアルヲ「支那国政府ハ日本国資本家ト漢冶萍公司トノ関係云々」ト修正シタキ旨主張セル由本件ハ別段差支ナキモノト認メラルルモ何分ノ御回訓ヲ乞フ

(七)　日本文條約案其ノ他ノ修正箇所竝ニ漢文案ハ別電ヲ以テ電報ス

四六二　五月二十日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

日本文條約案及公文案ノ修正箇所報告ノ件

別電第二九九号

山東省ニ関スル日本文條約中訂正ノ箇所左ノ通

第一條中「協定スヘキ」ヲ「協定スル」ニ改ム

第二條中「借款権ヲ有セサルトキハ」ヲ「借款権ヲ抛棄シタルトキハ」ニ改メ「独逸国ガ」ノ下「既ニ」ヲ削除ス

第四條「速ニ」ノ下ニ「東京」ノ二字ヲ挿入ス

満洲及蒙古ニ関スル日本文條約中訂正ノ箇所左ノ通

條約ノ名称ヲ南満洲及東部内蒙古條約ト改ム（但シ帝国政府ノ同意ヲ留保セリ）

第一條中「遼東半島」ヲ「旅順大連」ニ改ム

第二九九号ノ二

第六條ヲ第四條トナシ「日本臣民ハ」ヲ「日本国臣民カ」ニ改メ「経営ヲナスコトヲ得」ヲ「経営ヲナサントスルトキハ支那政府之レヲ承認スヘシ」ニ改ム第四條ヲ第五條トシ「前二條ノ場合」ヲ「前三條ノ場合」ニ改ム「又日本国領事官ノ承認ヲ得タル」及「同シク其承認ヲ経タル」ヲ削除ス第五條ヲ第六條トス第七條「規定中資本家ニ取リ最モ有利ナル條項」ヲ「規定事項」ト改ム

第二九九号ノ三

山東省ニ関スル條約附屬公文中改訂ノ箇所左ノ通

第一号ノ(一)及(二)ノ「他国ニ租与」ヲ「外国ニ租与」ト改ム

第二号ノ(一)及(二)ノ「開埠章程」ヲ「商埠章程」ニ改メ「支那国政府ヨリ豫メ」ヲ「支那国政府自ラ之ヲ擬定シ豫メ」ト改ム

満洲及蒙古ニ関スル條約附屬公文中改訂ノ箇所左ノ通

第一号ノ(一)及(二)ノ（但シ帝国政府ノ同意ヲ保留セリ）「遼島半島」ヲ「旅順大連」ニ改ム「一節ヲ援用スルコトナカルヘク又」ハ「一節ハ之ヲ無効トスヘク又」ニ改ム

第二号ノ(一)及(二)「第五條」ハ「第六條」ニ改メ「開埠章程」ヲ「商埠章程」ニ改メ「支那国政府ヨリ豫メ」ヲ「支那国政府自ラ之ヲ擬定シ豫メ」ト改ム

第三号ノ(一)及(二)鉱種ノ項ハ之ヲ列記ス（但シ帝国政府ノ同意ヲ留保セリ）

第二九九号ノ四

第六号ノ(一)及(二)「〇〇年以上」ヲ「三十箇年迄」ニ改ム（但シ帝国政府ノ同意ヲ留保セリ）第七号ノ(一)及(二)「第四

條」ヲ第五條ニ改ム「ニ承認ヲ求ムヘク」ヨリ「何等効力ヲ有セサル」迄ヲ「ト協議ノ上施行スヘキ」ニ改ム

漢冶萍公司ニ関シ往復公文中訂正ノ箇所左ノ通

「日本国ト漢冶萍公司トノ」ヲ「日本国資本家ト漢冶萍公司トノ」ニ改ム（但シ帝国政府ノ同意ヲ留保セリ）

福建省ニ関シ往復公文中訂正ノ箇所左ノ通

「意志」ヲ「意思」ト改ム　（終リ）

四六三　五月二十日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

調印批准ニ際シテノ中国側ノ希望事項ニ関シ請訓ノ件

第三〇〇号

往電第二九八号小幡等曹汝霖ト打合ノ際批准ニ関シテハ調印後速カニ東京ニ於テ交換スルコトニハ異議ナキ次第ナルモ満蒙條約（別電第二九九号）第二條第三條第四條第五條ノ実行ハ準備ノ都合上調印ヨリ三個月後ニスヘキ旨公文ヲ以テ約シ置キ度コトヲ申出デ若シ右ノ希望ヲ日本国政府ニ於テ容レザルニ於テハ批准交換ハ調印ヨリ三箇月後ニ於テスベキコトヲ主張セザルヲ得ザル旨重ネテ言明セリ本件ニ対スル御意見モ前電ニ対スル分ト共ニ折返シ至急御回電ヲ請フ

四六四　五月二十日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

中国文條約案ノ修正箇所報告ノ件

第三〇二号（別電）

山東省ニ関スル支那文條約中修正ノ箇所左ノ通リ

〔大正四年四月二十八日附機密第一二二号拙信ヲ以テ送附シタル我最後修正案支那文写ニ基キ御検閲ヲ請フ）前文ハ左ノ通リ改ム」

大日本國大皇帝陛下及大中華民國大總統閣下爲維持極東全局之平和並期待現存兩國友好善隣之關係益加鞏固起見決定締結條約爲此大日本國大皇帝陛下及大中華民國大總統閣下任命〇〇大中華民國大總統閣下任命〇〇爲全權委員互示其全權委任狀認爲良好妥當議定條項如左

第三〇二号ノ二

第一條　「日本國政府」ノ下「擬」「所有」ノ次ニ「德國」ヲ加フ

第二條　「允准」ヲ「允諾」ト改ム

第四條　本條約由蓋印之日起即生効力本條約應由大日本國大皇帝陛下大中華民國大總統閣下批准其批准書従速在東京互換爲此兩國全權委員繕成日本文中文各二份彼此於此約内簽名蓋印以照信守（以下新章）

第三〇二号ノ三

南満洲及東部内蒙古ニ関スル條約（大正四年四月二十八日付機密第一二二号拙信ヲ以テ送付シタル我最後修正案支那文写ニ基キ御検閲ヲ請フ）前文ハ左ノ通リ改ム

大日本國大皇帝陛下及大中華民國大總統閣下爲發展在南滿洲及東部内蒙古兩國間之經濟關係起見決定締結條約爲此大日本國大皇帝陛下任命〇〇大中華民國大總統閣下任命〇〇爲全權委員各全權委員互示其全權委任狀認爲良好妥當議定條項如左

第一條　（兩訂約國）ヲ（兩締約國）ニ改メ（兩締約國）ノ下（互相）ヲ削ル（兩鐵路）ノ下（之）ヲ加フ

第三〇二号ノ四

第二條　（農業可得租賃或購買其須用地畝）ヲ（農業得商租其需用地畝）ト改ム

第三條　（商工業）ノ下（等）ヲ削ル

第四條　如有日本國臣民及中國人民願在東部内蒙古合辦農業及附隨工業時中國政府允准之

第五條　（第二号第三款第二項ニ同シ但シ左記ノ通修正ス）

第三〇二号ノ五

「前二款」ヲ「前三條」ニ改ム「照例所願」ノ下ニ「之」ヲ加フ「由日本國領事官承認之」ヲ削ル「警察法令」ノ上ニ「中國」ヲ加フ「及課税」ノ下「至」ヲ削ル「民刑訴訟」以下ヲ別行トス「其日本人被告者」ヲ「日本國臣民爲被告時」ニ改ム「各審判」ノ「各」ヲ削ル「日本人」ヲ「日本國臣民」ニ「中國人」ヲ「中國人民」ニ改メ「民事訴訟」ノ上ニ「之」ヲ加フ「將來該地方」以下ハ別行トシ「將來」ノ上「俟」ヲ削ル

第三〇二号ノ六

第六條　中國政府允諾爲外國人居住貿易起見従速自開東部内蒙古合宜地方爲商埠

第七條第二項　將來中國政府關於鐵路借款將較現在鐵路借款合同事項爲有利之條件給與外國資本家時依日本國之希望再行改訂前項合同

第八條　「本協約」ヲ「本條約」ニ改ム「仍」ノ下ニ「照」ヲ加フ

第三〇二号ノ七

第九條　本條約由蓋印之日起卽生効力

本條約應由大日本國大皇帝陛下大中華民國大總統閣下批准其批准書從速在東京互換

爲此兩國全權委員繕成日本文中文各二份彼此於此約內簽名蓋印以照信守

山東省ニ関スル條約附屬公文第一号ノ㈠第二号ノ㈠満洲蒙古ニ関スル條約附屬公文第一号ノ㈠第二号ノ㈠第三号ノ㈠第四号ノ㈠第五号ノ㈠第六号ノ㈡第七号ノ㈡

漢冶萍公司ニ関スル公文外交総長来信福建問題ニ関スル公文外交総長回答末段

第三〇二号ノ八

膠州湾還附ニ関スル公文外交総長回答等ノ各文書ハ孰レモ我日本文案ヲ其儘支那側ニ於テ照会文体ニ支那訳シ〔往電第二九九号日本文修正事項通リト同様ノ修正ヲ加フ尤モ満洲及蒙古ニ関スル條約附屬公文第一号ノ㈠及㈡（之ヲ無効トス）ハ（勿庸置議）同第七号ノ㈠及㈡（協議ノ上施行スヘキ儀ニ有之）ハ（接洽後施行）トセリ〕我方ニ於テ厳密諾シタルニ顧ミ護照注冊ノ件警察課税等ノコト商埠地ニ及バサル件及租借地区域解釈ノ件ノ三公文往復ノコトヲ承諾スル様致度旨申入レラレ度右ハ公文交換ト言フ程厳格ナルモノニ非ズ只我方ニ於テ将来ノ為念ヲ押シ置ク趣旨ニ外ナラザル故支那側ニ於テモ最後通牒ニナキコト云々ヲ理由トシテ左迄執拗ニ拒絶スル理由ナキヤニ思考セラル殊ニ支那側ガ自己ノ都合ヨキ事ノミ新タナル変更ヲ申出デ我方ノ希望ハ斯ク当然軽易ノコト迄漫然承引ヲ肯ゼザルハ不都合至極ニ付其辺十分先方ノ注意ヲ喚起セラレ可然説得ヲ遂ゲラレ度シ尚右ハ都合ニ依リテハ会議録体ノモノニ認メ雙方記名スル丈ケニテモ可ナリ尤モ右ノ如ク貴官ヨリ説得サルルモ尚支那側ノ同意ヲ得ザルニ於テハ速ニ交渉ヲ完結セシメンカ為メ已ムヲ得ザルニ付(イ)承認ノ文字ノ件(ロ)第四條適用ノ件(ハ)三箇月猶豫ノ件共前記ノ所ニテ折合ハレ差支ナシ但シ其場合ニハ三ヶ月猶豫ニ関スル公文案ハ別電第三七〇号ノ通リニセラレタシ

(2)　其他貴電第二九八号記載ノ諸点ハ何レモ差支ナシ

検閲ヲ加ヘ誤訳ナシト認メラルル処矢張リ全文電報スヘキヤ何分ノ儀御電訓ヲ請フ　（終）

四六五　五月二十日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛（電報）

條約案公文案起草上ノ修正ニ関スル中国側ノ希望事項等ニ付回訓ノ件

第三六九号

貴電第二九八号及第三〇〇号ニ関シ

(1)　帝国政府ニ於テハ支那政府側ノ事情ヲ諒トシ其懇望ヲ容レ(イ)警察法令及課税ニ関スル承認ノ二字ハ支那文ニテ「接洽後施行」日本文ニテ「協議ノ上施行スヘシ」トスルコトニ折合ヒ(ロ)東部内蒙古ニ於テ農業合辦及附屬工業ニ従事スル日本国臣民ニ対シ満蒙條約第四條ヲ適用スルコトニモ同意シ加之(ハ)貴電第三〇〇号支那側希望通リ満蒙條約第二條第三條第四條及第五條ノ四箇條ノ実行ハ準備ノ都合上調印ヨリ三箇月後ニスヘキ旨公文ヲ以テ約束スルコトニモ枉ゲテ同意スヘキニ付支那側ニ於テモ以上ノ如ク我方カ支那ノ内情ヲ酌ミ最後通牒ニナキ事項ヲ承

四六六　五月二十一日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

中国政府公表書ニ於ケル東部内蒙古問題ニ付説明ノ件

第三一五号

貴電第三七四号ニ関シ本使ヨリ未タ支那側ニ対シ貴電第二七六号及第三三一号ノ趣旨ヲ申述ベス支那政府ノ Communiqué 中所載事項ハ会議中支那側ニ於テ東蒙ハ民智未ダ開ケズ交通モ不便ニテ外人ニ対スル保護モ行届キ兼ヌトノ理由ノ下ニ絶対的ニ我方ノ要求ヲ拒ミ商議ニスラ応ジ難シト主張シタルニ付本使ハ民智未開ト交通不便トニハ何等関係ナキ鉄道借款租税等ノ如キ事項ニ対シテハ之レヲ承諾シ難キ理由ハアラザルベク将又支那行政ノ行ハレ居ル地方ニ於テハ南満同様ノ取極ヲナスコトモ毫モ支障之レナキ筈ナリト駁シ概括的ニ支那側ノ東蒙問題不商議ノ主張ヲ否定シタルコトアルモ我要求区域制限等ニ付何等言明致シタルコトナシ

其後四月二十六日最終会議ニ於テ陸徴祥ヨリ改メテ東蒙ノ境界質問アリタルニ付本使ハ政府ヘ請訓ノ上回答スベシト答ヘタル所アルモ曹汝霖ヨリ五月一日会見等ニ於テ日本国

ノ要求セル東蒙地域ハ曾テ交付ヲ受ケタル日本修正案中ノ豫定商埠所在地ヲ包含スレバ足ルモノト了解シ支那対案ニハ熱河道及南満洲所轄ノ地方トナセル次第ナリト云ヘルニ付本使ハ其誤解ナル旨篤ト説明ヲ与ヘ置キタルコトアリ支那政府ノ「コムミュニケ」ハ叙上ノ行キサツヲ自己ノ利益トナル様取繕ヒ発表セルモノト御承知アリタシ

四六七　五月二十一日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

條約案公文案等ノ打合全部終了ノ件

第三一六号

五月二十一日午後四時小幡高尾ヲ外交部ニ遣シ貴電第三六九号御訓示ノ次第ニ基キ更ニ打合セヲナサシメタリ然ルニ支那側ニ於テハ旅大租借地区域解釈ニ関スル公文及外二通ノ公文ノコトハ政府ニ於テモ種々協議ヲ凝シタルモ最後通牒ニ指定セル以外ノ文書ニ係カリ自然外間ヨリ激烈ナル反対ヲ受クル虞アルヲ以テ結局之ヲ応諾セザルコトニ確定セル次第ナリトテ同意ヲ肯ゼス尚之レガ為メ已ムヲ得ズ日本国政府ニ於テ警察法令及課税ニ対スル承認ノコトモ又東部内蒙古ニ於テ農業合辦及附屬工業ニ従事スル日本国臣民ヲ

満蒙條約第四條ノ適用ノ外ニ置クコトモ最後通牒通ニスベシト主張セラルルモ 支那側ニ於テハ致シ方ナキ儀ト諦ラムル外ナシト言明シ其ノ決心強固ニシテ到底之ヲ翻サシムルニ由ナキヲ認メ小幡等ハ右様ノ次第ナレバ致方ナク結局帝国政府ハ支那政府ノ懇望ト苦衷トヲ諒トシ特ニ其ノ希望ニ応ジ警察法令等承認ノ件ハ「与日本領事官接洽後施行」云々ヲ「日本領事官ト協議ノ上施行ス」云々トシ満蒙條約第六條ハ之ヲ第四條ト修正シ農業合辦及附屬工業ニ従事スル日本国臣民ニ第五條ノ規定ヲ適用スルコトニ同意スル旨帝国政府ヨリ本使ニ訓令アリタル旨附言シタル所曹等ハ面々喜色ヲ浮ベ深ク帝国政府ノ好意ヲ感謝シタル由ナリ

右ニテ條約案等ノ文書全部ニ互リ打合ヲ終了シ日支両文トモ詳細読合セノ上相違ナキヲ認メタル旨両書記官ヨリ復命セルニ付テハ当方ニ於テハ速カニ條約其ノ他ノ文書ノ浄書ニ取懸ル筈ニ付調印其ノ他ニ関スル必要ナル訓令竝ニ手続至急取リ運バルル様致シタシ尚満蒙條約第二條第三條第四條第五條ノ四項ヲ三ヶ月間延期スルコトニ関スル我公文ニ対スル回答案支那文ハ明二十二日外交部ヨリ打合セノタメ送リ越ス筈ニ付入手次第直ニ電報ノ筈

四六八　五月二十一日　在天津松平総領事ヨリ　加藤外務大臣宛

日中交渉解決後ニ於ケル天津地方一般状況報告ノ件

公信第四〇号（機密）　（五月三十一日接受）

大正四年五月二十一日

日支交渉解決当時ニ於テ顕ハレタル当地支那新聞ノ論調等ハ比較的平穏ナリシモ爾後当地方人心ノ趨勢竝ニ新聞論調等カ如何ニ変化ヲ来ス可キヤ測リ知ル可カラサル旨本月十一日附公信第一〇九号ヲ以テ不取敢及申報置候処其後北京商務総会ヨリ当地商務総会ニ対シ激烈ナル電報ヲ寄セ来リ或ハ南方各地ヨリ続々排日運動煽動ノ檄文等当地ニ送附セラレ当地ニ於ケル対日本人気ハ漸ク悪観ヲ呈シ来ルノ傾向アリ当館ニ於テハ常ニ市中ニ密偵ヲ放チテ厳重ニ注意ヲ為シ居レルカ往々ニシテ各種ノ排日的檄文（主ニ北京及南方地方ヨリ印刷ノ上送リ来ルモノノ如シ）極メテ秘密ニ配布セラレ居ル形迹アリ又処々ニ秘密ノ会合ヲ開キ日本ノ処置ニ対シ慷慨悲憤ノ演説等ヲナスモノアル趣ニ有之候尤モ未タ秩序的且大規模ニ日貨抵制等決議シタルコトハ無之模様ニ候ヘ共前記ノ通リ日本ニ対シ漸次風潮悪クナリ来ルト

一部人士カ日貨抵制ヲ各種ノ方法ニヨリ秘密ニ煽動シツツアル結果昨今日本商品ニシテ打撃ヲ被ムルモノモ有之候曩ニ数回及報告候通リ最後通牒ノ提出セラルル迄当地人心一般ニ平穏ニシテ病院理髪店等ニ於テ多少支那人ノ華客減シタルコトアルモ他ノ普通ノ商品ニハ殆ント何等ノ影響モ無之模様ニ候処解決後ニ至リ著シク影響ヲ受ケシモノハ学校用品ノ売行減少セシコトニシテ右ハ過日来当地ニ於テ全国教育大会開催セラレ教育家ノ会合処々ニ催サレ居タル折柄遇々最後通牒提出ノ時機ニ遇ヒ相当智識アル学校教員中ニハ大ニ時局ニ憤慨スルモノアリ児童ヲシテ我学校用品ヲ購買セシメサル様勧誘シタルニハ非スヤト思考セラレ候又綿布綿糸等ハ取引多少減少シ居ルモ右ハ日貨抵制ニ基クモノニアラスシテ過日来時局切迫シ其結果カ如何ニ成行クヤ豫知シ得サリシ為メ田舎ヨリ当市場ニ集マリ居タル仕入商人等カ悉ク急遽帰郷シタルト一般市場ノ不況ニ基キ其他商業ニ及ホシタル影響ニ関シテハ別報ヲ以テ詳細可申進候得共要スルニ往電第二九号ヲ以テ申進シタル通リ昨今排日熱ノ結果或ル日本商品ノ売行ニ対シテハ影響アルモ目下ノ処其範囲及程度ハ未タ余リニ広大ナラサル様思考被致候右排日運動ノ取締方ニ関シ本官ハ過般来屢々朱巡按使楊警察

庁長乃至交渉員等ト面会シ当方ニテ入手シタル檄文其他集会等ノ情報ヲ一々通知シテ厳重ニ取締及豫防方ヲ申入レ彼等ハ其都度厳重取締リヲ為スヘキ旨申居リ且ツ市内各所ニ巡警及探偵多数ヲ配置シ相当ニ取締リ居ルモ事件解決前迄執リ来リタル極メテ厳重ナル態度ハ多少手心ヲ以テ之ヲ緩メ居ル模様ニ有之候右ハ日本カ強硬ノ態度ヲ示シテ支那側ヲシテ要求ニ服従セシメタリトノ観念ヲ抱キ人心激昂ノ際余リニ強圧的ニ取締ル時ハ却テ人心ニ反動ヲ来シ日本ニ対スル悪感ヨリ寧ロ支那政府ニ対シテ悪感ヲ抱カシメンコトヲ恐レ多少手心ヲ加ヘ居ルモノト思考セラレ候過日支那側ノ或ル官吏ヨリ内々手ニ入レアル別紙大総統ノ当地巡按使ニ宛テタル密令ナリト称スルモノヲ見ルモ多少右様ノ手加減ヲ加フヘキ様記載セラレ居リ候該訓令カ事実ナリヤ否ヤ直ニ真ヲ措キ難キモ巡按使警察庁長ノ処置竝ニ近来ノ彼等ノ口吻中多少人心ノ反動ヲ恐レ居ル模様ヲ見受ケラルルニ依リ右訓令ハ或ハ事実カトモ被存候

尚過日漢口ニ於ケル暴動ノ際其原因トシテ目セラレタル提灯行列ノ企テカ独逸人ノ伝播セル謡言ニ胚胎シ居ル由聞込タルヲ以テ本官ハ直チニ支那官憲ヲ始メ其他出来得ル限リノ方面ヘ之ヲ吹聴シ決シテ日本人側ニ於テ右様ノ計画無カリシコトヲ明カニ知ラシメタルト同時ニ或ハ当地方ニ於テモ右様ノ謡言ヲ独逸人或ハ一派ノモノヨリ流布セラルルコト無キニシモアラサルニ付其辺豫メ充分注意サレ度キ旨申入置候然ルニ昨今天津ニ於テ提灯行列ノ企テアル等ノコトヲ故ラニ言ヒ振ラシ居ルモノ有之支那新聞等ニ投書スルモノ或ハ支那警察ヘ密告スルモノ有之其都度誤解ヲ防ク様手配ヲ為シ居リ候

右排日運動ニ関聯シテ救国儲金ノ募集当地ニモ企画セラレ居候右儲金ノ企テハ先般当地ノ康世宗ナルモノ独力ニテ計画シ之ニ対シテハ未タ運動ノ表ハレサル前直チニ圧迫ヲ加ヘテ計画ヲ中止セシメ巡按使ハ指令ヲ以テ該運動ヲ禁止シタル処康世宗ハ其後上海ヲ通シ更ニ中央政府ニ向ツテ金円募集運動中ナル旨本月二日機密公信第三二号ヲ以テ詳細及報告タル通リナルカ其後該儲金ノ挙ハ北京中央政府ニ於テモ之ヲ奨励スル傾アリ今回交渉解決後ニ至リ破竹ノ勢ヲ以テ該運動カ北京ヨリ当地ニ波及シ来リ朱巡按使及楊警察庁長ハ当初之ヲ禁止シタル関係上甚敷困難ノ立場ニ立至リタル形迹有之候モ今回ハ中央政府ヨリ圧迫アリタルモノト見エ之ヲ禁止セサルノミナラス楊庁長ノ如キハ進テ商務総会トモ連絡ヲ取リ之ヲ奨励シ居ル模様有之去ル本月十六日

（日曜日）商務総会ニ於テ董事会ヲ開会シ右儲金ニ関スル規則ヲ起草スル処アリ発起人ニモ多数ノ有力者ヲ選定シ来ル二十三日大会ヲ開催スルコトニ決定致候今回ノ計画ハ商務総会始メ楊庁長ノ如キ官辺ノモノニモ関係アルニ付表面排日ノ文字ヲ用ユルコトヲ避ケ単純ニ金員ヲ募集スルコトヲ目的トシ居レトモ元ヨリ目下ノ人心激昂ノ際ニ乗シテ金員ヲ募集セントスル趣旨ナルヲ以テ排日ノ意味ヲ含ミ居ルコトハ到底免レ難シト思考被致候右董事会開催ノ前日本官ハ朱巡按使ヲ訪問シ時局ニ就キ種々意見ヲ交換シタル後右商務総会ニ於テ救国儲金ニ関聯シテ排日ノ言論ヲ弄シ或ハ過激ノ行動無キ様取締アリ度キ旨豫メ注意致置候当日ハ前記ノ通リ単ニ規則ノ立案竝ニ発起人ノ選定ニ止マリ他ニ注目スヘキ様ノ事件無之候モ来ル二十三日ノ大会ニ於テ萬一排日運動ヶ間敷コト表ハルルヲ慮リ夫々取締方注意中ニ有之候今回ノ救国儲金ニ関スル運動其他当地官憲ノ態度等ヲ考フルニ支那政府ハ過日日本ノ要求ヲ承認シタル結果各地方ニ於テ政府攻撃ノ運動勃発センコトヲ恐レ人心ヲシテ支那政府攻撃ニ向ケサラシメン為メ努メテ救国儲金ノ事業ニ熱中セシメント欲シ該事業ヲ奨励スルト同時ニ之ニ拠リテ民国三年公債ノ不振ヲ補ハントスルモノト被認候然レ共当地商人等ノ内情ヲ探査スルニ何レモ出金ヲ喜ハス該儲金ノ挙ニ賛成セサルモノ多キ模様ニ有之候條結果充分ナル成効覚束無キモノト被存候

右目下ノ状況概略及報告候　敬具

本信写送付先　日置公使

四六九　五月二十二日　在中国日置公使ヨリ　加藤外務大臣宛（電報）

排日ノ気勢取締方厳重警告ニ拘ラズ依然熾烈ナル裏面ノ事由ニ付報告ノ件

第三一八号

日支交渉ニ対スル当地支那新聞ノ論調ニ関シテハ前日来屢次電信又ハ公信ヲ以テ報告ニ及ヒ置キタル所昨今引続キ激烈ナル文字ヲ連ネテ国恥亡国ヲ絶叫シ以テ日本攻撃ニ余力ヲ残サス一面商務総会其他ノ有志団体ニテハ熱心ニ国貨奨励及ヒ救国貯金ヲ唱道シテ間接ニ排日ノ気勢ヲ煽動セル有様ナルカ之ニ対シテハ本使ヨリ支那当局ニ厳重ナル警告ヲ与ヘ相当取締方ヲ要求シ支那当局者ニ於テモ十分之ヲ引受ケ乍ラ未タ何等ノ効果現ハレサルノミナラス却テ益甚シカ

ラントスル傾向アルハ本使ノ頗ル遺憾トスル所ナリ而シテ右ハ多分支那政府カ対内政策上陽ニ本使ノ要求ヲ容レ陰ニ之ヲ放任シ居ル為メニアラズヤト疑ハル今其重ナル理由ナリト想像セラルル点ヲ挙クレハ

㈠日支交渉ニ関スル国民憤慨ノ声ヲ当分日本ニ集注セシメ以テ中央政府ノ安全ヲ計ラントスルニ在リ蓋シ誠実ニ日本国ノ希望ニ従ヒテ圧力ヲ以テ排日ノ気勢ヲ有効的ニ抑圧セシカ一般民衆ハ忽チ攻撃ノ鋒ヲ転ジ全力ヲ支那外交当局者及政府当路者ニ注ガシメ為メニ中央政府ハ非常ニ難境ニ陥ル虞アリ故ニ若シ之ヲ豫防セムトセハ国交上多少日本国ノ反感ヲ買フ位ハ之レヲ顧慮スルノ暇ナシトノ見地ヨリ前述ノ如ク之ヲ放任シ居ルナラムト察セラル

㈡此機ニ乗シ大ニ国民ノ愛国心ヲ喚起セントスルニアリ現ニ或ル有力ナル支那人ノ如キハ本邦人ニ向ヒ従来支那人ノ国家的観念ハ極メテ薄カリシモ今回ノ交渉事件以来著シク此ノ観念ヲ増加シタル観アリ此ノ点ニ付テハ大ニ日本国ニ感謝セザルベカラズト公言セリ

㈢此機ヲ利用シテ大ニ国貨使用ヲ奨励シ一面日貨排斥ノ目的ヲ遂ゲ一面ニハ内国製造工業ヲ振興セシメントスルモノノ如シ

㈣此ノ国民一般興奮ノ機ヲ利用シテ名ヲ救国貯金ニ藉リ出来得ル丈多額ノ民間資金ヲ吸収シ一面第二回内国債ヲモ豫期以上ノ好成績ヲ挙ゲシメ以テ目下支那共和国財政ノ窮乏ヲ救ハントス欲スルモノノ如シ

前述ノ如ク支那政府ノ立場ヨリ見レバ排日ノ気勢ヲ熾ンナラシムルカ或ハ尠クモ其成行ニ放任スル方総テノ点ニ於テ好都合ナルヤニ考ヘラルル所ヨリ或ハ裏面ニ於テ巧妙ナル手段ヲ以テ益々排日ノ気勢ヲ煽動シ居ルニアラズヤト疑ハルルモ当地ニテハ今日迄未タ何等的確ナル證拠ヲ発見スル能ハズ何レニシテモ貴電第三七九号御訓令ノ次第モ有之ニ付本使ハ支那当局ニ向ヒテ再応厳重ナル警告ヲ与フル筈右御参考迄不取敢電報ス

四七〇　五月二十三日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

條文ノ修正箇所ニ関シ報告及請訓ノ件

第三一九号

貴電第三七七号條文修正事項中條約第五條第二項「由兩國派員共同審判」ヲ「由日本國領事官及中國官吏共同審判」ト改ムルコトハ支那側ニ於テ体面論ニ拘泥シ逆ニ日本文ノ修正ヲ求ムル有様ニテ容易ニ同意ヲ肯ゼザリシモ我方ヨリ強硬ニ主張シタル結果支那側ニ於テハ共同審判ノ基礎ガ支那ノ法律及慣習ニ依ルトアルコトナレバ支那国官吏ノ文字ヲ先ニシ日本文ニテハ「支那国官吏及日本国領事官ニ於テ共同審判スヘシ」ト改メ

第三一九号ノ二

支那文ニテハ「由中國官吏及日本國領事官共同審判」ト改ムヘシト迄折合タリ次ニ支那側ノ注文トシテ同條前段ニ起草セル日本国臣民ノ服従スヘキ警察法令及課税ハ支那ノ警察法令及課税ヲ指スモノナルコト勿論ナレドモ「日本国領事官ノ承認ヲ経タル」ノ文字ヲ削除セル結果意義稍々明瞭ナラザル嫌アルト一方ニ於テハ「支那國法律」トアル釣合上日本文ニテハ「又支那国警察法令及課税ニ服スヘシ」トシ支那文ニテハ「應服從中國警察法令及課税」トシタシト申出デタリ以上ハ何レモ一応尤ノ義ト存セラルルニ付強テ御差支ナキ限リ御同意相成様致シタシ

第三一九号ノ三

但シ前者「共同審判」ニ関スル日本文ノ修正御困難トアラバ支那文丈ケニテモ御同意アリタク此上我主張ヲ貫クノ見込ナシ次ニ第四條末段ノ「允准」ヲ「承認」ト改ムルコトハ本條ガ政府対政府ノ承認事項ニアラズシテ民間ヨリノ出願ヲ許可スルノ事項ナレハ矢張「允准」ノ文字ヲ存シ置ク方穏当ナランカト存ズ支那側ニモ一応議リタレトモ同意ヲ肯ンゼズ其他ノ修正事項及貴電第三七八号「和龍県」ヲ「額穆県」ト改ムルコトハ（萬一額穆県管内ニ「杉松崗」ガアラザルトキハ修正ノ同意ヲ撤回スヘキ旨支那側ニテ留保セリ）何レモ支那側ニ於テ同意セリ本電ニ対シ大至急何分ノ義御電訓ヲ請フ

四七一　五月二十三日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

警察法令及課税承認ノ件発表差支ナキ旨報告ノ件

第三二一号

貴電第三八三号ニ関シ警察法令及課税承認ニ関スル公文モ密約トセサルコトニ協定セルニ付全文発表相成リ差支ナシ

四七二　五月二十五日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）
條約公文発表及批准交換日取ニ関スル件
第三三〇号
貴電第三八九号及第三九三号ノ次第ハ五月二十五日朝之ヲ曹汝霖ニ申入レタル処同人ハ條約及公文発表ハ内政上民心ノ安堵ヲ図ル必要アルニ付調印後成ルヘク速ニ其発表日取ヲ打合セ取極メタキ希望ナリト述ヘ又條約批准ハ支那側ニ於テモ可成速ニ取行フ考ナリ大体ノ日取ハ協議ノ上通知スヘキモ曹自身ノ考ニテハ一週間位ニテ実行シタキ希望ナリト語レリ尚曹ハ序ニ條約等ノ発表ハ批准後ニ為ス考ナルヤ又ハ調印後批准前ニ於テスル考ナルヤ日本国政府ノ意嚮如何ト尋ネタル由ニ付テハ其辺ノ御見込至急御回電アリタシ

四七三　五月二十五日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）
山東及満蒙各條約署名竝各公文交換ノ完了報告ノ件
附記　五月二十五日署名調印ノ各条約及公文

外交総長陸徴祥ヲ各其ノ全権委員ニ任命セリ因テ各全権委員ハ互ニ其ノ全権委任状ヲ示シ之カ良好妥当ナルヲ認メ以テ左ノ條項ヲ協議決定セリ

第一條　支那国政府ハ独逸国カ山東省ニ関シ條約其ノ他ニ依リ支那国ニ対シテ有スル一切ノ権利利益譲与等ノ処分ニ付日本国政府カ独逸国政府ト協定スル一切ノ事項ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第二條　支那国政府自ラ芝罘又ハ龍口ヨリ膠済鉄道ニ接続スル鉄道ヲ敷設セムトスル場合ニ於テ独逸国カ煙濰鉄道借款権ヲ抛棄シタルトキハ支那国政府ハ日本国資本家ニ対シ借款ヲ商議スヘキコトヲ約ス

第三條　支那国政府ハ成ルヘク速ニ外国人ノ居住貿易ノ為自ラ進ミテ山東省ニ於ケル適当ナル諸都市ヲ開放スヘキコトヲ約ス

第四條　本條約ハ調印ノ日ヨリ効力ヲ生ス

本條約ハ日本国皇帝陛下及支那共和国大統領閣下ニ於テ批准セラルヘク其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

右證拠トシテ両国全権委員ハ日本文及支那文ヲ以テ作成セラレタル各二通ノ本條約ニ署名調印ス

第三三一号
五月二十五日午後三時両国全権委員外交部ニ於テ会見シ山東及満蒙ニ関スル各條約ノ署名調印竝各公文ノ交換ヲ無事完了セリ

（附記）
大正四年五月二十五日署名調印ノ日中両国間ノ各條約及公文
山東省ニ関スル條約（日本文並支那文）竝関係公文
南満洲及東部内蒙古ニ関スル條約（日本文並支那文）竝関係公文
漢冶萍公司ニ関スル公文
福建省ニ関スル公文
膠州湾租借地還附ニ関スル公文

山東省ニ関スル條約
日本国皇帝陛下及支那共和国大統領閣下ハ極東ニ於ケル全局ノ平和ヲ維持シ且両国ノ間ニ存スル友好善隣ノ関係ヲ益鞏固ナラシメムコトヲ欲シ右ノ目的ヲ以テ條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ為ニ日本国皇帝陛下ハ特命全権公使従四位勲二等日置益ヲ支那共和国大統領閣下ハ中卿一等嘉禾勲章大正四年五月二十五日即中華民国四年五月二十五日北京ニ於テ之ヲ作ル

日本帝国特命全権公使従四位勲二等
日置益（署名）印

支那共和国中卿一等嘉禾勲章外交総長
陸徴祥（署名）印

（右中国文）
關於山東省之條約
大日本國
大皇帝陛下及
大中華民國
大總統閣下爲維持極東全局之平和竝期將現存兩國友好善隣之關係益加鞏固起見決定締結條約爲此
大日本國
大皇帝陛下任命特命全權公使従四位勲二等日置益
大中華民國
大總統閣下任命中卿一等嘉禾勳章外交總長陸徵祥爲全權委員各全權委員互示其全權委任狀認爲良好妥當議定條項如左

第一條

中國政府允諾日後日本國政府向德國政府協定之所有德國關於山東省依據條約或其他關係對中國享有一切權利利益讓與等項處分概行承認

第二條

中國政府允諾自行建造由煙臺或龍口接連於膠濟路線之鐵路如德國拋棄煙濰鐵路借款權之時可向日本國資本家商議借款

第三條

中國政府允諾爲外國人居住貿易起見從速自開山東省內合宜地方爲商埠

第四條

本條約由蓋印之日起卽生効力

本條約應由

大日本國

大皇帝陛下

大中華民國

大總統閣下批准其批准書從速在東京互換

爲此兩國全權委員繕成日本文中文各二分彼此於此約內簽名蓋印以昭信守

大正四年五月二十五日　作於北京
中華民國四年五月二十五日

大日本帝國特命全權公使從四位勳二等　日置益（署名）印

大中華民國中卿一等嘉禾勳章外交總長　陸徴祥（署名）印

（右英訳文）

(Translation.)

TREATY RESPECTING THE PROVINCE OF SHANTUNG.

(Signed at Peking, May 25, 1915.
Ratified June 7, 1915.
Ratifications exchanged at Tokio, June 8, 1915.
Promulgated June 8, 1915.)

His Majesty the Emperor of Japan and His Excellency the President of the Republic of China, being desirous to maintain the general peace of the Far East and to further strengthen the relations of amity and good neighbourhood existing between the two countries, have resolved to conclude a treaty for that purpose and to that end have named their Plenipotentiaries, that is to say:—

His Majesty the Emperor of Japan, Mr. EKI HIOKI, Jushii, Second Class of the Imperial Order of the Sacred Treasure, His Majesty's Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary to the Republic of China;

and

His Excellency the President of the Republic of China, Mr. LU-CHÊNG-HSIANG, CHUNG-CHING, First Class of the Order of Chia-Ho, Minister of Foreign Affairs of the Republic of China;

Who, after having communicated to each other their respective full powers, which were found to be in good and due form, have agreed upon the following articles:—

ARTICLE 1.

The Chinese Government engage to recognize all matters that may be agreed upon between the Japanese Government and the German Government respecting the disposition of all the rights, interests and concessions, which, in virtue of treaties or otherwise, Germany possesses vis-a-vis China in relation to the Province of Shantung.

ARTICLE 2.

The Chinese Government engage that, in case they undertake the construction of a railway connecting Chefoo or Lungkow with the Kiaochow-Tsinan Railway, they shall, in the event of Germany's surrendering her right of providing capital for the Chefoo Weihsien railway line, enter into negotiations with Japanese capitalists for the purpose of financing the said undertaking.

ARTICLE 3.

The Chinese Government engage to open, of their own accord, as early as possible, suitable cities and towns in the Province of Shantung for the residence and trade of foreigners.

ARTICLE 4.

The present Treaty shall take effect on the day of its signature.

The present Treaty shall be ratified by His Majesty the Emperor of Japan and by His Excellency the President of the Republic of China, and the ratifications thereof shall be exchanged at Tokyo as soon as possible.

in witness whereof, the respective Plenipotentiaries have signed this Treaty made in duplicate, in Japanese and in Chinese, and have hereunto affixed their seals.

Done at Peking the 25th day of the 5th month of the 4th year of Taisho, corresponding to the 25th day of the 5th month of the 4th year of the inauguration of the Republic of China.

(Signed)　EKI HIOKI,
H.I.J.M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary. (L.S.)

(Signed)　LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs of the
Republic of China. (L.S.)

山東省不割譲ニ関スル交換公文

外交総長ヨリ帝国公使宛来翰

以書翰致啓上候陳者本総長ハ支那国政府ノ名ニ於テ玆ニ左ノ如ク貴国政府ニ声明スルノ光栄ヲ有シ候

支那国政府ハ山東省内若ハ其ノ沿岸一帯ノ地又ハ島嶼ヲ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス外国ニ租与又ハ譲与スルコトナカルヘシ

—NOTE—

Monsieur le Ministre,

In the name of the Chinese Government, I have the honour to make the following declaration to Your Excellency's Government:—

The Chinese Government will never lease or alienate, under any designation whatever, to any foreign power any territory within or along the coast of the Province of Shantung or any island lying near the said coast.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs of the
Republic of China. (L.S.)

His Excellency
Mr. EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary.

帝国公使ヨリ外交総長宛復翰

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ支那国政府ハ山東省内若ハ其ノ沿岸一帯ノ地又ハ島嶼ヲ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス外国ニ租与又ハ譲与スルコトナカルヘキ旨貴国政

右照会得貴意候　敬具

中華民国四年五月二十五日

支那共和国外交総長　陸　徴　祥（署名）印

日本帝国特命全権公使　日　置　益　殿

（右中国文）

爲照會事本總長以中國政府名義對貴國政府聲明將山東省內或其沿海一帶之地或島嶼無論以何項名目概不租與或讓與外國相應照會即希

查照須至照會者

右　照　會

日本國特命全權公使　日　置　益

中華民國外交總長　陸　徴　祥（署名）印

中華民國四年五月二十五日

（右英訳文）

(Translation.)

EXCHANGE OF NOTES RESPECTING SHANTUNG.

(Dated at Peking, May 25, 1915.
Published June 9, 1915.)

府ノ名ニ於テ帝国政府ニ対シ声明相成敬領承候

右回答得貴意候　敬具

大正四年五月二十五日

日本帝国特命全権公使　日　置　益（署名）印

支那共和国外交総長　陸　徴　祥　殿

（右中国文）

照　覆

爲照覆事接准本日照會

貴總長以貴國政府名義聲明將山東省內或其沿海一帶之地或島嶼無論以何項名目概不租與或讓與外國等語業經閱悉相應照覆即希

查照須至照覆者

右照會

支那共和國外交總長　陸　徴　祥

日本帝國特命全權公使　日　置　益（署名）印

大正四年五月廿五日

（右英訳文）

—REPLY—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to acknowledge the receipt

of Your Excellency's note of to-day's date in which you make, in the name of the Government of China, the following declaration to the Imperial Government of Japan:

The Chinese Government will never lease or alienate, under any designation whatever, to any foreign Power any territory within or along the coast of the Province of Shantung or any island lying near the said coast.

In reply I beg to state that I have taken note of this declaration.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed) EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary. (L.S.)

His Excellency
Mr. LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs
of the Republic of China.

山東省ニ於ケル都市開放ニ関スル交換公文

外交総長ヨリ帝国公使宛来翰

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ山東省ニ関スル條約第三條ニ規定セル開放スベキ諸都市及開埠章程ハ支那国政府自ラ之ヲ擬定シ豫メ日本国公使ニ協議ノ上決定可致候

右照会得貴意候　敬具

中華民国四年五月二十五日

支那共和国外交総長　陸　徴　祥（署名）印

日本帝国特命全権公使　日　置　益　殿

（右中国文）

爲照會事本日畫押之關於山東省條約內第三條所規定應行自開商埠之地點及章程由中國政府自行擬定與日本國公使協商後決定之相應照會卽希

查照須至照會者

右　照　會

日本國特命全權公使　日　置　益

中華民國外交總長　陸　徵　祥（署名）印

中華民國四年五月二十五日

（右英訳文）

(Translation.)

EXCHANGE OF NOTES RESPECTING THE OPENING OF CITIES AND TOWNS IN SHANTUNG.

(Dated at Peking, May 25, 1915.
Published June 9, 1915.)

—NOTE—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to state that the cities and towns to be opened in accordance with the stipulation of Art. 3 of the Treaty respecting Shantung Province, signed to-day, will be selected and the regulations therefor will be drawn up, by the Chinese Government, and will be decided upon after consultation with the Japanese Minister.

I avail etc., etc.,.....

(Signed) LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs of the
Republic of China. (L.S.)

His Excellency
Mr. EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary.

帝国公使ヨリ外交総長宛復翰

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ山東省ニ関スル條約第三條ニ規定セル開放スベキ諸都市及商埠章程ハ支那国政府自ラ之ヲ擬定シ豫メ日本国公使ニ協議ノ上決定可致旨御照会相成致領承候

右回答得貴意候　敬具

大正四年五月二十五日

日本帝国特命全権公使　日　置　益（署名）印

支那共和国外交総長　陸　徴　祥　殿

（右中国文）

照　覆

爲照覆事據准本日照稱本日畫押之關於山東省條約內第三條所規定應行自開商埠之地點及章程由中國政府自行擬定與日本國公使協商後決定之等語業經閱悉相應照覆卽希

查照須至照覆者

右照會

支那共和國外交總長　陸　徵　祥

日本帝國特命全權公使　日　置　益（署名）印

大正四年五月十五日

（右英訳文）

—REPLY—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's note of to-day's date, in which

you state that the cities and towns to be opened in accordance with the stipulation of Art. 3 of the Treaty respecting Shantung Province, signed today, will be selected and regulations therefor will be drawn up, by the Chinese Government, and will be decided upon after consultation with the Japanese Minister.

In reply I beg to state that I have taken note of the same.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary. (L.S.)

His Excellency
Mr. LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs
of the Republic of China.

南満洲及東部内蒙古ニ関スル條約

日本国皇帝陛下及支那共和国大統領閣下ハ南満洲及東部内蒙古ニ於ケル両国間ノ経済関係ヲ発展セシメムコトヲ欲シ右ノ目的ヲ以テ條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ為ニ日本国皇帝陛下ハ特命全権公使従四位勲二等日置益ヲ支那共和国

大統領閣下ハ中卿一等嘉禾勲章外交総長陸徴祥ヲ各其ノ全権委員ニ任命セリ因テ各全権委員ハ互ニ其ノ全権委任状ヲ示シ之カ良好妥当ナルヲ認メ以テ左ノ條項ヲ協議決定セリ

第一條　両締約国ハ旅順大連ノ租借期限竝南満洲鉄道及安奉鉄道ニ関スル期限ヲ何レモ九十九箇年ニ延長スヘキコトヲ約ス

第二條　日本国臣民ハ南満洲ニ於テ各種商工業上ノ建物ヲ建設スル為又ハ農業ヲ経営スル為必要ナル土地ヲ商租スルコトヲ得

第三條　日本国臣民ハ南満洲ニ於テ自由ニ居住往来シ各種ノ商工業其ノ他ノ業務ニ従事スルコトヲ得

第四條　日本国臣民カ東部内蒙古ニ於テ支那国国民ト合辦ニ依リ農業及附随工業ノ経営ヲ為サムトスルトキハ支那国政府之ヲ承認スヘシ

第五條　前三條ノ場合ニ於テ日本国臣民ハ例規ニ依リ下附セラレタル旅券ヲ地方官ニ提出シ登録ヲ受ケ又支那国警察法令及課税ニ服スヘシ

民刑訴訟ハ日本国臣民被告タル場合ニハ日本国領事官ニ於テ又支那国国民被告タル場合ニハ支那国官吏ニ於テ之ヲ審判シ互ニ員ヲ派シ臨席傍聴セシムルコトヲ得但シ土地ニ関スル日本国臣民及支那国国民間ノ民事訴訟ハ支那国ノ法律及地方慣習ニ依リ両国ヨリ員ヲ派シ共同審判スヘシ

将来同地方ノ司法制度完全ニ改良セラルルトキハ日本国臣民ニ関スル一切ノ民刑訴訟ハ完全ニ支那国法廷ノ審判ニ帰スヘシ

第六條　支那国政府ハ成ルヘク速ニ外国人ノ居住貿易ノ為自ラ進ミテ東部内蒙古ニ於ケル適当ナル諸都市ヲ開放スヘキコトヲ約ス

第七條　支那国政府ハ従来支那国ト各外国資本家トノ間ニ締結シタル鉄道借款契約規定事項ヲ標準ト為シ速ニ吉長鉄道ニ関スル諸協約竝契約ノ根本的改訂ヲ行フヘキコトヲ約ス

将来支那国政府ニ於テ鉄道借款事項ニ関シ外国資本家ニ対シ現在ノ各鉄道借款契約ニ比シ有利ナル條件ヲ附与シタルトキハ日本国ノ希望ニヨリ更ニ前記吉長鉄道借款契約ノ改訂ヲ行フヘシ

第八條　満洲ニ関スル日支現行各條約ハ本條約ニ別ニ規定スルモノヲ除クノ外一切従前ノ通リ実行スヘシ

第九條　本條約ハ調印ノ日ヨリ効力ヲ生ス

本條約ハ日本国皇帝陛下及支那共和国大統領閣下ニ於テ批准セラルヘク其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

右證拠トシテ両国全権委員ハ日本文及支那文ヲ以テ作成セラレタル各二通ノ本條約ニ署名調印ス

大正四年五月二十五日即中華民国四年五月二十五日北京ニ於テ之ヲ作ル

日本帝国特命全権公使従四位勲二等
日置　益（署名）印

支那共和国中卿一等嘉禾勲章外交総長
陸　徴　祥（署名）印

（右中国文）

關於南満洲及東部內蒙古之條約

大日本國
大皇帝陛下及
大中華民國

大總統閣下爲發展在南満洲及東部內蒙古兩國間之經濟關係起見決定締結條約爲此

大日本國
大皇帝陛下任命特令全權公使從四位勲二等日置益
大中華民國
大總統閣下任命中卿一等嘉禾勲章外交總長陸徵祥爲全權委
員各全權委員互示其全權委任狀認爲良好妥當議定條項
如左

第一條

兩締約國約定將旅順大連租借期限並南滿洲及安奉兩鐵
路之期限均展至九十九年爲期

第二條

日本國臣民在南滿洲爲營造商工業應用之房廠或爲經營
農業得商租其需用地畝

第三條

日本國臣民得在南滿洲任便居住往來並經營商工業等一
切生意

第四條

如有日本國臣民及中國人民願在東部內蒙古合辦農業及
附隨工業時中國政府可允准之

第五條

前三條所載之日本國臣民除須將照例所領之護照向地方
官註册外應服從中國警察法令及課稅
民刑訴訟日本國臣民爲被告時歸日本國領事官又中國人
民爲被告時歸中國官吏審判彼此均得派員到堂旁聽但關
於土地之日本國臣民與中國人民之民事訴訟按照中國法
律及地方習慣由兩國派員共同審判
將來該地方之司法制度完全改良時所有關於日本國臣民
之民刑一切訴訟卽完全由中國法庭審判

第六條

中國政府允諾爲外國人居住貿易起見從速自開東部內蒙
古各地方爲商埠

第七條

中國政府允諾以向來中國與各外國資本家所訂之鐵路借
款合同規定事項爲標準速行從根本上改訂吉長鐵路借款
合同
將來中國政府關於鐵路借款事項將較現在各鐵路借款各
同爲有利之條件給與外國資本家時依日本國之希望再行
改訂前項合同

第八條

關於東三省日中現行各條約除本條約另有規定外一概仍
照舊實行

第九條

本條約由蓋印之日起卽生效力
本條約應由
大日本國
大皇帝陛下
大中華民國
大總統閣下批准其批准書從速在東京互換
爲此兩國全權委員繕成日本文中文各二分彼此於此約內
簽名蓋印以昭信守
大正四年五月二十五日
中華民國四年五月二十五日　作於北京

大日本帝國特命全權公使從四位勲二等
日置益（署名）印
大中華民國中卿一等嘉禾勲章外交總長
陸徵祥（署名）印

（右英訳文）

(Translation.)

TREATY RESPECTING SOUTH MANCHURIA AND EASTERN INNER MONGOLIA.

(Signed at Peking, May 25, 1915.
Ratified June 7, 1915.
Ratifications exchanged at Tokio, June 8, 1915.
Promulgated June 8, 1915.)

His Majesty the Emperor of Japan and His Excellency the President of the Republic of China, being desirous to develop the economic relations of the two countries in the regions of South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, have resolved to conclude a treaty for that purpose and to that end have named their Plenipotentiaries, that is to say :—

His Majesty the Emperor of Japan, Mr. EKI HIOKI, Jushii, Second Class of the Imperial Order of the Sacred Treasure, His Majesty's Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary to the Republic of China;

and

His Excellency the President of the Republic of China, Mr. LU CHÊNG-HSIANG, CHUNG-CHING, First Class of the Order of Chia-Ho, Minister of Foreign Affairs of the Republic of China;

Who, after having communicated to each other their respective full powers, which were found to be in good and due form, have agreed upon the following articles:—

ARTICLE 1.

The High Contracting Parties mutually agree to extend the term of the lease of Port Arthur and Dairen, and the terms relating to the South Manchuria Railway and to the Antung-Mukden Railway, to a period of ninty-nine years respectively.

ARTICLE 2.

The subjects of Japan shall be permitted in South Manchuria to lease land necessary either for erecting buildings for various commercial and industrial uses or for agricultural purposes.

ARTICLE 3.

The subjects of Japan shall have liberty to enter, travel and reside in South Manchuria and to carry on business of various kinds—commercial, industrial and otherwise.

ARTICLE 4.

The Government of China shall permit joint undertakings, in Eastern Inner Mongolia, of the subjects of Japan and citizens of China, in agriculture and industries auxiliary thereto.

ARTICLE 5.

With respect to the three preceeding Articles, the subjects of Japan shall produce before the local authorities the passports duly issued for the purpose of registration, and shall also submit themselves to the police laws and regulations and taxes of China.

In civil and criminal suits, the Japanese consular officer, where a Japanese subject is the defendant, and the Chinese official, where a Chinese citizen is the defendant, shall respectively try and decide the case, both the Japanese consular officer and the Chinese official being permitted each to send his agent to attend the trial of the other to watch the proceedings; provided that in civil suits arising out of land disputes between Japanese subjects and Chinese citizens, the cases shall be tried and decided by the joint tribunal composed of the properly authorized officials of the two countries, in accordance with the laws and local usages of China.

In the future when the judicial system in the said regions shall have been completely reformed, all civil and criminal suits involving Japanese subjects shall be wholly tried and decided by the law-courts of China.

ARTICLE 6.

The Government of China engage to open of their own accord, as early as possible, suitable cities and towns in Eastern Inner Mongolia, for the residence and trade of foreigners.

ARTICLE 7.

The Government of China agree to a speedy fundamental revision of various agreements and contracts relating to the Kirin-Changchun Railway, on the basis of the terms embodied in railway loan agreements which China has heretofore entered into with various foreign capitalists.

If, in future, the Chinese Government grant to foreign capitalists, in matters that relate to railway loans, more advantageous terms than those in the various existing railway loan agreements, the above-mentioned Kirin-Changchun Railway Loan Agreement shall, if so desired by Japan, be further revised.

ARTICLE 8.

Except as otherwise provided in this Treaty, all existing treaties between Japan and China with respect to Manchuria shall remain in force.

ARTICLE 9.

The present Treaty shall take effect on the day of its signature.

The present Treaty shall be ratified by His Majesty the Emperor of Japan and by His Excellency the President of the Republic of China, and the ratifications thereof shall be exchanged at Tokyo as soon as possible.

In witness whereof, the respective Plenipotentiaries have signed this Treaty made in duplicate, in Japanese and in Chinese, and have hereunto affixed their seals.

Done at Peking the 25th day of the 5th month of the 4th year of Taisho, corresponding to the 25th day of the 5th month of the 4th year of the inauguration of the Republic of China.

(Signed)　EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary. (L.S.)
(Signed)　LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs of the
Republic of China. (L.S.)

旅順大連ノ租借期限並ニ南満洲鉄道及安奉鉄道ノ期限等ニ関スル交換公文

外交総長ヨリ帝国公使宛来翰

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ南満洲及東部内蒙古ニ関スル條約第一條ニ規定セル旅順大連租借期間ノ延長ハ民国八十六年即西暦千九百九十七年ニ至リ満期トナリ南満洲鉄道還附期限ハ民国九十一年即西暦二千二年ニ至リ満期ト可相成尚其ノ原條約第十二條ニ記載セル運転開始ノ日ヨリ三十六年ノ後支那国政府ニ於テ買戻スヲ得ルノ一節ハ之ヲ無効トスベク又安奉鉄道ノ期限ハ民国九十六年即西暦二千七年ニ至リ満期ト可相成候

右照会得貴意候　敬具

中華民国四年五月二十五日

支那共和国外交総長　陸　徴　祥（署名）印

日本帝国特命全権公使　日置　益　殿

（右中国文）

爲照會事本日書押之關於南滿洲及東部內蒙古條約內第一條所規定旅順大連租借期限展至民國八十六年卽西曆一千九百九十七年爲滿期南滿鐵路交還期限展至民國九十一年卽西曆二千零二年爲滿期其原合同第十二條所載自開車之日起三十六年後中國政府可給價收回一節毋庸置議又安奉鐵路期限展至民國九十六年卽西曆二千零七年爲滿期相應照會卽希

查照須至照會者

右　照　會

日本國特命全權公使　日置　益

中華民國外交總長　陸　徴　祥（署名）印

中華民國四年五月二十五日

（右英訳文）

(Translation.)

EXCHANGE OF NOTES RESPECTING THE TERM OF LEASE OF PORT ARTHUR AND DAIREN AND THE TERMS IN RESPECT OF THE SOUTH MANCHURIA RAILWAY AND THE ANTUNG-MUKDEN RAILWAY.

(Dated at Peking, May 25, 1915.
Published June 9, 1915.)

—NOTE—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to state that respecting the stipulation of Art. 1 of the Treaty relating to South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, signed this day, the extension of the term of the lease of Port Arthur and Dairen shall expire in the eighty-sixth year of the Republic, that is to say, in the year 1997 of the Christian era. The date for reversion to China of the South Manchuria Railway shall fall due in the ninety-first year of the Republic, that is to say, the year 2002 of the Christian era, and the clause in Art. 12 of the original Chinese Eastern Railway Agreement, providing that the Chinese Government may take over the Railway after thirty-six years from the day on which it is opened for traffic, is hereby declared null and void. The term with respect to the Antung-Mukden Railway shall expire in the ninety-sixth year of the Republic, that is to say, the year 2007 of the Christian era.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs of the
Republic of China. (L.S.)

His Excellency
Mr. EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary.

帝国公使ヨリ外交総長宛復翰

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ南満洲及東部内蒙古ニ関スル條約第一條ニ規定セル旅順大連租借期限ノ延長ハ民国八十六年即西暦千九百九十七年ニ至リ満期

トナリ南満洲鉄道還附期限ハ民国九十一年即西暦二千二年ニ至リ満期ト可相成尚其ノ原條約第十二條ニ記載セル運転開始ノ日ヨリ三十六年ノ後支那国政府ニ於テ買戻スヲ得ルノ一節ハ之ヲ無効トスヘク又安奉鉄道ノ期限ハ民国九十六年即西暦二千七年ニ至リ満期ト可相成旨御照会ノ趣致領承候

右回答得貴意候　敬具

大正四年五月二十五日

日本帝国特命全権公使　日置　益（署名）印

支那共和国外交総長　陸　徴　祥　殿

（右中国文）

照　覆

爲照覆事接准本日照稱本日畫押之關於南滿洲及東部內蒙古條約內第一條所規定旅順大連租借期限展至民國八十六年即西曆一千九百九十七年爲滿期南滿鐵路交還期限展至民國九十一年即西曆二千零二年爲滿期其原合同第十二條所載自開車之日起三十六年後中國政府可給價收回一節毋庸置議又安奉鐵路期限展至民國九十六年即西曆二千零七年爲滿期等語業經閱悉相應照覆即希

way Agreement, providing that the Chinese Government may take over the Railway after thirty-six years from the day on which it is opened for traffic, is hereby declared null and void. The term with respect to the Antung-Mukden Railway shall expire in the ninety-sixth year of the Republic, that is to say, the year 2007 of the Christian era.

In reply I beg to state that I have taken note of the same.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　EKI HIOKI,

H.I.J.M.'s Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary. (L.S.)

His Excellency

Mr. LU CHÊNG-HSIANG,

Minister of Foreign Affairs

of the Republic of China.

東部内蒙古ニ於ケル都市開放ニ関スル交換公文

外交総長ヨリ帝国公使宛来翰

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ南満洲及東部内蒙古ニ関ス

査照須至照覆者

右　照　會

支那共和國外交總長　陸　徵　祥

日本帝國特命全權公使　日　置　益（署名）印

大正四年五月廿五日

（右英訳文）

—REPLY—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's note of to-day's date, stating that respecting the stipulation of Art. 1 of the Treaty relating to South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, signed this day, the extension of the term of the lease of Port Arthur and Dairen shall expire in the eighty-sixth year of the Republic, that is to say, in the year 1997 of the Christian era. The date for reversion to China of the South Manchuria Railway shall fall due in the ninety-first year of the Republic, that is to say, the year 2002 of the Christian era, and the clause in Art. 12 of original Chinese Eastern Railル條約第六條ニ規定セル開放スヘキ諸都市及商埠章程ハ支那国政府自ラ之ヲ擬定シ豫メ日本国公使ニ協議ノ上決定可致候

右照会得貴意候　敬具

中華民国四年五月二十五日

支那共和国外交総長　陸　徵　祥（署名）印

日本帝国特命全権公使　日　置　益　殿

（右中国文）

爲照會事本日畫押之關於南滿洲及東部內蒙古條約內第六條所規定中國應行自開商埠之地點及章程由中國政府自行擬定與日本國公使協商後決定之相應照會即希

查照須至照會者

右　照　會

日本國特命全權公使　日　置　益

中華民國外交總長　陸　徵　祥（署名）印

中華民國四年五月二十五日

（右英訳文）

(Translation)

EXCHANGE OF NOTES RESPECTING THE OPENING OF CITIES AND TOWNS IN EASTERN INNER MONGOLIA.

(Dated at Peking, May 25, 1915.
Published June 9, 1915.)

—NOTE—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to state that the cities and towns to be opened in accordance with the stipulation of Art. 4 of the Treaty respecting South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, signed this day, will be selected and the regulations therefor will be drawn up, by the Chinese Government, and will be decided upon after consultation with the Japanese Minister.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed) LU CHÊNG-HSIANG
Minister of Foreign Affairs of the
Republic of China. (L.S.)

His Excellency
Mr. EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary.

（右中国文）

照覆

為照覆事據准本日照稱本日畫押之關於南滿洲及東部內蒙古條約內第六條所規定中國應行自開商埠之地點及章程由中國政府自行擬定與日本國公使協商後決定之等語業經閱悉相應照覆即希

查照須至照覆者

右照會

支那共和國外交總長　陸　徵　祥

日本帝國特命全權公使　日　置　益（署名）印

大正四年五月廿五日

（右英訳文）

—REPLY—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's note of to-day's date in which you state that the cities and towns to be opened in accordance with the stipulation of Art. 4 of the Treaty respecting South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, signed this day, will be selected and the regulations therefor will be drawn up, by the Chinese Government, and will be decided upon after consultation with the Japanese Minister.

In reply I beg to state that I have taken note of the same.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed) EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary. (L.S.)

His Excellency
Mr. LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs
of the Republic of China.

帝国公使ヨリ外交総長宛復翰

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ南満洲及東部内蒙古ニ関スル條約第六條ニ規定セル開放スヘキ諸都市及商埠章程ハ支那国政府自ラ之ヲ擬定シ豫メ日本国公使ニ協議ノ上決定可致旨御照会相成致領承候

右回答得貴意候　敬具

大正四年五月二十五日

日本帝国特命全権公使　日置　益（署名）印

支那共和国外交総長　陸　徵　祥殿

南満洲ニ於ケル鉱山採掘権ニ関スル交換公文

外交総長ヨリ帝国公使宛来翰

以書翰致啓上候陳者日本国臣民ニ於テ南満洲ニ於ケル左記各鉱山（既ニ試掘又ハ採掘セラレタル各鉱区ヲ除ク）ヲ速ニ調査ノ上選定シタル節ハ支那国政府ハ其ノ試掘又ハ採掘ヲ允許可致但シ鉱業條例確定ニ至ル迄ハ現行辦法ニ準拠スヘキモノニ有之候

右照会得貴意候　敬具

中華民国四年五月二十五日

支那共和国外交総長　陸　徵　祥（署名）印

日本帝国特命全権公使　日置　益殿

左記

一　奉天省

所在地	県名	鉱種
牛心台	本溪	石炭
田什付溝	本溪	石炭
杉松岡	海龍	石炭
鉄廠	通化	石炭
暖池塘	錦	石炭
鞍山站一帯	遼陽縣ヨリ本溪縣ニ亙ル	鉄

二　吉林省南部

所在地	県名	鉱種
杉松岡	和龍	石炭、鉄
缸窯	吉林	炭
夾皮溝	樺甸	金石炭

（右中国文）

為照會事日本國臣民在南滿洲左開各礦除業已探勘或開採各礦區外速行調查選定中國政府卽准其探勘或開採但在礦業條例確定以前應仿照現行辦法辦理相應照會卽希查照須至照會者

右照會

日本國特命全權公使　日置　益

中華民國外交總長　陸　徵祥（署名）印

中華民國四年五月二十五日

一　奉天省

所在地	縣名	礦種
牛心台	本溪	煤
田什付溝	本溪	煤
杉松岡	海龍	煤
鐵廠	通化	煤
暖池塘	錦	煤
鞍山站一帶	由遼陽縣至本溪縣止起	鐵

二　吉林省南部

所在地	縣名	礦種
杉松岡	和龍	煤、鐵
缸窯	吉林	煤
夾皮溝	樺甸	金煤

（右英訳文）

(Translation)

EXCHANGE OF NOTES RESPECTING MINES IN SOUTH MANCHURIA.

(Dated at Peking, May 25, 1915.
Published June 9, 1915.)

—NOTE—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to state that when the undermentioned mines in South Manchuria (exclusive of those mining lots which have already been prospected or worked) have at an early date been examined and selected by Japanese subjects, permission to prospect or work such mines will be granted by the Chinese Government; but until the Mining Law becomes definitely operative, the practice at present in force shall be followed.

PROVINCE OF FENGTIEN.

Locality.	District.	Mineral.
Niu Hsin T'ai	Pen-hsi	Coal.
Tien Shih Fu Kou	Pen-hsi	„
Sha Sung Kang	Hai-lung	„
T'ieh Ch'ang	T'ung-hua	„
Nuan Ch'ih T'ang	Chin	„
An Shan Chan region ...	Fron Liao-yang to Pen-hsi ...	Iron.

PROVINCE OF KIRIN.

(Southern portion)

Sha Sung Kang	Ho-lung	Coal and Iron.
Kang Yao	Kirin	Coal.
Chia P'i Kou	Hua-tien.....	Gold.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed) LU CHÊNG-HSIANG,
Ministre of Foreign Affairs of the Republic of China. (L.S.)

His Excellency
Mr. EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary.

帝国公使ヨリ外交総長宛復翰

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ日本国臣民ニ於テ南満洲ニ於ケル左記各鉱山（既ニ試掘又ハ採掘セラレタルモノヲ除ク）ニ関シ今般中国政府ニ於テ鉱業条例確定ニ至ル迄ノ間ハ現行ノ辦法ニ仿照シ探勘又ハ開採ヲ許可スヘキ旨ノ通知ニ接シ候ニ付テハ右ハ

鉱区ヲ除ク）ヲ速ニ調査ノ上選定シタル節ハ支那国政府ハ
其ノ試掘又ハ採掘ヲ允許可致但シ鉱業條例確定ニ至ル迄ハ
現行辦法ニ準拠スヘキモノナル旨御照会ノ趣致領承候

右回答得貴意候　敬具

大正四年五月二十五日

日本帝国特命全権公使　日置　益（署名）印

支那共和国外交総長　陸　徴祥　殿

左記

一　奉天省

所在地	県名	鉱種
牛心台	本溪	石炭
田什付溝	本溪	石炭
杉松崗	海龍	石炭
鉄廠	通化	石炭
暖池塘	錦	石炭
鞍山站一帶	遼陽ヨリ本溪県ニ亙ル	鉄石

二　吉林省南部

所在地	県名	鉱種
杉松崗	和龍	石炭、鉄
暖池塘	錦	煤
鞍山站一帶	至由遼陽本溪縣止起	鐵

所在地	縣名	礦種
杉松崗	和龍	煤、鐵
缸窰	吉林	石炭
夾皮溝	樺甸	金

大正四年五月廿五日

（右英訳文）

—REPLY—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's note of to-day's date in which you state that when the undermentioned mines in South Manchuria (exclusive of those mining lots which have already been prospected or worked) have at an early date been examined and selected by Japanese subjects, permission to prospect or work such mines will be granted by the Chinese Government; but until the Mining Law becomes definitely operative, the practice at present in force shall be followed.

PROVINCE OF FENTIEN

Locality.	District.	Mineral.
Niu Hsin T'ai	Pen-hsi.....	Coal.
Tien Shih Fu Kou	Pen-hsi.....	„
Sha Sung Kang	Hai-lung	„
T'ieh Ch'ang	Chung-hua	„
Nuan Ch'ih T'ang	Chin	„
An Shan Chan region ...	From Liao-yang to Pen-hsi ...	Iron.

PROVINCE OF KIRIN.

(Southern portion)

Sha Sung Kang	Ho-lung	Coal and Iron.
Kang Yao	Kirin	Coal.
Chia P'i Kou	Hua-tien.....	Gold.

In reply I beg to state that I have taken note of the same.

I avail, etc., etc.,.....

缸　窰　吉　林　石　炭
夾皮溝　樺甸　金

（右中国文）

照覆

爲照覆事據准本日照稱日本國臣民在南滿洲左開各礦除業已
探勘或開採各礦區外速行調查選定中國政府卽准其探勘或開
採但在礦業條例確定以前應仿照現行辦法辦理等語業經閱悉
相應照覆卽希
查照須至照覆者

右照會

支那共和國外交總長　陸　徴　祥

日本帝國特命全權公使　日置　益（署名）印

一　奉天省

所在地	縣名	礦種
牛心台	本溪	煤
田什付溝	本溪	煤
杉松崗	海龍	煤
鐵廠	通化	煤

(Signed)　EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary. (L.S.)

His Excellency
Mr. LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs
of the Republic of China.

南満洲及東部内蒙古ニ於ケル鉄道又ハ各種税
課ニ対スル借款ニ関スル交換公文

外交総長ヨリ帝国公使宛来翰

以書翰致啓上候陳者本総長ハ支那国政府ノ名ニ於テ玆ニ左
ノ如ク貴国政府ニ対シ声明スルノ光栄ヲ有シ候
支那国政府ハ将来南満洲及東部内蒙古ニ於テ鉄道ヲ敷設ス
ル場合ニハ自国ノ資金ヲ以テスヘク若シ外資ヲ要スルトキ
ハ先ツ日本国資本家ニ借款ヲ商議スヘシ又支那国政府ハ前
記地方ノ各種税課（但シ既ニ支那中央政府借款ノ担保トナ
レル塩税関税等ノ類ヲ除ク）ヲ担保トシテ外国ヨリ借款ヲ
起サムトスルトキハ先ツ日本国資本家ニ商議スヘシ
右照会得貴意候　敬具

中華民国四年五月二十五日

支那共和国外交総長　陸　徴　祥（署名）印

日本帝国特命全権公使　日　置　益　殿

（右中国文）

為照會事本總長以中國政府名義對貴國政府聲明嗣後在南滿
洲及東部內蒙古需造鐵路由中國自行籌款建造如需外資可先
向日本國資本家商借又中國政府嗣後以前開地方之各種稅課
（除中國中央政府業經爲借款作押之鹽稅等類外）作抵由外
國借款時可先向日本國資本家商借相應照會卽希
查照須至照會者

右　照　會

日本國特命全權公使　日　置　益

中華民國外交總長　陸　徴　祥（署名）印

中華民國四年五月二十五日

（右英訳文）

(Translation)

EXCHANGE OF NOTES RESPECTING RAILWAYS AND TAXES IN SOUTH MANCHURIA AND EASTERN INNER MONGOLIA.

(Dated at Peking, May 25, 1915.
Published June 9, 1915.)

—NOTE—

Monsieur le Ministre,

In the name of the Chinese Government, I have the honour to make the following declaration to Your Excellency's Government:—

The Chinese Government will, when it is proposed in future to build railways in South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, employ Chinese capital for the purpose, and if foreign capital should be required, they will negotiate first with Japanese capitalists for a loan; and further, when the Chinese Government propose to raise a loan abroad on the security of the taxes of the above-mentioned regions (excluding, however, the salt gabelle and customs duties which are already made securities for the loans of the Chinese Central Government), they will first consult Japanese capitalists.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs of the
Republic of China. (L.S.)

His Excellency
Mr. EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary.

帝国公使ヨリ外交総長宛復翰

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ支那国政府ハ将来南
満洲及東部内蒙古ニ於テ鉄道ヲ敷設スル場合ニハ自国ノ資
金ヲ以テスヘク若シ外資ヲ要スルトキハ先ツ日本国資本家
ニ借款ヲ商議可致又支那国政府ハ前記地方ノ各種税課（但
シ既ニ支那中央政府借款ノ担保トナレル塩税関税等ノ類ヲ
除ク）ヲ担保トシテ外国ヨリ借款ヲ起サムトスルトキハ先
ツ日本国資本家ニ商議可致旨貴国政府ノ名ニ於テ帝国政府
ニ対シ声明相成致領承候
右回答得貴意候　敬具

大正四年五月二十五日

日本帝国特命全権公使　日　置　益（署名）印

支那共和国外交総長　陸　徴　祥　殿

（右中国文）

照　覆

為照覆事接准本日照會貴總長以貴國政府名義聲明中國政府

嗣後在南滿洲及東部內蒙古需造鐵路由中國自行籌款建造如需外資可先向日本國資本家商借又中國政府嗣後以前開地方之各種稅課（除中國中央政府業經爲借款作押之鹽稅關稅等類外）作抵由外國借款時可先向日本國資本家商借等語業經閣悉相應照覆卽希

查照須至照覆者

右　照　會

支那共和國外交總長　陸　徵　祥

日本帝國特命全權公使　日　置　益（署名）印

大正四年五月廿五日

（右英訳文）

—REPLY—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's note of to-day's date, in which, in the name of your Government, you make the following declaration to my Government:—

The Chinese Government will, when it is proposed in future to build railways in South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, employ Chinese capital for the purpose, and if foreign capital should be required, they will negotiate first with Japanese capitalists for a loan; and further, when the Chinese Government propose to raise a loan abroad on the security of the taxes of the above-mentioned regions (excluding, however, the salt gabelle and customs duties which are already made securities for the loans of the Chinese Central Government), they will first consult Japanese capitalists.

In reply I beg to state that I have taken note of this declaration.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary. (L.S.)

His Excellency
Mr. LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs
of the Republic of China.

南滿洲ニ於ケル外国顧問教官ニ関スル交換

公文

外交總長ヨリ帝国公使宛来翰

以書翰啓上候陳者本總長ハ支那国政府ノ名ニ於テ玆ニ左ノ如ク貴国政府ニ対シ声明スルノ光栄ヲ有シ候

支那国政府ハ将来南滿洲ニ於テ政治財政軍事警察ニ関スル外国顧問教官ヲ傭聘セムトスルトキハ最先ニ日本人ヲ傭聘スベシ

右照会得貴意候　敬具

中華民国四年五月二十五日

支那共和国外交總長　陸　徵　祥（署名）印

日本帝国特命全權公使　日　置　益　殿

（右中国文）

爲照會事本總長以中國政府名義對貴國政府聲明嗣後如在南滿洲聘用政治財政軍事警察外國顧問教官時可儘先聘用日本人相應照會卽希

查照須至照會者

右　照　會

日本國特命全權公使　日　置　益

中華民國外交總長　陸　徵　祥（署名）印

中華民國四年五月二十五日

（右英訳文）

(Translation)

EXCHANGE OF NOTES RESPECTING THE EMPLOYMENT OF ADVISERS IN SOUTH MANCHURIA.

(Dated at Peking, May 25, 1915.
Published June 9, 1915.)

—NOTE—

Monsieur le Ministre,

In the name of the Chinese Government, I have the honour to make the following declration to Your Excellency's Government:—

If, in future, the Chinese Government desire to employ foreign advisers and instructors on political, financial, military and police affairs in South Manchuria, preference will be given to Japanese.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　LU CHENG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs of the
Republic of China. (L.S.)

His Excellency
Mr. EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary.

帝国公使ヨリ外交総長宛復翰

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ支那国政府ハ将来南満洲ニ於テ政治財政軍事警察等ニ関スル外国顧問教官ヲ傭聘セムトスルトキハ最先ニ日本人ヲ傭聘スヘキ旨貴国政府ノ名ニ於テ帝国政府ニ対シ声明相成候段承知仕候

右回答得貴意候　敬具

大正四年五月二十五日

日本帝国特命全権公使　日置　益（署名）印

支那共和国外交総長　陸　徴　祥　殿

（右中国文）

照　覆

為照覆事據准本日照會貴總長以貴國政府名義聲明中國政府嗣後如在南滿洲聘用政治財政軍事警察外國顧問教官時可儘先聘用日本人等語業經閣悉相應照覆即希

查照須至照覆者

右　照　會

支那共和國外交總長　陸　徵　祥

日本帝國特命全權公使　日置　益（署名）印

大正四年五月廿五日

（右英訳文）

—REPLY—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's note of to-day's date, in which, in the name of your Government, you make the following declaration to my Government:—

If, in future, the Chinese Government desire to employ foreign advisers and instructors on political, financial, military and police affairs in South Manchuria, preference will be given to Japanese.

In reply I beg to state that I have taken note of this declaration.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary. (L.S.)

His Excellency
Mr. LU CHENG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs
of the Republic of China.

南満洲及東部内蒙古ニ関スル條約第二條ニ規定スル商租ノ解釈ニ関スル交換公文

帝国公使ヨリ外交総長宛往翰

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ南満洲及東部内蒙古ニ関スル條約第二條ニ記載セル商租ノ文字ニハ三十箇年迄ノ長キ期限附ニテ且無條件ニテ更新シ得ヘキ租借ヲ含ムモノト了解致候

右照会得貴意候　敬具

大正四年五月二十五日

日本帝国特命全権公使　日置　益（署名）印

支那共和国外交総長　陸　徴　祥　殿

（右中国文）

照　會

為照會事本日畫押之關於南滿洲及東部內蒙古條約內第二條所載商租二字須了解含有不過三十年之長期限及無條件而得續租之意相應照會即希

查照須至照會者

右　照　會

支那共和國外交總長　陸　徵　祥

日本帝國特命全權公使　日置　益（署名）印

大正四年五月廿五日

（右英訳文）

(Translation)

EXCHANGE OF NOTES WITH REGARD TO THE EXPLANATION OF THE WORD "LEASE" IN ART. 2 OF THE TREATY RESPECTING SOUTH MANCHURIA AND EASTERN INNER MONGOLIA.

(Dated at Peking, May 25, 1915.
Published June 9, 1915.)

—NOTE—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to state that it is understood that the term "lease" mentioned in Art. 2 of the Treaty respecting South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, signed this day, includes leases for a long term up to thirty years and unconditionally renewable.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary. (L.S.)

His Excellency
Mr. LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs
of the Republic of China.

外交総長ヨリ帝国公使宛復翰

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ南満洲及東部内蒙古ニ関スル条約第二条ニ記載セル商租ノ文字ニハ三十箇年迄ノ長キ期限附ニテ且無条件ニテ更新シ得ヘキ租借ヲ含ムモノト了解相成候旨御照会ノ趣致領承候

右回答得貴意候　敬具

中華民国四年五月二十五日

支那共和国外交総長　陸　徴　祥（署名）印

日本帝国特命全権公使　日　置　益　殿

（右中国文）

為照覆事接准本日照稱本日畫押之關於南滿洲及東部內蒙古條約內第二條所載之商租二字須了解含有不過三十年之長期限及無條件而得續租之意等語業經閱悉相應照覆即希查照須至照覆者

右　照　會

日本國特命全權公使　日　置　益

中華民國外交總長　陸　徵　祥（署名）印

中華民國四年五月二十五日

（右英訳文）

—REPLY—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's note of to-day's date, in which you state that it is understood that the term "lease" mentioned in Art. 2 of the Treaty respecting South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, signed this day, includes leases for a long term up to thirty years and unconditionally renewable.

In reply I beg to state that I have taken note of the same.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs of the
Republic of China. (L.S.)

His Excellency
Mr. EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary.

南満洲及東部内蒙古ニ関スル条約第五条ニ規定スル日本国臣民ノ服従スヘキ警察法令及課税ノ決定ニ関スル交換公文

帝国公使ヨリ外交総長宛往翰

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ南満洲及東部内蒙古ニ関スル条約第五条ノ規定ニ依リ日本国臣民ノ服従スヘキ警察法令及課税ハ専ラ支那国官憲ニ於テ日本国領事官ト協議ノ上施行スヘキ儀ニ有之候

右照会得貴意候　敬具

大正四年五月二十五日

日本帝国特命全権公使　日　置　益（署名）印

支那共和国外交総長　陸　徴　祥　殿

（右中国文）

照　會

為照會事依本日畫押之關於南滿洲及東部內蒙古條約內第五條之規定日本國臣民應服從中國之警察法令及課稅由中國官吏與日本國領事官接洽後施行相應照會即希查照須至照會者

右　照　會

支那共和國外交總長　陸　徵　祥

日本帝國特命全權公使　日　置　益（署名）印

大正四年五月十五日

（右英訳文）

(Translation.)

EXCHANGE OF NOTES RESPECTING THE ARRANGEMENT REGARDING POLICE LAWS AND ORDINANCES AND TAXATION IN SOUTH MANCHURIA AND EASTERN INNER MONGOLIA.

(Dated at Peking, May 25, 1915.
Published June 9, 1915.)

—NOTE—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to state that in regard to the police laws and regulations and taxation, to which Japanese subjects are to submit according to the stipulation of Art. 5 of the Treaty respecting South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, signed this day, the Chinese authorities should consult the Japanese consular officer before they are carried into effect.

I avail, etc., etc.,.....

由中國官吏與日本國領事官接洽後施行等語業已閱悉相應照復即希

查照須至照覆者

右　照　會

日本國特命全權公使　日置　益

中華民國外交總長　陸　徴　祥（署名）印

中華民國四年五月二十五日

（右英訳文）

—REPLY—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's note of to-day's date in which you state that in regard to the police laws and regulations and taxation, to which Japanese subjects are to submit according to the stipulation of Art. 5 of the Treaty respecting South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, signed this day, the Chinese authorities should consult the Japanese consular officer before they are carried into effect.

In reply I beg to state that I have taken note of the same.

(Signed)　EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary. (L. S.)

His Excellency
Mr. LU CHENG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs
of the Republic of China.

外交総長ヨリ帝国公使宛復翰

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ南満洲及東部内蒙古ニ関スル條約第五條ノ規定ニ依リ日本国臣民ノ服従スヘキ警察法令及課税ハ総メ支那国官憲ニ於テ日本国領事官ト協議ノ上施行スヘキ儀ニ有之候旨御照会ノ趣致領承候

右回答得貴意候　敬具

中華民国四年五月二十五日

支那共和国外交総長　陸　徴　祥（署名）印

日本帝国特命全権公使　日置　益殿

（右中国文）

爲照覆事接准本日照稱依本日畫押之關於南滿洲及東部內蒙古條約內第五條之規定日本國臣民應服從之警察法令及課稅

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　LU CHENG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs of the
Republic of China. (L.S.)

His Excellency
Mr. EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary.

南満洲及東部内蒙古ニ関スル條約第二條乃至第五條ノ実施延期ニ関スル交換公文

外交総長ヨリ帝国公使宛来翰

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ南満洲及東部内蒙古ニ関スル條約第二條第三條第四條及第五條ハ支那国政府ニ於テ諸般ノ準備ヲ整フル必要上同條約調印後三箇月間其ノ実施ヲ延期致度候ニ付貴国政府ノ御同意ヲ得度候

右照会得貴意候　敬具

中華民国四年五月二十五日

支那共和国外交総長　陸　徴　祥（署名）印

日本帝国特命全権公使　日置　益殿

（右中国文）

爲照會事本日畫押之關於南滿洲及東部內蒙古條約內第二條第三條第四條及第五條中國政府因須準備一切擬自本條約畫押之日起延期三個月實行應請貴國政府同意相應照會卽希查照須至照會者

右　照　會

日本國特命全權公使　日置　益

中華民國外交總長　陸　徵　祥（署名）印

中華民國四年五月二十五日

（右英訳文）

（Translation.）

EXCHANGE OF NOTES WITH REGARD TO ARTS. 2, 3, 4 AND 5 OF THE TREATY RESPECTING SOUTH MANCHURIA AND EASTERN INNER MONGOLIA.

（Dated at Peking, May 25, 1915.
Published June 9, 1915.）

—NOTE—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to inform Your Excellency that as various preparations are requisite with respect to Arts. 2, 3, 4 and 5 of the Treaty respecting South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, signed this day, the Chinese Government request your Government to agree to the postponement of the putting into effect of the said Articles for a period of three months from the date of its signing.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs of the
Republic of China. (L.S.)

His Excellency
Mr. EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary.

帝国公使ヨリ外交総長宛復翰

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ南満洲及東部内蒙古ニ関スル條約第二條第三條第四條及第五條ハ支那国政府ニ於テ諸般ノ準備ヲ整フル必要上同條約調印後三個月間其ノ実施ヲ延期シタキ旨御照会相成領承帝国政府ニ於テハ事情已ムヲ得サルモノト認メ右ニ致同意候

右回答得貴意候　敬具

大正四年五月二十五日

日本帝国特命全権公使　日置　益（署名）印

支那共和国外交総長　陸　徵　祥　殿

（右中国文）

照　覆

爲照覆事准本日照稱本日畫押之關於南滿洲及東部內蒙古條約內第二條第三條第四條及第五條中國政府因須準備一切擬自本條約畫押之日起延期三個月實行等語業已閱悉相應照覆卽希查照須至照覆者

右　照　會

支那共和國外交總長　陸　徵　祥

日本帝國特命全權公使　日置　益（署名）印

大正四年五月廿五日

（右英訳文）

—REPLY—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's note of to-day's date, informing me that as various preparations are requisite with respect to Arts. 2, 3, 4 and 5 of the Treaty respecting South Manchuria and Eastern Inner Mongolia, signed this day, the Chinese Government desire to postpone the putting into effect of the said Articles for a period of three months from the date of its signing.

I beg to state that the Imperial Government, deeming it unavoidable in the present circumstances, agree to the desired postponement.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary. (L.S.)

His Excellency
Mr. LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs
of the Republic of China.

漢冶萍公司ニ関スル交換公文

外交総長ヨリ帝国公使宛来翰

以書翰致啓上候陳者支那国政府ハ日本国資本家ト漢冶萍公司トノ関係極メテ密接ナルニ鑑ミ将来同公司ト日本国資本家トノ間ニ合弁ノ議成リタルトキハ之ヲ承認スヘク又同公司ヲ没収スルコトナカルヘク又日本国資本家ノ同意ナクシテ同公司ヲ国有ト為スコトナカルヘク又日本国以外ヨリ外資ヲ同公司ニ入レシムルコトナカルヘク候

右照会得貴意候　敬具

中華民国四年五月二十五日

支那共和国外交総長　陸　徴　祥（署名）印

日本帝国特命全権公使　日置　益　殿

（右中国文）

爲照會事中國政府因日本國資本家與漢冶萍公司有密接之關係如將來該公司與日本國資本家商定合辦時可卽允准又不將該公司充公又無日本國資本家之同意不將該公司歸爲國有又不使該公司借用日本國以外之外國資本相應照會卽希

查照須至照會者

右　照　會

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　LU CHENG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs of the
Republic of China. (L.S.)

His Excellency
Mr. EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary.

帝国公使ヨリ外交総長宛復翰

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ支那国政府ハ日本国資本家ト漢冶萍公司トノ関係極メテ密接ナルニ鑑ミ将来同公司ト日本国資本家トノ間ニ合辦ノ議成リタルトキハ之ヲ承認スヘク又同公司ヲ没収スルコトナカルヘク又日本国資本家ノ同意ナクシテ同公司ヲ国有ト為スコトナカルヘク又日本国以外ヨリ外資ヲ同公司ニ入レシムルコトナカルヘキ旨御照会ノ趣致領承候

右回答得貴意候　敬具

大正四年五月二十五日

日本帝国特命全権公使　日置　益（署名）印

支那共和国外交総長　陸　徴　祥　殿

日本國特命全權公使　日置　益

中華民國外交總長　陸　徴　祥（署名）印

中華民國四年五月二十五日

（右英訳文）

(Translation.)

EXCHANGE OF NOTES RESPECTING THE MATTER OF THE HAN-YEH-PING COMPANY.

(Dated at Peking, May 25, 1915.
Published June 9, 1915.)

—NOTE—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to inform Your Excellency that in view of the very close relations subsisting between Japanese capitalists and the Han-Yeh-Ping Company, the Chinese Government engage to approve the agreement that may be concluded in future between the Company and Japanese capitalists for its joint undertaking, and not to confiscate it, to nationalize it without the consent of the Japanese capitalists, or to permit it to contract any foreign loan other than Japanese.

（右中国文）

照　覆

爲照覆事准本日照稱中國政府因日本國資本家與漢冶萍公司有密接之關係如將來該公司與日本國資本家商定合辦時可卽允准又不將該公司充公又無日本國資本家之同意不將該公司歸爲國有又不使該公司借用日本國以外之外國資本等語業已閱悉相應照覆卽希

查照須至照覆者

右　照　會

支那共和國外交總長　陸　徴　祥

日本帝國特命全權公使　日置　益（署名）印

大正四年五月廿五日

（右英訳文）

—REPLY—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's note of to-day's date in which you inform me that in view of the very close relations subsisting between Japanese capitalists and the Han-Yeh-Ping Company, the Chinese Govern-

ment engage to approve the agreement that may be concluded in future between the Company and Japanese capitalists, for its joint undertaking, and not to confiscate it, to nationalize it without the consent of the Japanese capitalists, or to permit it to contract any foreign loan other than Japanese.

In reply I beg to state that I have taken note of the same.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary. (L.S.)

His Excellency
Mr. LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs
of the Republic of China.

福建省ニ関スル交換公文
帝国公使ヨリ外交総長宛往翰

以書翰致啓上候陳者聞ク所ニヨレハ支那国政府ハ福建省沿岸地方ニ於テ外国ニ造船所軍用貯炭所海軍根拠地其ノ他一切ノ軍事上ノ施設ヲ為スコトヲ許シ又支那自ラ外資ヲ借入レ前記各施設ヲ行ハムトスルカ如キ意思アル趣ナルカ支那国政府ニ於テハ果シテ斯カル意思ヲ有セラルルヤ否ヤ御回答ヲ得度此段照会得貴意候　敬具

大正四年五月二十五日

日本帝国特命全権公使　日置　益（署名）印

支那共和国外交総長　陸　徴　祥　殿

（右中国文）

照　會

爲照會事聞中國政府有在福建省沿岸地方允許外國設造船所軍用貯煤所海軍根據地或爲其他一切軍事上之施設並自借外資爲前項各施設之意思中國政府果否有此意思請即見覆相應照會卽希

查照須至照會者

右　照　會

支那共和國外交總長　陸　徴　祥

日本帝國特命全權公使　日置　益（署名）印

大正四年五月廿五日

（右英訳文）

(Translation.)

EXCHANGE OF NOTES RESPECTING THE FUKIEN PROVINCE.

(Dated at Peking, May 25, 1915.
Published June 9, 1915.)

—NOTE—

Monsieur le Ministre,

As it has been reported that the Chinese Government intend to permit a foreign Power to build a shipyard, military coaling-station, naval station, and all other military establishments, on the coast of Fukien Province, or that China herself intends to build the above-mentinoned establishments with foreign capital, I have the honour to request Your Excellency to be good enough to inform me whether the Chinese Government have in fact such intention.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary. (L.S.)

His Excellency
Mr. LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs
of the Republic of China.

外交総長ヨリ帝国公使宛復翰

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ御申越ノ趣致領承候支那国政府ハ福建省沿岸地方ニ於テ中国ニ造船所軍用貯炭所海岸根拠地其ノ他一切ノ軍事上ノ施設ヲ為スヲ許スカ如キ又外資ヲ借入レ前記施設ヲ為サムト欲スルカ如キ意思ナキコトヲ玆ニ致声明候

右回答得貴意候　敬具

中華民国四年五月二十五日

支那共和国外交総長　陸　徴　祥（署名）印

日本帝国特命全権公使　日置　益　殿

（右中国文）

爲照覆事接准本日照稱各節業已閱悉中國政府玆特聲明並無在福建省沿地方允許外國設造船所軍用貯煤所海軍根據地及其他一切軍事上施設之事又無借外資欲爲前項施設之意思相應照覆卽希

査照須至照覆者

右　照　會

日本國特命全權公使　日置　益

中華民國外交總長　陸　徵　祥（署名）印

中華民國四年五月二十五日

（右英訳文）

—REPLY—

Monsieur le Ministre,

In reply to Your Excellency's note of to-day's date, I have the honour to make the declaration that the Chinese Government will in no case permit a foreign Power to build a shipyard, military coaling-station, naval station, or any other military establishment, nor do they intend to build the above-mentioned establishments with foreign capital.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs of the
Republic of China. (L.S.)

大正四年五月二十五日

日本帝国特命全権公使　日置　益（署名）印

支那共和国外交総長　陸　徵　祥　殿

（右中国文）

照　會

爲照會事本公使以帝國政府名義對貴國政府聲明日本國政府於現下之戰役終結後膠州灣租借地全然歸日本國自由處分之時於左開條件之下將該租借地交還中國

一　以膠州灣全部開放爲商港

二　在日本國政府指定之地區設置日本專管租界

三　加列國希望共同租界可另行設置

四　此外關於德國之營造物及財產之處分並其他之條件手續等於實行交還之先日本國政府與中國政府應行協定

相應照會即希

查照須至照會者

右　照　會

支那共和國外交總長　陸　徵　祥

日本帝國特命全權公使　日置　益（署名）印

大正四年五月廿五日

His Excellency
Mr. EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary.

膠州湾租借地ニ関スル交換公文
帝国公使ヨリ外交総長宛往翰

以書翰致啓上候陳者本使ハ帝国政府ノ名ニ於テ玆ニ左ノ如ク貴国政府ニ対シ声明スルノ光栄ヲ有シ候

日本国政府ハ現下ノ戦役終結後膠州湾租借地ニシテ全然日本国ノ自由処分ニ委セラルル場合ニ於テハ左記條件ノ下ニ該租借地ヲ支那国ニ還附スヘシ

一　膠州湾全部ヲ商港トシテ開放スルコト

二　日本国政府ニ於テ指定スル地区ニ日本専管居留地ヲ設置スルコト

三　列国ニシテ希望スルニ於テハ別ニ共同居留地ヲ設置スルコト

四　右ノ外独逸ノ営造物及財産ノ処分竝其ノ他ノ條件手続等ニ付キテハ還附実行ニ先チ日本国政府ト支那国政府トノ間ニ協定ヲ遂クヘキコト

右照会得貴意候　敬具

（右英訳文）

(Translation.)

EXCHANGE OF NOTES RESPECTING THE RESTORATION OF THE LEASED TERRITORY OF KIAOCHOW BAY.

(Dated at Peking, May 25, 1915.
Published June 9, 1915.)

—NOTE—

Monsieur le Ministre,

In the name of the Imperial Government, I have the honour to make the following declaration to Your Excellency's Government:—

If, upon the conclusion of the present war, the Japanese Government should be given an absolutely free disposal of the leased territory of Kiaochow Bay, they will return the said leased territory to China subject to the following conditions:—

1. Opening to the whole of Kiaochow Bay as commercial port;
2. Establishment of a Japanese settlement in the locality to be designated by the Japanese Government;

3. Establishment, if desired by the Powers, of an international settlement;
4. Arrangements to be made, before the return of the said territory is effected, between the Japanese and Chinese Governments, with respect to the disposal of German public establishments and properties and with regard to the other conditions and procedures.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary. (L.S.)

His Excellency
Mr. LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs
of the Republic of China.

外交総長ヨリ帝国公使宛復翰

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ日本国政府ハ現下ノ戦役終結後膠州湾租借地ニシテ全然日本国ノ自由処分ニ委セラルル場合ニ於テハ左記條件ノ下ニ該租借地ヲ支那国ニ還附スヘキ旨貴国政府ノ名ニ於テ支那国政府ニ対シ声明相成度候

一　膠州湾全部ヲ商港トシテ開放スルコト
二　日本国政府ニ於テ指定スル地区ニ日本専管居留地ヲ設置スルコト
三　列国ニシテ希望スルニ於テハ別ニ共同居留地ヲ設置スルコト
四　右ノ外独逸ノ営造物及財産ノ処分並其ノ他ノ條件手続等ニ付キテハ還附実行ニ先チ日本国政府ト支那国政府トノ間ニ協定ヲ遂クヘキコト

右回答得貴意候　敬具

中華民国四年五月二十五日

支那共和国外交総長　陸　徴　祥（署名）印

日本帝国特命全権公使　日　置　益　殿

（右中国文）

爲照覆事准本日照會

貴公使以貴國政府名義對本國政府聲明日本國政府於現下之戰役終結後膠州灣租借地全然歸日本國自由處分之時於左開條件之下將該租借地交還中國等語業已閱悉

一　以膠州灣全部開放爲商港
二　在日本國政府指定之地區設置日本專管租界
三　如列國希望共同租界可另行設置
四　此外關於德國之營造物及財產之處分並其他之條件手續等於實行交還之先日本國政府與中国政府應行協定

相應照覆即希

查照須至照覆者

右　照　會

日本國特命全權公使　日　置　益

中華民國外交總長　陸　徴　祥（署名）印

（右英訳文）

—REPLY—

Monsieur le Ministre,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's note of to-day's date, in which, in the name of your Government, you make the following declaration to my Government:—

If, upon the conclusion of the present war, the Japanese Government should be given an absolutely free desposal of the leased territory of Kiaochow Bay, they will return the said leased territory to China subject to the following conditions:—

1. Opening of the whole of Kiaochow Bay as commercial port;
2. Establishment of a Japanese settlement in the locality to be designated by the Japanese Government;
3. Establishment, if desired by the Powers, of an international settlement;
4. Arrangements to be made, before the return of the said territory is effected, between the Japanese and Chinese Governments, with respect to the disposal of German public establishments and properties and with regard to the other conditions and procedures.

In reply I beg to state that I have taken note of this declaration.

I avail, etc., etc.,.....

(Signed)　LU CHÊNG-HSIANG,
Minister of Foreign Affairs of the
Republic of China. (L.S.)

His Excellency
Mr. EKI HIOKI,
H. I. J. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary.

四七四　五月二十六日　加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛（電報）

條約発表ノ時期及批准交換ノ手続等ニ関シ回訓ノ件

第三九七号

貴電第三三〇号ニ関シ当方ニテハ種々内部ノ手続等モアリ且ツ慣例モ一定シ居ル次第故批准交換前ニ正式ニ発表ノコトハ到底不可能ナルニ付右ノ趣支那側ヘ申入レ置カルヘシ又批准交換ハ東京ニ於テ行フニ付テハ之レニ関スル全権ヲ支那政府ヨリ陸公使ニ附与シ置クコト必要ナルニ付豫メ其手続ヲ取リ置クヤウ為念支那当局ニ注意シ置カレ度シ尚五月廿六日貴地発ノ新聞電報ニヨレハ同日ノ北京日報ニ日支條約正文全部掲載セラレタル趣ノ処右ハ條約ノミヲ掲ケタルモノナルヤ又ハ條約ノ外交換公文（膠州湾還附ニ関スル

分ヲモ含ム）全部ヲモ洩ラシタルモノナルヤ折返シ回電アリ度シ

四七五　五月二十六日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

條約等ノ官報公表ハ両国同時ニ行ヒ得ルモ新聞紙漏洩等ハ防止シ得ザル旨陸総長陳述ノ件

第三三三号

貴電第三八九号ノ次第ハ五月二十五日会見ノ節本使ヨリモ重テ陸ニ申入レタル処陸ハ正式ニ官報ヲ以テ條約等公表ノコトハ日本側ト打合ノ上同時ニ行フコトニ異存ナキモ何分支那側ニ於テハ民心安堵ノ為一日モ速ニ発表ノ必要アルト且参政院ニ対シ一両日中ニ報告スル筈ナレバ一旦同院ニ提出シタル上ハ全然之ヲ秘密ニ附スルコト不可能ニシテ自然新聞紙ニ洩ルルコトハ已ムヲ得ズト述ベ居レリ然ルニ今二十六日発行ノ当地各新聞ハ孰レモ條約及公文ノ一部ヲ掲載セリ明日ヨリ引続キ掲載シ全部ヲ発表スルコトト思ハル

註　外務大臣発日置公使宛電報第三八九号ハ条約文等日中両国同時発表方ニ関スル件ナリ

四七六　五月二十七日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

国民ノ自制憤励ヲ促セル大総統令ノ大要報告ノ件

第三三七号

五月二十七日ノ政府公報ヲ以テ今回ノ時局ニ関聯シ国民ノ自制憤励ヲ促シタル二十六日附大総統申令発布セラレタリ特ニ注意スヘキモノト認メ其ノ大要左ニ電報ス

国家ノ権利ノ消長ハ国政ノ強弱ニ係リ苟モ国カ充実セハ他ノ侵犯ヲ受クルコトナシ戒メサルヘカラス

支那カ日清戦役北清事変ノタメ再度兵端ヲ開キタルハ皆其ノ力ヲ計ラス外情ヲ詳ニセス上下軽々シク難ニ処シタルカタメナリ而シテ一難去テ再ヒ安逸ニ流レタルタメ民怨沸騰シテ収拾スヘカラサルニ至リ予ハ薄徳ヲ以テ田間ヨリ起リ平和ヲ主トシテ民国ヲ建テタルモ好乱ノ輩各地ニ滋擾シ辛ウジテ秩序ヲ維持シ得タルニ不幸ニシテ欧戦起リ引テ日支交渉発生シ外交部ハ累月日本公使ト査照ノ上昨日條約ニ調印シ和平解決ヲ告ケタリ右ニヨリ膠州湾ノ回復望ミ得ヘク主権又タ力メテ保全スルヲ得タルモ南満ニ於ケル損失ハ甚タ大ナリ切ニ慚汗ニ堪ヘス之レ予ノ薄徳浅能ノ致ス所ナリ今回ノ事件ニ関シ各地ヨリ激烈ナル書面電信ニ接シタリ右ハ多クハ事情ヲ知悉セサルノ結果ナルヲ以テ之レヲ怨スヘシトスルモ此ノ機ニ乗シ匪徒ヲ糾合シ煽乱以テ祖国ヲ傾服セムトスルモノアリ是等ハ厳密ニ防遏セサルヘカラス各省文武官タルモノ其ノ管下ニ乱党ノ発生ヲ見バ速カニ逮捕シテ厳罰ニ処シ且商民ニ諭シテ彼等ノタメ惑ハシメラルルコトナキ様力ムルヲ要ス若シ夫レ自強ノ途ニ至リテハ国民ノ協心努力ニ待ツ外ナシ地方官ハ痛定テ痛ヲ思ヒ積弊ヲ除キテ憤発シ国民ハ心智ヲ啓キ其ノ義務ヲ尽シ厚信輯睦前ニ懲リテ後ヲ戒メ上下交々慎ミ因循スルナクバ自カラ弱ヲ転シテ強トナシ国権日ニ鞏固ナルヘキヲ得ヘシ徒ラニ血気ニ早リ浮動スヘカラス日清戦役北清事件ノ覆轍遠カラス国民共ニ之レヲ戒シメヨ

四七七　五月二十七日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

参政院ニ於ケル陸総長曹次長ノ日中間交渉経緯ニ関スル説明大要報告ノ件

第三四〇号

支那政府ハ五月二十六日午後参政院ヲ召集シ條約及公文全

部ヲ示シ陸総長ヨリ一応ノ挨拶ヲナシタル後曹次長総長ノ代理トシテ更ニ詳細ナル報告ヲナセリ該報告ハ其前段ニ於テ一月十八日日本公使ハ本国政府ノ訓令ニ依リ外交ノ例規ニ反シ大総統ニ向テ五号二十一ヶ條ノ要求ヲ提出セリ之ニ対シ大総統ヨリ外交総長ト商議スヘキ旨ヲ答ヘタル結果同月二十日日本公使ヨリ正式ニ外交総長ニ提議シ且厳ニ秘密ヲ守ルヘキコトヲ求メタリ依テ篤ト審議ヲ加ヘタル所日本ノ要求中主権内政機会均等及外国トノ條約ニ抵触スル事項多々アルヲ認メタリ即チ左ノ如シ（続ク）

第三四〇号ノ二

(甲)　主権ニ牴触スル事項

(一)　沿岸不割譲ノ件

(二)　有力ナル政事財政軍事顧問傭聘ノ件

(三)　警察合同ノ件

(四)　兵器購入兵器廠設置ノ件

(乙)　内政ヲ侵害スル事項

(一)　病院寺院学校土地所有ノ件

(二)　布教権ノ件

(三)　満蒙ニ於テ特殊ノ地位ヲ獲得スルノ件（第二号全文）

(丙)　機会均等及條約ニ牴触スル事項

(一)　満蒙ニ於ケル鉱山採掘ノ件

(二)　漢冶萍公司ヲシテ附近ニ於ケル鉱山ヲ独占セシムル件

(三)　南支鉄道ノ件

(四)　吉長鉄道管理ノ件

支那共和国政府ハ元来主権ヲ擁護シ内政ヲ確立シ條約ニ依リ負担スル義務ヲ誠実ニ遵守スルコトヲ以テ宗旨トシ為スヲ以テ日本提案第四号及第五号ヲ拒絶スルコトニ決シ二月二日ノ第一回会議ニ於テ其旨声明スルト共ニ尚漢冶萍問題ハ事個人ノ商事ニ関スルヲ以テ外交手段ニ依リ論議スルヲ得サル旨並其他ノ事項ニ関シテハ商議ノ上諾否ヲ決スヘキ旨日本公使ニ回答セリ（続ク）

第三四〇号ノ三

然ルニ日本公使ハ逐條審議ヲ拒絶シ全部ノ要求ニ対シ en bloc ニ諾否ヲ明答スヘキ旨ヲ迫リ容易ニ肯ゼザリシガ論議ノ末結局逐條審議ニ入ルコトヲ承諾セシムルヲ得タリ云々ト述ベタル後逐條審議ノ経過ヲ極メテ詳細ニ説明シ特ニ本使ガ五号商議ニ関シ強硬ナル態度ヲ執リタルニ拘ラズ

国権保持ノ為争ヒタルコト旅大租借南満安奉鉄道ノ期限延長ガ日本ノ国論一致スルモノナルニ顧ミ苦辛ヲ忍ビテ同意セルコト満蒙雑居土地所有問題ニ関シ領土主権行政権ノ関係ヨリ争ヒタルコト日本ガ談判中交代ノ名義ヲ以テ満洲山東ニ大兵ヲ増派シテ支那及列国ヲ驚カシタルコト等ヲ emphasize シ且支那ガ五号各項ニ反対セル理由ヲ縷述シ我最後修正案中五号ニ関シ陸総長言明云々トシテ提出シタルモノハ右反対理由ノ説明ヲ誤リテ言明ト為シタルモノニテ素ヨリ同意ノ限リニアラザリシコト等ヲ説明シタル上大要左ノ通リ論結セリ（続ク）

第三四〇号ノ四

五月一日提出セル支那側修正案ニ対シ日本公使ヨリ最後ノ答覆ナリヤト尋ネタルニ付然リト答ヘタリ右ハ譲歩ノ極点ナルヲ以テ日本政府モ必ス満足スヘシト思料セルニ却テ誠意ナシト称シテ最後ノ手段ヲ以テ迫ルニ至リタルハ惜ムヘキコトナリ危機一発ノ際ニ当リテモ支那政府ハ尚和平解決ヲ欲シ五月六日外交次長ヲ遣ハシ日本公使ニ面談セシメタリ併モ最後通牒ハ遂ニ五月七日ヲ以テ交付セラレタリ支那政府ガ二十六回ノ談判ニ亘リ友睦ノ意ヲ尊重シ平和解決ヲ冀ヒタルハ国民ノ知ル所ナルノミナラス友邦之ヲ諒トセザルナシ惜ムラクハ日本辞ヲ藉リ要強シ事ニ托シテ増兵シ遂ニ武装談判ヲナセル為此目的ヲ達セサルニ至レリ只日本カ最後通牒ニ於テ五号分離ヲ承諾シ膠州湾還附ヲ声明シタル為主権内政権條約関係幸ニ保全スルヲ得タリ然レドモ南満方面ニ於ケル損失ハ甚ダ大ナリ左リナガラ向方面ハ日本ノ勢力範囲タル一日ニアラズ実際ヲ云ヘバ南満ノ権利ナルモノハ既ニ存スルモノ幾何モナシ此積弱ノ時ニ会ヒ既失ノ権利ヲ回復セントスルモ勢ヒ及ビ難シ一度決裂セバ勝算ナク戦後ノ損失更ニ倍加シ大局ノ糜爛生命ノ塗炭想像ニ堪ヘズ在北京友邦公使ノ婉勧モアリ内外ノ状況ヲ顧ミ利害ヲ審ニ打算シタル上屈従シタル次第ニ付切ニ諒トセラレタシ云々将又当日ハ単ニ交渉成行ノ報告ニ止マリ諮詢シタル次第ニアラズ出席セル参政執レモ格別ノ議論ナク無事散会セリト云フ（終リ）

四七八　五月二十八日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

批准交換ノ手続ニ関シ陸総長ニ注意方申入竝新聞ニ日中條約正文掲載ノ不都合詰問ニ対シ同総長遺憾ノ意表明ノ件

第三四二号

貴電第三九七号批准交換ニ関スル全権ヲ陸公使ニ附与スル件ニ付五月廿八日陸総長ヘ注意ヲ与ヘタル所民国成立後初メテ條約締結セシコト故果シテ右ノ如キ手続必要ナルヤ否ヤ承知セス自分限リノ考ニテハ批准交換ノ権限ヲ委任スル旨陸ヘ訓令ヲ発スル位ニテ十分ナラント存スルモ陸公使ヨリモ御申出ト同様ノ来電ニ接シ居ルニ付為念前清時代ノ慣例等取調ノ上確答致可シト云ヘリ

将又当地新聞紙今回ノ日支條約正文ヲ掲載シタルコトニ関シテハ往電第三三五号ヲ以テ申進シタル処豫テノ打合ニ背キ甚タ不都合ナル旨厳重詰問シタル処陸ハ正式ノ発表ハ何レ貴方ト打合ノ上政府公報ヲ以テスル筈ナルガ今回新聞ニ漏洩シタルハ当方ノ不注意ニ基キ甚ダ遺憾トスル所ナリ併シ是迄各地方官民ヨリ日支交渉ノ内容ヲ知ラザル為電信又ハ書面ヲ以テ激烈ナル意見ヲ提出セル向モ有之加フルニ今回ノ交渉ヲ以テ我政府ノ大失敗トナシ之ガ為不穏ノ形勢ヲ醸サントスル二三地方モ有之ニ付條約正文ノ漏洩ハ此等ニ対シ大ニ緩和ノ効アリタルコトト信ズ此辺ハ幾重ニモ御諒察ヲ請フ何レニシテモ不都合ノ次第ナルニ付一応取調ノ上何分ノ御挨拶ニ及ブベシト答ヘ陸ハ極メテ恐縮ノ態ナリシ

尚本使ハ最近汕頭芝罘安東蘇州地方ニモ排日風潮漸ク蔓延ノ兆アルニ付至急取締方要求シタル処早速夫々手配スル旨快諾シタリ

四七九　六月一日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

中国側批准終了及批准交換ノ委任状郵送ノ件

第三五一号

支那側批准ハ六月一日午前十時行ハレタル旨並ニ批准書及ヒ批准交換ニ対スル全権委任状ハ即日在当地我郵便局ニ託シ東京ヘ郵送ノ筈ナル趣外交部ヨリ通知ニ接シタリ

右ノ次第ハ当地郵便局長ニモ注意シ置キタル所貴地著ノ上ハ遅滞ナク支那公使館ヘ送達方其筋ニ御内議置ヲ請フ

四八〇　六月七日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

條約及公文ノ同時公表ニ付打合及中国側全権委任状写ノ文言報告ノ件

第三五九号

貴電第四一二号ニ関シ支那当局者ト打合セタル処愈々六月八日中ニ批准交換ヲ了スレバ支那政府ニ於テモ六月九日朝ノ官報ヲ以テ條約及公文ヲ公表スルコトニ取計ヒ差支ナキニ付六月八日批准書交換済ノ電報東京ヨリ当館着ノ場合ニ直ニ其旨支那側ニ通知セラレタク左スレハ六月九日朝ノ政府公報ニ公表スヘシト答ヘタリ就テハ批准交換済ノ電報ハ六月八日中ニ当館ニ達スル様可然御取計相成タシ尚為念陸公使ニ対スル全権委任状写ノ一覧ヲ求メタル処其文言ハ

此次中華民国全権委員ト日本国全権委員トノ間ニ訂立セル山東省ニ関スル條約四款南満洲及東部内蒙古ニ関スル條約九款ハ六月一日ニ於テ既ニ本大総統自ラ検閲ヲ加ヘ批准シ国璽ヲ鈐セリ玆ニ特ニ駐日全権公使陸宗輿ニ命ジ換約全権委員トシテ日本国全権委員ト批准ノ條約ヲ東京ニ於テ交換セシメ以テ信守ヲ昭ニス玆ニ令ス

トアリ大総統署名及国璽ノ外ニ徐国務卿ノ副署等ノ形式ヲ備ヘアリ

四八一　六月十日　在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

條約及公文全部発表セラレタル旨報告ノ件

附記　六月九日北京ニ於ケル有賀博士ト通信記者トノ会見録

第三六七号

條約及公文全部豫報ノ通昨夕発表セラレ今十日朝政府公報ニテ公布セラレタリ

（附記）

有賀長雄博士ト通信記者トノ会見録聴取書

（六月九日午前九時ヨリ同十一時半マデ
於有賀氏宅）

問　貴下カ元老ニ向テ遊説セラレタリトノ説アリ事実如何

答　余ハ北京ヨリ帰朝後山県井上其他ノ元老ニ対シ日支交渉ニ関スル意見ヲ述ベタルハ事実ナリ余ノ意見ハ最初ヨリ日支ノ間ニ干戈ヲ動カスコトハ東洋ノ平和ヲ維持スル

見地ニヨリ日本ノ為メ又支那ノ為メ不利益ト信ジタレバ之ヲ元老ニ語レリ元老ノ中ニモ一号案二号案ノ如キ日本ニトリテ重大ナル問題ニ関シテハ戦争亦避クベキニアラザレド五号案ニ因シテ戦争ヲ為スハ不可ナリトノ意見アリタリ余ノ意見モ亦一号案等ニ就テハ止ムヲ得ザルモ五号案ニテ戦争スルハ不可ナリト云フニアリタリ

問　当時第一号第二号案ハ既ニ支那ノ承認スル所トナリ居リタルコトヲ聞知シ居タリヤ果シテ然ラバ全然非戦論ニ非ザルニアラズヤ

答　余モ帰朝後間モナク左様ノ報道ヲ耳ニセリ、全然非戦論ニアラズ一号二号案ニテハ戦争ヲ避ケ難シト思考シ居タリ

問　四月末ヨリ五月初旬ニ渉リ支那ノ態度漸次軟弱トナリ第五号案ニ対シテモ之ヲ承認セントスル形勢アリシコトヲ承知セザリシヤ

答　当時ノ形勢ハ外務省辺ニテハ判リ居リタルカハ知ラザルモ余ハ之ヲ知ラザリシ

問　支那事情ニ精通セル貴下ニシテ戦争トナリシ場合日本ヨリモ支那ガヨリ大ナル危険ヲ感ズルコトヲ豫想セザリシヤ

答　其辺ハ人々ノ考ヘナリ

問　帰朝ノ際袁総統トノ間ニ如何ナル相談アリシヤ

答　袁総統ニ面会セシ際袁総統ヨリ交渉案件ノ内支那ノ主権ヲ損害スル個條及領土保全ニ反スル個條ハ尤モ承認シ難キ点ニシテ若シ之ヲ承認スルトキハ折角築キ上ゲタル余（袁総統ヲ指ス）ノ位置ニモ影響スルヲ以テ此意ヲ日本ニ帰リタル後有力者ヘ伝ヘ呉レトノ依頼ヲ受ケタリ

問　元老間ニ遊説セシハ右袁総統ノ依頼ニヨルヤ

答　袁総統ノ伝言モアリ余自身ノ意見モ之ニ一致セシヲ以テ元老ニ説キタル迄ナリ

問　袁探云々ノ嫌疑ヲ受ケタルハ如何

答　余ガ元老ニ意見ヲ述ベ元老ノ意見ノ背後ニ余アルコト四月二十日頃政府ニ知レタリ敢テ元老ニ余ノ意見ヲ述ベシコトヲ秘シ居リタルニ非ザルモ元老ヨリ明白ニ政府ニ告グル必要モナク自然秘密ノ如クナリ居タルコトヲ聞知シタル加藤外相ハ余ガ元老ノ背後ニアルヲ邪魔者ノ如ク思ヒ余ヲ東京以外ニ遠ザケント欲シ日志会ノ壮士ヲ使嗾シ余ノ行動ヲ以テ袁探ナリト誣ヒ余ヲ殺サント図リシコトハ確カナリ即チ袁探云々ハ右等ノ壮士ヲ煽動スル為メノ捏造説ニシテ各所ニ開カレタル演説会ニ於テモ袁探云云ト漫罵スルノミニテ何等具体的ニ説明セラレタルコトヲ聞カズ演説者中ニハ橋本某、小山某等札付ノゴロアリ殊ニ後者ノ如キハ一日何程カノ日当ヲ受ケ入獄スル壮士ナリト聞ケリ

問　左様ナ薄弱ナ嫌疑ナレバ身ヲ匿ス必要ナカリシニアラズヤ

答　行衛不明ナリト新聞ニ報ゼラレタルモ右ハ誤解ナリ余ノ居住地ヲ管轄スル警察署ヨリ同署ニハ二十名許リノ巡査アルノミニテ若シ演説会ノ流レ等ニテ多数ノ暴徒ニ襲ハルルガ如キコトアラバ十分ノ保護ヲ加フル能ハザル旨ヲ通知シ越セシヲ以テ余ハ其勧告ニ従ヒ警察署ニハ行衛ヲ明ニシテ避難セルノミ政府ハ余ノ所在ハ能ク知リ居リタル筈ニテ行衛不明ニアラズ興津井上侯別荘ニモ二週間余隠匿シ居リタリ

問　尚他ニ嫌疑ヲ受クル原因ナキカ

答　湯本ニテ金邦平ト会合シタルコトヲ彼是伝ヘラレタルコトアリ金ハ当時袁総統ノ密使トシテ渡日セシモノナリト専ラ世評ヲ受ケ居リシ為メ自然余ニモ嫌疑ノ及ビタルモノト思フ已現ニ金ハ大隈首相ニモ面謁シ其際大隈首相ハ日本ノ要求條件中最モ主眼トスル所ハ山東省及満蒙ニ

関スルモノナリト言明セラレ金ヨリ之ヲ袁総統府ニ報告シタル由ニテ仄聞スル所ニヨレバ支那ノ委員ハ此事ヲ会議ノ席ニ持出シタルコトアリ大隈首相サヘ恁ノ如シ余ガ金ト会合セシコトガ袁探ノ原因トハ受取ル能ハズ

問　支那政府ノ為メ元老ノ意見ヲ諜知シテ之ヲ報告シタルコトナキヤ

答　余ト総統府秘書トノ間ニハ文通シタルコト数回アルモ概ネ憲法ニ関スル問題ニテ余ヨリ外交ニ関シテ直接支那政府ニ通報シタルコトナシ右ノ手紙ハ日本文ナリシヲ以テ何レ曹秘書ノ手ニ依リ翻訳ノ上袁総統ニ達セシコトト思ハル、其原文ハ多分総統府ニ之アルベシ、外交ニ関スルコトハ陸公使ヲ介シテ報告シ居タリ

問　陸公使ト会談シタルコトアリヤ

答　数回アリ又劉参賛官ノ来訪ヲ受ケタルコトモ度々アリ元老ト談話セシコトニ関シ條項ヲ挙ゲテ此点カ如何トカ彼ノ点カ如何トカ詳細ナルコトヲ陸又ハ劉ニ話シタルコトハナシ唯世間有フレタル談話（問者曰ク日支交渉ニ関スル政府ノ態度トカ元老ノ意見トカヲ云フ類カ、有賀曰ク然リ）ハ之ヲ交ヘタルコトアレド余モ日本人ナレバ秘密ハ之ヲ漏サズ

問　早稲田大学教授ヲ罷免セラレシ原因如何

答　表面ノ理由ハ支那ニ顧問トシテ傭ハレ居ルタメ教授上ノ差支アリトノコトナルモ裏面ニ於テハ勿論余ノ行動ガ早稲田大学創立者タル大隈伯ノ内閣ニ反対ノ行動ヲ執リタルヲ含ミタルモノト信ズ当時高田学長ハ不在ナリ大隈伯ガ之ヲ決裁セラレタルモノナラン

問　東京帝国大学教授ヲ免ゼラレシトノ噂アリ如何

答　未ダ免職セラレタルニアラズ兎ニ角今回余ノ執リタル行動ガ学者ノ本分ニ反シ政治的運動ニ携リシ事ハ官規厳粛ナル東大ノ問題トナルヘキハ当然ノ成行ナルヲ以テ其ノ場合ニハ早晩余ノ方ヨリ辞表ヲ提出スル考ナリ

問　貴下ハ憲法学者トシテ元老ガ非立憲的ノ機関ナルヲ熟知セラル、筈ナリ真ニ国家ヲ思ハヾ何故政府当局者ニ意見ヲ述ベザリシ

答　学説ト実地トハ往々ニシテ反スルモノナリ元老ガ為ニナラヌ時モアレバ又為ニナル時モアリ外国ニテモ日本ノ元老ニ類似セルモノアリ政府当局者ニ意見ヲ述ベズト云フ訳ニハアラズ、加藤外相ハ頭脳頑ナニシテ到底余等ノ意見ニ耳ヲ傾ケズ大隈首相トハ二三回会談セシモ外務省ガ秘密主義ヲ執ル為メ他ノ大臣ニハ之ヲ語ル機会ナカリキ

問　今回渡支ノ用向如何

答　袁総統ヨリ憲法起草ニ関スル相談アリトノコトニ付来京セリ、傭聘中ノ身ナレバ当然来京セネバナラヌ次第ナリサレド憲法起草ニ就テハ未ダ何等ノ準備ナク直ニ着手スル模様ナキヲ以テ今後一週間余滞在ノ上帰朝スル積リナリ七月ニ至レバ米国人顧問「グッドノウ」博士モ来京シ手掛トナルヲ以テ起草ニ着手スベシ

問　顧問辞職ノ風説如何

答　辞職ト云フニアラズ本年七月迄ノ傭聘期間ナルヲ以テ之ヲ継続スルヤ否ヤノ問題ナリ折角二年有余ヲ費シテ尽力セシ憲法ノ完成ヲ見ズ辞職スルハ遺憾ナリ且ツ日本ノ為ニモ利益ニナルコトナレバ之丈ハ完成シタキ希望ヲ有スル尤モ傭聘期限ヲ延長継続セズトモ残務トシテ之ヲナスモ亦一法ナルヲ以テ傭聘契約ヲ継続スルカ唯単ニ残務トシテ之ニ当ルカハ今総統府ト打合セ中ナレバ断言スルヲ得ズ

問　来支後ノ感想如何

答　日支條約成立後支那側ノ感情頗ル悪シキコトヲ知レリ

問　悪感情ヲ買ヒシノミナラス軽侮ノ念ヲ抱キタリト思フ所見如何

答　左様ニモ思考ス或ハ戦争ヲナシタル方ヨカリシトノ意見アルヤモ知レザレド日清戦争ハ支那ガ自国ノ兵力強キコトヲ自信シテ開戦シタル結果彼ノ大敗ヲ招キタレバ日本ニ畏敬ノ念ヲ生ジタルモノナレド今回ハ支那自身兵力ノ及バザルコトヲ自覚セルヲ以テ日本ガ戦争ニヨリテ支那ヲ圧迫セバ其結果日本ニ対シ更ニ大ナル怨ヲ抱クニ至ルベシト信ズ

附　言

一、本筆記ハ六月九日新橋、小川、楢崎ノ三人有賀博士ヲ北京桑老胡同ノ寓居ニ訪問シ問答ヲナシタル概要ヲ筆記セルモノナリ

一、速記シタルモノニアラザルヲ以テ多少語句ノ相違順序ノ前後ヲ免レズ設問ハ成ルベク簡略ニ記シ専ラ有賀博士ノ答弁ヲ主トシテ筆記シタルモノナリ

二　列国トノ交渉

四八二　一　月　八　日　加藤外務大臣ヨリ在英国井上大使宛（電報）

日中交渉開始ニ関シ商議内容ヲ英国外務大臣ニ内密伝達方訓令ノ件

第八号

帝国政府ニ於テハ時局ノ善後ヲ図リ且帝国将来ノ地歩ヲ鞏固ニシテ東洋ノ平和ヲ永遠ニ保持センカ為此際支那政府トノ間ニ山東問題満蒙問題等ニ関シ協定ヲ遂クルコトヲ必要ナリト認メ近日其交渉ヲ開始スルコトニ決定シタルニ付右ニ関シ貴官ハ追テ当方ヨリノ電報ニ接シタル上ニテ英国外務大臣ニ対シ其極メテ内密ノ含迄トシテ帝国政府ニ於テハ時局善後ノ為必要ノ措置トシテ山東問題ノ処分ニ付別電第九号ノ諸項ニ関シ支那政府トノ間ニ商議ヲ開始スヘク尚右ニ関聯シ(一)関東州租借期限並南満鉄道及安奉鉄道期限ヲ延長スルコト(二)南満洲及東部内蒙古ニ於ケル(イ)居住権並土地所有権(ロ)特ニ指定シタル鉱山ノ採掘権ヲ日本ニ与フルコト(三)同地方ニ於テ他国人ニ鉄道敷設権ヲ与ヘ又ハ鉄道敷設ノ為ニ他国人ヨリ資金ノ供給ヲ仰キ或ハ諸税ヲ担保トシテ他国ヨリ借款ヲ起ス場合ニハ豫メ日本ノ同意ヲ経ベキコト